健康科学部:1年配当科目 ・・・ 1
健康科学部:2年配当科目 ・・・ 183
健康科学部:3年配当科目 ・・・ 279
健康科学部:4年配当科目 ・・・ 384

科目名(日本語)	**自然科学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Basics of Natural Science	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	中澤聡				
担当教員	中澤聡				
科目責任者 連絡先(教室)	授業前後10分程度、講義室または非常勤講師室で質問を受け付ける。				
オフィスアワー	授業前後10分程度、講義室または非常勤講師室で質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

自然科学は、最初から今日われわれが学ぶような形で登場したわけではなく、長い時間をかけて、思想、経済、技術といった社会の様々な要素との相互作用を通じて形成されたものである。科学で用いられてきた方法や科学理論が生まれた背景・歴史的変遷を通じ、科学が真理と考えられてきたのはなぜか、科学が目指すのは何かなどについて、科学的知識が時代を通じて変化してきた様子を概観することで、科学の本質を歴史的に捉える視点を身につける。

【３】　到達目標

1. 古代ギリシア人が考えた「科学的知識」の概念について説明できる。
2. 公理と証明に関する考え方の変化について説明できる。
3. 客観確率と主観確率について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	「科学的知識」とは	内容：イントロダクション. 方法：講義 予習：参考書を読んでみる。 復習：何が科学的か考えてみる。 キーワード：科学的知識、科学的でない知識、疑似科学	中澤　聡
2	「科学的知識」とは	内容：イントロダクション. 方法：講義 予習：参考書を読んでみる。 復習：何が科学的か考えてみる。 キーワード：科学的知識、科学的でない知識、疑似科学	中澤　聡
3	「科学的知識」の誕生：古代ギリシアの論証科学	内容：古代ギリシアにおける科学的知識の概念 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：科学的知識と思い込み、公理、証明	中澤　聡
4	「科学的知識」の誕生：古代ギリシアの論証科学	内容：古代ギリシアにおける科学的知識の概念 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：科学的知識と思い込み、公理、証明	中澤　聡
5	それでも地球は回る？	内容：科学革命と力学的世界観 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：天動説と地動説、運動の相対性	中澤　聡
6	それでも地球は回る？	内容：科学革命と力学的世界観 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：天動説と地動説、運動の相対性	中澤　聡
7	幾何学と仮説	内容：「自明な真理」への疑いと非ユークリッド幾何学の成立 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：平行線公準、 非ユークリッド幾何学	中澤　聡
8	幾何学と仮説	内容：「自明な真理」への疑いと非ユークリッド幾何学の成立 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：平行線公準、 非ユークリッド幾何学	中澤　聡
9	無限を測る	内容：集合論とパラドックス 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：仮無限と実無限、集合論のパラドックス	中澤　聡
10	無限を測る	内容：集合論とパラドックス 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：仮無限と実無限、集合論のパラドックス	中澤　聡
11	証明できること、できないこと	内容：ゲーデルの不完全性定理 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：数学と論理、無矛盾性、不完全性定理	中澤　聡
12	証明できること、できないこと	内容：ゲーデルの不完全性定理 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：数学と論理、無矛盾性、不完全性定理	中澤　聡
13	確かさと確からしさ	内容：客観確率と主観確率 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：ベルトランのパラドックス，客観確率と主観確率	中澤　聡
14	確かさと確からしさ	内容：客観確率と主観確率 方法：講義 予習：配付資料の問題を読み、考えておくこと。 復習：配布資料の参考文献を読んでみる。 キーワード：ベルトランのパラドックス，客観確率と主観確率	中澤　聡

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
毎回クイズを配布するので、その問題を読んで考えておく。予習15分程度、復習0～2時間程度。
【学習上の留意点】
当たり前だと思っていることを改めて考えてみる機会にしてください。

【７】　評価方法・基準

課題（100%）
授業で課す提出課題で評価する予定です。

【８】　フィードバック方法

提出課題を返却して解説します。

【９】　教科書

Moodleで資料を配布する。

【10】　参考書

アンリ・ポアンカレ『科学の価値』岩波文庫1977年。
佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす医療統計を学ぶ』岩波書店2005。
その他授業の中で随時紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、トランスレーショナルへの挑戦、看護研究入門、看護研究

科目名(日本語)	**データサイエンス**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Data Sciences	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	齋藤信広				
担当教員	齋藤信広				
科目責任者 連絡先(教室)	授業終了後 10 分程度授業を行った教室にて受け付ける。データサイエンス サポートサイトでのメッセージやメールでの問い合わせも受け付ける。 メールアドレス：saito-ds@sets.jp				
オフィスアワー	授業終了後 10 分程度授業を行った教室にて受け付ける。データサイエンス サポートサイトでのメッセージやメールでの問い合わせも受け付ける。 メールアドレス：saito-ds@sets.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC, Microsoft Office, Google Classroom, インターネット上に独自に用意される「データサイエンス サポートサイト」

【２】　授業概要

情報科学は、情報の生成、構造、処理、利用などに関する原理を考究する学問である。本科目では、情報と人との関係に関する理論、情報倫理、コンピュータの情報の仕組み、操作方法、コンピューターウイルス･セキュリティ対策、インターネット活用による情報の収集と共有の仕方、情報管理の方法を学ぶ。さらに、コンピュータでの情報整理のための基礎的な文書処理や数値処理の方法について演習を通して修得する。
本科目は、専門基礎教育科目である保健統計、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）・Ⅱ（応用編）に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 情報とは何か、具体的に説明できる。
2. 情報リテラシーとは何か、具体的に説明できる。
3. 身についた情報リテラシーについて具体例を挙げて説明できる。
4. セキュリティ管理の方法について3つ以上説明できる。
5. 情報倫理の課題を3つ以上具体的に説明できる。
6. コンピュータを用いて、基礎的な文書が作成できる。
7. コンピュータを用いて、プレゼンテーションができる。
8. コンピュータを用いて、基礎的な数値処理ができる。
9. 医療・看護情報の解釈・分析で重要なことを3つ以上具体的に説明できる。
10. 情報利用における自らの課題について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	情報の科学(1)	授業内容 ・情報科学とは ・情報と人との関係に関する理論 ・コンピュータの歴史、仕組みと操作方法 授業方法：講義 予習：テキスト1.1節を読む 復習：小課題 キーワード：情報、情報倫理、人権、個人情報保護、コンピュータ	齋藤信広
3・4	情報の科学(2)	授業内容 ・インターネットの歴史と基礎 ・インターネットによる情報収集と共有の仕方 ・情報管理の仕方 授業方法：講義 予習：テキスト1.2節を読む 復習：小課題 キーワード：インターネット、セキュリティ管理、情報管理	齋藤信広
5・6	情報の科学(3)	授業内容 ・情報リテラシー ・情報倫理 授業方法：講義 予習：テキスト1.3節を読む 復習：小課題 キーワード：情報リテラシー、SNS、人権、個人情報保護	齋藤信広
7・8	文書作成(1)	授業内容 ・文書作成ソフトの基礎 ・高度な文書作成 授業方法：講義・個人ワーク 予習：テキスト3章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：文書作成、文書作成ソフト、文書作成ソフトの機能	齋藤信広
9・10	文書作成(2)	授業内容 ・文書作成ソフトの基礎 ・高度な文書作成 授業方法：課題に基づく個人ワーク 予習：テキスト3章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：文書作成、文書作成ソフト、文書作成ソフトの機能	齋藤信広
11・12	プレゼンテーション資料作成（１）	授業内容 ・プレゼンテーションソフトの基礎 ・プレゼンテーション資料の作成 授業方法：講義・個人ワーク 予習：テキスト5章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：プレゼンテーション、プレゼンテーションソフト、プレゼンテーションソフトの機能	齋藤信広
13・14	プレゼンテーション資料作成（２）	授業内容 ・プレゼンテーションソフトの基礎 ・プレゼンテーション資料の作成 授業方法：課題に基づく個人ワーク 予習：テキスト5章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：プレゼンテーション、プレゼンテーションソフト、プレゼンテーションソフトの機能	齋藤信広
15・16	数値処理（１）	授業内容 ・表計算ソフトの基礎 ・数値処理の方法 授業方法：講義・個人ワーク 予習：テキスト4章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：表計算ソフト、表計算ソフトの機能、数値処理	齋藤信広
17・18	数値処理（２）	授業内容 ・表計算ソフトの基礎 ・数値処理の方法 授業方法：課題に基づく個人ワーク 予習：テキスト4章を読む 復習：授業終了時に示す課題のレポートを作成する キーワード：表計算ソフト、表計算ソフトの機能、数値処理	齋藤信広
19・20	情報分析・管理の事例学修（１）	授業内容 ・医療や看護に関係するデータについて考察 授業方法：グループワーク 予習：医療や看護に関係するデータの準備 復習：次回の発表の準備を行う キーワード：医療看護情報、エビデンス、情報利用	齋藤信広

21・22	情報分析・管理の事例学修（２）	授業内容 ・医療や看護に関係するデータについて考察 授業方法：グループワーク 予習：医療や看護に関係するデータの準備 復習：次回の発表の準備を行う キーワード：医療看護情報、エビデンス、情報利用	齋藤信広
23・24	情報分析・管理の事例学修（３）	授業内容 ・医療や看護に関係するデータ考察の発表 ・情報科学の展望 授業方法：発表 予習：発表練習 復習：発表内容の改善 キーワード：情報解釈・分析、情報利用	齋藤信広
25・26	情報分析・管理の事例学修（４）	授業内容 ・医療や看護に関係するデータ考察の発表 ・情報科学の展望 授業方法：発表 予習：発表練習 復習：発表内容の改善 キーワード：情報解釈・分析、情報利用	齋藤信広
27	情報分析・管理の事例学修（５）	授業内容 ・医療や看護に関係するデータ考察の発表 ・情報科学の展望 授業方法：講義 予習：発表練習 復習：発表内容の改善 キーワード：情報解釈・分析、情報利用	齋藤信広

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前・事後学習】
この授業は、パソコンを操作する能力を身につけるために、事前学習 1 時間、事後学習 1.5 時間程度を費やします。授業はできるだけパソコン操作に不慣れな学生向けに行います。
何か分からないことがあったら、遠慮なく質問してください。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（50 %）・授業内小課題（50 %）

【８】　フィードバック方法

授業中の課題については、次回の授業で特徴的な間違いなどについてコメントする。授業中の発表については、逐次講評を行う。

【９】　教科書

MicrosoftOffice2019を使った情報リテラシーの基礎　切田節子他著　近代科学社

【10】　参考書

パソコンや Microsoft Office の操作に不安を感じる人は、パソコンや Microsoft Office の操作の入門書を参考にすると良い。

【11】　備考(関連科目等)

保健統計と情報処理、疫学と公衆衛生、看護研究

科目名(日本語)	**データサイエンス実践入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Data Science ： concepts and practice	選択	演習	春学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	廣井直樹				
担当教員	廣井直樹、津熊久幸、永澤悦伸、白石路雄、坂本なほ子、上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	廣井直樹				
オフィスアワー	廣井　火・木曜日 8：30～11：00 ／医学部本館 3 階・医学教育センター ※不在のことも多いので、事前に連絡することが望ましい。 津熊　水曜日 13：30～16：00 ／医学部本館 3階・医学情報学研究室 永澤　月～金曜日 10：00～17：20／薬学部 E館 3階・E309 白石　金曜日10：40～12：10 ／理学部IV号館5階・4533 坂本　木曜日 12：45～13：00 ／看護学部研究棟 2階・社会疫学研究室 上地　原則水曜日 12：00～13：00／健康科学部棟 3階・K316 ※上記各教員のオフィスアワーのほか、Zoomで質問を受け付ける時間を設定する（詳細については、Moodleのコースページに記載する）。また、このほかにも電子メール、Moodleでのチャ ットでも質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC端末、Moodle

本科目はオンラインによる遠隔授業（オンデマンド授業）と、対面授業の 2 つの方式を併用して実施する。オンデマンド授業については、一定の視聴期間を設け、対面授業実施に先んじて各自視聴のうえ、事前・事後学修に取り組む。また、対面授業は 2022 年 8 月 9 日（火）・10 日（水）の 2 日間にわたり、習志野キャンパスで行う。遠隔授業・対面授業のいずれについても、詳細は履修登録期間終了後に Moodle により連絡するので、必ずこまめに確認すること。

＜遠隔授業における授業方法の概要＞
Moodle より配信される講義資料をもとにオンデマンド動画を視聴し、視聴後に小テストに回答する。回答後に配布される小テストの解説により復習する。

＜対面授業における授業方法の概要＞
対面授業では、少人数グループによるグループワーク、ディスカッション、および、その結果のプレゼンテーション等、アクティブラーニングを活用する。また、実際のデータを用いた表計算ソフトウェアによる演習（表計算ソフトウェアの利用方法、データの処理と分析、データの表現方法など）を、コンピュータを用いて行う。

【２】　授業概要

医学・薬学・理学・看護学・健康科学等の自然科学の諸分野において、測定値などのデータに基づく現象の探求は必要不可欠である。一方、現代の社会活動を通して生み出されるデータを活用することは一般的になっており、自然科学の諸分野においても社会との関わりの中で生み出されるデータを分析することによって新たな知見を得ることが重要になっている。そこで、本講義では、データサイエンス、データサイエンスの基本となる数理的な考え方、および、人工知能(AI)について、リテラシーレベルの講義と演習を行う。

【３】　到達目標

データサイエンスのリテラシーレベルの知識を身につけるとともに、データを利用するための技術を習得する。
・社会や自然科学の諸分野で活用されているデータサイエンス・AIの動向について説明できる
・データサイエンス・AIで使用されている技術について説明できる
・データの利用にあたって留意すべき事項を説明できる
・データを適切に読み解き、他者に説明できる
・データサイエンスで用いられる数理的な考え方と可視化手法を理解し説明できる
・表計算ソフトウェアを利用した基本的なデータの分析、および、データの図的表現を行える

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	データサイエンスとAIのひろがり（オンデマンド講義）	データサイエンスと AI の概要、社会の変化とデータサイエンスとの関連、自然科学の発展とデータサイエンスとの関連、および、社会や自然科学の諸分野で活用されているデータの種類について学ぶ	全教員
2	データやAIの活用領域と技術（オンデマンド講義）	社会や自然科学の諸分野においてデータや AI が活用されている領域について学ぶとともに、データの解析手法や可視化手法の概要について学ぶ	全教員
3	データやAIの活用動向（オンデマンド講義）	データや AI を社会や自然科学の諸分野において活用している事例、および、最新動向について学ぶ	全教員
4	データやAIを利用するための留意事項（オンデマンド講義）	データや AI を扱う上での留意事項、および、データを守る上での留意事項である情報セキュリテ ィについて学ぶ	全教員
5	データの種類と性質（オンデマンド講義）	データの種類、および、データの分布や代表値(平均値、中央値、最頻値)について学ぶ	全教員
6	データの特徴（オンデマンド講義）	データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)について学ぶ	全教員
7	データの取り扱い（オンデマンド講義）	観測データに含まれる誤差の取り扱いと、打ち切りや脱落を含むデータの取り扱いについて学ぶ	全教員
8	相関と因果（オンデマンド講義）	相関関係と因果関係について学ぶ	全教員
9	統計情報の扱い（オンデマンド講義）	統計と統計情報の解析方法について学ぶ	全教員
10	データの表現（オンデマンド講義）	グラフなどのデータの表現手法について学ぶ	全教員
11	データの可視化（オンデマンド講義）	データの可視化手法について学ぶ	全教員
12	教師あり学習（オンデマンド講義）	教師あり学習による予測の概要とデータの収集・加工・分析手法について学ぶ	全教員
13	教師なし学習（オンデマンド講義）	教師なし学習による予測の概要とデータの収集・加工・分析手法について学ぶ	全教員
14～16	データサイエンスの活用事例を知る（グループワーク）	自然科学の諸分野において、社会の中で使用されているデータの実例としてどのようなものがあるか調べるとともに、そのデータを利用する上での留意事項について議論する。 第14回：表計算ソフトウェアの基礎（グループワーク） 第15回：表計算ソフトウェアを用いたデータの閲覧（グループワーク） 第16回：グループワークの発表（グループワーク）	全教員
17～20	表計算ソフトウェアを用いてデータを扱う（演習）	医学・薬学・理学・看護学・健康科学の学問体系のなかで社会との接点で生じるデータ(学際的な分野におけるデータ)を使用して、表計算ソフトウェアの基本的な利用方法を学ぶ。 第17回：表計算ソフトウェアの基礎（演習） 第18回：表計算ソフトウェアを用いたデータの閲覧(演習) 第19回：表計算ソフトウェアでの数式の利用(演習) 第20回：表計算ソフトウェアでの関数の利用(演習)	全教員
21～23	表計算ソフトウェアを用いたデータ処理（演習）	第5～9 回で学習した数理的・統計的概念の理解を深めるために、医学・薬学・理学・看護学・健康科学の学問体系のなかで社会との接点で生じるデータ(学際的な分野におけるデータ)を使用し て、表計算ソフトによるデータ分析手法を学ぶ。 第21回：表計算ソフトウェアを用いたデータ分析①（演習） 第22回：表計算ソフトウェアを用いたデータ分析②（演習） 第23回：表計算ソフトウェアを用いたデータ分析③（演習）	全教員
24～27	表計算ソフトウェアを用いたデータの分析・表現の実践（演習とグループワーク）	第10・11回で触れたデータの表現手法の理解を深めるために、表計算ソフトを用いた演習を行う。また、医学・薬学・理学・看護学・健康科学の学問体系のなかで社会との接点で生じるデータ(学際的な分野におけるデータ)を分析し、表現することをグループワークの中で体験する。 第24回：表計算ソフトウェアによるデータの表現(演習) 第25回：表計算ソフトウェアによるデータの図表表現(演習) 第26回：表計算ソフトウェアによるデータの分析と表現の実践(グループワーク①) 第27回：表計算ソフトウェアによるデータの分析と表現の実践(グループワーク②)	全教員

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前学習】50分
オンデマンド講義、および、演習の回については、教科書の指定ページを読んだ上で出席すること。また、グループワークの回については、事前に提示されるグループワークの内容について調査し、自分の意見を整理しておくこと。

【事後学習】50分
オンデマンド講義については、小テストの解説を閲覧し、講義内容の理解を深めること。また、演習とグループワークの回については、レポートにまとめて提出すること。

【７】　評価方法・基準

小テスト　20%
演習(表計算ソフトウェア) 20%
　演習中に提示した課題を完成させられたかを評価する。
グループワー・プレゼンテーション　30%
　到達目標に明示した点について、客観的な根拠に基づいて自分の言葉で説明できる点を重視する。
レポート　30%
　到達目標に明示した点を評価基準とし、評価する。

【８】　フィードバック方法

オンデマンド講義の際に実施した小テストの結果については、終了後に Moodleで解答例を確認できるほか、解説についても Moodleで閲覧できる。レポートについては、コメントを付けて返却する。

【９】　教科書

教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ), 講談社, 北川 源四郎, 竹村 彰通（編）
　ISBN：978-4-06-523809-7

【10】　参考書

データサイエンス入門 ーExcelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方ー, オーム社, 上藤一郎、西川浩昭、朝倉真粧美、森本栄一（共著）
　ISBN：978-4-274-22173-6

【11】　備考(関連科目等)

データサイエンス、保健統計、疫学Ⅰ（基礎編）、疫学Ⅱ（応用編）

科目名(日本語)	**化学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Chemistry	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	満田深雪				
担当教員	満田深雪				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部３号館５階講師室(但し、曜日制限あり下記参照のこと) メールアドレスは授業時間内に掲示する。				
オフィスアワー	講義終了後に10分程度対応する。以後、対面質問では月曜の午前11時～12時,午後3～４時に理学部3号館5階講師室にて対応する。授業時間以外には、Moodleのチャット機能を使って問い合わせのこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleシステムで、対面授業の補完をする（諸連絡、課題提示、模範解答など）

【２】　授業概要

物質の構造や変化の仕組みについて理解を深める。具体的には、原子や分子の構造及び化学結合と化学反応、身体を構成している物質とそれに関する化合物、有機化合物の性質などについて学修する。本科目は、生化学、臨床栄養学などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1.基本的な化学反応を理解・説明できる。
2.環境・生命と化学の関係を理解・説明できる。
3.化学物質の性質や変化について理解・説明できる。
4.化学的思考で物質の構造や変化の仕組みを理解・説明できる。
（看護学科DP　５）

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	化学序論	内容：看護に化学が必要な理由を理解することを目的とする 　　化学基礎（原子、元素周期表、分子、化学結合、物質の変化、酸・塩基、無機・有機化合物）の復習を行う 授業方法：講義 予習：化学基礎（高校）の復習と教科書　第1～4章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：看護と化学、化学基礎	満田深雪
2	物質の状態・性質	内容：物質の基礎知識習得を目指す 　　物質の三態（気体・固体・液体）、物質の量と状態（原子量、分子量、濃度）、溶液の化学（溶解度、コロイド、人工透析）について講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第5章、6章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：物質の三態、物質の量と状態	満田深雪
3	酸・塩基と酸化・還元	内容：酸・塩基、水溶液のpH、緩衝液と緩衝作用、酸化・還元と医療との関係の理解を目標とし、講義を行う 授業方法：講義 予習：教科書　第7章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸・塩基、緩衝液、酸化・還元	満田深雪
4	化学反応に関する量的関係	内容：化学反応の反応式の立て方や、反応時間・反応時数・化学平衡などにおける量的な関係を学ぶ。 授業方法：講義（ただし、通常より演習問題を重視） 予習：教科書　第5～7章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：物質の量と状態、溶解度、酸・塩基平衡、反応定数、酸化・還元	満田深雪
5	有機化合物の構造	内容：炭化水素の種類、置換基の種類、有機化合物の種類と性質について、基本的なことを学ぶ。 授業方法：講義 予習：教科書　第8、9章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：炭化水素、置換基、命名と名称と構造	満田深雪
6	異性体・立体化学	内容：有機化合物の異性体について、構造と安定性について理解を深めることを目標とする。また、診療に利用されるサリドマイドを例にあげ講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第8、9章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：炭化水素、置換基、有機化合物、異性体	満田深雪
7	有機化学反応	内容：有機化学反応（置換反応、付加反応とアスピリン）高分子化合物の種類と分子構造の理解を目標として講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第10章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：有機化学反応（置換反応、付加反応）	満田深雪
8	高分子化合物	内容：高分子化合物の種類と分子構造の理解を目標として講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第11章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：高分子化合物の種類と分子構造	満田深雪
9	生命と化学反応（1-1）	内容：生命体の維持に不可欠な糖質・脂質（主にエネルギー源となるもの）について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第12章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：糖質・脂質・カロリー	満田深雪
10	生命と化学反応（1-2）	内容：生命体の維持に不可欠で微量物質であるホルモン、ビタミンについて化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第12章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：ホルモン、ビタミン、構造の基本骨格	満田深雪
11	生命と化学反応（2-1）	内容：生命体の維持に不可欠なアミノ酸とタンパク質について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第13章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：アミノ酸、等電点、タンパク質、酵素	満田深雪
12	生命と化学反応（2-2）	内容：生命体の維持に不可欠な核酸と遺伝子の高次構造について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第13章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：アミノ酸、タンパク質、核酸、遺伝子	満田深雪

13	環境と化学物質	内容：環境と化学、健康と化学物質の関係について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：配布された資料を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：環境と化学、健康と化学物質	満田深雪
14	毒物劇物の化学	内容：医薬品をはじめ、染料や化粧品、家庭の内外に至るまで、多くの化学物質が構造や容量によって毒物劇物になりうることを学び、今後の学習に活かすことを目的に講義する。 授業方法：講義 予習：配布された資料を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：環境と化学、健康と化学物質、生物毒、致死量	満田深雪

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習：該当する教科書のページに目を通しておく。（30分程度）
事後学習：課題にとりくみ、模範解答をチェックしておく。（1時間程度）

【７】　評価方法・基準

課題（問題・ミニレポート）20%、定期試験80%で評価する。ただし、出席点は含まない。

【８】　フィードバック方法

毎回の簡単な課題に対し、次回の講義で模範解答を提示する。遠隔授業の場合も、配布資料に加えて前回の解答を提示する。

【９】　教科書

コ・メディカル化学 「医療・看護系のための基礎化学」　齋藤勝裕、他.（裳華房）

【10】　参考書

随時、必要なプリントを配布する。また、必要な場合はインターネット上で関係項目に該当するURLを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

生化学、臨床栄養学

科目名(日本語)	**生物学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Biology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邉直子				
担当教員	渡邉 直子				
科目責任者 連絡先(教室)	naokow@biomol.sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける（10 分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

動／植物の生命現象について理解を深める。具体的には、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能などについて学習し、日常生活で遭遇する生物学的な諸問題に関心を持つ姿勢を養う。
本科目は、人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識と直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 細胞の構造について理解し、説明できる。
2. 酵素作用と代謝について理解し、説明できる。
3. 光合成と好気呼吸について理解し、説明できる。
4. DNAの複製と修復について理解し、説明できる。
5. 転写、翻訳、遺伝子発現調節について理解し、説明できる。
6. 体細胞分裂と減数分裂について理解し、説明できる。
7. 代表的な遺伝病と遺伝の様式について理解し、説明できる。
8. DNAクローニングや遺伝子組換え生物について理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	細胞の構造	内容：細胞説、細胞の大きさ、細胞を見る方法、生体分子、原核細胞と真核細胞、細胞小器官について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 2 章 7 節以降、3 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：細胞、細胞膜、細胞小器官	渡邉 直子
3・4	エネルギーと代謝	内容：エネルギーの出入り（同化と異化）、酵素反応、細胞膜と膜輸送について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 4 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：酵素、代謝、輸送	渡邉 直子
5・6	エネルギーの獲得と放出	内容：光の利用、光合成、解糖、好気呼吸、発酵について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 5 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：光合成、好気呼吸、発酵	渡邉 直子
7・8	DNAの構造と機能	内容：染色体、DNA の構造、複製と修復について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 6 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：DNA、複製、修復	渡邉 直子
9・10	遺伝子発現とその調節	内容：RNAの構造、転写、転写調節、遺伝暗号、翻訳、突然変異とその産物、エピジェネティクスについて学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 7 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：転写、翻訳、変異	渡邉 直子
11	細胞の増殖	内容：体細胞分裂、減数分裂について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 8 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：細胞分裂	渡邉 直子
12	遺伝病	内容：遺伝性疾患と遺伝様式、がんについて学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 8 章 5 節、9 章 7 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：遺伝病、がん	渡邉 直子
13・14	生物工学	内容：DNA クローニング、塩基配列決定、PCR 法、DNA 鑑定、遺伝子組換え生物について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 10 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：DNA クローニング、塩基配列決定	渡邉 直子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
- 指定した教科書の該当部分を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学習】
- ノートと教科書を照らし合わせて理解を深め、Moodle で復習の小テストを行う。
- 質問は、授業後直接またはメール、Moodle メッセージを活用して下さい。

15 時間の授業に対して 30 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

定期試験　(80%)、小テスト　(20%)

【8】　フィードバック方法

- 小テストの解説を次の授業で行う　。
- 質問があった場合、次の授業で解説を行う　。

【9】　教科書

スター生物学　（八杉貞雄監訳）　東京化学同人（第 1 版、原著第 4 版）

【10】　参考書

必要に応じてプリントを配布する。

【11】　備考(関連科目等)

生物学入門、人体の構造と機能、生化学、臨床栄養学、臨床遺伝学

科目名(日本語)	**看護のための物理学（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Physics for Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渋谷寛				
担当教員	渋谷寛				
科目責任者 連絡先(教室)	毎週：水曜日14：00～16：00　理学部Ⅱ号館5階2514D室　(内線3461) shibuya@ph.sci.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	毎週：水曜日14：00～16：00　理学部Ⅱ号館5階2514D室　(内線3461)				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを活用する

【２】　授業概要

基礎的な物理学的思考を養い、看護技術の科学的な視点による理解を深める。具体的には、臨床の看護行為（ボディメカニクス・てこの原理・点滴静注など）に関連する物理や、人体のしくみ（呼吸器・循環器など）がどう物理学と関わるのかなどを学修する。本科目は、人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識と直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1　日常的に使われる物理量、単位、及び代表的な物理法則を理解し説明できる。
2　日常的な現象について理解し、説明できる。
3　物理学がどのように看護に応用されているかを理解し説明できる。
4　看護において物理学を応用した正しい行動がとれる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	プロローグー看護のために物理学を学ぶ理由－	内容：物理学とはどんな学問か、なぜ学ぶのか 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書のまえがきを読み、目次を見ておくこと 復習：レポート課題１に取り組み、提出する キーワード：物理学、科学リテラシー	渋谷　寛
3・4回	バイオメカニクスの基礎	内容：力学１ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第１章を読む 復習：レポート課題２に取り組み、提出する キーワード：バイオメカニクス、運動、エネルギー、摩擦、てこ、圧力	渋谷　寛
5・6回	看護・介護のボディメカニクス	内容：力学２ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第２章を読む 復習：レポート課題３に取り組み、提出する キーワード：ボディメカニクス、姿勢、動作、運動、体を動かすしくみ	渋谷　寛
7・8回	熱，体温，罨法	内容：熱力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第３章を読む 復習：レポート課題４に取り組み、提出する キーワード：熱、温度の概念、体温、体温の測定	渋谷　寛
9・10回	流体と呼吸・循環・吸引・医療	内容：流体力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第４章を読む 復習：レポート課題５に取り組み、提出する キーワード：気体、液体の概念、血液の採取、輸血の原理、血圧	渋谷　寛
11・12回	音・光と医療、電磁気と生活・人体・医療	内容：波動・電磁気学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第５章、第６章を読む 復習：レポート課題６に取り組み、提出する キーワード：音と波、音波や光を使った医療、電磁場の概念、その生体への影響、医療器具	渋谷　寛
13・14回	画像検査の物理科学	内容：電磁気学・原子物理学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第６章、第７章を読む 復習：レポート課題７に取り組み、提出する キーワード：電磁場の概念、その生体への影響、医療器具、物質と原子、放射線・粒子線による治療	渋谷　寛

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：教科書の当該部分をあらかじめ目を通してから講義に参加すること(0.5時間)
復習：毎回出題される課題レポートを書く（問題を解く）（1時間）

講義はMoodleを使用した対面授業を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回授業の課題レポート50%と最終レポート50%で評価します。

【８】　フィードバック方法

質問の多かった課題や事柄について、次回の授業やMoodleの中で、補足説明やコメントをします。

【９】　教科書

ヘルプフル！看護・介護と物理　－根拠が分かって自信がつく－　多田旭男　著　三共出版

【10】　参考書

ベッドサイドを科学する　－看護に生かす物理学－平田雅子　著　　学研メディカル秀潤社

【11】　備考(関連科目等)

自然科学概論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、看護の基本技術Ⅰ～Ⅷ

科目名(日本語)	**実用英語ＩＡ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅰ A	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	平野正樹				
担当教員	平野正樹				
科目責任者 連絡先(教室)	木曜日12:30～14:00、16:00～16:30 Ｖ号館5階講師控室(5502) メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと） 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージ機能による連絡も可能				
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00、16:00～16:30 Ｖ号館5階講師控室(5502) メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと） 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージによる連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

ペアワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

高等学校までに学んだ文法の基礎を踏まえ、さらに語彙・語法・構文知識の定着を図ることを目標とする。その上で、日常生活・社会生活において必要とされる様々な英語口語表現を学んでいく。また、医療系の専門的な文献購読を目指した読解力の向上のための演習を盛り込んでいく。

【３】　到達目標

1. 学生が日常的によく使われる語彙や表現を用いて英語による会話をすることができる。
2. 学生が英語特有の発音の基本を理解し、相手の発話を聞き取り、正確な発音で発話をすることができる。
3. 学生が将来医療系の文献を読むための準備段階として、英語文章を構文に基づいて論理的に理解することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンス　Unit1	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
３・４回	Unit2	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
５・６回	Unit3	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
７・８回	Unit4	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
９・１０回	Unit5	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
11・12回	Unit6	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
13回	Unit7	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
14回	中間テスト	内容：中間テスト 授業方法：中間テスト	平野正樹
15・16回	Unit8	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
17・18回	Unit9	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
19・20回	Unit10	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
21・22回	Unit11	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
23・24回	Unit12	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
25・26回	Unit13	内容：リスニング、会話、文法、ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
27回	発音テスト	内容：語や文章の発音 授業方法：発音テスト	平野正樹

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はテキストの問題を解く必要があるため、予習1時間程度、復習30分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準
試験による評価60％（中間試験30％、定期試験30％）、授業の発言回数・課題40％。

【８】　フィードバック方法
中間試験実施後に結果を返却し、解答についてコメントする。

【９】　教科書
『Complete Communication Book2-Intermediate-』（成美堂）

【10】　参考書
特になし

【11】　備考(関連科目等)
特になし

科目名(日本語)	**実用英語ＩＢ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English 1B	選択	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	平野正樹				
担当教員	平野正樹				
科目責任者 連絡先(教室)	木曜日12:30～14:00、16:00～16:30 Ｖ号館5階講師控室(5502) メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと） 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージによる連絡も可能				
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00、16:00～16:30 Ｖ号館5階講師控室(5502) メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと） 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージによる連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

ペアワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

高等学校までに学んだ基礎を踏まえ、その上で、日常生活・社会生活において必要とされる様々な英語の口語表現を学び、英語での表現力・発信力向上のためのライティング演習にも取り組んでいく。

【３】　到達目標

1. 学生が日常的によく使われる語彙や表現を用いて英語による基本的な会話をすることができる。
2. 学生が英語特有の発音の基本を理解し、相手の発話を聞き取り、正確な発音で発話をすることができる。
3. 学生が将来医療系の文献を読むための準備段階として、英語文章を構文に基づいて論理的に理解することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	ガイダンス・Unit1	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
3・4回	Unit2	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
5・6回	Unit3	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
7・8回	Unit4	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
9・10回	Unit5	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
11・12回	Unit6	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
13回	Unit7	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
14回	中間テスト	内容：中間テスト（Unit1～Unit6） 授業方法：中間テスト	平野正樹
15・16回	Unit8	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
17・18回	Unit9	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
19・20回	Unit10	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
21・22回	Unit11	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
23・24回	Unit12	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
25・26回	Unit13	内容：リスニング、会話、文法　ディクテーション 授業方法：演習（＝その他、ペアワークなど） 予習：Ⅰ～Ⅴの問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
27回	発音テスト	内容：語や文章の発音 授業方法：発音テスト	平野正樹

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はテキストの問題を解く必要があるため、予習1時間程度、復習30分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準
試験60％（中間試験30%、定期試験30%）、発言回数・小テスト40%

【８】　フィードバック方法
試験は結果を返却し、問題の解説を行う。

【９】　教科書
『Complete Communication Book2－Intermediate－』（成美堂）

【10】　参考書
特になし

【11】　備考(関連科目等)
特になし

科目名(日本語)	**医療英語A**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English A	選択	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	木曜日6限（13:00～13:50）の健康科学部棟講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療や看護を主題とする英文の読解を通して、健康科学への関心を高め、今後の英語文献の講読や各自の看護研究に必要な英語力を養います。また、基礎的な英語の語句や成句への習熟を図ると共に、医療英語の語彙力も集中して鍛えます。

【３】　到達目標

・英文の意味や構造を正確に理解するのに必要な英語の文法や語法を習得することができる。
・英語の文章を整合的に読解するために不可欠な論理的な思考を身に付けることができる。
・英会話や英作文で使える有用な表現および重要な語句や成句に習熟することができる。
・医療系の専門的な英語文献を講読するのに必要な医療英語の語彙力を強化することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンスとアイスブレイク	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、授業に参加し易い環境を整えます。 授業方法：講義，グループワーク 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を各人で改めて確認しておいてください。 キーワード：授業の概説，アイスブレイク	成田正人
３・４回	Unit 5 Risky Aspirin？	授業内容：Unit 5のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 5のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Aspirin	成田正人
５・６回	Unit 5 Risky Aspirin？と Unit 12 Multimorbidity vs. Quality of Life	授業内容：Unit 5のReadingとComprehensionの後、Unit 12のVocabularyとReadingをします。 授業方法：発表，講義，グループワーク，問題演習 予習：Unit 5とUnit 12のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Aspirin, Multimorbidity	成田正人
７・８回	Unit 12 Multimorbidity vs. Quality of Life	授業内容：Unit 12のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 12のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Multimorbidity	成田正人
９・10回	復習１と試験１	授業内容：これまでの学修を見直し、Unit 5とUnit 12について試験１行います。 授業方法：講義，グループワーク，質疑応答，試験 予習：試験１に備えて、Unit 5とUnit 12で学修したことを見直しておいてください。 復習：教科書などを使って試験の問題を振り返ってみてください。 キーワード：Aspirin, Multimorbidity, 復習１，試験１	成田正人
11・12回	Unit 2 Dealing with Addiction	授業内容：Unit 2のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 2のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Addiction	成田正人
13・14回	試験１へのフィードバックとUnit 2 Dealing with Addiction	授業内容：試験１へのフィードバックの後、Unit 2のReadingとComprehensionを行います。 授業方法：講義，発表，グループワーク 予習：Unit 2のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：試験１へのフィードバック，Addiction	成田正人
15・16回	Unit 9 Link Between Diet and Brain	授業内容：Unit 9のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 9のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Diet and Brain	成田正人
17・18回	Unit 9 Link Between Diet and Brainと復習２	授業内容：Unit 9のReadingとComprehensionの後、これまでの学修を見直します。 授業方法：発表、講義、グループワーク、質疑応答 予習：Unit 9のReadingを読んでおいてください。 復習：試験２に備えて、Unit 2とUnit 9で学修したことを見直しておいてください。 キーワード：Addiction, Diet and Brain, 復習２	成田正人
19・20回	試験２とUnit 7 Hyaluronic Acid	授業内容：Unit 2とUnit 9について試験２を行い、Unit 7のVocabularyとReadingをします。 授業方法：試験，問題演習，発表，講義 予習：試験２の準備をしておいてください。Unit 7のReadingを読んでおいてください。 復習：試験２の問題を振り返り、授業内で学修した文法や語法を見直してください。 キーワード：試験２，Hyaluronic Acid	成田正人
21・22回	Unit 7 Hyaluronic Acid	授業内容：Unit 7のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 7のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Hyaluronic Acid	成田正人
23・24回	試験２へのフィードバックとUnit 14 Edible Insects	授業内容：試験２へのフィードバックの後、Unit 14のVocabularyとReadingを行います。 授業方法：講義，問題演習，発表 予習：Unit 14のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：試験２へのフィードバック，Edible Insects	成田正人
25・26回	Unit 14 Edible Insects	授業内容：Unit 14のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 14のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Edible Insects	成田正人

27回	復習３	授業内容：Unit 7とUnit 14で学修したことを見直します。 授業方法：講義，グループワーク，質疑応答 予習：Unit 7とUnit 14で学修したことを見直しておいてください。 復習：定期試験に備えて、Unit 7とUnit 14で学修したことを見直しておいてください。 キーワード：Hyaluronic Acid, Edible Insects, 復習３	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、教科書のReadingを読んで、英文の意味と構造をできるだけ正確に捉えてください。事後学習では、小テストや試験に備えて、授業内で学修した重要な文法や語法を自分でまとめてみてください。事前学習と事後学習は合わせて１時間半程度かかると思います。

【７】　評価方法・基準

定期試験（３回）60％と小テスト20％と発言回数20％で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと試験１と試験２は、結果を返却し、重要な箇所や正答率の低い問題について授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

吉岡みのり、Gerald R. Gordon、近藤進『今求められる医療と看護 Caregiver Renewed: Developing an Inquisitive Mind for Medical Issues』

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

医療英語Ⅱ

科目名(日本語)	**医療英語B**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English B	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	木曜日6限（13:00～13:50）の健康科学部棟講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療や看護を主題とする英文の読解を通して、健康科学への関心を高め、今後の英語文献の講読や各自の看護研究に必要な英語力を養います。また、基礎的な英語の語句や成句への習熟を図ると共に、医療英語の語彙力も集中して鍛えます。

【３】　到達目標

・英文の意味や構造を正確に理解するのに必要な英語の文法や語法を習得することができる。
・英語の文章を整合的に読解するために不可欠な論理的な思考を身に付けることができる。
・英会話や英作文で使える有用な表現および重要な語句や成句に習熟することができる。
・医療系の専門的な英語文献を講読するのに必要な医療英語の語彙力を強化することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	授業の概要とアイスブレイク	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、授業に参加し易い環境を整えます。 授業方法：講義，グループワーク 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を各人で改めて確認しておいてください。 キーワード：授業の概説，アイスブレイク	成田正人
３・４回	Unit 1 Vitamin D	授業内容：Unit 1のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 1のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Vitamin D	成田正人
５・６回	Unit 1 Vitamin DとUnit 8 A Promising Treatment for Alzheimer’ s	授業内容：Unit 1のReadingとComprehensionの後、Unit 8のVocabularyとReadingをします。 授業方法：発表，講義，グループワーク，問題演習 予習：Unit 1とUnit 8のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Vitamin D, Treatment for Alzheimer’s	成田正人
７・８回	Unit 8 A Promising Treatment for Alzheimer’ s	授業内容：Unit 8のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 8のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Alzheimer’s Disease	成田正人
９・10回	復習１と試験１	授業内容：これまでの学修を見直し、Unit 1とUnit 8について試験１を行います。 授業方法：講義，グループワーク，質疑応答，試験 予習：試験１に備えて、Unit 1とUnit 8で学修したことを見直しておいてください。 復習：教科書などを使って試験の問題を振り返ってみてください。 キーワード：Vitamin D, Alzheimer’s Disease, 復習１，試験１	成田正人
11・12回	Unit 6 New Trends in Controlling Cancer	授業内容：Unit 6のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 6のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Controlling Cancer	成田正人
13・14回	試験１へのフィードバックとUnit 6 New Trends in Controlling Cancer	授業内容：試験１へのフィードバックの後、Unit 6のReadingとComprehensionを行います。 授業方法：講義，発表，グループワーク 予習：Unit 6のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：試験１へのフィードバック，Controlling Cancer	成田正人
15・16回	Unit 10 Vaping Boom among Teens	授業内容：Unit 10のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 10のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Vaping Boom	成田正人
17・18回	Unit 10 Vaping Boom among Teensと復習２	授業内容：Unit 10のReadingとComprehensionの後、これまでの学修を見直します。 授業方法：発表，講義，グループワーク，質疑応答 予習：Unit 10のReadingを読んでおいてください。 復習：試験２に備えて、Unit 6とUnit 10で学修したことを見直しておいてください。 キーワード：Controlling Cancer, Vaping Boom, 復習２	成田正人
19・20回	試験２とUnit 13 Save the Planet Diet	授業内容：Unit 6とUnit 10について試験２を行い、Unit 13のVocabularyとReadingをします。 授業方法：試験，問題演習，発表，講義 予習：試験２の準備をしておいてください。Unit 13のReadingを読んでおいてください。 復習：試験２の問題を振り返り、授業内で学修した文法や語法を見直してください。 キーワード：試験２，Planet Diet	成田正人
21・22回	Unit 13 Save the Planet Diet	授業内容：Unit 13のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 13のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Planet Diet	成田正人
23・24回	試験２へのフィードバックとUnit 15 Medical Comics	授業内容：試験２へのフィードバックの後、Unit 15のVocabularyとReadingを行います。 授業方法：講義，問題演習，発表 予習：Unit 15のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：試験２へのフィードバック，Medical Comics	成田正人
25・26回	Unit 15 Medical Comics	授業内容：Unit 15のReadingを読んでComprehensionに答えます。 授業方法：発表，講義，グループワーク 予習：Unit 15のReadingを読んでおいてください。 復習：授業内で学修した重要な文法と語法を見直してください。 キーワード：Medical Comics	成田正人

27回	復習３	授業内容：Unit 13とUnit 15で学修したことを見直します。 授業方法：講義，グループワーク，質疑応答 予習：Unit 13とUnit 15で学修したことを見直しておいてください。 復習：定期試験に備えて、Unit 13とUnit 15で学修したことを見直しておいてください。 キーワード：Planet Diet, Medical Comics, 復習３	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、教科書のReadingを読んで、英文の意味と構造をできるだけ正確に捉えてください。事後学習では、小テストや試験に備えて、授業内で学修した重要な文法や語法を自分でまとめてみてください。事前学習と事後学習は合わせて１時間半程度かかると思います。

【７】　評価方法・基準

定期試験（３回）60％と小テスト20％と発言回数20％で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと試験１と試験２は、結果を返却し、重要な個所や正答率の低い問題について授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

吉岡みのり、Gerald R. Gordon、近藤進『今求められる医療と看護 Caregiver Renewed: Developing an Inquisitive Mind for Medical Issues』

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

医療英語Ⅱ

科目名(日本語)	**ドイツ語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to German	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	永井千鶴子				
担当教員	永井千鶴子				
科目責任者 連絡先(教室)	水曜日の授業前後に質問受け付け、またはメールにて問い合わせ メール：chizuko.nagai@sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	水曜日12:20～12:50 非常勤講師室にて面会可				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleに紹介する動画（短いDVDなど）を見ておく。

【２】　授業概要

ドイツ語の基本的な文法などを説明と練習を繰り返すことで学び、読む、聞く、書く、話すなどの統合的な力の基礎を養う。また、ドイツ語とともに、ドイツ語圏（ドイツ・スイス・オーストリアなど）の文化も同時に吸収する。

【３】　到達目標

・ドイツ語表記を見て正しい発音ができる。
・ドイツ語で簡単な自己紹介および家族紹介をすることができる。
・ドイツ語圏の情報を得て、日本とドイツ語圏の文化を比較して簡単に述べることができる。
・ドイツ語で簡単な日記や予定表を書くことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	内容：今期の学習目標と成績評価説明およびドイツ語・ドイツ語圏情報の紹介。テキスト、参考となる書物、サイトなどの紹介。 ・挨拶とドイツ語への案内（音楽家からの紹介） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 初回予習なし 復習：講義毎に提示する キーワード：ドイツ語圏	永井千鶴子
2	Lektion 1	内容：人と知り合いになるための会話 ・まずドイツ語の会話を聞き、どのような単語が聞き取れるかを試してみる。（どのような内容？） ・挨拶、名前、住んでいる所、年齢の確認 ・アルファベートと発音 ・全体を通して発音のチェックと法則の簡単な説明 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：アルファベート、挨拶	永井千鶴子
3	Lektion 1	内容：前回の復習（覚えた会話を正しい発音で） ・数字（１～100）番号を使って様々な練習 ・数字の聞き取り ・ドイツ語圏の情報を話す。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：数字、発音	永井千鶴子
4	Lektion 1	内容：前回の復習（数字の聞き取り、ゲーム形式で確実に覚える） ・文法項目：動詞の変化形と主語になる人称の種類（私、あなた、彼、彼女など） ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：自己紹介	永井千鶴子
5	Lektion 1	内容：Lektion 1の復習（挨拶を含めて名前、出身地、居住地、年齢などをペアで会話） ・Lektion 1で何ができるようになったかを確認 ・文の構造、つづりの特徴を英語と比較しながら考える。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：知り合い	永井千鶴子
6	Lektion 2	内容：相手の名前、出身、居住地を聞く、答えるための会話 ・まず会話を聞いて、内容を話し合う。（話題は何？） ・挨拶のバリエーション 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：自己紹介	永井千鶴子
7	Lektion 2	内容：前回の復習（挨拶から始める） ・ドイツ人の名前（人気の名前は？） ・自己紹介の完成（相手にもたずねて、答えを聞き取れるように練習） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：質問、聞き取り	永井千鶴子
8	Lektion 2	内容：前回の復習（疑問文の形は？） ・文法項目：動詞の変化形と疑問文、答え方 ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：疑問詞（何、どのように、どこから？）	永井千鶴子
9	Lektion 2	内容：Lektion 2の復習（Ja-Nein-Frageの練習） ・Lektion 2で何ができるようになったかを確認 ・体調について聞いて答えるマナーなど日本との相違点に注目する。 ・疑問文の答え方（必ずyes,noを言う） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：質問、答え方	永井千鶴子
10	Lektion 3	内容：趣味と関心事を話すための会話 ・まず会話を聞いて、内容を話し合う。（話題は何？） ・動詞とセットで単語を覚える。du/Sieの使い分け 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：趣味	永井千鶴子
11	Lektion 3	内容：前回の復習 ・何をするのが好き？趣味は何？ ・ペアで話し合う。関心のあることを挙げてみる（音楽、スポーツ、食べ物など） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：趣味、得意分野	永井千鶴子

12	Lektion 3	内容：前回の復習 ・文法事項：動詞の変化形、不規則動詞、語順 ・否定疑問文の答え方　Ja/Nein/Dochの使い分け ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：応答、語順	永井千鶴子
13	Lektion 3	内容：Lektion 3の復習 ・Lektion 3で何ができるようになったかを確認 ・～をどのくらいできるのかをレベル別に表現（少し、上手に、すごく上手に...） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：不規則動詞	永井千鶴子
14	Lektion 4	内容：家族を紹介するための会話 ・まず会話を聞いて、内容を話し合う。（話題は何？） ・家族（父、母など）のドイツ語単語を覚える。 ・性格、外見、仕事、専攻などの単語も練習 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：家族	永井千鶴子
15	Lektion 4	内容：前回の復習（ペアで単語を復習） ・自分の家族を紹介する。 ・イラストを描いて、性格、仕事、外見をペアで話す。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） キーワード：職業	永井千鶴子
16	Lektion 4	内容：前回の復習 ・文法事項：動詞の変化形、所有冠詞 ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーボード：家族紹介	永井千鶴子
17	Lektion 4	内容：Lektion 4の復習（ペアで家族紹介） ・Lektion 4で何ができるようになったかを確認 ・会話中の反応を表すドイツ語のいろいろ 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：会話	永井千鶴子
18	Lektion 5	内容：店で買い物をするための会話 ・まず会話を聞いて、内容を話し合う。（話題は何？） ・食料品のドイツ語単語を覚える。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：買い物、値段	永井千鶴子
19	Lektion 5	内容：前回の復習（ペアで単語を復習） ・食料品の容器、単位（グラム、個数など）を考える。日本との相違は？ ・店の形態、規模、買い物の仕方を話し合う。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：買い物、店	永井千鶴子
20	Lektion 5	内容：前回の復習（ペアで単語を復習） ・文法事項：冠詞（定冠詞、不定冠詞） ・冠詞の使い分け（日本語にない冠詞を理解して使えるように） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：冠詞	永井千鶴子
21	Lektion 5	内容：前回の復習（ペアで何を学習したかを確認） ・買い物場面のやり取りを練習 ・店員、客の会話の例文を確認 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：買い物	永井千鶴子
22	Lektion 5	内容：前回の復習（買い物場面の復習） ・Lektion 5で何ができるようになったかを確認 ・文法事項：複数形 ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：複数形	永井千鶴子
23	Lektion 6	内容：約束の日時を決める会話 ・まず会話を聞いて、内容を話し合う。（話題は何？） ・曜日と一日の時間帯（午前・午後など）の単語を覚える。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：約束	永井千鶴子
24	Lektion 6	内容：前回の復習（曜日、時間帯の単語を復習） ・時刻の言い方（１２時間制、２４時間制共に） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：時刻	永井千鶴子

25	Lektion 6	内容：前回の復習（時刻をペアで復習） ・約束をするときの表現（時間はある？何時に待ち合わせる？） ・文法事項：前置詞（3格を使う前置詞） ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなと） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：前置詞	永井千鶴子
26	Lektion 6	内容：前回の復習（前置詞の復習） ・約束の会話を作ってペアで練習 ・疑問詞（いつ、どこへ、何をする、を考える） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：約束	永井千鶴子
27	Lektion 6	内容：Lektion 6で何ができるようになったかを確認して理解する。 ・今学期のまとめ 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：ドイツ語	永井千鶴子

【６】　事前・事後学習とその時間

・初めての言語を学習するにあたっては、予習として３０分程度の時間を使って授業時間内に紹介するサイトや情報などに定期的に目を通すことが望ましい。
・復習にも１時間程度要費やしてほしい。内容としては学習したドイツ語表記の発音および会話文を、CDなどの音源を参考に必ず声に出して確認すること、学習した文法項目は自分なりにまとめておくこと、不明点があれば書き出しておくことを推奨する。

【７】　評価方法・基準

筆記及び会話試験（中間、期末試験）70%、小テストおよび授業内活動　30%　の内訳で総合的に評価する。

＊授業を1/3以上欠席した者は評価の対象としない（遅刻3回は欠席1回とみなす）ので注意。

【８】　フィードバック方法

授業中に行う小テストはその場で答え合わせをする。
会話テスト、筆記テストおよび提出課題は、次回講評して返却する。

【９】　教科書

Supergut! -コミュニケーションツールとしてのドイツ語をいっしょに学ぼう！[改訂版]
小笠原藤子・永井千鶴子著　三修社

【10】　参考書

関連サイト、アプリについては初回授業で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

なし

科目名(日本語)	**フランス語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to French	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	大道寺玲央				
担当教員	大道寺玲央				
科目責任者 連絡先(教室)	水曜日12時10分～13時　５号館５階講師室 E-mail ： reodaidoji@gmail.com				
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時　５号館５階講師室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

フランス語を初級文法から学び、現在形で初歩的な文章をつくれる程度の力を養う。
フランス語圏の文化、またそれを構成する価値観に触れ、多様な価値観のあり方を感得する。

【３】　到達目標

フランス語で買い物や、簡単な自己紹介ができる（実用フランス語技能検定試験５級取得可能程度）。
フランス的な社会生活のあり方に触れ、日本とは異なる生活習慣、商習慣等を比較し述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	内容：授業の概要紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：教科書に目を通しておく 復習：講義ごとに提示する キーワード：授業概要	大道寺玲央
1	アルファベ	内容：アルファベットのフランス語読みの練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：a~z	大道寺玲央
2	発音規則（1）	内容：単語を発音する際の規則の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：単母音字、複母音字	大道寺玲央
3	発音規則（2）	内容：文を発音する際の規則の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：鼻母音、複子音字	大道寺玲央
4	あいさつ表現（1）	内容：様々な挨拶表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード： bonjour	大道寺玲央
5	あいさつ表現（2）	内容：様々な挨拶表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード： bonjour	大道寺玲央
6	主語人称代名詞	内容：主語人称代名詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：主語人称代名詞	大道寺玲央
7	動詞être	内容：動詞être 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：être	大道寺玲央
8	国籍（1）	内容：国籍に関する表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：japonnais(e)(s)	大道寺玲央
9	国籍（2）	内容：国籍に関する表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：japonais(e)(s)	大道寺玲央
10	第一群規則動詞（1）	内容：第一群規則動詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：parler	大道寺玲央
11	第一群規則動詞（2）	内容：第一群規則動詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：parler	大道寺玲央
12	前置詞（1）	内容：場所を表す前置詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：derriere / devant	大道寺玲央
13	前置詞（2）	内容：場所を表す前置詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：derriere / devant	大道寺玲央
14	色彩表現（1）	内容：色を表す表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：noir(e)(s)	大道寺玲央

15	色彩表現（2）	内容：色を表す表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：noir(e)(s)	大道寺玲央
16	所有形容詞（1）	内容：所有形容詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：mon / ma / mes	大道寺玲央
17	所有形容詞（2）	内容：所有形容詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：mon / ma / mes	大道寺玲央
18	時間表現（1）	内容：時間表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：il est ~ heure(s) ~	大道寺玲央
19	時間表現（2）	内容：時間表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：il est ~ heure(s) ~	大道寺玲央
20	部分冠詞	内容：部分冠詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：du / de la	大道寺玲央
21	定冠詞	内容：定冠詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：le / la / les	大道寺玲央
22	代名動詞（1）	内容：代名動詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：se coucher	大道寺玲央
23	代名動詞（2）	内容：代名動詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：se coucher	大道寺玲央
24	場所表現（1）	内容：行く場所・住む場所の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：aller / habiter a Paris	大道寺玲央
25	場所表現（2）	内容：行く場所・住む場所の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：aller / habiter a Paris	大道寺玲央
26	複合過去形（1）	内容：複合過去形の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：avoir visite / être alle(e)(s)	大道寺玲央
27	複合過去形（2）	内容：複合過去形の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：avoir visite / être alle(e)(s)	大道寺玲央

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業では毎回、小テスト（ペーパーもしくは口頭）が課されます。その勉強のため、一時間程度の復習が必要となります。
予習は必須ではありませんが、教科書で学習内容を事前に確認し（10分程度）、疑問点などを明らかにした上で授業に出席することが望ましいです。

【７】　評価方法・基準

小テストと期末試験の合計が100点満点になるように換算して評価します。
内訳は、小テストが50%、期末試験が50%です（詳細は初回ガイダンス時に紹介）。

【８】　フィードバック方法

ペーパーでの小テストは採点後返却し、口頭での小テストは、その場で採点し正解を確認します。

【９】　**教科書**

『フランス語ルージュ１――トリコロール会話編――』（Claire RENOUL他、朝日出版社、2014年初版発行）

【10】　**参考書**

『ケータイ「万能」フランス語文法』（久松健一、駿河台出版社、2000年）
辞書については初回ガイダンス時に紹介。

【11】　**備考(関連科目等)**

特にありません。

科目名(日本語)	**中国語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Chinese	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	張　敏				
担当教員	張　敏				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	水曜日、12時10分～13時、5号館5階講師室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

中国語は日本語と同様漢字を使う言語なので、それで親近感をおぼえ、選択する学生も多いかと思うが、授業の最初は発音を表記するのに用いられる「ピンイン」というローマ字の修得から始める。そして発音の基礎を身につけながら、基本的表現を学習していき、中国語を勉強する土台を作る。

【３】　到達目標

1. 中国語のローマ字発音表記(ピンイン)を見て正しい発音ができる。
2. 多様な中国語表現を一つ一つ確実に覚えて、作文を作る能力が身につけられる。
3. 簡単な挨拶と会

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-2回	ガイダンス、第1課-1	内容：＜テキストP6～8＞ 中国とは？ 中国語とは？ 内容：＜テキストP9～10＞ 声調 単母音 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
3-4回	第1課-2、第2課-1	内容：＜テキストP10～11＞ リピート、練習 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP12＞ 複母音 声調記号のつけ方 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
5-6回	第2課-2、第3課-1	内容：＜テキストP13～14＞ リピート、練習 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP15＞ 子音（1） 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
7-8回	第3課-2、第4課-1	内容：＜テキストP16～17＞ 軽声 声調の変化（1） リピート、練習 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP18～19＞ 子音（2） 声調の変化（2） 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
9-10回	第4課-2、第5課-1	内容：＜テキストP19～20＞ 親族名称 練習 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP21～22＞ 鼻母音 声調の変化 数字0－10 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
11-12回	第5課-2、第6課	内容：＜テキストP23＞ 練習 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP24～26＞ r化音 間違えやすい発音 人称代名詞 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
13-14回	第7課、第8課-1	内容：＜テキストP27～29＞ 紛らわしい発音 数字11－99 あいさつ言葉 名前の聞き方と答え方 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP30～31＞	張　敏

		新出語句 補充語句 動詞“是” “？”疑問文 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	
15-16回	第8課-2、第9課-1	内容：＜テキストP32～33＞ 会話とドリル練習 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP34～35＞ 動詞述語文 副詞“也”と“都” 語気助詞“？” 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
17-18回	第9課-2	内容：＜テキストP36～37＞ 会話とドリル練習 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
19-20回	第10課-1	内容：＜テキストP38～39＞ “？”疑問文 指示代名詞（1）「これ、あれ、それ」 “的” 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
21-22回	第10課-2	内容：＜テキストP40～41＞ 会話とドリル練習 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
23-24回	第11課-1	内容：＜テキストP42～43＞ 疑問詞疑問文 助動詞“想” 時点（1）「今日、今週、今月など」 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
25-26回	第11課-2	内容：＜テキストP44～45＞ 会話とドリル練習 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
27回	総復習	発音、文法の確認、質疑応答	張　敏

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：テキストを事前に読んでおくこと。
復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。
本授業は予習に1時間、復習に1.5時間程度要する。

【７】　評価方法・基準

期末試験80％＋小テスト20％

【８】　フィードバック方法

小テスト：結果を返却する。期末テスト：試験問題の誤答内容に応じ、全体向けまたは個別にコメントする。

【９】　教科書

杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語40回』白帝社

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

なし

科目名(日本語)	**健康科学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Health Sciences	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	高松 研、尾立 篤子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立 篤子（研究室K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

健康科学に関する様々な概念や社会理論などを学び、身体面・精神（心理面）・社会面のある個人の健康、個人・家族・社会という生活体が構成する集団の健康、疾病・加齢による身体の健康、など多角的に理解し、人類とそれを取り巻く健康な社会について科学的に探究する視座を習得する。

【３】　到達目標

1. 東邦大学創始者である額田氏の考え方を通し人間を取り巻く環境との適応状況を踏まえ、人間の尊厳、健康について考え、述べることができる。
2. 人間の健康を守るための医学の歴史について述べることができる。
3. 人間の健康を身体的・精神的・社会的側面から科学的にとらえ統合体としての人間についての健康について述べることができる。
4. 人間の健康を予防・疾病のレベル（健康の段階）・死について捉え、述べることができる。
5. 人間を多角的に捉え、人間の尊厳を考え、「健康観」として述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	健康とは（1）	内容：WHOの健康の定義、社会的健康とは、安全が保障される社会 方法：講義 予習：高校までに学んだことから「健康」について言語化しておく。 復習：本時で学んだ内容を整理しておく。 キーワード：世界保健機構、well-being、ソーシャルキャピタル、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）	尾立　篤子
3・4回	健康とは（2）	内容：身体的側面から見た健康の段階（レベル）を科学的に捉える。病気の予防～疾病の発症～病気の回復過程を学ぶ。 方法：講義 予習：前回の授業で学んだことの整理をし、疑問点を明らかにして臨む。 復習：本時で学んだことのトピックスから1つ選び5分で説明できる資料を作成する。 キーワード： 疾病予防、病気の診断、疾病の回復、健康への影響要因（飲酒・喫煙・肥満など）	尾立　篤子
5・6回	健康とは（3）	内容：身体的側面から見た老化および死を考える。 方法：講義・ディスカッション（遠隔授業） 予習：「死」に関して自分の考えを整理してくる。 復習：各グループのテーマに従い既習したことの整理をする。 キーワード：個体レベルの死、社会的レベルの死、精神的レベルの死、インフォームドコンセント、生命誕生への医学の介入と倫理	尾立　篤子
7・8回	自然・生命・人間	内容：東邦大学の創始者の精神を基に、人間を取り巻く環境における人間の適応および健康について考え、人間の尊厳を考える。 方法：講義（遠隔授業） 予習：高校で学んだ「健康に関して」を整理して臨む。 復習：本時で学んだことのトピックスから1つ選び、5分で説明できる資料を作成する。 キーワード：人間、自然環境、社会環境、人間の尊厳、人間の適応、生命	高松　研
9・10回	日本国民の健康に関する現状と課題（1）	内容： 日本国民の健康状態を捉え、人々の生活と健康に関して検討する。 方法：グループワーク 予習：各グループのテーマに従い話し合いができるように準備して臨む。 復習：グループワークの整理をする。 キーワード：健康の関連要因（経済水準・医療政策・医療の変化など）、健康の概念の変化 飲酒・喫煙・肥満・痩せ・摂食障害・ストレス・セクシャリティー・エイズ・同性愛	尾立　篤子
11・12回	日本国民の健康に関する現状と課題（2）	内容：前回の授業（日本国民の健康に関する現状）を考える中で、個人の健康・家族の健康・組織・地域の健康を整理し、健康の関連要因の検討をする。 方法：先回のグループワークの発表、講義 予習： 自分のグループの発表の準備をする。 復習：他者の意見を自分の考えにインターラクションできるよう、考えてみる。 キーワード：健康の関連要因（経済水準・医療政策・医療の変化など）、健康の概念の変化 飲酒・喫煙・肥満・痩せ・摂食障害・ストレス・セクシャリティー・同性愛	尾立　篤子
13・14回	社会の変遷と健康観の変化、人間の適応	内容：障害を持った生活者が身体的側面・精神（心理）的側面・社会的側面から現代社会の中で、自己の健康を保持するためにどのように適応しながら生活したらよいかを考える 方法：全員での話し合いおよび講義（遠隔授業） 予習：授業全体を振り返り、疑問点を明確にして臨む。復習：課題レポートのテーマ設定をする。 キーワード：疾病回復、障害、QOL、生活支援（看護）、健康観	尾立　篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

自身の体験を通し教員や学生同士で意見交換を図りながら、健康を科学的に捉え、医学・看護専門科目を学修していく基盤の一つを「健康観」として述べられることを目指す。従って、授業には積極的に参加し自分の意見を述べることを望む。

予習・復習に関しては、各回の授業を整理し、次の授業にはその内容を述べることができ、新たなる課題を提言することができるような学習の仕方を期待する。それに費やす時間は各自違うので自分が納得のいくように学習を進めてほしい（個人差はあるが1～2時間程度）。その積み重ねが、自分自身の思慮の深さにつながっていくことを自覚する。

【7】　評価方法・基準

レポート評価80 %， 授業への取り組み姿勢20%（発言回数、リアクションによる内容の理解状況）
レポート評価は、各自「健康観」に関するテーマを自分で設定し論述する。書き方は授業の中で説明する。

【8】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【9】　教科書

必要時、授業の中で、資料を配布する。

【10】　参考書

授業の中で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、基礎専門科目全般、看護学専門科目全般

科目名(日本語)	コミュニケーション論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Communication Theory	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	井手芳美				
担当教員	井手芳美・近藤真樹				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者連絡先 井手芳美メールアドレス： ide-y@gd5.so-net.ne.jp				
オフィスアワー	講義開始１時間前、講義終了後30分は、大学構内の講師控え室。 もしくは、講義休憩中、講義室。				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】 授業概要

健康科学の各分野において、対象理解やチーム医療に貢献するために必要とされる、コミュニケーションの基礎理論、カンファレンスの基礎知識を理解する。また、知識のみでなく、体験を通して相互作用、人間関係、リフレクション、コーチングの構造とスキル、アサーティブネスなど学修する。

【３】 到達目標

1. 保健医療分野、特に看護分野におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。
2. 基本的なコーチングスキルとその効果･可能性を具体的に説明できる。
3. コミュニケーションスキルの一つであるコーチングが看護職間だけでなく、看護の対象や多職種との人間関係構築に有用であることを説明できる。
4. コーチングの構造を念頭に置き、かつ、学んだコーチングスキルを活用して、コーチングセッションを実習の場で実践することをイメージできる。
5. 体験的に習得したコーチングスキルを、日々の生活の中で実践できる。
6. 基本的なコミュニケーションスキルを体験的に学び、臨地実習で積極的に活用するための方法が説明できる。

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	コミュニケーション基礎知識	内容： 担当者紹介、到達目標、授業の進め方、日程 コミュニケーションとは何か コミュニケーションの全体像 コーチングとは何か コーチングの歴史 看護におけるコーチングの効果と活用の理解 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：コーチング・コミュニケーション	井手芳美 近藤真樹
3・4回	コミュニケーション基礎知識、コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： コーチングとティーチングの違い コミュニケーションスキルとは 聴く（アクティブリスニング）とは 非言語的コミュニケーションの効果 フィードバックとは 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：聴く　非言語的コミュニケーション	井手芳美 近藤真樹
5・6回	コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： コーチングの構造とスキルとは コーチング実践(ペア実践) 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する 授業に対する理解度を図るため、講義終了15分前までに小テストを行う。 キーワード：コーチングの構造	井手芳美 近藤真樹
7・8回	コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： 課題の振り返り（レポート課題の提出） 前回の授業で行った小テストおよび課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。 承認とは 承認の種類と効果 効果的な質問とは 質問の種類と効果 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する レポート課題の提示：授業内容に応じてその都度提示 キーワード：承認、質問	井手芳美 近藤真樹
9・10回	コミュニケーションタイプ分け	内容： タイプ分けとは 4つのタイプで自分を知る、相手を知る 4つのタイプの特徴のディスカッション 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：コミュニケーションのタイプ	井手芳美 近藤真樹
11・12回	コミュニケーションスキルとグループコーチング	内容： カンファレンスに活用できるグループコーチング実践（グループ） アサーティブとは リフレクションとは 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する レポート課題の提示：授業内容に応じてその都度提示 授業に対する理解度を図るため、講義終了15分前までに小テストをおこなう。 キーワード：グループコーチング、リフレクション、アサーティブ	近藤真樹 井手芳美
13・14回	コミュニケーション総括	内容： 前回の授業で行った小テストの特徴的な見解や誤解についてコメントする。 本科目の総括 総復習（傾聴、聞く、承認などを意識しての）コーチングセッション（傾聴、承認、質問の、コーチングの構造とスキルの活用など） 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：　コーチングの構造、コーチングセッション、	井手芳美 近藤真樹

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業は、学んだ知識･技術を習得するために毎回予習３０分程度、復習６０分程度を費やす。
事前学習は、必要時に事前課題を提示する。
事後学習は、毎回課題を出し、必ず課題に取り組んでその成果を全体で共有する。

【７】　評価方法・基準

評価課題レポートの提出60%。
および、以下の評価40%。
毎回の小テスト（毎回授業後に講義のポイントを小テストする）、
グループワークにおける貢献（グループワークにおける貢献とは、グループの代表として全体共有の場で発言する回数とする）、
毎回の課題レポートの提出。

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【９】　教科書

資料を授業時に配布する。

【10】　参考書

・伊藤守（2015）『コーチングの教科書』アスペクト
・伊藤守、鈴木善幸（2012）『図解コーチング流タイプ分けを知ってアプローチすると上手くいく』ディスカヴァー
・ジョセフ・オコナー、アンドレ・ラゲス著、杉井要一郎訳（2012）『コーチングのすべて』英治出版

【11】　備考(関連科目等)

心理学、看護入門実習Ⅰ、看護入門実習Ⅱ

科目名(日本語)	**プレゼンテーション論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Presentaion Theory	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	川嶋潤				
担当教員	川嶋潤				
科目責任者 連絡先(教室)	jun.kawashima@sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける　Moodleでの連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

授業資料提供・課題提出・連絡・質問等でMoodleを使用する

【２】　授業概要

医療・福祉・政策の分野に貢献する人材の育成を目指し、個人対個人のやりとりのみでなく、多数に自分の考えや主張などを伝えるためのプレゼンテーションの技法を学修する。また、他者の意見を受けとり、その後自らの視点で問い直したり吟味したりする姿勢を持つなど、クリティークの基本を修得する。

【３】　到達目標

1.自分の主張を論理的に伝えることができる
2.表現の工夫やデータを効果的に活用して、わかりやすい資料を作ることができる
3.人前で発表することに対して、意欲的に取り組むことができる
4.自分や他者のプレゼンテーションを批判的に分析し、改善につなげることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-2	プレゼンテーション概説／テーマの検討	内容：プレゼンテーションの目的・型・取り組み方を学ぶ。テーマの考え方を学び、テーマを選ぶ。 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：ガイダンス動画を視聴しておく（授業開始２週間前にMoodleに公開予定） 復習：授業で学んだことをもとにグループ内でテーマを話し合っておく。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード： 問い、思考法、インタラクティブ（双方向）、リンクマップ	川嶋潤
3-4	アウトライン（構成）の検討／情報・データの活用	内容：アウトライン（構成）の作り方を学ぶ。情報収集や分析について学び、発表に必要な情報を集める。 授業方法：講義・グループワーク 予習：グループで決めたテーマについて、発表に必要と思う情報を考えておく 復習：グループで分担して情報収集を行っておく。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：パラグラフ、情報収集、情報分析、参考文献	川嶋潤
5-6	効果的な表現（スライド作成）	内容：わかりやすいスライドを作るためのポイント（文字・色・図表などの使い方）を学び、スライドを作成する。 授業方法：講義・グループワーク 予習：パワーポイントの操作に習熟しておく（参考になるツールは教員が紹介する） 復習：グループで分担してスライド作成を進める。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：見出し、レイアウト、デザイン、演出	川嶋潤
7-8	発表準備・リハーサル	内容：効果的な話し方と批評・質問の仕方を学ぶ。発表原稿をまとめて、リハーサルを行う。 授業方法：講義・グループワーク 予習：スライド作成を進めるとともに、意見を出し合ってブラッシュアップする 復習：発表原稿の推敲とリハーサルを行う。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：シナリオ、発声法、スピードと間、質疑応答	川嶋潤
9-10	プレゼンテーション実施(1)	内容：グループごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：自分のグループの発表について振り返りを行う。各グループのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想を課題にまとめる。 キーワード：説得力、第一印象、共感、チームワーク、相互批評	川嶋潤
11-12	プレゼンテーション実施(2)	内容：グループごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：自分のグループの発表について振り返りを行う。各グループのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想を課題にまとめる。 キーワード：説得力、第一印象、共感、チームワーク、相互批評	川嶋潤
13-14	プレゼンテーション実施(3)	内容：グループごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：自分のグループの発表について振り返りを行う。各グループのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想を課題にまとめる。 キーワード：説得力、第一印象、共感、チームワーク、相互批評	川嶋潤

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業は、成果としてグループ別にプレゼンテーションを行うため、事前・事後学習はおもにその準備と振り返りに充てる。毎回、準備に２時間程度、振り返りに１時間程度を要する。
・授業計画に示すスケジュールに従い、事前・事後に準備を進めておく
・授業後に、作業の進行状況や振り返りをワークシートに記録する（1～8回）
・自分のグループのプレゼンテーションについて振り返りを行う。各グループに対するフィードバックや感想を課題にまとめる（9～14回）
特に準備では、グループのメンバーで協力して行うこと。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーションおよび課題・ワークシートにて評価する
・要旨がわかりやすく伝わっていたか：20%
・聞きやすい発表（話し方）ができたか：20%
・スライドの表現やデータの活用に工夫が見られたか：10%
・授業で課す課題やワークシートによる評価：50%

【８】　フィードバック方法

・プレゼンテーション：発表後に講評を行う。
・課題・ワークシート：次回の授業で必要に応じてアドバイス・フォローする。
・グループワーク：必要に応じてアドバイス・フォローする。

【９】　教科書

特になし。資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

研究方法の基礎、看護研究入門、看護研究、文章表現入門

科目名(日本語)	**人間と生命**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Human life and human diversity	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	朝倉暁生				
担当教員	朝倉暁生、金子真隆、千葉康樹、成末憲治、小板橋恵美子、髙橋良幸				
科目責任者 連絡先(教室)	健康科学部　健康科学部健康科学部棟3階研究室5（K315）				
オフィスアワー	健康科学部　水 13:00～13：40				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【2】　授業概要

東邦大学では建学の精神である「自然・生命・人間」に則り、自他の生命（いのち）を尊重し、それを行動に移すことができる人になることが求められる。これからは自分たちが積極的にケアを与える側に回っていくことを認識し、自分にその能力があることを理解・検討することを目的としている。
この授業は2日間終日の集中授業として行う（9月8日、9日）。1日目は教室でのグループディスカッションを通して、「多様性ある社会」のあり方について考えを深める。また、「車いす体験」「アイマスク（視覚障がい）体験」「高齢者疑似体験」などの演習を行う。
2日目は「救命講習」を受け、全体の振り返りを行う。

【3】　到達目標

1）自他の存在を尊重することについて、より深く多角的に考察し、その意味や方法を述べることができる。
2）「生命」や「多様性ある社会」について考えを深め、自他の命を尊重した行動をとることができる。
3）障がいのある人や高齢者について理解を深め、これらの人々と出会ったときにその支援ニーズをくみ取り、必要であれば（または要請された場合には）自分ができることを見極め、行動することができる。
4）救命の基本的な知識およびスキルを習得し、必要であれば（または要請された場合には）自分ができることを見極め、行動することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション・グループ作業のための準備	2日間の授業のオリエンテーションを行う。またグループ作業を進めていくためのグループ作りを行う。 【予習】コミュニケーション論の授業を振り返り、円滑なコミュニケーションのあり方を考えてくる。 【復習】特に無し 【キーワード】アイスブレイク	全員
2・3	多様性ある社会	「多様性ある社会」について考察を深め、多様性ある社会を構築していくために自分たちができることをグループディスカッションを通して明らかにしていく。 【予習】「多様性」について考えてくる。 【復習】ディスカッションを通しての気づきや考えをまとめておく。 【キーワード】多様性、社会、共生	全員
4・5・6	ハンディキャップの理解	車いす使用者や視覚障がい者、高齢者に関する基本的な知識および支援に必要な視点や技術を学び、車いす体験、アイマスク（視覚障がい）体験、高齢者疑似体験を通して理解を深める。また、これらの人々のニーズを考察するとともに、自分のできることを明らかにしていく。 【予習】特に無し。 【復習】体験や講義を通して得た気づきをまとめておく。 【キーワード】下肢障害、歩行障害（移動障害）、車いす、視覚障がい、高齢者、加齢現象	全員
7	1日目のまとめ	1日目の学びを共有する。 【予習】特に無し。 【復習】1日の体験を振り返り、自己洞察を行い、2日目の授業に臨む姿勢や目標を立てる。	全員
8	2日目の学びの設定	1日目の学びについて振り返り、教員からのフィードバックを受け、2日目の目標を設定する。 【予習】1日目の体験を各自で振り返り、2日目の授業の目標を立ててくる。 【復習】特に無し。	全員
9・10・11・1	救命救急講習（演習）	救命救急に関する知識および技術を獲得し、命を守る上での姿勢を身に付ける。本授業内では救命救急講習を受講し、検定を受けるため、それにふさわしい服装・態度で臨むことを求める。 【予習】特に無し。 【復習】救命救急講習での気づきをまとめておく。 【キーワード】救命、救急、応急手当、AED、蘇生	全員
13	人間と生命	「人間と生命」をテーマにグループディスカッションを行い、自他の存在や自他の命を尊重することについての考察を深める。 【予習】これまでの授業の内容と、そこで得た気づきを整理してくる。 【復習】ディスカッションでの気づきをまとめておく。 【キーワード】自他、尊重	全員
14	まとめ	2日間の学びを振り返り、教員からのフィードバックを受ける。その上で、これから自分が支援者の一人として、また同じ人として、社会において何をどう行動するかについて自己洞察を深める。また、2日間の体験を第三者に伝えるための準備を行う。 【予習】特に無し。 【復習】2日間の体験をまとめる。 【キーワード】人間、生命、多様性、社会、命、健康、共生	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

事前・事後学習は3学部共通になる。
事前学習：本科目を受講するための準備として、課題（資料学習）を提示するので、取り組むこと。概ね2時間の予習時間を必要とする。
事後学習：本科目で学んだことについて、第三者（家族や友人など）に披露し、そのやりとりを盛り込んでレポートする（最終レポートとなる）。5時間程度の時間を想定している。

【7】　評価方法・基準

2日間の授業の取り組み状況70%（発言内容、ディスカッションや協働学習、演習への参加度合い）、最終レポート30%

【8】　フィードバック方法

グループ活動に関しては、その都度担当教員よりフィードバックを行う。2日目の授業開始時には1日目を振り返ってのフィードバック、授業終了時には全体活動に関してのフィードバックを行う。

【9】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しないが、障害のある人や高齢者が著した文献（体験記など）や記事などに積極的に触れて欲しい。なお、必要となる教材は授業内で配布する。

【11】　備考(関連科目等)

授業の内容上、習志野キャンパス全体での履修人数の上限が決められている。そのため、希望者全員が履修できないこともある。
対面授業を原則とするが、新型コロナ感染症の拡大状況によってはオンラインでの開講となる可能性がある。
関連科目：コミュニケーション論、健康科学概論。また語学も多様性を理解するのに役立つ。

科目名(日本語)	**千葉県の地域医療**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Local Industory in Chiba	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	佐瀬真粧美・小板橋恵美子・島村敦子				
科目責任者 連絡先(教室)	emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日の授業終了後より概ね1時間。K320研究室。 このほか、メール（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、Moodleのお知らせ機能で受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用。

【２】　授業概要

本学部が設置されている千葉県の地理や歴史、保健医療福祉に関する社会資源の実情について学び、人々のニーズに応える地域貢献や地域の医療について見識を深める。千葉県の実情を題材とし、地域医療のあり方およびそれを支える看護のあり方について考える契機とする。
なお、本科目は地域看護診断をはじめとする保健師課程での学修につながる科目であり、保健師養成教育課程での学習を希望する場合には履修してほしい。

【３】　到達目標

1) 我が国および千葉県の保健・医療・福祉の実情を述べることができる。
2) 千葉県で暮らしている人々の健康推進に関する施策・サービスについて述べることができる。
3) 千葉県の保健・医療・福祉に関する情報から、人々の幸福を支援することについて考察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション／人々の健康・生活①	講義・自己紹介（教員・学生）・討議 学生間の自己紹介を兼ね、健康や千葉県の印象を発表し合う、我が国において健康・生活を支えるものについて、また幸福についてペア討議する。 キーワード：健康、疾病、障がい、生活、幸福	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
2	人々の健康・生活②	1時限目の討議のまとめ・講義 統計情報からみる我が国の健康状況を把握する。 親子の健康に関する指標とその動向を把握する（講師：林ひろみ教授）。 事後学習：千葉県の健康状況を調べる。 キーワード：人口動態・人口静態・患者統計・社会保障費・医療従事者の状況、我が国の健康を巡るトピックス、周産期医療、乳児医療、乳幼児医療費助成制度（自治体による）	小板橋恵美子
3	医療を受ける・医療機関で看護を受ける	講義 我が国における医療や看護サービスに関する基礎知識を学び、医療や看護の提供体制およびその実情を把握する。 事前学習：我が国の医療体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で医療を受ける上での課題を考察する。 キーワード：医療機関・医療サービス、医療保険制度、医療計画、医療圏、	佐瀬真粧美
4	介護を受ける・在宅で看護を受ける	講義 我が国における介護や訪問看護に関する基礎知識を学び、在宅での療養支援体制およびその実情を把握する。 事前学習：我が国の介護サービス提供体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で在宅療養をする上での課題を考察する キーワード：介護保険サービス、介護保険法、地域包括ケアシステム、介護保険施設、訪問看護ステーション	島村敦子
5	保健・福祉サービスを受ける	講義 我が国における保健･福祉に関する基礎知識を学び、保健･福祉サービスの提供体制およびその実情を把握する。 事前学習：我が国の保健サービスの提供体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で健康的な生活を送る上での課題について考察する。 キーワード：生活を支える保健・福祉サービス、地域保健法、保健所、市町村、社会福祉協議会	小板橋恵美子
6	千葉県の医療・保健・福祉①	グループワーク①　グループメンバー・テーマの決定、調査スケジュールの検討 この回からのグループワークでは、千葉県の保健・医療・福祉に関する現状を調査し、千葉県で幸せな生活を送ることに関して検討する。 ・グループワークのメンバーを決定し、今後授業の目標達成に向けてチームワークを発揮できるよう、各グループで何らかのワークやアクティビティを考え実施する。 ・調査に当たっては各グループでテーマを設定する。 ・この回を入れて5回のグループワークにおける調査・検討のスケジューリングを行い、効率的効果的なワークができるようにする。 ・調査に関しては、千葉県全域を対象としても、千葉県内であれば特定の地域を対象にしても可とする。 キーワード：地域医療、保健サービス、福祉サービス、各種社会資源、健康指標、健康に関する自治体の施策や計画	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
7～10	千葉県の医療・保健・福祉②③④⑤	グループワーク②～⑤ グループワーク①において決定したテーマおよび調査のスケジュールに沿ってワークを進める。なお、中間で把握された情報や進捗状況等に関する報告を行う。 キーワード：グループワーク①と同様。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
11	発表・討議①	発表の準備 発表方法の決定、発表に使用する媒体の作成、リハーサルを行う。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
12・13	発表・討議②③	発表・ディスカッション①② 各グループによる「千葉県の医療･保健･福祉」に関する調査結果および千葉県で幸せな生活を送ることに関する検討結果の発表および発表内容に関する質疑応答を行い、見識や考察を深める。 ※全体ディスカッションのテーマを念頭に置きながら、発表を聞き、ディスカッションに参加してください。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
14	まとめ	全体ディスカッション テーマ：千葉県で生まれ、育ち、最期を幸せに生きていくことを支援するにはこれから何が必要か 事後課題（課題レポート）：全体ディスカッションの結果および授業全体を振り返り、①健康・生活を支えるものについて、また②幸福とは何かを述べるとともに、③千葉県の地域医療の課題について考察する。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前学習】
授業でのワークやディスカッションに必要な知識･情報を収集し、考えをまとめた上で授業に参加する。1時間以上の事前学習が必要となる。
【事後学修】
授業での学修やワークの考察や課題の整理を行う。１時間程度の学習が必要になる。

【７】　評価方法・基準

評価：小テスト15%、発表25%、課題レポート60%

【８】　フィードバック方法

フィードバックは授業時、またMoodleのフィードバックや質問コーナーで行う。

【９】　教科書

なし。適宜資料配布。

【10】　参考書

国民衛生の動向（最新版）、このほか講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

・情報収集や分析を行う授業の日は、ノートPC、タブレット端末などを用意してください。また、メディアセンターでのPCの一時貸し出しを利用してくださっても可です。なお、PCのスキルは必要ありません。
・関連科目：コミュニケーション論、プレゼンテーション論、看護入門実習Ⅰ、コミュニティヘルス看護概論、保健師養成教育課程科目など
・授業の進捗により内容を変更することがあります。適宜案内します。

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	湯田秀行				
担当教員	湯田秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	mail: yuda@sci.toho-u.ac.jp（理学部Ｖ号館5508研究室）				
オフィスアワー	木曜日　13時～15時（理学部Ｖ号館5508研究室）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探求する学問である。人間の健康を維持･増進するためのスポーツのあり方、健康とスポーツに関わる基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などを学ぶ。さらに、身近な運動を人体の構造や生理学的観点から分析し、日常生活における運動について考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学を学習する上での基礎となる科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.スポーツの意味や価値について説明できる。
2.スポーツマンシップについて説明できる。
3.運動と健康との関連性について説明できる。
4.適度な運動について、心拍数を用いて説明できる。
5.運動をすることの必要性について、具体例を3つ以上説明できる。
6.身体が動くメカニズムについて具体的な専門用語を用いて説明できる。
7.適度な運動について具体的な数字や専門用語を用いて説明できる。
8.人間が生活する上で必要な栄養について具体的な数字や専門用語を用いて説明できる。
9.健康の維持・増進に関わる運動の重要性を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	オリエンテーション、スポーツ健康科学の理論(1)	授業のオリエンテーション・スポーツ健康科学とは・スポーツ、スポーツマンシップの概念、スポーツと健康、運動と健康との関係等について理解する。 講義 予習：スポーツと健康についての文献に目を通す。 復習： 授業内容の書かれたシラバスに目を通し、講義に対する見通しを明確にする。 キーワード：スポーツ、スポーツマンシップ、健康	湯田秀行
3・4回	スポーツ健康科学の理論(2)	スポーツと体育との関係性・スポーツの持つ意味や価値について考察 講義 予習：スポーツと運動、スポーツと体育の違いについて 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：スポーツ、運動、体育	湯田秀行
5・6回	運動の科学(1)	身体が動くメカニズムを分析ー 学習用VTR・講義 予習：身体を動かすには何が必要なのかを調べておく。 復習：本時間において出された課題（プリント）を仕上げる。 キーワード：筋肉・筋収縮・機序	湯田秀行
7・8回	運動の科学(2)	適度な運動とは何か・運動の強度を示す具体的な指標の活用・効果的なトレーニングの方法 講義 予習：運動処方とは何かを事前に調べておく。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：運動処方、運動強度、心拍数、酸素摂摂取量、RMR、METS、トレーニング運動が身体に与える影響を考察	湯田秀行
9・10回	健康の科学(1)	スポーツと薬物の社会学 講義 予習：ドーピングについて事前に文献調査をする。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：ドーピング、薬物、身体と精神への影響	湯田秀行
11・12回	健康の科学(2)	靴が人間の健康や姿勢に果たす役割を考察 講義 予習：事前に配布する靴に対するアンケートに答える。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：靴、姿勢、健康、運動、環境破壊	湯田秀行
13・14回	健康の科学 (3)	スポーツ栄養学とは・健康な身体を作るための食事・今後の食生活の改善・健康の維持･増進と、運動の重要性 講義 予習：人間に必要とされる栄養素とは？ 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：健康な身体、運動、休息、栄養、身体によい食べ物、エンザイム	湯田秀行

【6】　事前・事後学習とその時間

準備学習：
授業のテーマに沿ってスポーツや健康についての文献や書物などを事前に調べておく。（予習120分）
授業で学んだことをノートにまとめ記憶を定着させる。その際、自分で実際に書く作業をするようにしてください。
（復習60分）

【7】　評価方法・基準

・1．課題レポート　・発言回数30%
・2．小テスト20%
・3．定期テスト50%

【8】　フィードバック方法

授業中のレポート課題、小テスト：結果を返却しコメントする。
次回の授業で課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【9】　教科書

毎時間、作成したパワーポイント教材を使用する。
資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

「スポーツマンシップを考える」、「スポーツマンシップ立国論」　広瀬一郎　小学館
筋肉の構造・役割と筋出力のメカニズム　湯浅景元　山海堂
運動生理学20講　勝田　茂　朝倉書店
ドーピングの哲学　ジャンノエルミサ　新潮社

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学実技、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：テニス**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	江川潤				
担当教員	江川潤				
科目責任者 連絡先(教室)	担当授業内にて、連絡方法を掲示する				
オフィスアワー	火曜日　12：00～12：45　スポーツアリーナ教員室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

授業当初においては、テニスの基礎的な動き、グランドストロークを身に付け、種目のルールを覚えられるようにする。その後、身に付けたグランドストロークを活かしてラリーが出来ることを目指したい。終盤にかけては、身に付けたルールを用いて学生が主体となりチーム戦を運営が出来るようにする。
1.テニスのルールを説明することができる。
2.基本的技術（フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレーなど）を身につけることができる。
3.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
4.他学部・他学科の学生間で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
5.自分のプレーを振り返り、課題点や克服できた点を説明できる。
6.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2回	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤
3･4回	テニス　実技1	内容：テニスの歴史やルールの理解・用具（ラケット、ガット）の解説・試しのゲーム 実技：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：テニスのルールや基本的なストロークの打ち方を文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策	江川潤
5･6回	テニス　実技2	実技内容：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：基本ストロークの打ち方	江川潤
7･8回	テニス　実技3	実技実技：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：基本ストロークの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
9･10回	テニス　実技4	実技内容：サービスの打ち方とルールを理解しゲームに生かす。 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：サーブの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
11･12回	テニス　実技5	実技内容：サービスの打ち方とルールを理解しシングルスに生かす。 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：サーブの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
13･14回	テニス　実技6	実技内容：基礎練習（フォア、バック）、ボレー、基礎練習を生かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー	江川潤
15･16回	テニス　実技7	実技内容：基礎練習（フォア、バック）、ボレー、基礎練習を生かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー	江川潤
17･18回	テニス　実技8	実技内容：ボレー(ポーチ)、ハイボレー、ローボレー基礎練習を活かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー（ポーチ）	江川潤
19･20回	テニス　実技9	実技内容：基礎練習・スマッシュ・シングルスゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スマッシュ	江川潤
21･22回	テニス　実技10	実技内容：リーグ戦その１（チーム戦）1チーム4人　4チーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川潤
23･24回	テニス　実技11	実技内容：リーグ戦その２（チーム戦）1チーム4人　4チーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川潤
25･26回	テニス　実技12	実技内容：リーグ戦ファイナルその１（学生の自主運営） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川潤

27	まとめ	実技：リーグ戦ファイナルその１（学生の自主運営） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川潤

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：この授業は、予習としてテニスのルールや基本的なストローク、また試合におけるフォーメーションや戦術について文献や映像を見て理解やイメージを持つことに0.5時間程度、また、復習としてその時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る作業に0.5時間程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的、臨む姿勢など)60%、テニスにおける身体的表現（技術）20%、技術の理解度および理解しようとする積極性、協力して授業を進める協調性など10%、到達目標に対する理解度を評価するための課題レポート10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の授業開始時において、前回までの動きの振り返りと改善点、授業目的に対しての講評及び掲示をおこなう。

【９】　教科書

資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

テニス指導教本Ⅰ　日本テニス協会　大修館
JTA TENNIS RULE BOOK 2016

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：卓球**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	中沢克江				
担当教員	中沢克江				
科目責任者 連絡先(教室)	中沢克江　katsue-n@phar.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	火曜日　14:30～14:50　16:50～17:10　スポーツアリーナ教員室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを活用

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.卓球の特性を説明できる。
2.卓球の基本技術(フォアストローク、バックストローク、サービス)を習得する。
3.卓球のルールやマナーを説明できる。
4.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
5.他学部・他学科の学生間で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
6.自分のプレーを振り返り、課題点や克服できた点を説明できる。
7.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤
3・4回	基本技術練習	用具の解説、基本技術練習、ルールの理解、ゲーム 実技 予習：自分の受講する種目のルールを文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策	中沢克江
5・6回	基本技術練習　　ゲーム：シングルス	基本技術練習、基本技術を活かしたゲーム 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール、審判	中沢克江
7・8回	基本技術練習　　ゲーム：シングルス	基本技術練習、基本技術を活かしたゲーム 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール、審判	中沢克江
9・10回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
11・12回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
13・14回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
15・16回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
17・18回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
19・20回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
21・22回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
23・24回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江

25・26回	基本技術練習　　応用技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
27回	まとめ	教室にて「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	中沢克江

【６】　事前・事後学習とその時間

卓球のマナーとルールをある程度理解しておくこと。(予習60分)
その時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。(復習60分)
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理)
：服装＝ウェア、室内専用シューズを用意
：髪の長い人は必ず束ねること

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：10%、課題レポート：10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業開始時に前回の授業内容の確認を行い、プレーの改善点、目的に関する提示を行う。
授業終了時には、その回についての講評を行う。

【９】　教科書

資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

文献は必要に応じて授業時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：ＳＣ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	澁川賢一				
担当教員	澁川賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	月曜日　16時30分～17時30分　理学部Ｖ号館5507研究室				
オフィスアワー	月曜日　16時30分～17時30分　理学部Ｖ号館5507研究室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.ストレッチングやセルフマッサージの理論的背景を理解し、適切な手法で実施をすることができる。
2.健康づくりの運動を行う際に、自分自身の健康状態や運動習慣に合わせた適切な運動負荷を設定できる。
3.筋力トレーニングや様々な運動手法を、安全面への配慮とともに実施することができる。
4.健康づくりに用いられる様々な機器やソフトウェアについての知識を得ることで、自分自身の健康づくりに必要な情報を選択することができる。
5.健康づくりに必要な「運動、栄養、休養」の３要素のバランスを理解し、健康的なライフスタイルを考案することができる。
6.スポーツを通じた仲間づくりや、運動による爽快感などを体感することで、生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心の高まりを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1,2	ガイダンス	講義：種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う（実技は行わない） 予習：自分の受講したい種目を決定する 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪
3,4	体力測定① ストレッチング	実技：体力測定：柔軟性や身体組成、筋力を測定する 予習：体力の分類を調査し、体力測定項目の理解を深めておく（30分） 復習：測定結果と自らの生活習慣を振り返り課題を明確にしていく（30分） キーワード：体力測定	澁川賢一
5,6	体力測定② ストレッチング	実技：FMS（Functional Movement Screen）テスト 予習：体力の分類の理解と柔軟性についての理解を深めておく（30分） 復習：身体表現の様々な評価方法を振り返る（30分） キーワード：運動習慣、運動学習、筋肉の柔軟性	澁川賢一
7,8	バランスコンディショニング①ストレッチング	実技：バランスボールを用いたコンディショニングの実践 予習：体のバランスについての理解を深めておく（30分） 復習：日常生活動作における体のバランスを振り返る（（30分） キーワード：バランス、左右差、安定と不安定	澁川賢一
9,10	バランスコンディショニング②ストレッチング	実技：ストレッチポールを用いたコンディショニングの実践 予習：体のバランスについての理解を深めておく（30分） 復習：日常生活動作における体のバランスを振り返る（30分） キーワード：バランス、左右差、安定と不安定	澁川賢一
11,12	セルフリラクゼーション①	実技：テニスボールやストレッチポールを用いたリラクゼーション 予習：日常の生活習慣での体の使い方を振り返る（30分） 復習：日常生活でのリラクゼーションの実践（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸	澁川賢一
13,14	セルフリラクゼーション②	実技：テニスボールやストレッチポールを用いたリラクゼーション 予習：日常の生活習慣での体の使い方を振り返る（30分） 復習：日常生活でのリラクゼーションの実践（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸	澁川賢一
15,16	体幹トレーニング①	実技：自分の体重を用いたエクササイズの実践 予習：器具を用いないエクササイズの理解を深めておく　（30分） 復習：日常生活の中でのエクササイズの実践（30分） キーワード：体幹、バランス、	澁川賢一
17,18	体幹トレーニング②	実技：自分の体重を用いたエクササイズの実践 予習：器具を用いないエクササイズの理解を深めておく　（30分） 復習：日常生活の中でのエクササイズの実践（30分） キーワード：体幹、バランス、	澁川賢一
19,20	マシンエクササイズ	実技：トレーニングマシンを用いたサーキットトレーニングの実践 予習：筋肉の収縮様式の理解を深めておく（30分） 復習：マシントレーニング後の体の反応を評価する（30分） キーワード：マシントレーニング、運動負荷、超回復	澁川賢一
21,22	エアロビックエクササイズ①（有酸素運動）	実技：ダンスやランニングなどの有酸素運動を実践し、身体活動量を計測する 予習：安静時心拍数と最高心拍数の理解を深めておく　（30分） 復習：安静時や運動後などの日常生活における心拍数の活用（30分） キーワード：身体活動量、有酸素運動	澁川賢一
23,24	エアロビックエクササイズ②（有酸素運動）	実技：ダンスやランニングなどの有酸素運動を実践し、身体活動量を計測する 予習：安静時心拍数と最高心拍数の理解を深めておく　（30分） 復習：安静時や運動後などの日常生活における心拍数の活用（30分） キーワード：身体活動量、有酸素運動	澁川賢一
25,26	セルフリラクゼーション③	実技：ヨガまたはピラティスを通じて、体と心のつながりを体感する 予習：ここまでの授業を振り返り、自分の体の特徴を理解しておく（30分） 復習：日常生活でのコンディショニングへの活用（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸、自律神経	澁川賢一
27	まとめ	教室にて「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤

【6】　事前・事後学習とその時間

準備学習：起床時の心拍数など自分自身の体調を主観的・客観的に評価する（予習）
　　授業で体験し獲得した技術を日常生活で実践し評価をする（復習）
この授業は、毎回の予習に30分、復習に30分程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準
授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に評価する。
フィードバック方法：本授業の最終回において、全体の講評を行う。

【８】　フィードバック方法
授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に評価する。
フィードバック方法：本授業の最終回において、全体の講評を行う。

【９】　教科書
資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書
文献は必要に応じて授業時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：バドミントン**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1学年	1単位 30時間
科目責任者	湯田秀行				
担当教員	湯田秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	mail: yuda@sci.toho-u.ac.jp（理学部Ｖ号館5508研究室）				
オフィスアワー	木曜日　13時～15時（理学部Ｖ号館5508研究室）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

・バドミントンのルールを理解し、シングルスやダブルスの審判ができる。
・バドミントンの基礎技術を習得し、状況に合わせた技術発揮ができる。
・ダブルスにおいてパートナーとの連携をとることにより、多くの仲間と親睦を深めることができる。
・技術の習得や試合において、仲間と協力しあい励まし合いながら取り組むことで、思いやりや協調性を身につけることができる。
・スポーツを通じた仲間づくりや、運動による爽快感などを体感することで、生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。
・スポーツ競技に派生する、勝つ体験と負ける体験の中で起こる、喜怒哀楽の感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	ガイダンス・バドミントン：ルールの理解および基礎技術の習得その①	履修登録や実技授業における注意点説明、新型コロナウイルスの感染予防について 使用する施設や用具の理解（設営方法の習得） バドミントンのルールを理解する。その1. バドミントンの基礎技術（ラケットの持ち方、フォアハンド、バックハンド、サービス）、ステップワーク 試しのゲーム（ハーフコートシングルス） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
3・4回	バドミントン：ルールの理解その②および基礎技術の習得その②	バドミントンのルールを理解する。その2. バドミントンの基礎技術（クリア、ドライブ、ヘアピン、サービス）、ステップワーク ハーフコートシングルスゲーム 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
5・6回	バドミントン：基礎技術の習得その③	バドミントンの基礎技術（ヘアピン、クリア、ドライブ、ドロップ、ロブ、サービス） ハーフコートシングルスゲーム 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
7・8回	バドミントン：フットワークおよび基礎技術の習得その④	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、クリア、ドライブ、ドロップ、ロブ、ヘアピン、サービス） 前後・左右のフットワーク、ハーフコートシングルスゲーム 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
9・10回	バドミントン：フットワークその②および基礎技術の習得その⑤	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ） 前後のステップワーク、ラウンド、ハーフコートシングルスゲーム 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
11・12回	バドミントン：基礎技術の習得その⑥およびシングルスゲーム	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ、ドロップ） シングルスゲーム（基礎技術の確認と実践） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
13・14回	バドミントン：基礎技術の習得その⑦およびシングルスゲーム	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ） シングルスゲーム（基礎技術の確認と実践） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
15・16回	バドミントン：課題練習およびシングルスゲーム	各個人の技術的課題を抽出し、課題練習を立案し、実践する。 シングルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
17・18回	バドミントン：課題練習その②およびシングルスゲーム	課題練習 シングルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
19・20回	バドミントン：ダブルスのルールと戦術の理解およびダブルスゲーム	ダブルスゲームのルールと役割の理解 ダブルスゲームにおけるフォーメーションと戦術的理解 課題練習の立案とその実践。 ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
21・22回	バドミントン：チーム戦その①	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その1. 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
23・24回	バドミントン：チーム戦その②	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その2. 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
25・26回	バドミントン：チーム戦その③	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その3. 課題レポート：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出）	湯田
27回	課題レポートの作成と授業評価アンケートの実施	教室にて「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田

【６】　事前・事後学習とその時間

各回の授業の実技テーマに関して調査をしておくこと。また、授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
授業後は毎回Moodleにてレポートを作成します。準備学習時間は授業ごとに90分とする。
新型コロナウイルス感染予防のため、授業前の検温や体調調査を各自が行うこと。実技授業中は大声を出したりしない事、参加者同士の3密を避ける事、手洗いや消毒をこまめに行う事など、感染予防策を徹底してください。授業中はマスクを保持（着用）してください。
スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：10%、課題レポート10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の授業前、授業中また終了後に個別そして全体に対する技術や戦術的理解などに対するフィードバックを行う。

【９】　教科書

特定の教科書は使用しませんが必要に応じて動画を見たり、参考資料を配布することにより技術的、戦術的理解を深めます。

【10】　参考書

参考図書として、以下を推薦します。
「基本が身につくバドミントン練習メニュー200」　桝田圭太監修　池田書店

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	スポーツ健康科学実技：ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ(今年度開講せず)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	湯田秀行				
担当教員	江川　潤				
科目責任者 連絡先(教室)	火曜日12:00～12:45　理学部Ｖ号館5階　非常勤講師室。				
オフィスアワー	火曜日12:00～12:45　理学部Ｖ号館5階　非常勤講師室。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
授業の前半部分は、ストレッチングやバランスボールによるリラクゼーションエクササイズを中心に行なう。また、授業の後半部分では筋力トレーニングやランニングなどの運動エクササイズを、心拍計や身体活動量計などの機器による客観的なデータを用いながら体験していく。健康を維持増進していくための運動負荷や日常的コンディショニングの工夫を、自らのライフスタイルに合わせて取り組めるような実践的な内容を行う。

【３】　到達目標

1.バスケットボールのルールを説明することができる。
2.基礎的技術（ボールハンドリング、各種ドリブル、状況に応じたパス＆ラン、レイアップシュート、セットシュート）を身につけることができる。
3.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
4.他学部・他学科の学生間で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
5.自分のプレーを振り返り、課題点や克服できた点を説明できる。
6.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について説明できる。
（看護学科ＤＰ　２，３，５）

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	講義：種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う（実技は行わない） 予習：自分の受講したい種目を決定する 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪
2	バスケットボール 基礎トレーニング(1)	実技：①ボールハンドリング（膝下、腰、首回りのロール） ②ドリブル（フロントチェンジ、スタターステップ、バックチェンジ、ロールターン、レッグスルーなど） 予習：バスケットボールのルールやハンドリングを文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策、ハンドリング、各種ドリブルワーク	江川　潤
3	バスケットボール 基礎トレーニング(2)	実技：①前回の復習②パス（チェストパス、バウンズパス、アンダーパス、ワンハンドパスなど）③シュート（レイアップシュート、バックシュート、ボスハンドシュート、ワンハンドシュート） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：各種ドリブルワーク及びパスワーク	江川　潤
4	バスケットボール 基礎トレーニング(3)	実技：①前回の復習②パス＆ラン：バリエーショントレーニング（トライアングルパス、スクエアパス、ラグビーパス）③オフェンスの動き：2メン、3メン 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：パスワーク及び各種パスワークからの応用	江川　潤
5	バスケットボール 応用した動き(1)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②スクリーンプレイ(Pick&Roll、2対2、3対3）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：応用パスワークとランなどの動き、スクリーンプレイ	江川　潤
6	バスケットボール 応用した動き(2)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②スクリーンプレイ（前回の動き、バックドア、スクリーンアウェイ）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スクリーンプレイ	江川　潤
7	バスケットボール チームトレーニング(1)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②フォーメーション③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スクリーンプレイを活かしたオフェンス	江川　潤
8	バスケットボール チームトレーニング(2)	実技：①前回の復習 ディフェンスの動き②マンツーマンディフェンス及びゾーンディフェンス（２－３、３－２など）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ディフェンスの理解	江川　潤
9	バスケットボール チームトレーニング(3)	実技：①前回の復習 ディフェンスの動き②スクリーンプレイに対応したディフェンス（ファイトオーバー、スイッチ）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。	江川　潤
10	バスケットボール チームトレーニング(4)	実技：①前回の復習 ②オールコート５対５、チーム編成 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ゲームの理解	江川　潤
11	バスケットボール リーグ戦(1)	実技：ゲーム（リーグ戦-1） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川　潤
12	バスケットボール リーグ戦(2)	実技：ゲーム（リーグ戦-２） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川　潤

13	バスケットボール リーグ戦(3)	実技：ゲーム（リーグ戦　ファイナル-１） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川　潤
14	バスケットボール リーグ戦(4)	実技：ゲーム（リーグ戦　ファイナル-2） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川　潤
15	まとめ	教室にて「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：この授業は、予習としてバスケットボールのルールや基本的な動き、ハンドリングまた試合におけるオフェンスの戦術、またディフェンス（マンツーマンDF、ゾーンDF）について文献や映像を見て理解やイメージを持つことに0.5時間程度、また、復習としてその時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る作業に0.5時間程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に総合的に評価する。
毎回の授業開始時において前回までのプレーの改善点や目的に関する講評や提示を行う。

【８】　フィードバック方法

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に総合的に評価する。
毎回の授業開始時において前回までのプレーの改善点や目的に関する講評や提示を行う。

【９】　教科書

授業に必要な際は、こちらで準備します。

【10】　参考書

授業に必要な際は、こちらで準備します。

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	スポーツ健康科学実技：ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞ（今年度開講せず）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	澁川賢一				
担当教員	澁川　賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部　スポーツ・健康科学教室 初回授業時に連絡方法をお伝えします。				
オフィスアワー	月曜日16：30～17：30 理学部Ｖ号館5507研究室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

スポーツクライミングを通して，自分の身体の機能や動き等を学びながら，自らの心身と向き合い，仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
１．クライミングの基本技術について理解し説明できる。
２．ルートを正確に読むことができる。
３．ボルダリングの課題を作ることができる。
４．傷害を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回, 2回	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤
3回、4回	クライミング 安全対策	クライミングの安全対策，服装，用具の解説 予習：スポーツクライミングの種目やルールについて理解しておく 復習：ルールなどについて振り返る キーワード：体力測定	澁川賢一
5回、6回	クライミング 体力測定	実技：クライミングに必要な体力を測定する 予習：スポーツクライミングの種目やルールについて理解しておく 復習：測定の結果から自分の弱点などを確認する キーワード：体力測定 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
7回、8回	技術；足の置き方（フットワーク）	実技：フットワークを意識しながらルートを登る 予習：足技について予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：フットワーク ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
9回、10回	技術；ホールドの持ち方	実技：様々な形のホールドを使ってルートを登る 予習：ホールドの持ち方について予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ホールド、持ち方 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
11回、12回	技術；身体の動かし方（ムーブ）	実技：ルートを登る中で身体の動かし方を学ぶ 予習：ムーブについて予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：身体の動かし方、ムーブ ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
13回、14回	戦術；ルートを読む（オブザベーションの重要性）	実技：ルートを読む力をつけ、クライミングに生かす。 予習：様々なルートを登る様子を予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：オブザベーション ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
15回、16回	応用；自分で課題を作ってみる1	実技：登るルートを作成する 予習：様々なルートを登る様子を予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ルート作成 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
17回、18回	応用；自分で課題を作ってみる2	実技：登るルートを作成する 予習：前週の反省点が生かせるよう予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ルート作成 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
19回、20回	応用；自分で課題を作ってみる3	実技：登るルートを作成する 予習：前週の反省点が生かせるよう予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ルート作成 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
21回、22回	理論；クライミングのケガ・コンディショニング ＆　実技：ルート課題発表	実技：クライミングのコンディショニングを学び、実際に行ってみる 　　各自で作成したルートを発表し、学生同士で挑戦する 予習：コンディショニングについて予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：コンディショニング ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
23回、24回	競技クライミング1（ボルダリング；ルールについて）	実技：ボルダリングのルールについて学び、次週に向けて練習する 予習：ボルダリングのルールについて予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：競技クライミング ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
25回	競技クライミング2（ボルダリング；ルールについて）	実技：ボルダリングコンペを行う 予習：ルールを確認しておく 復習：　クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ボルダリング、模擬大会 ＊グループワーク、ディスカッション	澁川賢一
26回	体力測定；体力の比較	実技：体力測定を行う 予習：初回の体力測定結果を見直しておく 復習：体力の比較と、クライミングの達成度を振り返る キーワード：体力の比較	澁川賢一
27回	まとめ	教室にて「最終レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤

【６】　事前・事後学習とその時間
準備学習：　スポーツクライミングルールおよび安全管理を理解する。また健康観察による体調管理と用具等の安全対策を個々で準備する（予習）。
授業後に何ができて何ができなかったのか振り返りの作業をする。リアクションペーパーをMoodleで提出する（復習）。
準備学習時間は授業ごとに予習45分，復習45分を要する。
学習上の留意点：動きやすい服装（ジャージ，Tシャツなど），室内用シューズを着用すること。私服での参加は認めません。
スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準
積極的な授業態度：60%、技術向上度・達成度：30%、最終レポート10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
授業ごとに講評を行うほか、リアクションペーパーに対して適宜に簡単なフィードバックを行います。

【９】　教科書
特定のテキストは使用しません。必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

【10】　参考書
「完全図解　スポーツクライミング教本」東秀磯，　山と渓谷社（2017）

【11】　備考(関連科目等)
スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ

科目名(日本語)	**心理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Psychology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	鳥山理恵				
担当教員	鳥山理恵				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法について案内する。				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。また、初回授業時に案内するメールアドレスへの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、自己理解と他者理解を通して人間の心の多様性、脆弱性、強靭さ等の人間理解を深める。具体的には、個人・集団心理の基礎（精神の仕組み・理論・発達心理など）、心理学的方法論（臨床心理学・行動分析学など）の理解を深める。本科目は、臨床心理学など医学や専門基礎科目、看護学の人間理解、患者理解等の基礎知識として直接つながる科目である。

【３】　到達目標

14回の授業を通し、心理学における課題解決の過程と結果を、論理的に文章として記述することができる。
授業各回の到達目標としては以下の事項を想定している：
第1回：心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第2回：心理学の歴史において重要な人物とその功績について、2人以上の人物について簡単に説明することができる。
第3回：私たちが目で物を見たり耳で音を聞いたりする際にどのような心理的メカニズムが関わっているのかについて、具体例を挙げて説明することができる。
第4回：知覚の恒常性について、具体例を挙げて説明することができる。
第5回：動物を対象とした心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第6回：正の強化・負の強化・正の罰・負の罰のそれぞれについて、身近な具体例を挙げることができる。
第7回：「注意」のメカニズムについて、具体例を挙げて説明することができる。
第8回：人の記憶を支える3つのプロセスについて簡単に説明することができる。
第9回：人が感情を感じる背後にある心理的メカニズムについて簡単に説明することができる。
第10回：赤ちゃんを対象とした研究手法について、具体的な方法を挙げて説明することができる。
第11回：社会心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第12回：私たちの行動や意思決定が、自分が置かれている状況からどのくらい影響を受けるのかといったことについて、具体例を挙げて説明することができる。
第13回：「こころの文化差」を明らかにするための研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第14回：人の心に影響を与えるような社会的環境の文化差について、具体例を挙げて説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	心理学の研究法と歴史	内容：心理学の研究法と、心理学の歴史について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：心理学の基礎、実験方法	鳥山理恵
3・4回	感覚・知覚	内容：感覚や知覚といった基礎的な情報処理の様式について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：感覚、知覚	鳥山理恵
5・6回	学習	内容：学習の理論や動物での実験について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：学習、条件づけ	鳥山理恵
7・8回	認知と記憶	内容：人の認知や記憶のメカニズムについて学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：認知、記憶	鳥山理恵
9回	感情	内容：人の感情のメカニズムについて学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：感情、表情	鳥山理恵
10回	発達	内容：発達心理学の基礎について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達段階、赤ちゃん研究	鳥山理恵
11・12回	集団心理	内容：集団心理の基礎について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：社会心理、集団行動	鳥山理恵
13・14回	文化	内容：こころの文化差について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：文化心理、比較文化研究	鳥山理恵

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業はスライドを使った講義形式となり、事前にMoodle上で閲覧可能な授業資料を使っての予習に30分程度、復習に1時間程度を費やします。

【事後学習】
毎回の授業後に、その回の授業内容に関連する小課題（小テストや小レポート）の提出を求めます。講義資料に基づいてよく復習の上、課題に取り組むこと。

【７】　評価方法・基準

各回の授業内容に関連する毎回の小課題（30%）　、確認テスト(40%)、最終レポート（30%）

【８】　フィードバック方法

毎回の小課題については、次回以降の授業で具体例を挙げて、特徴的な見解や誤解について解説する。また、毎回のリアクションペーパーで提起された質問や誤解のある点については次回の授業で解説する。

【９】　教科書

教科書は使用せず、Moodle上で閲覧可能な授業資料を配布する。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

特になし

科目名(日本語)	**社会学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Sociology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	島村賢一				
担当教員	島村賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	下記のメールアドレスで連絡を受け付ける。 ksshimamura@kj9.so-net.ne.jp				
オフィスアワー	講義終了後に、講義室で15分程度質問を受け付ける。または下記のメールアドレスで質問を受け付ける。 ksshimamura@kj9.so-net.ne.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

社会学の理論など基礎的な知識をもとに、自分や家族などのライフサイクルと関連づけて事象を社会学的な視点で読み解く能力を身につける。特に、集団としての家族とその形態や機能、家族システムとしての病理などに関する家族社会学や、医療は医療者と患者間の個人的営為であるとともに社会的な営為であることから医療社会学の視点も学修する。

【３】　到達目標

1.医療行為が社会的な相互行為であることを理解し、患者や他の医療者とのコミュニケーション能力向上のための前提となる基本的知識を習得する。
2.自己と他者における家族の役割と意味を客観的に考察できる。
3.ジェンダー平等の意味を理解し、平等意識のための基本的知識を習得する。
4.グローバルな視点を獲得し、現代社会に対して広い視野から、様々な問題を考察できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	医療者が社会学を学ぶ意義ー社会学とは何か	内容：医療者が社会学を学ぶ意義と社会学という学問の特質を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：社会学の独自性、パラダイム　他者理解	島村賢一
2	近代社会と社会学	内容：社会学が誕生する背景となった近代社会の特質を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：市民革命、産業革命、科学主義	島村賢一
3	家族に関する基礎概念と社会化	内容：家族に関する基礎概念と人生における家族の位置づけを学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：集団としての家族の特質、家族類型、社会化	島村賢一
4	家族の歴史的変遷	内容：家族の歴史的変遷、特に明治以降の日本社会における歴史的変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：家族変動、核家族化、個人化	島村賢一
5	ジェンダーに関する基礎概念	内容：ジェンダーに関する基礎概念について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ジェンダー、セクシャリティ、ジェンダー秩序	島村賢一
6	ジェンダー平等に向けての世界的な潮流とフェミニズム	内容：ジェンダー平等に向けての世界的な潮流とフェミニズムの役割を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ジェンダー平等実現に向けての国連の役割、第1波フェミニズムと第2波フェミニズム	島村賢一
7	少子高齢社会その１ー少子化について	内容：少子化の現状と世界の人口の歴史的変遷について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：合計特殊出生率、人口置換率、人口転換理論	島村賢一
8	少子高齢社会その2ー高齢化について	内容：高齢社会の現状を国際比較しながら考察する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：倍化年数、高齢化社会と高齢社会	島村賢一
9	民族問題と移民の社会学その１－基礎概念と世界的な潮流	内容：民族問題に関する基礎概念と民族問題についての近代以降の世界的な潮流について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：民族と人種、ネーション、同化、競合状態、多元主義、エスノセントリズム	島村賢一
10	民族問題と移民の社会学その2ー日本における民族問題	内容：日本における民族問題に関する明治以降の歴史と現状について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ニューカマーとオールドカマー、西欧と日本の対比	島村賢一
11	グローバル化とは何か	内容：グローバル化の基礎概念と歴史的変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：グローバル化、国際化、グローバリズ	島村賢一
12	リスク社会としての現代その１－基礎概念	内容：リスク論の基礎概念を習得し、リスクという観点から見た近代社会の変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：リスクと危険、個人化、第1の近代と第2の近代	島村賢一
13	リスク社会としての現代その2－リスク論から考察した現代社会	内容：地球温暖化、同時多発テロ、原発事故といった具体的な問題を糸口とし、リスクという観点から現代社会を考察する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：個人の自由と監視国家化、世界市民、近代の複数性	島村賢一
14	総復習	内容：これまでの授業の要点を総復習する。。 授業方法：講義の後に、質疑応答を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：第1回～第13回のキーワード参照	島村賢一

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業は内容理解のために予習を1時間程度、復習を1時間程度必要とする。授業中に指摘した重要点に留意しながら、配布したプリントを読み返すこと。

【７】　評価方法・基準

１．レポート　30%、
２．期末に行う理解度確認テスト　40%、
３．毎回の授業後にMoodleに提出してもらう感想や質問の投稿回数30%

【８】　フィードバック方法

１．レポートについては希望者にコメントを添えて返信する。
２．期末に行う理解度確認テストについては、模範解答を提示し、質問を受け付ける。

【９】　教科書

授業時に随時プリントを配布する。

【10】　参考書

松田健『テキスト現代社会学[第3版]』、ミネルヴァ書房、2016

【11】　備考(関連科目等)

研究方法の基礎

科目名(日本語)	**倫理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Ethics	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	守博紀				
担当教員	守博紀				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受け付けます。また、メールでの質問も可能です。初回授業時に連絡方法を伝えます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

倫理学の基本的な理論、社会における様々な規範の根拠について学修する。また、自身の規範的判断の理由を他者に判るよう説明できる能力を養う。本科目は、看護実践の基盤となる倫理観の涵養や、看護倫理の理解に必要な基礎知識に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 哲学的思考の手法を習得して日常の経験を手がかりに自ら考えることができる。
2. 主要な規範倫理学理論の特徴を説明することができる。
3. 環境や生命を扱う応用倫理学のさまざまな問題を理解し、それについての議論を組み立てることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	批判と変革のための哲学	内容：この時間は、講義全体の計画を説明し、イントロダクションとして、哲学的思考の意義を「批判」と「変革」の観点から説明する。この二つの営みを通して、哲学は、自分と他人が生きている現実に向き合い、自分で考え、そうして自分自身の生き方を変えることに貢献する。授業はPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：哲学、批判、変革、経験、倫理学	守　博紀
3・4	倫理学の問いと方法	内容：倫理学の三分野であるメタ倫理学・規範倫理学・応用倫理学のそれぞれが扱う問いと規範倫理学の主要三理論（義務論・帰結主義・徳倫理学）を概略的に説明し、各分野や理論を学ぶことで習得できる倫理学的思考のやり方を紹介する。授業はPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：メタ倫理学・規範倫理学・応用倫理学、義務論・帰結主義・徳倫理学	守　博紀
5・6	環境倫理１：何が・なぜ・どのように問題なのか	内容：環境倫理学が成立した歴史的・社会的背景と、そこで論じられる問題およびその意義・議論方法を説明する。とくに、環境保護や動物をめぐって生じる現代の環境問題について、広く共有されている直観と倫理学的思考との緊張関係を論じる。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：環境倫理学、動物の権利、世代間倫理、人間中心主義、種差別	守　博紀
7・8	環境倫理２：倫理学理論からの考察	内容：環境倫理学の問題（環境保護や動物の権利）に対する規範倫理学の主要三理論（義務論・帰結主義・徳倫理学）からのアプローチを概観し、その後、それぞれの議論を自分自身で吟味してもらう。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：功利主義、義務論、徳倫理学、動物の権利、種差別	守　博紀
9・10	生命倫理１：何が・なぜ・どのように問題なのか	内容：生命倫理学が成立した歴史的・社会的背景と、そこで論じられる問題およびその意義・議論方法を説明する。とくに、生命や幸福の捉え方について、歴史的経緯と理論的分析の両面から考察する。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成し、次週までに提出する。 キーワード：生命、幸福、QOL、医療倫理の四原則、尊厳	守　博紀
11・12	生命倫理２：倫理学理論からの考察	内容：生命倫理学の問題（生命や幸福の捉え方）に対する規範倫理学の主要三理論（義務論・帰結主義・徳倫理学）からのアプローチを概観し、その後、それぞれの議論を自分自身で吟味してもらう。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べ、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成し、次週までに提出する。 キーワード：幸福、自律、インフォームド・コンセント、ニュルンベルク綱領	守　博紀
13	環境倫理と生命倫理のこれから	内容：倫理学理論の意義を、理論と応用の往復という観点から、環境倫理学や生命倫理学の問題への取り組みを通して説明する。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成して、次週	守　博紀

		までに提出する。 キーワード：規範倫理学理論、見方の倫理、メタ倫理学、応用倫理学	
14	現代社会と倫理学	内容：環境倫理学や生命倫理学の問題を通して幸福と自律の関係について考えることで、「私たちはどのような社会を目指すべきか」という問いにつなげる。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成して、次週までに提出する。 キーワード：社会哲学、ケアの倫理、正義、自由主義	守　博紀

【６】　事前・事後学習とその時間

講義前は、次回講義時に扱うトピックについて、参考書リストや配布資料に挙げた文献を参照するなどして、疑問点や不明点を整理する（60分）。講義後は、授業時の配布プリントを見直して理解を深める。また、応用倫理の問題を考える課題の際には、授業の内容を振り返って論点を再確認した後、相異なる立場からなされるさまざまな主張の根拠や帰結を吟味しつつ、自分の考えをまとめる（60分）。

倫理学とは「善く生きるとはどういうことか」、また「私たちはどのような社会を目指すべきか」といった問題を考察した思想の格闘の歴史です。それは、看護の専門科目とは違って医療現場で直接役立つようなものではありません。それでも倫理学を学ぶことは、実践の基礎となる知的な体力を形成する上でも重要かつ有益な作業であるため、そのつもりで能動的に受講するようにしてください。

【７】　評価方法・基準

規範倫理学理論や応用倫理学の問題に関する授業内提出物が20点、試験期間中に実施する定期試験が80点の合計100点満点で評価を行い60点以上を合格とします。

【８】　フィードバック方法

特に応用倫理を扱う授業で提出してもらうリアクションペーパーについては、そこでの主要な意見や特に気になった問題点などを次の講義の冒頭で解説をしてフィードバックとします。

【９】　教科書

適宜必要な資料をこちらで準備して配布します。

【10】　参考書

赤林朗（編）（2017）『入門・医療倫理I』改訂版、勁草書房。
赤林朗（編）（2007）『入門・医療倫理II』勁草書房。
赤林朗・児玉聡（編）（2015）『入門・医療倫理III　公衆衛生倫理』勁草書房。
伊勢田哲治（2012）『倫理学的に考える――倫理学の可能性をさぐる十の論考』勁草書房。
伊勢田哲治（2008）『動物からの倫理学入門』名古屋大学出版会。
奥田太郎（2012）『倫理学という構え――応用倫理学原論』ナカニシヤ出版。
香川知晶（2021）『命は誰のものか』増補改訂版、ディスカヴァー・トゥエンティワン（ディスカヴァー携書）。
児玉聡（2012）『功利主義入門――はじめての倫理学』筑摩書房（ちくま新書）。
児玉聡（2020）『実践・倫理学――現代の問題を考えるために』勁草書房。
小手川正二郎（2020）『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー。
小林亜津子（2011）『はじめて学ぶ生命倫理――「いのち」は誰が決めるのか』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
小林亜津子（2018）『QOLって何だろう――医療とケアの生命倫理』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
小林亜津子（2014）『生殖医療はヒトを幸せにするのか――生命倫理から考える』光文社（光文社新書）。
佐藤岳詩（2017）『メタ倫理学入門――道徳のそもそもを考える』勁草書房。
佐藤岳詩（2021）「倫理の問題」とは何か――メタ倫理学から考える』光文社（光文社新書）。
佐藤岳詩（2021）『心とからだの倫理学――エンハンスメントから考える』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
永井均（2011）『倫理とは何か――猫のアインジヒトの挑戦』筑摩書房（ちくま学芸文庫）。
伏木信次・樫則章・霜田求（編）（2020）『生命倫理と医療倫理』第4版、金芳堂。
マイケル・ダン、トニー・ホープ（2020）『医療倫理超入門』児玉聡・赤林朗訳、岩波書店。
松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在――最終段階の医療と自己決定』中央公論新社（中公新書）。
森村進（2018）『幸福とは何か――思考実験で学ぶ倫理学入門』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。

【11】　備考(関連科目等)

哲学、社会学、看護哲学、看護倫理学

科目名(日本語)	**教育学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pedagogy	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	八木美保子				
担当教員	八木美保子				
科目責任者 連絡先(教室)	連絡先：mihoko.yagi@sci.toho-u.ac.jp　またはmoodleのメッセージ				
オフィスアワー	授業後30分間。 または、連絡先：mihoko.yagi@sci.toho-u.ac.jp　またはmoodleのメッセージにて質問・相談を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

moodle

【２】　授業概要

教育の哲学、歴史、理論、教育制度など、教育学の基礎を学修する。また、自己教育力や生涯学習などの教育全般について理解を深める。本科目は、看護学の健康教育、患者教育等の基礎知識として直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 教育学の構成、探究されているテーマや方法について説明できる。
2. 教育学において探究されてきた「教育（教える・育てる）」「学習（学ぶ・習う）」という概念について説明できる。
3. 教育学において探究されてきた「知識」や「学力」という概念について説明ができる。
4. 学習を促す条件や環境について事例を用いて説明できる。
5. 指導計画の立案、評価、改善における留意点を述べることができる。
6. 人が学習しやすい空間や環境づくりの留意点を述べることができる。
7. 生涯学習をめぐる近年の議論および専門職の職能発達について説明できる。
8. 日本の学校制度の変遷とその特徴を説明できる。
9. 学校と職業との接続に関する近年の議論を説明できる。
10. 授業で得た教育学の知見をどのように看護に活かすか、自分の考えを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1, 2	教育学の特徴	内容：教育学とはどのようなことを探究する学問か、その方法や内容の概要を知り、教育学を学ぶ意義を理解する。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：シラバスに目を通してくること。 復習：授業内で提示する。 キーワード：教育学を成り立たせているもの、教育というものの性格、教育学の構成	八木美保子
3, 4	「教育」とはどのような営みか？	内容：「教育」という概念についてこれまで教育学で考察されてきた内容を知り、自分なりに「教育」という営みを再検討する。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：「子ども」の誕生、人間形成、成長、発達、教える－学ぶ	八木美保子
5, 6	「学習」とはどのような営みか？	内容：学習するとはどういうことか。複数の条件や環境を事例に、そのメカニズムを考える。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：知識、学力、適時性、構成的知識、正統的周辺参加	八木美保子
7, 8	「教える－学ぶ」の計画と実践、改善と継続	内容：「教える」ことはどのように計画され、マネジメントされているのか。学校での授業を支える教育方法、カリキュラム等の基本的な概念を知る。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：カリキュラム、スコープとシーケンス、ガイダンス、教育評価、カリキュラム・マネジメント	八木美保子
9, 10	学びを促し、支える環境づくり	内容：学校の校舎と病院の建物は、しばしば同じように批判の対象となってきた。人が学び、癒やされ、活き活きと生活できる環境とはどのようなものかを考える。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：学習環境、監視システム、オープンプラン	八木美保子
11, 12	日本の学校制度	内容：日本ではなぜ小学校と中学校は義務教育なのか、なぜ6年－3年－3年で区切れるのか、など日本の学校制度の成り立ちを知り、日本の学校制度における国民形成の意図を理解する。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：初等教育、中等教育、高等教育、義務教育、学校教育、キャリア教育	八木美保子
13, 14	まとめ　大学で看護師の資格をとるということ、専門職として学習し続けるために	内容：教師も看護師も共に専門職と呼ばれる職業である。生涯学習に関する近年の議論を知り、専門職の職能発達について考える。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習・復習：授業内で提示する。 キーワード：学校と職業の接続、生涯教育から生涯学習へ、アンドラゴジー、ポスト・アンドラゴジー、省察的実践家、協働	八木美保子

【6】　事前・事後学習とその時間

・授業計画を読んだうえで各回の授業に参加すること（予習10分程度）。授業内で得た知識を自分なりに深めることを重視するため、復習（1時間程度）に重きを置いて欲しい。
・グループワークを頻繁に行う。積極的な参加を期待する。

【7】　評価方法・基準

課題の合計点（各回の課題10点×7回、最終課題30点×1回）で評価を行う。

【8】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【9】　教科書

毎回の授業で資料を配付する。

【10】　参考書

田中智志編著『グローバルな学びへ　協同と刷新の教育』東信堂、2008
ウィリアム・ピータース著『青い目茶色い目　人種差別と闘った教育の記録』日本放送出版協会、1988
ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー著『状況に埋め込まれた学習　正統的周辺参加』産業図書、1993
ダニエル・グリーンバーグ著『世界一素敵な学校　サドベリー・バレー物語』緑風出版、2006
奥地圭子著『子どもをいちばん大切にする学校』東京シューレ出版、2010
田中耕治編『よくわかる教育課程　第2版』ミネルヴァ書房、2018
ワタリウム美術館製作『レッジョ・エミリアの幼児教育』2011（ＤＶＤ）
ドナルド・ショーン著『専門家の知恵　反省的実践家は行為しながら考える』ゆみる出版、2007
ジェーン・R・マーティン『学校は私たちの「良い生活」だったーアメリカ教育史の忘れもの』慶應大学出版会、2021

【11】　備考(関連科目等)

看護学、特に臨地実習関連

科目名(日本語)	**組織論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Organization Theory	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	斎藤智文				
担当教員	斎藤智文				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス：t-saito@u.shukutoku.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後20分程度、講義室で質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

「その他」の内容

質問に対して答えや自分の意見を話してもらう

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

組織の機能、組織文化、リーダーシップなどの概論、組織の構成メンバーの意思疎通、組織の目標達成までの過程を学習し、組織論の視点から身近な組織を理解する。本科目は、チーム医療、地域多機関連携、看護管理、在宅ステーション経営などの基礎知識に直接つながる科目である。
なお、本科目は公衆衛生看護管理をはじめとする保健師課程での学修につながる科目である。

【３】　到達目標

1.組織の機能、組織文化、リーダーシップ、モチベーション、チームワークなどを理解できる。
2.働く個人の視点を大切にした経営組織を学び、働く者の立場で、どのような人材やチームが組織に貢献できるのかを考え、口頭ならびに文章で表現できるようになる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	イントロダクション、マクロ組織論とミクロ組織論	内容：経営学と組織論、組織の構造・体系、組織に属する個人や小集団 授業方法：講義 予習：万学の祖、アリストテレスを調べる 復習：自分の身の回りの問題と照らし合わせて理解する。医療機関の組織と照らし合わせる キーワード：バーナード、組織を成立させる3要素、マックス・ウェーバー、官僚制組織とその逆機能、階層、組織目標と個人の役割、基本的な組織形態	斎藤　智文
2	生産管理における組織論	内容：科学的管理法と能率学 授業方法：講義 予習：「能率」と「効率」の違いを調べる 復習：日常における同時並行作業を探す キーワード：能率と効率、生産工学、差別的出来高給制度、時間研究・動作研究、テイラー、ギルブレス夫妻	斎藤　智文
3	組織における知識創造	内容：知識創造、協業と分業、チームワーク 授業方法：講義 予習：「協業」と「分業」を調べる 復習：成功の循環モデルの身近な例を考える キーワード：野中郁次郎のSECIモデル、暗黙知・形式知、カール・ワイクの成功の循環モデル	斎藤　智文
4	組織と意思決定	内容：サイモンの理論、アンゾフの理論 授業方法：講義 予習：「意思」と「意志」の違いを調べる。 復習：組織の意思決定がどのように行われるかを、実際の例と照らし合わせて理解する。 キーワード：限定合理性、満足化原理、戦略的意思決定，管理的意思決定，業務的意思決定	斎藤　智文
5	組織文化と組織風土	内容：組織文化と組織風土の違い 授業方法：講義 予習：「文化」の意味を調べる 復習：東邦大学の組織文化を類型と照らし合わせる。 キーワード：セオリーZ 、エクセレント・カンパニー 、組織文化の氷山モデル、エドガー・シャイン、キャメロンとクインの競合価値観モデル	斎藤　智文
6	モチベーション	内容：働く意味、モチベーション（動機づけ）とは何か 授業方法：講義 予習：自分がやる気になる源泉を考える 復習：どのような時に動機づけられるかを身近な例と照らし合わせる。 キーワード：ホーソン実験、マズローの「欲求5段階説」、マクレガーの「X理論・Y理論」、ハーズバーグの「動機づけ衛生理論」、エドワード・デシの「内発的動機づけ理論」	斎藤　智文
7	リーダーシップとフォロワーシップ	内容：リーダーシップとはなにか、フォロワーシップとは何か 授業方法：講義 予習：リーダーシップがある人とはどういう人かを考える 復習：リーダーがメンバーに及ぼす影響を身近な例と照らし合わせる。 キーワード： ボスとリーダーの違い、リーダーシップ特性論、リーダーシップ行動論、リーダーシップ条件適応理論、PM理論、マネジリアル・グリッド理論、ドラッカーのリーダーシップ論、サーバント・リーダーシップ	斎藤　智文

【6】　事前・事後学習とその時間

予習では、講義の理解度を高めるために、指定した重要な言葉の意味を調べる。（30分～60分程度）
復習において、1）講義内容を自ら再度説明できるようにする、2） 学んだ理論が現実のどのような場面にどう対応しているかを自ら推察する、という２点が求められる。
この授業は、学んだ学説を現実と照らし合わせて理解するために、復習１時間程度を費やします。

【学習上の留意点】
講義のノートをしっかりとれるように心がけてください。

【7】　評価方法・基準

期末試験60％＋授業内ミニテスト40％
期末試験の代替として期末レポートを提出してもらいます。
レポートとはいうものの、試験ですので、自分でいろいろ調べるものではなく、授業の内容について、どのように理解したかを説明してもらう問題になっています。
欠席・遅刻・早退を毎授業、確認します。

【8】　フィードバック方法

授業内ミニテスト：全体に又は個別に解答を解説します。

【9】　教科書

パワーポイントを中心に講義する。資料は都度配布する。

【10】　参考書

金井壽宏『経営組織』日本経済新聞社、1999年
小倉真治『組織論からみた病院経営』へるす出版、2019年

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、公衆衛生看護学概論、看護安全論、看護管理論、チーム活動論

科目名(日本語)	**経済学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Economics	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	山方竜二				
担当教員	山方竜二				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部Ⅳ号館3階4330内4332室　経済学教室 メールアドレス：ymgt.econ.hs@gmail.com				
オフィスアワー	理学部Ⅳ号館3階4330内4332室　経済学教室　毎週金曜 12:30-13:30 Moodleの「質問コーナー」の利用もお勧めします。 その他は事前に連絡のこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを用います。
授業内でMoodleにアクセスする場合もありますので、スマートホンなどの携帯通信機器を教室に持参してください。

【２】　授業概要

医療・介護等に関わる社会政策と、経済の関係を理解するための手掛かりとして、現代経済学の問題意識と基本的な枠組み、そこに登場する有用な概念を学ぶ。現在わが国が直面する様々な問題とも絡めつつ、経済学的な思考力を涵養する。

【３】　到達目標

1. 需要曲線の性質について説明できる。
2. 供給曲線の性質について説明できる。
3. 市場均衡について説明できる。
4. 前提となる条件が変化したとき、市場均衡がどのように変化するか説明できる。
5. 競争市場の効率性について説明できる。
6. 独占市場と競争市場の違いについて説明できる。
7. 市場の失敗を、医療・介護等のサービスと関連させて説明できる。
8. 市場における情報の非対称性の存在が、医療・介護等のサービスに与える影響について説明できる。
9. 機会費用について説明できる。
10. 金融市場の働きを説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	経済学とは	内容： 経済学の基本問題 経済学の基本用語 経済循環 経済問題へのアプローチ方法 理論モデルの重要性 経済学を学ぶ意義 授業方法：講義 予習・復習：予習なし、復習は講義の際に提示する キーワード：希少性　財　経済主体　生産要素　市場 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
3・4回	需要	内容： 需要曲線の概要 需要曲線のシフト 需要の価格弾力性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：プライステイカー　消費者余剰　需要法則 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
5・6回	供給	内容： 供給曲線の概要 供給曲線のシフト 供給の価格弾力性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：供給法則　生産者余剰 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
7・8回	市場均衡／市場の効率性	内容： 市場均衡 比較静学 市場の効率性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：超過需要　超過供給　総余剰 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
9・10回	市場の失敗	内容： 競争の欠如 外部性 公共財 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：市場の失敗　独占　外部経済　外部不経済　非排除性 非競合性　フリーライダー いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
11・12回	不確実性と情報	内容： リスクと意思決定 逆選択 モラルハザード 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：確実性等価　リスクプレミアム　情報の非対称性　スクリーニング　シグナリング いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
13・14回	機会費用と意思決定／金融市場の役割	内容： 明示的費用と潜在的費用 所得・消費・貯蓄 実物投資と金融投資 金融資産の概要 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：実物資本　減価償却　本源的証券 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二

【6】　事前・事後学習とその時間

高校での政治・経済の知識は必要としません。この授業では、教科書を指定しないため、準備学習としては復習が中心となります。復習では、学んだ内容を自分で改めて説明できるように、授業ノートに書き込みを行いながら理解を深めてください。予習に０．５時間程度、復習はMoodleでの小テスト・課題の作業を含め１．５時間程度を費やします。予習や復習の際、疑問に思ったことをミニッツペーパーや次回授業、オフィスアワーを利用して質問してください。授業中に疑問点はすぐに質問することを心がけてください。授業以外にも、日頃からニュースなどに触れ、社会に対する関心を養ってください。

【7】　評価方法・基準

定期試験(40%)，小テスト・提出課題(60%)。発言回数により小テスト・課題得点に加点します。

【8】　フィードバック方法

小テスト・提出課題や定期試験に対して履修者全体ができていなかった点や、改善点に関する講評を行います。
また、ミニッツペーパーに対するフィードバックを適宜実施します。

【９】　教科書

資料を授業時または事前にMoodleにて配布します。
Moodleで【要印刷】とした資料は、必ず印刷して持参してください。

【10】　参考書

角田由佳（２００７）看護師の働き方を経済学から読み解く　看護のポリティカル・エコノミー　他
授業内で適宜紹介します。

【11】　備考(関連科目等)

医療経済学

科目名(日本語)	**文学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Literature	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	千葉康樹				
担当教員	千葉康樹				
科目責任者 連絡先(教室)	（研究室）理学部5号館５階5511				
オフィスアワー	月曜日10限、Moodleのメッセージ機能等でも質問等を受付ます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

これまでの文学作品との出会いを振り返り、新たに作品に触れることを通じて、人生や社会における文学作品の存在について考える。文学作品に触れる体験について、自ら言葉にすることで、文学の持つ価値について考える。

【３】　到達目標

1. 文学という芸術形式、メディア形式の特徴について述べることができる
2. 現代人にとっての文学の価値について説明することができる
3. 現代に生きるひとりの人間として、文学作品に触れることの意味を自分の言葉で語ることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1，2 回	ガイダンス、アイスブレイク、読書体験の振り返り	内容：これまでの文学作品との出会いを振り返り、新たに作品に触れることを通じて、人生や社会における文学作品の存在について考える。文学作品に触れる体験を自ら言葉にすることで、文学の持つ価値について考える。 授業方法：講義、グループワーク 予習：なし 復習：気になった作品を読む、調べてみる キーワード：小説、近代、「現代国語」と文学	千葉康樹
3，4 回	対話：「夢と現実はどう違うか」、作品選び	内容：文学という「仮想現実」のことをグループで考えてみる。自由に考えることの実感を得る 授業方法：グループワーク 予習：なし 復習：新たに読んで見たいと思う本に出会うことを意識して生活する。いくつかの作品を試しに読んでみる。 キーワード：フィクション、現実	千葉康樹
5，6 回	対話：「感動とは」何かを考える。選んだ作品を共有する	内容：選んだ作品の共有。（対話）なぜ文学で感動をするのか。「夢と現実」を踏まえて考える。 授業方法：グループワーク、講義 予習：Moodleにアップされた資料を読む 復習：自分で選んだ作品を読んでみる キーワード：芸術作品にとっての「評価」	千葉康樹
7，8 回	対話：私が読んだ作品、次に読みたい作品	内容：自分の読んだ作品を文字にする（個別作業）、その上で、読んだ作品の紹介・印象の共有。クラスで（グループで）同じ作品を読んでみる（作品検討） 授業方法：個人ワーク、グループワーク、ペアワーク 予習：自分の読んだ作品について、ワークシートを埋める形でまとめてみる。 復習：グループで共有できるような作品を探してみる。 キーワード：芸術作品にとっての「評価」	千葉康樹
9，10 回	自由対話：「私が気にかけること」、文学は何を描いているのか？	内容：（自由対話）「私が気になること」を行う。その上で、文学は何を書いているのか考える。クラスで（グループで）同じ作品を読んでみる（作品決定） 授業方法：グループワーク、講義 予習：「私が気になること」を考えて、ワークシートに書き出す。 復習：最初に読んだ作品など任意の作品について、作者が気にかけていることは何だったと感じたか（読み取ったか）、改めて読み直して考えてみる。 キーワード：文学作品の「主題」	千葉康樹
11，12 回	文学作品と「心とからだ」	内容：（対話）自分にとっての芸術の効用～ナラティブの効用、生活の時間・芸術の時間、精神と芸術 最終レポートの中間レビュー（ペアワーク） 授業方法：講義、グループワーク、ペアワーク 予習：①最終レポートについて準備をする、②共通で読む作品を読む（感想をシートに沿ってまとめる） 復習：Moodleにアップした資料を読む キーワード：読書セラピー、文学の価値、心身と芸術	千葉康樹
13，14 回	対話：共通の作品で感じたこと、改めて文学作品を読むとはどういうことか？	内容：（対話）共通の作品で感じたこと 授業方法：グループワーク、講義 予習：①共通で読むべき作品を読む、ワークシート作業、②最終レポートの修正作業 復習：なし キーワード：文学	千葉康樹

【6】　事前・事後学習とその時間

自分の「文学体験」を進めるための準備、具体的には、候補となる作品探し、読書活動、読書の印象・感想のまとめがこの授業の主要な事前・事後学習となる。平均して毎週２時間の事前・事後学習が求められる。

【7】　評価方法・基準

授業内のワークへの参加・貢献（10%×7回）70%、最終レポート30%

【8】　フィードバック方法

毎回のリアクションペーパーから抜粋してフィードバックする。レポートについて途中段階でフィードバックをする。

【9】　教科書

使用する資料は授業内で配布・説明する。

【10】　参考書

藤谷治『小説は君のためにある』（ちくまプリマー新書、2018）
寺田真理子『心と体がラクになる読書セラピー』（ディスカバー・トゥエンティワン、2021）

【11】　備考(関連科目等)

社会学、人類学、哲学、倫理学

科目名(日本語)	**人類学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Anthropolpgy	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	市田雅崇				
担当教員	市田雅崇				
科目責任者 連絡先(教室)	Moodle				
オフィスアワー	授業終了後30分間（教室）、またはMoodleのメッセージで質問を受ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

人類学の基礎知識と方法を学修し、世界の様々な国・地域の生活の多様性から人間文化の共通性や一般性を知り、人間の理解を深めていく。

【３】　到達目標

文化の多様性と共通性、文化の相対主義的な視点を説明できる。
自分とは異なる価値観を持つ他者と対話し、尊重しあう姿勢を身に着ける。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	イントロダクション	内容：授業の進め方、文化人類学を概観 授業方法：講義、映像 予習：なし 復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：文化人類学、フィールドワーク、民族誌	市田　雅崇
2	婚姻	内容：アフリカの牧畜民の世界を紹介し、多様な婚姻のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：牧畜民、婚姻	市田　雅崇
3	女神の信仰	内容：ネパールの女性の生き方について紹介し、文化により多様な女性のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：ネパールの女神信仰	市田　雅崇
4	サードジェンダー	内容：サードジェンダーについて紹介し、文化により多様なジェンダーを考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：サードジェンダー	市田　雅崇
5	出産	内容：ベトナムのモンの世界観を事例に、出産をめぐる医療の在り方について紹介する。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：先住民知識、死生観	市田　雅崇
6	巡礼	内容：サンティアゴ巡礼を事例に、現代の巡礼で展開される癒しや自己探求について考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：巡礼、ツーリズム	市田　雅崇
7	ディスカッションとまとめ	内容：講義内容に関する課題を発表しディスカッションする。 授業方法：ディスカッション 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：文化とはなにか	市田　雅崇

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：（予習）あらかじめ配布された資料に目を通し、関心がある事柄をまとめる（30分）。
（復習）授業を受けて、自分の立場との共通点・違いをまとめる（30分）。
最終講義日のディスカッションは、簡単な現地調査をもとに受講者が発表を行なう（状況に応じて代替の課題とする場合がある）。
学習上の留意点：世界情勢や文化的なことに関する時事問題を新聞等で目を通しておく。

【７】　評価方法・基準

提出課題（授業内課題および現地調査課題）によって評価する。

【８】　フィードバック方法

提出された授業内課題について授業内でコメント。

【９】　教科書

特に用いない。必要に応じて資料を配布する。

【10】　参考書

日本文化人類学会編『文化人類学事典』（丸善出版、2009年）
国立民族学博物館編『世界民族百科事典』（丸善出版、2014年）

【11】　備考(関連科目等)

社会学、経済学、文学、哲学、倫理学、心理学、教育学、組織論、自然科学概論、各看護学の概論

科目名(日本語)	**哲学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Philosophy	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	清水将吾				
担当教員	清水将吾				
科目責任者 連絡先(教室)	授業開講日（火曜日）の昼休み（12:10～13:00　講師室）・メール連絡。メールアドレス：shogo.shimizu78@gmail.com				
オフィスアワー	授業開講日（火曜日）の昼休み（12:10～13:00　講師室）・メール連絡。メールアドレス：shogo.shimizu78@gmail.com				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

哲学の基本的な学説と歴史的な経緯を学び、人間の理解を深め、哲学的なものの見方･考え方を学習する。哲理を用いて身の回りの事象を読み解く能力を養う。本科目は、看護実践の拠り所となる看護観の涵養や、看護現象における看護の本質・原理を探究するために必要な基礎知識に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 哲学の根本的な問題をめぐる主要な学説を理解できるようになる。
2. 哲学の根本的な問題について、哲学的思考を展開し、表現できるようになる。
3. 看護実践を志す自分自身の問題について、哲学的思考を展開し、表現できるようになる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス前半	内容および授業方法：授業の概要と進め方の説明についてレクチャーする。 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
2	ガイダンス後半	内容および授業方法：質問等を受け付け、導入的なディスカッションを行う。 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
3	私とは何か？(1)	内容および授業方法：「私」をめぐるパスカルの哲学の解説をする。 キーワード：アイデンティティ・存在・宇宙・思考・尊さ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
4	私とは何か？(2)	内容および授業方法：パスカルの哲学の解説をふまえて、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：アイデンティティ・存在・宇宙・思考・尊さ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
5	他者とは何か？(1)	内容および授業方法：他者をめぐる問題についての（ボーヴォワールなどによる）哲学説を紹介する。 キーワード：他者たちの中で生きる私・居心地・安心・ジェンダー 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
6	他者とは何か？(2)	内容および授業方法：他者をめぐる問題についての哲学説をふまえて、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：他者たちの中で生きる私・他者性・居心地・安心・ジェンダー 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
7	愛とは何か？(1)	内容および授業方法：愛をめぐる古代から現代までの問題提起や考え方を概説し、エーリッヒ・フロムの哲学を紹介する。 キーワード：私と他者・友情・恋愛・家族・無償の愛・現代社会 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
8	愛とは何か？(2)	内容および授業方法：愛についての哲学説をふまえて、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：私と他者・友情・恋愛・家族・無償の愛・現代社会 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
9	死とは何か？(1)	内容および授業方法：命・意識・身体などをめぐる問題について哲学説を紹介する。 キーワード：命・意識・身体・私と他者 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
10	死とは何か？(2)	内容および授業方法：命・意識・身体などをめぐる問題についての哲学説をふまえて、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：命・意識・身体・私と他者 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
11	幸せとは何か？(1)	内容および授業方法：幸福をめぐる哲学説を概説し、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：快楽・善・正しさ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
12	幸せとは何か？(2)	内容および授業方法：幸福をめぐる哲学説をふまえて、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：快楽・善・正しさ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
13	看護とは何か？(1)	内容および授業方法：看護についてのナイチンゲールの考えを概説し、グループワークとディスカッションを行う。 キーワード：私・他者・愛・死・幸せ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾
14	看護とは何か？(2)	内容および授業方法：看護についてのナイチンゲールの考えを紹介し、受講者が各自の論述を行う キーワード：私・他者・愛・死・幸せ 予習・復習：講義毎に提示する。	清水将吾

【6】　事前・事後学習とその時間

それまでの授業を自分でふり返ることが重要となります。学説などの知識を復習で覚えるだけでなく、講義・グループワーク・ディスカッションなどで考えたことを自分自身で発展させていくことが不可欠です。そのようにして自分で発展させた考えを、書くということが強く推奨されます。自主的に書いたものの提出を高く評価します。毎回の復習（ふり返って書くこと）に必要な時間は１時間程度です。（予習は、1時間ほどで読めるものを適宜配布するので、読んできてください）

【7】　評価方法・基準

評価方法は、ガイダンスでお伝えした方法で、変更はありません。下記の通りです。
① 最終授業での論述（40%）
② 授業内の提出物（50%）
③ 自主的な提出物（10%）

【8】　フィードバック方法

提出物にはコメントを書いて次の授業で返却します。重要な点については授業中に紹介し、コメントをします。

【9】　教科書

資料をその都度配布します。

【10】　参考書

授業で参考文献を紹介します

【11】　備考(関連科目等)

看護哲学、看護倫理学

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human BodyⅠ	必修	講義	春学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	松山高明				
担当教員	松山　高明				
科目責任者 連絡先(教室)	matsu-tk@koto.kpu-m.ac.jp				
オフィスアワー	講義の前後（概ね30分前後、もしくは講義のある日の昼休み）。それ以外はメールに限る。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Meet

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、生命をつなぐ生殖、生物の証である個体の老化などについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【３】　到達目標

1. 細胞や組織、臓器、人体の関連を説明できる。
2. 主要な骨の名称や筋肉とそれらの関係、構造と機能について説明できる。
3. 呼吸器系臓器の名称や構造と機能について説明できる。
4. 血液の成分の名称と構造、機能について説明できる。
5. 循環器系臓器の名称や機能と構造について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	導入・解剖生理学の基礎(1)	内　　容：導入・解剖生理学の基礎 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p2～10，19～33を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：人体の構造・器官・人体の用語・細胞の構造	松山　高明
3・4	導入・解剖生理学の基礎(2)	内　　容：導入・解剖生理学の基礎 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p33～62を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：エネルギーの生成・細胞膜・遺伝子・細胞周期・組織・器官・ホメオスタシス	松山　高明
5・6	運動器：筋・骨格系（１）	内　　容：人体の部位と器官・運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p10～14，309～323（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体表から触知できる骨格部分や筋・骨格・骨の構造・骨の名称・関節・骨格筋	松山　高明
7・8	運動器：筋・骨格系（２）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p324～349（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体幹部・上肢	松山　高明
9・10	運動器：筋・骨格系（3）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p349～369（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：下肢、・頭頸部	松山　高明
11・12	運動器：筋・骨格系（４）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p369～382を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：筋の収縮・横紋筋・平滑筋	松山　高明
13・14	呼吸器（１）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p108～115を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：呼吸・上気道・下気道	松山　高明
15・16	呼吸器（２）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p116～122（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：肺・区域・胸膜・縦隔・呼吸の機能	松山　高明
17・18	呼吸器（3）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p123～141を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：肺胞の機能・呼吸気量・ガス交換・肺循環・呼吸障害	松山　高明
19・20	血　液（１）	内　　容：血　液 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p141～148を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血液の組成・血球・血清・血餅・血漿	松山　高明

21・22	血　液（２）	内　　容：血　液 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p158～165を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血液凝固・線容系・血液型・Rh不適合妊娠	松山　高明
23・24	循環器（１）	内　　容：循環器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p168～175を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体循環・心臓・心房・心室・冠動脈	松山　高明
25	循環器（２）	内　　容：循環器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p175～193を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：心拍動・刺激伝導系・心電図・心周期・負荷	松山　高明
26	循環器（３）	内　　容：循環器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p193～206（可能ならそれ以降も）,15～17を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：脈管・動脈・毛細血管・静脈	松山　高明
27	循環器（４）	内　　容：循環器 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p206～229（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血圧・チアノーゼ・低血圧・微小循環・浮腫・心不全・リンパ・リンパ管	松山　高明

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：教科書の当該箇所を読み、理解できない箇所をリストアップしておくこと。
講義：講義では教科書の内容を扱い、授業計画に沿って進行する。追加で印刷資料を配付することもあるが、教科書の内容に準拠して講義するので、教科書を必ず持参すること。講義終了時には、その日の講義に関するリアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーの両者が提出されている場合に出席と見なす(それらは次回の講義時に返却する)。
復習：理解できないところについては質問したり各種参考書を確認したりすることにより疑問は必ず早期に解決しておくこと。
学習上の留意点：この講義で学ぶ内容は、看護・医療を学ぶ上で基礎となる重要な事項です。後にまとめて勉強しようとしても量が多くて難しく、定期試験直前の勉強だけでは、看護師を目指す上での基礎知識として定着しません。日々コツコツと予習・復習することが大切です(それぞれ1～2時間程度が必要です)。なお、人の身体の構造・機能を学ぶ上で、実際の人体・臓器を基に学ぶことは理解を深める上でとても重要です。講義の中では実際の解剖の写真を提示しながら進行します。たとえ、写真であっても、人として、医療者を目指す者として、亡くなった方への礼や畏敬の念を忘れてはなりません。遺族が不快な思いをするようなことも慎まねばなりません。いかなる理由であっても、講義の録画や講義中に提示した写真等の撮影をしてはなりませんし、これが理解できない学生は医療者として不適格です(備考を参照のこと)。録画・写真撮影が発覚した場合には、定期試験を受験できません。また、画像をSNSなどに流すような行為は在学の可否も問われます。

【７】　評価方法・基準

定期試験（95%）、講義への取り組み（リフレクション課題等：5%）を総合的に評価します。再試験は100点満点で行う定期試験の点数に0.95を乗じ、そこに各々の講義への取り組み点（0～5点）を加えた点数が60点に達しない学生に対して、定期試験に準じた100点満点試験として行います。再試験受験者の評点は、再試験の点数に0.95を乗じてそこに各々の講義への取り組み点を加え、60点を超えている場合に60点とします。

【８】　フィードバック方法

講義終了時に出す課題は後日答え合わせをします。理解度を皆さん一人一人が把握する目的で行う形成的評価として用いますので、自分自身の知識確認に役立てて下さい。時に、最終的な総括評価の参考にする場合があります。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学　第10版　医学書院

【10】　参考書

◎「カラー図解 人体解剖の基本がわかる事典」竹内修二　西東社
◎「カラー図解 生理学の基本がわかる事典」石川 隆　西東社
○「コアテキスト １　人体の構造と機能　第2版」下 正宗、前田 環 他 編　医学書院
○「カラー図解　人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建男、河原克雅 編　日本医事新報社
○「やさしい生理学 改訂第6版」彼末一之、能勢 博 編　南江堂
「超カラー図解　看護自己学習　解剖生理学」渡辺正仁　森 禎章　金芳堂
「イラストでまなぶ解剖学」　松村 譲児　　医学書院
「ポケットチューター 体表からわかる人体解剖学」南山堂
「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院
「カラー基本解剖アトラス」西村書店
「ぜんぶわかる人体解剖図 ― 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説」坂井 建雄、 橋本 尚詞　成美堂出版
「世界一簡単にわかる人体解剖図鑑」坂井 建雄　宝島社
「解いてわかる解剖生理学　テキスト・問題集」（医学教育出版）　　ほか解剖学・生理学に関する各種出版物
◎○印は、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ共通の参考図書

【11】　**備考(関連科目等)**

生物学、化学、健康科学概論、生化学、微生物学、疾病と治療、薬理学、看護専門科目

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human BodyⅡ	必修	講義	春学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	熊澤武志				
担当教員	熊澤武志				
科目責任者 連絡先(教室)	takeshi.kumazawa@hs.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	質問は授業終了後30分程度、非常勤講義室で受け付けます。また、質問は随時電子メール（takeshi.kumazawa@hs.toho-u.ac.jp）でも受け付けます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、脳・神経系、感覚器、内分泌系などの情報を受容し処理するしくみについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【３】　到達目標

1. 神経系の構造と機能について説明できる。
2. 自律神経系の構造と機能について説明できる。
3. 末梢神経の構造と機能について説明できる。
4. 感覚器の構造と機能について説明できる。
5. 皮膚の構造と機能を説明できる。
6. 生体の防御機構について説明できる。
7. 体温とその調節機構について説明できる。
8. ホルモンの種類・作用・調節機構について説明できる。
9. 中枢神経系の構造と機能について説明できる。
10. 脳の高次機能について説明できる。
11. 運動と感覚機能の伝導路について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（１）	内容：神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：テキストp. 359～p. 368を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：神経細胞、シナプス、興奮の伝導	熊澤　武志
2	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（2）	内容：神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 359～p. 368を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：神経細胞、シナプス、興奮の伝導	熊澤　武志
3	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（３）	内容：自律神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 240～p. 249を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：交感神経、副交感神経、神経伝達物質、受容体	熊澤　武志
4	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（４）	内容：自律神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 240～p. 249を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：交感神経、副交感神経、神経伝達物質、受容体	熊澤　武志
5	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（５）	内容：脊髄神経と脳神経の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 383～p. 391を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄神経、脳神経	熊澤　武志
6	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（6）	内容：脊髄神経と脳神経の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 383～p. 391を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄神経、脳神経	熊澤　武志
7	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（7）	内容：眼の構造と視覚 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 397～p. 407を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：眼球、視細胞、視覚、眼筋	熊澤　武志
8	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（8）	内容：眼の構造と視覚 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 397～p. 407を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：眼球、視細胞、視覚、眼筋	熊澤　武志
9	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（9）	内容：耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、疼痛 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 408～p. 420を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：耳小骨、内耳、蝸牛、平衡覚、味蕾、嗅細胞、痛覚	熊澤　武志
10	免疫（1）	内容：皮膚の構造と機能、生体の防御機構 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 435～p. 447を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：皮膚、非特異的防御機構、特異的防御機構、リンパ球、抗体、免疫の異常	熊澤　武志
11	免疫（2）	内容：皮膚の構造と機能、生体の防御機構 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 435～p. 447を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：皮膚、非特異的防御機構、特異的防御機構、リンパ球、抗体、免疫の異常	熊澤　武志
12	免疫（3）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 447～p. 457を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志

13	免疫（4）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 447～p. 457、p. 351～p. 355を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志
14	免疫（5）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 447～p. 457、p. 351～p. 355を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志
15	内分泌（1）	内容：内分泌とホルモン、ホルモンの分泌機構 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 249～p. 259を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：内分泌、ホルモン、視床下部、下垂体	熊澤　武志
16	内分泌（2）	内容：ホルモンの分泌機構、甲状腺と副甲状腺、膵臓 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 259～p. 265を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：甲状腺ホルモン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン	熊澤　武志
17	内分泌（3）	内容：ホルモンの分泌機構、甲状腺と副甲状腺、膵臓 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 2259～p. 265を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：甲状腺ホルモン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン	熊澤　武志
18	内分泌（4）	内容：副腎、性腺、その他の内分泌腺 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 265～p. 273を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：カテコールアミン、糖質コルチコイド、電解質コルチコイド、性ホルモン	熊澤　武志
19	内分泌（5）	内容：副腎、性腺、その他の内分泌腺 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 265～p. 273を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：カテコールアミン、糖質コルチコイド、電解質コルチコイド、性ホルモン	熊澤　武志
20	内分泌（6）	内容：ホルモン分泌の調節、ホルモンによる代謝の調節 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 273～p. 280を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：フィードバック、糖代謝、カルシウム代謝、ストレス	熊澤　武志
21	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（１）	内容：脊髄の構造と機能、脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 368～p. 374を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄、脊髄反射、脳幹、小脳	熊澤　武志
22	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（2）	内容：脊髄の構造と機能、脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 368～p. 374を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄、脊髄反射、脳幹、小脳	熊澤　武志
23	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（3）	内容：脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 374～p. 383を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：間脳、大脳、大脳皮質、脳脊髄液	熊澤　武志
24	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（4）	内容：脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 374～p. 383を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、整理問題を解く キーワード：間脳、大脳、大脳皮質、脳脊髄液	熊澤　武志

25	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（5）	内容：脳の統合機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 420～p. 432を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、整理問題を解く キーワード：脳波、睡眠、記憶、本能、情動	熊澤　武志
26	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（6）	内容：脳の高次機能 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 420～p. 432を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、整理問題を解く キーワード：脳波、睡眠、記憶、本能、情動	熊澤　武志
27	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（7）	内容：運動と感覚機能の伝導路 授業方法：講義 予習：配付資料とテキストp. 391～p. 397を読む 復習：配付資料とテキストを用いて授業内容を整理し、整理問題を解く キーワード：錐体路、錐体外路、視覚伝導路、聴覚伝導路、体性感覚伝導路	熊澤　武志

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業で学ぶ内容は、看護を学ぶ上での基礎となるものです。授業内容は多岐にわたりますが、小テストやリフレクション課題に取り組みながら内容の整理・理解に努めて下さい。

【準備学習】

・小テストの勉強も含めて、予習1時間程度、復習2時間程度を費やします。

・配付資料や指定教科書の予習範囲を事前に読んでおくこと。

【事後学習】

・毎回の授業のはじめに前回内容に関する小テストを実施するため、教科書や授業で配付された資料に基づき復習をすること。

・授業の中で資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりするので、予習・復習を行う際に活用すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、小テスト（30%）、リフレクション課題への記述内容（10%）を総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

・授業中の小テストは結果を返却します。

・リアクションペーパーに寄せられた質問や意見については個別に回答したり、重要なものは次回の授業で全体にフィードバックしたりします。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学　第11版　医学書院

【10】　参考書

「カラー図解　人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建男、河原克雅 編，日本医事新報社

「トートラ人体解剖生理学」原書9版，佐伯由香，細谷安彦，高橋研一，桑木共之　訳編，丸善出版

「グレイ解剖学」原著第3版，Richard L. Drake 他 編，塩田浩平，秋田恵一 監修・監訳，エルセビア

「ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能（1）：解剖生理学」第4版，林正健二　編，メディカ出版

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、生化学、疾病と治療、薬理学、看護専門科目

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅲ（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human Body Ⅲ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	中内暁博				
担当教員	中内暁博				
科目責任者 連絡先(教室)	akihiro.nakauchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義後（概ね30分前後）、非常勤講師室。それ以外はメールで問い合わせること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、腎・泌尿器系、循環器系、消化器系、代謝系、生殖器系などの仕組みについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【3】　到達目標

到達目標（SBOs）
1. 体循環と肺循環について説明できる。
2. 血圧の機序について説明できる。
3. 血圧の測定原理について説明出来る。
4. 血圧調節と血流量の調節について説明できる。
5. 微小循環とリンパ循環について説明できる。
6. チアノーゼと心不全の病態生理について説明出来る。
7. 泌尿器系の概観について説明できる。
8. 腎臓の構造と機能について説明できる。
9. 糸球体の構造と機能について説明出来る。
10. 尿細管の構造と機能について説明出来る。
11. 傍糸球体装置の構造について説明出来る。
12. 傍糸球体装置の機能について説明出来る。
13. クリアランスと糸球体ろ過量について説明できる。
14. 腎臓から分泌される生理活性物質について説明できる。
15. 排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能について説明できる。
16. 排尿の機序について説明できる。
17. 尿の性状および尿の異常について説明できる。
18. 排尿異常について説明出来る。
19. 水・電解質と酸塩基平衡について説明できる。
20. 脱水の機序について説明できる。
21. 消化器系全般の構成について説明できる。
22. 口腔・歯の構造と機能について説明できる。
23. 咽頭・食道の構造と機能について説明できる。
24. 咀嚼・嚥下と誤嚥について説明できる。
25. 胃の構造と機能について説明できる。
26. 胃液の分泌とタンパク質の消化について説明できる。
27. 十二指腸の構造と機能について説明出来る。
28. 小腸の構造と機能について説明できる。
29. 消化と吸収のしくみについて説明できる。
30. 消化管の運動について説明できる
31. 大腸と肛門の構造と機能について説明できる。
32. 排便の機序について説明出来る。
33. 膵臓の構造と機能について説明できる。
34. 肝臓・胆嚢の構造と機能について説明できる。
35. 腹膜と内臓の位置関係について説明できる。
36. 代謝の概念と機能について説明できる。
37. 運動とエネルギーについて説明できる。
38. 熱の産生と放散について説明出来る。
39. 体温の分布と測定について説明出来る。
40. 体温とその調節について説明できる。
41. 熱中症の機序について説明出来る。
42. 男性生殖器の構成について説明できる。
43. 男性の生殖機能について説明できる。
44. 女性生殖器の構成について説明できる。
45. 女性の生殖機能について説明できる。
46. 乳腺の構造と機能について説明できる。
47. 性周期について説明できる
48. 生殖細胞と受精のしくみについて説明できる。
49. 着床と発育について説明出来る。
50. 胎児・胎盤・分娩について説明出来る。
51. 胎児の血液循環について説明できる。
52. 成長・思春期について説明できる。
53. 老化のメカニズムについて説明出来る。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	循環器（春学期に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 1、2（心臓の収縮・末梢循環・血圧） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p168～170；p206～210を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体循環・肺循環・心拍出量・血圧・心臓の負荷・血管の構造	中内暁博

【６】　事前・事後学習とその時間

【復　習】理解できないところについては、質問したり、各種参考書で確認したりし、疑問は必ず早期に解決しておくことが大切です。小テストについても必ず復習して下さい。
この講義で学ぶ内容は、看護・医療を学ぶ上での基礎となるものです。事後学習は、最低でも1時間程度を行って下さい。
【学習上の留意点】講義の中では実際の解剖の写真を提示しながら進行します。たとえ、写真であっても、人として、医療者を目指す者として、亡くなった方への礼や畏敬の念を忘れてはなりません。遺族が不快な思いをするようなことも慎まねばなりません。従って、いかなる理由であっても、人体や臓器等の写真か否かにかかわらず講義中の写真撮影・録画は認めません。

【７】　評価方法・基準

定期試験（筆記式：60%）、小テスト（消化器系など：30%）、講義への取り組み（リフレクション課題の記述内容等：10%）を総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストはテスト終了後に解説し、次回の講義で採点した答案を返却します。リフレクション課題については、次回の講義で解説します。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学 第11版　医学書院

【10】　参考書

系統看護学講座　解剖生理学ワークブック　坂井建雄、岡田隆夫　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、健康科学概論、生化学、微生物学、疾病と治療、薬理学、看護専門科目

科目名(日本語)	**生化学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Biochemistry	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	多田周右				
担当教員	多田周右				
科目責任者 連絡先(教室)	多田周右メール（s.tada@phar.toho-u.ac.jp） 薬学部D館3階　D-305				
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室で10分程度受け付ける。メール（s.tada@phar.toho-u.ac.jp）やMoodleでの連絡も可能とする。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

生化学は、生物の生命現象を化学的手法により探究する学問である。この科目では、とくに生命現象を担う分子の構造・性質などの基本事項を習得することを目指す。生物の基本となる生体高分子（糖質、脂質、タンパク質〔酵素〕、核酸）や、その構成単位（ヌクレオチド、アミノ酸、単糖、脂肪酸など）の基本構造・性質について学ぶとともに、それらの分子が体の中でどのように働くのかについても理解を深める。本科目は、人体の構造と機能、疾病と治療、及び臨床栄養学へとつながる科目である。

【３】　到達目標

1. 代表的な単糖、二糖、多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
2. 代表的な糖代謝経路（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲンの合成と分解）の役割について説明できる。
3. 代表的な糖代謝経路（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲンの合成と分解）の反応過程について概説できる。
4. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。
5. 脂肪酸の生合成とβ酸化について概説できる。
6. コレステロールの生合成と代謝について概説できる。
7. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。
8. アミノ酸の代謝について概説できる。
9. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。
10. 多彩なタンパク質（酵素、受容体、構造タンパク質、輸送タンパク質など）の機能について概説できる。
11. 多彩な機能を持つタンパク質（酵素、受容体、構造タンパク質、輸送タンパク質など）を列挙できる。
12. 酵素反応の特性を概説できる。
13. ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。
14. ヌクレオチドの供給経路（デノボ経路とサルベージ経路）について概説できる。
15. DNAの複製の過程について説明できる。
16. DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。
17. RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1，2	化学の基礎・糖質の構造	内容：化学の基礎。単糖、二糖、多糖の種類・構造・性質・役割。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：酸、塩基、酸化、還元、親水性、疎水性、立体構造、糖質、単糖、二糖、多糖	多田周右
3，4	脂質とアミノ酸の構造	内容：脂質とアミノ酸の種類・構造・性質。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：脂質、中性脂肪、脂肪酸、コレステロール、アミノ酸	多田周右
5，6	糖質の代謝	内容：糖質代謝とエネルギー産生、糖新生、グリコーゲン合成など。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲン	多田周右
7，8	脂質の代謝	内容：脂肪酸の合成と分解。コレステロールの合成と代謝。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：脂質代謝、脂肪酸、コレステロール、ステロイド	多田周右
9，10	アミノ酸の代謝とタンパク質	内容：アミノ酸の代謝。タンパク質の構造と多彩な機能。酵素反応の特性。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：アミノ酸、尿素回路、生理活性アミン、タンパク質、酵素、阻害剤	多田周右
11，12	ヌクレオチドと核酸	内容：ヌクレオチドの構造と代謝。DNA、RNAの基本構造。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：核酸（DNA、RNA）、ヌクレオチド	多田周右
13，14	核酸代謝（DNA複製・転写・翻訳）	内容：DNA複製、転写（RNA合成）、翻訳（タンパク質合成）の概要。 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：DNAの複製、転写、翻訳	多田周右

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】講義前に授業スケジュールを確認し、事前にMoodleに提示した講義資料に目を通したうえで教科書の該当部分を30分程度読む。
【事後学習】Moodleに掲載した確認テストを解答し提出する。確認テストの問題を用いて講義内容の重要ポイントを振り返る。教科書と講義中に作成したノートを使い、授業ごとに１時間程度かけて講義内容の理解を深める。
【学習上の留意点】必要に応じて、メディアセンターの参考書等を用いて不足内容について知識を補うこと。

【７】　評価方法・基準

定期試験（85%）、確認テストへの取組みと提出（15%）。

【８】　フィードバック方法

定期試験、確認テストの解答をActive Academy または Moodleに掲示

【９】　教科書

≪系統看護学講座≫生化学　人体の構造と機能２（第14版）、畠山鎮次（医学書院） 2019年

【10】　参考書

習志野メディアセンターには生化学の基礎から専門までの多くの書籍があるので参考にしてください。

【11】　備考(関連科目等)

［予め学んでおくと良い科目］　化学、生物学、
［この科目に続く内容の科目］　薬理学、人体の構造と機能、疾病と治療、臨床栄養学、臨床遺伝学

科目名(日本語)	**微生物学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Microbiology	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	安齊洋次郎				
担当教員	安齊洋次郎・五郎丸美智子・福本敦・飯坂洋平				
科目責任者 連絡先(教室)	安齊（科目責任者）：薬学部 微生物学教室 D-508、yanzai@phar.toho-u.ac.jp 五郎丸：薬学部 総合実験部門 E-201、michiko@phar.toho-u.ac.jp 福本　：薬学部 微生物学教室 D-540、atsushi.fukumoto@phar.toho-u.ac.jp 飯坂　：薬学部 微生物学教室 D-540、yohei.iizaka@phar.toho-u.ac.jp ＊質問などは講義、演習終了後が望ましいが、上記への訪問やメールでも受け付ける。				
オフィスアワー	安齊　：月～金 10:00～18:00 五郎丸：月～金 9:30～17:30 福本　：月～金 10:00～18:00 飯坂　：月～金 10:00～18:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

その他

「その他」の内容

微生物の培養、観察など

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleが利用可能な端末（ノートPC、タブレット、スマートフォンなど）

【２】　授業概要

微生物学とは、真菌、細菌や藍藻類などの原核生物やウイルスなどの微少な生物を対象とし、主に生化学的な解析により微生物の構造や生態、他の生物への影響などを明らかにする学問である。微生物学の基礎知識、感染のメカニズム、病原微生物の特徴、生体防御機構、病原微生物の制御などについて理解する。さらに、グラム染色の方法、手指衛生に関する細菌学的検証などに関しては、実験方法を学び、感染予防対策の有効性の判断視点を深める

【３】　到達目標

1. 生物界における微生物の位置について説明できる。
2. 人体と微生物との関わりについて説明できる。
3. 微生物学の歴史について説明できる。
4. 微生物の取り扱いについて説明できる。
5. 微生物の種類と分類について説明できる。
6. 微生物の細胞構造について説明できる。
7. 微生物の増殖について説明できる。
8. 微生物の遺伝について説明できる。
9. 病原微生物の感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）について説明できる。
10. ヒトの体に備わった感染制御のしくみについて説明できる。
11. 病原微生物の病原因子について説明できる。
12. 主な微生物感染症およびその治療と予防について説明できる。
13. 微生物の基本的な取り扱い方法を説明、実施できる。
14. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念について説明できる。
15. グラム染色を実施できる。
16. 顕微鏡による観察を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	微生物とは	授業内容：生物界における微生物の位置、生態系における微生物の分布と役割、人体と微生物との関わりについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：生命の起源、分解者、細菌叢	安齊洋次郎
3・4回	微生物学の歴史	授業内容：自然発生説の否定、疾病との戦いについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：自然発生説の否定、レーウェンフック、パスツール、コッホ、ワクチン、化学療法剤	安齊洋次郎
5・6回	微生物の細胞構造と増殖	授業内容：真核細胞（ヒト細胞、真菌細胞）、原核細胞（細菌細胞）、ウイルスの構造と増殖の相違について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：真核細胞、原核細胞、ウイルス粒子、分裂増殖、細胞寄生性	安齊洋次郎
7回	微生物の培養と観察	授業内容：微生物の培養法と観察法について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：滅菌、消毒、培養、染色、顕微鏡	安齊洋次郎
8回	微生物の種類と分類	授業内容：真菌、細菌、ウイルスの種類と分類について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：形態学的分類、生理・生化学的分類、化学分類、系統分類、DNAウイルス、RNAウイルス	安齊洋次郎
9・10回	細菌細胞の構造と機能	授業内容：グラム陽性細菌とグラム陰性細菌の違い、細胞表層の構造・機能・役割、細菌細胞質膜の機能について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：グラム陽性細菌、グラム陰性細菌、細胞表層構造、細胞壁、細胞質膜	安齊洋次郎
11回	細菌の増殖	授業内容：細菌の増殖パターンならびに細菌の増殖条件について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：栄養増殖、増殖曲線、エネルギー源、栄養源、温度、pH、酸素分圧	安齊洋次郎
12回	細菌の遺伝	授業内容：細菌細胞間での遺伝情報の水平伝達について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：接合、形質転換、形質導入	安齊洋次郎
13・14回	感染と発症	授業内容：感染のしくみ、感染症の種類、感染症の現状について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：正常細菌叢、内因感染、外因感染、顕性感染、不顕性感染、感染経路、病原性、ビルレンス因子、新興感染症、再興感染症、輸入感染症、病院内感染症	安齊洋次郎
15回	生体防御機構	授業内容：ヒトの体に備わった感染防御のしくみについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：自然免疫、獲得免疫、液性免疫、細胞性免疫	安齊洋次郎
16・17回	細菌感染症	授業内容：主な細菌感染症とその治療と予防について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：食中毒、肺炎、化膿、抗菌薬、ワクチン	安齊洋次郎
18回	真菌感染症	授業内容：主な真菌感染症とその治療と予防について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：真菌感染症、抗真菌薬	安齊洋次郎
19回	ウイルス感染症	授業内容：主なウイルス感染症とその治療と予防授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：風邪症候群、ウイルス性肝炎、ウイルス性胃腸炎、抗ウイルス薬、ワクチン	安齊洋次郎

20～23回	微生物の実験方法、常在菌と手指衛生	授業内容：顕微鏡の使い方、細菌の培養法、滅菌と消毒、常在菌と手指の消毒について 授業方法：演習 予習：事前に配布された実習テキストを読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：滅菌、消毒、培養手指消毒の効果、細菌の培養、常在菌	安齊洋次郎、五郎丸美智子、福本敦、飯坂洋平
24～27回	細菌の観察、抗菌薬の効果	授業内容：手指の消毒の判定、グラム染色、薬剤感受性試験について 授業方法：演習 予習：事前に配布された実習テキストを読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：グラム染色、抗菌薬、抗菌スペクトラム	安齊洋次郎、五郎丸美智子、福本敦、飯坂洋平

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この科目は、講義形式と演習形式で行います。講義については、１回の授業に対して予習１時間程度、復習１時間程度を費やします。演習については、１回の演習に対して予習30分間程度、復習30分程度を費やします。
指定した教科書や事前に提示された講義資料などを読んでおくこと。
【事後学習】
提示された課題集を利用して講義内容を改めて理解すること。
【学習上の留意点】
事前に配布された講義資料や実習テキストなどをもとに、教科書や参考書を利用し、授業の内容について理解を深めること。更に食中毒や感染症等の微生物に由来する疾病やその他微生物についての新聞報道等に関心を持って接すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（75%）、実習（レポート含む、25%）
＊演習は原則として全日出席しなければならない。

【８】　フィードバック方法

演習レポートはコメントを記入し、後日返却する。定期試験は実施後、解説を掲示する。

【９】　教科書

藤本秀士編『わかる！身につく！ 病原体・感染・免疫（第３版）』（南山堂）

【10】　参考書

杉田隆・安齊洋次郎編　『薬科微生物学（第７版）』（丸善出版）
平松啓一監修　『標準微生物学（第１１版）』（医学書院）
松本哲哉・舘田一博監訳　リッピンコットシリーズ『イラストレイテッド微生物学（原書３版）』（丸善出版）
南嶋洋一・吉田眞一・永淵正法著『系統看護学　専門基礎分野　微生物学（第１２版）』（医学書院）
吉岡充弘・泉　剛・井関健著『系統看護学　専門基礎分野　薬理学（第１３版）』（医学書院）

【11】　備考(関連科目等)

生物学、生化学、薬理学、疫学と公衆衛生、感染看護

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅰ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	蛭田啓之				
担当教員	蛭田啓之・近藤元就・南木敏宏				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（蛭田）講義終了後、非常勤講師室にて20分程度質問を受け付ける。 （近藤）講義終了時、非常勤講師室にて10分程度質問を受け付ける。 （南木）講義終了後、非常勤講師室にて10分程度質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅰでは、病気の理解の基礎づくりのために病理学と免疫学を学習する。

（蛭田啓之／14回）
病理学：概論、各論（先天異常、代謝異常、循環障害、炎症と免疫、感染症、腫瘍、老化と死）
（近藤元就／9回）（南木敏宏／4回）
免疫学：概論、各論（抗原･抗体反応、炎症物質、免疫不全、アレルギー反応、自己免疫、ウイルス）

【３】　到達目標

Ⅰ．病理学（蛭田）

病理学とは「疾病の成り立ち(本質)を解明しようとする基礎医学」と「診断・治療を主体とした臨床医学」にまたがる科目である．ヒトの疾患を分類・整理するためには，病理学の修得が必須である．病理学の理解は，全臨床医学の理解の礎となる．

1. 病理学とは何かを自分の言葉で説明できる ．
2. 臓器・組織の正常と病的状態について説明できる.
3. 種々の病的医学用語や病名に慣れ，病名について総論的に説明できる.
4. 疾病の成り立ちとその形態的・機能的変化を総論的・各論的に説明できる.
5. 循環障害の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
6. 炎症の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
7. 代謝障害の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
8. 腫瘍の概念，発生機序，良悪性の鑑別，命名法について代表的な疾患を挙げて説明できる ．

Ⅱ．免疫学（近藤）

1. 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
2. 抗原・抗体反応を説明できる。
3. 抗原受容体の多様性の成立機序を説明できる。
4. 予防接種の意義を説明できる。
5. 臓器移植時に起きる免疫反応を説明できる。炎症、免疫不全、アレルギーについて概説できる。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

1. 自己免疫疾患について説明できる。
2. 臓器特異的、及び全身性の自己免疫疾患の概略が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	病理学序論・病因論	授業方法：講義．1～8は全てスライド(PowerPoint)と配布資料によって行われる． 内容：細胞傷害，適応と変性，修復を含む． 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：病理，病因，細胞障害，肥大・過形成・化生，変性・壊死，肉芽・瘢痕	蛭田啓之
3・4	腫瘍1	授業方法：講義 内容：腫瘍総論を主体に，臓器ごとの各論をまじえておこなう． 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：腫瘍の病理・病態，腫瘍の病因・疫学，病理診断・治療．	蛭田啓之
5	腫瘍2	授業方法：講義 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
6	腫瘍3	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
7・8	循環障害1	授業方法：講義 内容：循環障害総論を主体に，循環器疾患各論・病因と病態をまじえておこなう． 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：循環障害，血栓・塞栓，虚血・梗塞，出血	蛭田啓之
9・10	循環障害2	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
11・12	炎症・感染症	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：自己免疫性疾患以外の各臓器の炎症性・感染性疾患． 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：炎症，感染症	蛭田啓之
13・14	代謝障害・その他	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：代謝性疾患と炎症． 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：代謝障害	蛭田啓之
15・16	免疫学序論	授業方法：講義 内容：自然免疫と獲得免疫について概説する。また、予防接種の意義を例示する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：　自己と非自己の認識、免疫記憶	近藤元就
17・18	抗原と抗体	授業方法：講義 内容：獲得免疫の中の液性免疫について概説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：抗原―抗体反応、遺伝子再構成	近藤元就
19・20	感染免疫	授業方法：講義 内容：細菌やウイルスなどの病原体感染に対する生体防御反応の仕組みを解説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：終生免疫、ワクチン、ウイルス中和抗体、細胞内寄生菌 、キラーT細胞	近藤元就
21・22	アレルギー	授業方法：講義 内容：病原体から身を守る免疫システムが過剰反応あるいは変調を来たし病的病態になってしまうことをアレルギーと呼んでいる。このようなアレルギーが起る仕組みを解説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：過敏反応、IgE抗体、肥満細胞、ゲル・クームス分類 、アレルゲン	近藤元就

23	移植免疫	授業方法：講義 内容：移植は免疫学視点から輸血と臓器移植に分類される。その移植適否の鍵を握る血液型とHLAの性状、そして拒絶反応の仕組みについて説明する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：血液型、HLA、拒絶反応、臓器移植	近藤元就
24・25	自己免疫疾患（臓器特異的）	授業方法：講義 内容：自己免疫疾患の概略、臓器特異的自己免疫疾患の概略 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：臓器特異的自己免疫疾患	南木敏宏
26・27	自己免疫疾患（全身性）	授業方法：講義 内容：全身性自己免疫疾患の概略 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：全身性自己免疫疾患	南木敏宏

【６】　事前・事後学習とその時間

本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1～2時間程度を必要とする。

Ⅰ．病理学（蛭田）

範囲が非常に広く，全臓器・多くの疾患が対象となっており，臨床各科の講義の基礎となる．事前に解剖・生理学で正常構造・機能を確認しておき，復習にあたっては，各疾患の診断・治療学に関連付けることを心がける．

Ⅱ．免疫学（近藤）

免疫学の理解には、生物学や生化学といった生命科学の基礎全般にわたる広範囲な知識を必要とする。従って、これまでに学んだ知識を整理するためにもそれぞれの教科書に目を通しておくこと。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

自己免疫疾患に関して理解するため、予習1時間程度、復習1時間程度を費やします。

【７】　評価方法・基準

定期試験70%、小テスト・レポート30%。

【８】　フィードバック方法

（蛭田）試験後、特に正答率が低かった問題についてコメントする。

（近藤）免疫学の理解を深めるためのレポートを課し、提出、評価後、フィードバックを行い、理解が充分でない部分の補強を行う。

（南木）試験後、特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

Ⅰ．病理学

系統看護学講座 専門基礎分野：疾病のなりたちと回復の促進[1]　病理学(第5版)，2015，医学書院

教科書以外に，講義の時に配布する資料を使用する．

Ⅱ．免疫学

休み時間の免疫学　第２版　齋藤紀先著　講談社

Ⅲ．自己免疫疾患

看護学テキストNiCE 病態・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病

【10】　参考書

Ⅰ．病理学

豊國，高橋監訳；ロビンス 基礎病理学 原書第９版：丸善出版，東京，2014

坂本，北川，仁木編；標準病理学 第4版：医学書院，東京，2010

深山，小田，坂本他 編；組織病理アトラス 第６版：文光堂，東京，2015

深山編；病理組織マップ＆ガイド:文光堂，2014

坂本，北川，菅野著；組織病理カラーアトラス 第2版：医学書院，東京，2015

Ⅱ．免疫学

熊ノ郷 淳 他 編集 ： 免疫学コア講義　改訂4版　南山堂

宮坂昌之監修：標準免疫学、第４版、医学書院

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

なし

【11】　備考(関連科目等)

Ⅰ．病理学（蛭田）

解剖学・生理学・生化学・免疫学など，正常構造・機能を把握しておくこと．

Ⅱ．免疫学（近藤）

免疫学もまた他の基礎医学科目と同じ様に、その対象範囲は分子レベルから細胞、個体そして疾患へと広範囲で関連科目も多い。1つ1つの基礎知識のみならず全体像を把握するように学ぶことが重要となる。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

自己免疫疾患を理解するためには、免疫学一般の知識が必要である。

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅱ（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅱ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	本村昇				
担当教員	本村昇・清水一寛・大城崇司・松岡克善・根本匡章・榊原隆次・長島誠・松澤康雄				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（本村　昇）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （清水一寛）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （大城崇司）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （松岡克善）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （根本匡章）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （榊原隆次）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （長島　誠）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （松澤康雄）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅱでは、呼吸器の疾患、循環器の疾患、消化器の疾患、脳・神経系の疾患について学習し、知識の習得を目指す。

（本村　昇／２コマ）循環器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（清水一寛／５コマ）循環器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（大城崇司／４コマ）消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松岡克善／４コマ）消化器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（根本匡章／２コマ）脳・神経の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（榊原隆次／４コマ）脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（長島　誠／２コマ）呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松澤康雄／４コマ）呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

●呼吸器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性呼吸器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●循環器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性循環器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術治療の目的と術式の特徴について説明できる。
5.主な手術に伴う身体・臓器の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●消化器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療特徴と管理について説明できる。
3.慢性消化器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●脳・神経系疾患
1.主な疾患の病因と病態、症状と経過、疾患に伴う機能の変化（機能障害）について説明できる。
2.主な検査と診断について説明できる。
3.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
4.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
5.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	循環器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大血管手術の実際 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 【キーワード】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈瘤・大動脈解離手術	本村昇
3・4	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】不整脈、心不全、ショック、高血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞） 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】不整脈、心不全、ショック、高血圧、狭心症、心筋梗塞	清水一寛
5・6	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎	清水一寛
7	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（３）	【内容】大動脈瘤、末梢動脈及び静脈疾患（閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎） 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎	清水一寛
8・9	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】食道癌、胃癌、膵臓癌、胆嚢胆管癌、肝臓癌、結腸癌・直腸癌、胆石･胆嚢炎、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、腹膜炎、各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など 【授業方法】講義 【予習】各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など	大城崇司
10・11	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	上に同じ	大城崇司
12・13	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】食道疾患（逆流性食道炎、食道癌）、胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎） 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】逆流性食道炎、食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎	松岡克善
14・15	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】肝炎及び肝硬変、脂肪肝、胆石及び胆のう炎、膵炎、肝・胆・膵の腫瘍 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆石、胆のう炎、膵炎、肝癌、胆のう癌、膵癌	松岡克善
16・17	脳神経外科疾患と手術	【内容】脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷 【授業方法】講義 【予習】 テキスト（ＮＩＣＥ　疾病・治療論【8】） Ｐ76～第Ⅱ章　1-1. 意識障害 Ｐ208～第Ⅲ章　7-4-1. 機能性疾患 Ｐ83、111　第Ⅱ章　1-2.頭蓋内圧亢進症状、3-1-A.頭蓋内圧に関する考え方 Ｐ84～第Ⅱ章　1-3. 運動機能の障害 Ｐ90～第Ⅱ章　1-4. 知覚障害 余裕があれば以下も予習を 【復習】 Ｐ255～　12. 頭部外傷、 Ｐ123、262　第Ⅲ章　1-3、12-4. くも膜下出血、 Ｐ121　第Ⅲ章　1-2.脳出血、 Ｐ139　第Ⅲ章　2-1.悪性腫瘍、 Ｐ141　第Ⅲ章　2-2.良性腫瘍 【キーワード】 開頭術、穿頭術、経蝶形骨洞手術、脳室腹腔短絡術、脳血管内治療 頭部外傷、くも膜下出血、脳出血、成人の悪性腫瘍、成人の良性腫瘍	根本匡章

18・19	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】神経内科疾患: 救急疾患(脳卒中、髄膜炎、脳炎など)、自己免疫疾患(ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症など)、難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、加齢に伴う疾患(かくれ脳梗塞、アルツハイマー病など)等を扱う。教科書を読んでくるよう。 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】脳卒中、ギラン・バレー症候群、パーキンソン病、アルツハイマー病 ※遠隔授業	榊原隆次
20・21	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	上に同じ	榊原隆次
22・23	呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療	【内容】原発性肺癌、転移性肺癌、自然気胸、続発性気胸、良性肺腫瘍、胸腔鏡手術、術後管理、胸腔ドレーン 【授業方法】講義 【復習】講義毎に提示する。講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】肺癌、気胸、胸腔鏡手術	長島誠
24・25	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】感染症（肺炎、肺結核など）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肺炎、肺結核、肺気腫、気管支喘息	松澤康雄
26・27	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】肺腫瘍、過換気症候群、成人呼吸促迫症候群 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肺癌、過換気症候群、成人呼吸促迫症候群	松澤康雄

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（本村　昇）本授業は心臓血管外科学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることを目標としており、関連内容について予習に2時間程度、復習にも2時間程度を要すると期待する。
（清水一寛）講義内容について教科書を用いて復習を行うこと。
（大城崇司）講義内容については、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松岡克善）講義内容について教科書を用いて復習を行うこと。
（根本匡章）脳神経の解剖生理の基礎知識があれば種々の脳神経疾患に対する脳神経外科手術治療の理解が容易になる。
（榊原隆次）基本的には、講義形式で進め、一部スライド、診察手技の実技を交えながら進める。
（長島　誠）講義内容については、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松澤康雄）特になし

【学習上の留意点】
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。

【７】　評価方法・基準

定期試験　100％

【８】　フィードバック方法

（本村　昇）小レポートを使用。
（清水一寛）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（大城崇司）次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。
（松岡克善）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（根本匡章）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（榊原隆次）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（長島　誠）授業中のテストの結果を詳細に解説する。
（松澤康雄）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。

【９】　教科書

（本村　昇）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（清水一寛）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（大城崇司）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（松岡克善）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（根本匡章）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（榊原隆次）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（長島　誠）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患
（松澤康雄）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患

【10】　参考書

授業中紹介する場合がある。

【11】　備考(関連科目等)

神経解剖・生理・薬理学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ

科目名(日本語)	**薬理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pharmacology	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	田中芳夫				
担当教員	田中芳夫・宮内正二				
科目責任者 連絡先(教室)	・田中芳夫 教室：薬学部薬理学教室 居室：薬学部D館4階（D-408） E-mail: yotanaka@phar.toho-u.ac.jp （電子メールでの問合せの際は、件名に学部・学籍番号を明記すること） ・宮内正二 教室：薬学部薬物薬物動態学教室 居室：薬学部C館7階（C-705） E-mail: seiji.miyauchi@phar.toho-u.ac.jp （電子メールでの問合せの際は、件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	・田中芳夫 講義開講日：13時～13時50分、D-408 ・宮内正二 月・火・水：13時～13時50分、C-705 木・金：在室してれば対応可				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

薬物療法は多用される治療方法のひとつであり、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解することは重要である。そこで本科目では、薬物の作用（薬理作用）、作用機序、作用点や薬効発現あるいは相互作用の要因となる吸収、分布、代謝、排泄など、薬理学の基礎的な知識を学ぶ。また、治療戦略（治療効果）、薬の副作用や禁忌などの薬物治療学的知識を修得する。

【３】　到達目標

1. 薬物治療の意義（有益性）と問題点（危険性）を説明できる。
2. 代表的な薬物の作用点を分類し、その構造的及び機能的な特徴を説明できる。
3. 代表的な疾患に適用される薬物の薬理作用、作用機序、副作用について説明できる。
4. 代表的な薬物相互作用について具体例を挙げて説明できる。
5. 薬物の吸収･分布･代謝･排泄および薬効に影響する因子について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	薬理学総論（１）	【内容】薬物の使用目的、薬の作用点 【授業方法】講義 【予習】教科書p.03～p.13、p.15～p.23を読む。 【復習】章末問題（p.13、p.23）を解く。 【キーワード】薬、薬理学、薬物療法、受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター、作動薬、拮抗薬	田中芳夫
2	薬理学総論（２）	【内容】薬物使用の有益性と危険性、薬と法律 【授業方法】講義 【予習】教科書p.48～p.61を読む 【復習】章末問題（p.54）を解く。 【キーワード】用量反応曲線、主作用、副作用、耐性、薬物依存	田中芳夫
3	末梢神経系作用薬（１）	【内容】交感神経作用薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.137～p.148を読む。 【復習】章末問題（p.155～p.156）を解く。 【キーワード】交感神経作用薬	田中芳夫
4	末梢神経系作用薬（２）	【内容】副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.148～p.155を読む。 【復習】章末問題（p.155～p.156）を解く。 【キーワード】副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬	田中芳夫
5	中枢神経系作用薬（１）	【内容】全身麻酔薬、睡眠薬・抗不安薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.157～p.171を読む 【復習】章末問題（p.188）を解く。 【キーワード】全身麻酔薬、ベンゾジアゼピン系薬、GABA受容体	田中芳夫
6	中枢神経系作用薬（２）	【内容】抗精神病薬、抗うつ薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.172～p.177を読む 【復習】章末問題（p.188）を解く。 【キーワード】定型薬、非定型薬、SSRI	田中芳夫
7	中枢神経系作用薬（３）	【内容】パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.177～p.181を読む。 【復習】章末問題（p.188）を解く。 【キーワード】レボドパ、バルプロ酸	田中芳夫
8	中枢神経系作用薬（４）	【内容】麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.181～p.187を読む。 【復習】章末問題（p.188）を解く。 【キーワード】アヘンアルカロイド、トリプタン系薬	田中芳夫
9	循環器系に作用する薬物（１）	【内容】抗高血圧薬、狭心症治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.189～p.200を読む。 【復習】章末問題（p.227）を解く。 【キーワード】カルシウム拮抗薬、ACE阻害薬、ARB	田中芳夫
10	循環器系に作用する薬物（２）	【内容】心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.201～p.213を読む。 【復習】章末問題（p.227～p.228）を解く。 【キーワード】強心薬、ボーン=ウィリアムズ分類、ループ利尿薬	田中芳夫
11	循環器系に作用する薬物（３）	【内容】脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.213～p.228を読む。 【復習】章末問題（p.228）を解く。 【キーワード】スタチン系薬、貧血治療薬、造血因子関連薬、白血病治療薬、抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬、止血薬	田中芳夫
12	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（１）	【内容】呼吸器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.229～p.234を読む。 【復習】章末問題（p.247～248）を解く。 【キーワード】気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬	田中芳夫
13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（２）	【内容】消化器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.234～p.241を読む。 【復習】章末問題（p.247～248）を解く。 【キーワード】消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬、下剤	田中芳夫
14	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（３）	【内容】生殖器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.241～p.247を読む。 【復習】章末問題（p.247～248）を解く。 【キーワード】性ホルモン関連薬、排尿障害治療薬、前立腺肥大症治療薬	田中芳夫

15	物質代謝に作用する薬物（１）	【内容】ホルモンとホルモン拮抗薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.249～p.256を読む。 【復習】章末問題（p.264）を解く。 【キーワード】糖尿病治療薬	田中芳夫
16	物質代謝に作用する薬物（２）	【内容】ホルモンとホルモン拮抗薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.256～p.264を読む。 【復習】章末問題（p.264）を解く。 【キーワード】抗甲状腺薬、視床下部ホルモン、脳下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬、ビタミン製剤	田中芳夫
17	抗アレルギー薬・抗炎症薬（１）	【内容】抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.121～p.133を読む。 【復習】章末問題（p.136）を解く。 【キーワード】H1受容体遮断薬、抗アレルギー薬、NSAIDs、副腎皮質ステロイド薬	田中芳夫
18	抗アレルギー薬・抗炎症薬（２）	【内容】関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.133～p.136を読む。 【復習】章末問題（p.136）を解く。 【キーワード】抗リウマチ薬、分子標的薬、尿酸生成抑制薬、尿酸排泄促進薬	田中芳夫
19	抗感染症薬	【内容】感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、特殊な感染症の治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.65～p.92を読む 【復習】章末問題（p.93）を解く。 【キーワード】βラクタム系抗菌薬、アミノグリコシド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、ニューキノロン系抗菌薬、サルファ薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	田中芳夫
20	抗がん薬・免疫治療薬	【内容】抗がん薬各論、免疫治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.95～p.108、p.109～p.120を読む 【復習】章末問題（p.108、p.120）を解く。 【キーワード】アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質、植物アルカロイド、性ホルモン代用薬及び性ホルモン拮抗薬、分子標的薬、免疫抑制薬、免疫増強薬	田中芳夫
21	薬の体内の挙動（１）	【内容】薬物の投与経路、薬物の吸収、薬物の分布（１） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.23～p.32を読む。 【復習】章末問題（p.40 ①～④）を解く。 【キーワード】ADME、投与経路、受動拡散、トランスポーター、初回通過効果、バイオアベイラビリティ、タンパク結合、血中濃度時間曲線下面積（AUC）	宮内正二
22	薬の体内の挙動（２）	【内容】薬物の投与経路、薬物の吸収、薬物の分布（２） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.23～p.32を読む。 【復習】章末問題（p.40 ①～④）を解く。 【キーワード】ADME、投与経路、受動拡散、トランスポーター、初回通過効果、バイオアベイラビリティ、タンパク結合、血中濃度時間曲線下面積（AUC）	宮内正二
23	薬の体内の挙動（３）	【内容】薬物の代謝と排泄（１） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.32～p.36を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】１次反応速度論、肝代謝、シトクロムP450、遺伝子多型、胆汁排泄、尿中排泄、糸球体濾過	宮内正二
24	薬の体内の挙動（４）	【内容】薬物の代謝と排泄（２） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.32～p.36を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】１次反応速度論、肝代謝、シトクロムP450、遺伝子多型、胆汁排泄、尿中排泄、糸球体濾過	宮内正二
25	薬の体内の挙動（５）	【内容】治療において重要となる薬物動態の指標（動態学的パラメータ）（１） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.37～p.40を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態血中濃度、TDM	宮内正二
26	薬の体内の挙動（６）	【内容】治療において重要となる薬物動態の指標（動態学的パラメータ）（２） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.37～p.40を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態血中濃度、TDM	宮内正二

27	薬の体内の挙動（７）	【内容】薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子 【授業方法】講義 【予習】教科書p.40～p.48を読む 【復習】章末問題（p.44、p.48）を解く。 【キーワード】薬物動態学的相互作用、遺伝子多型、薬力学的相互作用	宮内正二

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・薬理学では、薬物治療の基礎と応用を幅広く学びます。また、化学、生物学、解剖学、生理学、病理学など他の学問領域とも密接に関連しています。従って、基本的な知識や考え方を効果的かつ体系的に身につけるためには、講義には必ず出席してこれを上手く活用することが必要です。
・講義を受講する前には、学習する内容を指定する教科書の該当範囲で予め調べて、アウトラインを理解しておいてください。特に、授業計画で示されたキーワードの意味を理解しておいてください。
・予習には1～2時間を費やします。

【事後学習】
・受講後は必ず復習を行い、学んだ知識や考え方の確認をするとともに、講義の受講だけでは理解が不十分だった項目を教科書や参考書を使って疑問点を解消してください。
・特に、授業計画で示されたキーワードを中心に復習し、授業で解説した代表的な治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解してください。
・指定教科書の章末問題（ゼミナール：復習と課題）にも取り組んでください。取組む章末問題は予め指定します。
・復習には1～2時間を費やします。

【学習上の留意点】
・講義に関する資料や章末問題の正答な等、学習に必要なものはMoodle（東邦大学 eラーニングサイト）にアップしますので、有効に活用してください。

【７】　評価方法・基準

・MCQ（多項選択式問題）による出題に基づく定期試験を実施し、その点数に基づいて成績を評価します。

・科目担当者の点数配分は次の通りとします。田中芳夫：70%、宮内正二：30%。

【８】　フィードバック方法

・定期試験の正答と簡単な講評を公表します。

【９】　教科書

・授業で使用する指定教科書は下記のとおりです。
「系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進［3］薬理学 第14版」
吉岡充弘・泉剛・井関健（医学書院　2018年）

【10】　参考書

・「はじめる！つかえる！看護のための薬理学」時政孝行　著（南山堂）
・「休み時間のワークブック薬理学」柳澤輝行・小橋史　編（講談社）
・「薬理学をおもしろく学ぶ」内田直樹・肥田典子　著（サイオ出版）
・「ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学」古川裕之・赤瀬智子・林正健二・大西弘高　編（メディカ出版）

【11】　備考(関連科目等)

・予め学んでおくと良い科目：「生物学」、「化学」、「人体の構造と機能」
・この科目に続く内容の科目：「病態と治療」
・関連性の高い科目：「薬剤学」

科目名(日本語)	**臨床遺伝学（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Genetics	選択	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	久保田宗一郎				
担当教員	久保田宗一郎				
科目責任者 連絡先(教室)	初講にて、メールアドレスが記載されたレジメを配布するので、問合せ等は基本メールでお願いする				
オフィスアワー	月・13時～16時〔理学部Ｉ号館３階1302A室〕				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

遺伝学は、生物の遺伝現象を究明する学問であり、臨床遺伝学は、遺伝性の病態、疾患について究明する学問である。本科目では、生物の形質の伝達、発現の様式と機構など遺伝学の基礎を学び、遺伝性疾患の病態、遺伝子検査、遺伝に関わる倫理課題などの理解を深める。さらに、臨床遺伝学の現状と展望について考察する。

【３】　到達目標

1.社会通念として存在するヒト遺伝学を再認識し、その論拠となる遺伝学的論拠を説明できる。
2.メンデルの遺伝学を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
3.近代分子生物学の発展が、遺伝子とは何かを導き出した。この遺伝子とは何かの論拠となる実験を説明できる。
4.遺伝子であるDNAの複製様式を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
5.染色体の役割と、細胞周期、生活環との関連を理解し、その体細胞分裂と減数分裂の違いを説明できる。
6.ヒトゲノムと染色体異常、遺伝子量補正について理解し、性分化について説明できる。
7.遺伝性疾患の病態や遺伝子検査など、遺伝と疾患、またその倫理課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	異母兄弟は結婚できる？-1	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
2	異母兄弟は結婚できる？-2	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
3	メンデル性遺伝-1	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
4	メンデル性遺伝-2	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
5	遺伝物質-1	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
6	遺伝物質-2	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
7	細胞周期とDNA複製-1	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
8	細胞周期とDNA複製-2	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
9	体細胞分裂と減数分裂	内容：体細胞分裂と減数分裂の詳細を理解し、二つの分裂の違いを学修する。 授業方法：講義形式 予習：体細胞分裂と減数分裂の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：組み換え率の計算問題を解いてくる。 キーワード：染色体	久保田宗一郎
10	性染色体と伴性遺伝	内容：性染色体と伴性遺伝を理解し、性決定の仕組みと性染色体と遺伝病の関係を学修する。 授業方法：講義形式 予習：性染色体の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：伴性遺伝に関する問題を解いてくる。 キーワード：性	久保田宗一郎
11	ヒトゲノムと遺伝病-1	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎

12	ヒトゲノムと遺伝病-2	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎
13	遺伝子量補償-1	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、Ｘ染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：Ｘ染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：Ｘ染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎
14	遺伝子量補償-2	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、Ｘ染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：Ｘ染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：Ｘ染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎

【６】　事前・事後学習とその時間

高校生物の関連分野を予め復習してから講義に臨む。また、講義の復習は配布プリントを中心に、各自が関連する文献を用いて行う。この授業には、予習60分程度、復習90分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準

試験（講義配付資料とノート持ち込み可）と講義中に課題を出し評価する。試験（８０%）、課題（２０%）

【８】　フィードバック方法

試験の後、試験問題の模範解答の解説によるフィードバック行う。

【９】　教科書

指定教科書：遺伝医学への招待・改訂第６版（新川詔夫/太田亨著、南江堂）
資料（プリント等）は講義中に配布する

【10】　参考書

「クロー遺伝学概説・第８版」（木村資生他訳、培風館）
「分子遺伝学」（三浦謹一郎編、裳華房）「細胞遺伝学」（佐々木本道編、裳華房）
「一目でわかる臨床遺伝学・第２版」（古関明彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル）他

【11】　備考(関連科目等)

生物学入門、生物学、生化学、疾病と治療Ⅴ

科目名(日本語)	**臨床心理学（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Psycology	選択	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	松﨑淳人				
担当教員	松﨑淳人、若林聖子				
科目責任者 連絡先(教室)	松﨑淳人：matsuzaki@med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	TEL連絡の場合は平日１０時～１５時まで東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック2286迄連絡（随時メールでの質問を受け付ける。事前にメール連絡してからTELすること）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ムードル

【２】　授業概要

臨床心理学は、人が日々接する様々な現象を“心”の視点から説明する心理学の一分野として、“ヒトとヒトが向かい合うことで生じた問題”を改善する方法を研究し体系化した学問である。本講義では、まず心理学の基礎知識を概観し、次に臨床心理学の基礎を学び、臨床現場で求められる事象の解決方法を習得する。

【３】　到達目標

1.看護学生として医療のみならず一般的な心理課題を抱えた人に対し適切な接し方についてのカウンセリングの原則が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	授業オリエンテーション並びにコミュニケーション理論とその医療現場への応用	内容： 1）授業オリエンテーション 2）対人関係のコミュニケーション 理論＞発達理論・コミュニケーション理論・ライフサイクル理論 医学的側面＞発達障害と臨床 文化・言語側面＞ 異文化コミュニケーション 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：対人関係 ミニッツペーパー、課題提示	松﨑淳人
3・4	精神分析理論とその周辺	内容：精神分析理論とその関連分野 古典的精神分析療法 精神分析的精神療法 交流分析、エゴグラム（標準型精神分析療法） 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：精神療法 ミニッツペーパー	松﨑淳人
5・6	各種カウンセリング理論	内容：各種カウンセリング理論の紹介とその実践状況 ブリーフサイコセラピー 認知療法、行動療法、認知行動療法 解決指向型アプローチ 積極的傾聴法 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：ブリーフサイコセラピー ミニテスト、ミニッツペーパー、課題提示	松﨑淳人
7・8	看護現場と臨床心理学	内容：患者の心理を理解して看護するために必要な臨床心理学的知識とその応用 力動的理解（精神分析） 文脈的理解（ナラティブ・ベイスド・メディスン） 異文化的理解（異文化・他言語） 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：看護師による看護師のための臨床心理学 ICT：「臨床の現場で臨床心理学生涯教育を実践する為に必要な国内国外WEB情報利用の利点とその注意点について」WEB空間を共有しながら、講義を行なう。 リアクションペーパー	松﨑淳人　ゲストスピーカー（白川忍）
9・10	心理アセスメント技法１	内容：心理アセスメント概論 知能検査 授業方法：講義、演習（摸擬症例をもちいて授業中に実施を体験する） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達検査、知能検査、臨床心理士と看護師との多職種連携 ミニテスト、リアクションペーパー	若林聖子
11・12	パーソナリティ理論	内容：パーソナリティ障害とその臨床 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：パーソナリティ障害 ミニッツペーパー	松﨑淳人
13・14	心理アセスメント技法２と総括	内容：投影法、質問紙法によるアセスメント 授業方法：講義、演習 臨床心理学総括 予習・：講義毎に提示する キーワード：投影法、質問紙法 リアクションペーパー	松﨑淳人

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はオリエンテーション時を除き、授業内容の理解を促進するために予習を３０分程度、授業内容の整理と記憶の定着のために復習を１時間程度費やす。

【7】　評価方法・基準

成績評価対象課題１　３０％　　小テスト１　　３５％　　小テスト２　　３５％

【8】　フィードバック方法

小テストの結果にコメントする。

【9】　教科書

下田晴彦（編）よくわかる臨床心理学　ミネルバ書房　2009

【10】　参考書

米国精神医学会　DSM－５精神疾患の診断・統計マニュアル　医学書院　2014

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：コミュニケーション論、心理学
この科目に続く内容の科目：精神看護学概論

科目名(日本語)	**看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立篤子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護学の主要な概念である人間・健康・環境、社会、看護、擁護に関連する基本的な考え方、看護独自の機能と役割、活動方法など看護学の基礎知識を学ぶ。さらに、看護の歴史的変遷から看護の本質と展望について考察する。

【３】　到達目標

1. 先達の看護の理論家にみる看護の定義を述べることができる。
2. 「健康」の概念について述べることができる。
3. 看護実践に関わる法的枠組みについて述べることができる。
4. 看護の歴史を概観し、その変遷について述べることができる。
5. 看護の役割と機能について
   a. 「看護ケア」について述べることができる。
   b. 看護実践と質基準について述べることができる。
   c. 現代社会における疾病構造の変化と看護について述べることができる。
   d. 看護活動について述べることができる。
6. 看護の対象理解
   a. 人体の構造と機能・病態との関連について述べることができる。
   b. 成長・発達する人間、生活者としての人間について述べることができる。
   c. 看護の対象としての家族や集団、地域における看護について述べることができる。
   d. 災害医療における看護について述べることができる。
   e. グローバル化におけるダイバーシティと看護について述べることができる。
   f. 人間の危機理論について述べることができる。
   g. コーピング理論について述べることができる。
   h. 人間のニードに関する理論を述べることができる。
7. 看護実践と倫理について述べることができる。
8. 看護の継続性と情報共有について
   a. 入院にまつわる情報共有のあり方について述べることができる。
   b. 多職種連携・協働における看護職の役割について述べることができる。
   c. 地域基盤の看護とその継続性について述べることができる。
9. 看護管理の目的と医療安全の考え方について述べることができる。
10. 科学的根拠に基づく看護実践と看護学の発展について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	看護とは（1）	内容： １．看護の定義 ２．健康の概念 ３．看護職と法 方法：講義 予習：健康科学概論で学んだことを復習する。 テキストⅠ章-1、Ⅱ章-3、Ⅳ章-4を読む。 復習：授業の内容を整理する。 キーワード：看護理論家、（ナイチンゲール、ヘンダーソン）、健康観、健康の諸相、健康の段階と健康目標、看護職能団体、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の倫理綱領	尾立篤子
3・4回	看護とは　(2)	内容： １．看護専門職の始まりと発展 ２．看護の質保証の取りくみの変遷 ３．看護学の発展 方法：講義 予習：テキストⅠ章-2、Ⅷ章-2を読む。 復習：授業の内容を整理する。 キーワード：看護の機能、社会、環境、職業人、専門職、看護活動、看護学、実践の科学、教育方法、看護教育制度の変遷、基本技術、看護の施策、看護のエビデンス、看護研究	尾立篤子
5・6回	看護の対象（1）	内容： １．成長・発達する人間 ２．人間と環境 ３．生活者としての人間 ４．家族と看護 ５．集団・地域と健康 方法：講義 予習：１・2回目の授業の復習をして臨む。 テキストⅡ章-1・2・4・5・6・7を読む。 復習：学んだことの整理をする。 キーワード：ホメオスタシス、防衛機制、エリクソン、ピアジェ、発達段階、発達課題、生活、基本的欲求、マスローの欲求階層、超高齢社会と人口減少、災害サイクル、ダイバーシティ	尾立篤子
7・8回	看護の対象（2）	内容： １．自己と他者 ２．ストレス、コーピング ３．セクシュアリティ ４．スピリチュアリティ 方法：講義 予習：健康科学概論で既習した内容を復習して授業に臨む。 テキストⅢ章を読む。 復習：学んだことの整理をする。 キーワード： アイデンティティ、ストレス、コーピング、ライフイベント、ソーシャルサポート、セクシュアリティ、ジェンダー、スピリチュアルケア	尾立篤子
9・10回	看護の機能と役割（1）	内容： １．看護実践と倫理 ２．医療専門職の倫理規定 ３．保健医療福祉システムと看護 方法：グループワーク（5～6回目の授業内容を含めた内容） 予習：４回目の授業時に提示されたグループワークに関する準備をして授業に臨む。テキストⅣ章-3を読む。 復習：次回の発表に向けて準備をする。 キーワード：、守秘義務の遵守、基本的人権の擁護（インフォームドコンセント・ノーマライゼーション・自己決定権・個人情報の保護）、福祉制度、包括的保健医療提供システム	尾立篤子
11・12回	看護の機能と役割（2）	内容： １．看護実践とクリティカルシンキング ２．看護過程 ３．看護実践の展開 ４．看護情報管理 方法：発表～全体討議 予習：グループ発表ができるよう準備する。テキストⅣ章-5・6、Ⅴ章を読む。 復習：発表・討議内容をまとめる。 キーワード：クリティカルシンキング、看護研究と実践、看護アセスメント、看護実践の展開、看護記録、医療保険制度（医療保険の種類、国民皆保険、国民医療費、高齢者保険制度、給付の内容） 介護保険制度（保険者、被保険者、給付の内容、要介護認定） 基本的人権の擁護（個人の尊厳、患者の権利、自己決定権と患者の意思、インフォームド・コンセント、ノーマライゼーション、情報管理）	尾立篤子

13・14回	看護管理、看護の展望	内容： １．看護管理の目的と過程 ２．サービスとしての看護 ３．医療の質と安全 ４　医療事故と看護職の責務 ５．多職種連携・協働と看護職の役割 ６．看護・看護学の展望と課題 方法：講義、質疑応答（全体討議） 予習：テキストⅣ章-2、Ⅵ章、Ⅷ章-3・4を読む 復習：課題レポートをまとめる。 キーワード：サービス、医療安全と医療の質、安全文化、ヒューマンエラー、インシデント、リスクマネジメント、チーム医療、コンピテンシー	尾立篤子

【６】　事前・事後学習とその時間

看護学全般に関連する科目であることから、キーワードについて検索して予習し受講すると共に、毎回の講義の内容を復習して整理して下さい。この予習・復習は学習目標の達成に着目して進めてください。これらに費やす時間はおおよそ1～2時間程度です。

【７】　評価方法・基準

課題レポート、小テストを総合して評価する。評価の割合は課題レポート80%、小テスト20%とする。

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【９】　教科書

髙橋照子 著:看護学テキスト NiCE 看護学原論 改訂第3版 看護の本質的理解と創造性を育むために 南江堂 2020
ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槙ます訳：『看護の基本となるもの』
Florence Nightingale　著　湯槙ます訳：『看護覚え書』　現代社

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学に関する科目全般

科目名(日本語)	**臨床看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Clinical Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	山本利江				
担当教員	山本利江（K333）、浅野美知恵（K318）、高橋良幸（K312）				
科目責任者 連絡先(教室)	山本利江（K333）				
オフィスアワー	授業開講日13時～13時50分 授業担当者。メールでの質問も受け付ける。 山本　利江（K333） 浅野美知恵（K318）michie.asno@hs.toho-u.ac.jp 髙橋　良幸（K312）y.takahashi@he.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

臨床看護は、看護が提供される場（臨床）において行われる看護実践を意味し、看護の専門領域の実践の基盤ともなる。本科目では、臨床における看護の対象である人々（主に成人期にある人）の健康問題に応じた看護の特徴、看護職の役割、看護の主要な理論・概念について、基礎知識と援助方法について学ぶ。

【３】　到達目標

1.人間の一生全体をとらえ、そのなかの成人期の特徴が説明できる
2.青年期の健康問題が3つ以上あげられる
3.壮年期・中年期の健康問題が3つ以上あげられる
4.健康の成立要因と、健康をおびやかす要因が5つ以上あげられる
5.ヘルスプロモーションのための看護のポイントがあげられる
6.健康生活の急激な破綻から回復を促す看護のポイントがあげられる
7.健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護のポイントがあげられる
8.障害がある人の生活とリハビリテーションの看護のポイントがあげられる
9.人生最後の時を支える看護のポイントがあげられる
10.手術療法を受ける患者の看護のポイントがあげられる
11.化学療法・放射線療法を受ける患者の看護のポイントがあげられる
12.臨床看護における看護職の役割が説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	臨床看護と看護師の役割	内容： 臨床看護の現実と、現場感覚に根ざした看護活動のイメージ形成 看護の視点からみた、成人にとっての療養生活の意味 授業方法：　講義 予習：成人の条件を辞書で調べ、日本国憲法を読み、成人期の国民の義務と権利を説明する 復習：これまでの看護の学習内容との共通点と相違点を整理し文章化する キーワード：　臨床現場　臨床看護　療養生活	山本　利江
2	成人各期の特徴と健康問題 (1) 青年期	内容: 人間の一生を俯瞰 成人期の特徴 成人の生活と労働 成人の生活と家族 青年期の健康問題と健康支援 授業方法：　講義 予習：国民衛生の動向に記載の成人に関わる部分を調べる。 復習：1.国民衛生の動向から青年期の健康問題についてのデータ検索 2.青年期の健康の特徴のポイントをあげ、青年期にある自分自身の健康状態を説明 キーワード：　大人　生活　労働　家族発達課題　死因　受療率	山本　利江
3・4	成人各期の特徴と健康問題 (2) 壮年期・中年期	内容： 壮年期・中年期の健康問題 壮年期・中年期の健康支援 生活習慣病とその予防対策 授業方法：講義 予習：国民衛生の動向から壮年期・向老期の健康問題についてのデータ検索 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：発達課題　死因　受療率　生活習慣病	山本　利江
5	健康レベルに応じた看護 (1) セルフケア能力発揮のおびやかしへの看護	内容： ヘルスプロモーションと看護 健康をおびやかす要因と看護 感染症と看護 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、自分の生活習慣について改善すべき点を見つける 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：　ヘルスプロモーション　健康行動　健康づくり　健康バランス要因　ストレス　飲酒・喫煙　肥満　生活環境　感染症セルフケア　行動変化ステージ	山本　利江
6・7	健康レベルに応じた看護 (2) 急性期看護	内容： 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 治療過程と看護援助 意思決定支援、救急医療を必要とする患者の家族支援 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、危機モデルについて調べる 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：　生命危機　危機介入　合併症　急性疼痛　疼痛コントロール　合併症予防　家族支援　意思決定支援	山本　利江
8・9	健康レベルに応じた看護 (3) 慢性期看護	内容： 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 学習者である患者への支援 ストレスと看護 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、オレムのセルフケアおよびバンデューラの自己効力感について調べる 復習：　授業中に学習課題を提示する キーワード：　病みの軌跡　セルフマネジメント　エンパワーメント・エデュケーション　コンプライアンス	高橋　良幸
10	健康レベルに応じた看護 (4) QOL追求の看護	内容： 障害がある人の生活とリハビリテーションの看護 退院支援 人生最後の時を支える看護 症状マネジメント 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、トータルペインについて調べる 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：障害受容、ボディイメージ、リハビリテーション　退院支援、援緩和ケア、トータルペイン、デス・エデュケー	高橋　良幸

		ション、予期的悲嘆、症状マネジメント	
11・12	治療と看護（1）がん看護	内容： 放射線療法を受ける患者の看護 化学療法を受ける患者の看護 新たな治療法と看護 看護におけるマネジメントと倫理的判断 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード： 放射線療法、化学療法　低侵襲性医療　先端医療 患者看護師関係　チームアプローチ　リスクマネジメント 倫理的判断	浅野　美知恵
13・14	治療と看護（2）手術をめぐる看護	内容： 手術療法を受ける患者看護 手術侵襲と生体反応 術後合併症と予防のための看護 手術を受ける患者の心理 臨床看護の展望 授業方法：講義 予習：手術侵襲について調べる 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：周手術期、手術侵襲、術後合併症、術前看護、 手術室看護、術後看護、継続看護	山本　利江

【６】　事前・事後学習とその時間

予習・復習に60分程度を要する。この授業は主に成人期にある人の健康について学ぶ科目である。成人期には講義に参加する学生やその家族の方々の多くが対象として含まれる。講義に参加するにあたっては単純に知識を学習するのでなく自分の回りにいる多くの方々の生活をイメージしながら健康問題を考えることを期待している。

【７】　評価方法・基準

定期試験　70%　課題レポート・課題30%

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解について全体にコメントする。

【９】　教科書

小松浩子ほか：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論,　医学書院

【10】　参考書

適宜提示する。

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論　トランスレーショナルへの挑戦　看護理論　機能障害のある患者への看護
周手術期・急性重症患者看護　がん看護・緩和ケア　発達看護論　健康科学概論
コミュニティヘルス看護概論　看護実践の基礎　臨床実践Ⅰ　臨床実践Ⅱ　臨床実践Ⅲ

科目名(日本語)	**看護理論・看護展開論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory・Nursing Process	必修	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立 篤子、山本 利江、蜂ヶ崎 令子、宮崎 裕子、松浦 麻子、鈴木 俊美、水流添 秀行、林 京子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立 篤子（研究室K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの質問も可能。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

看護実践の基盤となる主要な看護理論の歴史的変遷、特徴、背景、構成要素、看護の主要概念（人間、健康、環境／社会、看護）との関連、実践への適用と課題などを分析的に学び、看護理論の理解を深める。

科学的根拠に基づき、対象の個別性に配慮した看護実践を行うための基本として看護展開の思考過程を学修する。まず、基本的な看護理論/概念を基盤に、疾病・治療・療養環境と対象の生活とが相互に及ぼす影響を理解する。その上で、有効な理論/概念を適用しながら、情報の収集・分析、看護計画の立案・実施・評価する一連の思考過程を修得する。

【3】　到達目標

1. 看護理論の定義と構成要素を説明できる。
2. ナイチンゲールの看護理論について看護の主要概念を用いて説明できる。
3. ニード論の特徴と実践への適用方法を具体的に説明できる。
4. ヘンダーソンの看護理論について具体的に説明できる。
5. 看護過程とは何かを理解し、目的・方法が説明できる。
6. 看護過程の構成要素の定義と意味が説明できる。
7. 情報収集の視点をもとに対象の健康に関する情報を整理できる。
8. 収集したデータベースをもとにニードの充足・未充足やパターンの障害が判断できる。
9. 関連図・全体像を描ける。
10. 系統的アセスメントにより看護が解決すべき問題を抽出し記述できる。
11. 対象の健康に資する看護援助を計画・立案・評価ができる。
12. 対象理解に必要な基礎知識（疾患、薬、検査、発達段階など）を自己学習できる。
13. 論理的に看護プロセスを思考し記述できる。
14. 看護理論の実践への適用における倫理的課題と対応について論述できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	看護理論:概説	内容 科目オリエンテーション 1. 看護理論の変遷 2. 看護理論の定義と構成要素 3. 看護理論の概要 方法：講義 予習：テキストの指定された範囲をよんでおく 復習：授業内容について資料、関連文献等を用いて課題シートに整理し提出する(課題シートの詳細は講義で示す) キーワード：理論、概念、定義、看護モデル、体系的、看護の現象、看護理論の範囲、看護理論家、構成要素、主要概念（人間、健康、環境／社会、看護）、健康、療養環境、回復過程、観察、専門職	尾立 篤子
2・3回	ナイチンゲール看護論（1）	内容： 1.ナイチンゲールの歴史 方法：講義 予習：『看護覚え書』を読んでおく 復習：講義中に示された事項について情報を整理しておく キーワード：療養環境、自然治癒力、回復過程	山本 利江
4・5回	ナイチンゲール看護論（2）	内容： 1.ナイチンゲール看護論 2.ナイチンゲール看護論の実践への活用 方法：講義 予習：前回の講義で示されたキーワードについて調べる 復習：講義で配布したワークシートを完成させて提出（課題） キーワード：自然、生活、生命力	山本 利江
6・7回	ニード論（1）	内容： 1.生理学的中範囲理論 2.ニード論概説 方法：講義 予習：事前に示された論文を読んでおく 復習：講義中に示された課題について情報を整理しておく キーワード：メタ理論、大看護理論、実践理論、中範囲理論、概念分析	尾立 篤子
8・9回	ニード論（2）	内容： 1.人間の基本的欲求、動機付け 2.マズローの欲求５段階説 方法：講義 予習：事前に示された論文を読んでおく 復習：講義で配布したワークシートを完成させ提出する（課題） キーワード：マズロー、マレー、アブデラ、生理的ニード、安全ニード、自己実現のニード	尾立 篤子
10・11回	ヘンダーソン看護論（1）	内容 1.ヘンダーソンの歴史 2.ヘンダーソン看護論について分析 方法：講義 予習：『看護の基本となるもの』を読む 復習：人間の基本的欲求、看護の独自機能について整理する(課題) キーワード：ニード、基本的欲求、欲求の階層、動機づけ、自己実現、患者中心の看護	尾立 篤子
12・13回	ヘンダーソン看護論（2）	内容 1. ヘンダーソン看護論の実践への適用方法 2. ヘンダーソン看護論の実践への展望 方法：講義 予習：ワークシートに記載する 復習：授業内容に基づいてワークシートを完成させ、課題についてレポートを提出する（課題の詳細は講義で示す） キーワード：ニード充足、看護の実践方法、看護の役割、看護診断、倫理的課題	尾立 篤子
14回	看護過程とは	内容： 1. オリエンテーション 2. 看護過程の意義、目的、考え方を学ぶ 3. 事例の提示 方法：講義 予習：科目オリエンテーション（Moodle）の視聴 復習：疾患、発達段階の学修 キーワード：看護展開、看護過程	蜂ヶ崎 令子
15回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（1）	内容：患者の情報を、「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」、「基本的欲求を変容させる病理的状態」に分類し整理する 方法：講義 患者の情報を、14項目の基本的欲求の状態ごとに分類し、整理する 予習：ワークシート①科学的根拠の自己学習、②患者の基本情報の整理 復習：科学的根拠および患者の基本情報の整理についてワークシート①②を用いて調べて深める キーワード：基本的欲求、常在条件、病理的状態、発達段階、疾患の特性、健康と生活	蜂ヶ崎 令子

16回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（2）	内容：14項目ごとに基本的欲求の充足・未充足を判断する(データベース・アセスメント) 「常在条件」「病理的状態」「基本的欲求の状態」の3側面から対象の全体像を記述する 方法：講義 予習：ワークシート③情報の分類と解釈 復習：情報の分類と解釈についてワークシート③の記載を通して深める ワークシート③全体像を記述する キーワード：14項目の基本的欲求、情報収集、基本的欲求の充足・未充足、アセスメント、全体像	蜂ヶ崎 令子
17・18回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（3）	内容：全体像と関連図の記述 方法：講義 患者の問題点の描出 予習：ワークシート③患者の全体像、④関連図 復習：患者の全体像および関連図についてワークシート③の記載を通して深める キーワード：分析、解釈、全体像、看護上の問題	蜂ヶ崎 令子
19・20回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（4）	内容：データベース・アセスメントを統合し、基本的欲求の未充足状態の原因・誘引を科学的思考に基づいて系統的に分析・解釈する 看護上の問題をリストアップする 方法：講義 予習：ワークシート⑤系統的アセスメントと問題の明確化、⑥看護問題リスト 復習：系統的アセスメント、問題の明確化、看護問題リストについてワークシート⑤の記載を通して深める キーワード：看護アセスメント、科学的根拠、看護上の問題、優先度	蜂ヶ崎 令子
21・22回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（5）	内容：看護上の問題をリストアップし、優先順位をつける 看護方針を考える 看護上の問題を描出し看護目標を明確にする 方法：講義・グループワーク 予習：これまでの看護の過程を振り返っておく 復習：ワークシート「目標と看護計画」展開した以外の問題について計画を立てておく キーワード：看護上の問題、看護目標、援助計画	蜂ヶ崎 令子、宮崎裕子、松浦麻子、鈴木俊美、水流添秀行、林京子
23・24回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法（6）	内容：目標の設定 具体的な看護援助計画を立案する 方法：講義・グループワーク 予習：具体的な看護援助の種類や方法を、自分なりに調べてみる（看護roo!などを参照） 復習：授業で行った項目以外の問題に対し、一人で援助計画を立案する キーワード：期待される結果、中位目標、看護技術、OP、TP、EP	蜂ヶ崎 令子、宮崎裕子、松浦麻子、鈴木俊美、水流添秀行、林京子
25・26回	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開	内容：看護援助計画の実施と評価 再アセスメント看護計画の修正 看護過程の展開のまとめ 方法：講義 予習：すべてのワークシートを復習しておく 復習：自分が理解が不十分であるところを明確にしておく キーワード：看護記録、SOAP、看護展開とは	蜂ヶ崎 令子
27回	看護過程の展開のまとめ	内容：看護過程の展開の全体講評 方法：講義、ディスカッション 予習：課題や不明な点についてまとめておく 復習：すべてのワークシートを見直し完成させる	蜂ヶ崎 令子

【６】　事前・事後学習とその時間

本授業の前半では看護理論を理解することをとおして看護を探究し自らの看護観を深めることをねらっているため、看護理論の関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。
看護理論に関しては、関連の書籍を活用して予習・復習をして臨むこと。

また後半は看護実践に大切な看護過程の考え方を事例（ペーパーペーシェント）を題材にステップを踏みながら学習していく。
1回毎の授業内容を十分理解しながら次の講義に臨むことが重要であり、各回に課せられたワークシートを用いて事例を自分で展開しながら、理解を深めていくことが求められる。
そこで、本科目では予習に1時間、復習に1.5時間程度の自己学習時間を要する。課題に対するフィードバックをよく理解し、自分自身の習得度を知り、理解不十分な部分は積極的に学習することが重要である。

【７】　評価方法・基準

課題（レポート・課題シート・ワークシート）90%・小テスト10%

【８】　フィードバック方法

全体の到達状況や必要な解説について次回講義やMoodleでコメントする。

【９】　**教科書**

筒井真優美編：看護学テキストNiCE､看護理論、改訂第2版、看護理論21の理解と実践への応用、南江堂､2019
フローレンス・ナイチンゲール、湯槇ます他訳：看護覚え書、改訳第7版、現代社、2017
ヴァージニア・.ヘンダーソン、湯槇ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版、2016
渡邊トシ子　編：実践看護アセスメント― ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2011

【10】　**参考書**

医療情報科学研究所（編）：看護がみえる(4)看護過程の展開，メディックメディア，2020.
筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2015
黒田裕子監修：ケースを通してやさしく学ぶ看護理論　改訂3版，日総研，2008
竹尾恵子監修：新訂版　超入門　事例で学ぶ看護理論，Gakken，2015.

【11】　**備考(関連科目等)**

哲学、心理学、社会学、看護学概論、専門教育科目全般、臨地実習科目全般

科目名(日本語)	**看護の基本技術1（療養環境の整備技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 1 (Treatment Environment)	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	鈴木俊美				
担当教員	尾立篤子・山本利江・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・林京子・松浦麻子・鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	鈴木俊美：toshimi.suzuki@hs.toho-u.ac.jp(研究室K324)				
オフィスアワー	◆授業開講日は、授業終了後から30分まで。 ◆技術チェックテストに関するオフィスアワーは、授業内で日時を提示する。 ◆上記以外については、授業内で知らせる。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
その他

「その他」の内容

体験学習

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護技術を学ぶ第一歩として、看護実践における基本的な技術の考え方、方法、態度を学習する。また、基本的な看護技術の土台をなすものとして、人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、看護の対象者および看護を提供する自分自身を守るための安全確保と感染予防、およびボディーメカニクス技術、看護の対象者が生活を送る場としての快適で清潔な療養環境を整備する技術(主にベッドメイキング)を学習する。

【３】　到達目標

1. 看護専門職を学ぶ者としての心がまえ・態度・身だしなみで看護技術に臨むことができる。
2. 看護技術の概念と看護援助者としての役割について説明できる。
3. 他者の価値観を尊重したコミュニケーションの基本を説明できる。
4. 看護技術に必要な安全確保について説明できる。
5. 感染対策に必要な標準予防策を実施できる。
6. 身体構造や機能を力学的な原理に基づき効率よく活用できる。
7. 環境調整技術を用いて安全で快適な療養環境を整えられる。
8. 主体的に学修を進められる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション	授業方法：講義 内容：本科目の進め方、受講するにあたっての心がまえ・態度・身だしなみ、予習・復習、課題、評価方法・評価基準に関する説明。 キーワード：主体性、学修、自己管理、マナー	鈴木俊美
2.3	看護技術とは	授業方法：講義、Moodleを活用する 内容：看護技術とはなにか、看護技術の特徴（全人的かかわり・患者の権利擁護・倫理的判断等）、看護技術の範囲、実践要素(目的・方法・根拠・意義と個別性・安全安楽・プライバシー等)、技能と技術。 予習：教科書②序章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：保健師助産師看護師法、技術、技能、看護技術、全人的、患者の権利擁護、倫理的配慮	山本利江
4.5	看護技術と安全	授業方法：講義、Moodleを活用する 内容：安全確保の基礎知識、医療安全に関わる法律、患者誤認、転倒・転落、誤薬、放射線曝露、抗がん薬曝露による人体への影響と予防策。 予習：教科書①第3章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：医療行為、セーフティーマネジメント、事故、過誤、ヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデント、患者誤認、身体損傷、誤薬、放射線曝露、抗がん薬曝露	尾立篤子
6.7.8	環境調整技術①（療養環境のアセスメントと調整）	授業方法：講義、グループワーク、Moodleを活用する 内容：良好な療養環境、療養環境のアセスメント、安全・快適な療養環境を整える。環境（音・温度・湿度等）測定する。 予習：教科書②第1章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：療養環境、アセスメント、安全性、清潔、快適	鈴木俊美
9.10.11	感染防止の技術	授業方法：講義、演習 内容：感染とその予防の基礎知識、標準予防策(スタンダードプリコーション)の方法。 予習：教科書①第2章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：感染、接触感染、飛沫感染、空気感染、感染予防、標準予防策	松浦麻子
12.13.14	コミュニケーション技術	授業方法：講義、演習、Moodleを活用する 内容：コミュニケーションとはなにかとその要素とプロセス。看護・医療におけるコミュニケーションの目的・重要性。ミスコミュニケーションをどのように避けるか。基本的態度と効果的なコミュニケーション技術。 予習：教科書①第1章、および動画視聴。身だしなみを整えてくること。 復習：ワークシートの提出 キーワード：コミュニケーション、ミスコミュニケーション、相互作用、信頼関係、態度、傾聴、共感、オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン、アサーティブネス	鈴木俊美
15.16.17	ボディメカニクスの技術	授業方法：講義、演習 内容：ボディメカニクスの原理と活用。良肢位とはなにか、安楽な体位と体位変換。 予習：教科書②第4章、課題資料、動画資料を視聴し物理・力学の復習をしておく、ワークシートの事前課題部分を記入する。 復習：ワークシートの提出 キーワード：ボディメカニクス、トルク、ベクトル、原理、体位、良肢位、体位変換、安全、安楽	蜂ヶ崎令子
18.19.20	環境調整技術②（リネン交換とベッドメーキング）	授業方法：講義、演習 内容：ベッドメーキングとリネン交換 予習：教科書②第1章、および動画資料を視聴する。 復習：ワークシートの提出、各自で反復練習。 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	鈴木俊美
21.22	環境調整技術②（リネン交換とベッドメーキング）	授業方法：演習 内容：リネン交換とベッドメーキングの反復練習 予習：教科書②第1章、および動画資料を視聴する。 復習：各自で反復練習 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	鈴木俊美
23.24.25.26	技術チェックテスト（リネン交換とベッドメーキング）	授業方法：演習 内容：環境調整技術およびボディメカニクス技術を用いて、指定時間内に適切なリネン交換とベッドメーキングを実施する。 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	全員
27	まとめ	授業内容：講義 内容：全体講評、ベッドメーキング技術チェックテスト結果、定期試験に関する説明。 キーワード：到達目標、評価、課題、学習方法、主体性、自己管理、マナー	鈴木俊美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
◆この授業は、教科書の指定範囲の予習、動画視聴、課題やワークシートの学修のため30分程度を要する。また、技術修得のための自己練習の時間を要する。
◆必ず予習をしてから授業に臨むこと。課された学習課題は必ず行うこと。

【事後学習】
◆課題やワークシートは完成させて提出すること。
◆学修した技術の習得のため、自己にて反復練習をすること。
◆次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味や技術の内容等を理解しておくこと。

【学習上の留意点】
◆Moodleで授業に関するアナウンスや予習内容、授業資料等が公開されるため、こまめに確認すること。
◆e-ラーニングおよび動画教材、参考書などを積極的に活用すること。

【７】　評価方法・基準

成績：定期試験（70%）、技術チェックテスト（20%）、課題・ワークシート（10%）で総合評価する。ただし、技術チェックテストは関連する課題・ワークシートの全提出をもって受験資格とし、また定期試験は技術チェックテストの合格をもって受験資格とする。定期試験が60点に満たない場合は、再試験を行う。

【８】　フィードバック方法

◆課題・ワークシート：添削し返却する。
◆技術チェックテスト：結果を知らせる。
◆最終日に全体講評をする。

【９】　教科書

①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ(第18版), 茂野香おる 他, 医学書院, 2021
②系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(第18版), 有田清子 他, 医学書院, 2021

【10】　参考書

◆基礎看護技術 看護が見えるvol.1,医療情報科学研究所編集,メディックメディア,2018
◆医療安全管理者必携 医療安全管理テキスト第4版,飯田修平 編,日本規格協会,2019.
◆新装版 コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵,日本看護協会出版会,2015.
◆その他の文献は授業で知らせる。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、看護理論、人体の構造と機能、看護のための物理学、看護入門実習Ⅰ、看護入門実習Ⅱ

科目名(日本語)	**看護の基本技術2（ヘルスアセスメント）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 2 (Health Assessments)	必修	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	松浦麻子				
担当教員	松浦麻子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K317(asako.matsuura@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	通常時のオフィスアワー：授業後30分はその場で対応もしくは研究室K317へ。 moodleの「質問コーナー」もしくは上記の科目責任者へメールで質疑に応答する				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Moodle

【２】　授業概要

看護実践における基本的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学修する。基本の技術2（ヘルスアセスメント）では、対象理解および対象の健康状態をアセスメントするための基本となる、系統的な客観的・主観的情報収集の技術、および、情報の分析・解釈・統合の技術を学習する。主な内容は、ヘルスアセスメントの概念、健康歴の聴取、バイタルサインズの技術を学修し、全身を系統的に観察するフィジカルアセスメントの基礎について体験しながら学習し、看護学の立場から対象理解を深める技術を修得する。

【３】　到達目標

1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念と目的、必要性を理解できる。
2. フィジカルアセスメントに必要な観察技術・基本的技術を理解できる。
3. 対象の健康状態を理解するために、対象の心身を観察できる。
4. バイタルサインズ測定に必要な技術が実施できる。
5. 技術に必要な6つの基本要素(安全･安楽･審美･効率･経済･自立)に基づいて、フィジカルイグザミネーションを実施できる。
6. フィジカルアセスメントの観察技術を用いて、アセスメントの結果を記述できる。
7. 看護を提供する医療者としての態度で、倫理的配慮を念頭にフィジカルイグザミネーションを実施できる。
8. 看護技術の修得状況に関する自己評価、課題の明確化により、自らの看護技術の向上に努めることができる。
9. 看護技術の習得に向けて、準備学習、自己練習を計画的に行える。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション　ヘルスアセスメント	授業方法：講義 内容①本科目の位置づけ（学習方法、評価項目の開示 など） ②ヘルスアセスメントの学び方 ③ヘルスアセスメントのための看護技術 復習：ワークシートの提出 Keyword：看護技術、観察、ヘルスアセスメント	松浦麻子・全員
2	フィジカルアセスメント	授業方法：講義 内容：フィジカルアセスメントの目的・方法 復習：フィジカルアセスメントに関する小テスト Keyword：フィジカルアセスメント、4診、問診、コミュニケーション、観察	松浦麻子・全員
3	ヘルスアセスメント　問診	授業方法：講義、全体演習 内容：問診 予習：Moodleを視聴、ワークシート、動画の視聴、チェックリストに目を通す 復習：ワークシートの提出 Keyword:問診、コミュニケーション、傾聴	松浦麻子・全員
4	ヘルスアセスメント　ホリスティックな見方と分析的な見方	授業方法：全体演習 内容：フィジカルアセスメントに必要な基本技術（問診、視診、聴診、打診、触診） 予習：Moodleを視聴、ワークシート 復習:ワークシートの提出 Keyword：フィジカルイグザネーション、視診、聴診、打診、触診、安全、安楽	松浦麻子・全員
5.	フィジカルアセスメント① バイタルサインズ	授業方法：講義 内容：バイタルサイン測定の意義・目的 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出、技術の自己練習 Keyword：体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定	松浦麻子・全員
6.7.8	フィジカルアセスメント① バイタルサインズ	授業方法：全体演習 予習:動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出、技術の自己練習 Keyword：バイタルサイン	松浦麻子・全員
9	フィジカルアセスメント② 心臓・循環系	授業方法：講義 内容：①心臓・循環系の基本的構造と機能 ②心臓・循環系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 keyword：末梢循環の観察、頸部の血管の観察、心臓の観察、四肢の血圧測定と評価、温罨法・冷罨法、浮腫のメカニズムと観察	松浦麻子・全員
10.11.12	フィジカルアセスメント② 心臓・循環系	授業方法:全体演習 内容：①心臓・循環系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 keyword：末梢循環の観察、頸部の血管の観察、心臓の観察、四肢の血圧測定と評価、温罨法・冷罨法、浮腫のメカニズムと観察	松浦麻子・全員
13.14	フィジカルアセスメント③ 腹部・消化器系	授業方法：講義・全体演習 内容①消化器の基本的構造と機能 ②消化器のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：消化器臓器の構造と機能、腹部の区分、腸蠕動音の聴取、腹部の打診・聴診、腹水のアセスメント、肝臓スクラッチテスト	松浦麻子・全員
15.16	フィジカルアセスメント④ 感覚系・頭頚部	授業方法:講義・全体演習 内容①消化器のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：消化器臓器の構造と機能、腹部の区分、腸蠕動音の聴取、腹部の打診・聴診、腹水のアセスメント、肝臓スクラッチテスト	松浦麻子・全員
17.18.19	フィジカルアセスメント⑤ 胸部・肺	授業方法：講義、デモンストレーション、全体演習 内容①胸部･肺の基本的構造と機能 ②胸部･肺のフィジカルアセスメント 予習：Moodleを視聴、ワークシート、動画の視聴 復習：ワークシートの提出 Keyword：胸郭･肺･気管の構造、胸部の打診、呼吸音の聴取、呼吸困難･努力様呼吸	松浦麻子・全員
20.21.22.23	フィジカルアセスメント 技術チェックテスト	授業方法：全体演習　バイタルサインズ測定技術チェックテスト	松浦麻子・全員

24.25	フィジカルアセスメント⑥ 脳・神経系	授業方法：講義・全体演習 内容①脳・神経系の基本的構造と機能 ②脳・神経系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword:脳・神経系、運動路・感覚路、中枢神経系、運動ニューロン、末梢神経、反射、意識状態の観察、感覚・知覚機能の検査、小脳機能の検査	松浦麻子・全員
26.27	フィジカルアセスメント⑦ 筋・骨格系	授業方法:講義・全体演習 内容①筋・骨格系の基本的構造と機能 ②筋・骨格系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：筋・骨格、間接、MMT、ROM	松浦麻子・全員

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習
本科目は、講義、演習、技術チェックテストを予定している。講義では、各看護技術に関する基礎知識の確認を行う。演習では、講義を基に、演習に向けて事前学習、演習、教員のデモンストレーションなどを参考に各看護技術を体験し、一部技術を習得するところまでを目指している。そのため講義・演習内容をより理解するための予習、技術の自己練習や知識の復習に充てる準備学習に1時間、復習に1時間程度を要する。また、自己学習ワークシート、小テストによる関連知識の強化を図る。看護技術NOTESを参照しながら、自分の看護技術の到達度を確認する。未熟な技術項目や未習得の技術項目に関しては、自己練習、ビデオ教材、教員のサポートなどあらゆる手段を活用して、各自補完する。
※授業進行状況を考慮して、授業内容や順序が変更となる場合がある。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、技術チェックテスト（20%）、課題提出状況・小テスト（10%）、授業態度（10%）で総合評価を行う。
技術テストは関連する課題レポート・ワークシートの全提出をもって受験資格とする。定期試験が60点に満たない場合は、再試験を行う。課題については、必要時コメントを付してフィードバックを行う。

【８】　フィードバック方法

技術チェックテスト、課題・小テストについては、必要時コメントを付して返却する。

【９】　教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　第17版　茂野香おる　医学書院　2019
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　第17版　任和子　医学書院　2017
はじめてのフィジカルアセスメント　第2版，横山美樹，メヂカルフレンド社，2021.
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

【書籍】
フィジカルアセスメントがみえる　Vol.3　医療情報科学研究所　メディックメディア　2019
ナーシンググラフィカ　基礎看護学2　基礎看護技術Ⅰ　松尾ミヨ子　メディカ出版　2022
写真でわかる看護技術シリーズ「写真でわかる実習で使える看護技術」（東邦webサイトの電子ブック）

【動画教材】
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシングチャンネル：https://www.nur-chan.jp/login/
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/

その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、看護理論、人体の構造と機能、看護理論、看護のための物理学、看護入門実習Ⅰ、看護入門実習Ⅱ、看護の基本技術１、コミュニケーション論、

科目名(日本語)	**看護の基本技術3（日常生活援助技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 3 (Daily Living Assistance)	必修	演習	秋学期 1年	2単位 60時間
科目責任者	蜂ヶ崎令子				
担当教員	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・鈴木俊美・水流添秀行、林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K314（reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	オフィスアワー：授業終了後30分程度、授業をした講義室、演習室で受付けます。さらに、Moodleの「質問コーナー」もしくは上記の科目責任者へMoodleメッセージ、メールで質疑に応答します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

看護実践における基礎的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学習する。基本技術Ⅱでは、人々の健康を維持・促進するために必要とされる日常生活行動に関わる援助技術（活動と休息・食と排泄・清潔と衣生活・体温調節技術）の基礎について体験しながら学習し、援助に必要な基本技術を習得する。

【３】　到達目標

1. 日常生活援助の文化的意義や価値、必要性について述べられる。
2. 日常生活行動の障害が人間の健康な生活にどのような影響を及ぼすか、考えを述べることができる。
3. 日常生活援助技術および観察の技術を提供するよりどころとなる、人体や看護技術のメカニズムを説明できる。
4. 日常生活援助技術および観察の技術の目的と実践方法（手技・手順など）について述べられる。
5. 技術に必要な6つの基本要素(安全･安楽･審美･効率･経済･自立)に基づいて、各看護援助技術を実施できる。
6. 看護を提供する医療者としての態度で、倫理的配慮を念頭に各看護援助技術を実施できる。
7. 個別性や状況に配慮した援助技術の提供方法を根拠に基づいて考え、工夫点を具体的に説明できる。
8. 看護技術の修得状況に関する自己評価、課題の明確化により、自らの看護技術の向上に努めることができる。
9. 看護技術の習得に向けて、準備学習、自己練習を計画的に行える。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	オリエンテーション 日常生活行動と健康	授業方法：講義 内容：①本科目の位置づけ（学習方法、評価項目の開示 など） ②看護技術の学び方 ③日常生活を支える看護技術 予習：教科書の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習 Keyword：トランスレーショナル教育、ディプロマポリシー、自己教育力、看護技術の特徴、コミュニケーション、療養上の世話、ADL	蜂ヶ崎令子・全員
3.4	清潔の援助	授業方法：講義 内容：①清潔の意義と価値 ②清潔援助の基礎知識とアセスメント 予習：教科書の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習、ワークシートの作成 Keyword：皮膚･粘膜の構造と機能、清潔の効果、清潔の意義と価値、不潔の弊害、洗浄剤の作用	蜂ヶ崎令子・全員
5.6.7.8	活動と休息の援助	授業方法：講義、デモンストレーション、演習 内容：①活動と休息の意義･価値 ②基本的活動の援助技術 ③睡眠･休息の援助技術 ④床上リハビリテーションの基礎 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：活動、姿勢、重心、支持基底面積、良肢位、体位、移動、歩行、移乗と移送、体圧測定、除圧、睡眠･休息、安楽な体位、リラクゼーション、身体拘束、リハビリ	蜂ヶ崎令子・全員
9.10.11.12	食事の援助	授業方法：講義・演習 内容：①食事の意義と価値、栄養摂取と健康生活 ②食事援助の基礎知識とアセスメント 予習：教科書の該当箇所を読む、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：食文化、食事と生活･人間関係、アセスメント（代謝･吸収、栄養状態、食欲、摂食･嚥下のメカニズム、水分･電解質バランスなど）	松浦麻子・全員
13-17	清潔の援助技術(1) 毛髪の清潔、整容	授業方法：講義、演習 内容：①洗髪・整髪の援助技術 ②整容の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：ワークシートの提出 Keyword：頭皮･毛髪の清潔と観察、二次感染、自尊感情、整容、おしゃれ	宮崎裕子・全員
18.19.20.21	清潔の援助技術(2) 皮膚の清潔	授業方法：講義、演習 内容：①入浴･シャワー浴の援助技術 ②全身石鹸清拭の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：ワークシートの提出 Keyword：循環動態の変化、温熱刺激、シャワー浴、特殊浴槽、熱布清拭、ウォッシュクロス、羞恥心、湯温の管理	蜂ヶ崎令子・全員
22-26	清潔の援助技術(3) 部分浴	授業方法：講義、演習 内容：①足浴の援助技術 ②陰部洗浄の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：セルフケア能力、二次感染、末梢循環、手部･足部の観察、落屑、リラックス、粘膜の清潔、おむつ交換	林京子・全員
27.28.29.30	清潔の援助技術(4) 口腔内の清潔	授業方法：講義、演習 内容：口腔内の観察と清潔援助 予習：教科書の該当箇所を読む、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：摂食・嚥下訓練、歯磨きの援助、口腔内の観察	松浦麻子・全員
31-39	技術チェックテスト 清潔の援助技術	授業方法：演習（技術チェックテスト） 内容：清潔の援助技術のチェックテストを行う 予習：該当する看護技術を自己練習 復習：修得の水準に達しなかった場合は各自復習し、再度チェックを受ける。 Keyword：清拭、洗髪、更衣	全員
40.41	排泄の援助	授業方法：講義 内容：①排泄の意義と価値、排泄と健康生活 ②排泄障害のメカニズムとアセスメント ③排泄援助の基礎知識とアセスメント 予習：教科書の該当箇所を読む、ワークシート 復習：授業内容の復習 Keyword：生理的欲求、羞恥心、心理･社会的意義、排泄器官と排泄のメカニズム（排便･排尿）、アセスメント（身体的状態、失禁、動作の分析、心理･社会的状態 など）、尿の異常（乏尿･尿閉･頻尿など）、便の異常（便秘、下痢 など）、摘便、便秘薬、利尿薬	蜂ヶ崎令子・全員

		など）、便の異常（便秘・下痢 など）、摘便、便秘薬・利尿薬	
42.43	排泄の援助技術(1) 臥床患者の排泄援助	授業方法：講義、演習 内容：①自然排尿の援助技術 ②自然排便の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：ワークシートの提出 Keyword：ポータブルトイレの使用、便器･尿器のあて方	蜂ヶ崎令子・全員
44.45.46. 47	排泄の援助技術(2) 排泄困難な患者の援助：援助技術	授業方法：講義、演習 内容：①排便を促す援助技術 ②排便を促す薬物療法 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：ワークシートの提出 Keyword：腹部温罨法、腹部マッサージ、浣腸、座薬	蜂ヶ崎令子・全員
48.49.50. 51	技術チェックテスト（再） 清潔の援助技術	授業方法：演習（再技術チェックテスト） 内容：清潔の援助技術のチェックテストを行う 予習：該当する看護技術を自己練習 復習：修得の水準に達しなかった場合は各自復習し、再度チェックを受ける。	全員
52.53.54	まとめ 知識チェックテスト	授業方法：講義 内容：①知識チェックテスト ②学習内容の振り返り 予習：学習したことすべてを含む 復習：本科目の総復習	蜂ヶ崎令子・全員

【６】　事前・事後学習とその時間

１．準備学習

≪予習≫

看護援助技術の動画視聴、ワークシートを完成させて演習に参加する。およそ1～1.5時間を要する。

≪復習≫

ミニッツペーパーやワークシートなどの課題を、期限を守って提出する。およそ1時間を要する。

また、対象に提供できるレベルの援助技術を身につけるには、かなりの反復練習が必要となる。技術チェックテストや臨地実習にむけて、計画的に自己練習すること。

2．学習上の留意点

本科目は様々な技術演習を積み重ねて学習することで、日常生活援助の知識と技術、態度を身につけるプログラムとなっている。本科目で修得する内容は、1年春学期の看護の基本技術1で習得した技術の応用だけでなく、この後につづく臨地実習や、基本技術を学ぶために必要となる。各自、学習の計画を立てるとともに、動画教材や教員を活用して、知識と技術を積み上げていってほしい。

【７】　評価方法・基準

①知識チェックテスト（40%）、②技術チェックテスト（40%）、③自己学習状況・授業態度（ワークシート内容と提出状況、演習前と後の自己学習状況と振り返り内容）（20%）で評価する。

【８】　フィードバック方法

ワークシートに関する総評や質問への回答などは、Moodleの「質問コーナー」や授業を通じてフィードバックを行う。技術チェックテスト、自己学習については、全体にフィードバック、あるいは必要時コメントを付してフィードバックする。

【９】　教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　第17版　任和子　医学書院　2017
はじめてのフィジカルアセスメント　第2版，横山美樹，メヂカルフレンド社，2021.
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

【書籍】
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　第17版　茂野香おる　医学書院　2019
看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2014
看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2014
ナーシンググラフィカ　基礎看護学３　第6版　基礎看護技術　志自岐康子　メディカ出版　2017
看護学テキストNICE基礎看護技術　第2版　香春知永、齋藤やよい　南江堂　2014

【動画教材】
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシングチャンネル：https://www.nur-chan.jp/login/
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/

その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

「人体の構造と機能」「看護学概論」「看護の基本技術1，2，3」「看護のための物理学」「看護理論・展開論」

科目名(日本語)	**看護入門実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introdutory Practicum of Nursing Ⅰ	必修	実験・実習	秋学期 1年	1単位 45時間
科目責任者	宮崎裕子				
担当教員	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林 京子				
科目責任者 連絡先(教室)	宮崎裕子：研究室K327				
オフィスアワー	実習期間中の毎日実習終了後～17：00まで。場所：各実習施設の学生控え室 それ以外で連絡を取りたいときは、科目担当者にメールあるいは、実習用携帯で連絡を取ること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

入院患者、看護師との関わりを通して、看護の主要概念（人間、健康、環境、看護、擁護、倫理）の理解を深める。さらに、入院している患者の健康生活支援について、看護学の立場から考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

1．看護の対象がさまざまな健康レベルにある人間であることがわかる
　1）対象の健康レベルがわかる
　2）対象の発達段階がわかる
　3）対象を多面的に捉えることができる
2．看護の対象の生活の場を知ることができる
　1）病院環境における対象の生活状況がわかる
　2）対象の入院中における日常生活がわかる
　3）対象の自宅での生活と入院生活における相違と継続されているものがわかる
3．他職種との連携と看護の役割を知ることができる
　1）病院内で働くさまざまな職種の役割と機能がわかる
　2）看護師と他職種との連携の実際を知る
　3）看護師の役割・機能の実際を知る
4．看護学生として責任のある行動をとることができる
　1）看護学生としてふさわしい言動ができる
　2）看護者としてのコミュニケーションについて考えることができる
　3）実習中に生じた問題について、適切な対応がわかる
　4）個人情報の管理が適切に実施できる
　5）グループ活動における積極性、協調性が発揮できる
　6）実習における自らの行動・学習を自己洞察し、レポートに論述できる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	目標を達成するための詳細な学修内容は、看護入門実習の実習要項に示す。 【オリエンテーション・演習】 1）実習の具体的な内容については、事前にオリエンテーションを実施する。 2）実習に必要な技術（手洗い、コミュニケーション、カンファレンス）に関する演習を行う。 3）実習施設の概要については、実習初日にオリエンテーションを実施する。 【予習・復習・キーワード】 病院、看護部、薬剤部、栄養部、臨床検査部、リハビリテーション部、入退院支援	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
	病院実習	【実習方法】 1）グループ（1グループ4-6名程度）毎に1つの病棟で4日間の臨地実習を行う。 2）実習時間は原則9：00～16：00とする。 3）1人の看護師に1-2名の学生を配置し、シャドーイングを通して患者への看護の実際を学ぶ。 4）入院患者1名につき学生1～2名にてコミュニケーションをとる。療養体験や患者の思いを聞き、対象者の理解を深める。 5）毎日、病棟実習終了後に各病院単位で全体カンファレンスを行い、学びを共有する。 6）臨地実習最終日は、各病棟で臨床指導者を含めてカンファレンスを行い、学びを深める。 7）最終日、実習全体を通して学びを振り返り、グループ毎に自分たちの学びを発表する。 8）実習の学びをまとめ、実習記録を提出する。 【実習施設】 東邦大学医療センター佐倉病院 千葉県済生会習志野病院 病棟：内科・外科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科等 【予習・復習・キーワード】 看護、人間、健康レベル、生活の場、環境、他職種との連携、看護の役割、看護学生としての責任のある行動、倫理、コミュニケーション	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
	学内まとめ	講義方法：グループワーク・発表 内容：看護入門実習Ⅰで学んだことを共有し、看護の役割や健康生活の支援について学びを深めるきっかけとする。 【予習・復習・キーワード】 実習で学んだことを各自振り返り、まとめておく。	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子

【6】 事前・事後学習とその時間

本科目の履修においては、下記の関連科目の復習を含め、1時間程度の自己学習が必要となる。
また、学修したことの理解1時間程度、考察をまとめる時間が必要となる。
＜予習＞
1．『健康レベル』『発達段階』について復習をしておく。
2．基本的なコミュニケーションの技法を復習しておく。
＜復習＞
1．実習での自己の体験をまとめ、自己課題を明確化する。

【7】 評価方法・基準

以下の1）2）の内容から実習目標の達成度を評価する
1）実習における学習態度 20%
2）課題レポート 80%

【8】 フィードバック方法

フィードバック：毎日の実習終了時に学びの共有を行い、疑問や意見への回答を行う。実習終了後、コメントを付した実習記録を返却する。

【9】 教科書

田中美穂・蜂ヶ崎令子(2015)．看護学生のための実習の前に読む本．医学書院

【10】 参考書

E.ウィーデンバック(2013)．新装版コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵．日本看護協会

【11】 備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、看護理論、コミュニケーション論、倫理学、心理学、社会学、人類学

科目名(日本語)	**発達看護論（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing on Human Development	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・臼井雅美・山本利江・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp, K329研究室				
オフィスアワー	・火曜日　16:20～18:00　各教員の研究室　メールあるいはMoodleのメッセージでの問い合わせにも応じる 臼井（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp）K331, 林（hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp）K329,山本（toshie.yamamoto@hs.toho-u.ac.jp）K833, 鳥田（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）K320				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間は誕生から死まで、一生涯常に変化し発達する。この生涯発達の視点をもとに、乳児期から老年期までの人間の行動を発達の視点で捉え、その過程で生じる身体的・心理的・社会的課題を考察する。本科目では成長・発達の基本的な概念を理解し、発達過程における対象者を理解し、必要な小児～老年期の看護援助を考えるための基礎的知識の理解を得る。

【３】　到達目標

1. 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の原則と影響因子についてのポイントを説明できる。
2. 人間の発達に関する理論についてその要点を説明できる。
3. 発達論における小児期の位置づけを説明できる。
4. 乳幼児期の成長・発達の特徴と健康を促す援助について具体的に説明できる。
5. 学童・思春期の成長・発達の特徴と健康を促す援助について具体的に説明できる。
6. 成人期の発達と健康を支援する援助のポイントについて説明できる。
7. 更年期女性の健康を支援する援助のポイントについて説明できる。
8. 老年期の発達課題と援助のポイントについて説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	発達看護論とは（1）	内容 1．人間と発達 2．看護における発達理論 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第1章および第2章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：人間理解・発達の定義・成長・発育・エイジング・発達の一般原則・成長発達に影響する因子・発達段階・発達課題・発達理論（ゲゼル，エリクソン，ピアジェ，ボウルビィ，ハビーガースト等）	臼井雅美
3・4	小児期の成長・発達と看護（1）	内容 1．発達論における小児期と評価 2．乳児期の成長・発達 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第4章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：小児期の発達区分・小児の特性・発育曲線・パーセンタイル値・カウプ指数・ローレル指数・精神年齢・発達年齢・DENVERⅡ・生理的体重減少・原始反射・姿勢反射・粗大運動・微細運動・喃語・不安	臼井雅美
5・6	小児期の成長・発達と看護（2）	内容 1．幼児期の成長・発達 2．乳幼児期の健康を促す援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第4章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：乳歯・永久歯・自己中心性・アニミズム・注意・記憶/時間/空間の概念・一語文/二語文・分離不安・自律性/自発性・感情の分化・遊び・トイレトレーニング・乳幼児突然死症候群・不慮の事故・齲歯・アレルギー	臼井雅美
7・8	小児期の成長・発達と看護（3）	内容 1．学童期の成長・発達 2．思春期の成長・発達 3．学童・思春期の健康を促す援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第5章および第6章）を読む. 復習：ミニテスト，提示された課題について記述する. キーワード：勤勉感/劣等感・保存・ギャングエイジ・自己概念・第二次性徴・発達加速化現象・自我同一性・肥満とやせ・近視・いじめ/不登校・自殺	臼井雅美
9・10	成人期の発達と看護	内容 1．成人期における発達と課題 2．成人期の発達課題を支援するための援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（7章・8章）および臨床看護学概論の教科書p4～28を読むこと. 復習：提示された課題（成人期の発達に関する課題）について記述する. キーワード：青年期・壮年期・中年期・アイデンティティ・親密性・生殖性・老いの自覚	山本利江
11・12	更年期の発達と看護	内容 1．ライフサイクルにおける性の発達と発達課題 2．更年期女性の身体的・心理社会的特徴と発達課題 3．更年期女性の健康を支援するための援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（p238成人女性の閉経と更年期障害）を読みわからない用語や内容をピックアップしておくこと. 復習：ミニテスト キーワード：更年期女性・閉経・更年期症状・更年期障害・セクシュアリティ・ジェンダーアイデンティティ・性自認・性指向・性役割・性行動・パートナーシップ	林ひろみ
13・14	老年期の発達と看護	内容 1．老年期の身体的・心理社会的特徴と発達課題 2．老年期の健康を支援するための援助 方法：オンライン（オンデマンド型） 予習：老年看護学で学修した内容を振り返り，整理して臨む. 復習：提示された課題（老年期の発達に関する課題）について記述する．老年期の発達段階の特徴と援助のポイントについて学んだことを記述する. キーワード：生涯発達・老年期・自我・衰退・加齢・人生の統合	鳥田美紀代

【6】　事前・事後学習とその時間

本授業は、人間が生涯を通して発達する存在であることを理解し、ライフサイクルに応じた看護を探究し、看護の理解を深めることをねらっているため、各看護学概論の教科書を基に関連する内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

Moodleを使用したWEB講義を行うため、理解を深めたい点において教科書を活用して、主体的に取り組むこと。また、わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

定期テスト70%、ミニテスト20%、課題10％

【８】　フィードバック方法

ミニテストは結果を返却し、返却時に講評する。課題は総評を伝える。なお、ミニッツペーパーに記載された質問や感想等に対してフィードバックする。

【９】　教科書

・舟島なおみ・望月美知代著：看護のための人間発達学（第5版），医学書院，2017.

【10】　参考書

・無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編集：よくわかる発達心理学　第2版，ミネルヴァ書房，2009.
・上田礼子：生涯人間発達学　改訂第2版増補版，三輪書店，2012.
・齊藤いずみ他編集：看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル改訂第2版，南江堂，2018.（2年次購入）
・松尾宣武・濱中喜代編：新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論・小児保健，メヂカルフレンド社，2013.（２年次購入）

・小松浩子他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論，医学書院、2017（1年次購入）

【11】　備考(関連科目等)

小児看護学概論、母性看護学概論、臨床看護学概論、老年看護学概論

科目名(日本語)	**援助的人間関係論（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Helping Relationship in Nursing Care	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺: naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（メールの場合、学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	授業終了後30分間をオフィスアワーとする。教員の研究室を訪ねて下さい。 渡辺（研究室K334）、中嶋（研究室K323） メールする場合は科目責任者のアドレスへ連絡すること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護の基本となる対象との援助的人間関係について、基礎的知識と技術を学修する。対人援助職を目指すものとして、人とのかかわり方について自己理解を深めるとともに、他者を理解すること、自己と他者の間に生じる関係を理解することにの意味について学びを深めながら、援助的人間関係を築くことについて理解する。

【３】　到達目標

1.援助的人間関係構築に向けた必要な知識の根拠となる理論を説明できる。
2.自己理解・他者理解・関係理解の意味について説明できる。
3.自己理解・他者理解・関係理解の方法を説明できる。
4.自身の対人関係形成の傾向を分析し、説明できる。
5.プロセスレコードの意味と活用方法が説明できる。
6.援助的人間関係構築のための自己の課題を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-3	援助的人間関係とは	オリエンテーション 援助的人間関係の概念 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　援助関係・援助関係の成立要素・コミュニケーションスキル	渡辺尚子
4-6	医療におけるコミュニケーション	医療サービスとコミュニケーション 講義：個人ワーク・グループワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく 復習：資料の整理 キーワード 　パーソナルスペース、コーチング、アサーション	渡辺尚子
7-9	自己理解・他者理解・関係理解	効果的なコミュニケーション技術 講義：個人ワーク・グループワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく 復習：課題の提出・資料の整理 キーワード 　コミュニケーションに影響する要因、相互理解、共感とは	渡辺尚子・中嶋秀明
10-12	人のこころとコミュニケーション	ストレスとコミュニケーション 講義：個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　コミュニケーションに影響する要因(ストレスとの関連)、コーピング、自律訓練法、認知行動療法	渡辺尚子
13・14	援助的人間関係構築に向けて用いる理論と活用	対人関係理論とプロセスレコード 講義：個人ワーク・グループワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード 　ペプロウ、トラベルビー、ウィーデンバック、プロセスレコード	渡辺尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は理論を自己の体験を通して理解していくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。
【学修上の留意点】
この授業は遠隔授業の他、グループワークを行う。積極的な参加が求められる。

【７】　評価方法・基準

最終レポート・グループワークの参加状況　30%、各回の課題や小テスト70%

【８】　フィードバック方法

課題に関しては全体に対してフィードバックする

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

授業内で適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、看護理論、精神看護学概論

科目名(日本語)	**精神看護学概論（1年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Mental Health Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺（K334研究室）：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp(メールには学籍番号を明記してください)				
オフィスアワー	講義終了後30分程度、研究室を訪ねて下さい。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

こころの健康についての概念とこころの健康の保持増進に向けた我が国の取り組みを理解し、精神看護の基本概念・理論などの基礎知識を学修する。さらに、こころの健康に影響する要因を様々な環境から捉え、精神看護の役割と機能について考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学における精神保健活動を学修するための基礎となる科目である。

【３】　到達目標

①精神看護の役割と機能が説明できる
②こころの健康とは何かを理解できる。
③ライフサイクルにおける各時期の発達課題とこころの問題について説明できる。
④医療現場におけるこころの健康と看護を危機理論をふまえて説明できる。
⑤精神保健に関わる課題を説明できる。
⑥こころの健康の保持・増進・予防的観点から精神看護の役割を理解できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	ガイダンス・こころの健康について	精神看護学とは こころの健康とは 講義・個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：フロイト、マズロー、エゴグラム、ジョハリの窓、自己理解	渡辺尚子
3-5	環境におけるこころの健康(1)	家庭・学校・職場におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：ライフサイクルと発達課題、エリクソンの発達理論、ピアジェの認知発達論、家族の発達課題、養護教諭の役割、スクールカウンセラー、学校における精神保健に関する課題、ワークライフバランス、燃え尽き症候群、職場における精神保健に関する課題	渡辺尚子
6-8	環境におけるこころの健康(2)	危機の概説 医療現場におけるこころの健康と看護 講義:個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：医療現場における精神的危機、グリーフケア	渡辺尚子
9-11	精神保健福祉活動(1)	今後の精神保健福祉における課題 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神保健福祉活動、多職種連携、自殺、ゲートキーパー、発達障害、PTSD	渡辺尚子
12-14	精神保健福祉活動(2)	精神保健システム、精神科におけるリハビリテーションとは 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：相談窓口、外来治療、入院治療、社会参加へのサポートシステム、ACT、心理教育、リカバリー	渡辺尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
新聞・図書館の資料を活用し、各回の授業内に関連するトピックスを把握しておくこと。
この授業は自己の体験や社会情勢を通して理解を深めていくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。
【学修上の留意点】
授業内で配布した資料等を参照し関連書籍を読み、学修内容の理解を深めること。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%、授業内の小テスト20%

【８】　フィードバック方法

小テスト:結果を返却する。
ミニッツペーパー等の質問等により必要なことは全体に向けフィードバックする。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

吉浜文洋他;学生のための精神看護学、医学書院、2017
その他授業内で、随時紹介する

【11】　備考(関連科目等)

心理学、コミュニケーション論、看護学概論、援助的人間関係論、コミュニティヘルス看護概論

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Community Health Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・林ひろみ・臼井雅美・上地賢・渡邊尚子・山本利江				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者：佐瀬真粧美（K319研究室）　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、あるいはメールおよびMoodleのメッセージでの問い合わせに応じます。メールアドレス、各教員の研究室は授業の中で提示します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, スマートフォン

【２】　授業概要

人間の生活の場である地域社会、地域共同体の健康をコミュニティヘルスとして捉える。高齢社会の日本において高齢者の健康は社会の健康として捉え、コミュニティヘルスに包含する。本科目では、看護の対象としてのコミュニティ／地域の特徴、健康や生老病死が地域に及ぼす影響、コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能、主な理論・基本的概念、地域の健康を支える仕組み、活動方法など基礎知識を理解する。さらに、コミュニティヘルスを支える看護、健康な地域づくりなどについて考察する。

【３】　到達目標

1. 看護の対象となる「コミュニティ」の定義を説明することができる。
2. 個人の健康を支える地域の仕組みについて、関係職種と地域の資源を挙げて説明することができる。
3. 個人の健康と個人を取り巻く環境との交互作用について例を示し、公衆衛生上の看護の役割をその限界も含めて論述することができる。
4. 妊婦、新生児、乳幼児を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
5. 子どもを取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
6. 成人を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
7. 高齢者、在宅療養者を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
8. 個人の精神的健康や健康問題を支える地域資源について、例を挙げて説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	コミュニティヘルス看護の基礎(1)	コミュニティヘルスの概念・コミュニティヘルス活動の基盤となる主な理論・基本的概念 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：　ミニッツペーパーの提出 キーワード：コミュニティ、人口動態、暮らし、生老病死、共同性、コミュニティヘルス、地域の健康指標、健康な地域づくり、健康を支える地域の仕組み	佐瀬真粧美
2	コミュニティヘルス看護の各論(1)	高齢者の立場から捉えるコミュニティヘルス ・高齢者を取り巻くコミュニティの健康課題・コミュニティにおける支援活動と看護の役割 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：コミュニティヘルス、コミュニティづくり、社会的存在、暮らしやすさ、家族、在宅医療、地域包括ケアシステム	佐瀬真粧美
3・4	コミュニティヘルス看護の各論(2)	公衆衛生の立場から捉えるコミュニティヘルス ・段階的予防活動・個人の健康と集団の健康を満たす種々のアプローチ 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワーメント、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、１次予防、２次予防、３次予防	上地賢
5・6	コミュニティヘルス看護の各論(3)	妊婦・新生児・乳幼児の立場から捉えるコミュニティヘルス ・妊婦・新生児・乳幼児を取り巻くコミュニティの健康課題・子育てのある暮らしの健康支援活動と看護の展望 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、子育てのある暮らし、親になるプロセスと役割の変化、妊娠・出産による身体・精神面の変化、育児不安、子育て支援、健やか親子21（第2次）、子育て世代包括支援センター、ハイリスク妊産婦・新生児への支援、不妊治療を必要とする女性への支援	林ひろみ
7・8	コミュニティヘルス看護の各論(4)	子どもの立場から捉えるコミュニティヘルス ・子どもを取り巻くコミュニティの健康課題・子どもが健全に育つコミュニティの支援活動と看護の役割 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、子どもの健康指標、子どもを取り巻く社会環境、子どもの事故防止対策、小児の医療体制、児童虐待防止対策、メディア対策、貧困対策、学校保健	臼井雅美
9・10	コミュニティヘルス看護の各論(5)	成人の立場から捉えるコミュニティヘルス ・成人を取り巻くコミュニティの健康課題・成人の健康生活を支えるコミュニティヘルス活動のつながりと看護の役割 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、成人の社会的役割、保健医療システム、ワークライフバランス、メンタルヘルス、労働衛生、成人保健（メタボ対策、がん対策）	山本利江
11・12	コミュニティヘルス看護の各論(6)	精神保健から捉えるコミュニティヘルス 講義 予習：「国民衛生の動向」の関連部分を読んでおくこと 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：地域精神保健対策、精神障がい者医療、精神障がい者福祉、精神疾患受療状況	渡邊尚子
13・14	コミュニティヘルス看護の基礎(2)	コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能 講義 予習：看護学入門実習Ⅰの学習の振り返り 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：地域包括ケア、関係職種、専門性、チーム活動、健康を支える地域の仕組み、健康な地域づくり	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
看護入門実習Ⅰで得られた看護の役割や知識、技術、態度を振り返るとより理解が容易となる。
この授業は、各ライフステージの健康課題から看護の役割・機能を学ぶことから既習科目から出される予習ワークシートの学習のために予習1時間程度、新たな学びのまとめとして復習1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
各ライフステージにおいて必要な看護の役割、機能を学ぶ導入となるため、学習への積極的な参加が求められる。

【7】　評価方法・基準

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【８】　フィードバック方法
評価した課題レポートは返却する。

【９】　教科書
厚生の指標　国民衛生の動向　厚生労働統計協会
必要な追加資料は講義の中で配布する。

【10】　参考書
必要に応じて講義で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
看護学入門実習Ⅰの学びを基礎とする。法学、疫学と公衆衛生、公衆衛生看護学など看護学全般との関連があり、今後の学修の礎石となる。

科目名(日本語)	**老年看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Gerontological Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬真粧美（K319研究室）masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日　18時まで　K319研究室（健康科学部棟3階）、それ以外は、メールあるいはMoodleのメッセージより、連絡をしてください。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する。

【２】　授業概要

高齢者の特徴について、身体的、心理・精神的、社会的側面から理解し、高齢者の健康状況と生活との関連、それを支える我が国のシステム、制度について理解し、高齢者とその家族の生活の現状と課題について考える。
なお、本科目は公衆衛生看護学における高齢者保健活動を学修するための基礎となる科目である。

【３】　到達目標

・日本の高齢社会の現状と高齢者を支える保健医療福祉システムについて述べることができる。
・高齢者の身体的、心理・精神的特徴を理解し、生活への影響と看護について述べることができる。
・老年看護における倫理的課題について述べることができる。
・自己の高齢者観を振り返り、老年看護の課題と展望について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	老年看護学における老いの捉え方と看護	内容：老年看護の理念・老いの捉え方・老化理論・老年看護に活用できる理論・看護の役割 授業方法：講義 予習：教科書p.18～25を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テスト キーワード：自我発達、老化理論、高齢者観、看護者	佐瀬真粧美
3・4	老化の生活への影響と看護	内容：身体的、生理的な老化・諸機能の変化による生活への影響・身体症状とアセスメント・高齢者自身の対処と支援 授業方法：講義・グループワーク・ディスカッション 予習：どんな身体的・生理的な変化が起こっているか、メディアなどに登場する、あるいは日常みかける高齢者を意識して観察する。教科書p.81～86を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テスト キーワード：諸機能の変化、生活機能、コミュニケーション、リスクマネジメント	佐瀬真粧美
5・6	老いを生きるこころと看護	内容：生きてきた時代や背景と価値観・高齢者と家族の関係・介護を受けるということ・高齢者へのかかわり、関係づくり 授業方法：講義 予習：高齢者が生きてきた「昭和」について、祖父母、父母に話を聞ける人は聞いてみる。 聞くことができない人はWebで調べてみる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：生活史、価値観、社会的役割、家族機能の変化、介護受容	佐瀬真粧美
7・8	多様な健康状態の生活への影響と看護	内容：高齢者の多様な健康状態・高齢者の特徴的な疾患と生活への影響・身体症状とアセスメント・高齢者自身の対処と支援 授業方法：講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書p.208～211、194～207を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テスト キーワード：疾患を持つ高齢者の特徴、治療を受ける高齢者の特徴	佐瀬真粧美
9・10	高齢者の療養生活と看護	内容：高齢者の療養生活の場と看護の実際 授業方法：講義 予習：教科書p.242～257を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：療養生活、入院、外来、薬物療法、退院支援、リスクマネジメント	佐瀬真粧美
11・12	高齢者をとりまく社会と看護	内容：日本の高齢社会の現状と保健医療福祉のシステム・さまざまな生活と治療の場と暮らし・さまざまな生活・治療の場における看護の役割 授業方法：講義 予習：高齢者に関わる医療の制度と福祉制度にはどのようなものがあるか調べてくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テスト キーワード：老年人口、介護保険法、老人福祉法、地域包括ケアシステム	佐瀬真粧美
13・14	老年看護における倫理的課題	内容：高齢者差別（エイジズム）・高齢者の権利擁護と制度、高齢者に対する虐待・ネグレクトなどの課題 高齢者を理解すること・尊厳ある生活・老年看護の役割と展望・高齢者の援助にかかわるチーム 授業方法：講義 予習：高齢者を差別している言葉、ことについて挙げる。高齢者に対する自身の気持ちや態度について箇条書きで整理する。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：エイジズム、権利擁護、虐待、身体拘束尊厳、チーム	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
提示される予習の課題に必ず取り組んでくる。課題を用い授業を進めるので、やっていないと、進められなくなる。課題や復習に1時間程度かかる。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなるので、授業への出席を重視する。

【7】　評価方法・基準

定期試験（50%）、課題（50%　各回小テスト5点＝35点、課題15点）

【8】　フィードバック方法

・授業中の小テストの結果やミニッツペーパーへのコメントを返却する。

【9】　教科書

看護学テキストNiCE 老年看護学概論「老いを生きるを支える」こととは　改訂第3版、南江堂

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

学んでおく科目：看護学概論　健康科学概論　地域・在宅看護概論
継続する科目：コミュニティヘルス看護概論、倫理学、看護入門実習Ⅰ、看護の基本技術Ⅶ

科目名(日本語)	**地域・在宅看護概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Community Health and Home Care Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬：Email;masami.sase@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K319)				
オフィスアワー	授業終了後、1時間とする。場所は、各担当者の研究室とする；佐瀬K319, 島村K313 それ以外で質問がある場合には、Moodleあるいはメールにて受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC, Moodle

【２】　授業概要

看護の対象者は「生活者」であることを理解し、生活者を捉える視点を養う。さらに地域で暮らす人々とその家族が住み慣れた場で生活を継続するために必要な看護のあり方と地域社会のしくについて学び、考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学における地域生活支援の学修とつながっている科目である。

【３】　到達目標

1. 地域で生活する人々の暮らしの移り変わりを説明できる。
2. 地域で生活する人々を取り巻く社会のしくみを説明できる。
3. 地域での暮らしを支える保険・医療・福祉制度および専門職を挙げることができる。
4. 地域包括ケアシステムと看護職の役割を説明できる。
5. 地域・在宅看護の展望と課題を挙げることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	地域で生活する人々の理解	内容：人々の生活の移り変わり、暮らしの知恵、医療の場の歴史 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：生活の営み、地域生活、暮らしの中での病の歴史、健康、在宅看護の歴史	佐瀬真粧美
3・4	地域で生活する人々を取り巻く社会	内容：個々の暮らし・生活環境の理解、生活環境、生活習慣や暮らし方と健康の関係、地域での生活環境が暮らしに与える影響 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：生活環境、食事・排泄・清潔・日常生活行動、生活習慣、自助・互助・共助・公助	佐瀬真粧美
5・6	地域の暮らしを支える保険・医療・福祉	内容：日本の保険・医療・福祉の変遷および現状（保険、医療、福祉制度を含む） 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：医療保険制度、診療報酬制度、介護保険制度、社会資源	佐瀬真粧美
7・8	地域での暮らしを支える専門職と在宅医療	内容：保険・医療・福祉の専門職の役割と働く場所、多職種連携、在宅医療 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：専門職、多職種、在宅医療	佐瀬真粧美
9・10	地域包括ケアシステムと看護職の役割	内容：地域包括ケアシステム、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割、地域住民・他の専門職との連携の必要性、 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：地域包括ケアシステム、地域包括支援センター。看護職の役割	島村　敦子
11・12	地域での生活を支えるさまざまな看護のかたち	内容：地域に存在する公的機関、組織および暮らしの身近にある機関・組織 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：保健所・保健センター、看護小規模多機能型事業所、介護保険施設、暮らしの保健室、コミュニティナース	島村　敦子
13・14	地域・在宅看護の展望と課題	内容：地域・在宅看護とは、在宅医療・在宅看護の発展および今後の展望と課題 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：地域・在宅看護、在宅医療、在宅看護。展望、課題	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、地域・在宅看護に関連する幅広い知識の習得を目指すため、事前学習1時間、事後学習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなるので、授業への出席を重視する。

【7】　評価方法・基準

定期試験（80%）、課題レポート（20%）

【8】　フィードバック方法

リアクションペーパーの内容を踏まえ、次回の授業の中で不十分な理解や質問ついてコメントする

【9】　教科書

授業時に必要資料を配布する。

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、看護入門実習Ⅱ、千葉県の地域医療、老年看護学概論、公衆衛生看護学概論、老年看護学方法論、地域・在宅看護方法論、コミュニティヘルス看護概論、看護の基本技術10・11、老年看護学実習、在宅看護学実習

科目名(日本語)	**看護入門実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introdutory Practicum of Nursing Ⅱ	必修	実験・実習	秋学期 1年	1単位 45時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・小板橋恵美子・鳥田美紀代・上地賢・島村敦子・植村直子・菅谷綾子				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者　佐瀬のメールアドレス　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp また、実習オリエンテーションにて実習用携帯の番号を知らせる。				
オフィスアワー	終了後30分対応する（各実習場）。 それ以外で連絡を取りたいときは、佐瀬にメールあるいは、実習用携帯で連絡を取ること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する

【２】　授業概要

地域で生活する人々、特に高齢者を支える機関・施設を利用しながら生活している人々との関わりを通して、様々な職種の活動、連携・協働システムの実際について知り、地域で生活する人の健康生活支援、地域における看護の役割について、考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.看護の対象がさまざまな健康レベルにある人間であることがわかる。
2.看護の対象の生活の場を知ることができる。
3.対象者への支援において、他職種との連携と看護の役割を知ることができる。
4.看護学生として、責任ある行動をとることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	詳細な学修内容は、看護入門実習の実習要項に示します。	全員
	実習	・10/11～10/14の4日間のローテーションの中で、デイサービス・デイケア（2日間）、認知症グループホーム（1日間）、居宅介護事業所（0.5日）の実習を行う。また、別日で、地域包括支援センターについて講義を受ける。 ・10/15は、全体のまとめを実施する。	全員
		【予習・復習・キーワード】 予習：講義を受ける施設がどのような機能・役割をもった施設なのか、調べてみる。 復習：各施設において、その日に、気づいたこと、感じたこと、学んだことを日々の記録に記述する。 キーワード：地域、生活、高齢者、機関・施設の役割、他職種、連携・協働、地域包括ケアシステム、看護の役割、看護の主要概念（人間、健康、環境、看護、擁護、倫理）	
	実習のまとめ	最終日に、まとめのグループワークを行う。 課題レポートの提出 ・直前オリエンテーションで、レポートテーマ、作成方法について説明を行う。	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

学内で学習した知識や看護入門実習Ⅰで学んだことをふまえ、看護入門実習Ⅱで実習施設となっているところはどのような役割をもつ施設かを確認し、実習目標を理解した上で実習に臨むために1時間程度の予習時間がかかる。実習中は、経験、体験できるものには、積極的に参加していく。実習後は、レポート作成のため、1.5時間程度の時間を要する。

【７】　評価方法・基準

評価項目に基づいて総合的に評価を行う。評価には以下の内容が含まれる。
１）実習への取り組み態度
２）講義・説明時の態度
３）グループワーク、まとめ等への参加状況　（1,2,3で20%）
４）実習記録の提出と内容（50%）
５）課題レポートの提出と内容（30%）

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、実習中のカンファレンス、実習のまとめ、提出記録・レポートへのコメントにて行っていく。

【９】　教科書

特に指定はしない。

【10】　参考書

適宜紹介。

【11】　備考(関連科目等)

倫理ことはじめ、倫理学、健康科学概論、コミュニケーション論、看護学概論、老年看護学概論等　看護入門実習Ⅱ

科目名(日本語)	国際看護（今年度開講せず）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	International Nursing	選択	演習	通年 全学年	1単位 30時間
科目責任者	○○○○				
担当教員	○○○○・佐瀬真粧美				
科目責任者 連絡先(教室)	。				
オフィスアワー	。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【2】　授業概要

海外（主に英語圏）の看護学部を有する大学の見学および現地の学生との交流、現地の生活に触れることを通して、異文化圏の考え方（共通点、相違点）を実感することで知見をひろめ、国際的な視点を養い、看護の本質について考察することを目的とする。

【3】　到達目標

。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
		2022年度は開講しないこととする。	

【6】　事前・事後学習とその時間

。

【7】　評価方法・基準

。

【8】　フィードバック方法

。

【9】　教科書

。

【10】　参考書

。

【11】　備考(関連科目等)

。

科目名(日本語)	**生物学入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Biology	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邉直子				
担当教員	渡邉 直子				
科目責任者 連絡先(教室)	naokow@biomol.sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける（10 分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

主に高等学校で生物学を履修していない学生を対象とし、大学教育の生物学を理解するために必要とされる細胞の構造と機能、多細胞生物の仕組みと営み、遺伝子の構造と発現などについて基礎知識を学修する。高校で生物学を履修した学生も受講可。

【３】　到達目標

1. 生物の共通性と多様性を理解し、説明できる。
2. 皮膚や腸に常在する細菌の特徴を理解し、説明できる。
3. ウイルス感染と免疫の関係を理解し、説明できる。
4. 生活習慣要因と生活習慣病の関係を理解し、説明できる。
5. 自然環境が健康に及ぼす影響を理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	生物の進化	内容：生物の進化から、生物の共通性と多様性を知る 方法：講義 予習：教科書 13 章 3、5 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：進化、細胞	渡邉 直子
3・4	身近な微生物	内容：皮膚に住む微生物、腸内細菌を通して常在性微生物と健康の関係を知る 方法：講義 予習：教科書 18 章 4 節、19 章 3 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：細菌	渡邉 直子
5・6	バクテリオファージとウイルス	内容：ウイルスの定義、成り立ちを学び、ハーシーとチェースの実験を通して遺伝子について理解する 方法：講義 予習：教科書 13 章 4 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：ウイルス	渡邉 直子
7・8	ウイルスと感染症	内容：感染症を引き起こすウイルスについて学ぶ。また、ウイルス感染に対する免疫の仕組み、ワクチンについて学ぶ 方法：講義 予習：教科書 13 章 4 節、19 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：感染症、生体防御、ワクチン	渡邉 直子
9・10	生活習慣病-1	内容：飲酒や喫煙、食生活などが健康に及ぼす影響について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 4 章 1 節、7 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：生活習慣病	渡邉 直子
11・12	生活習慣病-2	内容：生活習慣要因からがんの発症について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 8 章 5 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：がん	渡邉 直子
13・14	環境とヒトの健康	内容：自然環境が健康に及ぼす影響について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 17 章 1～5 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：自然環境	渡邉 直子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
- 指定した教科書の該当部分を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学習】
- ノートと教科書を照らし合わせて理解を深め、Moodle で復習の小テストを行う。
- 質問は、授業後直接またはメール、Moodle メッセージを活用してください。

15 時間の授業に対して30 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

小テスト（100%）

【8】　フィードバック方法

- 小テストの解説を次の授業で行う　。
- 質問があった場合、次の授業で解説を行う　。

【9】　教科書

スター生物学　（八杉貞雄監訳）　東京化学同人（第 1 版；原著第 4 版）

【10】　参考書

必要に応じてプリントを配布する。

【11】　備考(関連科目等)

生物学、微生物学

科目名(日本語)	**化学入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Chemistry	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	満田深雪				
担当教員	満田深雪				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部３号館５階講師室(但し、曜日制限あり下記参照のこと) メールアドレスは授業時間内に提示する。				
オフィスアワー	講義終了後に10分程度対応する。以後、対面質問は月曜の午前11時～午後12時、午後3時～４時、に理学部３号館５階講師室にて対応する。授業時間以外には、Moodleのチャット機能を使って問い合わせのこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleシステムで、対面授業の補完をする（諸連絡、課題提示、模範解答など）

【２】　授業概要

主に高等学校で化学を履修していない学生を対象とし、大学教育の化学を理解するために必要とされる原子の構造、元素の分類、化学結合、気体･液体･固体の性質、有機化学などの基礎知識を学修する。（高校で化学を履修した学生も受講可）

【３】　到達目標

1. 化学基礎（高校）を復習することで、看護の実践に必要な化学を理解するための基礎知識を説明できる。
2. 化学的思考で物質を理解し説明できる。
3. 物質の構成・性質についての概要を説明できる。
4. 物質の変化の概要を説明できる。
5. 生命と化学物質の関係についてその概要を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	はじめに 看護と化学	内容：はじめに看護に化学が必要な理由を理解できるよう講義・グループ ディスカッションを行う。また、化学の基本用語・物質名、元素、周期表について講義する 授業方法：講義・グループワーク 予習：看護と化学の関係を調べる 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学、生命、看護に化学が必要な理由	満田深雪
2	化学結合とは	内容：イオンと化学結合の関係を理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：化学結合について化学基礎（高校教科書）を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：イオン、イオン結合、共有結合、金属結合	満田深雪
3	物質量について	内容：原子量と分子量とは、看護に必要な物質量の計算を理解できるよう講 義する 授業方法：講義 予習：物質量の計算について化学基礎を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：原子量、分子量、モル濃度、溶液の濃度	満田深雪
4	物質の変化（1-1）	内容：物質の状態変化について理解できるよう講義する。 授業方法：講義 予習：物質の状態変化に必要な温度の概念について予習する。物質の状態変化について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：温度、物質の3態、状態変化	満田深雪
5	物質の変化（1-2）	内容：気体の溶解度、浸透圧、固体の溶解度について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：溶解度、浸透圧、について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：溶解度、浸透圧	満田深雪
6	物質の変化（2-1）	内容：化学反応と化学反応式（主に、化学式の立て方と質量保存の法則）について 理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：指定テキストに掲載されている化学反応式の意味が分かるようにしておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学反応式、質量保存の法則、化学式の立て方	満田深雪
7	物質の変化（2-2）	内容：化学平衡のいろいろな例、化学反応の方向性について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：化学平衡と反応の方向性について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学平衡、平衡定数、反応の方向性	満田深雪
8	物質の変化（2-3）	内容：酸と塩基、pH、塩の性質について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：酸と塩基、pH、塩の性質について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸と塩基、塩の性質、pHに関する計算	満田深雪
9	物質の変化（3-1）	内容：中和反応と塩の生成について理解できるよう講義する。 授業方法：講義 予習：中和反応と塩の生成（それぞれの化学反応式）について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：中和反応、塩の生成	満田深雪
10	物質の変化（3-2）	内容：酸化と還元、酸化剤・還元剤について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：酸化と還元（の定義の仕方と反応式）について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸化・還元、酸化剤・還元剤	満田深雪
11	医療と無機化合物	内容：無機化合物の種類（主にカリウム・カルシウム・鉄などのミネラルを構成する元素群）と医療との関係について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：無機化合物の種類について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：無機化合物、ミネラル	満田深雪

12	医療と有機化合物	内容：有機化合物の種類（生体を構成する有機化合物および、医薬品を構成する有機化合物や芳香族化合物）について、医療との関係について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：有機化合物の種類について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：有機化合物、芳香族化合物	満田深雪
13	生命と化学（基礎編1）	内容：生命体の維持に不可欠な物質のうち、生体内の量が多い物質（タンパク質・糖質・脂質）について その構造と性質（体内での生体反応を含む）を学ぶ事を目的に講義を行う 授業方法：講義 予習：指定テキストの該当ページを予習しておく 復習：テキスト・自身の講義ノート・配布資料を復習する キーワード：タンパク質、糖質、脂質	満田深雪
14	生命と化学（基礎編2）	内容：生命体の維持に不可欠な物質のうち、生体内で微量な物質（ホルモン、 ビタミン、核酸）について その概要（主に、構造と性質）を学び、ミクロな体内環境における役割を把握する事を目的に講義を行う 授業方法：講義 予習：指定テキストの該当ページを予習しておく 復習：テキスト・自身の講義ノート・配布資料を復習するキーワード：ホルモン、ビタミン、核酸、環境	満田深雪

【６】　事前・事後学習とその時間

講義中に習熟状況の確認あるいは小テストを実施するため、教科書あるいは配布された講義資料について予習を1時間、復習を1時間行うこと。

講義は対面の場合は、講義室でスライド等の説明と配布資料により、実施し、遠隔の場合は、講義支援システムMoodleを使用し実施する。

【７】　評価方法・基準

予習・復習を含めた講義に対する姿勢および毎回の内容に関する課題（30%）、定期試験（70%）で評価する。ただし、出席点は含まない。講義後課題の結果は次回の講義で解説を行う。対面の場合は、課題用紙を返却する。

【８】　フィードバック方法

毎回の簡単な課題に対し、次回の講義で模範解答を提示する。遠隔授業の場合も、配布資料に加えて前回の解答を提示する。

【９】　教科書

コ・メディカル化学 「医療・看護系のための基礎化学」　齋藤勝裕、他.（裳華房）

【10】　参考書

これだけ高校化学　杉山美次.（秀和システム）
看護に必要なやりなおし生物・化学　時政孝行.（照林社）
化学入門－日常に役立つ基礎知識－　大月穣.（東京化学同人）

【11】　備考(関連科目等)

化学（春学期後半）、生化学（秋学期）

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing Ⅰ	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・平田松吾・髙橋良幸・鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp(K329)				
オフィスアワー	講義終了後およびその日の17時50分～18:30、なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる 林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp K329				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

大学生や看護学を学ぶ学生として成すべき目的や、集団生活における対人関係を伴う学習（演習及び実習）上の守るべきルールを理解し、大学で自律的に学ぶために基本的な「学び方」および「学習者としての姿勢」を修得する。大学で学ぶために必要な基礎力である「伝わる（聴く･読む）、伝える（書く・話す）」能力を確認し、課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポート作成方法、プレゼンテーション等の発表、対人関係を伴う学習（演習及び実習）、ディスカッション等の方法や守るべきルールを講義や実践を通して理解し、学習者としての自分の考えをまとめる。

【3】　到達目標

1. 大学生に求められる資質・能力について説明できる
2. 本学で学ぶための取り組みについて説明できる
3. 本学部の教育目標を説明できる
4. 本学部での学生生活のルールを説明できる
5. 本学部での授業・演習を受けるときのルールを説明できる
6. 自己の社会人基礎力における課題と今後の取り組みについて説明できる
7. 倫理とは何かを自分なりにきちんと考え、その考えを言葉にできる
8. 看護専門職として守らなければならない倫理について、倫理原則を基に説明できる
9. 看護学を学ぶ時の基本的姿勢について説明できる
10. 図書館および検索エンジンを利用し、レポート作成に必要な文献を検索することができる
11. 文章作成や文献引用に関する基本的な倫理観を述べることができる
12. 日本語文章表現についての基本的な知識を身につけ、記述することができる
13. レポート作成に必要な、テーマや課題を批判的に読み取る能力、課題分析力を身につけ自ら考察することができる
14. レポートを書く上で必要な表記法（出典・参考文献など）を修得しレポートを作成することができる
15. レポート作成・試験受験時に守らなければならないことを説明できる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	大学で学問するとは（1）	内容： 1．大学で学ぶとは、生徒と学生の違い 2．大学生に求められる資質・能力 3．健康科学部が育成したい能力 4．学生生活の道徳・倫理 5．授業・演習における道徳・倫理 6．試験受験における道徳・倫理 7．看護学生としての社会人基礎力 方法：講義 予習：健康科学部の教育目標および、履修要覧・学生生活セルフマネジメントマニュアルに目を通しておく 復習：主体的に学ぶということはどういうことか、主体的に学ぶための取り組みについて整理し記述する。 キーワード：生徒と学生、大学生に求める資質・能力、健康科学部のディプロマ・ポリシー、学生生活、授業・演習、プレゼンテーション、グループディスカッション、本試験、追試験、再試験、成績、GPA	林ひろみ
3	大学で学問するとは（2）	内容： 1．自己の社会人基礎力を振り返り、自己の課題と今後の取り組みを明確にする。 方法：講義 予習：GPS-Academicの受検結果を見直しておく。 復習：自己の社会人基礎力における課題と今後の取り組みについて整理し記述する。 キーワード：社会人基礎力、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力、倫理、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、倫理性、GPS-Academic	林ひろみ・髙橋良幸・鈴木俊美
4・5	医療を目指す人の倫理（1）	内容 1．倫理とは何か 2．専門職業と倫理 3．医療における倫理 4．看護専門職に必要な能力 方法：講義 予習：日本看護協会のホームページから次の2つのコンテンツを読む ①「倫理とは何か」 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/basic/what_is/index.html ②「看護者の倫理綱領」 https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_ethics.pdf ※キーワード検索でも閲覧可能 復習：講義内で伝える キーワード：職業と医療、看護者の倫理綱領、倫理の4原則、倫理的感受性	鈴木俊美
6・7	大学と倫理	内容：倫理とは何かについての導入 方法：講義 予習：特になし 復習：授業内で伝える キーワード：倫理と医療、古代ギリシャ、ヒポクラテス医師団	平田省吾
8・9・10	倫理と道徳	内容：倫理と道徳の違いを考える 花沢健吾『アイアムヒーロー』に見る倫理 方法：講義 予習：とくになし 復習：講義内で伝える キーワード：倫理と正義、倫理と道徳	平田省吾
11・12・13	医療を目指す人の倫理（2）	内容：医療に関する倫理的課題についてディスカッションする 方法：グループワーク，プレゼンテーション 予習：Moodleにて伝える 復習：ディスカッションを経て学んだことを整理しておく キーワード：倫理的課題、倫理的感受性、倫理の4原則、倫理的対応、看護師の責務	林ひろみ・高橋良幸・鈴木俊美
14	医療を目指す人の倫理（3）	内容：医療に関する倫理的課題　グループワークのまとめ 方法：講義（オンデマンド） 予習：特になし 復習：医療に関する倫理的課題のまとめを受けて、学んだことをレポートする キーワード：倫理的課題、倫理的感受性、倫理の4原則、倫理的対応、看護師の責務	林ひろみ
15・16	図書館の活用と文献検索方法	内容 1．図書館の施設、設備、図書館の役割 2．文献、文献がなぜ必要か 3．文献の検索方法、文献検索のツール 4．文献引用のルールと倫理 予習：Moodleの使い方を体験しておく 復習：課題ワークに取り組む キーワード：パブリック・サービス、情報サービス、テクニカルサービス、文献情報データベース、蔵書の検索、電子ジャーナル	林ひろみ　メディアセンター司書

17	レポート・論文作成におけるルール	内容 １．レポート・論文作成における不正行為について ２．レポート・論文作成におけるルール 予習：特になし 復習：授業で配布された資料を読む キーワード：レポート作成、不正行為	林ひろみ
19・20	レポート・論文とは/文章表現方法	内容 １．レポート、論文とは何か ２．レポートの構成について ３．文章表現法：句読点や記号の使い分け、表記規則 方法：講義・演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む、演習課題の解きなおし キーワード：レポート・論文、レポートの構成、日本語文法、文章作法、文章記号	林ひろみ
20・21	レポート・論文作成方法１	内容 １．読みやすい文章、レポート論文における文章とはどのようなものか ２．レポート・論文におけるテーマの設定方法、問題の絞り方について ３．レポート論文の一般的な構成 方法：講義・演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む、演習課題の解きなおし キーワード：レトリック、テーマの設定、レポート・論文の構成	林ひろみ
22・23	レポート・論文作成方法２	内容 １．図や表の提示の仕方について ２．論点を整理し主張を行うための文章作法について 方法：講義・演習 予習：事前資料を読む 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む、演習課題の解きなおし キーワード：レトリック、情報の発信、情報の進化発展、情報の利用・応用	林ひろみ
24・25	レポート・論文作成方法３/メールにおける作法	内容 １．引用の仕方や参考文献の提示のしかたについて ２．メールにおける作法について 方法：講義・演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む キーワード：文章作法、レポート表記法、メール文章	林ひろみ
26・27	学術論文とは	内容 １．学術論文とは ２．学術論文における作成方法 方法：講義・演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、レポート作成、授業で配布された資料を読む キーワード：文章作法、レポート表記法	林ひろみ

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・事後課題の提出にMoodleを利用するため、あらかじめ各自で使い方を体験し、わからないことは確認しておいてください。
・この授業は、健康科学部看護学科の学生としてどのように学びどのように行動するかという基本的な態度を理解する、また大学生としてレポート作成に取り組むための基礎的な知識と技能を獲得することを狙いとしている。倫理的内容については、授業内容を受け止め、自分の頭で考える姿勢で臨むこと。文章表現に関する内容については、事前に示された資料を読み、復習として授業で行った演習課題を見直すこと。よって準備学習として、予習・復習あわせて1時間程度を要する。

【学習上の留意点】
・倫理は単に「知っている」だけではなく、実践することが大切である。主体的に学ぶために、考えたことを言語化する、他者の意見を受け入れたうえで自己の考えを整理するなど自己の考え方の傾向に気づけるようにすることを積極的に取り組んでほしい。また、わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。
・文章表現に関する授業においては、?事前学習として授業で示された資料・テキストを読み、授業に臨む。②宿題・課題が出た場合は積極的に取り組む。?事後学習として各回の授業時に配布された資料に目を通し、また授業で行った演習課題を見直す。

【７】　評価方法・基準

・レポート2件：40%　ミニテスト5回：25%　ワークシート6回：30%　グループワークへの取り組み5%

【８】　フィードバック方法

・課題レポートは結果を返却する。返却時に講評を行う。ワークシートは講義中に口頭でフィードバックする。ミニテストは結果を返却する。ミニッツペーパーに記載された感想や質問に対して次の時間にフィードバックする。

【９】　教科書

・資料を授業の時に配布する
・履修要覧・学生生活セルフマネジメントマニュアル

【10】　参考書

・前原澄子・遠藤俊子監修：看護学生のためによくわかる大学での学び方　第2版，2018，Kinpodo
・箕浦とき子・高橋恵著：看護職としての社会人基礎力の育て方　第2版、2018，日本看護協会出版会
・佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦編：アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門　第2版，2016年，慶応技術大学出版会
・永井均：倫理とは何か，2011，ちくま学芸文庫
・花沢健吾：アイアムヒーロー　全22巻，プロテカ
・佐渡島沙織・吉野亜矢子：これから研究を書く人のためのガイドブック　第2版，2021年，ひつじ書房
・浜田麻里・平尾得子・由井紀久子：大学生・留学生のための論文ワークブック，1997，くろしお出版

【11】　備考(関連科目等)

・倫理的内容においては、本学部学科の教育理念である「倫理観の涵養」に深くかかわる。また以降に学ぶ「倫理学」「哲学」などの総合教育科目や、すべての専門教育科目に関連している重要な科目である。
・文章表現に関する内容においては，トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ，レポート作成が課題として出される科目，看護研究に関連している重要な科目である。

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing Ⅱ	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleやメールでの連絡も可能。 メールアドレスは講義内で各教員より連絡する。 尾立篤子：研究室（K328） 蜂ヶ崎令子：研究室（K314） 宮崎裕子：研究室（K327）				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】 授業概要

本学科の教育の特徴であるトランスレーショナルの概念、方法、看護学における活用などについて基礎知識を学ぶ。理論、エビデンスとなる論文、フィジカル面の生理学的データなどを用い、臨床で起こる事象を読み解く視点を学習する。さらに、体験などの参加型授業を通して、看護学の根拠ある実践活動における科学的思考力を養う。

【3】 到達目標

1. 科学研究とは何か考え意見を論述できる。
2. トランスレーショナルの有用性について具体的に説明できる。
3. 看護における理論の有効活用と課題について説明できる。
4. 看護における論文の有効活用と課題について説明できる。
5. 身体情報を関連学問の知識に基づいて解釈し記述できる。
6. 身体情報を健康生活や看護援助に活用するアイデアについて文献を用いて述べられる。
7. 看護における根拠のある実践について説明できる。
8. 看護実践の根拠を生み出す方法について説明できる。
9. 看護学を発展させるトランスレーショナルについて考察できる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
第1・2回	トランスレーショナル概説	授業方法：講義 内容 1. オリエンテーション 2. 科学とは 3. 論理的思考とは 4. 看護実践における理論活用 予習：特に必要としない 復習：レポート キーワード：仮説と検証、科学的思考、クリティカルシンキング、知的財産、トランスレーショナル	尾立 篤子
第3・4回	身体情報活用のトランスレーショナル（1）	授業方法：計測・講義 内容 1. 身体情報の計測（トレーニング前） 2. トレーニング方法の説明 3. 身体情報を用いた論文の読み方 予習：示された課題について調べておく 復習：実験ワークシートへの記述、トレーニングの実施 キーワード：計測データの解釈、知識の移転、学習の転移	蜂ヶ崎 令子
第5・6回	身体情報活用のトランスレーショナル（2）	授業方法：計測・講義 内容 1. 身体情報の解釈（グループごとのプレゼンテーション） 2. 実験データの看護実践への活用 予習：実験ワークシートに記述した見解を各自が説明できるようにしておく 復習：課題レポートの提出 キーワード：転倒予防、廃用症候群、実験データの健康生活や看護実践への活用	蜂ヶ崎 令子
第7・8回	身体情報活用のトランスレーショナル（3）	授業方法：講義・グループワーク・発表 内容 1. 体験したトランスレーショナルについて考察 2. 看護を発展させるトランスレーショナルについて考察 予習：これまでの授業内容を整理して臨む 復習：課題レポートの提出 キーワード：科学的探究、クリティカルシンキング、リテラシー、人間尊重	蜂ヶ崎 令子
第9・10回	論文活用のトランスレーショナル（1）	授業方法：講義、演習 内容： 1. 対人距離（パーソナルスペース）とは 2. 自分の対人距離を測定する～「停止接近法」による測定～ 予習：示された課題について調べておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、対人距離	宮崎 裕子
第11・12回	論文活用のトランスレーショナル　(2)	授業方法：講義、グループワーク 内容： 1. 論文を読むということ～「対人距離」に関する論文の精読 2. 論文を読んでわかったこと 予習：ワークシートに記述したことを各自が説明できるように準備しておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：論文、論理的思考	宮崎 裕子
第13・14回	論文活用のトランスレーショナル（3）	授業方法：グループワーク、演習 内容： 1. 演習と講義で学んだことを活用し、課題「臥床している患者への接近方法」を推測する 2. 推測したことを確かめ考察する 予習：ワークシートに記述したことを各自が説明できるように準備しておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：推論、論理的思考	宮崎 裕子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、トランスレーショナルの概要を理解し、看護学の根拠ある実践活動における科学的思考の基盤作りをすることをねらっているため、関連内容について復習に1時間程度必要である。また、実験のために日々の数分を使う可能性がある。

【学習上の留意点】
授業は学び方の方法を学ぶ場ともなるため、主体的に学習する態度で臨むこと。
遠隔授業においては、当該授業に主体的に取り組み、課題を期限までに提出すること。質問や確認がある場合は、積極的に連絡すること。

【7】　評価方法・基準
各担当教員から提示される、課題レポート（80%）、プレゼンテーション・学習の取組み（20%）の総合点で評価する。

【８】　フィードバック方法
授業中のレポートは結果返却する。
次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【９】　教科書
授業時に資料を配布する。

【10】　参考書
河野哲也（2002）レポート・論文の書き方入門 第3版．慶應義塾大学出版会．

【11】　備考(関連科目等)
授業科目全般

科目名(日本語)	**看護のための物理学（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Physics for Nursing	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	渋谷寛				
担当教員	渋谷寛				
科目責任者 連絡先(教室)	毎週：水曜日14：00～16：00　理学部Ⅱ号館5階2514D室　(内線3461) shibuya@ph.sci.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	毎週：水曜日14：00～16：00　理学部Ⅱ号館5階2514D室　(内線3461)				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを活用する

【２】　授業概要

基礎的な物理学的思考を養い、看護技術の科学的な視点による理解を深める。具体的には、臨床の看護行為（ボディメカニクス・てこの原理・点滴静注など）に関連する物理や、人体のしくみ（呼吸器・循環器など）がどう物理学と関わるのかなどを学修する。本科目は、人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識と直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1　日常的に使われる物理量、単位、及び代表的な物理法則を理解し説明できる。
2　日常的な現象について理解し、説明できる。
3　物理学がどのように看護に応用されているかを理解し説明できる。
4　看護において物理学を応用した正しい行動がとれる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	プロローグー看護のために物理学を学ぶ理由－	内容：物理学とはどんな学問か、なぜ学ぶのか 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書のまえがきを読み、目次を見ておくこと 復習：レポート課題１に取り組み、提出する キーワード：物理学、科学リテラシー	渋谷　寛
3・4回	バイオメカニクスの基礎	内容：力学１ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第１章を読む 復習：レポート課題２に取り組み、提出する キーワード：バイオメカニクス、運動、エネルギー、摩擦、てこ、圧力	渋谷　寛
5・6回	看護・介護のボディメカニクス	内容：力学２ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第２章を読む 復習：レポート課題３に取り組み、提出する キーワード：ボディメカニクス、姿勢、動作、運動、体を動かすしくみ	渋谷　寛
7・8回	熱，体温，罨法	内容：熱力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第３章を読む 復習：レポート課題４に取り組み、提出する キーワード：熱、温度の概念、体温、体温の測定	渋谷　寛
9・10回	流体と呼吸・循環・吸引・医療	内容：流体力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第４章を読む 復習：レポート課題５に取り組み、提出する キーワード：気体、液体の概念、血液の採取、輸血の原理、血圧	渋谷　寛
11・12回	音・光と医療、電磁気と生活・人体・医療	内容：波動・電磁気学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第５章、第６章を読む 復習：レポート課題６に取り組み、提出する キーワード：音と波、音波や光を使った医療、電磁場の概念、その生体への影響、医療器具	渋谷　寛
13・14回	画像検査の物理科学	内容：電磁気学・原子物理学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：教科書の第６章、第７章を読む 復習：レポート課題７に取り組み、提出する キーワード：電磁場の概念、その生体への影響、医療器具、物質と原子、放射線・粒子線による治療	渋谷　寛

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：教科書の当該部分をあらかじめ目を通してから講義に参加すること(0.5時間)
復習：毎回出題される課題レポートを書く（問題を解く）（1時間）

講義はMoodleを使用した対面授業を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回授業の課題レポート50%と最終レポート50%で評価します。

【８】　フィードバック方法

質問の多かった課題や事柄について、次回の授業やMoodleの中で、補足説明やコメントをします。

【９】　教科書

ヘルプフル！看護・介護と物理　－根拠が分かって自信がつく－　多田旭男　著　三共出版

【10】　参考書

ベッドサイドを科学する　－看護に生かす物理学－平田雅子　著　　学研メディカル秀潤社

【11】　備考(関連科目等)

自然科学概論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、看護の基本技術Ⅰ～Ⅷ

科目名(日本語)	**実用英語Ⅱ (2)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅱ	必修	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	火曜日6限（13:00～13:50）の健康科学部棟講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

英語の重要な文法や語法の習得と、それらを踏まえた英語による表現活動を目標とします。ＩＡ／Ｂで習得した知識や技術をもとに、誰もが直面しうる人生や社会の問題を英語で読み解き考え論じられるように、英語をインプットする力とアウトプットする力をバランスよく養います。

【３】　到達目標

・異なる主題を扱った英文を正確に読解するのに必要な基礎的な文法に習熟することができる。
・多様な人生や社会の問題を論じる英文を適切に読解し論争点を正確に理解することができる。
・誰もが直面しうる人生や社会の問題を多角的に考え論じるための知識を得ることができる。
・人生や社会の問題を英語で論じるのに不可欠な語彙や語法を習得することができる。
・自分の意見を英語で効果的に述べるのに役立つ基本的な表現を身に付けることができる。
・英語の議論を整合的に展開するのに有用な標準的な技術に慣れ親しむことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンスとアイスブレイク	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、授業に参加し易い環境を整えます。 授業方法：講義，グループワーク 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を各人で改めて確認しておいてください。 キーワード：授業の概説，アイスブレイク	成田正人
３回	Unit 1 Cell phones	授業内容：Unit 1のLISTENINGを利用して携帯電話の問題を確認します。 授業方法：問題演習，講義 予習：携帯電話に関する問題を予め自分で考えておいてください。 復習：携帯電話について論じるのに必要な語彙や有用な表現を整理しましょう。 キーワード：Cell phones	成田正人
４・５回	Unit 1 CellphonesとUnit 2 'Freeters'	授業内容：Unit 1とUnit 2のREADINGを読解し、内容の理解度を計る問題に取り組みます。 授業方法：発表，講義 予習：Unit 1とUnit 2のREADINGを読んで、教科書の問題に答えておいてください。 復習：教科書のPROS AND CONSを利用して携帯電話の利点と欠点をまとめてください。 キーワード：Cell phones，Freeters	成田正人
６回	Unit 2 'Freeters'	授業内容：Unit 2のLISTENINGとPROS AND CONSを通してフリーターの問題を考えます。 授業方法：問題演習，講義，グループワーク 予習：フリーターの利点と欠点について予め自分で考えておいてください。 復習：小テストに備えて、Unit 1とUnit 2を復習しておきましょう。 キーワード：Freeters	成田正人
７・８回	小テスト１とUnit 4 Marriage	授業内容：これまでの学修を確認する小テスト１を行い、Unit 4のREADINGを読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義 予習：Unit 4のREADINGを読んで、教科書の問題に答えておいてください。 復習：結婚の議論に必要な語彙や有用な表現を整理しておきましょう。 キーワード：小テスト１，Marriage	成田正人
９回	Unit 4 Marriage	授業内容：Unit 4のLISTENINGとPROS AND CONSを通して結婚について考えます。 授業方法：問題演習，グループワーク 予習：結婚の善し悪しを話し合えるように準備しておいてください。 復習：結婚の良し悪しを自分でまとめてみてください。 キーワード：Marriage	成田正人
10・11回	小テスト１へのフィードバックとUnit 6 English	授業内容：小テスト１へのフィードバックの後、Unit 6のREADINGを読解します。 授業方法：講義，発表 予習：Unit 6のREADINGを読んで、教科書の問題に答えてください。 復習：英語について論じるのに必要な語彙と有用な表現を整理しておいてください。 キーワード：小テスト１へのフィードバック，English	成田正人
12・13回	Unit 6 Englishとパラグラフライティング	授業内容：Unit 6のLISTENINGに取り組んだ後、英語のパラグラフの書き方を確認します。 授業方法：問題演習，講義，質疑応答 予習：英語の問題について予め自分で考えておいてください。 復習：中間試験に備えて、英語のパラグラフを書く準備をしておいてください。 キーワード：English，パラグラフライティング	成田正人
14・15回	授業前半の総括と中間試験	授業内容：これまでの学修を振り返って、授業の前半について中間試験を行います。 授業方法：試験 予習：中間試験に備えて、これまでに学修したことを見直しておいてください。 復習：教科書などを使って中間試験の問題を振り返ってみてください。 キーワード：授業前半の総括，中間試験	成田正人
16・17回	中間試験へのフィードバックとUnit 7 Exercise	授業内容：中間試験へのフィードバックの後、Unit 7のREADINGを読解します。 授業方法：講義，発表，問題演習 予習：Unit 7のREADINGを読んで、教科書の問題に答えておいてください。 復習：運動の賛否について論じるのに必要な語彙と有用な表現を整理してください。 キーワード：中間試験へのフィードバック，Exercise	成田正人

18・19回	Unit 7 ExerciseとUnit 8 Divorce	授業内容：Unit 7のLISTENINGに取り組んでから、Unit 8のREADINGを読み解きます。 授業方法：発表，問題演習，講義，グループワーク 予習：Unit 8のREADINGを読んで、教科書の問題に答えてください。 復習：小テスト２に備えて、Unit 7とUnit 8を復習しておきましょう。 キーワード：Divorce	成田正人
20・21回	Unit 8 Divorceと小テスト２	授業内容：Unit 8のLISTENINGとPROS AND CONSの後にUnit 7とUnit 8の小テストを行います。 授業方法：小テスト２，発表，講義 予習：離婚の賛否について論じられるように準備しておいてください。 復習：離婚について英語のパラグラフを書いてみてください。 キーワード：Working parents，小テスト２	成田正人
22・23回	Unit 10 Working parents	授業内容：Unit 10のREADINGとLISTENINGとPROS AND CONSを行います。 授業方法：発表，問題演習，講義 予習：Unit 10のREADINGを読んで、教科書の問題に答えておいてください。 復習：働く両親の賛否を論じる英語のパラグラフを書いてみてください。 キーワード：Working parents	成田正人
24・25回	小テスト２へのフィードバックとUnit 14 Gender gap	授業内容：小テスト２へのフィードバックの後、Unit 14のREADINGを読みます。 授業方法：問題演習，発表，講義 予習：Unit 14のREADINGを読んで、教科書の問題に答えてください。 復習：男女差を考えるのに必要な語彙と有用な表現を整理しておいてください。 キーワード：小テスト２へのフィードバック，Gender gap	成田正人
26・27回	Unit 14 Gender gapと授業後半の総括	授業内容：Unit 14のLISTENINGとPROS AND CONSの後に、中間試験後の学修を振り返ります。 授業方法：問題演習，講義，グループワーク，質疑応答 予習：男女差の問題について論じる準備をしておいてください。 復習：期末試験に備えて、授業の後半に学修したことを見直しておいてください。 キーワード：Gender gap，授業後半の総括	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、教科書のREADINGをできるだけ正確に読み解き、各Unitのテーマになっている問題について予め自分で考えてみてください。事後学習では、小テストや試験に備えて、授業内で学修した文法や語法を整理すると共に、各Unitで考えた問題をテーマとして英語のパラグラフを書いてみてください。事前学習と事後学習は合わせて２時間程度かかると思います。

【７】　評価方法・基準

試験（中間・期末）60％と小テスト20％と発言回数20％で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと中間試験は、結果を返却し、重要な箇所や正答率の低い問題について授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

Gillian Flaherty『Which side are you on? Forming view and opinions -New Edition- 英語で考え、話す社会問題－最新版－』成美堂、2020年

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用英語Ⅰ，実用英語Ⅲ，医療英語Ⅰ

科目名(日本語)	**実用英語Ⅱ (1)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅱ	必修	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	秋山まき子				
担当教員	秋山まき子				
科目責任者 連絡先(教室)	授業内で連絡先メールアドレスを掲示する。				
オフィスアワー	火曜日　昼休みに講師控え室にて受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する。

【２】　授業概要

CDを活用するなどして英語を英語で理解する訓練を行う。リーディング活動のみならず、題材の文章を活用して、英語ライティング能力や英語スピーキング能力といった総合的英語コミュニケーション能力の向上を目指す。とりわけ、英語表現能力につながる単語力の増強と実践的な文法力の獲得にも努める。英語で日常的な業務に関するコミュニケーションを行えるようになるために、基本的な文法事項を確認した上で、日常的な語彙・フレーズを、「実際に使用できる」レベルにまで高めるための練習をすることに重きをおく。

【３】　到達目標

１．基本的な英語の構造・文法事項を確認・理解する
２．やや長めの自然かつ簡潔な文体の英語文章を題材にして、総合的英語コミュニケーション力を伸ばす。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション、自己紹介	授業の目的・内容・進め方・評価方法について説明する。その後、英語で自己紹介をしたり、フォローアップクエスチョンを尋ねるなど、英語でのコミュニケーションを行う。	秋山　まき子
2.3	Unit1　Culture shock (1)	Culture shock：問題点および対処法 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書P9までに関する語彙を理解・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
4.5	Unit1　Culture shock（２）	Culture shock:国別の文化の違いに対するアプローチ 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書ｐ１０～unit1のおわりまでに関する語彙を理解・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
6.7	Unit２　Coffee (1)	Coffee: コーヒーは体に良いのか悪いのか 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書ｐ１５～１６に関する語彙を理解・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
8.9	Unit２　Coffee（２）	Coffee: コーヒーの適正価格について 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書ｐ１９～２０に関する語彙を理解・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
10.11	Unit3　Today's technology (1)	Today's technology：ネットを利用した授業 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書ｐ２５～２６の語彙を理解しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
12.13	Unit3　Today's technology (2)	Today's technology：　CD　vs　レコード 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書ｐ２９～３０の語彙を理解しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
14	Teest1	Unit 1,2,3の復習を兼ねたテスト	秋山　まき子
15.16	Unit 4: Urban life (1)	Urban Life：　City　vs　Country 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書p.３３～３４の語彙の確認・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
17.18	Unit 4: Urban life (2)	Urban Life：　Living in the city 授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書p.３７～３８の語彙の確認・把握しておく 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する	秋山　まき子
19.20	Unit 5: The body beautiful (1)	The body Beautiful：美容整形について 授業方法：講義・ペア/グループワーク 予習：教科書p.４３～４４を確認・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目を整理し理解する	秋山　まき子
21.22	Unit 5: The body beautiful (2)	The body Beautiful：美容整形について 授業方法：講義・ペア/グループワーク 予習：教科書p.４７～４８を確認・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目を整理し理解する	秋山　まき子
23.24	Unit 6: The piracy business (1)	The piracy business: ハイブランド商品の偽物について 授業方法：講義・ペア／グループワーク 予習：教科書p.５１～５２の語彙を把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目を整理し理解する	秋山　まき子
25.26	Unit 6: The piracy business (2)	The piracy business: コピーライトについて 授業方法：講義・ペア／グループワーク 予習：教科書p.５５～５６の語彙を把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目を整理し理解する	秋山　まき子
27	Final Test	Test1以降のUnit４，５，６を中心に復習を兼ねたテスト	秋山　まき子

【６】　事前・事後学習とその時間

予習としては、テキストの語彙の欄を確認し、意味を覚えておく。実際に授業で使うことができるよう、暗記しておくこと。また、復習としては、授業で学んだ表現・文法事項を改めて整理し、自らの中に定着させることに努める。予習・復習には1時間程度の学習が必要である。

【７】　評価方法・基準

授業参加度45%、課題提出10%、試験45%の総合評価による。
小テストや中間試験の後、ポイントや誤りの多かった箇所についてフィードバックを行う。
授業には2/3以上出席していないと、単位の評価対象にはならないので、注意すること。

【８】　フィードバック方法

小テストや中間試験の後、ポイントや誤りの多かった箇所についてフィードバックを行う。

【９】　教科書

Essential Reading 2nd Edition Level 2 (Macmillan Education / 2016) ￥2,600＋税
ISBN: 978-0-230-49399-5

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用英語Ⅰ，実用英語Ⅲ，医療英語Ⅰ

科目名(日本語)	**実用英語Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅲ	選択	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	Christine Joy Kelly				
担当教員	Christine Joy Kelly				
科目責任者 連絡先(教室)	Email address: kellychristine.joy@sci.toho-u.ac.jp anytime for help during the course. Contact details will be provided during the first lesson.				
オフィスアワー	In person: Thursdays, 12:15-12:50, Health Science Building, 1st floor in common space.				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

この授業は英語のコミュニケーション能力向上を目指す。この授業を通じて学生は、正確で流暢な英語での会話力・発信力をつけるとともに、リスニングの練習を通じて日常会話の聞き取り能力を身につけることを目指す。

【３】　到達目標

１．さまざまな場面での英会話の基本表現を習得できる。
２．英語コミュニケーションに慣れることで、コミュニケーションに必要な態度を身につけることができる。
３．英語を使ってディスカッションを行う際の基本的スキルを身につけることができる。

1.　By learning and practicing basic English phrases, collocations and discussion strategies from the course textbook, students will be able to:
(ア)　make comparisons between cultures in relation to the family, bringing up children, marriage and health;
(イ)　give opinions with factual reasons about contemporary social issues;
(ウ)　use discussion strategies to debate, agree or disagree with opinions;
(エ)　use mind mapping techniques to organize vocabulary to expand and deepen conversations in everyday situations in English;
(オ)　make invitations and enquiries in practical daily situations by phone and in person;
(カ)　give advice regarding unhealthy habits to people who are seeking to improve their lifestyle;
(キ)　explain responsibilities and dangers to children; and
(ク)　encourage older people or foreigners to recall memories.

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。
３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1 and 2	Introduction and Unit 1 Friends	Textbook pages: 8-13 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “people you like” on page 8 of textbook. Lesson contents: Group discussion of preferences for friends with certain personality types. Using discussion strategies to agree/disagree with partner’s opinions. Groupwork roleplay telephoning friends to invite them to do something with you. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 13. Key words: serious, sincere, humor, selfish, witty, confident, sensitive easygoing, arrogant, generous, sociable, reliable, opposite, similar, different	Christine Joy Kelly
3 and 4	Unit 2 Free time	Textbook pages: 14-19 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “free time” on page 14 of textbook. Lesson contents: Pairwork debate the best use of free time. Using discussion strategies to acknowledge and yet disagree with the opinions of others. Groupwork roleplay strategies for making complaints at restaurants. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 19. Key words: eat out, out of shape, lazy, in good shape, take a trip, exhausted, opportunity, calm down, waste, fond of, rush around, take care of.	Christine Joy Kelly
5 and 6	Unit 3 The Past	Textbook pages: 20-25 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “when I was a child” on page 20 of textbook. Lesson contents: Groupwork discussion of childhood habits, preferences and influences, differences and similarities to other cultures. Using discussion strategies to confirm and summarize information. Presentations of favorite childhood fairy tales and stories. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 25. Key words: used to, had to, out of date, grew up, miss, memory, traditional, old-fashioned, regret, let, remind me of, brought up.	Christine Joy Kelly
7 and 8	Unit 4 The Family	Textbook pages: 26-31 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “parents getting old” on page 26 of textbook. Lesson contents: Debate in a group the benefits of living in multi generation households and discuss differences and similarities between cultures. Using discussion strategies to acknowledge facts but give a differing opinion. Roleplay going to a real estate agent to search for a property for your family. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 31. Key words: cousins, relatives, descended from, look after, unreasonable, depend on, spoil, criticize, appreciate, sacrifice, responsibility, in-law.	Christine Joy Kelly
9	Revision, Units 1 to 4, test practice	Preparation for lesson: Complete homework for units 1-4 Review vocabulary from units 1-4 Lesson contents: Practice Test for vocabulary from units 1-4 Pair work activities to review units 1-4 Review: prepare role-plays for next lesson.	Christine Joy Kelly
10	Review, homework check and roleplay presentations	Preparation for lesson: Submit homework for units 1-4 Practice favorite role-play from units 1-4 Lesson contents: Practice and present or record (video or audio) roleplay	Christine Joy Kelly

11 and 12	Unit 5 Work	Textbook pages: 32-37 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “ideal job” on page 32 of textbook. Lesson contents: Groupwork discussion on the ideal work environment, research work environments in different cultures. Using discussion strategies to give suggestions. Roleplay a media (TV or Youtube) interview about ambition. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 37. Key words: overtime, civil servant, paperwork, promoted, excitement, self-employed, in charge of, monotonous, manager, laid off, steady, ambition.	Christine Joy Kelly
13 and 14	Unit 6 City Life	Textbook pages: 38-43 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “cities” on page 38 of textbook. Lesson contents: Pairwork debate on the advantages and disadvantages of living in cities and the countryside, research cities in other countries. Using discussion strategies to question someone’s opinion. Roleplay giving recommendations for vacations depending on the person’s preferences. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 43. Key words: commute, pollution, amenities, traffic jam, stimulating, glamorous, crowded, materialistic, population, get things done, suburbs, environment.	Christine Joy Kelly
15 and 16	Unit 7 Beliefs	Textbook pages: 44-49 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “beliefs” on page 44 of textbook. Lesson contents: Discuss in groups various beliefs in superstitions, compare Japanese superstitions with other cultures. Using discussion strategies to give vague answers to questions. Roleplay a dream analysis. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 49. Key words: zodiac, fortune teller, vampires, ghosts, telepathy, superstitions, supernatural, predict, interpret, character, astrology, cynical.	Christine Joy Kelly
17 and 18	Unit 8 The Future, revision and test practice	Textbook pages: 50-55 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “100 years from now” on page 50 of textbook. Lesson contents: Groupwork discussion on predictions for the future using future conditional tense. Using discussion strategies to make conclusions about future predictions. Roleplay interview of your classmates 20 years from now. Review of units 5-8. Practice test units 5-8. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 55. Key words: doubt, guess, probably, wonder, expect, unless, unpredictable, invent, by the time, discover, nobody knows, unlikely.	Christine Joy Kelly
19	Review, homework check and roleplay presentations	Preparation for lesson: Complete homework for units 5-8 Practice favorite role-play from units 5-8 Lesson contents: Practice and present or record (video or audio) roleplay	Christine Joy Kelly
20	Unit 9 Transportation	Textbook pages: 56-61 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “cars” on page 56 of textbook. Lesson contents: Pairwork discussion on the benefits and dangers of driving compared to other forms of transport. Using discussion strategies to strongly disagree with opinions. Roleplay a car incident conversation between a driver and a police officer. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 61. Key words: break down, public transportation, stuck, get around, service, uncomfortable, fares, congested, irritated, punctual, dependent on, delayed.	Christine Joy Kelly

21 and 22	Unit 10 Vices	Textbook pages: 62-67 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “alcohol” on page 62 of textbook. Lesson contents: Groupwork debate on the legality of smoking tobacco and drinking alcohol, research laws from other countries. Using discussion strategies to reject other points of view on controversial issues. Roleplay giving advice, help to someone who wishes to give up smoking. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 67. Key words: give up, cancer, drunk, alcoholics, addicted, heart attack, pregnant, willpower, passive smoking, hangover depressed, legal.	Christine Joy Kelly
23 and 24	Unit 11 Marriage	Textbook pages: 68-73 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “marriage” on page 68 of textbook. Lesson contents: Group discussion on wedding and marriage customs around the world. Using discussion strategies to make conclusions and guesses about other cultural practices. Roleplay asking a patient to recount their wedding day. Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 73. Key words: engaged, arranged, propose, anniversary, separate, wedding ceremony, divorce, opposite sex, affair, get to know, extravagant, single.	Christine Joy Kelly
25 and 26	Unit 12 Animals, revision and test practice	Textbook pages: 74-79 Preparation for lesson: Write answers to warmup questions, do vocabulary exercise and complete a mind-map of “animals” on page 74 of textbook. Lesson contents: Groupwork discussion on vegetarianism and pet ownership. Using discussion strategies to accept another point of view. Roleplay instructing a child about the responsibilities of pet ownership. Revision of units 9-12 Test practice for units 9-12 Review: Do the crossword and write sentences using the collocations on page 79. Key words: domestic, endangered, experiment, extinct, wild, survival of the fittest, evolution, mammals, species, reptiles, nature, dying out.	Christine Joy Kelly
27	Final test practice, submission of homework and roleplay presentations	Preparation for lesson: Complete homework for units 9-12 Practice favorite role-play from units 9-12 Review collocations from units 1-12 (homework section) Lesson contents: Final test practice using collocations from units 1-12 in dialogues/sentences. Practice and present or record (video or audio) roleplay	Christine Joy Kelly

【6】 事前・事後学習とその時間

Students should read through the unit before the lesson, write in their notebook and learn new vocabulary, which takes about 30 minutes.
Students should write answers to the warm-up questions, vocabulary exercise and mind mapping exercise on the first page of the unit, which takes about 30 minutes.
Students should complete the crossword and write sentences using the collocations on the final page of the unit after the lesson, which takes about 30 minutes.

講義はMoodleを使用した遠隔授業を行う。

【7】 評価方法・基準

Assessment and attendance
Students must attend class regularly to pass the course but attendance is not included in the course assessment.

1. Homework for units 1-12 30%
First page of unit: Write answers to warm-up questions; complete vocabulary exercise; draw a mind-map on the unit topic.
Final page of unit: Complete the crossword; write sentences using collocations contained in the unit.
2. Roleplay 1 from units 1-4 20%
3. Roleplay 2 from units 5-8 20%
4. Roleplay 3 from units 9-12 20%
5. Final test on vocabulary and collocations from units 1-12 10%

Total 100%

【８】　フィードバック方法

Assessment and feedback will be provided individually through Moodle/Email forms designed for each task and will concentrate on accuracy, grammar, vocabulary, pronunciation and content learned throughout the course.

【９】　教科書

Textbook: Communication Strategies 1, David Paul, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2008 ISBN 978-981-4232-59-3

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

Practical English Ⅱ, Practical English Ⅳ

科目名(日本語)	**実用医療英語**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English in healthcare	選択	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	廣井直樹				
担当教員	廣井直樹、富田りか				
科目責任者 連絡先(教室)	講義内で通知する。				
オフィスアワー	質問等は授業終了後、講義室にて受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

医療人類学の視点から健康の概念を概観し、医療場面に必要なコミュニケーション能力を高める。特に、宗教や文化、出身国による生活習慣などが異なる外国人の医療ニーズに対応できるように、社会的・文化的背景などを把握し、外国人患者との円滑な意思疎通を図る英語力を高める。さらに、医療場面での多様な価値観を尊重する態度と倫理的姿勢を身につける。全学的に開講されている科目である。

【３】　到達目標

１．人の価値観の多様性が、文化・慣習の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
２．英語による外国人との意思疎通ができる。
３．科学、医療に関する代表的な用語を英語で発音できる。
４．外国人の宗教観、社会的背景を聞き取り、彼らの生活習慣や文化に敬意を示すことが出来る。
５．マイノリティへの無意識な不平等と無理解に気付くことが出来る。
６．多様性社会の在り方に医療人として考えを持つことが出来る。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	イントロダクションⅠ	授業方法：講義、グループワーク。Ice-break 予習・復習：講義ごとに提示する キーワード：ice-break, group work	富田りか
2	イントロダクションⅡ	授業方法：講義、グループワーク。Interview techniques 予習・復習：講義ごとに提示する キーワード：interview technique	富田りか
3	健康保険システムⅠ	授業方法：講義　Universal healthcare system 予習：皆保険制度について理解しておく 復習：保険制度の違いが医療に与える影響を理解する キーワード：universal healthcare system	富田りか
4	健康保険システムⅡ	授業方法：講義 domestic and international healthcare 予習：世界の保険制度について理解しておく 復習：保険制度の違いが医療に与える影響を理解する キーワード：healthcare system by countries	富田りか
5	イスラム圏の医療事情Ⅰ	授業方法：講義 日本人とイスラム教 予習：イスラム教, キリスト教, ユダヤ教の基礎について理解しておく 復習：イスラム圏における医療についてまとめる キーワード：Shiite Muslim, Sunni Muslim	富田りか
6	イスラム圏の医療事情Ⅱ	授業方法：講義　イスラム教義の施しの倫理 予習：イスラム教, キリスト教, ユダヤ教の基礎について理解しておく 復習：イスラム圏における医療についてまとめる キーワード：major religions of the world	富田りか
7	ムスリムとの面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
8	ムスリムとの面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
9	東南アジアにおける医療事情	授業方法：講義 予習：東南アジア諸国の基本情報を理解しておく 復習：東南アジア諸国の医療情勢についてまとめる キーワード：社会の成り立ち、生活環境、気候、原虫性感染症	富田りか
10	東アフリカにおける医療事情	授業方法：講義 予習：アフリカ大陸地域別気候を理解しておく 復習：東アフリカにおける医療情勢についてまとめる キーワード：社会の成り立ち、生活環境、部族薬師と近代医療、HIV/AIDS	富田りか
11	フィリピン人との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
12	フィリピン人との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
13	性的マイノリティと医療Ⅰ	授業方法：講義　政治と医療①：アメリカにおけるHIV/AIDS政策 予習：HIV/AIDSについて事前学習しておく 復習：講義時に指示する キーワード：政治体制, 偏見・差別	富田りか
14	性的マイノリティと医療Ⅱ	授業方法：講義 政治と医療②：LGBTQ 予習：LGBTQについて調べておく 復習：性的マイノリティ者が医療を受ける際に生じうる問題をまとめる キーワード：LGBTが国民として有する権利	富田りか
15	性的マイノリティ者との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
16	性的マイノリティ者との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
		※授業内容の順番は変更となる可能性がある。	

【6】　事前・事後学習とその時間

講義に関連する国や文化について事前に学習しておくこと。予習・復習時間はそれぞれ1時間持つこと。面談の際にはコミュニケーションをとろうとする姿勢を相手に的確に示すこと。英語能力のレベルを履修要件とはしない。

＜学習上の留意点＞

１．日程について：本科目は共通教育科目として運営されている。その関係上、5,6月の土曜日の開講となる。１日４コマ×４日間での授業となる。

２．授業教室について：講義については大森キャンパス医学部本館3階大学院講堂で、面談演習は2号館6階SDLセンターで行う。ただし、他の教室も使うことがある。その際には事前に提示する。

【７】　評価方法・基準
授業中のパフォーマンス（発言内容等）（60%）、授業終了後のレポート（30 %）、および事前学習に対するミニテスト（10 %）によって評価を行う。

【８】　フィードバック方法
ミニテストについては実施後に解説を行う。レポートについてはメールにてフィードバックを行う。

【９】　教科書
特に指定しない。

【10】　参考書
特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)
実用英語A、実用英語B、医療英語ⅠA、医療英語ⅠB、実用英語Ⅱ、実用英語Ⅲ、医療英語Ⅱ
講義および面談演習（外国人との面談）

開講年度：2022年度

	日にち	時間
第１回目	5月7日（土）	13：30-17：30
第２回目	5月21日（土）	10：30-12：30、13：30-15：30
第３回目	6月4日（土）	10：30-12：30、13：30-15：30
第４回目	6月18日（土）	10：30-12：30、13：30-15：30

※実施時間は今後変更となる可能性があります。

全学部共通の演習での事前事後課題については授業担当教員より周知されるので、指示に従うこと。
全学部共通の演習に加えて、健康科学部では15時間の授業が必要になる。詳細については指示に従うこと。

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅲ（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human Body Ⅲ	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	中内暁博				
担当教員	中内暁博、佐藤二美				
科目責任者 連絡先(教室)	akihiro.nakauchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義後（概ね30分前後）、非常勤講師室。それ以外はメールで問い合わせること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、脳・神経系、感覚系、内分泌系などの情報を受容し処理するしくみについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動や健康問題に関する要因を理解する。

循環器（2コマ）／腎・泌尿器（6コマ）／消化器（8コマ）／代謝（2コマ）／生殖器（5コマ）／解剖学演習（解剖見学：4コマ）

【3】　到達目標

到達目標（SBOs）

1. 体循環と肺循環について説明できる。
2. 血圧調節と血流量の調節について説明できる。
3. 微小循環とリンパ循環について説明できる。
4. チアノーゼと心不全の病態生理について説明出来る。
5. 泌尿器系の構成と構造について説明できる。
6. 腎臓の構造と機能について説明できる。
7. 糸球体の構造と機能について説明出来る。
8. 尿生成の過程について説明できる。
9. 傍糸球体装置について説明出来る。
10. クリアランスと糸球体ろ過量について説明できる。
11. 腎臓から分泌される生理活性物質について説明できる。
12. 排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能について説明できる。
13. 蓄尿と排尿について説明できる。
14. 尿の性状および尿の異常について説明できる。
15. 水・電解質と酸塩基平衡について説明できる。
16. 脱水の機序について説明できる。
17. 消化器系全般の構成について説明できる。
18. 口腔・歯の構造と機能について説明できる。
19. 咽頭・食道の構造と機能について説明できる。
20. 咀嚼・嚥下と誤嚥について説明できる。
21. 胃の構造と機能について説明できる。
22. 胃液の分泌とタンパク質の消化について説明できる。
23. 十二指腸の構造と機能について説明出来る。
24. 小腸の構造と機能について説明できる。
25. 消化と吸収のしくみについて説明できる。
26. 消化管の運動について説明できる
27. 大腸と肛門の構造と機能について説明できる。
28. 排便の機序について説明出来る。
29. 膵臓の構造と機能について説明できる。
30. 肝臓・胆嚢の構造と機能について説明できる。
31. 腹膜と内臓の位置関係について説明できる。
32. 代謝の概念と機能について説明できる。
33. 運動とエネルギーについて説明できる。
34. 体温とその調節について説明できる。
35. 熱中症の機序について説明出来る。
36. 男性生殖器の構成について説明できる。
37. 男性の生殖機能について説明できる。
38. 女性生殖器の構成について説明できる。
39. 女性の生殖機能と性周期について説明できる。
40. 乳腺の構造と機能について説明できる。
41. 受精のしくみについて説明できる。
42. 分娩について説明出来る。
43. 胎児の血液循環について説明できる。
44. 成長・思春期について説明できる。
45. 老化のメカニズムについて説明出来る。
46. 知識の関連付けならびに定着のため、実際の人体解剖を見学する。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	循環器（1年次に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 1、2（心臓の収縮・末梢循環・血圧） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p206～221を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体循環・肺循環・心拍出量・血圧・心臓の負荷・血管の構造	中内暁博
2	循環器（1年次に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 3、4（微小循環・リンパ循環・心不全） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p206～221を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：微小循環・リンパ循環・チアノーゼ・心不全	中内暁博

【６】　事前・事後学習とその時間

【復　習】理解できないところについては、質問したり、各種参考書で確認したりし、疑問は必ず早期に解決しておくことが大切です。小テストについても必ず復習して下さい。
この講義で学ぶ内容は、看護・医療を学ぶ上での基礎となるものです。事後学習は、最低でも1時間程度を行って下さい。
【学習上の留意点】講義の中では実際の解剖の写真を提示しながら進行します。たとえ、写真であっても、人として、医療者を目指す者として、亡くなった方への礼や畏敬の念を忘れてはなりません。遺族が不快な思いをするようなことも慎まねばなりません。従って、いかなる理由であっても、人体や臓器等の写真か否かにかかわらず講義中の写真撮影・録画は認めません。

【７】　評価方法・基準

定期試験（筆記式：60%）、小テスト（消化器系など：30%）、講義への取り組み（リフレクション課題の記述内容等：10%）を総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストはテスト終了後に解説し、次回の講義で採点した答案を返却します。リフレクション課題については、次回の講義で解説します。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学 第10版　医学書院

【10】　参考書

系統看護学講座　解剖生理学ワークブック　坂井建雄、岡田隆夫　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、健康科学概論、生化学、微生物学、疾病と治療、薬理学、看護専門科目

科目名(日本語)	**臨床栄養学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nutrition	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	根本清光				
担当教員	根本清光				
科目責任者 連絡先(教室)	kiyomitsu.nemoto@phar.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	月曜日、火曜日、木曜日、金曜日　15時～18時 薬学部D209（公衆衛生学教室・教授室）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

栄養学は健康の維持・増進に関わるばかりではなく、患者の治療においても重要な役割を占めている。そこで、脂質の構造と機能、タンパク質の構造と機能、酵素・補酵素とビタミン、糖質の構造と機能、糖質代謝とエネルギー生成、糖質代謝の調節、脂質代謝と代謝調節、タンパク質代謝と代謝調節などの栄養学の基礎を学び、さらに患者の栄養管理法や食事療法、非経口栄養法など臨床栄養学について学修する。

【３】　到達目標

1. 栄養学を学ぶ意義について説明できる。
2. 栄養素の分類、体内における役割を説明できる。
3. 栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。
4. 食品中の栄養素の栄養的価値について説明できる。
5. エネルギー代謝に関わる栄養素の生体利用エネルギー、エネルギー消費量、エネルギー代謝量の測定法について概説できる。
6. 日本人の食事摂取基準およびわが国の栄養素摂取と健康状態の現状について説明できる。
7. ライフステージにおける栄養の必要性について説明できる。
8. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
9. ライフステージにおける疾患と栄養管理について概説できる。
10. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	栄養素-1	内容：栄養の概念と栄養素の分類 授業方法：講義 予習：教科書（臨床栄養学の基礎知識　1 臨床栄養学の意義と看護、2 栄養とは）を簡単に読む。 復習：講義時に提示する。 キーワード：五大栄養素	根本清光
3・4回	栄養素-2	内容：五大栄養素の体内における役割 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：五大栄養素、食物繊維	根本清光
5・6回	栄養素-3	内容：栄養素の消化・吸収・代謝、食品中の栄養素の栄養的価値 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：消化、吸収、代謝、栄養価、NPC/N比	根本清光
7・8回	疾患治療と栄養-1	内容：エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準、わが国の栄養素摂取と健康状態の現状 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：基礎代謝量、食事摂取基準	根本清光
9・10回	疾患治療と栄養-2	内容：ライフステージにおける栄養の必要性 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養欠乏、栄養過剰	根本清光
11・12回	疾患治療と栄養-3	内容：ライフステージにおける疾患と栄養管理 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養スクリーニング、栄養アセスメント	根本清光
13・14回	疾患治療と栄養-4	内容：疾患治療における栄養管理 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養サポートチーム（NST）、栄養補給法、在宅栄養療法、治療食	根本清光

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】

この授業は、専門用語が多く出てくるため、予め予習をしておく必要があります。ここに示された授業計画を確認し、事前にWeb掲示板に掲載された講義資料や教科書、参考書の該当部分に目を通して下さい。このために、予習時間70分程度を費やします。

【事後学習】

講義後は、講義ノート、講義資料、教科書および参考書を用いて講義内容を再確認するとともに、不足の内容について知識を補って下さい。さらに、関連する練習問題を解き、理解をしっかり身に付けて下さい。このために、復習時間70分程度を費やします。

【学習上の留意点】

e-ラーニングを積極的に活用すること。

【７】　評価方法・基準

到達目標を出題基準として実施する定期試験の成績（100%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

定期試験実施後、解答・講評をWeb掲示板に掲示する。

【９】　教科書

『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(4)：臨床栄養学　第5版』　メディカ出版

事前にweb掲示板に掲載された講義資料。

【10】　参考書

講義時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

生化学、解剖生理学に関する科目が関連します。

今後、さまざまな臨床系の科目と関連します。

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅱ（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅱ	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	本村昇				
担当教員	本村昇・清水一寛・大城崇司・松岡克善・根本匡章・榊原隆次・長島誠・松澤康雄				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（本村　昇）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （清水一寛）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （大城崇司）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （松岡克善）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （根本匡章）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （榊原隆次）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （長島　誠）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。 （松澤康雄）講義終了後、講義室で10分程度に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅱでは、呼吸器の疾患、循環器の疾患、消化器の疾患、脳・神経系の疾患について学習し、知識の習得を目指す。

（本村　昇／２コマ）循環器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（清水一寛／５コマ）循環器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（大城崇司／４コマ）消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松岡克善／４コマ）消化器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（根本匡章／２コマ）脳・神経の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（榊原隆次／４コマ）脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（長島　誠／２コマ）呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松澤康雄／４コマ）呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

●呼吸器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性呼吸器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●循環器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性循環器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術治療の目的と術式の特徴について説明できる。
5.主な手術に伴う身体・臓器の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●消化器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療特徴と管理について説明できる。
3.慢性消化器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●脳・神経系疾患
1.主な疾患の病因と病態、症状と経過、疾患に伴う機能の変化（機能障害）について説明できる。
2.主な検査と診断について説明できる。
3.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
4.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
5.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	循環器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大血管手術の実際 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 【キーワード】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈瘤・大動脈解離手術	本村昇
3・4	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】不整脈、心不全、ショック、高血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞） 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】不整脈、心不全、ショック、高血圧、狭心症、心筋梗塞	清水一寛
5・6	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎	清水一寛
7	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（３）	【内容】大動脈瘤、末梢動脈及び静脈疾患（閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎） 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎	清水一寛
8・9	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】食道癌、胃癌、膵臓癌、胆嚢胆管癌、肝臓癌、結腸癌・直腸癌、胆石･胆嚢炎、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、腹膜炎、各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など 【授業方法】講義 【予習】各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など	大城崇司
10・11	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	上に同じ	大城崇司
12・13	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】食道疾患（逆流性食道炎、食道癌）、胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎） 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】逆流性食道炎、食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎	松岡克善
14・15	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】肝炎及び肝硬変、脂肪肝、胆石及び胆のう炎、膵炎、肝・胆・膵の腫瘍 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆石、胆のう炎、膵炎、肝癌、胆のう癌、膵癌	松岡克善
16・17	脳神経外科疾患と手術	【内容】脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷 【授業方法】講義 【予習】 テキスト（ＮＩＣＥ　疾病・治療論【8】） Ｐ76～第Ⅱ章　1-1. 意識障害 Ｐ208～第Ⅲ章　7-4-1. 機能性疾患 Ｐ83、111　第Ⅱ章　1-2.頭蓋内圧亢進症状、3-1-A.頭蓋内圧に関する考え方 Ｐ84～第Ⅱ章　1-3. 運動機能の障害 Ｐ90～第Ⅱ章　1-4. 知覚障害 余裕があれば以下も予習を 【復習】 Ｐ255～　12. 頭部外傷、 Ｐ123、262　第Ⅲ章　1-3、12-4. くも膜下出血、 Ｐ121　第Ⅲ章　1-2.脳出血、 Ｐ139　第Ⅲ章　2-1.悪性腫瘍、 Ｐ141　第Ⅲ章　2-2.良性腫瘍 【キーワード】 開頭術、穿頭術、経蝶形骨洞手術、脳室腹腔短絡術、脳血管内治療 頭部外傷、くも膜下出血、脳出血、成人の悪性腫瘍、成人の良性腫瘍	根本匡章

18・19	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】神経内科疾患：救急疾患(脳卒中、髄膜炎、脳炎など)、自己免疫疾患(ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症など)、難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、加齢に伴う疾患(かくれ脳梗塞、アルツハイマー病など)等を扱う。教科書を読んでくるよう。 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】脳卒中、ギラン・バレー症候群、パーキンソン病、アルツハイマー病 ※遠隔授業	榊原隆次
20・21	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	上に同じ	榊原隆次
22・23	呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療	【内容】原発性肺癌、転移性肺癌、自然気胸、続発性気胸、良性肺腫瘍、胸腔鏡手術、術後管理、胸腔ドレーン 【授業方法】講義 【復習】講義毎に提示する。講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】肺癌、気胸、胸腔鏡手術	長島誠
24・25	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】感染症（肺炎、肺結核など）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息 【授業方法】講義 【予習】なし 【復習】講義内容については、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肺炎、肺結核、肺気腫、気管支喘息	松澤康雄
26・27	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】肺腫瘍、過換気症候群、成人呼吸促迫症候群 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容については、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。 【キーワード】肺癌、過換気症候群、成人呼吸促迫症候群	松澤康雄

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（本村　昇）本授業は心臓血管外科学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることを目標としており、関連内容について予習に2時間程度、復習にも2時間程度を要すると期待する。
（清水一寛）講義内容について教科書を用いて復習を行うこと。
（大城崇司）講義内容については、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松岡克善）講義内容について教科書を用いて復習を行うこと。
（根本匡章）脳神経の解剖生理の基礎知識があれば種々の脳神経疾患に対する脳神経外科手術治療の理解が容易になる。
（榊原隆次）基本的には、講義形式で進め、一部スライド、診察手技の実技を交えながら進める。
（長島　誠）講義内容については、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松澤康雄）特になし

【学習上の留意点】
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。

【７】　評価方法・基準

定期試験　100％

【８】　フィードバック方法

（本村　昇）小レポートを使用。
（清水一寛）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（大城崇司）次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。
（松岡克善）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（根本匡章）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（榊原隆次）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。
（長島　誠）授業中のテストの結果を詳細に解説する。
（松澤康雄）授業中に実施した小テストで見られた特徴的な誤解についてコメントする。

【９】　教科書

（本村　昇）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（清水一寛）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（大城崇司）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（松岡克善）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（根本匡章）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（榊原隆次）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（長島　誠）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患
（松澤康雄）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患

【10】　参考書

授業中紹介する場合がある。

【11】　備考(関連科目等)

神経解剖・生理・薬理学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅲ	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	本山治				
担当教員	本山治・中川晃一・齊藤淳哉・常喜信彦・神谷直人・上芝元・高島明子				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（本山　治）：講義終了後30分程度、非常勤講師室にて質問を受け付ける。または火曜日12～13時　東邦大学医療センター佐倉病院小児科医局へ連絡してください。 （中川晃一）講義終了後30分程度、非常勤講師室にて質問を受け付ける。 （齋藤淳哉）講義終了後30分程度、非常勤講師室にて質問を受け付ける。 （常喜信彦）講義終了後30分程度、非常勤講師室にて質問を受け付ける。 （神谷直人）講義終了後 30 分程度 非常勤講師室にて質問を受け付ける。 （上芝　元）講義終了後 30 分程度 非常勤講師室にて質問を受け付けます。 （高島明子）講義終了後30分程度、非常勤講師室にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅲでは、運動器の疾患、腎･泌尿器の疾患、内分泌･代謝の疾患、先天性の疾患、性･生殖器の疾患について学習し、知識の習得を目指す。
（本山　治／７コマ）先天性(小児科)疾患の病因・病態と診断･治療
（中川晃一・齊藤淳哉／４コマ）運動器(整形外科)の疾患の病因・病態と診断･治療
（常喜信彦／２コマ）腎・泌尿器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（神谷直人／４コマ）腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（上芝　元／５コマ）内分泌の疾患の病因・病態と診断･治療
（高島明子／５コマ）性・生殖器(婦人科・産科)疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

＜運動器系疾患＞
1.主な疾患の病因・病態、症状と経過、疾患に伴う形態と機能の変化（機能障害）について説明できる。
2.主な検査と診断、治療の特徴と管理について説明できる。
3.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜腎・泌尿器系疾患＞
1.主な腎臓系疾患の症状・原因・進行機序・治療方法を説明することができる。
2.主な泌尿器・男性生殖器系疾患の症状・原因・進行機序・治療方法を説明することができる。
3.主として外科的治療の対象となる疾患３つについて、病因と病態、主な検査と診断について説明できる。
4.主な３つの疾患の手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
＜内分泌・代謝系疾患＞
1.主な疾患の病因と病態、症状と経過について説明できる。
2.主な検査と診断、治療の特徴と管理について説明できる。
3.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜小児疾患、先天性の疾患＞
1.小児に特有の主な疾患の病態、症状と経過について説明できる。
2.小児に特有の主な疾患の主な検査と診断、治療について説明できる。
3.小児疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜性・生殖器(婦人科)疾患＞
1.子宮、卵巣を中心とした主な婦人科臓器疾患の概要について説明できる。
2.生殖の基礎と臨床を結び付けて説明できる。
3.婦人科臓器疾患における母性保護について考察したことを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	小児疾患の病因・病態と診断・治療（1）	【内容】 消化器疾患 【授業方法】 講義 （必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】 講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：胃食道逆流症、炎症性腸疾患、急性乳幼児下痢症、腸重積症、胆道閉鎖症	本山　治
2	小児疾患の病因・病態と診断・治療（2）	【内容】 腎・泌尿器疾患 【授業方法】 講義 （必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】 講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：溶連菌感染後急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、先天性腎尿路異常、尿路感染症	本山　治
3	小児疾患の病因・病態と診断・治療(3)	【内容】代謝性疾患、内分泌疾患、アレルギー性疾患 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：１型糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長症、食物アレルギー、気管支喘息	本山　治
4	小児疾患の病因・病態と診断・治療(4)	【内容】神経・精神疾患、悪性新生物（白血病） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：けいれん性疾患、脳性麻痺、発達障害、白血病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍	本山　治
5	小児疾患の病因・病態と診断・治療(5)	【内容】小児に特徴的な感染症（ウイルス性） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：麻疹、風疹、突発性発疹症、伝染性紅斑、水痘、流行性耳下腺炎、伝染性単核球症	本山　治
6	小児疾患の病因・病態と診断・治療(6)	【内容】小児に特徴的な感染症（細菌性） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：予防接種、百日咳、破傷風、溶血性連鎖球菌感染症、結核	本山　治
7	小児疾患の病因・病態と診断・治療(7)	【内容】先天性心疾患、新生児の疾患 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、右左短絡群、川崎病、新生児仮死、低出生体重児、呼吸窮迫症候群	本山　治
8・9	運動器系疾患(1)	【内容】関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ、四肢・関節の外傷） 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における整形外科分野の予習30分・復習30分 キーワード：関節、変形性関節症、リウマチ、外傷	中川晃一
10・11	運動器系疾患(2)	【内容】脊椎疾患（神経診察、変形性脊椎症、骨粗鬆症、脊椎外傷） 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における整形外科分野の予習30分・復習30分 キーワード：脊椎、変形性脊椎症、骨粗鬆症、神経診察	齊藤淳哉
12・13	腎・泌尿器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療	【内容】慢性糸球体腎炎・糖尿病性腎症・高血圧性腎硬化症に関してスライドを用いての座学. 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における内科分野の予習30分・復習30分. キーワード：慢性腎臓病	常喜信彦
14・15	腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（1）	【内容】 ・腎泌尿器・男性生殖器疾患の症状と徴候 ・腎疾患の病態と治療 【授業方法】講義 【予習】0.5時間程度 【復習】1.5時間程度 キーワード：腎泌尿器疾患、男性生殖器疾患、症状、検査、治療、日常生活への影響	神谷直人
16・17	腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（2）	【内容】 ・泌尿器・男性生殖器系疾患の診断と治療 【授業方法】講義 【予習】1時間程度 【復習】1.5時間程度 キーワード：腎臓がん、膀胱がん、前立腺がん、尿路結石症、尿路性器感染症、腎移植、手術	神谷直人

18・19	内分泌系疾患（1）	【内容】内分泌疾患の分類・診断法・治療法、高尿酸血症及び痛風・脂質異常症 【授業方法】講義 【予習】30分 【復習】2時間 キーワード：視床下部-下垂体-内分泌腺の系、高尿酸血症、痛風、脂質異常症	上芝元
20・21	内分泌系疾患（2）	【内容】糖尿病の分類・合併症・糖尿病性昏睡 【授業方法】講義 【予習】30分 【復習】２時間 キーワード：1型糖尿病、2型糖尿病、三大合併症、糖尿病性昏睡、低血糖	上芝元
22	内分泌系疾患（3）	【内容】下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の疾患 【授業方法】講義 【予習】30分 【復習】2時間 キーワード：下垂体前葉機能低下症、先端巨大症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺癌、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫	上芝元
23・24	女性生殖器疾患	【内容】婦人科疾患の臨床 ①子宮、卵巣に発生する良性疾患を学習する。 ②悪性疾患を学習する。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：子宮腫瘍　卵巣腫瘍　子宮がん　卵巣がん	高島明子
25・26	生殖の基礎と臨床	【内容】生殖の基礎と臨床 ①排卵の仕組み、受精の仕組みを学び着床、そして妊娠成立、分娩への流れを理解する。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：排卵　受精　着床　分娩	高島明子
27	婦人科疾患・妊娠の看護と母性保護	【内容】婦人科疾患、妊娠と看護 婦人科疾患と妊孕性の問題や妊娠中及び産褥期において看護が果たす役割について考える。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：看護の役割　母性への関わり	高島明子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度を必要とする。
（本山　治）講義内容について教科書を用いて予習30分・復習30分を行う。
（常喜信彦）慢性腎臓病に関して予習30分・復習30分を行う。
（神谷直人）「人体の構造と機能」など関連科目を復習して臨むこと。
授業では主な疾患について画像なども含めて実地的な内容の学習を中心する。　授業中に配布する資料と国試の泌尿器科領域の過去問を復習すること。
（上芝　元）講義内容について教科書を用いて復習を行うこと。
（高島明子）授業内容は教科書を中心として行うが実際の現場で得た画像なども提示するので授業中の学習を中心とする。予習1時間程度、復習に1.5時間程度を費やします。

【学習上の留意点】
（本山　治）成長・発達を含めた小児の特性を理解する。
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。
（中川晃一）運動器疾患は患者の活動性に影響を与え、看護や介護の必要性に大きく関わってくる。その点をよく念頭に置いて学習することが重要である。授業は関節疾患と脊椎疾患の２回に分けて行う。それぞれにつき、基本的な解剖をあらかじめ理解しておくことが必要となる。疾患はその病態により、外傷、変性疾患、炎症性疾患、代謝性疾患、腫瘍などに分類して理解するようにする。
（神谷直人）泌尿器科疾患は高齢化社会の到来とともに増加している。尿路・生殖器など比較的幅広い疾患を取り扱っているが、まず主な疾患に関する知識を学習し、疾患特異的な看護について理解するようにする。

【７】　評価方法・基準

定期試験　100％

【８】　フィードバック方法

定期試験　100％
試験は、結果を返却する。

【９】　教科書

（本山　治）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【14】小児疾患
（中川晃一・齊藤淳哉）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【9】運動器疾患
（常喜信彦）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【7】腎・泌尿器疾患
（神谷直人）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【7】腎・泌尿器疾患
（上芝　元）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【5】内分泌・代謝疾患
（高島明子）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【13】産科婦人科疾患

【10】　参考書

（本山　治）医学書院「小児臨床看護各論　小児看護学２」
（中川晃一）必要に応じて授業内で紹介する　系統看護学講座　専門分野II 運動器（成人看護学10）
（神谷直人）授業時に関連文献を紹介する。
（高島明子）標準産婦人科学（医学書院）

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ
（本山　治）小児外科
（中川晃一）解剖生理学（骨筋系、神経系）
（神谷直人）人体の構造と機能
（高島明子）新生児学

科目名(日本語)	リハビリテーション論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Rehabilitation	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	菅原仁				
担当教員	菅原仁				
科目責任者 連絡先(教室)	E-mail：hitoshi.sugawara@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開始前（30分程度）に非常勤講師室、あるいはE-mail（科目責任者連絡先参照）での質問も随時受付します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

疾患や外傷により身体機能に障害が起こると、生活行動のみならず、人間関係や社会参加などにも制約が及ぶ。障害を持つ人がその人らしく自律して生きていくことを支援する具体的な方法として、理学療法、作業療法、言語療法を学び、疾病の治療のみでなく対象の生活を全体として捉えサポートする視点を養う。

【３】　到達目標

1. リハビリテーションの理念を説明できる。
2. リハビリテーション専門職の役割と独自性を説明できる。
3. リハビリテーション医療の専門用語を説明できる。
4. 身体機能障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。
5. 障害モデルおよび生活機能モデルを説明できる。
6. リハビリテーション活動における倫理的課題と対応について3つ以上説明できる。
7. リハビリテーションのチーム活動に関する課題について3つ以上説明できる。
8. リハビリテーション評価について説明できる。
9. 疾患、障害の理解と問題点を抽出できる。
10. 疾患、障害に合わせたリハビリテーション計画を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	リハビリテーション概論 リハビリテーション理論(1)	内容：リハビリテーションの定義と理念・リハビリテーションの対象と制度、関連職種の役割 授業方法：講義 予習：ノーマライゼーションの意義を理解する。教科書の2から6ページを読む。 復習：ケースを提示するので、関連職種の役割を示す。 キーワード：ノーマライゼーション	菅原　仁
3・4回	ICIDHとICF リハビリテーション理論(2)	内容：生活機能の分類・構造、リハビリテーションにおける障害の評価、医学的リハビリテーションの過程 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ）、ディスカッション 予習：ICFの分類構造の用語を調べる。 復習：ケースを提示するので、ICFを使って構造化する。 キーワード：ICIDH、ICF、障害の評価、評価手法、アセスメント、計画・実施	菅原　仁
5・6回	リハビリテーション方法論(1)	内容：運動器系障害のリハビリテーション 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：変形性関節症の病態、人工関節の適応を調べる。 復習：運動器系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：運動器の構造と機能、変形性関節症、人工関節	菅原　仁
7・8回	リハビリテーション方法論(2)	内容：運動器系障害の痛みに対するリハビリテーション 授業方法：講義、ディベート 予習：痛みの伝導路について調べる。 復習：痛みへのアプローチ方法について整理する。 キーワード：炎症メディエーター、感作	菅原　仁
9・10回	リハビリテーション方法論(3)	内容：中枢神経障害のリハビリテーション　～運動麻痺を考える～ 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：末梢神経と中枢神経の障害の違いを理解する。 復習：中枢神経系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：中枢神経系の構造と機能	菅原　仁
11・12回	リハビリテーション方法論(4)	内容：中枢神経障害のリハビリテーション　～高次脳機能障害を考える～ 授業方法：講義、ディベート 予習：ブロードマンの大脳地図を理解する。 復習：高次脳機能障害における問題点を整理する。 キーワード：高次脳機能障害	菅原　仁
13・14回	リハビリテーション方法論(5)	内容：呼吸・循環器障害のリハビリテーション 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：閉塞性、拘束性肺障害の違い、虚血性心疾患の病態を調べる 復習：呼吸器系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：呼吸・循環器系の構造と機能、COPD、心不全	菅原　仁

【6】　事前・事後学習とその時間

リハビリーション医療の理解には、疾病の理解をはじめ介護・保健領域の知識が必要となるため、ケースを用いた臨床場面を想定した学習とする。そのため、ケースについて必要な知識の学習が必須であり、事前学習（動画視聴含む）について指示する。また、講義で学んだことを使える知識にするために復習も必要となる（予習・復習を合わせて１時間が必要です）。

【7】　評価方法・基準

【成績について】
課題提出50%、定期試験50%
毎回の講義内で課題提出がありますのでしっかり取り組んでください。

【8】　フィードバック方法

【成績について】
提出課題のフィードバックを次回講義内で行います。

【9】　教科書

武田宣子他：系統看護学講座 リハビリテーション看護，医学書院

【10】　参考書

武藤芳照編集：ここまでできる転倒予防、日本看護協会出版会

【11】　備考(関連科目等)

「人体の構造と機能」「疾病と治療」「臨床心理学」「機能障害のある患者の看護」、看護学・臨地実習

科目名(日本語)	**臨床遺伝学（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Genetics	選択	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	久保田宗一郎				
担当教員	久保田宗一郎				
科目責任者 連絡先(教室)	初講にて、メールアドレスが記載されたレジメを配布するので、問合せ等は基本メールでお願いする				
オフィスアワー	月・13時～16時〔理学部Ｉ号館３階1302A室〕				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

遺伝学は、生物の遺伝現象を究明する学問であり、臨床遺伝学は、遺伝性の病態、疾患について究明する学問である。本科目では、生物の形質の伝達、発現の様式と機構など遺伝学の基礎を学び、遺伝性疾患の病態、遺伝子検査、遺伝に関わる倫理課題などの理解を深める。さらに、臨床遺伝学の現状と展望について考察する。

【３】　到達目標

1.社会通念として存在するヒト遺伝学を再認識し、その論拠となる遺伝学的論拠を説明できる。
2.メンデルの遺伝学を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
3.近代分子生物学の発展が、遺伝子とは何かを導き出した。この遺伝子とは何かの論拠となる実験を説明できる。
4.遺伝子であるDNAの複製様式を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
5.染色体の役割と、細胞周期、生活環との関連を理解し、その体細胞分裂と減数分裂の違いを説明できる。
6.ヒトゲノムと染色体異常、遺伝子量補正について理解し、性分化について説明できる。
7.遺伝性疾患の病態や遺伝子検査など、遺伝と疾患、またその倫理課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	異母兄弟は結婚できる？-1	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
2	異母兄弟は結婚できる？-2	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
3	メンデル性遺伝-1	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
4	メンデル性遺伝-2	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
5	遺伝物質-1	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
6	遺伝物質-2	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
7	細胞周期とDNA複製-1	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
8	細胞周期とDNA複製-2	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
9	体細胞分裂と減数分裂	内容：体細胞分裂と減数分裂の詳細を理解し、二つの分裂の違いを学修する。 授業方法：講義形式 予習：体細胞分裂と減数分裂の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：組み換え率の計算問題を解いてくる。 キーワード：染色体	久保田宗一郎
10	性染色体と伴性遺伝	内容：性染色体と伴性遺伝を理解し、性決定の仕組みと性染色体と遺伝病の関係を学修する。 授業方法：講義形式 予習：性染色体の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：伴性遺伝に関する問題を解いてくる。 キーワード：性	久保田宗一郎
11	ヒトゲノムと遺伝病-1	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎

12	ヒトゲノムと遺伝病-2	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎
13	遺伝子量補償-1	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、Ｘ染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：Ｘ染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：Ｘ染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎
14	遺伝子量補償-2	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、Ｘ染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：Ｘ染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：Ｘ染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎

【６】　事前・事後学習とその時間

高校生物の関連分野を予め復習してから講義に臨む。また、講義の復習は配布プリントを中心に、各自が関連する文献を用いて行う。この授業には、予習60分程度、復習90分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準

試験（講義配付資料とノート持ち込み可）と講義中に課題を出し評価する。試験（８０%）、課題（２０%）

【８】　フィードバック方法

試験の後、試験問題の模範解答の解説によるフィードバック行う。

【９】　教科書

指定教科書：遺伝医学への招待・改訂第６版（新川詔夫/太田亨著、南江堂）
資料（プリント等）は講義中に配布する

【10】　参考書

「クロー遺伝学概説・第８版」（木村資生他訳、培風館）
「分子遺伝学」（三浦謹一郎編、裳華房）「細胞遺伝学」（佐々木本道編、裳華房）
「一目でわかる臨床遺伝学・第２版」（古関明彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル）他

【11】　備考(関連科目等)

生物学入門、生物学、生化学、疾病と治療Ⅴ

科目名(日本語)	**臨床心理学（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Psycology	選択	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	松﨑淳人				
担当教員	松﨑淳人、若林聖子				
科目責任者 連絡先(教室)	松﨑淳人：matsuzaki@med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	TEL連絡の場合は平日１０時～１５時まで東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック2286迄連絡（随時メールでの質問を受け付ける。事前にメール連絡してからTELすること）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

臨床心理学は、人が日々接する様々な現象を“心”の視点から説明する心理学の一分野として、“ヒトとヒトが向かい合うことで生じた問題”を改善する方法を研究し体系化した学問である。本講義では、まず心理学の基礎知識を概観し、次に臨床心理学の基礎を学び、臨床現場で求められる事象の解決方法を習得する。

【３】　到達目標

1.看護学生として医療のみならず一般的な心理課題を抱えた人に対し適切な接し方についてのカウンセリングの原則が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	授業オリエンテーション並びにコミュニケーション理論とその医療現場への応用	内容： １）授業オリエンテーション ２）対人関係のコミュニケーション 理論＞発達理論・コミュニケーション理論・ライフサイクル理論 医学的側面＞発達障害と臨床 文化・言語側面＞ 異文化コミュニケーション 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：対人関係 ミニッツペーパー、課題提示	松﨑淳人
3・4	精神分析理論とその周辺	内容：精神分析理論とその関連分野 古典的精神分析療法 精神分析的精神療法 交流分析、エゴグラム（標準型精神分析療法） 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：精神療法 ミニッツペーパー	松﨑淳人
5・6	各種カウンセリング理論	内容：各種カウンセリング理論の紹介とその実践状況 ブリーフサイコセラピー 認知療法、行動療法、認知行動療法 解決指向型アプローチ 積極的傾聴法 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：ブリーフサイコセラピー ミニテスト、ミニッツペーパー、課題提示	松﨑淳人
7・8	看護現場と臨床心理学	内容：患者の心理を理解して看護するために必要な臨床心理学的知識とその応用 力動的理解（精神分析） 文脈的理解（ナラティブ・ベイスド・メディスン） 異文化的理解（異文化・他言語） 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：看護師による看護師のための臨床心理学 ICT：「臨床の現場で臨床心理学生涯教育を実践する為に必要な国内国外WEB情報利用の利点とその注意点について」WEB空間を共有しながら、講義を行なう。 リアクションペーパー	松﨑淳人　ゲストスピーカー（白川忍）
9・10	心理アセスメント技法１	内容：心理アセスメント概論 知能検査 授業方法：講義、演習（摸擬症例をもちいて授業中に実施を体験する） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達検査、知能検査、臨床心理士と看護師との多職種連携 ミニテスト、リアクションペーパー	若林聖子
11・12	パーソナリティ理論	内容：パーソナリティ障害とその臨床 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：パーソナリティ障害 ミニッツペーパー	松﨑淳人
13・14	心理アセスメント技法２と総括	内容：投影法、質問紙法によるアセスメント 授業方法：講義、演習 臨床心理学総括 予習・：講義毎に提示する キーワード：投影法、質問紙法 リアクションペーパー	松﨑淳人

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はオリエンテーション時を除き、授業内容の理解を促進するために予習を３０分程度、授業内容の整理と記憶の定着のために復習を１時間程度費やす。

【7】　評価方法・基準

成績評価対象課題　３０％　小テスト１　３５％　　小テスト２　３５％

【8】　フィードバック方法

小テストの結果にコメントする。

【9】　教科書

下田晴彦（編）よくわかる臨床心理学　ミネルバ書房　2009

【10】　参考書

米国精神医学会　DSM－５精神疾患の診断・統計マニュアル　医学書院　2014

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：コミュニケーション論、心理学
この科目に続く内容の科目：精神看護学概論

科目名(日本語)	**看護展開論（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Process	必修	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	高橋良幸・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・瀧口千枝・松浦麻子・鈴木俊美・水流添秀行・笠間秀一・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	髙橋良幸（研究室K312）y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	講義日の昼休み並びに授業の間の休憩時間に講義担当者の研究室にて受けつける。メールでの質問も受け付ける。 第１・２回、第１３回～第２７回　髙橋　良幸（K312）y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp) 第３回～第１２回　蜂ヶ崎令子（K314）reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp 宮崎裕子(K327)・瀧口千枝(K321、chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp)・ 松浦麻子(k317、asako.matsuura@hs.toho-u.ac.jp)・鈴木俊美(K324、toshimi.suzuki@hs.toho-u.ac.jp)・ 水流添秀行K323、hideyuki.tsuruzoe@hs.toho-u.ac.jp)・笠間秀一(K332、huichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp)・ 林京子(K325)				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護を展開する方法論として、問題解決過程を学ぶ。看護過程の目的や意義、概念とその構成要素について理解する。既習の知識及び疾患に関連した医学的情報を活用して、看護学の視点から情報を収集・分析し、看護計画の立案・実施・評価する一連のプロセスを修得する。
（高橋 良幸／13回、共同4回）健康の回復を支援する看護の展開（模擬事例における情報の理解・解釈、看護上の問題の特定と明確化、看護計画の立案）
（蜂ヶ崎令子／6回、共同4回）対象者の基本的欲求を支援（ヘンダーソンの理論を用いて、患者の情報を整理、アセスメント、全体像・関連図の記述、看護上の問題の明確化）
（宮崎裕子・松浦麻子・林京子／共同4回）「対象者の基本的欲求を支援」の事例学習
（瀧口千枝・鈴木俊美・水流添秀行・笠間秀一／共同4回）「健康の回復を支援する看護の展開」の事例学習

【３】　到達目標

1. 看護過程の目的及び方法、構成要素が説明できる。
2. 対象理解に必要な基礎知識(疾患、薬、検査、発達段階など?)を調べることができる。
3. 対象の健康に関する情報を整理できる。
4. 収集した情報をもとに対象の健康上の課題（ニーズや機能障害）を見出すことができる。
5. 整理した情報から対象の全体像及び関連図を描くことができる。
6. アセスメントにより看護が解決すべき問題を抽出し表現できる。
7. 対象の健康に資する看護援助を計画・評価ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	科目オリエンテーション 看護展開の概説	授業方法：講義 内容： 科目のオリエンテーション 看護展開とは 看護展開の目的・方法・構成要素 看護過程の法的責任 問題解決課程 予習：テキストのp.3～27 復習：授業資料の振り返り キーワード：情報の整理と理解、観察、欲求、アセスメント、全体像、看護上の問題、看護目標、看護計画、実施と評価、クリティカルシンキング	髙橋良幸
3・4	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法①	授業方法：講義 内容:ヘンダーソンの14項目を理解する 予習:看護の基本となるものを復習してくる 復習:授業内容の確認 キーワード:情報収集、アセスメント、看護計画、看護目標、実施と評価、観察、常在条件と病理的状態	蜂ヶ崎令子
5・6	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法②	授業方法:講義 内容:患者の情報を、「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」、「基本的欲求を変容させる病理的状態」に分類し整理する。 患者の情報を、14項目の基本的欲求の状態ごとに分類し、整理する。 予習:ワークシート①科学的根拠の自己学習　②患者の基本情報の整理 復習:科学的根拠および患者の基本情報の整理について ワークシート①②を用いて調べて深める。 キーワード:基本的欲求、常在条件、病理的状態、発達段階、疾患の特性、健康と生活	蜂ヶ崎令子
7・8	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法③	授業方法:講義 内容:14項目ごとに基本的欲求の充足・未充足を判断する(データベース・アセスメント)。「常在条件」「病理的状態」「基本的欲求の状態」の3側面から対象の全体像を記述する。 予習:ワークシート③情報の分類と解釈 復習:情報の分類と解釈についてワークシート③の記載を通して深める。ワークシート③全体像を記述する。 キーワード:14項目の基本的欲求、情報収集、基本的欲求の充足・未充足、アセスメント、全体像	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
9・10	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法④	授業方法:講義 内容:全体像と関連図の記述、患者の問題点の描出 予習:ワークシート③患者の全体像、④関連図 復習:患者の全体像および関連図についてワークシート③の記載を通して 深める。 キーワード:分析、解釈、全体像、看護上の問題	蜂ヶ崎令子
11・12	対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法⑤	授業方法：講義 内容:データベース・アセスメントを統合し、基本的欲求の未充足状態の原因・誘引を論理的思考に基づいて系統的に分析・解釈する。看護上の問題をリストアップする。 予習:ワークシート⑤系統的アセスメントと問題の明確化、⑥看護問題リスト 復習:系統的アセスメント、問題の明確化、看護問題リストについてワークシート⑤の記載を通して深める キーワード:看護アセスメント、科学的根拠、看護上の問題、優先度	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
13	健康の回復を支援する看護の展開①	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における情報の理解・解釈 対象の理解・全体像の把握・・・① 予習：テキストのp.79～88 復習：模擬事例について調べる キーワード：対象理解、全体像の把握、情報	髙橋良幸
14・15	健康の回復を支援する看護の展開②	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における情報の理解・解釈 対象の理解・全体像の把握・・・② 予習：事前に配布された模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：対象理解、全体像の把握、情報	髙橋良幸
16・17	健康の回復を支援する看護の展開③	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における看護上の問題の特定と明確化 アセスメント 予習：事前に配布された模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：欲求、アセスメント、看護の必要性	髙橋良幸

18・19	健康の回復を支援する看護の展開④	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における看護上の問題の特定と明確化 アセスメント 予習：模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：看護上の問題、看護目標	髙橋良幸
20・21	健康の回復を支援する看護の展開⑤	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における看護上の問題の特定と明確化 アセスメント 予習：模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：看護上の問題、看護目標	髙橋良幸
22・23	健康の回復を支援する看護の展開⑥	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における看護計画の立案① 予習：関連図の作成 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：看護計画、評価	髙橋良幸・瀧口千枝・鈴木俊美・水流添秀行・笠間秀一
24・25	健康の回復を支援する看護の展開⑥	授業方法：講義・演習 内容：模擬事例における看護計画の立案② 予習：模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：看護計画、評価	髙橋良幸
26・27	健康の回復を支援する看護の展開⑦	授業方法：講義・演習・発表 内容：模擬事例における看護計画の立案③ 看護計画の発表 看護計画の評価 看護過程の理解と考察 予習：模擬事例の理解とこれまでの講義・演習内容の該当箇所 復習：配付資料および参考図書の該当部分 キーワード：看護過程、看護計画、評価	髙橋良幸・瀧口千枝・鈴木俊美・水流添秀行・笠間秀一

【６】　事前・事後学習とその時間

本授業は、看護実践に大切な看護過程の考え方について、事例を題材にステップを踏みながら学んでいく。1回毎の講義内容を十分理解しながら次の講義に臨むことが重要であり、各回に課せられたワークシートを用いて事例を自分で展開しながら、理解を深めていくことが必要である。そこで、本科目では予習に1時間、復習に１時間程度の自己学習時間を要する。課題に対するフィードバックをよく理解し、自分自身の修得度を知り、理解不十分な部分は積極的に学習することが重要である。

【７】　評価方法・基準

授業ごとに提出されるワークシートの評価をもって点数とする。 前半の「対象者の基本的欲求を支援する看護過程の展開方法」(50%)、後半の「健康の回復を支援する看護の展開」を用いた展開(50%)で評価を行う。

【８】　フィードバック方法

学生個々へのフィードバックは、対面授業終了後に授業ごとに提出された課題の返却にて行う。
全学生へのフィードバックが必要なことは、次回の講義で全体に対してフィードバックを行う。

【９】　教科書

渡邊トシ子　編：実践看護アセスメント― ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2011.

【10】　参考書

１．医療情報科学研究所（編）：看護がみえる(4)看護過程の展開，メディックメディア，2020.
２．フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書–看護であること看護でないこと，現代社，2011.
３．ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの，湯槇ます，小玉香津子訳，新装版，日本看護協会出版会，2006.
４．江川隆子： ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，第５版，ヌーベルヒロカワ，2017.

【11】　備考(関連科目等)

関連する科目：心理学、教育学、哲学、倫理学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、生化学、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、
臨床看護学概論、臨床栄養学、看護のための物理学、リハビリテーション論、臨床遺伝学、臨床心理学、
機能障害のある患者の看護、看護の基本技術Ⅰ～Ⅳ、発達看護論
この科目に続く内容の科目：看護実践の基礎、臨床実践Ⅰ～Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ、在宅看護実習、
コミュニティーヘルス看護実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、看護実践の探求

科目名(日本語)	**機能障害のある患者の看護**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Care of Patients with Physical Dysfunction	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋良幸・浅野美知恵・鈴木俊美・水流添秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	髙橋良幸 (K312)				
オフィスアワー	講義日の昼休み並びに授業の間の休憩時間に講義担当者の研究室にて受けつける。メールでの質問も受け付ける。 髙橋　良幸 (K312) y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp 浅野美知恵 (K318) michie.asno@hs.to-ho-u.ac.jp 鈴木　俊美 (K324) toshimi.suzuki@hs.tohou-u.ac.jp 水流添秀行 (K323) hideyuki.turuzoe@hs.toho-u.ac.jp				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

機能障害とは、成長発達、成熟、老化していくプロセスの中で、生活習慣、疾病や治療等何らかの原因によって身体機能が一時的あるいは永久的に障害されたことをいう。本科目では、成人期を中心に身体機能が障害されたことが生命や生活に及ぼす影響、心理社会的側面への影響に目を向けながら、機能障害のある患者とその家族への基本的な看護について学ぶ。また、機能障害を持ちながら社会生活を送る患者を支え、健康生活を維持・増進させていくための看護のあり方を考察していく。

髙橋 良幸 /15回　機能障害のある患者の理解、看護の特徴、治療を受ける機能障害のある患者の看護、各機能障害のある患者と家族への看護、セルフケア・社会復帰と看護
浅野美知恵/2回　造血機能障害のある患者と家族への看護
鈴木 俊美 /4回　循環機能障害、腎機能障害のある患者と家族への看護
水流添秀行/6回　血糖調節機能障害、消化吸収機能障害、手術療法を受ける機能障害のある患者の看護

【3】　到達目標

1.さまざまな種類の機能障害とその特徴を論じることができる 。
2.それぞれの機能障害によって生じる生活への影響を具体的に述べることができる。
3.それぞれの機能障害のある患者とその家族への必要な看護について具体的に述べることができる。
4.機能障害のある患者のセルフケアの支援の方法を具体的に述べることができる。
5.機能障害のある患者の社会生活を支える看護について考えを述べることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	科目オリエンテーション 慢性疾患の理論と実践（1）	内容： 科目オリエンテーション 1.人間の体と機能、統合体としての機能、機能障害とは 2.機能障害が生活に及ぼす影響 3.機能障害を持つ患者の特性（全人的に理解するために） 内容： 1.慢性期疾患の特徴 2.生活習慣と慢性疾患 3.セルフケアに関する理論 4.慢性疾患とセルフケア上の課題 5.セルフモニタリング 方法：講義 予習：テキスト①p.4～7 復習：授業資料の振り返り キーワード：慢性、急性、セルフケア、オレム看護論、セルフモニタリング、アドヒアランス、自己効力感	髙橋　良幸
3・4	血糖調節機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.血糖調節機能障害と１次予防、２次予防、３次予防 2.糖尿病の治療とセルフケアおよびその看護支援 3.糖尿病が生活へ与える影響とその看護支援 方法：講義 予習：テキス①p.300～312 復習：授業資料の振り返り キーワード：耐糖能異常、三大合併症、セルフケア、インスリン療法、低血糖予防、フットケア	水流添　秀行
5・6	呼吸機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.呼吸機能と機能障害、生活への影響 2.主な呼吸機能障害の症状と治療 3.呼吸機能障害のある患者と家族の特徴（身体・心理・社会的側面） 4.呼吸機能障害のある患者のセルフケア支援 5.呼吸リハビリテーション 方法：講義 予習：テキスト①p.173～196、テキスト②p.264～280 復習：授業資料の振り返り キーワード：呼吸機能と障害、慢性閉塞性肺疾患、下降期、在宅酸素療法、症状コントロール、スティグマ、家族支援	髙橋　良幸
7・8	循環機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.循環機能障害と機能障害（病態生理）、生活への影響 2.主な循環機能障害に伴う症状と治療 3.循環機能障害のある患者と家族の心理面・身体面・社会面での変化の特徴 4.循環機能障害のある患者の看護アセスメントと看護実践 5.循環機能障害のある患者のセルフケア支援のポイント 6.心臓リハビリテーションのポイント 方法：講義 予習：テキスト①p.207～229、テキスト②p.281～299 復習：授業資料の振り返り キーワード：循環機能と障害、心不全、高血圧、心臓リハビリテーション	鈴木　俊美
9・10	栄養代謝機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.栄養代謝機能と機能障害、生活への影響 2.肝機能障害の症状と治療（病態生理） 3.肝機能障害のある患者と家族の特徴（身体・心理・社会的側面） 4.肝機能障害のある患者のアセスメント、看護実践（肝硬変を例にとり） 5.肝機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.270～285 復習：授業資料の振り返り キーワード：消化機能障害、肝硬変、肝がん、自己管理	髙橋　良幸
11・12	腎機能障害のある患者の看護	内容： 1.腎機能と機能障害、生活への影響 2.慢性腎臓病患者の看護アセスメント 3.透析療法導入前(保存期)における看護 4.透析療法の導入期における看護 5.維持透析期における看護 6.腎機能障害の患者と家族への看護 方法：講義 予習：テキスト①p.313～330 復習：授業資料の振り返り キーワード：腎機能と障害、人工透析、腹膜透析、セルフケア、生活環境調整、家族支援	鈴木　俊美

		セルフケア、生活環境調整、家族支援	
13・14	消化吸収機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.消化吸収機能と機能障害、生活への影響 2.主な消化吸収機能障害の症状と治療（病態生理） 3.消化吸収機能障害のある患者と家族の特徴 （身体・心理・社会的側面） 4.消化吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護 5.消化吸収機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.286～290 復習：授業資料の振り返り キーワード：消化吸収機能と障害、生活環境調整、症状コントロール、心理社会的変化、炎症性大腸炎、指定難病	水流添　秀行
15・16	運動機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.運動機能と機能障害、生活への影響 2.主な運動機能障害の症状と治療（病態生理） 3.運動機能障害のある患者と家族の特徴（身体・心理・社会的側面） 4.運動機能障害のある患者のアセスメント、看護実践（関節リウマチを例にとり） 5.運動機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.381～398 復習：授業資料の振り返り キーワード：運動機能と障害、生活環境調整、症状コントロール	髙橋　良幸
17・18	手術療法を受ける機能障害のある患者の看護の特徴	内容： 1.周手術期における看護 ・手術を受ける患者の心理的特徴、手術に伴う侵襲 ・術前、術後経過と看護（合併症予防を含む） 2.手術を受ける患者の看護展開（胃がんを例にとり） 3.社会復帰とその支援 方法：講義 予習：胃がんの原因、治療、治療に伴う合併症について調べる 復習：授業資料の振り返り キーワード：手術、危機理論、形態的変化、意思決定支援、術後合併症、早期離床、疼痛、セルフケア（術後合併症に対して）、社会復帰	水流添　秀行
19・20	血液・造血機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.造血機能と機能障害、生活への影響 2.主な造血機能障害の症状と治療（病態生理） 3.造血機能障害のある患者と家族の特徴 （身体・心理、社会的側面） 4.造血機能障害のある患者のアセスメント、看護実践 （白血病、悪性リンパ腫を例にとり） 5.造血機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.338～364 復習：授業資料の振り返り キーワード：造血機能と障害、生活環境調整、症状コントロール、心理社会的変化、家族支援、感染予防、貧血、白血病	浅野　美知恵
21・22	脳神経機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.脳神経機能と機能障害 2.主な脳神経機能障害の症状と治療 3.脳神経機能障害のある患者と家族の特徴 4.脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護 （脳梗塞を例にとり） 5.機能回復のためのリハビリテーション（作業・言語訓練）、退院調整 方法：講義 予習：テキスト①p.231～252、テキスト②p.136～195 復習：授業資料の振り返り キーワード：脳神経機能と障害、生活の再構成、退院調整とチーム活動、心理社会的変化、リハビリテーション、脳梗塞、ALS	髙橋　良幸
23・24	慢性疾患の理論と実践（２）	内容： 1.病状の進行・経過 2.慢性疾患を持つ人の心理的特徴 3.病みの軌跡 4.慢性疾患患者を全人的に理解する 方法：講義 予習：テキスト①p.35～92 復習：授業資料の振り返り キーワード：病みの軌跡、全体像	髙橋　良幸
25・26	リハビリテーションを受ける機能障害のある患者の看護の特徴	内容： 1.機能障害とリハビリテーション 2.リハビリテーションを受ける患者の観察とアセスメント 3.リハビリテーションと多職種連携 方法：講義 予習：テキスト②p.40～84 復習：授業資料の振り返り キーワード：機能訓練、主体性、多職種連携・協働	髙橋　良幸

27	泌尿器・生殖器の障害のある患者と家族への看護	内容： 1. 主な排泄機能・生殖器機能の障害の症状と治療 2. 泌尿器・生殖器の障害のある患者と家族の特徴 3. 泌尿器・生殖器の障害のある患者のアセスメント、看護実践 4. 泌尿器・生殖器の障害のある患者のセルフケア支援 5. 泌尿器・生殖器の障害のある患者のリハビリテーション 方法：講義 予習：テキスト①p. 423～440 復習：授業資料の振り返り キーワード：更年期障害、前立腺肥大、子宮／卵巣がん、 子宮筋腫	髙橋　良幸

【６】　事前・事後学習とその時間

この科目は、人体の構造と機能を基盤とし、それぞれの機能が人体にとってどのような役割を担っているかを踏まえながら、その機能が障害されたときに生命や生活にどのように影響してくるかを理解しながら看護について学ぶ科目である。
【準備学習（学習上の留意点）】人体の構造と機能を基盤とするため復習して授業に臨む。
【事前学習】関連する既習科目内容の復習ならびに指定したテキストの該当部分を読んでおくために1時間程度必要となる。
【事後学習】授業内容の復習のためのノート整理、各自の学習課題等に費やすため１時間程度必要となる。

【７】　評価方法・基準

定期試験70%、課題30%（ワークシート及びレポート）

【８】　フィードバック方法

リフレクションペーパー等の記載内容から補足が必要と思われる点やワークシート（課題）の解説を授業内で全体にコメントする。

【９】　教科書

①鈴木志津枝他編：慢性期看護論，第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2014.
②武田宜子他(2020)：系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護，第６版，医学書院.

【10】　参考書

野口美和子，中村美鈴（編）(2006他)：新体系　看護学全書　別巻　機能障害からみた成人看護学　①～⑤，第2版，
メジカルフレンド社.
林正健二（編）(2013他)：ナーシング・グラフィカ　健康の回復と看護①～⑥，メディカ出版.

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，生化学、薬剤、リハビリテーション論、臨床心理学、看護学概論，臨床看護学概論，看護理論・看護 展開論

科目名(日本語)	**感染看護**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Infection Control Nursing	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	近藤陽子				
担当教員	近藤陽子・笠間秀一				
科目責任者 連絡先(教室)	近藤陽子：yoko.kondo@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	近藤陽子：yoko.kondo@hs.toho-u.ac.jp（健康科学部非常勤講師室） 笠間秀一:shuici.kasama@hs.toho-u.ac.jp（K332） 授業終了後15分。またはメールにて質問を行うこと。質問に関してはメールまたは講義内で回答する				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

感染看護に関する基礎的知識を習得し、根拠のある感染予防策に基づく看護活動を学ぶ。具体的には、感染の成立過程、滅菌・消毒の基礎的知識と看護援助への活用、感染の発生を把握するシステム、感染管理における看護師の役割と責任について学ぶ。また、職業感染防止、看護援助場面において適切な防護具の活用を理解する。さらに、感染領域における法と倫理について考察する。
（近藤陽子／9回）感染の成立過程、感染の発生を把握するシステム、感染領域における法と倫理
（笠間秀一／4回）看護援助における感染対策の具体的活用、職業感染の防止対策
（薬害／1回）

【３】　到達目標

１．人類と感染症の歴史を学び、感染症法の理念と人権尊重の重要性について説明ができる
２．臨床で重要な微生物に関する基礎知識に基づいた感染経路について説明ができる
３．人間の防御機構と微生物の関係を理解し、感染成立メカニズムの説明ができる
４．微生物の特徴と人間の行動に基づいた、感染拡大の原因・要因について論理的に説明ができる
５．看護実践における感染予防の実践根拠および感染リスクについて、エビデンスに基づいた説明ができる
６．感染症の治療・予防および感染拡大防止に伴う倫理上の問題を討議することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	看護における感染制御	1.感染看護の意義・役割 2.日常生活でみられる感染 授業方法：対面講義 予習：日常生活や実習で経験した感染事例をまとめる 復習：看護における感染対策の重要性、患者への影響 キーワード：日常生活、感染、看護の役割	近藤　陽子
2	微生物の特性と看護援助に基づく感染対策	1. 微生物の特性と感染対策 2. 看護援助における感染リスク 授業方法：対面講義 予習：微生物学の基礎・感染経路 復習：看護援助における感染防止対策の実際をまとめる キーワード：全身清拭、排泄介助、食事介助など	近藤　陽子
3	感染予防と健康管理	1. 感染予防と健康管理 授業方法：対面講義 予習：人も免疫機構について復習してくる 復習：感染予防に役立つ、健康管理方法を考える キーワード：免疫、常在菌、健康管理	近藤　陽子
4	薬害被害（医学部合同授業）	1. 薬害による感染症被害（被害者の声を聴く） 2. 医療従事者としての薬害問題をどう考えるか 授業方法：Zoomによる講演、グループワーク・発表 予習：論文をよみ、概要をまとめる 復習：薬害被害者への手紙と薬害授業後アンケートへの回答 キーワード：薬害、感染、HBV、HCV、HIV	未定
5	看護援助と感染対策	１．看護援助技術を感染予防 ２．感染経路別対策と個人防護具の選択、適切な使用 授業方法：対面講義 予習：演習や実習で経験した看護援助を挙げる。 復習：看護援助実施中の手指衛生のタイミングについてまとめる。 キーワード：日常生活、感染、看護の役割	笠間　秀一
6	看護職者の役割と職業感染	１．医療廃棄物処理と法律、針刺し事例 ２．職業感染予防とワクチン接種、曝露後対策 授業方法：対面講義 予習：病院でうつる感染症について調べる 復習：流行性ウイルス疾患に対する自分の抗体値を知り、判断する。 キーワード：職業感染、VPD、予防投与、予防接種	笠間　秀一
7	医療関連感染（１）	医療処置と医療関連感染 授業方法：Moodle(オンデマンド) 予習：実習で体験・見学した医療処置を書き留めてくる。 文献を調べ、医療関連感染について調べてくる 復習：講義内で提示する事例について考察をする。 キーワード：医療関連感染、デバイス関連感染	笠間　秀一
8	医療関連感染（２）	医療処置と医療関連感染 授業方法：Moodle(オンデマンド) 予習：実習で体験・見学した医療処置を書き留めてくる。 文献を調べ、医療関連感染について調べてくる 復習：講義内で提示する事例について考察をする。 キーワード：医療関連感染、デバイス関連感染	笠間　秀一
9	アウトブレイクと感染対策	アウトブレイク発生の確認と対応 授業方法：対面講義（演習） 予習：疫学調査を復習してくる 復習：事例に基づいて、感染対策を考える キーワード：アウトブレイク、エンデミック、パンデミック、疫学調査	近藤陽子
10	長期療養施設・在宅療養における感染対策	1. 長期療養施設における感染対策 2. 在宅療養における感染対策 授業方法：対面講義 予習：在宅療養ではどのような感染リスクがあるか考えてくる 復習：医療施設と在宅における感染対策の違いをまとめる キーワード：長期療養施設、在宅療養	近藤　陽子
11	感染症法と倫理	1.感染対策における問題と倫理的課題 2.感染症法と人権擁護 授業方法： 予習：感染症法と学校保健安全法を読んでくる 復習：感染症法の理念を確認する キーワード：感染症法、学校保健安全法、人権擁護	近藤　陽子
12	感染対策の実践と倫理的課題（１）	1.感染看護の実践と倫理的課題 授業方法：対面（グループワーク・発表） 予習：看護倫理原則を学習する 課題事例を読み、検討しておく 復習：感染における倫理課題を考察する キーワード：隔離、行動制限、個人情報、人権、倫理	近藤　陽子　/ 笠間　秀一

13	感染対策の実践と倫理的課題（２）	1.感染対策における問題と倫理的課題 2.感染症法と人権擁護 授業方法：対面（グループワーク・発表） 予習：看護倫理原則を学習する 　　課題事例を読み、検討しておく 復習：感染における倫理課題を考察する キーワード：隔離、行動制限、個人情報、人権、倫理	近藤　陽子　/ 笠間　秀一
14	感染対策の実践と倫理的課題（３）	1.感染対策における問題と倫理的課題 2.感染症法と人権擁護 授業方法：対面（グループワーク・発表） 予習：看護倫理原則を学習する 　　課題事例を読み、検討しておく 復習：感染における倫理課題を考察する キーワード：隔離、行動制限、個人情報、人権、倫理	近藤　陽子　/ 笠間　秀一

【６】　事前・事後学習とその時間

１．準備学習

・日常生活上の経験や情報、学習中の知識の中から、感染に関する事例や問題、疑問などを書きとめておく

・感染伝播様式の実験で使用するため、基礎看護技術はすべて習得しておくこと

・本授業は「微生物学」「疾病と治療」「薬理学」「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」などの知識を活用して学習する。そのため事前学習として、これらの復習を1時間程度行って講義に参加することが望ましい。また、授業内で提示される課題に関する復習を30分程度行うことが必要である。

２．学習上の留意点

・本単元は基本知識の習得のほかは、すべて論理的思考に基づく解答の導きだしが中心となる。思考の学習は討議に参加をしていないと学習内容が不足してしまうため、積極的に授業に参加する。

【７】　評価方法・基準

成績評価：定期試験90%、授業態度10%（討議への参加度・課題レポートの評価を含む）にて総合判断をする。ただし、定期試験が60点（60%）に満たない場合は定期試験を再試験とする。

【８】　フィードバック方法

学習フィードバック：ミニッツペーパーおよび質問への回答は、各講義の中で、口頭または紙面にて行う

【９】　教科書

講義ごとに資料を配布する。藤本秀士「病原体・感染・免疫」改訂3版

【10】　参考書

必要時、配布資料に記載または授業内で提示する

【11】　備考(関連科目等)

微生物学、基礎看護技術について、十分な理解があるものとして講義を進める。

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅱ（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅱ	必修	演習	春学期 2年	2単位 60時間
科目責任者	蜂ヶ崎令子				
担当教員	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・鈴木俊美・水流添秀行・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K314（reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	オフィスアワー：授業終了後30分程度、授業をした講義室、演習室で受付けます。さらに、Moodleの「質問コーナー」もしくは上記の科目責任者へMoodleメッセージ、メールで質疑に応答します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

看護実践における基礎的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学習する。基本技術Ⅱでは、人々の健康を維持・促進するために必要とされる日常生活行動に関わる援助技術（活動と休息・食と排泄・清潔と衣生活・体温調節と観察の技術）、フィジカルアセスメントの基礎について体験しながら学習し、援助に必要な基本技術を習得する。

【３】　到達目標

1. 日常生活援助の文化的意義や価値、必要性について述べられる。
2. 日常生活行動の障害が人間の健康な生活にどのような影響を及ぼすか、考えを述べることができる。
3. 日常生活援助技術および観察の技術を提供するよりどころとなる、人体や看護技術のメカニズムを説明できる。
4. 日常生活援助技術および観察の技術の目的と実践方法（手技・手順など）について述べられる。
5. 技術に必要な6つの基本要素(安全･安楽･審美･効率･経済･自立)に基づいて、各看護援助技術を実施できる。
6. フィジカルアセスメントの観察技術を用いて、アセスメントの結果を記述できる。
7. 看護を提供する医療者としての態度で、倫理的配慮を念頭に各看護援助技術を実施できる。
8. 個別性や状況に配慮した援助技術の提供方法を根拠に基づいて考え、工夫点を具体的に説明できる。
9. 看護技術の修得状況に関する自己評価、課題の明確化により、自らの看護技術の向上に努めることができる。
10. 看護技術の習得に向けて、準備学習、自己練習を計画的に行える。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	オリエンテーション 日常生活行動と健康	授業方法：講義 内容①本科目の位置づけ（学習方法、評価項目の開示 など） ②看護技術の学び方 ③日常生活を支える看護技術 予習：教科書の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習 Keyword：トランスレーショナル教育、ディプロマポリシー、自己教育力、看護技術の特徴、コミュニケーション、療養上の世話、ADL	蜂ヶ崎令子・全員
3.4	清潔の看護援助	授業方法：講義 内容①清潔の意義と価値 ②清潔援助の基礎知識とアセスメント 予習：教科書の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習、ワークシート、技術の自己練習 Keyword：皮膚･粘膜の構造と機能、清潔の効果、清潔の意義と価値、不潔の弊害、洗浄剤の作用	蜂ヶ崎令子・全員
5.6.7.8	フィジカルアセスメント(1) 筋・骨格系	授業方法：講義、デモンストレーション、演習 内容：①筋･骨格系の基本的構造と機能 ②筋･骨格系のフィジカルアセスメント 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：筋肉･骨格･関節、MMT、ROM	蜂ヶ崎令子・全員
9.10.11. 12	活動と休息の援助	授業方法：講義、デモンストレーション、演習 内容：①活動と休息の意義･価値 ②基本的活動の援助技術 ③睡眠･休息の援助技術 ④床上リハビリテーションの基礎 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：活動、姿勢、重心、支持基底面積、良肢位、体位、移動、歩行、移乗と移送、体圧測定、除圧、睡眠･休息、安楽な体位、リラクゼーション、身体拘束、リハビリ	蜂ヶ崎令子・全員
13.14.15. 16	フィジカルアセスメント(2) 腹部・消化器系	授業方法：講義、デモンストレーション、演習 内容：①腹部の基本的構造と機能 ②腹部のフィジカルアセスメント 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：腹部臓器の構造と機能、腹部の区分、腹腔内の血管の走行、腸蠕動音の聴取、腹部の打診･聴診、腹水のアセスメント	松浦麻子・全員
17.18.19. 20	清潔の援助技術(1) 毛髪の清潔、整容	授業方法：講義、演習 内容：①洗髪・整髪の援助技術 ②整容の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：頭皮･毛髪の清潔と観察、二次感染、自尊感情、整容、おしゃれ	宮崎裕子・全員
21.22.23. 24	清潔の援助技術(2) 皮膚の清潔	授業方法：講義、演習 内容：①入浴･シャワー浴の援助技術 ②全身石鹸清拭の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：ワークシートの提出 Keyword：循環動態の変化、温熱刺激、シャワー浴、特殊浴槽、熱布清拭、ウォッシュクロス、羞恥心、湯温の管理	蜂ヶ崎令子・全員
25.26	食事の援助	授業方法：講義 内容：①食事の意義と価値、栄養摂取と健康生活 ②食事援助の基礎知識とアセスメント ③口腔内の観察と清潔援助 予習：教科書の該当箇所を読む、ワークシート 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：食文化、食事と生活･人間関係、アセスメント（代謝･吸収、栄養状態、食欲、摂食･嚥下のメカニズム、水分･電解質バランスなど）、摂食・嚥下訓練、歯磨きの援助、口腔内の観察	松浦麻子・全員
27.28	排泄の看護援助(1)	授業方法：講義 内容：①排泄の意義と価値、排泄と健康生活 ②排泄障害のメカニズムとアセスメント ③排泄援助の基礎知識とアセスメント 予習：教科書の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習、ワークシート Keyword：生理的欲求、羞恥心、心理･社会的意義、排泄器官と排泄のメカニズム（排便･排尿）、アセスメント（身体的状態、失禁、動作の分析、心理･社会的状態 など）、尿の異常（乏尿･尿閉･頻尿など）、便の異常（便秘･下痢 など）、摘便、薬物療法	蜂ヶ崎令子・全員

29.30.31. 32	フィジカルアセスメント(3) 胸部・肺	授業方法：講義、演習 内容：①胸部･肺の基本的構造と機能 ②胸部･肺のフィジカルアセスメント 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：胸郭･肺･気管の構造、胸部の打診、呼吸音の聴取、呼吸困難･努力様呼吸	松浦麻子・全員
33.34.35. 36	フィジカルアセスメント(4) 心臓・循環系	授業方法：講義、演習 内容：①心臓･循環系の基本的構造と機能 ②心臓･循環系のフィジカルアセスメント 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：末梢循環の観察、頚部の血管の観察、心臓の観察、四肢の血圧測定と評価、温罨法･冷罨法、浮腫のメカニズムと観察	宮崎裕子・全員
37.38.39	技術チェックテスト(1) 清潔の援助技術	授業方法：演習（技術チェックテスト） 内容：清潔の援助技術のチェックテストを行う 予習：該当する看護技術を自己練習 復習：修得の水準に達しなかった場合は各自復習し、再度チェックを受ける。 Keyword：清拭、洗髪、更衣	全員
40.41.42. 43	フィジカルアセスメント(5) 脳・神経系	授業方法：講義、演習 内容：①脳･神経系の基本的構造と機能、 ②脳･神経系のフィジカルアセスメント 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：脳･神経系、運動路･感覚路、中枢神経系、運動ニューロン、末梢神経、反射、意識状態の観察、脳神経、感覚･知覚機能の検査、小脳機能の検査	林京子・全員
44.45.46	技術チェックテスト(2) 清潔の援助技術	授業方法：演習（技術チェックテスト） 内容：清潔の援助技術のチェックテストを行う 予習：該当する看護技術を自己練習 復習：修得の水準に達しなかった場合は各自復習し、再度チェックを受ける。 Keyword：清拭、洗髪、更衣	全員
47.48.49. 50	排泄の援助(2) 臥床患者の排泄および 排泄困難な患者の援助	授業方法：講義、演習 内容：①自然排尿・自然排便の援助技術 ②排便を促す援助技術と薬物療法 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：ポータブルトイレの使用、便器･尿器のあて方、腹部温罨法、腹部マッサージ、浣腸、座薬	蜂ヶ崎令子・全員
51.52.53. 54	清潔の援助技術(3) 部分浴	授業方法：講義、演習 内容：①足浴の援助技術 ②陰部洗浄の援助技術 予習：ワークシート、動画の視聴、チェックリストの事前学習、技術の自己練習 復習：授業内容の復習、ワークシートの提出 Keyword：セルフケア能力、二次感染、末梢循環、手部･足部の観察、落屑、リラックス、粘膜の清潔、おむつ交換	林京子・全員

【6】　事前・事後学習とその時間

1．準備学習

≪予習≫

看護援助技術の動画視聴、ワークシートを完成させ、技術の自己練習を行ってから演習に参加する。およそ1～1.5時間を要する。

≪復習≫

ワークシートなどの課題を、期限を守って提出する。およそ30分を要する。

また、対象に提供できるレベルの援助技術を身につけるには、かなりの反復練習が必要となる。技術チェックテストや臨地実習にむけて、計画的に自己練習すること。

2．学習上の留意点

本科目は様々な技術演習を積み重ねて学習することで、日常生活援助の知識と技術、態度を身につけるプログラムとなっている。本科目で修得する内容は、1年秋学期の基本技術Ⅰで習得した技術の応用だけでなく、この後につづく看護実践の基礎や臨床実践Ⅰなどの実習や、看護の基本技術Ⅲ・Ⅳを学ぶために必要となる。各自、学習の計画を立てるとともに、動画教材や教員を活用して、知識と技術を積み上げていってほしい。

【7】　評価方法・基準

①知識チェックテスト（40%）、②技術チェックテスト（40%）、③自己学習状況・授業態度（ワークシート、演習前と後の自己学習状況と振り返り内容）（20%）で評価する。技術チェックテスト、自己学習については、全体にフィードバック、あるいは必要時コメントを付してフィードバックする。

【8】　フィードバック方法

ワークシートに関する総評や質問への回答などは、Moodleの「質問コーナー」や授業を通じてフィードバックを行う。
技術チェックテスト、自己学習については、必要時コメントを付してフィードバックする。

【9】　教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　第17版　任和子　医学書院　2017
はじめてのフィジカルアセスメント　第2版，横山美樹，メヂカルフレンド社，2021.
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

【書籍】
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　第17版　茂野香おる　医学書院　2019
看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2014
看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2014
ナーシンググラフィカ　基礎看護学３　第6版　基礎看護技術　志自岐康子　メディカ出版　2017
看護学テキストNICE基礎看護技術　第2版　香春知永、齋藤やよい　南江堂　2014

【動画教材】
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシングチャンネル：https://www.nur-chan.jp/login/
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/

その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

「人体の構造と機能」「看護学概論」「看護の基本技術Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ」「人体の構造と機能」「看護のための物理学」「看護展開論」「看護実践の基礎」

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅲ（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅲ	必修	演習	秋学期 2年	2単位 60時間
科目責任者	宮崎裕子				
担当教員	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	宮崎裕子：研究室（k327）				
オフィスアワー	授業開講日の授業終了後より18時まで研究室（K328）にて質問を受け付ける。 その他連絡方法は授業時間内で提示する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護実践における基礎的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学習する。基本技術Ⅲでは、人々の健康を維持・促進するために必要とされる診療の補助に関わる援助技術（感染予防・与薬／検査を受ける患者を援助する看護）について体験しながら学習し、援助に必要な基本技術を習得する。また、本科目では看護の基本的な技術の習得度を評価し、基本技術Ⅳ以降の各論系援助技術の学習環境を整える。

【３】　到達目標

1.　診療の補助に関わる看護援助技術の意義や背景について述べられる。
2.　診療の補助に関わる看護援助技術（感染予防の技術、与薬・検査を受ける患者の援助技術、観察の技術）の実施に際して発生する倫理的な問題に対する考えを述べられる。
3.　診療の補助に関わる看護援助技術に必要な知識（人体の構造と機能、薬理学、物理学など）に基づいて、人体や看護技術のメカニズムついて述べられる。
4.　診療の補助に関わる看護援助技術の目的・方法について述べられる。
5.　看護技術に必要な6つの基本要素（安全・安楽・審美・効率・経済性・自立）に基づいて、各看護援助技術を実施できる。
6.　フィジカルアセスメントの観察技術を用いて、アセスメント結果を記述できる。
7.　看護技術の修得状況に関する自己評価により課題を明確にできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	オリエンテーション　検査の技術	授業方法：講義 内容：本科目の位置づけ、学習方法、評価方法、症状・生体機能管理、診察・検査・処置の介助 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。 キーワード：検体検査、生体検査、検体採取と取り扱い、看護技術の倫理	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
2・3回	検査の技術	1回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
4・5回	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック	授業方法：講義・全体演習 内容：スタンダードプリコーション、ガウンテクニック、無菌操作の技術 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：消毒・滅菌、感染防止、個人防護具（PPE）	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
6・7回	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック	4・5回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
8・9回	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック	4・5回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
10・11回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：口腔・鼻腔内吸引、酸素吸入療法の技術、ミニッツテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：呼吸の援助、口腔・鼻腔内吸引、検体採取と取り扱い、酸素吸入療法、加湿療法	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
12・13回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	10・11回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
14・15回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	10・11回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
16・17回	与薬の技術	授業方法：講義 内容：剤形と吸収経路、与薬管理、与薬方法、誤投与防止 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。 キーワード：経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬、注射、副作用の観察	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
18・19回	与薬の技術、与薬の倫理	授業方法：講義 内容：与薬に関する倫理的課題について検討する。 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。 キーワード：与薬、医療倫理原則	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
20・21回	観察の技術、感覚器・頭頚部のアセスメント	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：感覚器・頭頚部のフィジカルアセスメント 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：観察、フィジカルアセスメント、感覚器、頭頚部、口腔、鼻腔	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
22・23回	観察の技術、感覚器・頭頚部のアセスメント	20・21回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
24・25回	観察の技術、感覚器・頭頚部のアセスメント	20・21回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
26・27回	検査の技術、採血／血糖測定	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：採血、血糖測定の技術、ミニッツテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：検体検査、血液検査、検体採取と取り扱い	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、松浦麻子、林 京子
28・29回	検査の技術、採血／血糖測定	26・27回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
30・31回	検査の技術、採血／血糖測定	26・27回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
32・33回	排泄の援助技術、導尿／尿留置カテーテル	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：一時的導尿、持続的導尿の技術、ミニッツテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：排泄の援助、一時的導尿、持続的導尿、検体採取と取り扱い、尿検査	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行

34・35回	排泄の援助技術、導尿／尿留置カテーテル	32・33回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
36・37回	排泄の援助技術、導尿／尿留置カテーテル	32・33回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
38・39回	与薬の技術①、静脈内注射／包帯法	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：静脈内注射、点滴静脈内注射の技術、包帯法、ミニッツテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。 キーワード：与薬、静脈内注射、包帯法	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
40・41回	与薬の技術①、静脈内注射／包帯法	38・39回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
42・43回	与薬の技術①、静脈内注射／包帯法	38・39回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
44・45回	与薬の技術②、筋肉注射／皮下注射	授業方法：Moodle講義・全体演習 内容：筋肉注射、皮下注射の技術、ミニッツテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：与薬、筋肉注射、皮下注射	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
46・47回	与薬の技術②、筋肉注射／皮下注射	44・45回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
48・49回	与薬の技術②、筋肉注射／皮下注射	44・45回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
50・51回	技術チェックテスト	授業方法：技術チェックテスト 内容：診療の援助技術、与薬技術に関するチェックテスト 予習・復習：該当する技術の自己練習。授業内容の復習。 キーワード：吸引、導尿、点滴静脈内注射、筋肉注射	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
52・53回	技術チェックテスト	50・51回と同じ	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行
54回	まとめ	授業方法：全体演習 内容：本科目で取り扱った看護技術について復習する。 予習・復習：本科目の全範囲について疑問点を残していないか見直す。 キーワード：検査の技術、医療倫理原則	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・松浦麻子・林 京子・鈴木俊美・水流添秀行

【６】　事前・事後学習とその時間

本科目は、講義（対面・Moodle）、演習、チェックテストから成り立っている。講義では、各看護技術に関する基礎知識の確認を行う。演習では、講義、事前学習、教員のデモンストレーションを参考にしながら、各看護技術を体験する。講義や演習内容をより理解するための予習、技術の自己練習や知識の復習に充てる準備学習のため、予習に0.5時間、復習に1.5時間程度を要する。また、自己学習ワークシート、ミニッツテスト、国家試験の模擬試験により、関連知識の強化を図る。

※授業進行状況を考慮し、授業内容や順序が変更となる場合がある。

【７】　評価方法・基準

知識チェックテスト（40%）、技術チェックテスト（30%）、課題状況（20%）、授業態度（10%）

【８】　フィードバック方法

課題については、必要時コメントを付してフィードバックする。試験結果に対する全体への講評を行う。

【９】　教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　第18版　任和子　医学書院　2021
はじめてのフィジカルアセスメント　横山美樹　メヂカルフレンド社　2009

【10】　参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　第18版　茂野香おる　医学書院　2021
看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2018
看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2018
ナーシンググラフィカ　基礎看護学３　第6版　基礎看護技術　志自岐康子　メディカ出版　2017
看護学テキストNICE基礎看護技術　第3版　香春知永、齋藤やよい　南江堂　2022
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/
その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

〈予め学んでおくと良い科目〉看護のための物理学、薬理学、薬剤学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、微生物学、感染看護、看護の基本技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅶ、看護実践の基礎、疾病と治療Ⅰ、Ⅱ

〈この科目に続く内容の科目〉疾病と治療Ⅲ～Ⅴ、看護の基本技術Ⅳ～Ⅸ、臨床実践Ⅰ、臨床実践技術の探求

科目名(日本語)	**看護実践の基礎**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Clinical Nursing Practicum	必修	実験・実習	春学期 2年	2単位 90時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立 篤子、山本 利江、蜂ヶ崎 令子、宮崎 裕子、高橋 良幸、瀧口 千枝、松浦 麻子、鈴木 俊美、笠間 秀一、水流添 秀行、林 京子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）				
オフィスアワー	実習終了後30分、各実習施設の学生控え室にてオフィスアワーを設ける。 それ以外で連絡を取りたいときは、実習用携帯で連絡を取ること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

症状のある患者の健康生活上の援助ニーズをニード論・援助論に基づいて把握・理解し、アセスメントに基づいて、身体状況に応じた日常生活の援助を計画立案し、実施・評価することにより、看護の一連の過程を実践する。また、看護／臨床倫理の現象の理解を深める。さらに、実践のリフレクションを通して、看護及び看護師の役割と機能について考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.病気や入院が受け持ち患者の身体や精神の活動、社会生活に及ぼす影響について理解できる。
2.受け持ち患者の日常生活行動の援助を中心に、看護展開のプロセスを体験できる。
3.臨地における人間関係を築くための基本的スキルを身につける。
4.受け持ち患者を援助する体験を通して、看護への理解を深める。
5.自己の課題を明らかにし、自分自身を育むことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	※詳細は実習要項に示す。 【実習スケジュール】 〈実習オリエンテーション〉 ・本科目の特徴、ねらい、到達目標などを説明 ・臨地実習に関する諸注意 ・技術演習：既習の看護援助技術の再チェック、報告・連絡・相談など ・グループメンバーとの交流 〈第1週目〉 ・病棟オリエンテーション、患者紹介 ・受け持ち患者の理解 ・アセスメントと問題の抽出 ・実習記録の作成 〈第2週目〉 ・ケースカンファレンス ・援助計画の立案 ・看護援助の実施と評価 ・再アセスメントと計画の見直し ・倫理的問題についてのカンファレンス ・最終カンファレンス 〈まとめ〉 ・実習のまとめ ・個別面接 ・実習記録の作成･提出	全員
	実習施設	東邦大学医療センター佐倉病院、東邦大学医療センター大森病院、済生会習志野病院	全員
	授業方法	・学内で事前学習を行ったのち、臨地でグループごとに２週間の実習を行う。 ・学生は、原則として１名の患者を受け持ち、対象理解や人間関係の構築、看護展開を体験する。 ・記録や報告、カンファレンスを通して自己をふり返り、学習を進める。 ・実習最終日に、グループワークや教員との個別面接を通して実習のふり返り、自己の課題を明らかにする。 【キーワード】 ヘンダーソン看護理論、対象理解、日常生活援助技術、看護展開、カンファレンス、報告･連絡･相談	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

〈準備学習：8時間以上〉
・観察（バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント）や日常生活の援助（清潔の援助、排泄の援助、食事の援助、活動と休息の援助、安楽の援助）など、これまでに学んだ技術を練習しておく。（3時間）
・既習の人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護専門教育科目の知識がすぐに活用できるよう、ノートや参考資料などを整理しておく。（3時間）
・看護展開論の学習成果を整理しておく。（2時間）
〈事後学習：1時間程度〉
・実習終了時に、行った看護援助をサマリーとしてまとめて、提出する。（1時間程度）

〈学習上の注意〉
・実習のオリエンテーションに必ず出席する。
・グループメンバー全員で協力して学習が深まるように取り組む。
・健康な状態で実習に臨めるよう生活リズムを整えておく。

【7】　評価方法・基準

①実習評価表と面接、実習記録類に基づく目標達成度評価：80点
②実習への取り組み姿勢（実習中の自律性、協調性、主体性、倫理性を態度や発言、記録物の提出状況などから評価する）：20点
の合計100点で評価する。

【8】　フィードバック方法

フィードバック方法：実習中は、①②について担当教員より口頭や添削によるフィードバックを行う。実習最終日に、②について教員と個別面接を通じ、より個別で具体的なフィードバックを行う。①について、提出した実習記録を教員が添削し、学生に返却する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

看護学生のための　実習のまえに読む本，田中美穂／蜂ヶ崎令子，医学書院
その他、実習オリエンテーション時に参考図書・資料を提示する。

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ、看護展開論、看護の基本技術Ⅰ・Ⅱ

科目名(日本語)	**臨床実践Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅰ	必修	実験・実習	秋学期 2年	2単位 90時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋良幸・尾立篤子・山本利江・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・瀧口千枝・松浦麻子・鈴木俊美・笠間秀一・水流添秀行・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	髙橋良幸（研究室K312） y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	毎日の臨地実習終了後に30分程度、学生控え室や講義室にてオフィスアワーの時間を設ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、Moodleなど

【２】　授業概要

機能障害をもつ患者の全体像をニード論、臨床看護の理論に基づいて把握・理解し、アセスメントに基づいて、健康状態とセルフケア状況に応じた援助を実践し、看護展開に関する思考過程を修得する。実践を振り返り、自身の看護について探求する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.対象を健康障害や疾病のみならず、身体や心理・精神の活動、社会的な体験として全体論的に捉えることができる。
2.論理的思考に基づき、対象の健康問題の解決や回復を促進する援助を見いだすことができる。
3.対象者にあった看護援助を実践し評価できる。
4.医療チームの一員としての自覚を持って行動できる。
5.自己の課題を明らかにし、向き合うことができる。
6.自己の看護観を育む。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	概要	本科目「臨床実践I」は、これまで座学や演習で学んだことを土台として、実習科目である看護入門実習I・II、看護実践の基礎の発展として位置づく実習科目である。 ※ 目標を達成するための詳細な学修内容は、臨床実習Ⅰの実習要項に示します。 1.実習施設 東邦大学医療センター佐倉病院 東邦大学医療センター大森病院 千葉県済生会習志野病院 2.実習方法 機能障害をもつ患者(成人/老人)1～2名を受け持ち、看護を展開する。4～6名のグループごとに実習を行う。 3.キーワード　機能障害、回復過程、セルフケア、全体像、アセスメント、看護計画、看護の展開	全　員
	オリエンテーション	施設概要、学生配置、実習記録方法、実習にあたっての注意事項の説明	全　員
	実習初日	・実習施設内オリエンテーション ・受け持ち患者の決定と情報収集 ・受け持ち患者との関係作りと全体像の把握	全　員
	１週目	・受け持ち患者の情報の整理とアセスメント ・看護計画の立案 ・看護の実践と評価 ・報告・記録 ・カンファレンス	全　　員
	2週目	・看護計画にそって看護を実践する ・看護の実践と評価 ・報告・記録 ・カンファレンス	全　員
	最終日	・実習のまとめ:記録整理・自身の行った看護を振り返る ・個別面接による相互評価 ・実習レポート及び記録提出	全　員

【6】　事前・事後学習とその時間

この科目は臨床の場において患者に適切な看護を安全に提供できることをねらいとしているため、関連内 容について調べること(予習)に１時間程度、その日の実習記録と振り返り(復習)に1時間程度必要である。
既習の「看護展開論」「看護学概論」「臨床看護学概論」「疾病と治療I～III」「薬理学」「臨床栄養学」「リハビリテーション論」「看護の基本技術I～III、VII」「感染看護」の関連するところについて予習・復習をすること。

【7】　評価方法・基準

評価は、実習指導者の評価を参考にしながら、学生の自己評価に基づいた教員からのフィードバックの結果および実習目標の達成状況と課題について確認し評価する。合計100点で評価する。
1実習自己評価と面接、実習記録類に基づく目標達成度評価:60点
2学習者としての態度・専門職者としての態度:20点
3課題レポート:20点

【8】　フィードバック方法

臨地における看護の考え方、実践内容、態度については随時口頭で伝える。病棟の実習指導者からフィードバックを得ることもある。実習記録への添削によるフィードバックを行う。
実習最終日は、教員との個別面談を通じ、より個別で具体的なフィードバックを行う。
提出した実習記録は後日教員が添削し、学生に返却する。

【9】　教科書

専門基礎教育科目および臨床看護学で提示された教科書

【10】　参考書

随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

教養：コミュニケーション論、プレゼンテーション論、倫理学
基礎：人体の構造と機能、疾病と治療、薬理学、臨床栄養学、リハビリテーション論
専門：機能障害のある患者の看護、看護展開論、看護の基本技術Ⅰ～Ⅶ、感染看護
実習：看護入門実習、看護実践の基礎

科目名(日本語)	**発達看護論（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing on Human Development	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・臼井雅美・山本利江・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp, K329研究室				
オフィスアワー	・火曜日　16:20～18:00　各教員の研究室　メールあるいはMoodleのメッセージでの問い合わせにも応じる 臼井（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp）K331, 林（hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp）K329, 山本（toshie.yamamoto@hs.toho-u.ac.jp）K333, 鳥田（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）K320				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間は誕生から死まで、一生涯常に変化し発達する。この生涯発達の視点をもとに、乳児期から老年期までの人間の行動を発達の視点で捉え、その過程で生じる課題を考察する。本科目では成長・発達の基本的な概念をもとに、発達過程における対象者を理解するために、必要な小児～老年期の看護援助を考える基礎的知識を学修する。

【３】　到達目標

1. 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の原則と影響因子についてのポイントを説明できる。
2. 人間の発達に関する理論についてその要点を説明できる。
3. 発達論における小児期の位置づけを説明できる。
4. 乳幼児期の成長・発達の特徴と健康を促す援助について具体的に説明できる。
5. 学童・思春期の成長・発達の特徴と健康を促す援助について具体的に説明できる。
6. 成人期の発達と健康を支援する援助のポイントについて説明できる。
7. 更年期女性の健康を支援する援助のポイントについて説明できる。
8. 老年期の発達課題と援助のポイントについて説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	発達看護論とは（1）	内容 1．人間と発達 2．看護における発達理論 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第1章および第2章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：人間理解・発達の定義・成長・発育・エイジング・発達の一般原則・成長発達に影響する因子・発達段階・発達課題・発達理論（ゲゼル，エリクソン，ピアジェ，ボウルビィ，ハビーガースト等）	臼井雅美
3・4	小児期の成長・発達と看護（1）	内容 1．発達論における小児期と評価 2．乳児期の成長・発達 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第4章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：小児期の発達区分・小児の特性・発育曲線・パーセンタイル値・カウプ指数・ローレル指数・精神年齢・発達年齢・DENVERⅡ・生理的体重減少・原始反射・姿勢反射・粗大運動・微細運動・喃語・不安	臼井雅美
5・6	小児期の成長・発達と看護（2）	内容 1．幼児期の成長・発達 2．乳幼児期の健康を促す援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第4章）を読む. 復習：ミニテスト キーワード：乳歯・永久歯・自己中心性・アニミズム・注意・記憶/時間/空間の概念・一語文/二語文・分離不安・自律性/自発性・感情の分化・遊び・トイレトレーニング・乳幼児突然死症候群・不慮の事故・齲歯・アレルギー	臼井雅美
7・8	小児期の成長・発達と看護（3）	内容 1．学童期の成長・発達 2．思春期の成長・発達 3．学童・思春期の健康を促す援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（第5章および第6章）を読む. 復習：ミニテスト、提示された課題について記述する。 キーワード：勤勉感/劣等感・保存・ギャングエイジ・自己概念・第二次性徴・発達加速化現象・自我同一性・肥満とやせ・近視・いじめ/不登校・自殺	臼井雅美
9・10	成人期の発達と看護	内容 1．成人期における発達と課題 2．成人期の発達課題を支援するための援助 方法：講義 予習：教科書の該当部分（7章・8章）および臨床看護学概論の教科書p4～28を読むこと. 復習：提示された課題（成人期の発達に関する課題）について記述する. キーワード：青年期・壮年期・中年期・アイデンティティ・親密性・生殖性・老いの自覚	山本利江
11・12	更年期の発達と看護	内容 1．ライフサイクルにおける性の発達と発達課題 2．更年期女性の身体的・心理社会的特徴と発達課題 3．更年期女性の健康を支援するための援助 方法：講義 予習：母性看護学概論の教科書p212～217（更年期女性に関する内容），p21，101～104，113～124（性の発達に関する内容）を読み，わからない用語や内容をピックアップしておくこと. 復習：ミニテスト キーワード：更年期女性・閉経・更年期症状・更年期障害・セクシュアリティ・ジェンダーアイデンティティ・性自認・性指向・性役割・性行動・パートナーシップ	林ひろみ
13・14	老年期の発達と看護	内容 1．老年期の身体的・心理社会的特徴と発達課題 2．老年期の健康を支援するための援助 方法：講義 予習：老年看護学に関連する既習の学修内容を振り返り，整理して臨む. 復習：提示された課題（老年期の発達に関する課題）について記述する．老年期の発達段階の特徴と援助のポイントについて学んだことを記述する. キーワード：生涯発達・老年期・自我・衰退・加齢・人生の統合	鳥田美紀代

【6】　事前・事後学習とその時間

本授業は、人間が生涯を通して発達する存在であることを理解し、ライフサイクルに応じた看護を探究し、看護の理解を深めることをねらっているため、各看護学概論の教科書を基に関連する内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

Moodleを使用したWEB講義を行うため、理解を深めたい点において教科書を活用して、主体的に取り組むこと。また、わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準
定期テスト70%、ミニテスト20%、課題10％

【８】　フィードバック方法
ミニテストは結果を返却し、返却時に講評する。課題は総評を伝える。なお、ミニッツペーパーに記載された質問や感想等に対してフィードバックする。

【９】　教科書
・舟島なおみ・望月美知代著：看護のための人間発達学（第5版），医学書院，2017.

【10】　参考書
・無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編集：よくわかる発達心理学　第2版，ミネルヴァ書房，2009.
・上田礼子：生涯人間発達学　改訂第2版増補版，三輪書店，2012.
・松尾宣武・濱中喜代編：新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論・小児保健，メヂカルフレンド社，2013.（２年次購入）
・齋藤いずみ他編集：看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル改訂第2版，南江堂，2018.（2年次購入）
・小松浩子他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論，医学書院、2017（1年次購入）

【11】　備考(関連科目等)
小児看護学概論、母性看護学概論、臨床看護学概論、老年看護学概論

科目名(日本語)	**小児看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Child Health Nursing	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井連絡先：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（臼井研究室：K331）				
オフィスアワー	原則、授業開講日　16:20～18:00（臼井研究室）。但し、他の授業や会議の場合もあるので、質問はMoodleの質問コーナーを活用する。個人的に確認したことがある場合は、臼井までメールにて問い合わせる。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

小児看護の対象や目標・役割を理解し、小児医療・看護の変遷について諸外国と比較しながら学ぶとともに、子どもの権利を保障し、子どもの最善の利益が得られる看護とは何か、今後の小児看護の在り方について考えを深める。子どもと家族をとりまく社会の変化から、小児保健の動向と施策、子どもの教育と看護の現状について理解する。子どもの生活を支える成長・発達過程を理解し、生活行動の変化と日常生活の支援について理解する。現代社会における子どもや家族が抱える生活や健康における課題を考察する。

【３】　到達目標

1. 小児看護の対象や目標・役割について具体的に説明できる。
2. 諸外国およびわが国における小児医療や小児看護の変遷について具体的に説明できる。
3. 子どもの権利や倫理的配慮から、小児看護の倫理的課題を説明できる。
4. 子どもと家族をとりまく社会の変化から、小児保健の動向と施策の現状について具体的に説明できる。
5. 子どもの生活を支える成長と機能の発達について具体的に説明できる。
6. 子どもの発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について具体的に説明できる。
7. 子どもの発達と健康問題から、現代社会における課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	小児看護の概念	学習内容：1）小児看護の対象・目標・役割　2）小児医療・看護の変遷　3）子どもの権利と倫理 方法：講義 予習：テキストp2～p4，p6～p14，p16～p19，p44～p53を読む 復習：課題ワークシート キーワード：子どもとは，児童憲章，子どもの権利条約，児童福祉法，母子保健法，小児期の区分，小児の特性，子どもの権利、子ども観，小児専門看護師，子どもの最善の利益，意見表明権，インフォームド・アセント，アドボカシー	臼井　雅美
3･4	子どもを取り巻く社会と小児看護	学習内容：1）小児と家族の保健統計　2）子どもと家族を取り巻く社会 3）小児の保健・福祉 方法：講義 予習：テキストp19～p33，p40～p44，p58～p79を読む 復習：ミニテスト キーワード：合計特殊出生率，周産期死亡，乳児死亡，不慮の事故，児童福祉，母子保健，未熟児養育医療，小児慢性特定疾患治療研究事業、自立支援医療，結核児童療育医療，予防接種，学校保健，いじめ・不登校	臼井　雅美
5･6	子どもの生活を支える成長と発達①	学習内容：1）子どもの生活行動とは　2)生活を支える形態的成長 3）生命を維持し恒常性を保つ機能の発達 方法：講義 予習：テキストp82～p105，p242～p252を読む 復習：ミニテスト キーワード：呼吸，循環，体温調節，消化機能，水分代謝，血液，免疫	臼井　雅美
7･8	子どもの生活を支える成長と発達②	学習内容：4）動く　5）眠る　6）身だしなみを整える　7）性を生きる 方法：講義 予習：テキストp112・p113・p115を読む 復習：ミニテスト キーワード：原始反射，姿勢反射，粗大運動，微細運動，サーカディアンリズム，成長ホルモン，ステート，乳幼児突然死症候群（SIDS），夜泣き，生活習慣，二次性徴	臼井　雅美
9･10	子どもの生活を支える成長と発達③	学習内容：5）食べる　6）排泄する 方法：講義 予習：テキストp114・p115を読む 復習：ミニテスト キーワード：食育，食育基本法，授乳・卒乳，離乳食，排尿機能，排泄機能，胎便，おむつ，トイレトレーニング，清潔行動の発達，衣服の着脱	臼井　雅美
11	子どもの生活を支える成長と発達④	学習内容：7）見る・聞く・話す　8）感じる・考える 方法：講義 予習：テキストp101～p108を読む 復習：ミニテスト キーワード：視覚，聴覚，味覚，触覚，皮膚感覚，注視，追視，喃語，一語文，二語文，情緒の分化，ピアジェの認知の発達，反抗期，アニミズム，道徳性	臼井　雅美
12･13	子どもの生活を支える成長と発達⑤	学習内容：9）人と関わる　10）遊ぶ・学ぶ　11)性を生きる 方法：講義 予習：テキストp108～p112を読む 復習：ミニテスト キーワード：親子関係，きょうだい関係，友人関係，愛着，母子相互作用，ギャング集団，遊びの機能， 遊びの発達，遊びの分類，玩具・おもちゃ，二次性徴	臼井　雅美
14	子どもの発達と現代社会における課題	学習内容：1）小児期各期の健康課題　2）現代社会における課題 方法：講義 予習：テキストp33～p37を読む 復習：課題レポート キーワード：事故防止と安全教育，発達障害と特別支援教育，臓器移植	臼井　雅美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、子どもが家族や家庭、社会との良好な関係の中で、健康で自律した大人に成長発達していく過程を学び、自らの子ども観を深めていくため、小児看護の関連内容を理解するため、予習1時間程度、復習2時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
本科目は、学生が初めて子どもに対する看護学を学ぶものであるが、発達看護論等と深く関わりがあるので既習学習項目について理解を深めておくこと。

【7】　評価方法・基準

定期試験50%、課題30%、ミニテスト20%

【8】　フィードバック方法

課題は総評を伝える。ミニテストは次回の授業で正解を示し、解説を行う。

【９】　教科書

①新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論・小児保健（第6版），小林京子・髙橋孝雄編，メジカルフレンド社，2019.
②新体系看護学全書　小児看護学②健康障害をもつ小児の看護（第6版），小林京子・髙橋孝雄編，メジカルフレンド社，2019.
③新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス，山元恵子監修，佐々木祥子編著，インターメディカ ，2020

【10】　参考書

新版　小児生理学，馬場一雄監修，へるす出版，2009.
国民衛生の動向，厚生労働統計協会編，厚生労働統計協会，最新版.
母子保健の主なる統計，母子衛生研究会編，母子保健事業団，最新版
日本子ども資料年鑑，日本子ども家庭総合研究所編，KTC中央出版，最新版
看護形態機能学　生活行動から見るからだ（第4版），菱沼典子，日本看護協会出版，2017.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：健康科学概論，コミュニケーション論，心理学，教育学，看護学概論，発達看護論
この科目に続く内容の科目：小児看護学方法論，看護の基本技術Ⅴ，ファミリーヘルス看護論，小児看護学実習

科目名(日本語)	**小児看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pediatric Nursing Methodology	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井連絡先：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）				
オフィスアワー	授業開講日　16:20～18:00（331研究室）なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる ＊但し、研究室を訪ねる場合は、メールで事前に連絡すること。 臼井：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）．林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K325）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

子どもの健康レベルと健康障害について理解し、子どもの苦痛の緩和、健康の回復、あるいは穏やかな死に向けての支援を学ぶ。健康障害だけでなく、入院生活や在宅療法、災害や虐待などの生活環境が子どもとその家族にどのような影響を及ぼすのかについても理解する。その中で、病気や障がいをもつ子どもが社会の中でその人らしく生き生きと生活し、よりよい成長・発達がとげられるような支援について家庭や地域との連携の中で理解することができる。
なお、本科目は公衆衛生看護学における母子保健活動を学修するための基礎となる科目である。
（臼井雅美／8回）健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護、急性期にある子どもと家族の看護、慢性期にある子どもと家族の看護、終末期にある子どもと家族の看護、心身障がいのある子どもと家族の看護、在宅における子どもと家族の看護、虐待を受けている子どもと家族の看護、災害を受けた子どもと家族の看護。
（林華子／6回）検査や処置を受ける子どもと家族の看護、手術を受ける子どもと家族の看護、入院における子どもと家族の看護、外来における子どもと家族の看護、集中治療を受ける子どもと家族の看護、ハイリスク新生児および医療処置を受ける新生児と家族の看護

【3】　到達目標

1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護について説明できる。
2. 急性期にある子どもと家族の特徴およびアセスメントの視点と必要な看護について説明できる。
3. 慢性期にある子どもと家族の特徴およびアセスメントの視点と必要な看護について説明できる。
4. 子どもの死の概念発達とその特徴および終末期にある子どもの緩和ケアやQOLを支援する子どもと家族への看護について説明できる。
5. 検査・処置を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
6. 子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
7. 子どもを対象とする入院環境の特徴と入院中の子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
8. 子どもを対象とする外来の特徴と外来受診する子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
9. 集中治療を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
10. ハイリスク新生児・医療処置を受ける新生児と家族の特徴および必要な看護について説明できる。
11. 心身障がいのある子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
12. 在宅で療養生活を必要とする子どもと家族への必要な援助と継続的支援の重要性について説明できる。
13. 子どもへの虐待の特徴と虐待を受けている子どもと家族に必要な看護について説明できる。
16. 災害による子どもへの影響と災害を受けた子どもと家族に必要な看護について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	健康障害のある子どもと家族	1) 健康障害のある子どもの特徴と成長発達に及ぼす影響 2) 子どもの健康障害が家族に及ぼす影響 3) 健康障害のある子どもと家族の看護 講義 予習：テキスト①p2～p23を読む 復習：ミニテスト① キーワード：健康障害、インフォームドアセント、プレパレーション、ディストラクション	臼井　雅美
2	子どもの健康障害の経過と看護Ⅰ	内容：急性期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p126～p132を読む 復習：ミニテスト キーワード：急性期、急性症状、予備能力、危機モデル、トリアージ、意識レベル、小児救急医療、医療ネグレクト	臼井　雅美
3	子どもの健康障害の経過と看護Ⅱ	内容：慢性期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p142～p152を読む 復習：ミニテスト キーワード：慢性期、慢性疾患、小児慢性特定疾患治療研究事業、セルフケア、エンパワーメント、アドヒアランス、復学支援、キャリーオーバー，移行期	臼井　雅美
4	子どもの健康障害の経過と看護Ⅲ	内容：終末期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p155～p162を読む 復習：ミニテスト キーワード：終末期、子どもの死の概念、スピリチュアルケア、子どもの納得と代弁、デスエデュケーション、意思決定支援、子どもの最善の利益、家族の悲嘆プロセス、グリーフケア	臼井　雅美
5	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅰ	内容：検査や処置を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①166～p177を読む 復習：ミニテスト キーワード：ディストラクション、プレパレーション、痛み	林　華子
6	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅱ	内容：手術を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p132～p142を読む 復習：ミニテスト キーワード：子どもにとっての手術、姑息手術、根治手術、緊急手術、計画手術、日帰り手術、術前プレパレーション	林　華子
7	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅲ	内容：入院における子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p13～p20，p178～p183を読む 復習：ミニテスト キーワード：子どもにとっての入院、入院環境、事故防止、小児病棟、緊急入院、計画的な入院	林　華子
8	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅳ	内容：外来における子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p183～p188を読む 復習：ミニテスト キーワード：一次医療機関、二次医療機関、三時医療機関、トリアージ、小児初期評価トライアングル	林　華子
9	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅴ	内容：集中治療を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p188～p199を読む 復習：ミニテスト キーワード：PICU、NICUクリティカルな状況、コンプライアンス	林　華子
10	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅵ	ハイリスク新生児および医療処置を受ける新生児と家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p200～p210を読む 復習：ミニテスト キーワード：低出生体重児、ハイリスク新生児、先天異常、NICU、ディベロップ・メンタルケア	林　華子
11	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅶ	心身障がいのある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p210～p223，p226～p234を読む 復習：課題1「障がい児に起こりやすい健康障害と看護」 キーワード：身体障害、発達障害、重症心身障害児、障がい受容、ノーマライゼーション、デイケア、療育、特別支援学校、親の会	臼井　雅美
12	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅷ	内容：在宅における子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト① p217～p223，p235～245を読む 復習：ミニテスト キーワード：医療的ケア、小児等在宅医療連携拠点事業、機能強化型訪問看護ステーション、 レスパイト	臼井　雅美

13	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅸ	虐待を受けている子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p254～p261を読む 復習：ミニテスト キーワード：児童虐待、反応性愛着障害、リミットテスティング、デブリーフィング	臼井　雅美
14	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅹ	災害を受けた子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p261～p267を読む 復習：災害が子どもや家族に与える影響を考える。 キーワード：トラウマ、急性ストレス障害、PTSD、災害弱者、災害サイクル	臼井　雅美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本科目を履修するにあたり、発達看護論、小児看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療Ⅲの講義内容を復習して臨む。
この授業は子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康障害が子どもや家族にどのような影響を与えるのか、健康障害の経過の特徴と発達段階に応じた看護を学ぶため、講義時に配布した資料、テキスト内容を復習し、要点課題をまとめる。
復習として適宜、ミニテストを実施する。予習に1時間程度、復習に2時間程度費やす。
【学習上の留意点】
本科目は小児看護学概論をふまえて、子どもの健康障害にかかわるさまざまな状況が子どもやその家族に与える影響や生活、子どもの健康レベルに応じた看護について探求するものである。続く看護の基本技術Ⅴや小児看護学実習において看護を実践する上で必要な知識や技術を学ぶものであるため、授業の積極的な取り組みを期待する。

【７】　評価方法・基準

定期試験50%、課題レポート20%（課題1）、ミニテスト30%（12回）

【８】　フィードバック方法

課題レポートは返却する。ミニテストは次回の授業で正解を示し解説を行う。

【９】　教科書

①新体系看護学全書　小児看護学②健康障害をもつ小児の看護（第6版），小林京子・髙橋孝雄編，メジカルフレンド社，2019.（２年次春学期に購入）
②新訂版 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア アドバンス，鈴木康之・舟橋満寿子監修，インターメディカ，2020.

【10】　参考書

こどもの病気の地図帳，鴨下重彦・柳澤正義，講談社，2002.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおく科目：発達看護論、小児看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療Ⅲ
この科目に続く科目：看護の基本技術Ⅴ、ファミリーヘルス看護論、小児看護学実習

科目名(日本語)	**母性看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Maternal and Newborn Nursing	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp　林研究室（K329）				
オフィスアワー	金曜日授業終了後および16:20～18:00、林研究室（K329）、なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

母性看護学における対象の理解と看護の特徴や役割を理解するために、母性の身体的・心理社会的特徴、リプロダクティブヘルス／ライツ、母性看護のあり方を含む母性看護の基盤となる概念について、さらに、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。また、母性看護学領域における倫理的課題とその対応について、不妊女性に対する看護のあり方について学ぶ。

【３】　到達目標

１．母性看護学の対象者について説明できる
２．リプロダクティブヘルス/ライツの定義について説明できる
３．ウェルネスの概念について説明できる
４．我が国の周産期死亡率の推移についての概要を説明できる
５．母子の健康にかかわる法律を４つあげることができる
６．新健やか親子21の概要を説明できる
７．正常な性周期について説明できる
８．思春期女性の健康課題を取り上げ説明できる
９．成熟期女性の健康課題を取り上げ説明できる
10．不妊治療をめぐる倫理的課題を1つあげ説明できる
11．女性と胎児の権利について説明できる
12．倫理的意思決定の4つのプロセスを説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	母性看護学の概念／母性看護実践の基盤となる理論	内容 1．母性とは、 2．女性のライフサイクル 3．母性看護学における対象と母性看護学の目的 4．リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 5．ヒューマンセクショアリティ 6．ウェルネス 方法：講義 予習：p2～17，p19～26，p 27～32，p162～165を読むこと。 復習：母性の定義、母性看護学における対象と母性看護学の目的を整理し、記述する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ウェルネスについて整理し、記述する キーワード：母性，父性，ライフサイクル，母性看護学，助産学，リプロダクティブ・ヘルス/ライツ，　ヒューマンセクショアリティ，ウェルネス	林ひろみ
3・4	母子保健統計と社会資源	内容 1．母子の保健水準レベルに関する統計 2．母子保健に関する法律 3．母子保健に関する政策 4．母子保健に関する社会資源 方法：講義 予習：p34～p74を読むこと。 復習：周産期死亡率、新生児死亡率、妊産婦死亡率、合計特殊出生率の我が国の動向を整理する。自分の住む地域の母子保健に関する社会資源についてレポートする。 キーワード：女性の就業率，出生数，合計特殊出生率，周産期死亡率，新生児死亡率，妊産婦死亡率，母子保健法，母体保護法，労働基準法，男女雇用均等法，新健やか親子21，母子健康手帳，健康診査	林ひろみ
5・6	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(1)	内容 1．性周期とメカニズム 2．生殖器の形態と機能 3．ライフサイクルにおける生殖器の変化 方法：講義 予習：p86～92、p105～112を読むこと。 復習：性周期とメカニズムについてミニテスト キーワード：性周期，性ホルモン，受精，女性生殖器，男性生殖器	林ひろみ
7・8	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(2)	内容 1．思春期の女性の身体的、心理的特徴 2．思春期女性の健康課題 3．思春期女性への看護 方法：講義 予習：p166～181を読むこと。 復習：思春期女性の健康課題に対する援助について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：思春期女性，ボディイメージ，自立と依存，性行動，性感染症	林ひろみ
9・10	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(3)	内容 1．成人期の女性の身体的、心理的、社会的特徴 2．成人女性の健康課題 3．成人期女性への看護 方法：講義 予習：p182～211を読むこと。 復習：成人期女性の健康課題に対する援助方法について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：成人期女性，月経困難症，月経前症候群，不妊症，不育症，ドメスティックバイオレンス，家族計画，避妊，がん検診	林ひろみ
11・12	母性看護学領域における倫理的課題(1)	内容 1．母性看護学領域における母子の権利と擁護 2．倫理的意思決定プロセスを支える支援 方法：講義 予習：p126～146を読むこと。 復習：母性看護学領域における母子の権利と倫理的意思決定を支える支援について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：倫理原則，倫理綱領，女性・胎児の権利インフォームドコンセント，意思決定プロセス	林ひろみ
13・14	母性看護学領域における倫理的課題(2)	内容 1．不妊治療の実際 2．不妊女性とその家族の特徴と健康課題 3．不妊治療をめぐる倫理的課題と看護 方法：講義 予習：p192～197，p126～131，p247～250を読むこと。 復習：高度生殖補助治療を行う予定または、行った患者・家族に対して、どのような看護を実践したいと考えてているかを記述する。 キーワード：不妊症，不妊症カップル，検査，一般不妊治療，生殖補助医療，精子提供，卵子提供，代理出産，出自を知る権利	林ひろみ／ゲストスピーカー

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・この授業は、母性看護学の基本となる概念や看護の特徴および役割を理解するものであるため、予習1時間程度、復習1.5時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
・履修にあたり、新聞や周囲の人の体験に触れ、我が国あるいは世界における母性看護学の現在の動向に関心を寄せることにより理解を深める
・Moodleを用いた授業を行うため、理解を深めたい点においては教科書を活用し主体的に取り組むこと。またわからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

・定期試験75%・ミニテスト10%、課題レポート15%

【８】　フィードバック方法

・ミニテストは結果を返却する。課題レポートは内容に対して講評する。なおミニッツペーパーに記載された質問にフィードバックする。

【９】　教科書

・大平光子他編集：看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル，改定第2版，南江堂，2022

【10】　参考書

・その都度提示する

【11】　備考(関連科目等)

・発達看護論，母性看護学方法論，看護の基本技術Ⅵ，母性看護学実習

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅶ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅶ	必修	演習	春学期 2年	2単位 60時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代・島村敦子・菅谷綾子				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代　mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	研究室（K320）にて随時質問を受け付ける。また、東邦大学e-ラーニングシステムやメールでの質問も随時受け付ける。（鳥田美紀代　mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

老化あるいは疾病による機能障害をもつ高齢者に必要な日常生活援助を提供するための知識、技術を修得する。また、治療を有する高齢者の特徴とその看護について理解する。

【３】　到達目標

1. 高齢者の特徴をふまえたヘルスアセスメントの方法（情報収集・アセスメント・フィジカルイグザミネーション技術）を説明できる。
2. 高齢者の機能低下や障害の特徴と評価する方法を説明でき，一部の技術について模擬患者を対象に体験できる。
3. 高齢者の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について説明でき，一部の技術についてその影響をふまえて模擬患者を対象に体験できる。
4. 日常生活において高齢者の尊厳が脅かされやすい状況について知り、高齢者の尊厳を守るための具体的な方法について考察できる。
5. 日常生活において高齢者の安全が脅かされる場面について知り、その原因や高齢者の特徴を周囲の環境と関連付けて説明できる。
6. 高齢者の療養の場の多様性について知り、高齢者本人および介護者の視点から生活環境の工夫や改善点を考察することができる。
7. 高齢者の経済状況や社会参加の実態について知り、高齢者の生活を支えるための社会制度やインフォーマルな支援について調べることができる。
8. 高齢者の生活史を理解するための方法について知り、看護に活かす方法について考察できる。
9. 認知症を有する高齢者が抱える生活上の困難について、認知症の方の有する能力を活かすケアの考え方や方法について説明できる。
10. 認知症の方を介護する家族の実情を知り、必要な支援について自分の考えを述べることができる。
11. 機能障害を有する高齢者への生活リハビリテーションの視点について知り、看護師の役割と具体的な支援技術のポイントを説明できる。
12. 入院治療を受ける高齢者に起こりやすい機能低下や障害について知り、二次的な障害を予防する為の方法を説明できる。
13. 模擬事例を用いて、高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開のポイントが説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	ヘルスアセスメント技術（１）	内容： １．心身の加齢変化に関する基礎知識 ２．高齢者の症状の特徴 ３．高齢者の特徴や生活を踏まえた情報収集の方法 授業方法：講義、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：問診、観察、フィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメント、ＡＤＬ、ＩＡＤＬ、環境、高齢者総合機能評価	鳥田美紀代
3・4	ヘルスアセスメント技術（２）	内容： １．高齢者に起こりやすい機能障害の基礎知識 ２．事例を用いたアセスメント演習 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：障害高齢者の日常生活自立度、寝たきり、廃用性変化、褥瘡、低栄養	鳥田美紀代
5・6	動作・移動を支える技術（１）	内容： 1.高齢者の動作・移動の特徴と評価方法 2.高齢者に起こりやすい動作・移動に関連する機能障害をふまえた介助方法 授業方法：講義、動画の視聴、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：筋骨格系の障害、脳神経系の障害、活動耐性、ＡＤＬ	菅谷綾子
7・8	動作・移動を支える技術（２）	内容： １．動作、移動を支える福祉用具の基礎知識 2.福祉用具等を用いた動作、移動の介助方法 3.片麻痺のある高齢者の移動介助 授業方法：講義またはミニレクチャー・デモンストレーション・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：良肢位の保持、片麻痺、福祉用具、自立支援	菅谷綾子
9・10	日常的な尊厳を守る技術	内容： 1.高齢者の尊厳が脅かされやすい状況に関する基礎知識 2.日常生活において高齢者の尊厳を守るための具体的な支援方法 3.高齢者の尊厳を守る看護に関する考察 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：セクシュアリティ、高齢者虐待、身体拘束，アドボカシー，抑制しないケア	鳥田美紀代
11・12	安全を守る技術	内容： 1.高齢者に起こりやすい事故に関する基礎知識 2.事故につながりやすい高齢者側の要因 3.事故につながりやすい環境側の要因 4.安全を守るための具体的な工夫 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：必要に応じて後日指示する。 復習：小テストを実施する。 キーワード：転倒・転落、誤薬、リスクマネジメント、チーム、協働、看護記録	佐瀬真粧美
13・14	社会参加の支援	内容： 1.高齢者の経済状況や社会参加の実態 2.高齢者の社会参加を支える制度 3.高齢者が参加、活躍しやすい社会、コミュニティに関する考察 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：必要に応じて後日指示する。 復習：小テストを実施する。 キーワード：経済状態、社会参加、コミュニティ、雇用、社会制度	佐瀬真粧美
15・16	清潔・身だしなみ	内容： 1.高齢者が清潔・身だしなみを整える意義 2.清潔、身だしなみを整えることに関連する機能低下や障害の基礎知識 3.清潔・身だしなみを整えるための具体的な援助技術 授業方法：講義、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：皮膚管理、衣生活、自尊心感情、爪切り、皮膚掻痒症、白癬、疥癬症	島村敦子
17・18	食事・栄養（１）	内容： 1.高齢者の食事・栄養の基礎知識 2.高齢者の栄養状態・食事摂取状況・食事環境の評価方法 授業方法：講義またはミニレクチャー・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：誤嚥、低栄養、骨粗鬆症、治療食	鳥田美紀代

19・20	食事・栄養（２）	内容： １.摂食・嚥下障害を有する高齢者の機能評価 ２.摂食・嚥下障害を有する高齢者への食への支援 ３.経管栄養法を行っている高齢者への支援 授業方法：講義またはミニレクチャー・デモンストレーション・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：摂食、嚥下、誤嚥性肺炎、経管栄養法（経鼻栄養、胃ろう）	鳥田美紀代
21・22	活動と休息	内容： １.高齢者の活動と休息に影響する要因 ２.高齢者の活動と休息の評価方法 ３.高齢者の活動と休息のバランスを整える技術 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：睡眠、休息の質、リラックス、活動耐性	菅谷綾子
23・24	認知症（１） 当事者の視点からの理解	内容： １.認知症の基礎知識 ２.認知症を患う当事者の経験 ３.認知機能の低下が生活に及ぼす影響 授業方法：講義、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：対象理解、手記、生活上の困難、当事者の目線	鳥田美紀代
25・26	認知症（２）介護者への支援	内容： １.認知症介護の実態 ２.認知症の高齢者を介護する家族の実態 ３.認知症の高齢者を介護する家族への支援に関する考察 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：学修した内容を振り返り、整理する。 キーワード：家族介護者、介護困難、ＢＰＳＤ、介護の発展、在宅支援、地域包括ケア	菅谷綾子
27・28	認知症（３） 具体的な援助方法	内容： １.認知症の方を支援する際の基本的な考え方 ２.認知症の方への具体的な支援方法 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：国際生活機能分類（ＩＣＦ）、パーソンセンタードケア、リアリティオリエンテーション 、ユマニチュードケア、否定しないコミュニケーション	菅谷綾子
29・30	コミュニケーション技術（１）	内容： １． 高齢者のコミュニケーションの特徴 ２． コミュニケーションに影響する要因 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：身近な高齢者と電話で話す、またはコミュニケーションを想起し、気が付いたことをメモする（課題）。 復習：小テストを実施する。 キーワード：言語的・非言語的メッセージ、感覚器、言語能力、価値観、時代背景、援助関係	鳥田美紀代
31・32	コミュニケーション技術（２）	内容： １． コミュニケーション障害の疑似体験 ２． 高齢者の機能低下や障害に合わせたコミュニケーション方法 授業方法：講義、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：相互作用、体験学習、環境、言語障害	鳥田美紀代
33・34	排泄	内容： １.高齢者の排泄に関連する機能低下や障害の基礎知識 ２.排泄障害のタイプに合わせた具体的な支援方法 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：教科書の指定ページを読む。 復習： 小テストを実施する。 キーワード：排泄障害、環境調整、プライバシー、自尊感情、排泄ケア用品、福祉用具	島村敦子
35・36	入院・治療を受ける高齢者への看護	内容： １.入院・治療が高齢者に及ぼす影響 ２.急性期にある高齢者の特徴と看護の目標 ３.慢性期にある高齢者の特徴と看護の目標 ４.医療施設から次の療養の場所へ移行する際の支援 授業方法：講義、演習、課題レポート 予習：医療環境が高齢者に及ぼす影響を５つ挙げてくる（課題）。 復習：小テストを実施する。 キーワード：環境変化、環境適応、廃用症候群、せん妄、手術療法、点滴管理、内服管理、チーム医療、退院支援、家族支援、地域連携	佐瀬真粧美

37・38	生活環境を整える技術	内容： 1.高齢者の多様な療養の場についての基礎知識 2.高齢者の目線から、生活環境を考察する 3.介護者の目線から、生活環境を考察する 4.高齢者や介護者の目線から、生活環境を整える工夫について考察する 授業方法：講義、グループワーク 予習：自分の身の回りを観察し、高齢者にとって危険だと考えられる生活環境を3つ考える。 復習：小テストを実施する。 キーワード：住まい、環境、福祉用具、バリアフリー	島村敦子
39・40	生活の中でのリハビリテーション	内容： 1.生活リハビリテーションの考え方 2.生活リハビリテーションにおける看護の役割 3.高齢者の心身の廃用性変化を予防する支援方法 授業方法：講義、動画視聴、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テストを実施する。 キーワード：廃用症候群、関節可動域訓練、運動療法、療養生活の維持、療養生活の場の移行、機能低下の予防、生活意欲	島村敦子
41	高齢者の特徴を踏まえた看護過程展開	内容： 1.高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開に必要な知識 2.看護過程の展開に関する授業のオリエンテーション 授業方法：講義 予習：看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習して授業に望む。 復習：配布した資料や学習内容を振り返り，整理する。 キーワード：老年期の発達段階、加齢性変化、二次的障害の予防、個別性、生活歴・健康歴の活用、情報収集、アセスメント、看護課題の抽出、看護計画の立案、看護実践の評価	鳥田美紀代
42・43	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開：（1）事例紹介と情報の整理	内容： 1.事例の紹介 2.情報収集・整理 3.事例を理解するために必要な知識と学習方法の確認 授業方法：講義、グループワーク、課題レポート 予習：本授業第41回の内容や看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習して授業に望む。 復習：授業中に取り組んだ課題に引き続き取り組む。キーワード：生活歴、現病歴、暮らし，評価ツール	全員
44	高齢者の生活史	内容： 1.現代の高齢者の生きてきた時代背景 2.ヒストリー聴取の手法 3.生活史を看護に活かす方法に関する考察 授業方法：講義、課題レポート 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：生活史を看護に活かす効果について考察する。 キーワード：生活史、ライフレビュー、ライフヒストリー、インタビュー、時代背景、生活歴、健康歴	鳥田美紀代
45・46	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開：（2）アセスメント	内容： 1.情報と関連知識に基づく正常・異常の判断 2.情報と関連知識に基づく経過の予測 3.1・2に基づく看護の方向性の記述 授業方法：講義、グループワーク、課題レポート 予習：第41-44回の内容や看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習する。前回の課題を振り返り，整理して臨む。 復習：授業中に取り組んだ課題に引き続き取り組む。 キーワード：老年期の発達段階、加齢の影響、廃用性変化，個別性、多面的アセスメント、情報の統合	全員
47・48	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開：（3）看護上の課題・ニーズの抽出	内容： 1.アセスメントに基づく看護上の課題・ニーズの抽出と記述 2.看護の長期目標・短期目標の記述 3.看護上の課題・ニーズ同士の関連性の検討 4.看護上の課題・ニーズの優先順位の検討 授業方法：講義、グループワーク、課題レポート 予習：第41-46回の内容や看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習する。前回の課題を振り返り，整理して臨む。	全員
49	まとめテスト	内容：第1－40回の内容に関する知識の確認 授業方法：まとめテスト 予習：第1－40回の授業の内容と教科書の範囲を復習して臨む 復習：テストの内容について，知識の再確認をする。	鳥田美紀代他（全員）
50	まとめテストの振り返り	内容：まとめテストの内容の振り返り 授業方法：まとめテストの解説 予習：まとめテストの内容を振り返って臨む。 復習：まとめテストの結果をもとに、第1－40回で学修した内容について振り返る。	鳥田美紀代 他（全員）
51・52	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開：（4）看護計画の立案	内容： 1.看護計画の立案 2.同職種および多職種との連絡が必要となる事柄の整理 授業方法：講義、グループワーク、課題レポート 予習：第41-48回の内容や看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習する。前回の課題を振り返り，整理して臨む。 復習：授業中に取り組んだ課題に引き続き取り組む。 キーワード：個別性、多職種連携、看護の専門性・機能	全員

53	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開　（５）看護計画の実施・評価	内容： １.看護計画の実施 ２.対象者の状況に応じた看護計画の修正・実施 授業方法：講義、グループワーク、課題レポート 予習：第41-48,51,52回の内容や看護展開論など、関連する科目の既習内容を復習する。前回の課題を振り返り，整理して臨む。 復習：老年期の特徴と個別性を踏まえた看護計画立案のポイントについて整理する。 キーワード：個別性、看護計画の立案・実施・評価	全員
54	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開　（６）まとめ	内容： １.看護過程の展開のまとめ、教員からのフィードバック ２.看護計画の実施・評価・修正に関する自己の課題の整理 授業方法：講義またはミニレクチャー・演習 予習：第41-48,51-53回の学修内容を振り返り，提示された事例の状況に応じた看護計画を立案してくる。 復習：老年期の特徴と個別性を踏まえた看護過程の展開における自身の課題を整理する。 キーワード：個別性，看護技術の応用，看護の実施・評価・修正	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

［準備学習］
本科目は、既習科目で学修した内容を基盤として知識や技術を習得することを目指すため、関連科目の復習をして臨むこと。また、次回の授業に向けた予習を課している回では、課題に取り組んだ上で臨むこと。本科目の予習・復習にかかる時間は概ね1回につき1～1.5時間程度となっている。予習課題、復習課題については、授業時間中に説明するか、東邦大学e-ラーニングサイト（Moodle）またはアクティブアカデミーで周知する。
［学習上の留意点］
本科目は、各テーマについて授業内容が連動しているものが多く、科目の後半では複数の授業回にまたがり事例展開の知識と技術の習得を行う構成となっている。したがって、効果的な学習のために、できる限り時間割にそって学修をすすめ提出期限を守って課題を提出すること、全ての授業回に出席することを望む。
　なお、提出を求めた課題レポートは全体もしくは個別にコメントを返し、紙媒体で提出を求めたものは評価の後に返却する。

【７】　評価方法・基準

まとめテスト（50%）、課題レポート（20%）、小テスト（30%）

【８】　フィードバック方法

課題レポートについては、個別および全体に対してフィードバックを行う。
小テストについては、授業の時間内もしくは次の授業回、Moodle等で解説を行う。

【９】　教科書

看護学テキストNiCE 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する　改訂第3版、南江堂、2020.

【10】　参考書

新体系 看護学全書　老年看護②　健康障害をもつ高齢者の看護　第5版、メヂカルフレンド社、2021.

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論，専門基礎教養科目，看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ，臨床看護学概論，看護展開論，老年看護学概論，コミュニティヘルス看護概論，在宅看護学概論，看護倫理学，ターミナルケア，コミュニティヘルス看護展開論，看護の役割と実践の探求，看護管理論，看護哲学，チーム活動論，チーム医療演習，援助的人間関係論，機能障害のある患者の看護，周手術期看護・急性重症患者看護，がん看護・緩和ケア

科目名(日本語)	**在宅看護概論（2年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Home Care Nursing	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子				
科目責任者 連絡先(教室)	島村：Email;atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K313)				
オフィスアワー	授業終了後、1時間とする。場所は、各担当者の研究室とする（佐瀬K319, 島村K313)				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodle

【２】　授業概要

コミュニティヘルス看護の中で、特に在宅で生活する人々に対し、在宅という生活の場で提供される看護の基本的考え方を理解する。また、法的基盤と制度の概要について理解し、現在の在宅看護の現状や課題について考察する。
（佐瀬真粧美／５回）在宅看護における家族支援および多職種連携、倫理的課題
（島村敦子　／９回）在宅看護の基礎知識および在宅看護実践の展開方法と展望

【３】　到達目標

1. 在宅看護の対象者を挙げ、その特徴について述べることができる。
2. 在宅看護にかかわる制度を３つ以上挙げ、その概要について述べることができる。
3. 在宅看護が提供される場と、その場における看護の役割について述べることができる。
4. 在宅における看護過程の特徴を述べることができる。
5. 在宅看護における倫理的課題について述べることができる。
6. 在宅看護の課題と展望について論述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	在宅看護の概念	内容：在宅看護が必要とされてきた歴史と社会背景・在宅看護の定義と目的・在宅看護の対象と場 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：在宅看護の歴史、社会背景、在宅看護の対象、在宅看護の場、訪問看護の提供機関	島村　敦子
3・4	在宅看護における看護の役割	内容：在宅看護における看護の役割および多職種連携 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：医療の継続、多職種連携、チームアプローチ、地域連携、退院支援・退院調整	佐瀬真粧美
5	在宅看護における家族支援	内容：在宅療養者と家族との関係づくり 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：生活の質、関係形成、信頼関係、家族アセスメント、コミュニケーション、対人関係論、発達理論	佐瀬真粧美
6	在宅看護にかかわる制度	内容：介護保険制度の理解・医療保険制度の理解・障害者総合支援法の理解 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：介護保険制度、医療保険制度、各保険制度に基づく訪問看護サービスの対象、各保険制度の訪問看護報酬	島村　敦子
7・8	訪問看護活動	内容：訪問看護の目的・訪問看護制度・訪問看護ステーションの運営・管理 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：訪問看護、訪問看護ステーション、管理・運営	島村　敦子
9・10	在宅看護における看護の展開	内容：訪問看護師の基本姿勢と訪問看護活動の実際・在宅における看護展開の特徴 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：看護過程、在宅療養者、家族、在宅医療廃棄物	島村　敦子
11・12	在宅看護における看護の展開例	内容：在宅看護における特徴的な事例における看護過程の展開 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：多角的なアセスメント、看護過程、生活の場、価値観	島村　敦子
13・14	在宅看護における倫理的課題	内容：在宅看護における倫理的課題・倫理的葛藤 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：自己決定支援、多様な価値観、権利擁護、虐待、個人情報	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
看護入門実習Ⅰ、老年看護学概論、コミュニティヘルス看護概論の学習内容を復習し、提示されている学習内容について、テキストを参考に予習を行ってくること。この授業は、在宅看護に関連する幅広い知識の習得を目指すため、予習1時間程度、復習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなるので、授業への出席を重視する。

【7】　評価方法・基準

定期試験（80%）、小テスト（20%）

【8】　フィードバック方法

リアクションペーパーの内容を踏まえ、次回の授業の中で不十分な理解や質問ついてコメントする

【9】　教科書

看護学テキストNiCE　在宅看護論改訂第2版　自分らしい生活の継続をめざして；石垣和子・上野まり編集､南江堂

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、看護入門実習Ⅰ、老年看護学概論、老年看護学実習Ⅲ、コミュニティヘルス看護概論、看護の基本技術Ⅶ・Ⅷ、在宅看護実習

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Public Health Nursing	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	授業開講日授業終了後より1時間程度。質問等は講義内容に該当する教員の研究室を訪ねてください。 また、メールでも質問、相談を受け付けます。小板橋：emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp、上地：ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【2】　授業概要

公衆衛生看護活動の概念を学ぶ。公衆衛生看護活動の基盤となる理念を踏まえ、公衆衛生看護活動の場（地域・学校・産業）とその対象を理解し、公衆衛生看護活動のプロセスを学ぶ。
（小板橋恵美子／10回）公衆衛生看護の対象、公衆衛生看護のプロセス（展開方法）、学校保健、産業保健、歯科保健活動
（上地賢／4回）公衆衛生看護学の理念、地域における公衆衛生看護活動（行政による保健活動）
なお、公衆衛生看護活動の実際のいっそうの理解のために、ゲストスピーカーの講話を予定している。

【3】　到達目標

1.公衆衛生看護活動の基盤となる理念を説明できる。
2.公衆衛生看護の対象を説明できる
3.公衆衛生看護のプロセス（展開方法）を説明できる。
4.公衆衛生看護活動の場（地域・学校・産業）における活動の概要を説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	オリエンテーション・公衆衛生看護学の概念	内容：科目オリエンテーション（小板橋）、1. 公衆衛生看護学の理念（上地）、2. 公衆衛生看護の歴史（上地） 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：公衆衛生看護とは、公衆衛生看護の対象と場、社会状況、疾病構造、人口構造、公衆衛生関連法規、保健統計指標、健康、予防、プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション	上地賢、小板橋恵美子
3･4	行政機関における公衆衛生看護活動（1）	内容：1.保健行政のしくみ、2.保健所の保健活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：保健行政、国と地方自治体の役割、保健所、保健センター、保健所の保健活動：難病対策、精神保健、感染症対策、食品衛生、環境衛生	上地賢
5･6	行政機関における公衆衛生看護活動（2）、公衆衛生看護活動の展開（1）	内容：1.市町村保健センターにおける保健活動、2.市町村の高齢者福祉領域および地域包括支援センターの保健活動、3.公衆衛生看護活動のプロセス 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、地域包括ケアシステム、地域診断、PDCAサイクル、予算と事業	小板橋恵美子
7･8	行政機関における公衆衛生看護活動（3）	内容：千葉県における歯科保健活動からみた公衆衛生看護・看護職者の役割および展望 授業方法：講義（一部演習） 予習：キーワードについて教科書・国民衛生の動向で学習する。 事後課題：歯科口腔保健における看護職者の役割についてレポートする※ キーワード：口腔衛生、歯科衛生士、歯科口腔保健統計	小板橋恵美子、ゲストスピーカー
9･10	公衆衛生看護活動の展開（2）	内容：①家庭訪問②健康相談、③健康診査、④グループ支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：健康教育に関する復習（看護の基本技術Ⅸで既習済みのため、本授業では扱いません。必ず復習をしてください） キーワード：家庭訪問、健康相談、健康診査、スクリーニング、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、グループ支援	小板橋　恵美子
11･12	産業・学校分野における公衆衛生看護活動	内容：1.産業保健活動、2.学校保健活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：産業保健活動または学校保健活動に関する映像資料の視聴（授業終了時に案内します）※ キーワード：学校保健、養護教諭、学校環境衛生、産業保健、労働安全衛生	小板橋　恵美子
13･14	公衆衛生看護活動の展開（3）	内容：1.地域へのアプローチ①地区組織、②地域ケアシステム、③健康危機管理活動、2.公衆衛生看護を担う看護職者の役割・機能、3.公衆衛生看護を担う看護職者の役割・機能 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：組織化、協働（パートナーシップ）、健康危機、保健行動、行動変容、公衆衛生看護活動の根拠	小板橋　恵美子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、公衆衛生看護学の特徴を探求するために、関連する既習科目を復習して授業に臨んでください。特に同時期に開講されてる看護の基本技術Ⅸでの学びと関連づけながら、テキストを読んだり、授業に出てください。このために、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習･事後課題に合計2時間時間程度（平均）を費やします。
【学習上の留意点】
本科目の学修内容は、コミュニティヘルス看護学実習の基礎知識として必要となるため、全時間の出席をのぞみます。

【7】　評価方法・基準

定期試験70%、課題30%(※印が付された課題を対象として評価します)

【8】　フィードバック方法

提出されたミニッツペーパーに記載された質問や感想等に対して、次の講義でフィードバックします。

【9】　教科書

公衆衛生看護学.jp，荒賀直子他編，インターメディカル
その他必要な資料は適宜講義時またはMoodle上で配布します。

【10】　参考書

国民衛生の動向，厚生労働統計協会

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがある。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知する。

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅸ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅸ	必修	演習	秋学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	上地賢				
担当教員	上地賢・小板橋恵美子・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室（K316）への訪室、もしくは上地宛のメール（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp)にて連絡が可能である。メールを送信する際は、件名に「看護の基本技術Ⅸに関して」（に追加して必要な事項）との記載を求める。				
オフィスアワー	オフィスアワーは原則 水曜日 12：00-13：00とし、K316にて対応する。また、講義終了後に質問を受け付ける。予定に変更があった場合はその都度他の候補日時を連絡する。連絡はメールにて受け付ける（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

スマートフォン

【２】　授業概要

地域で生活する人々の健康課題を明らかにするための地域診断の意義と方法を理解し、地域特性に応じた支援計画の立案・実施・評価のプロセスについて、演習を通して具体的に学ぶ。また、地域で生活する人々が自らの健康課題を認識し、課題解決のために主体的に取り組む支援技術として、小集団を対象とした健康教育技術について演習を実施する。

【３】　到達目標

1. 地域診断に必要な情報の取得方法を説明することができる
2. 地域の統計指標や環境、社会状況に関する情報を地域診断モデルに基づいて整理することができる
3. 地域診断を行い解決の必要な健康課題を挙げることができる
4. 健康課題の解決に向けた、健康教育を計画することができる
5. 健康教育計画の目的とそれに沿った目標を設定することができる
6. 計画の目標に沿った、健康教育実施案を作成できる
7. 計画に対する評価指標を設定することができる
8. 立案した健康学習を他者と協力して実施することができる。
9. 健康学習の理論を学び、効果的な学びを支援する工夫について３つ以上論述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	公衆衛生看護と地区診断①	内容：公衆衛生看護を展開する上で必須となる地区診断について学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
2	公衆衛生看護と地区診断②	内容：公衆衛生看護を展開する上で必須となる地区診断について学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
3	コミュニティーアズパートナーモデル①	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルを学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、情報収集	全員（小板橋、植村、上地）
4	コミュニティーアズパートナーモデル②	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルを学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、情報収集	全員（小板橋、植村、上地）
5	情報収集①	内容：既存資料をあたり必要な除法を収集する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティ―アズパートナーモデル、量的情報、質的情報	全員（小板橋、植村、上地）
6	情報収集②	内容：既存資料をあたり必要な除法を収集する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティ―アズパートナーモデル	全員（小板橋、植村、上地）
7	情報収集③	内容：既存資料をあたり必要な除法を収集する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティ―アズパートナーモデル	全員（小板橋、植村、上地）
8	情報収集④（地区踏査）	内容：地域の実情を知る方法の一つとして地区踏査を計画、実施し、結果を報告する。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：地区踏査、質的情報	全員（小板橋、植村、上地）
9	情報収集⑤（地区踏査）	内容：地域の実情を知る方法の一つとして地区踏査を計画、実施し、結果を報告する。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：地区踏査、質的情報	全員（小板橋、植村、上地）
10	情報収集⑥	内容：収集した情報を持ち寄り整理する。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティ―アズパートナーモデル、量的情報、質的情報、地区踏査	全員（小板橋、植村、上地）
11	情報の分析①	内容：収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、上地）
12	情報の分析②	内容：収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、上地）

13	情報の分析③	内容：収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、上地）
14	情報の分析④	内容：収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、上地）
15	健康教育①	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、トランスセオリティカルモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
16	健康教育②	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、トランスセオリティカルモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
17	健康教育③	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、トランスセオリティカルモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
18	健康教育④	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、トランスセオリティカルモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
19	健康教育⑤	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、トランスセオリティカルモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
20	プレゼンテーション①	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
21	プレゼンテーション②	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
22	プレゼンテーション③	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
23	プレゼンテーション④	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
24	プレゼンテーション⑤	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）
25	プレゼンテーション⑥	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、上地）

26	地域看護活動の展開①	内容：地区診断のプロセス、結果をもとに地域看護活動の展開方法を振り返る 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの再学習 復習：これまでの講義内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員 （小板橋、植村、上地）
27	地域看護活動の展開②	内容：地区診断のプロセス、結果をもとに地域看護活動の展開方法を振り返る 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの再学習 復習：これまでの講義内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員 （小板橋、植村、上地）

【６】　事前・事後学習とその時間

本講義では各自の予習内容をもとにグループワークを行い、その結果を踏まえた復習が必要となる。目安として、予習1時間程度、復習1時間程度を要する。また各回の終了時に学んだこと、演習内容での困難や質問、感想等を5分程度で記入したミニッツペーパーの提出が求められる。ミニッツペーパーに記載された質問には次回以降の講義時に回答・コメントする。
予習：事前配布資料（文献、動画等）の熟読
復習：グループワークに参加して得た学習内容をもとに、演習で行った地域診断のプロセスに対する個人の考察をまとめる。

【７】　評価方法・基準

レポートもしくは期末テスト（80%）、ミニテスト（20%）
ミニテストとしてグループ毎に健康教育の発表を行う。

【８】　フィードバック方法

健康教育の発表に対して事前に定めた評価指標に基づいて教員により内容を評価、講評する。

【９】　教科書

公衆衛生看護学. jp（インターメディカル）

【10】　参考書

コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（医学書院）
地域看護診断（東京大学出版）

【11】　備考(関連科目等)

学ぶとよい科目：千葉県の地域医療（自由科目）、コミュニケーション論、プレゼンテーション論、組織論
続く内容の科目：コミュニティヘルス看護展開論、コミュニティヘルス看護実習、公衆衛生看護学概論、その他公衆衛生看護学講義全般（保健師コース）

科目名(日本語)	**老年看護学実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Gerontological Nursing PracticumⅠ	必修	実験・実習	秋学期 2年	2単位 90時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代・菅谷綾子				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　K320（研究室10）				
オフィスアワー	実習中の連絡先・方法は，実習オリエンテーションの際に指示する。その他については，随時受け付けるが，可能な限り事前にメール等で連絡すること（科目責任者のメールアドレス：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）。また、学内日は、終了後1時間程度、適宜質問等を受け付ける。なお、臨地実習時にはオリエンテーションで提示する各施設の担当教員の実習用携帯電話・メールアドレスに連絡すること。担当教員に連絡がつかない場合や科目全体に関わる内容については科目責任者の実習用携帯電話・メールアドレスに直接連絡してもかまわない。実習用携帯電話・メールは、実習中のみ使用可能である。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

急性期における治療を終え、長期的な療養生活や在宅（施設を含む）に戻る準備を必要とする高齢患者への看護実践に必要な知識、技術、態度を習得する。高齢患者とその家族の全体像をとらえ、看護課題の一部について看護計画の立案を行い、スタッフまたは教員の指導の下に実践、評価を行う。その過程において、高齢者を尊重する姿勢と、ともに協力し合う専門職との連携の姿勢を学び、看護職としての役割を理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

① 高齢患者の治療・療養の場の一つである医療施設における看護実践を通して、高齢者の特徴やその人らしさに関心を持ち、それに応じた看護のあり方を説明できる。
② 医療施設における検査、治療、リハビリテーション、長期的な療養支援を受ける高齢者の身体・心理・社会的状況を理解し、状況に応じた看護の展開を説明できる。
③ 医療施設における他職種の役割を理解し、チーム医療における看護の役割・機能について説明することができる。
④ 医療施設に入院する高齢者を尊重する姿勢と、協力し合う専門家との連携の姿勢を身に着け，高齢者への基本的な援助技術を指導の下に実施することができる。
⑤ 地域包括ケアシステムにおける医療施設の機能や看護の役割ついて考察できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習施設・授業方法	目標を達成するための詳細な学修内容は，老年看護学実習Ⅰの実習要項に示す。 【実習施設】 医療法人社団淳英会　おゆみの中央病院 一般社団法人巨樹の会　千葉みなとリハビリテーション病院 船橋市立リハビリテーション病院 医療法人社団一心会　初富保健病院・初富保健病院介護医療院 【授業方法】 グループごとに2週間の実習を行う。 高齢患者を受け持ち、看護過程を展開する。 テーマを設定してカンファレンスを行う。 受け持った高齢者への看護の方向性や支援内容について指導者を交えたカンファレンスを行う。	全員
	予習・復習、キーワード	【予習・復習】 既習科目で修得した知識を活用しながら実習をすすめるため，予習・復習に各1時間～1.5時間程度を要する。実習開始前に以下の項目について既習の講義資料等を振り返り整理しておくこと。 ・一般病棟，地域包括ケア病棟，回復期リハ病棟、介護医療院の特徴 ・高齢者の特徴を踏まえたヘルスケアアセスメント技術 ・高齢者の特徴に配慮した日常生活援助技術 【キーワード】 看護過程の展開，日常生活援助技術，地域包括ケア病棟，回復期リハ病棟，介護医療院，リハビリテーション看護，生活者，在宅移行支援，家族看護，多職種連携	全員
	臨地実習＜実習1日目＞	【臨地実習】 ＜実習１日目＞ ・臨地オリエンテーション ・受け持ち高齢者への自己紹介・情報収集	全員
	臨地実習＜実習2~4日目＞	＜実習２日目～４日目＞ ・受け持ち高齢者の情報収集／アセスメント／看護の方向性の検討・一部の課題に対する計画の立案 ・指導の下で看護援助の実施・評価 ・受け持ち高齢者に対する日常生活援助への参加 ・テーマカンファレンス（1～３日目） ・ケースカンファレンス（4日目）	全員
	学内実習＜実習5日目＞	【学内実習】 ＜実習５日目＞ ・受け持ち高齢者の全体像の整理・理解	全員
	臨地実習＜実習～10日目＞、＜実習9~10日目＞	＜実習６～10日目＞ ・受け持ち高齢者の情報の整理／アセスメント／看護計画の立案 ・看護計画に沿った看護実践の体験・評価（模擬患者等への実施と評価も含む） ＜実習9～10日目＞：学内まとめ・自己学習 ・グループディスカッション ①医療施設における高齢者や家族の生活やその人らしさを尊重した看護 ②医療施設から在宅への移行支援における看護の役割 ・実習のまとめ／学生の自己評価 ・継続する学習課題の整理のための面接 ＊実習記録、課題レポートの提出日は後日指示する。 評価後に返却する。	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

［準備学習］
既習の関連科目を復習し，資料等を活用しやすいように整理しておくこと。この授業は，既習の関連科目で得た知識を実習で活用するために，予習1時間程度，復習1.5時間程度を費やす。
［学習上の留意点］
本科目は，実際に臨床の場におもむき，入院中の高齢者やその家族の理解と協力のもとで学習の機会を得られるものである。したがって，高齢者やその家族に対する看護学生としての責任を自覚し，尊重する態度に留意すること。また，教員の指示に従って健康管理や感染予防行動の遵守、予防接種などの感染予防対策を講じ，学生自身の体調管理に十分注意して臨むこと。なお、実習前に行う学内オリエンテーションに必ず参加すること。

【7】　評価方法・基準

実践内容（理解力、考察力、コミュニケーション力、援助計画・実施・評価、記録）60%、　学習者としての態度・高齢者にかかわる際の倫理的態度 20%、最終レポート 20%
フィードバック方法：実践内容や学習者としての態度，高齢者にかかわる際の倫理的態度については，臨地や学内における個別面接でコメントを返す。最終レポートについては，到達目標の達成に向けた視点から更に考察を深める必要がある個所について個別にコメントして学生に返却する。また，実習最終日に全体講評をする。
本科目は，実際に臨床の場におもむき，入院中の高齢者やその家族の理解と協力のもとで学習の機会を得られるものである。したがって，高齢者やその家族に対する看護学生としての責任を自覚し，尊重する態度に留意すること。また，教員の指示に従って健康管理や感染予防行動の遵守、予防接種などの感染予防対策を講じ，学生自身の体調管理に十分注意して臨むこと。なお、実習前に行う学内オリエンテーションに必ず参加すること。

【8】　フィードバック方法

フィードバック方法：実践内容や学習者としての態度，高齢者にかかわる際の倫理的態度については，臨地や学内における個別面接でコメントを返す。最終レポートについては，到達目標の達成に向けた視点から更に考察を深める必要がある個所について個別にコメントして学生に返却する。また，実習最終日に全体講評をする。

【9】　教科書

適宜資料を配布する。

【10】　参考書

パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド（照林社）

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論，専門基礎教養科目，看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ，臨床看護学概論，看護展開論，老年看護学概論，コミュニティヘルス看護概論，在宅看護学概論，看護倫理学，ターミナルケア，コミュニティヘルス看護展開論，看護の役割と実践の探求，看護管理論，看護哲学，チーム活動論，チーム医療演習，援助的人間関係論，機能障害のある患者の看護，がん看護・緩和ケア

科目名(日本語)	**老年看護学実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Gerontological Nursing PracticumⅡ	必修	実験・実習	秋学期 2年	1単位 45時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬：masami.sase@hs.toho-u.ac.jp、または実習用携帯（携帯番号はオリエンテーションの時に知らせる）。				
オフィスアワー	臨地では終了後1時間対応とする。学内のまとめの際には、当日Ⅸ限終了時まで、K319研究室で対応する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する。

【２】　授業概要

急性期病院で治療を必要とする高齢者への看護について考察する。また、急性期病院で認知症看護認定看護師として実践をしている看護師の活動あるいは病棟看護師が実践している認知症看護に触れることにより、急性期病院における認知症患者の看護について知り、その役割や活動、認知症看護の課題について考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.急性期病院に入院している高齢者や認知症患者が入院生活を送る上での課題を多面的に述べることができる。
2.急性期病院に入院している高齢者や認知症患者への検査、治療に伴う看護を行う時の配慮について述べることができる。
3.急性期病院に入院している高齢者や認知症患者への基本的な援助技術を述べることができる。
4.急性期病院に所属する認知症看護認定看護師の役割、活動を知り、認知症看護を実践していくための課題について考察することができる。
5.高齢者や認知症患者の権利・尊厳、倫理的支援の重要性を説明することができる。
6.急性期病院における高齢者看護を実施するために必要な専門職としての姿勢・態度を身につけることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	詳細な学修内容は、老年看護学Ⅱの実習要項に示します。 老年看護学実習ⅠⅡⅢの全体オリエンテーションの中で、実習内容の概要を説明する。 ＊老年看護学実習Ⅲの実習方法により、直前オリエンテーションを行うこともある。	全員
	実習概要	＜実習1日目＞ 午前：病棟オリエンテーション ＊認知症看護認定看護師の役割 （調整により、事前のスケジュールに変更することあり） 午後：病棟実習 ・急性期病院に入院している高齢者の治療・処置・生活について参加観察、あるいは、病棟看護師とともにできるケアを実施 ＜実習2日目 ＞ ・シャドウイングをしながら主に担当する高齢者へのかかわり ・病棟看護師とともに可能なケアを実施 ＜実習3日目 ＞ ・シャドウイングをしながら主に担当する高齢者へのかかわり ・病棟看護師とともに可能なケアを実施 ＜実習4日目＞ ・シャドウイングをしながら主に担当する高齢者へのかかわり ・病棟看護師とともに可能なケアを実施 ・病棟カンファレンス ＜実習5日目：学内＞ ・課題に添って学んできたことについてディスカッションを行い、グループごとに発表する。 ・まとめ ＜実習6日目：学内＞ ・記録等提出物を作成し、提出する。	全員
	実習方法	オリエンテーション、施設内実習、カンファレンス、グループワーク、発表、課題レポート	
	予習・復習・キーワード	予習：これまで学習してきた内容を再度確認し、翌日実施可能な看護技術について自己学習をしておく。 復習：実習上で、きいたこと、みたこと、五感を使って集めた看護にかかわる情報をその日のうちに記録にまとめるため、最低1時間程度の振返りが必要と思われる。 キーワード：急性期病院、高齢者、認知症高齢者、入院生活、患者理解、権利・尊厳、倫理的支援、認知症看護認定看護師	
	実習施設	東邦大学医療センター大橋病院	

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。翌日に必要になる知識の予習1時間程度、その日のまとめに1時間程度かかる。
【学習上の留意点】
本科目は、病院という場をお借りして学修するものである。従って服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、学生であるという自覚を持ち行動すること。また、確実に実習記録などの管理を行うこと。

【７】　評価方法・基準

実践内容　記録（観察力、理解力、考察力、コミュニケーション力、倫理的態度）60%、学習者としての態度 20%、最終レポート 20%。

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、実習場におけるカンファレンス、最終日のまとめにおける全体講評、提出記録・レポートへのコメントにて行う。

【９】　教科書

資料を適宜配布する。

【10】　参考書

老年看護学実習Ⅰの参考書『パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド（照林社）』
看護学テキストNiCE 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する　改訂第3版、南江堂、2020.

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論，プレゼンテーション論，専門基礎教育科目，看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ，臨床看護学概論，看護展開論，老年看護学概論，コミュニティヘルス看護概論，在宅看護学概論，看護倫理学，コミュニティヘルス看護展開論，看護の役割と実践の探求，看護管理論，看護哲学，チーム活動論，援助的人間関係論，機能障害のある患者の看護，老年看護学実習Ⅰ・Ⅲ

科目名(日本語)	**老年看護学実習Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Gerontological Nursing PracticumⅢ	必修	実験・実習	秋学期 2年	1単位 45時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子				
科目責任者 連絡先(教室)	島村（Email;atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp，研究室番号K313）または、実習用携帯（携帯番号は実習要項に記載する）。				
オフィスアワー	学内日は、終了後1時間。科目責任者（島村）宛てに、随時メール（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）または、実習用携帯（携帯番号は実習要項に記載する）に連絡。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

介護老人保健施設における実習を通して、利用している高齢者の健康や障害と生活状況の関連について理解する。また、その高齢者を支える施設の役割、機能を理解するとともに、高齢者に提供されている介護・看護を理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 介護老人保健施設の役割、機能を説明できる。
2. 介護老人保健施設を利用している高齢者の健康や障害と日常生活への影響について説明できる。
3. 実習指導者の下に、介護老人保健施設における高齢者への介護・看護に参加できる。
4. 介護老人保健施設における介護・看護について考察できる。
5. 介護老人保健施設で活動する他職種の役割について理解し、チームアプローチおよびチームの協働について考察できる。
5. 介護老人保健施設に入所する高齢者を尊重する姿勢と、連携・協力し合う専門家から学ぶ姿勢を持って実習に取り組み、高齢者へのケアをする専門職としての態度で実習を行うことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	【オリエンテーション】	詳細な学修内容は、老年看護学実習Ⅲの実習要項に示す。 老年看護学全体オリエンテーション	全員
実習	【実習方法】	授業方法】 オリエンテーション、施設内実習、カンファレンス、グループワーク、発表、レポート 【実習1日目】：各施設 午前：各施設でオリエンテーション 　　オリエンテーション終了後より、フロアにて実習を開始する 【実習2～4日目】：各施設 ・施設職員と共に高齢者にかかわる ・実習期間内に行われる施設のプログラムに参加する。 ・実習中は、看護職以外の職種の職員の活動についても積極的に観察する ・日々のカンファレンスでは、施設指導者、教員を交え、各々の学生が学んだことを共有するとともに、疑問点について話し合う。 ・実習4日目には、施設指導者、教員を交え、まとめのカンファレンスを行う。 【実習5～6日目】：学内 ・異なる施設で実習した学生と共に実習での学びについてグループディスカッションを行う ・グループディスカッションの内容を発表し、共有する ・記録等提出物を作成し、提出する。 ・必要に応じて、個人面接を実施する。	全員
	【予習・復習・キーワード】	予習：これまで学習してきた内容を再度確認する 復習：実習施設における学びは、その日のうちに記録にまとめる。そのため、振り返りの時間には、最低1時間程度が必要になる。 キーワード：介護老人保健施設、高齢者、老化による機能の変化、多職種連携、介護老人保健施設における高齢者看護、生活リハビリテーション、療養の場の移行、施設ケアの特徴と課題、権利・尊厳、倫理的支援	全員
	【実習予定施設】	介護老人保健施設　リハビリケア船橋 介護老人保健施設　ケアセンター習志野 介護老人保健施設　晴山苑 介護老人保健施設　はさま徳洲苑	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。翌日に必要になる知識の予習1時間程度、その日のまとめに1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
入所中の高齢者やその家族、施設スタッフの理解と協力のもとに実習は行われる。従って実習中の服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、看護学を学ぶ学生としての自覚を持ち行動すること。また、学習活動上知り得た入所者と家族の情報、実習記録などの管理を行うこと。

【７】　評価方法・基準

実習目標の達成状況（60%），学習者としての態度（20%），最終レポート（20%）
＊最終レポートはMoodle上で提出する。

【８】　フィードバック方法

学内実習最終日に全体を講評する。

【９】　教科書

資料を適宜配布する。

【10】　参考書

パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド（照林社）
看護学テキストNiCE 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する　改訂第2版、南江堂、2016

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論，プレゼンテーション論，専門基礎教育科目，看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ，臨床看護学概論，看護展開論，老年看護学概論，コミュニティヘルス看護概論，在宅看護概論，看護倫理学，コミュニティヘルス看護展開論，看護の役割と実践の探求，看護管理論，看護哲学，チーム活動論，援助的人間関係論，機能障害のある患者の看護，老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

科目名(日本語)	**薬剤学（今年度開講なし）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pharmaceutical Sciences	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	石井敏浩				
担当教員	野口修治・石井敏浩				
科目責任者 連絡先(教室)	野口：薬学部薬剤学教室（薬学部C館C-712）、shuuji.noguchi@phar.toho-u.ac.jp 石井：薬学部実践医療薬学研究室（薬学部C館C-607）、ishii@phar.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義終了後に質問を受け付ける。メールでの質問も受け付ける。 オフィスアワー　野口　科目開講日の13:00-16:00 オフィスアワー　石井　科目開講日翌日の13:00-15:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

薬物が人体に適切かつ有効に作用するためには、その目的に合った形状と機能を満たす「製剤」にする必要がある。そこで本科目では、固形剤、半固形剤、液剤などの剤形（製剤のかたち）や投与経路とその特徴について学び、薬物療法の有効性，安全性，信頼性の根拠となることを理解する。また、薬害問題や治験などを学び、最適な薬物療法と患者のQOLについて考える契機とする。
（野口修治／4回）医薬品の各種剤形や投与経路の特徴など
（石井敏浩／4回）薬害問題、治験、新薬とジェネリック医薬品など

【３】　到達目標

1.代表的な固形製剤の特徴について説明できる。
2.代表的な液状製剤と半固形製剤の特徴について説明できる。
3.代表的な投与経路と剤形との関係について説明できる。
4.代表的なDDS技術について1つ以上説明できる。
5.薬害の定義について説明できる。
6.代表的な薬害の具体例を2つ以上説明できる。
7.薬害防止対策について2つ以上説明できる。
8.医薬品開発の2段階（非臨床試験、臨床試験）について説明できる。
9.治験を含む臨床研究など、人間を被験者とする医学系研究に係る倫理規範の変遷について3つのキーワードを用いて説明できる。
10.後発医薬品（ジェネリック医薬品）の社会的意義について2つ以上説明できる。
11.後発医薬品（ジェネリック医薬品）と先発医薬品の違いについて2つ以上説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	製剤(1)	内容：薬物の固体物性、代表的な製剤（1） 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード： 製剤化、溶解、結晶、粉体、錠剤	野口　修治
2	製剤(2)	内容：薬物溶液・乳液・懸濁液の物性、代表的な製剤（2） 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：カプセル剤、乳剤、懸濁剤、半固形製剤	野口　修治
3	製剤(3)	内容：代表的な製剤（3） 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：粘膜・皮膚に適用する製剤、注射剤、肝初回通過効果	野口　修治
4	製剤(4)	内容：ドラッグデリバリーシステム 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：経皮吸収治療システム	野口　修治
5	薬害	内容：薬害の定義と代表的な薬害例の原因・薬害防止対策 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：副作用、健康被害、社会問題化、瑕疵と不作為	石井　敏浩
6	新薬の開発	内容：医薬品（新薬）が世に出るまで 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：非臨床試験、臨床試験、治験、治験審査委員会	石井　敏浩
7	治験	内容：人間を被験者とする医学系研究に係る倫理規範 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：ニュールンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、患者の権利、インフォームドコンセント	石井　敏浩
8	後発医薬品（ジェネリック医薬品）	内容：後発医薬品（ジェネリック医薬品）の意義と課題 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：生物学的同等性、薬価、国民医療費	石井　敏浩

【6】　事前・事後学習とその時間

シラバスに記載した項目を確認しておくこと。また、事前にMoodleに掲載された講義資料で予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。この授業は薬物療法について幅広く理解するよう構成しているため、予習30分程度、復習30分程度が必要とされる。
毎回の授業終了時（授業中）に、学習内容の振り返りや復習を目的に小テストを実施する。
授業で得た知識をもって医薬品に関わる社会的事柄を自ら考え、看護師として求められる知識・技能・態度の修得に向けて意識を高めること。

【7】　評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト（30%）

【8】　フィードバック方法

授業中に実施した小テストは、次回の授業で返却し、解答ならびに課題の中の特徴的な見解についてコメントする。

【9】　教科書

講義資料（ハンドアウト）をMoodleに掲載する。

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

薬理学、微生物学、生化学、看護の基本技術Ⅲ

科目名(日本語)	**法学（日本国憲法を含む）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Jurisprudence	選択	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	平賀秀明				
担当教員	平賀秀明・松尾和廣・藤枝正輝・高橋和広				
科目責任者 連絡先(教室)	薬事法学研究室：薬学部C館602室 E-mail：hiraga-hideaki@phar.toho-u.ac.jp （件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	個々の講義に関する質問等は担当教員まで、科目全体に関する質問等は平賀まで 【平賀】月～金（10～17時）に研究室（薬学部C館602室）にて対応する。 【高橋】火曜日午前に研究室（理学部V号館5510室）にて対応する。 【松尾】月～金（10～18時）に研究室（薬学部C館612室）にて対応する。 【藤枝】月～金（10～17時）に研究室（薬学部C館510室）にて対応する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

日本国憲法を始め日本の実定法について学修する。また、医療・介護分野に貢献するために必要とされる法を学び、看護師の役割・責任について学修する。さらに、医療過誤裁判事例から看護師の役割・責任やリスクマネージメントについて理解を深める。

【３】　到達目標

1. 日本の法体系について説明することができる。
2. 立憲主義について説明することができる。
3. 基本的人権の概念について説明することができる。
4. 日本の統治機構の仕組みについて説明することができる。
5. 医療従事者の法的責任と倫理的責任について説明することができる。
6. 基本的人権と医療の理念の関係について説明することができる。
7. 看護師と他の医療従事者の業務について説明することができる。
8. 医療過誤裁判事例から、看護師の役割と責任を考察することができる。
9. 医薬品、医療機器等の取り扱いについて説明することができる。
10. 予防接種法の概要を説明することができる。
11. 介護保険法の概要を説明することができる。
12. 公的医療保険の概要を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	授業ガイダンス 憲法（1）憲法とは何か	内容・授業ガイダンス ・日本国憲法の全体像 ・憲法と他の法律との関係 授業方法：講義 予習：日本国憲法における3大原理について調べること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：日本国憲法、最高法規	平賀秀明 高橋和広
2	憲法（2）最高法規としての憲法	内容・最高法規性の条件 ・違憲審査について ・憲法改正 授業方法：講義 予習：憲法の条文に目を通しておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：違憲審査制、硬性憲法、法の下の平等	高橋和広
3	憲法（3）立憲主義と基本的人権	内容・憲法の名宛人 ・社会契約論について ・国民の義務 授業方法：講義 予習：日本国憲法に記された国民の義務について調べること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：自然権、憲法尊重擁護義務、権力分立	高橋和広
4	憲法（4）信教の自由	内容・信教の自由 ・宗教改革 ・自由主義 授業方法：講義 予習：宗教改革の歴史を復習すること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法20条1項、剣道受講拒否事件、宗教改革	高橋和広
5	憲法（5）政教分離	内容・政教分離 ・公私二分論 ・寛容の精神 授業方法：講義 予習：アフガニスタンに関するニュースに目を通すこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法20条3項、自由主義、現代における不寛容	高橋和広
6	憲法（6）家族と憲法	内容・家族法における人権 ・法律上の親子関係 ・夫婦同氏 授業方法：講義 予習：夫婦同氏に関するニュースに目を通すこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：夫婦同氏、民法750条、憲法14条、憲法24条、代理母、認知	高橋和広
7	憲法（7）再婚禁止期間	内容・再婚禁止期間違憲判決 ・婚姻(再婚)の自由 ・嫡出推定 授業方法：講義 予習：再婚禁止期間違憲判決に関するニュースに目を通すこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：二重の推定、DNA鑑定、民法733条、憲法14条、憲法24条	高橋和広
8	憲法（8）表現の自由と名誉毀損	内容・憲法における名誉保護 ・表現の自由と名誉の衝突 ・ラーメンチェーン店名誉毀損事件判決 授業方法：講義 予習：名誉毀損が争われたニュースについて調べること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法13条、憲法21条、人格権	高橋和広
9	憲法（9）プライバシー	内容・プライバシー ・表現の自由とプライバシーの対立 ・検索結果削除請求事件 授業方法：講義 予習：ネット上のプライバシーに関するニュースについて調べること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法13条、新しい人権、検索エンジン、忘れられる権利	高橋和広
10	医療従事者の法的責任と倫理的責任	内容・法と倫理 ・医療と人権について ・刑法概論（犯罪と業務上過失） ・民法概論（債務不履行・不法行為と損害賠償） ・行政法概論（看護師免許に関する処分） 授業方法：講義 予習：基本的人権（3回目講義）について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、インフォームド・コンセント、医療過誤、犯罪、過失、業務上、債務不履行、不法行為、損害賠償、行政処分、看護師免許	平賀秀明

		処分、看護師免許	
11	医療従事者の法的責任と倫理的責任	同上	平賀秀明
12	医療法概論	内容・医療の理念 ・医療の担い手について ・医療安全に関する規定 ・医療施設の基本的な定義 ・病院の管理者と従事者 授業方法：講義 予習：基本的人権（3回目講義）、医療と人権（10、11回目講義）について復習し、理解を深めておくこと。看護師に関係する医療倫理等について調べておくこと。 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、医療の理念、医療安全、病院、診療所、助産所、病床、管理者	平賀秀明
13	医療法概論	同上	平賀秀明
14	看護師と他の医療従事者	内容・看護師の業務 ・医師・薬剤師の業務と看護師との関係 授業方法：講義 予習：看護師・医師・薬剤師の具体的な業務を調べておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：保健師助産師看護師法(保助看法)、医師法、薬剤師法、医業、診療の補助、療養上の世話、調剤業務	平賀秀明
15	看護師と他の医療従事者	同上	平賀秀明
16	医療従事者と個人情報保護	内容・個人情報とは何か ・刑法上の守秘義務 ・保助看法における守秘義務 ・個人情報保護に関する法律 ・医療及び介護における個人情報の取り扱い 授業方法：講義 予習：基本的人権（3回目講義）、医療と人権・刑法概論（10、11回目講義）、医療の理念（12、13回目講義）等について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：個人情報、守秘義務	平賀秀明
17	法律の視点から看護師の責任について考えてみよう！！	内容・看護師が関係した医療過誤裁判事例の考察 授業方法：グループワーク・発表 予習：1から9回目の講義等について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、医療過誤、犯罪、過失、業務上、債務不履行、不法行為、損害賠償、行政処分、看護師免許、医療安全	平賀秀明
18	薬事関係法規（1）	内容・医薬品、医療機器等の定義 ・医薬品の販売制度 ・医薬品が世に出るまでの過程 授業方法：講義 予習：医師・薬剤師の業務と看護師との関係（14、15回目講義）についてについて復習し、理解を深めておくこと。また、自身の使用している医薬品・医薬部外品・化粧品等の容器等に記載されている説明文書にどの様なことが記載されているかを調べてくること。 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：医薬品医療機器等法、医薬品、薬局、販売業、承認制度、製造業、製造販売業	平賀秀明
19	薬事関係法規（1）	同上	平賀秀明
20	薬事関係法規（2）	内容・麻薬、向精神薬、覚せい剤の処方と取り扱い ・医薬品副作用被害救済制度 授業方法：講義 予習：医師・薬剤師の業務と看護師との関係（14、15回目講義）、医薬品、医療機器等の定義（18、19回目講義）について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、麻薬、向精神薬、麻薬処方せん、向精神薬処方せん、麻薬及び向精神薬関連免許、覚醒剤、医薬品副作用被害救済制度	平賀秀明
21	薬事関係法規（2）	同上	平賀秀明
22	予防衛生法規	内容・予防接種法 ・感染症の予防及び感染症の患者に関する法律（以下、感染症等法） 授業方法：講義 予習：予防接種の対象となる感染症やそのワクチン等について調べてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：予防接種法、予防接種、Ａ類・Ｂ類疾病、定期予防接種、勧奨予防接種、健康被害の救済、感染症等法、感染症の分類、指定機関	松尾和廣
23	予防衛生法規	同上	松尾和廣

24	介護保険	内容・介護保険の必要性 ・保険者と被保険者 ・介護認定制度 ・介護支援専門員の業務及び資格取得 ・サービスの選択と要否 ・老人福祉法に規定される施設 ・介護保険法で定める介護施設と対象者とサービス ・地域による取り組みの必要性と現状 授業方法：講義 予習：介護における看護師の役割について考えてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：介護保険、保険者、被保険者、認定制度、要支援、要介護、介護支援専門員、保険給付、自己負担金、特定施設、看護専用型特定施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、サービス	藤枝正輝
25	介護保険	同上	藤枝正輝
26	医療保険	内容・国民医療費の概要 ・公的医療保険と医療の本質 ・後期高齢者医療制度 ・療養の給付について 授業方法：講義 予習：医療経済に関する問題点等について調べてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：国民医療費、健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度、保険者、被保険者、療養の給付	平賀秀明
27	医療保険	同上	平賀秀明

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】授業内容の把握及び理解のために、1時間程度の予習と2時間程度の復習を要します。
【学習上の留意点】専門基礎教育科目（社会保障制度）等と一部重複する講義がある。それらの科目の指定教科書等を参考にして良い。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、課題（30%）及び日々の学習状況（10%）により評価する。
・定期試験：憲法以外の講義内容を範囲とする（マークシート方式で実施）。
・課題：憲法に関するレポート（詳細は講義中等に連絡）。
・日々の学習状況：17回目の講義時（講義の進行により前後）に看護師の責任に関するグループワーク・発表を行う。このグループワーク・発表は、1～16回目の講義に関連した内容であり、復習しているか・グループワークに積極性に参加しているか等を総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

・定期試験：解答のみMoodleで公開する（解説は公表しない）。各自授業資料等を用いて復習すること。
・課題：解答例・採点基準をMoodleで公開する（希望者には採点済レポートの閲覧・複写を交付）。
・日々の学習状況：特に評価結果は公表しない。

【９】　教科書

なし。資料を講義の時に配布する（事前にウエブ上に掲示することもあるので、講義前はMoodleなどを確認すること）。

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、保健医療行政行政論、社会保障制度、公衆衛生看護学概論、看護管理論、看護学の臨地実習

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅳ	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	桂川修一				
担当教員	桂川修一・本多満・清水直美・甲田賢一郎				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（桂川修一）健康科学部の教務事務へ連絡または非常勤講師室において講義終了後10分後まで。 （本多　満）授業開講日、非常勤講師室において講義終了後10分後まで。 （清水直美）健康科学部の教務事務へ連絡または非常勤講師室において講義終了後10分後まで質問を受け付ける。 （甲田賢一郎）健康科学部の教務事務へ連絡または非常勤講師室において講義終了後10分後まで質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅳでは、精神の疾患、血液・免疫の疾患、感染症・中毒性の疾患、麻酔科学及び救急救命の病態と診断･治療、救急救命の技術と一次救急について学習し、知識の習得および実習にて実践することを目指す。

（桂川修一／９回）精神疾患の病因・病態と診断･治療
（本多　満／７回）救急救命の病態と診断･治療、救急救命技術と一次救急の実践的方法
（本多　満／３回）感染症・中毒性疾患の病因・病態と診断･治療
（清水直美／４回）血液・免疫疾患の病因・病態と診断･治療
（甲田賢一郎／４回）麻酔科に関わる病態と診断･治療

【３】　到達目標

●精神疾患
1.精神を病むとはどういうことかを説明できる
2.精神機能の成立要素を関連づけて説明できる
3.精神症状について説明できる
4.精神科診療や診断のプロセスを説明できる
5.精神疾患／障害の診断と主な治療法を述べることができる
6.精神科リハビリテーションを具体的に説明できる
7.医療者と患者の関係性について説明できる。
●血液・免疫疾患
1.血液の基礎的用語を説明できる。
2.一般的な血液疾患の病態を具体的に説明できる。
3.輸血について具体的に述べることができる
4.血液の患者の看護で留意すべき点を説明できる。
●感染症・中毒性疾患
1.中毒物質の種類と治療の原則を述べることができる。
2.環境障害の種類と治療法を述べることができる。
3.災害医療と救急医療の違いを説明できる。
4.災害医療のCSCATTTを、教材を用いて実施できる。
5.日本の災害医療の実際と特徴について述べることができる。
6.パンデミック感染症と被ばく医療について考察したことを記述できる。
●麻酔科
1.麻酔方法の種類を３つ以上挙げ、それぞれの特徴や違いを説明できる。
2.全身麻酔に必要な４要素について説明できる。
3.周術期に起こりうるトラブルの診断と対処法について説明できる。
4.術後疼痛管理の方法や使用薬剤について説明できる。
5.周術期における体温調節について説明できる。
6.術後悪心・嘔吐の病態や危険因子、予防法や治療法について説明できる。
●救命救急
1.心肺停止の原因を理解し、その対応および治療法と治療法を説明できる。
2.外傷の種類と治療法を説明できる。
3.神経系の救急疾患とそのアプローチを説明できる。
4.ショックの定義とその病態を理解し、治療法を説明できる。
5.生体における侵襲と生体反応について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	精神医学総論	【内容】 精神医療の対象とする領域 症状と検査法 治療一般 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：異常と正常、意識、知覚、記憶、知能、言語、思考、感情、意思と行動、薬物療法、精神療法	桂川修一
3	精神疾患（1）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・神経発達障害 ・統合失調症スペクトラム障害 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、知的障害、統合失調症、妄想性障害	桂川修一
4・5	精神疾患（2）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・双極性障害 ・抑うつ障害群 ・パーソナリティ障害 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：大うつ病性障害、双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害、気質、類型	桂川修一
6	精神疾患（3）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・不安障害 ・生理的障害 ・てんかん 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：心因、個体側要因、環境要因、ストレス、睡眠障害、摂食障害、てんかん発作	桂川修一
7～9	精神疾患（4）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・神経認知障害群 ・物質障害 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：認知症、認知機能、精神作用物質、乱用、精神依存、身体依存	桂川修一
10・11	臨床中毒学・環境障害	【内容】臨床における中毒および環境障害を学ぶ。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：除洗・吸着・排出、薬物中毒、拮抗薬	本多満
12・13	災害医療	【内容】災害医療の特徴と実践を学ぶ。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：CSCATTT、DMAT（災害派遣医療チーム）、トリアージ	本多満
14	救命救急に関わる病態と診断･治療（１）	【内容】心肺停止の原因を理解し、その対応および治療法と治療法を修得する。 ・心肺停止の原因とその対応および治療法 ・心肺蘇生 ・救急心血管治療 【授業形式】実習 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：救急救命の技術、一次救命処置の実践的方法	本多　満

15・16	救命救急に関わる病態と診断･治療（２）	【内容】外傷の種類と治療法を修得する。 ・外傷の種類と治療法 ・外傷初期診療と熱傷 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：JATEC、JPTEC、外傷初療標準化	本多　満
17・18	救命救急に関わる病態と診断･治療（３）	【内容】神経系の救急疾患とそのアプローチを修得する。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：意識障害、痙攣、失神	本多　満
19	救命救急に関わる病態と診断･治療（４）	【内容】ショックの定義とその病態を理解し、治療法を修得する。生体における侵襲と生体反応を理解する。 ・ショックの定義とその病態 ・敗血症の病態 ・ショックの治療法 ・生体における侵襲と生体反応 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：ショックの病態による分類、ショックの治療、臓器不全	本多　満
20・21	血液疾患（１）	【内容】血液学の一般的な専門用語を理解する。輸血治療を理解する。 ・血液学基礎 ・輸血治療 【授業形式】講義にて行うが質疑応答方式をとる。 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 授業後に学習課題を提示 キーワード：貧血　血液型	清水直美
22・23	血液疾患（２）	【内容】 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄移植他、血液一般疾患について 【授業形式】講義にて行うが質疑応答方式をとる。 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 授業後に学習課題を提示 キーワード：血液悪性腫瘍とその治療	清水直美
24・25	麻酔科に関わる病態と診断･治療（１）	【内容】 麻酔の意義・必要性 麻酔方法の種類とその特徴 全身麻酔の要素 周術期に起こりうる循環器合併症について 【授業形式】講義 予習・復習：授業の際に資料を配布するので、次回の授業までに復習する。 キーワード；全身麻酔、局所麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔）、鎮痛・鎮静・筋弛緩、アナフィラキシーショック、不整脈、心筋虚血	甲田賢一郎
26・27	麻酔科に関わる病態と診断･治療（２）	【内容・授業方法】 周術期に起こりうる呼吸器合併症 疼痛管理 体温管理 術後悪心嘔吐について 【授業形式】講義 予習・復習：授業の際に配布した資料をもとに復習する。 キーワード；挿管困難、誤嚥、気胸、硬膜外麻酔、患者自己調節鎮痛（PCA）、シバリング、PONV	甲田賢一郎

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・授業に際しては教科書をあらかじめ予習しておくこと。授業の際に資料としてプリントを配布するので復習の際にプリントと教科書の知識を整理して学習すること。
・教科書の内容を前もって目を通し、授業後配布されたスライド内容を復習し理解を深める。
・この授業では麻酔科医の視点から、周術期管理や周術期に起こりうるトラブルを扱う。そのため、麻酔方法の種類やその違いなど基本的事項について授業でも触れるが、事前に学習しておくことが望ましい（予習１時間程度）。実際に出題された麻酔科関連の看護師国家試験過去問題も参照しながら、授業を進める。授業の際に資料を配布するので、復習に重点を置いて、学習した方が良い（復習２時間程度）。
【学習上の留意点】
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。

【７】　評価方法・基準
定期試験80%、ミニテスト20%。

【８】　フィードバック方法
試験およびミニテストは、結果を返却する。

【９】　教科書
（桂川修一）　特に指定しない。
（本多　満）　資料を講義の際に配布する。
（清水直美）　看護学テキストNiCE 病態・治療論【6】血液・造血器系　南江堂
（甲田賢一郎）資料を授業の際に配布する。

【10】　参考書
（桂川修一）　岩崎弥生、渡邉博幸 編：新体系 看護学全書　精神看護学2 精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社，東京，2016
（本多　満）　看護学テキストNiCE疾病・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病
（清水直美）　特になし
（甲田賢一郎）周術期管理チームテキスト第3版．日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編．公益社団法人日本麻酔科学会 2016年発行.

【11】　備考(関連科目等)
心理学、行動科学、公衆衛生学、臨床腫瘍学、緩和ケア、救急救命

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅴ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅴ	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	山本利江				
担当教員	山本利江・南木敏宏・竹下直樹・前野貴俊・磯部公一・牛尾宗貴				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K333 原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	(山本利江) 開講日授業終了後30分、講義室または研究室K333にて質問を受け付ける。 (南木敏宏) 授業終了後10程度講義室にて質問を受け付ける。 (竹下直樹) 授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 (前野貴俊) 授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 (磯部公一) 授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 (牛尾宗貴) 授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅴでは、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、耳鼻咽頭疾患、眼疾患、放射線治療、遺伝子治療について学習し、知識の習得を目指す。また、疾病と治療Ⅰ～Ⅴで学んだ知識の看護へのトランスレーショナルを目的として、経過別看護の理解を深める。

（山本利江／２回）疾病・治療の経過別看護。自己免疫疾患、アレルギー性疾患、耳・鼻・咽頭疾患、眼疾患、放射線治療、遺伝子治療時の看護

（南木敏宏／３回）リウマチ・膠原病などの自己免疫疾患､アレルギー性の疾患の病因・病態と診断・治療

（竹下直樹／２回）生殖遺伝・出生前診断の現状

（前野貴俊／２回）眼疾患の病因・病態と診断･治療

（磯部公一／２回）放射線治療の方法と治療の実際

（牛尾宗貴／３回）耳・鼻・咽頭疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

1. 膠原病の病態、診断、治療の説明ができる。
2. アレルギー性疾患の病態、診断、治療の説明ができる。
3. 耳・鼻・咽喉頭・頸部の構造と機能を説明できる。
4. 耳・鼻・咽喉頭の主な疾患の病態と治療を説明できる。
5. 視機能検査を概説できる。
6. 前眼部疾患：①眼瞼・結膜・角膜・眼付属器の異常と治療を概説できる。②白内障の病態と手術的治療を具体的に説明できる。③緑内障の病因・病態を理解して治療について具体的に説明できる。
7. 眼底疾患：①ブドウ膜炎の病因・病態を理解して治療について説明できる。②網膜疾患の病因・病態を理解して診断と治療を説明できる。
8. 神経眼科の疾患についてその異常を説明できる。
9. 全身疾患と眼疾患の関係を説明できる。
10. がん診療における放射線治療の役割を理解し、説明することができる。
11. 放射線治療にかかわる有害事象を理解し、説明することができる。
12. 生殖補助医療を概説出来る。
13. 生殖医療と遺伝学の関連を概説できる。
14. 出生前診断に種類・方法を説明できる。
15. 遺伝カウンセリングについて概説できる。
16. リウマチの病態と治療のポイントが説明できる。
17. 主な膠原病の病態と治療のポイントが説明できる。
18. 主な耳鼻咽喉科疾患の病態と治療のポイントが説明できる。
19. 主な眼科疾患の病態と治療のポイントが説明できる。
20. 放射線治療の適応・方法・効果と治療に伴う問題が説明できる。
21. 遺伝子治療の適応・方法・効果と治療に伴う問題が説明できる。
22. 経過別にみた看護の特徴とポイントが説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	自己免疫疾患、アレルギー性疾患、耳・鼻・咽頭疾患、眼疾患、放射線治療、遺伝子治療時の看護	内容：疾病と治療Ⅰ～Ⅴで学んだ知識の看護へのトランスレーショナルを目的として、経過別看護の理解を深める。 膠原病・耳鼻咽喉科・眼科・放射線治療・遺伝子治療と看護のポイント 授業方法：講義・グループワーク 予習：これまでの講義からそれぞれに必要な看護をまとめる 復習：疾病経過と看護のポイントについてまとめる キーワード：疾患別看護、療法看護、倫理的課題	山本利江
3・4	自己免疫疾患（1）	内容：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、の病態、診断、治療 授業方法：講義 予習：1年次の全身性自己免疫疾患の講義を復習してくること。 復習：指定の教科書の膠原病/アレルギーの項も参照して復習をすること。 キーワード：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎	南木敏宏
5	自己免疫疾患（2）・アレルギー性疾患	内容：強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、その他の膠原病、及びアレルギー性疾患の病態、診断、治療 授業方法：講義 予習：1年次の全身性自己免疫疾患の講義を復習してくること。 復習：指定の教科書の膠原病/アレルギーの項も参照して復習をすること。 キーワード：強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、アレルギー性疾患	南木敏宏
6・7	生殖遺伝・出生前診断の現状	内容：生殖医療の発展は目覚ましく、現在わが国では生殖補助医療により出生する児の数が年々増加している。新たな出生前診断の方法も開発され、実施されている。生殖医療と遺伝学は深い関係があり、正確な知識を持って理解がなされる必要がある。また、倫理的な問題も考慮することも大切で、遺伝カウンセリングの重要性が注目されている。本講義では、生殖医療・出生前診断の現状について概説し理解することを目的としている。 授業方法：講義 予習・復習：指定した参考書を利用して予習・復習を行う キーワード： 出生前診断、生殖補助医療、着床前診断、遺伝カウンセリング	竹下直樹
8・9	眼疾患の病因・病態と診断･治療	内容：眼はきわめて微細な構造をして精密な機能を有する器官であることを認識し、眼科固有の疾患および他臓器と関連する眼疾患を理解する。なおとくに眼科においては、一般的な眼科的検査や各種の視機能検査も特殊性があり、これらについても理解する。 授業方法：授業方法は講義をもって行う。 予習・復習：本科目を受講するに当たり眼の構造と機能について十分な知識を習得しておくこと。 キーワード：眼疾患、眼科的検査、視機能検査	前野貴俊
10・11	放射線治療の方法と治療の実際	内容：講義で放射線治療の実際について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：放射線治療、がん診療、腫瘍学	磯部公一
12・13	耳鼻咽頭科疾患の病因・病態と診断･治療（1）	内容：耳・鼻の構造と機能、主な疾患について概説する。一般に耳鼻（咽喉）科というと「耳と鼻」をイメージすると思われる。本講では耳と鼻の構造と機能と実際に外来や病棟で接する機会の多い主な疾患について解説し、理解を深めてもらう。 授業方法：講義 予習：耳・鼻構造と機能、主な疾患の把握 復習：授業内で提示する キーワード：耳・鼻	牛尾宗貴
14	耳鼻咽頭科疾患の病因・病態と診断･治療（2）	内容：頭頸部の構造と機能、めまいの構造について概説する。耳鼻（咽喉）科といった場合、「めまい」を連想することはあっても「頭頸部（腫瘍）」をイメージすることは多くないと思われる。本講では「めまい」のしくみや疾患、ならびに咽喉頭の構造、機能と疾患について解説し、理解を深めてもらう。 授業方法：講義 予習：頭頸部の構造と機能、めまいの構造の把握 復習：授業内で提示する キーワード：頭頸部、頭頸部腫瘍、めまい、前庭	牛尾宗貴

【６】　事前・事後学習とその時間

〔準備学習（予習・復習）〕

予習１時間程度、復習１時間程度を要します。講義の参加に際しては、これまでに学修した各講義に関連する箇所の解剖学、生理学、病理学などの基礎知識について復習するとともに、事前に教科書に目を通して学習内容を把握するようにしてください。復習は、学習内容をふり返り、追加学修の上、知識の定着を図ってください。

〔学習上の留意点〕

この科目では、膠原病、耳鼻咽喉科疾患、眼科疾患、放射線治療、生殖医療・出世以前診断など患者のQOLに深く関わる疾患やその治療、看護について学修します。短時間で広範囲の講義内容が含まれますので、事前に講義で扱う部分の構造と機能、病理学などの基礎知識について十分な知識を習得しておくことが前提となります。これまでの学修内容や、指定された教科書、資料を用いて予習復習を十分に行ってください。

【７】　評価方法・基準

定期試験70%、小テスト30%

【８】　フィードバック方法

フィードバック方法：定期試験、小テストは、結果の概要を返却する。

【９】　教科書

（山本利江）資料提示する。
（南木敏宏）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病
（竹下直樹）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【13】産科婦人科疾患
（前野貴俊）資料を授業の時に配布する。
（磯部公一）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【1】病態・治療総論
（牛尾宗貴）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【11】皮膚／耳鼻咽喉／眼／歯・口腔疾患

【10】　参考書

（竹下直樹）
1）遺伝医学への招待　改訂第5版　新川詔夫　南江堂　2015
2）トンプソン＆トンプソン臨床遺伝学　福嶋義光　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2009
3）周産期遺伝カウンセリングマニュアル　関沢明彦・佐村　修・四元淳子　中外医学社 2015
（前野貴俊）
1)「ベッドサイドの眼科学」、植村編、南山堂、
2)「イラスト眼科」、渡辺他著、文光堂、
3)「ポケット眼底アトラス」、松井編、中外医学社
（磯部公一）
1）系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　（医学書院）
（牛尾宗貴）
1)「新耳鼻咽喉科学」、切替一郎、野村恭也　編、南山堂

【11】　備考(関連科目等)

腫瘍学、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生化学、臨床栄養学、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、薬理学、薬剤学、臨床遺伝学、臨床看護学概論

科目名(日本語)	**保健医療福祉行政論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health Care and Welfare System	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	元田宏樹				
担当教員	元田宏樹・小板橋恵美子				
科目責任者 連絡先(教室)	motohiro2030@gmail.com(元田宏樹)				
オフィスアワー	授業終了後、10分程度、非常勤講師室で質問対応する。それ以外、何か問い合わせがあればメールでやりとりする。 emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp（小板橋恵美子）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、地域における健康課題の解決に必要な社会資源の開発、保健医療福祉サービスの評価及び調整方法について基本的な知識を学ぶ。そして、地方公共団体の保健医療福祉行政の計画策定・実行・評価のサイクルについての基本的知識を学び、公衆衛生行政の各分野における保健師の役割及び活動方法について考察する。

【３】　到達目標

1.社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷について述べることができる。
2.社会福祉の概念について述べることができる。
3.保健医療福祉行政の理念としくみについての概略を説明できる。
4.保健医療福祉の各役割と機能および相互の連携について説明できる。
5.国の保健医療福祉制度の概略について説明できる。
6.地方自治体における保健医療福祉制度の概略について説明できる。
7.保健医療福祉サービスを提供する関係機関、関連職種について説明することができる。
8.保健医療福祉行政の現状および今後の課題について検討し、述べ、論述することができる。
9.公衆衛生行政の各分野における保健師の役割、地域での活動方法について検討し、述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2回	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷	社会的背景と生活支援、社会福祉の理念・概念、公衆衛生政策の基盤形成、諸外国における公衆衛生施策の変遷 講義 予習：社会の動きに目を向け、保健医療福祉行政に関する情報収集をする 復習：テキストの「1章　福祉・社会保険・保健」部分を一読する キーワード：社会的背景、生活支援、社会福祉の理念・概念、社会事業	元田宏樹
3･4回	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み	保健医療福祉行政の概要・保健医療福祉の財政・国と地方公共団体の行政の仕組み、国と地方公共団体の財政の仕組み 講義 予習：指定の教科書部分を読んでおく 復習：テキストの「7章　福祉政策と財政の仕組み」部分を一読する キーワード：地方自治と地方分権、情報公開と個人情報保護、予算の機能と原則、社会保障の給付と財源	元田宏樹
5･6回	保健医療福祉の計画と評価　１	地方公共団体の保健医療計画の目的と種類・基本構想と保健医療福祉計画の関連 講義 予習：法律の条文に目を通しておく 復習：テキストの「8章　保健医療・福祉行政の仕組み」部分を一読する キーワード：行政計画と基本構想、都道府県計画と市町村計画	元田宏樹
7･8回	保健医療福祉の計画と評価　２	地方自治体の計画決定・計画の推進と管理・評価 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「8章　保健医療・福祉行政の仕組み」部分を一読する キーワード：計画決定過程、審議会の役割、情報公開とアカウンタビリティ、パブリックコメント、政策の計画化と管理、評価の推進体制、地域診断、評価指標と計画目標値、政策評価、経済的評価	元田宏樹
9･10回	保健医療福祉行政の分野と制度　１	高齢者保健医療福祉対策・障害者保健医療福祉対策・精神保健医療福祉対策・感染症対策・医療政策の変遷 講義 予習：事前に統計データに目を通しておく 復習：テキスト「5章　障害者をとりまく課題」「11章　精神保健医療福祉の変遷」を一読する キーワード：がん対策、自殺対策、難病対策、歯科保健対策、災害時医療保健対策	元田宏樹
11･12回	保健医療福祉行政の分野と制度　２	社会保障の理念と仕組み・公衆衛生行政の分野 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「2章　医療保険と保健について」部分を一読する キーワード：社会保障の理念、健康格差と社会保障、一般衛生行政、産業保健行政、環境保健行政、学校保健行政	元田宏樹
13･14回	保健医療福祉行政の分野と制度　３	介護保険制度 介護保険制度関係法規・介護保険に関する都道府県・市町村の役割・居宅介護支援事業者とケアマネジメント 講義 予習：法律の条文に目を通しておく 復習：テキストの「3章　介護保険制度と孤独死対策」「9章　介護現場で起きていること」部分を一読する キーワード：居宅サービス、地域包括支援センター、介護予防、地域支援事業	元田宏樹
15･16回	保健医療福祉行政の分野と制度　４	「社会保障制度」および当単元の既習学習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「4章　生活保護行政と生活困窮者対策」部分を一読する キーワード：福祉、公衆衛生行政、保健師の役割、社会保障制度など各種制度	元田宏樹
17･18回	保健医療福祉施策を展開していく上での看護職の役割	「社会保障制度」および当単元の既習学習、臨床実習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：２年次の臨床実習を踏まえて保健医療福祉施設に関して整理しておく 復習：テキスト「13章　高齢者を取り巻く共生社会」部分を一読しておく キーワード：多職種との連携、社会福祉実践	元田宏樹
19･20回	保健医療福祉施策を展開していく上での今後の課題	「社会保障制度」および当単元の既習学習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：保健医療福祉行政の現状および今後の課題についてレポートする。 キーワード：福祉、公衆衛生行政、保健師の役割（看護職の役割）、社会保障制度など各種制度	元田宏樹

21･22回	我が国における施策の充実と発展―地域保健法・健康増進法	地域保健法の制定と地域保健対策、健康増進法と健康なまちづくり 講義 予習：地域保健法および健康増進法の条文に目を通しておく 復習：テキスト「6章」一読する キーワード：健康日本21、母子保健、成人保健、高齢者保健、虐待防止対策、障害者（児）・難病支援	小板橋恵美子
23･24回	国際的な活動―健康をめぐる理念と国際機関	公衆衛生に関する国際的な活動の理念・国際連合とWHOの役割 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「2章」部分を一読する キーワード：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、WHO、保健医療分野の国際協力、ODA	小板橋恵美子
25回	我が国における地域保健活動	地域保健の体系・市町村と都道府県の役割分担と体制整備 保健所の役割と機能強化・政令指定都市保健所制度の推進 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「7章」部分を一読する キーワード：地域保健法と地方自治、都道府県、保健所、市町村保健センター、保健行政機構、地域保健活動を展開する機関の種類と役割、行政・学校・職域の連携	小板橋恵美子
26･27回	保健医療福祉施策の展開と課題―地域保健活動	既習学習を踏まえて、我が国の保健医療福祉施策（地域保健活動）の展開・そのあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「10章」部分を一読する キーワード：福祉、公衆衛生行政、健康増進、地域における看護職（保健師、訪問看護師、コミュニティナース）、社会保障制度、連携	小板橋恵美子

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、保健医療福祉行政に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。法学（日本国憲法含）・社会保障制度を受講している事が望ましい。
基本的には各回の授業の予習より、復習として学修したことの知識の整理をしてください。時間は学生個々によって違うと思いますので次の授業に支障のないように行ってください。平均的には30分から60分は必要と思われる。
学習上の留意点：既習した看護学の臨地実習科目と関連づけて学ぶ。特に社会保障制度・政策形成過程論とは重複する部分もあるため、関連させて理解すること。自分の考えを他者にわかるように説明するよう努力する。

【７】　評価方法・基準

評価は、毎回提出の課題、及び期末レポート試験を総合的に判断して評価する。毎回の課題4割程度、期末試験レポート6割程度で、総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の課題、グループワーク（成果物等）、学修上の疑問に関しては、教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。

【９】　教科書

結城康博・河村秋編著『わかりやすい福祉と医療・保健の仕組み』2021. 書籍工房早山出版.

【10】　参考書

結城康博著：福祉社会における医療と政治-診療報酬をめぐる関係団体の動きー本の泉社　2004
医療の値段―診療報酬と政治―　岩波新書　2006、国民健康保険　岩波ブックレット787　2010
介護保険法改正でホームヘルパーの生活援助はどう変わるか　ミネルヴァ書房　2014
介護と看取りー老後をどう生き、「最期」をどこで迎えるかー　2011
孤独死のリアル　講談社現代新書2264　2014、国民衛生の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会

【11】　備考(関連科目等)

社会保障制度、政策形成過程論、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**社会保障制度**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Social Security System	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	結城康博				
担当教員	結城康博・河村秋				
科目責任者 連絡先(教室)	アクセスはメールで可能。 yy1969@za2.so-net.ne.jp （結城まで）				
オフィスアワー	※月曜日13時25分～13時55分（4月11日～5月23日）非常勤講師室にいます。 wayo.kawamura@gmail.com（河村まで）				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】 授業概要

社会保障制度の意味、意義、目的、機能について学修する。社会保障の歴史的変遷を理解し、現在の社会保障制度の必要性、具体的な仕組み、効果及び評価について学習し、社会保障制度の基本的な考え方を学ぶ。そして、社会環境の変化と社会保障制度の関連を理解し、問題点と課題及び将来の展望について考察する。

【３】 到達目標

1.少子高齢化・人口減少・経済成長率低下・雇用の流動化などの変化が人々の生活への影響について述べることができる。
2.社会保障の理念について述べることができる。
3.社会保障の歴史的変遷における社会保障の意義について述べることができる。
4.社会保障制度について説明することができる。
5.社会福祉に関する法律の理念について述べることができる。
6.社会福祉に関する施策について説明することができる。
7.健康と公衆衛生のあり方について論述することができる。

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	社会保障の理念1	日本の保健医療福祉活動の基本方向・社会保障の概念・目的・機能・体系・内容、 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「序章」を読む キーワード：人権・日本国憲法25条、倫理、ノーマライゼーション・情報公開・地方分権・参加、社会保障給付費、社会保障制度改革	結城康博
3・4	社会保障の理念2	生活基盤（生活単位・家庭・生活の基本機能・生活の場と健康・労働と健康）・人口動向・家族（世帯）・ライフサイクル、人口集中と過疎化 講義 予習：社会保障に関連する事項の情報収集をしておく 復習：テキスト「序章」を読んでおく キーワード：、生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、慰安・交流、住居、就業構造、労働時間、仕事と余暇、所得	結城康博
5・6	人間の社会的側面1	ライフスタイル（家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立）・人間の集団としての働き（集団の形成・発達、地域における人間関係、職場における人間関係）について・日常生活の中から検討する 講義・グループワーク・発表 予習：　１回目の授業内容の整理をし、グループワークの準備をする。 復習：テキスト「序章」を読んでおく キーワード：夫婦の役割機能・家族内介護者・育児と介護・家事機能、雇用労働者・女性労働者・少子化・健康寿命・余暇時間・生涯学習・地域のソーシャルサポートネットワーク 学校における人間関係、組織の中での役割・上司との関係・同僚との関係	結城康博
7・8	社会保障制度１　　年金制度	社会保険の変遷・社会保険の歴史・意義、 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「１章」を読む キーワード：国民皆保険・国民皆年金	結城康博
9・10	人間の社会的側面2	医療保健制度・健康保険・国民健康保険と高齢者の医療制度、保険給付と利用者負担 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「２章」を読む キーワード：医療保険の財政、保険診療の仕組み、公費負担医療、国民医療費、診療報酬制度、介護保険制度の理念	河村秋
11・12	健康と公衆衛生　1	当単元で学んだことを基に公衆衛生および保健活動のあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習：　授業で学んだことの整理をし、グループワークに臨む 復習：テキスト「８章」を読む。 キーワード：プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション・健康の概念・WHOの加盟国の役割	河村秋
13・14	社会福祉保健行政1	福祉の行政機関と施設・老人保健福祉行政の展開 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「８章」を読む キーワード：福祉事務所、児童相談所、社会福祉施設、在宅サービス機関、老人福祉計画・高齢者の生きがい対策・介護予防	結城康博
15・16	社会福祉に関する法律の理念と施策１	障害者（児）に関わる法と施策 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「９章」を読む キーワード：障害者基本法・障害者総合支援法・身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健および精神障害者福祉に関する法律・発達障害者支援法・障害者虐待の防止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律	結城康博
17・18	社会保障制度2　　医療保険制度	ライフスタイル（家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立）・人間の集団としての働き（集団の形成・発達、地域における人間関係、職場における人間関係） 講義・グループワーク・発表 予習：　１・２回目の授業内容の整理をし、グループワークの準備をする。 復習：テキスト「終章」を読んで整理する。 キーワード：家事機能、雇用労働者・女性労働者・少子化・健康寿命・余暇時間・生涯学習・地域活動への参加・家族観の多様化、生活習慣病の概念・発達課題別生活習慣・セルフケアの確立	結城康博

19・20	社会保障制度3　介護保険制度	年金制度、その他の社会保険制度・介護保険制度の保険者・被保険者、要介護・要支援の認定、 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「３章」を読む キーワード：保険給付と利用者負担・ケアマネジメント・介護保険の財政・介護保険事業計画、年金制度の体系、雇用保険法、労働者災害補償保険法	結城康博
21・22	健康と公衆衛生2	当単元で学んだことを基に公衆衛生および保健活動のあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習： 14回目の復習が今回の予習にあたる。 復習：テキスト「８章」を読む キーワード：健康と環境、公衆衛生の領域・活動の特徴	河村秋
23・24	社会福祉保健行政2	保健福祉計画・社会福祉の民間活動 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「８章」を読む キーワード：子ども・子育て応援プラン、障害者基本計画と障害者プラン、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア活動、NPO法	河村秋
25	社会福祉に関する法律の理念と施策２	児童に関わる法と施策・高齢者に関わる法と施策・その他の施策 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「１０章」を読む キーワード：児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・母子および寡婦福祉法、老人福祉法・高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に対する支援等に関する法律、DV法、少子化対策	結城康博
26・27	社会保障制度4　雇用保険、労災、生活保護	予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「５・６・７章」を読む キーワード：雇用保険　労災、生活保護、格差社会、労働政策と社会保障制度。生活保護の基本原理と実施の原則、実施機関、扶助の種類と内容 復習：テキスト「７章」を読む	結城康博

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習
新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、社会保障に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。
法学（日本国憲法含）を受けている事が望ましい。
グループワークに臨む姿勢として、既習した授業内容の整理が必要であるが、予習より復習に時間を費やして欲しい。
時間に関しては学生個々により違うので、学修目標に達するように各自復習をする。
平均的には毎回30～60分程度は必要と思われる。
学習上の留意点
既習した看護学の臨地実習の対象理解（社会的側面）と関連づけて学ぶ。
自分の考えを他者にわかるように説明するよう努力する。

【７】　評価方法・基準

定期レポート試験80%　　ミニ課題レポート20%（3コマ授業ごとに1回の目安）

【８】　フィードバック方法

フィードバックに関しては、教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。例えば、授業中にわからない質問などをメールでやりとりする。授業感想など。

【９】　教科書

結城康博・河村秋・大津唯編著『わかりやすい社会保障制度』2018.ぎょうせい出版

【10】　参考書

医療の値段―診療報酬と政治―　岩波新書　2006、国民健康保険　岩波ブックレット787

【11】　備考(関連科目等)

保健医療福祉行政論、政策形成論、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**研究方法の基礎**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Research Methods	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	浅野美知恵				
担当教員	浅野美知恵・中野裕康・近藤元就・恒岡洋右・船戸弘正・長谷川雅美・島村賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	浅野研究室(K318、michie.asano@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室で10分程度受け付ける。 メールで問い合わせる場合は科目責任者のアドレスへ連絡すること。 浅野：授業開講日13時～13時50分。（研究室8318、michie.asano@hs.toho-u.ac.jp） 中野・近藤・恒岡・船戸：授業開講日13時～13時50分。（健康科学部非常勤室） 長谷川：木曜日10時～12時。随時メール（mhase@bio.sci.toho-u.ac.jp） 島村：授業開講日9時30分～10時。（健康科学部非常勤室）				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【2】 授業概要

研究とは、人間が認識可能なあらゆる事柄の原理や心理を明らかにするために行われる知的な行為である。本科目では、人々の健康や生活に関する現象を解明するために、主な研究手法を学習し、科学的に探究する能力を養う。
（近藤元就､船戸弘正､恒岡洋右､中野裕康／各１回）医学系の実験研究に関する研究手法
（長谷川雅美／３回）生物学･環境系のフィールドワーク調査に関する研究手法
（島村賢一／３回）社会学系の調査票による調査（質問紙）に関する研究手法
（浅野美知恵／４回）看護学系のインタビュー調査に関する研究手法

【3】 到達目標

1. 医学系実験研究の対象を分類・概説できる。
2. 医学系実験研究の方法を分類・概説できる。
3. 動物実験の概要と規制について説明できる。
4. 遺伝子組換え実験の概要と規制について説明できる。
5. ヒト幹細胞研究の概要と規制について説明できる。
6. 野外調査における調査企画、実施とデータのまとめ方の内容と流れを説明できる。
7. 調査票による調査の留意点を説明できる。
8. 社会調査における適切な仮説と調査票の質問文を作成できる。
9. インタビューによる調査の概要と留意点について説明できる。
10. 調査内容に基づくインタビューガイドを作成できる。
11. 研究手法別に主な倫理的課題と対応について説明できる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	看護学系のインタビュー調査研究手法（1）	内容 科目のオリエンテーション 1.インタビューによる調査の概要 2.インタビュー法の留意点 3.看護学系インタビュー調査における主な倫理的課題と対応 授業方法：講義 予習：インタビュー法について関連の書籍等を活用して整理する。 復習：インタビュー法について、課題を一つ選び5分間で発表できる資料を作成する(課題レポート1提示)。 キーワード：研究疑問、インタビューの種類、構造化、半構造化、非構造化、個人面接、グループインタビュー、インタビューアー、データの質、倫理、人権尊重	浅野美知恵
3・4	生物学･環境系のフィールドワーク調査研究手法（1）	内容 要対策生物の管理としての被害管理、 個体数管理 生息地管理の体系と実際 授業方法： 講義 予習：特に必要としない 復習：講義で学んだ内容の整理（1時間程度）（課題レポート2提示） キーワード：野生生物、外来種、絶滅危惧種	長谷川雅美
5	生物学･環境系のフィールドワーク調査研究手法（2）	内容 要対策生物の保護管理の理論と社会実装 授業方法：講義、グループワーク 予習：特に必要としない 復習：講義で学んだ内容の整理（1時間程度） キーワード：個体数の動態と予測、生息地予測、地域社会	長谷川雅美
6・7	社会調査の基礎と仮設の構築	内容 1.社会調査の基礎と調査票の作成の留意点 2.仮説の構築 授業方法：講義 予習：世論調査に関する記事を整理する(１時間程度)、 復習：授業時に提示された課題レポート(１時間程度) (課題レポート提示3) キーワード： 社会学的視点、サンプリング、調査票、信頼性、妥当性、仮説の構築と検証、データ収集法、回収法、Web利用、電話利用、回収率、調査と人権	島村　賢一
8	調査票作成と調査結果の解読	内容 1.調査票の質問文作成 2.調査結果の解読上の留意点 授業方法：講義、グループワーク 予習：課題レポートに基づき質問文案を作成してくる(１時間程度) 復習：授業中の資料を再読し、問題点と重要な点を確認する(１時間程度) キーワード： 質問文、選択肢、調査票の様式、集計法、データの解析法、変数、独立変数、従属変数	島村　賢一
9	医学系の実験研究に関する研究手法（1）	内容 1. 医学研究の分類 2. 基礎医学の研究の方法 3. 超高感度核酸検出法の開発と応用 授業方法：講義 予習： 解剖生理学の既習内容について確認しておく（2時間程度）。 復習： 講義内容の整理（30分程度）（課題1提示） キーワード：基礎研究、臨床研究、研究開発、先端技術	恒岡 洋右
10	医学系の実験研究に関する研究手法（2）	内容 1. 遺伝子組換え実験の概要と規制について 2. 血液学、免疫学研究の手法と実際 授業方法：講義 予習： 血液学、免疫学の既習内容について教科書・資料を読む 復習： 講義内容を整理する。　（課題2提示） キーワード：遺伝子組換え実験、血液細胞分化、免疫反応	近藤 元就
11	医学系の実験研究に関する研究手法（3）	内容 1. 動物実験の概要と規制 2. 睡眠の健康と異常 授業方法：講義 予習：特に必要としない 復習：講義で学んだ内容の整理（1時間程度）（課題3提示） キーワード：動物実験、睡眠	船戸 弘正

12	医学系の実験研究に関する研究手法（4）	内容 1. 倫理指針と臨床研究法について 2. 臨床研究について 授業方法：講義 予習： Moodleにあげた研究倫理基本知識版を読む。 復習： 講義スライドで復習する。 （課題4提示） キーワード：臨床研究、倫理的問題、倫理指針、臨床研究法	中野 裕康
13・14	看護学系のインタビュー調査研究手法（2）	内容 1.インタビューガイドの作成 2.インタビューデータの分析法 3.研究方法のまとめ 授業方法：講義 予習：質的データの分析法について関連の書籍等を活用して整理する。 復習：配布資料にある課題をする。 キーワード：質的データ、帰納的、分析手法	浅野　美知恵

【６】　事前・事後学習とその時間

本授業は研究手法を習得し科学的な探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。
中野・近藤・船戸・恒岡：基礎医学科目、臨床医学科目の基礎知識の習得が前提となる。
長谷川：自然環境の保全と管理の社会的要求性について、事前に考えをまとめておくこと。
島村：予習に１時間程度、復習に１時間程度必要。メディア上で発表される世論調査に関する記事を日頃から読んでおくこと。
浅野：医療、健康、地域生活・人々の暮らしに関するメディア上の情報を把握すること。
対面式授業で行う予定です。状況によっては遠隔授業となることがありますので、時間割に注意してください。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（3題）80%、課題（4題）20%

【８】　フィードバック方法

課題レポート・課題は、全体の傾向について、各担当教員からコメントする。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

中野・近藤・船戸・恒岡：資料を授業の時に配布する。
長谷川：田島知之他著：はじめてのフィールドワーク　アジア・アフリカの哺乳類編、東海大学出版部
　吉田弥生他著：はじめてのフィールドワーク　海の哺乳類編、東海大学出版部
　武田浩平他著：はじめてのフィールドワーク　日本の鳥類編、東海大学出版部
島村：大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋編著「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房2013
浅野：資料を授業の時に配布する。

【11】　備考(関連科目等)

中野・近藤・船戸・恒岡：基礎医学科目、臨床医学科目、看護研究関連
長谷川：社会学、疫学と公衆衛生学、看護研究関連
島村：社会学、情報科学概論、保健統計と情報処理、疫学と公衆衛生、看護研究関連
浅野：看護学概論、看護研究関連

科目名(日本語)	**保健統計と情報処理**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Statistical Analysis for Health Science	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	上地賢				
担当教員	上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	上地の研究室（K316）への訪室、もしくはEメール（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）で連絡を取ることができる。				
オフィスアワー	原則水曜日12:00～13:00をオフィスアワーとして質問、相談を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

スマートフォン、Moodle

【２】　授業概要

情報科学概論で習得した基礎的な知識と技術をもとに、医療分野で必要とされる医学統計学の基本的概念や考え方を理解し、調査や研究などで医療データをコンピュータを用いて解析できるよう医学統計学の知識を習得する。

【３】　到達目標

1.健康科学の分野でなぜ統計学的思考が必要かを説明できる
2.変数の種類について例を挙げて比較しながら特徴を説明することができる
3.平均値、中央値、分散、標準偏差、四分位範囲を計算機を用いてデータから求めることができる
4.正規分布の特徴を説明することができる
5.計算式を確認しながらデータをもとに相関係数を求めることができる
6.統計学的な「検定」と「推定」の違いについて説明することができる。
7.計算式を確認しながら、与えられたデータを用いてカイ二乗検定（割合の差の検定）ができる
8.計算式を確認しながら、与えられたデータを用いてt検定ができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	統計学とは	内容：統計学がなぜ必要かを学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：講義内容をまとめる キーワード：統計学、保健統計、記述統計、推計統計	上地賢
2	変数の種類	内容：変数の種類と特徴を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：変数の特徴を比較して整理する キーワード：名義変数、順序変数、連続変数	上地賢
3	代表値と分布	内容：ある変数の代表値と分布を示す指標を方法を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：各指標の算出ができるように講義内容を振り返る キーワード：平均値、中央値、分散、四分位範囲、外れ値	上地賢
4	相関係数	内容：相関係数の意味と算出方法を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：相関係数の算出ができるようにする キーワード：相関係数、疑似相関、外れ値	上地賢
5	確率変数と確率分布	内容：確率変数と代表的な確率分布の特徴を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：確率分布の特徴を整理する キーワード：確率、確率分布、二項分布、正規分布	上地賢
6	推定と検定	内容：推計統計の手法として推定、検定について学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：検定の考え方について整理する キーワード：推計統計、大数の法則、中心極限定理、点推定、区間推定、検定	上地賢
7	ｔ検定①	内容：平均値の差の検定（ｔ検定）について学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにt検定の方法を理解する キーワード：ｔ検定、ｔ分布、ｐ値	上地賢
8	ｔ検定②	内容：ｔ検定と推定の関係性を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにt検定の方法を理解する キーワード：ｔ検定、ｔ分布、ｐ値、95%信頼区間	上地賢
9	カイニ乗検定①	内容：カイニ乗検定について学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにカイニ乗検定の方法を理解する キーワード：割合の差の検定、独立性の検定	上地賢
10	カイニ乗検定②	内容：カイニ乗検定と推定の関係性を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにカイニ乗検定の方法を理解する キーワード：割合の差の検定、独立性の検定、カイ二乗分布、ｐ値、95%信頼区間	上地賢
11	事例の検討①	内容：事例のデータをもとに様々な統計学的な分析を試みる 方法：講義 予習：各分析手法を振り返る 復習：自身の興味のある視点で分析し、レポートを完成させる。 キーワード：相関、ｔ検定、カイ二乗検定、区間推定	上地賢
12	事例の検討①	内容：事例のデータをもとに様々な統計学的な分析を試みる 方法：講義 予習：各分析手法を振り返る 復習：自身の興味のある視点で分析し、レポートを完成させる。 キーワード：相関、ｔ検定、カイ二乗検定、区間推定	上地賢
13	その他の検定	内容：その他の分析方法について学ぶ 授業方法：講義 予習：これまでの検定方法を振り返る 復習：事例のデータをもとに他の分析方法を振り返る キーワード：相関係数、ｔ検定、カイ二乗検定、分散分析、回帰分析	上地賢
14	まとめ	内容：これまでの検定方法を振り返り、統計学的分析手法についてまとめる。 授業方法：講義 予習：これまでの検定方法を振り返る 復習：各統計分析手法について振り返る。 キーワード：相関係数、ｔ検定、カイ二乗検定、分散分析、回帰分析	上地賢

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
講義開始までに四則演算、特に分数の計算、確率の計算について理解していることが望ましい。
予習：Moodle上に提示された資料に目を通しておくこと。予習に要する時間の目安は、30分程度である。
復習：各回の講義終了時に学習内容の確認を行う。次回講義時に全体に向けたコメントとしてフィードバックする。統計手法の実施および解釈の復習のために要する時間の目安は30分程度である。
【学習上の留意点】
電卓（関数電卓）を使用するので、可能な限り持参すること。講義中にスマートフォンを電卓代わりにすることは認めるが、試験に持ち込む電卓としては認めない。

【７】　評価方法・基準

試験：80%、課題レポート20%

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパーに寄せられた質問等はMoodle上のコメントとしてフィードバックする。講義中に取り組んだ作業については全体に向けて講評する。理解が不十分と考えられる点については次回講義時に全体に向けて適宜解説を加える。

【９】　教科書

資料は授業中に配布する。

【10】　参考書

「基礎からわかる看護統計学入門」（医歯薬出版）、「統計学がわかる」（技術評論社）、縣　俊彦　著「優しい保健統計学　改定第5版」（南江堂）など

【11】　備考(関連科目等)

情報科学概論、疫学と公衆衛生、公衆衛生看護学、看護研究

科目名(日本語)	**疫学と公衆衛生**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Epidemiology and Public Health	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	上地賢				
担当教員	上地賢・朝倉敬子・亀田義人・金沢奈津子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室（Ｋ３１６）への訪室、もしくはメール（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	原則として水曜日12:00～13:00をオフィスアワーとするが、Moodle上で適宜担当教員に連絡をとることができる。その他、随時メールで質問等を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

公衆衛生とは、集団レベルでの健康の保持・増進と疾患の予防を目的として行われる組織的な活動である。疫学は、集団における健康状態とそれに関連する要因の頻度と分布を明らかにし、公衆衛生の発展を目指す分野である。本科目では、公衆衛生の考え方や自然科学的な研究方法論である疫学の考え方を学び、疾病のコントロールとヘルスプロモーションに関わる視点を養う。

【３】　到達目標

1. 疫学の定義と分類（記述疫学、分析疫学）を説明できる。
2. 病気の有無を表す指標として、与えられたデータから有病率、罹患率を求めることができる。
3. リスクの程度を表す指標として、与えられたデータから相対危険（オッズ比を含む）、寄与危険を求めることができる。
4. スクリーニングの感度と特異度の定義を説明し、与えられたデータからそれらを求めることができる。
5. 調査対象集団の選定方法に基づき、悉皆調査と標本調査の違いを説明できる。
6. 疫学研究デザイン（生態学的研究、横断研究（cross-sectional study）、コホート研究、症例対象研究、介入研究）の特徴を整理し、端的に説明することができる。
7. 疫学研究の結果に影響する要素として、誤差、バイアス、交絡因子について説明することができる。
8. 疫学研究の実施に必要な倫理的配慮について説明することができる。
9. 二次利用可能な政府統計データ、診療関連データの種類、入手方法を述べることができる
10. 講師の指導のもとで他者と協力してデータを用いた地域分析を実施することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	公衆衛生と疫学 歴史・理念・概念①	内容：疫学が公衆衛生活動を行う上で欠かせない学問であることを理解する。授業方法；講義　予習：教科書の指定部分を読む 復習：疫学の身近な例を探す キーワード：疫学、公衆衛生、予防、集団	上地賢
2	公衆衛生と疫学 歴史・理念・概念②	内容：疫学の定義をもとに歴史的事例を分析する。 授業方法；講義 予習：疫学の定義を読む 復習：事例と定義を対応させ振り返る。 キーワード：ジョン・スノウ、高木兼寛	上地賢
3	率・比・割合	内容：率、比、割合の意味の違いと算出方法を学ぶ。 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：率、比、割合	上地賢
4	様々な疫学指標	内容：疾病や死亡の頻度を示す指標を学ぶ。 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：罹患率、有病率、粗死亡率、年齢調整	上地賢
5	相対危険と寄与危険①	内容：事象と疾病発生の関係性を表す指標を学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：相対危険、寄与危険、リスクファクター	上地賢
6	相対危険と寄与危険②	内容：事象と疾病発生の関係性を表す指標を学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：相対危険、寄与危険、リスクファクター	上地賢
7	スクリーニング	内容：疾病のスクリーニングの意義、指標を学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：感度、特異度、偽陽性、偽陰性、陽性反応的中	上地賢
8	疫学研究と倫理	内容：疫学研究の倫理的配慮について学ぶ。 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：倫理審査、インフォームドコンセント、情報の管理、利益相反、剽窃	上地賢
9	母集団と標本	内容：疫学研究のデザインの概要を学ぶ。 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：教科書内の問題を解く キーワード：デザイン、抽出、悉皆調査、標本調査	上地賢
10	疫学研究のデザイン①	疾患とその背景にある因子との関連や因果を明らかにするための疫学研究の 手法について学び、各手法の特徴と限界について整理する。 授業方法；講義 予習：テキストp. 39～46、p. 48～49を読む。（できるだけp. 39～82に目を通 す） 復習：配布資料に目を通し、要点をノートにまとめる。 キーワード：記述疫学、分析疫学、横断研究、縦断研究、地域相関研究、症 例対象研究、コホート研究、介入研究	朝倉敬子
11	疫学研究のデザイン②	疾患とその背景にある因子との関連や因果を明らかにするための疫学研究の 手法について学び、各手法の特徴と限界について整理する。 授業方法；講義 予習：テキストp. 39～46、p. 48～49を読む。（できるだけp. 39～82に目を通 す） 復習：配布資料に目を通し、要点をノートにまとめる。 キーワード：記述疫学、分析疫学、横断研究、縦断研究、地域相関研究、症 例対象研究、コホート研究、介入研究	朝倉敬子
12	疫学研究 の結果に影響を与える要因①	原因や結果となる事象の正確な測定を妨げる要因となる誤差、バイアスにつ いて学ぶ。また事象の関連や因果関係の判断を惑わせる「交絡」について学 ぶ。 講義 予習：p. 83～91を読む。 復習：配布資料に目を通し、要点をノートにまとめる。 キーワード：偶然誤差、系統誤差、妥当性、信頼性、バイアス、交絡	朝倉敬子

13	疫学研究 の結果に影響を与える要因②	原因や結果となる事象の正確な測定を妨げる要因となる誤差、バイアスにつ いて学ぶ。また事象の関連や因果関係の判断を惑わせる「交絡」について学 ぶ。 講義 予習：p.83～91を読む。 復習：配布資料に目を通し、要点をノートにまとめる。 キーワード：偶然誤差、系統誤差、妥当性、信頼性、バイアス、交絡	朝倉敬子
14	小テストと振り返り①	これまでの学習内容を出題範囲とした小テストを実施し、学生間で解説しあうことで理解を深める機会とする。混乱しやすい用語について整理し理解する機会とする。 授業方法；講義・グループワーク 予習：第1～6回までの学習内容について 復習：小テストの結果を踏まえ復習の必要な項目を振り返る キーワード：頻度の指標、スクリーニング、リスクの指標、疫学研究のデザイン	上地賢
15	小テストと振り返り②	これまでの学習内容を出題範囲とした小テストを実施し、学生間で解説しあうことで理解を深める機会とする。混乱しやすい用語について整理し理解する機会とする。 授業方法；講義・グループワーク 予習：第1～6回までの学習内容について 復習：小テストの結果を踏まえ復習の必要な項目を振り返る キーワード：頻度の指標、スクリーニング、リスクの指標、疫学研究のデザイン	上地賢
16	地域診断の実際①	内容：地域診断の実際について学ぶ 授業方法：講義 予習：JAGESホームページを見ておく https://www.jages.net/project/jagesheart/ 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域診断、ベンチマーキング、プリシード・プロシードモデル	亀田義人
17	地域診断の実際②	内容：地域診断の実際について学ぶ 授業方法：講義 予習：JAGESホームページを見ておく https://www.jages.net/project/jagesheart/ 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域診断、ベンチマーキング、プリシード・プロシードモデル	亀田義人
18	DPCデータ①	内容：DPCデータについて学ぶ 授業方法：講義 予習：厚生労働省HP診療報酬の概要 https://bit.ly/2U7VNMW 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域分析、DPCデータ	亀田義人
19	DPCデータ②	内容：DPCデータについて学ぶ 授業方法：講義 予習：厚生労働省HP診療報酬の概要 https://bit.ly/2U7VNMW 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域分析、DPCデータ	亀田義人
20	データを用いた地域分析①	内容：JAGESデータ、DPCデータを活用して実際に分析を行う 授業方法：講義、グループワーク 予習： DPC評価分科会資料https://bit.ly/2w2pV4m 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域分析、DPCデータ	亀田義人
21	データを用いた地域分析②	内容：JAGESデータ、DPCデータを活用して実際に分析を行う 授業方法：講義、グループワーク 予習： DPC評価分科会資料https://bit.ly/2w2pV4m 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域分析、DPCデータ	亀田義人
22	データを用いた地域分析③	内容：JAGESデータ、DPCデータを活用して実際に分析を行う 授業方法：講義、グループワーク 予習： DPC評価分科会資料https://bit.ly/2w2pV4m 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域分析、DPCデータ	亀田義人
23	地域医療構想①	内容：我が国における地域医療構想について 授業方法：講義、GW 予習：厚生労働省「地域医療構想について」第１回医療政策研修会　第１回地域医療構想アドバイザー会議（資料1）に目を通す。 https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000516866.pdf 復習：講義をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域医療構想、地域分析、病床機能報告データ、DPCデータ	金沢奈津子

24	地域医療構想②	内容：我が国における地域医療構想について 授業方法：講義、GW 予習：厚生労働省「地域医療構想について」第１回医療政策研修会　第１回地域医療構想アドバイザー会議（資料1）に目を通す。 https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000516866.pdf 復習：講義をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域医療構想、地域分析、病床機能報告データ、DPCデータ	金沢奈津子
25	地域医療構想③	内容：我が国における地域医療構想について 授業方法：講義、GW 予習：千葉県ホームページ「千葉県保健医療計画(平成30年度～令和5年度)」に目を通す。 https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/keikaku/kenkoufukushi/30hokeniryou.html 復習：講義をもとに予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域医療構想、地域分析、病床機能報告データ、DPCデータ	金沢奈津子
26	病床機能報告データ①	内容：病床機能報告データにもとづいた地域分析を通して学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：千葉県ホームページ「病床機能報告制度（令和2年）」に目を通す。 https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/byousyoukinou/r2byousyoukinou.html 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域医療構想、地域分析、病床機能報告データ、DPCデータ	金沢奈津子
27	病床機能報告データ②	内容：病床機能報告データにもとづいた地域分析を通して学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：千葉県ホームページ「病床機能報告制度（令和2年）」に目を通す。 https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/byousyoukinou/r2byousyoukinou.html https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_06944.html 復習：講義、グループワークで得られた知識、技術をもとに教科書内の予習した範囲の内容を振り返る キーワード：公衆衛生、地域医療構想、地域分析、病床機能報告データ、DPCデータ	金沢奈津子

【６】　事前・事後学習とその時間

・非常勤講師（亀田、金沢）が担当する回についてはエクセルの使用できるノートPCを持参すること。
・授業前に講義予定の教科書の範囲を予習すること。その際、理解できないところを抽出しておく。予習に必要な時間として　30分程度が見込まれる。
・講義に用いた配布資料等を復習し、要点をノートにまとめること。復習に必要な時間として1時間程度が見込まれる。
・データを扱った簡単な計算が求められるため、電卓（もしくは電卓機能のある電子機器）を持参することが望ましい。四則演算に不安のある者は復習しておくことを勧める。受講にあたり予習・復習に時間をかけて積極的に取り組むこと。社会に目を向け、普段から新聞・テレビなどの健康に関する情報、社会的な健康問題に関心を持つことを勧める。

【７】　評価方法・基準

定期試験：試験（80%）、小テスト（20%）

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパー等に寄せられたコメントや質問、。講義中に取り組んだ作業については全体に向けて講評する。理解が不十分と考えられる点については次回講義時に全体に向けて適宜解説を加える。

【９】　教科書

はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版. 日本疫学会 監修. 南江堂. 2018年

【10】　参考書

基本からわかる 看護疫学入門 第3版.　大木秀一.　医歯薬出版株式会社.　2017年
国民衛生の動向・厚生の指標 増刊.　一般財団法人厚生労働統計協会.
図説 国民衛生の動向.　一般財団法人厚生労働統計協会.

【11】　備考(関連科目等)

情報科学概論、保健統計と情報処理、公衆衛生看護学など

科目名(日本語)	**政策形成過程論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Policy Formation Process Theory	選択	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	元田宏樹				
担当教員	元田宏樹・結城康博・河村秋				
科目責任者 連絡先(教室)	メールで問い合わせ可能 yy1969@za2.so-net.ne.jp （結城まで）　wayo.kawamura@gmail.com（河村まで） motohiro2030@gmail.com （元田まで）				
オフィスアワー	6月11日及び7月2日（13時～13時50分非常勤講師室います）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

社会と政策、個人と社会の関係の基礎的知識を学修し、国民の健康に関する政策を考えるための知識とする。人間の社会環境として「より望ましい社会」を考えるうえで、施策のあり方が大きく影響することを理解し、国民の健康の在り方を考える視点を養う。

【３】　到達目標

1.国と地方公共団体の行政の仕組みについて説明することができる。
2.地方自治と地方分権について説明することができる。
3.国と地方公共団体の財政の仕組みについて説明することができる。
4.予算の機能と原則について述べることができる。
5.地方公共団体の保健医療行政政策の計画策定・実行・評価のサイクルについて説明できる。
6.国の政策の在り方が人間の社会環境に影響することを知り、「より望ましい社会」を考え、看護職者の役割、地域での活動について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	政策形成過程１	地方公共団体の保健医療行政施策の計画策定・実行・評価のサイクル 講義 復習：本時で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだキーワード	結城康博 （河村秋）
3・4	社会福祉における政策の在り方１	社会環境として「より望ましい社会」とは何かを考える グループワーク・発表 予習：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだこととこの科目で既習したことを関連させて知識の整理をし、グループワークに臨む。 復習：グループワークで話し合った内容の整理をする。また、疑問点は次回の授業で明らかにできるよう準備する。 キーワード：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」「政策形成過程論」で出てきたすべて	河村秋 （結城康博）
5・6	社会福祉における政策の在り方2	「より望ましい社会」を考えるうえで、施策のあり方を考える グループワーク・発表 予習：：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだこととこの科目で既習したことを関連させて知識の整理をし、グループワークに臨む 復習：グループワークで話し合った内容の整理をする。また、疑問点は次回の授業で明らかにできるよう準備する。 キーワード：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」「政策形成過程論」で出てきたすべて。	結城康博 （河村秋）
7・8	社会福祉における政策の在り方3	国民の健康の在り方を考え、看護職者の役割、地域での活動について考察する。 講グループワーク・発表 予習：：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだこととこの科目で既習したことを関連させて知識の整理をし、グループワークに臨む 復習：グループワークで話し合った内容の整理をする。 キーワード：「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」「政策形成過程論」で出てきたすべて。	河村秋 （結城康博）
9・10	政策形成過程2	地方政治と政策決定過程（福祉計画の作成等含む） 講義 予習：地方議会の仕組みをインターネット等で調べておく 復習：地方政治と保健福祉政策における決定か過程を復習する。 キーワード：地方議会、医療・福祉計画、住民ニーズ	元田宏樹
11・12	保健医療福祉行政1	地方自治と地方分権・情報公開と個人情報保護・行政における福祉職の役割と活動 講義 復習：本時で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：地方自治、地方分権、情報公開、個人情報保護、福祉職の役割	元田宏樹
13・14	保健医療福祉行政2	国と地方公共団体の財政の仕組み・・予算の機能と原則・社会保障の給付と財源、国民負担 講義 復習：本時で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：財政、社会保障給付、国民負担	元田宏樹

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、社会福祉に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。
法学（日本国憲法含）を受けている事が望ましい。
　基本的には各回の授業の予習より、復習として学修したことの知識の整理をしてください。時間は学生個々によって違うと思いますので次の授業に支障のないように行ってください。
平均的には毎回30分～60分の時間を要すると思われる。
【学習上の留意点】
　「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだことを関連させて学習をする。

【７】　評価方法・基準

評価は、毎回提出の課題約2割、及び期末レポート試験約8割を総合的に判断して評価する。
※8回目の授業の課題はこの期末レポート試験兼ねます。

【８】　フィードバック方法

フィードバックに関しては、教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。なお、特徴的な質問など全体に周知した方が良い内容については、次回の授業等でコメントする。

【９】　教科書

結城康博・河村秋・大津唯編著『わかりやすい社会保障制度』2018.ぎょうせい出版。
結城康博・河村秋編著『『わかりやすい福祉と医療・保健の仕組み』2021. 書籍工房早山出版。

【10】　参考書

元田宏樹編著『シリーズ 今日から福祉職 押さえておきたい 公的扶助・生活保護行政』2021.ぎょうせい出版
結城康博編著『シリーズ 今日から福祉職 押さえておきたい 介護保険・高齢者福祉』2021. ぎょうせい出版

【11】　備考(関連科目等)

保健医療福祉行政論、社会保障制度、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**周手術期看護・急性重症患者看護**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Peri-operative Nursing and Critical Care Nursing	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	山本利江				
担当教員	山本利江、瀧口千枝、笠間秀一				
科目責任者 連絡先(教室)	山本利江（研究室K333）				
オフィスアワー	質問等は、授業終了後に講義室で10分程度受け付ける。 メールアドレス等、その他連絡方法は授業時間内に提示する。 山本利江（K333）、瀧口千枝（K321）、笠間秀一（K332）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

急激な健康破綻や心身の危機に瀕している患者とその家族への看護として、特に、手術を受ける患者とその家族を対象とする周手術期の看護、重症患者とその家族を対象とする集中治療中の看護、また、急な事故や病気などで早急に医療を必要とする患者とその家族を対象とする救急看護について学ぶ。関連した基礎知識・概念・理論を押さえたうえで、それぞれの看護における対象の特徴、医療や看護活動の特徴、看護職の役割を理解する。さらに、ペーパーペイシェントを用いて、対象の全体像の把握、援助方法の考察を行うことを通して、根拠ある看護を展開する力を育成する。
（山本利江／ 2回＋共同5回)周手術期看護の概説と看護実践の展開方法
（瀧口千枝／12回＋共同5回)急性重症患者看護の概説と看護実践の展開方法
（笠間秀一／ 8回＋共同5回)手術室・救急外来における看護実践の展開方法

【３】　到達目標

1.周手術期看護
(1)手術侵襲に対する生体反応について説明できる
(2)周手術期にある患者の看護の特徴について説明できる
(3)周手術期の患者・家族への看護について説明できる
(4)術前の看護のポイントを3つ以上あげられる
(5)術中の患者の患者管理のポイントを3つ以上あげられる
(6)術後合併症の発生機序を5項目以上説明できる
(7)早期離床の必要性を説明できる
(8)機能別の周手術期の特徴を3機能以上説明できる
(9)手術を受ける患者の問題について考え、看護師の役割とは何か他者と話し合うことができる
2.急性重症患者看護
(1)過大侵襲を受けた患者の生体反応について説明できる
(2)クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴を説明できる
(3)クリティカルケア看護の特性について説明できる
(4)クリティカルな患者に共通する主要病態とケアの関連を説明できる
(5)クリティカルケアの主要病態(循環器系・呼吸器系・脳神経系・消化器系・代謝)における看護問題の特徴を説明できる
(6)クリティカルケア領域における倫理的課題と対応について説明できる
(7)クリティカルケア領域における家族看護について説明できる
(8)クリティカルケア領域におけるチーム医療と看護の専門性について説明できる
3.救急看護
(1)日本の救急医療システムについて説明できる
(2)救急領域で扱う主要な重症病態と治療について説明できる
(3)救急看護の特性と看護師の役割について説明できる
(4)救急患者の全身状態のアセスメント(primary survey＋infection control)とマネジメントについて説明できる
(5)救急患者のケケアについて説明できる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	周手術期看護（1） 周手術期の患者・家族の特徴と看護	内容： ・周手術期看護とは ・手術侵襲による生体反応と合併症 ・手術を受ける患者・家族への心理的援助 授業方法：講義 予習：教科書の侵襲に対する心身の反応に該当する部分を読む 復習：授業まとめの課題、疾病と治療Ⅳ（麻酔科）の授業内容とを関連付ける キーワード：手術侵襲、患者家族の心理変化とケア、危機理論、生活の変化、ボディイメージの変化	山本　利江
3・4	周手術期看護（2） 術前の看護	内容： ・術前患者のアセスメント ・術前のオリエンテーションと術前準備 ・意思決定支援 ・手術室の特殊な構造（空調設備、配置、医療機器） ・手術室の環境と患者の安全管理 授業方法　講義 予習：教科書①P.48-65を読む、教科書①P.67-73を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード術前オリエンテーション、術前訓練、術前検査　意思決定支援、手術室の構造	笠間　秀一
5	周手術期看護（3） 身体機能別に考える周手術期看護1	内容： 課題提示および課題学習 ・手術・麻酔によって起こる生体反応と変化（情報の整理） 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての自己学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	山本　利江 瀧口　千枝 笠間　秀一
6・7	周手術期看護（4） 術中の看護	内容： ・手術室での観察と援助（入室時・麻酔導入時・術中・麻酔覚醒時・退室時） ・手術中の看護師の役割（直接介助、間接介助） ・手術中の合併症 ・手術を受ける患者のアセスメントと看護問題 授業方法：講義 予習：ナーシング・スキル（手術室への出棟、患者誤認防止策、全身麻酔導入時の介助）の動画資料の視聴。教科書①P.74-91を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード：感染予防　麻酔侵襲、手術体位　呼吸管理　循環管理　体温管理	笠間　秀一
8・9	周手術期看護（5） 術後の看護	内容： ・術直後の観察ポイント ・術後合併症予防と回復促進への援助 ・術後の創傷管理と疼痛管理 ・術後せん妄と予防のため看護 ・障害やボディイメージの変化への適応に向けた援助 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード：意識レベル、覚醒遅延　術後悪心･嘔吐　術後せん妄　肺合併症　循環器合併症　術後感染　縫合不全　深部静脈血栓　肺梗塞症　創傷管理　疼痛管理　早期離床　術後イレウス　身体機能変化　ボディイメージ　退院指導　退院支援　心理的援助　セルフケア	笠間　秀一
10	周手術期看護（6） 身体機能別に考える周手術期看護2	内容： 課題学習 ・手術・麻酔によって起こる生体反応変化と個別性の関連（アセスメント） 授業方法：個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての自己学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	山本　利江 瀧口　千枝 笠間　秀一

11・12	クリティカルケアの主要病態と看護（１）総論	内容： ・集中治療の現状 ・クリティカルケアの場（種類・目的・構造・機能・特徴） ・過大侵襲と生体反応 ・集中治療後症候群（PICS）とその予防 方法：講義 予習：　教科書①:P.6-12, 教科書②:P.25-36, P45-48, 129-137 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：集中治療室、侵襲への生体反応のプロセス、ショック、体液バランス、補助循環療法、人工呼吸管理、播種性血管内凝固症候群（DIC）、多臓器不全、敗血症、四肢切断、全身性炎症反応症候群（SIRS）、血液濾過透析法集中治療後症候群（PICS、PICS-F）、ICU-AW、せん妄、ABCDEFGHバンドル、浅い鎮静、十分な鎮痛、気管挿管中の患者とのコミュニケーション方法、精神科リエゾンチーム	瀧口　千枝
13	クリティカルケアの主要病態と看護（２）危機理論と看護介入	内容： ・危機理論と看護 ・クリティカルケア看護の特性と役割 方法：講義 予習：参考書②成人看護学総論成人看護学①: P.200-209, 教科書①: P.17-28, 教科書②: P.37-39, P.200-209. 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：危機モデル、危機介入、アギュララメズイック・フィンク、代理意思決定支援、家族看護	瀧口　千枝
14・15	周手術期看護（7) 身体機能別に考える周手術期看護3	内容 課題学習 ・手術侵襲と身体機能低下および看護問題のつながり（関連図作成） ・術前・術中・術後に求められる看護（看護問題抽出） 授業方法：個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての追加学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	山本　利江 瀧口　千枝 笠間　秀一
16・17	クリティカルケアの主要病態と看護（３）循環障害	内容： ・循環器系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・循環器系に障害のある重症患者への看護 方法：講義 予習：教科書①: P.14-16, P.192-210, 教科書②: P.121-128, P.149-168, P.214-215, P.248-262.人体の構造と機能Ⅰ（循環器）の復習、疾病と治療Ⅰ（循環障害）の復習、疾病と治療Ⅱ（循環器）の復習、機能障害のある患者の看護（慢性心疾患）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：循環不全のフィジカルアセスメント、緊急性の高い心電図変化、ペースメーカー、除細動器、救急カート、ショック、虚血性心疾患、経皮的冠動脈形成術（PCI）、心不全、不整脈、動脈瘤、開心術後の看護、大動脈バルンパンピング（IABP）、前負荷・後負荷、補助循環中の看護、心負荷	瀧口　千枝
18・19	クリティカルケアの主要病態と看護（４）呼吸障害	内容： ・呼吸器系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・呼吸器系に障害のある重症患者への看護 方法：講義 予習：教科書①: P.173-190, 教科書②: P.120-123.人体の構造と機能Ⅰ（第5～8回：呼吸器）の復習、疾病と治療Ⅱ（第1～3回：呼吸器）の復習、機能障害のある患者の看護（第8-9回：慢性呼吸器疾患）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：呼吸不全のフィジカルアセスメント、Ⅰ型呼吸不全、Ⅱ型呼吸不全、CO2ナルコーシス、ECMO、侵襲的人工呼吸、気管吸引、カフの管理、口腔ケア、人工呼吸器関連肺障害（VALI）、人工呼吸器関連肺炎（VAP）、非侵襲的人工呼吸、肺切除術後の看護、胸腔ドレナージ、呼吸理学療法	瀧口　千枝
20・21	クリティカルケアの主要病態と看護（５）中枢神経障害	内容： ・脳神経系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・脳神経系に障害のある重症患者への看護 方法：講義 予習:教科書①: P.149-172. 教科書②: P141-146, p.169-193.人体の構造と機能Ⅱ（中枢神経）の復習、疾病と治療Ⅱ（脳神経）の復習、疾病と治療Ⅳ（神経系の救急疾患） 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：脳神経疾患患者のフィジカルアセスメント、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、痙攣、不穏、コーマスケール、瞳孔反射、麻痺、知覚障害、開頭術後の看護、脳室･脳槽ドレナージの管理、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、脊髄損傷、髄膜炎	瀧口　千枝

22・23	クリティカルケアの主要病態と看護（６）肝機能障害・腎機能障害・凝固系障害	内容： ・肝機能に障害のある重症患者の全体像の把握 ・肝機能に障害のある重症患者への看護 ・急性腎障害と看護 方法：講義 予習:教科書①: P248-266.人体の構造と機能Ⅲ（消化器、泌尿器）の復習、疾病と治療Ⅱ（消化器、泌尿器）の復習、機能障害のある患者の看護（消化器障害）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：消化器系のフィジカルアセスメント、吐・下血、消化管穿孔、汎発性腹膜炎、肝機能障害、肝不全、食道静脈瘤、門脈圧亢進症状、肝切除術後の看護・DIC	瀧口　千枝
24	周手術期看護（8） 身体機能別に考える周手術期看護4	内容 課題学習の解説 ・看護展開の共有・解説 ・まとめ 授業方法：講義　個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての追加学習とまとめ 復習：看護展開の追加修正 キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	山本　利江 瀧口　千枝 笠間　秀一
25・26	救急看護	内容： ・日本の救急医療システム ・救急領域で扱う主要な重症病態と治療 ・救急看護の特徴と看護師の役割 ・救急患者の全身状態のアセスメント（トリアージ、Primary survey＋infection control） ・救急患者のケア 方法：講義 予習：教科書②　P.53-87を読んでくる 復習：　Primary survey＋infection control キーワード：救急医療システム、トリアージ、Primary survey、infection control、緊急度と重症度、多職種連携、BLS、ACLS、心肺停止、急性医薬品中毒、自殺企図、外傷、熱傷、低血糖発作・敗血症	笠間　秀一
27	クリティカルケアの看護実践を支える枠組み	内容： ・クリティカルケア領域における倫理的課題 ・クリティカルケア領域の家族看護 ・クリティカルケア領域におけるチーム医療と看護師の役割 ・クリティカルケア領域の看護師の専門性 方法：講義 予習：看護者の倫理綱領（日本看護協会）、教科書①: 40-45,　教科書②: P49-51. 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：倫理原則、意思決定、身体拘束、DNAR、脳死、臓器移植、アドバンスドケアプランニング（ACP）、家族のニード、チーム医療、コンサルテーションチーム、多職種連携、ケアコーディネーション	瀧口　千枝

【６】　事前・事後学習とその時間

・授業に用いるための情報収集（予習）　30～60分
・課題、レポートまたは学習内容のまとめ（復習）30～60分
・臨床実践Ⅲに直接結びつく内容であるため、予習復習を着実に行い、知識を十分身につけることを期待する

【７】　評価方法・基準

定期テスト（70%）、小テスト・その他の課題（10%）、個人ワークの成果（20%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解について全体にコメントする

【９】　教科書

①看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護　第3版　林直子　佐藤まゆみ（南江堂）2019
②看護テキストNICE　成人看護学　急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア　第3版　佐藤まゆみ　林直子（南江堂）2019

【10】　参考書

①系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①　第15版　医学書院　2018
②カラービジュアルで見てわかる！はじめての手術室看護　第1版第11刷　メディカ出版　2019
③Nursing Profession Series　手術看護-術前術後につなげる術中看護-　第2版　医歯薬出版株式会社　2018
④病気がみえるシリーズ

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、基本技術Ⅰ～Ⅲ，Ⅵ、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、臨床心理学

「この科目に続く内容の科目」臨床実践Ⅱ，Ⅲ、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、看護の基本技術Ⅴ，Ⅶ～Ⅸ、がん看護・緩和ケア、看護倫理学、チーム活動論、臨床実践技術の探求

科目名(日本語)	**がん看護・緩和ケア**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Oncology Nursing and Palliative Care	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	浅野美知恵				
担当教員	浅野美知恵・水流添秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	浅野研究室(K318、michie.asano@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	授業開講日13時～13時50分。各担当者の研究室。 浅 野 (K318研究室)：michie.asano@hs.toho-u.ac.jp 水流添(K323研究室)：hideyuki.tsuruzoe@hs.toho-u.ac.jp				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【2】　授業概要

がん患者とその家族を対象とする看護について学ぶ。がん看護・緩和ケアにおける対象の特徴、がん医療・緩和ケアの特徴、看護活動の場の特徴、看護職の役割、主な理論・概念、トータルペインを抱える対象の全体像把握、がんの治療と苦痛症状に対する援助方法など基礎知識を理解する。さらに、がんとともに生き抜く患者をケアするための根拠ある看護実践の展開方法について学ぶ。
（浅野美知恵／10回）がん看護・緩和ケアの概説と看護実践の展開方法
（水流添秀行／4回）がん予防・診断期の看護とがん化学療法を受ける人の看護

【3】　到達目標

1.がん罹患・治療を受ける患者とその家族の特徴と全体像を把握する方法を説明できる。
2.がん看護・緩和ケアにおける看護師の役割について具体的に説明できる。
3.がんの経過に応じた看護の特徴と援助方法を具体的に説明できる。
4.緩和ケアにおける症状マネジメントについて具体的に説明できる。
5.がん看護・緩和ケア活動における倫理的課題と対応について3つ以上説明できる。
6.がん放射線療法の経過に応じた看護の特徴と援助方法を具体的に説明できる。
7.がん薬物療法看護の特徴と援助方法を具体的に説明できる。
8.代替補完療法の特徴と援助方法を具体的に説明できる。
9.がん終末期の経過に応じた看護の特徴と援助方法を具体的に説明できる。
10.がん看護・緩和ケアにおける根拠ある看護実践における課題を述べることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	がん看護学とは	内容 1. 科目オリエンテーション 2. がん医療・緩和ケアの概説 3. がん看護の概説 方法：講義、DVD視聴 予習：テキスト1第1-3章 テキスト2第Ⅳ章を読んで臨む。 復習：授業内容を整理する。 DVD視聴（がん看護の実践「がん看護に求められる専門性」・「症状マネジメントとがんサバイバー支援」・「がんサバイバーからのメッセージ」 約30分） キーワード：がん医療、緩和ケアの定義、がん対策基本法、がん罹患、生活への影響、チーム医療、集学的がん治療、がんサバイバーシップ、患者のQOL、家族、倫理的課題、看護師の役割、がん看護専門看護師、認定看護師	浅野　美知恵
2	がん患者と家族の特徴と主な看護援助	内容 1. がん患者の特徴と主な看護援助 2. がん患者の家族の特徴と主な看護援助 3. がんの経過に応じた看護の特徴と援助方法 方法：講義、ディスカッション 予習：テキスト1第1･2章､第3章Cを読んで臨む。 復習：がんを生きる’意味、がん罹患・予防の意味、告知の意味について考察する。 キーワード：患者の発達段階に応じた看護、がんの経過に応じた看護、がん治療の場と看護、チーム活動、がんサバイバーシップ、ストレス・コーピング、危機理論、ボディイメージ、トータルペイン、セルフケア、がん対策推進基本計画、がん診断プロセス、健康観、保健行動、家族、意思決定支援、がん体験者の療養生活と人生、アセスメント法、小児期発症のがん患者、AYA世代がん患者、成人期がん患者、老年期がん患者	浅野　美知恵
3	緩和ケアの方法論	内容 1. 苦痛緩和のアセスメント法 2. 主な苦痛/症状緩和の援助方法 3. 症状緩和の実際 方法：遠隔授業(オンデマンド)、講義、DVD視聴 予習：テキスト2第Ⅳ･Ⅴ･Ⅵ章を読んで臨む。 復習：緩和ケアの具体的方法を整理する。 DVD視聴（多様ながん看護「がんリハビリテーション」･「緩和ケア」･「終末期における看護」約24分（「小児がん看護」約11分） キーワード：トータルペイン、全人的ケア、苦痛の意味、症状マネジメント、アセスメントツール、疼痛マネジメント、アウトカム測定、セルフマネジメント	浅野　美知恵
4	がん看護･緩和ケアの倫理	内容 1. がん医療・看護における倫理的課題と看護の役割 2. 倫理的課題のアセスメント法 3. 倫理的課題の主な対応方法 方法：遠隔授業(オンデマンド)、講義 予習：テキスト1第3章C･D､6章､2第Ⅱ･Ⅲ章を読んで臨む。 復習：がん看護・緩和ケアの倫理的状況における看護活動について考察する。 キーワード：悪い知らせの伝達、がん治療および療養の意思決定、アドバンス・ケア・プランニング、がん生殖医療と倫理、家族性腫瘍の遺伝子診断と倫理	浅野　美知恵
5	がん予防･早期発見の看護	内容 1. がん罹患の原因と予防・早期発見に関する施策 2. がん予防に関わる看護 3. 遺伝性腫瘍と看護 方法：遠隔授業(オンデマンド)、講義 予習：テキスト1 第3章Cを読む。 復習：講義内容の復習、自分や家族のがん予防について振り返る。 キーワード：がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん予防法、がん検診、保健行動、健康観、遺伝性腫瘍、遺伝性カウンセリング、がんの経過に応じた看護、がんサバイバーシップ、多職種連携	水流添　秀行
6	がん診断期の看護	内容 1. がん診断から治療が決定するまでの経過 2. がん診断期の患者・家族の状態 3. がん診断期にある患者・家族の看護 方法：遠隔授業(オンデマンド)、講義 予習：テキスト1第2章､第3章Cを読んで臨む。 復習：講義内容の復習、がん診断(告知)による状況を自分に置き換えて考える。 キーワード：がん診断プロセス、がんの分類、標準治療、非標	水流添　秀行

		キーワード：がん診断プロセス、がんの分類、標準治療、悲嘆、危機理論、ストレス・コーピング、トータルペイン、意思決定支援、家族の負担、がんの経過に応じた看護、看護を提供する場所、がんサバイバーシップ	
7	がん治療看護（1）：がん薬物療法を受ける人の看護	内容 1.　がん薬物療法の目的・特徴 2.　がん薬物療法に伴う有害事象と生活への影響 3.　がん薬物療法を実施する患者への看護 方法：講義 予習：　テキスト1　第4章B､5章C、6章を読む。 復習：講義内容の復習（がん薬物療法を実施する患者への看護）。 キーワード：集学的治療、薬物療法、レジメン、免疫チェックポイント阻害薬、効果判定、有害事象、有害反応、副作用、副作用の予防とケア、抗がん剤暴露対策、薬物療法の生活への影響、通院治療室	水流添　秀行
8	がん治療看護（2）：がん患者の社会復帰支援	内容 ・がん治療に伴う社会生活への影響 ・がんサバイバーの社会復帰支援への看護 方法：講義 予習：テキスト1　第3章A・B、第6章を読む。 復習：がんサバイバーの社会復帰に向けた事例に対して退院支援オリエンテーションを考える(課題)、講義内容の復習 キーワード：がんサバイバー、がん治療の社会生活への影響、社会復帰に向けた患者の価値観、経済的負担、社会復帰に向けた看護、 退院支援、セルフヘルプグループ、就労支援、多職種連携	水流添　秀行
9･10	がん治療看護（3）：がん放射線治療を受ける人の看護	内容 1. がん放射線治療に伴う身体の変化と生活への影響 2. がん放射線治療経過に沿う看護 方法：講義、DVD視聴 予習：テキスト1第4章Ｃ､5章A･D読んで臨む。 復習：被爆に対する防護､援助方法を整理する。 キーワード：標準治療、安全、有害事象、Quality of life、治療中の生活、家族、チーム医療、他職種連携、看護師の役割	浅野　美知恵
11	がん治療看護（4）：代替補完療法と看護	内容 1. 代替補完療法とエビデンス状況 2. 代替補完療法を受ける人への看護 方法：講義、グループワーク 予習：資料を読んでワークシートの課題を実施し、グループワークの準備をして臨む。テキスト1第1章C､2章B､を読む。 復習：代替補完療法選択におけるエビデンス活用について整理する。 キーワード：エビデンス、安楽と安全、患者の価値観や生き方、QOL、看護師の役割；健康観、保健行動、ストレス・危機理論、家族	浅野　美知恵
12	がん終末期看護（1）	内容 1. ターミナルケア・グリーフケア 2. がん終末期の患者と家族の体験 方法：講義、DVD視聴 予習：テキスト2第Ⅱ･Ⅲ章を読む。 復習：DVD視聴学習をとおして、がんを生き抜く援助と看護の専門性について考察し、ワークシートを完成させて提出する(課題)。 キーワード：意思決定支援、緩和ケア、ターミナルケア、グリーフケア、看取り、死別、遺族、家族の再構成	浅野　美知恵
13･14	がん終末期看護（2） がん看護・緩和ケアの展望	内容 1. がんを生き抜く患者とその家族への看護 事例学習 2. がん看護・緩和ケアの展望 方法：講義、グループワーク 予習：テキスト2第Ⅰ-Ⅲ、Ⅵ章を読む。 復習：がん罹患の意味、がん看護・緩和ケアについて考察する。 キーワード：緩和ケア、ターミナルケア、グリーフケア、看取り、遺族外来、がんサバイバーシップ、看護倫理、がん看護の実践能力、がん看護教育	浅野　美知恵

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の専門基礎教育科目の復習と予習をして臨むこと。本授業はがん看護と緩和ケアの基礎的な知識と展開方法を習得することをねらっているため、関連内容について予習・復習に1.5時間程度必要である。

【学習上の留意点】
患者や家族の体験を記した書籍や新聞記事など社会の現状を理解しながら考察を深める
適宜、参考文献を活用する。標準治療、ガイドラインなど根拠ある看護の資料源を確認する。
対面式授業と遠隔授業の併用で行います。遠隔授業はオンデマンド式と双方向式を取り入れていますので、
授業オリエンテーションで確認してください。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%、課題20％（2題）

【８】　フィードバック方法

課題については、授業時に特徴的な傾向や誤解についてコメントする。ワークシートは返却する。

【９】　教科書

1. 小松浩子他編：系統看護学講座　がん看護学　医学書院
2. 浅野美知恵編：絵でみるターミナルケア改訂版、人生の最期を生き抜く人への限りない援助、学研

【10】　参考書

授業時にその他の関連文献を紹介する。
・恒藤暁他編：系統看護学講座　緩和ケア　医学書院
・系統看護学講座　専門Ⅱ　医学書院　（「人体の構造と機能」で使用したもの）、・看護学テキストシリーズＮＩＣＥ　疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、南江堂「（「疾病と治療」で使用したもの）
・小島操子他監訳：がん看護コアカリキュラム、医学書院
・鈴木志津枝他監訳：がん看護PEPリソース、医学書院
・日本医療学学会編：病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅰ悪性腫瘍、改訂版、第2版、南江堂
・鈴木賢一他編著：がん薬物療法の支持療法マニュアル、南江堂、
・日本放射線腫瘍学会：やさしくわかる放射線治療学、学研メディカル秀潤社
・日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会：がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス2016年版、金原出版
・浅野美知恵・奥野滋子編著：特集　根拠がわかる がん看護ベストプラクティス、がん看護17(2)、2012、南江堂
・浅野美知恵・奥野滋子編著：特集　根拠がわかる 治療とケアのベストプラクティス、がん看護24(2)、2019、南江堂
・浅野美知恵・山﨑智子編：連載企画シームレスに実践ターミナルケア・グリーフケア全7回、
がん看護26(4)(6)(7)(8)、27(1)(3)(4)
・視聴覚教材：「ナーシングチャンネル」成人看護・がん看護

【11】　備考(関連科目等)

教養教育科目、専門基礎教育科目、看護学概論、臨床看護学概論、看護倫理学、看護理論、看護展開論、機能障害のある患者の看護、周手術期看護・急性重症患者看護、ターミナルケア、臨地実習、チーム活動論、看護哲学

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅳ	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝・山本利江・高橋良幸・鈴木俊美・水流添秀行・笠間秀一・				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝　健康科学部棟3階　研究室　K321 Mail:chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	質問、問い合わせは、Moodleの質問コーナー、リアクションペーパー、もしくは授業終了後30分間、直接科目担当者に問い合わせる。（メールする場合は科目責任者のアドレスへ連絡すること。） 質問への回答は、科目担当者が、Moodleもしくは、直接口頭で対応する。 6月23日（木）3.4限は演習室１・５にて看護展開発表会準備のためのオフィスアワーを設ける。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

授業開始時に、スマートフォンアプリを用いて事前学習の理解度確認や学びの共有を行う。

【2】　授業概要

看護実践における応用を含んだ技術の考え方・方法・援助プロセス･態度を学習する。
基本技術Ⅳでは、急性期にある患者への看護技術(周手術期患者管理、呼吸･循環管理、体液管理、創傷管理）の考え方・方法、また災害時に看護師に求められる役割を学ぶ。これらの知識に基づき、クリティカルケア領域の看護実践の倫理的側面に配慮しながら、援助に必要な基本技術を体験する。さらに、ペーパーペイシェントで看護を展開し、より実践に則した援助技術力を育成する。

【3】　到達目標

1. 成人患者の看護の展開方法について具体的に説明できる。
2. 病態生理学、看護学、関連の知識を統合して、対象の状態に応じた事例展開ができる。
3. 事例展開のグループワークにおいて、グループメンバーと協力しながら自らの役割を果たすことができる。
4. グループワークやプレゼンテーションを通して、自己の課題を明確できる。
5. 既習の看護技術を組みあわせて、患者の状況と個別性に応じた看護技術を実施することができる。
6. 急性期に生じやすい皮膚・粘膜トラブルや創傷管理のための看護技術の方法と留意点を説明できる。
7. 病態生理学の知識に基づいた体液管理の方法と留意点について説明できる。
8. 呼吸に問題のある患者のアセスメントに基づいた回復促進・安楽のためのケアの方法を説明できる。
9. 循環に問題のある患者のアセスメントに基づいた回復促進・安楽のためのケアの方法を説明できる。
10. 手術患者のリスクアセスメントに基づいた効果的な術前看護の方法を説明できる。
11. 術後合併症予防のために求められる術後看護の方法と留意点を説明できる。
12. 院内急変をきたした患者の救命のために看護師がとるべき行動について説明できる。
13. 災害看護を自分ごとと捉え、災害時における医療者としての役割を考察できる。
14. 急激な健康破綻をきたした患者の倫理面に配慮した看護の方法を説明できる。
15. クリティカルケア領域における看護実践の特徴と課題について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	科目のガイダンス、急性期の看護展開の方法	科目のガイダンス ・看護展開の方法 ・記録用紙の説明 授業方法：講義、演習 予習：シラバスを熟読しておく。 復習：看護展開の方法の復習、5月16日までに提示された事例のデータベース・アセスメントシートまで完成させ、Moodleの提出ボックスに提出する。 キーワード：生体侵襲、関連図、POS（Problem Oriented System）、看護過程、機能的健康パターン、情報の整理、不足情報のアセスメント、情報の関連、看護問題、看護計画、SOAP、評価	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一
2,3	創傷管理	急性期に起こりがちな創傷とそのケア ストーマ造設中の患者の看護 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴 キーワード： 侵襲、浮腫、医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)、褥瘡、スキンテア、創感染、縫合不全、除圧、洗浄、皮膚保護財、ストーマ	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一
4-8	体液管理	体液管理に関わる看護技術 ・IN takeの管理とOUT putの観察 ・水分出納のバランスのアセスメントと記録 ・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理 ・経腸栄養法の実際 ・胸腔ドレナージの管理 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト実施、レポート提出 キーワード：輸液、輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸血、経腸栄養、胃管の確認、腹腔・胸腔ドレナージ、分泌物、浸出液、不感蒸泄、水分出納（IN/OUTバランス）、24時間経過表	全員（瀧口千枝）
4-8	術前の看護	術前オリエンテーション、術前トレーニング ・リスクアセスメントに基づいた術前看護 ・アドヒアランスを高めるための術前看護 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：ワークシートによるポイントチェック、動画閲覧、事後課題提出 キーワード：予期不安、リスクアセスメント、術前オリエンテーション、術前トレーニング、アドヒアランス、術後合併症、弾性ストッキング、ボディイメージの変化	全員（鈴木俊美）
4-8	事例展開①	情報を整理し、情報の解釈と分析をする 情報同士の関連について考える ・機能的健康パターンのアセスメント ・関連図の作成を通した情報の分析 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：データベースアセスメントシートに情報を整理しておく 復習：データベースアセスメントシートの完成と提出 キーワード：情報の解釈と分析、関連図	山本利江、髙橋良幸
9-13	呼吸管理	呼吸状態のアセスメントと看護 ・呼吸に問題のある患者のフィジカルアセスメント ・気管挿管・気管切開している患者のケア ・様々な気道確保 ・呼吸理学療法 ・効果的な気管吸引 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト、レポート提出 キーワード： 気道確保、気道浄化、呼吸理学療法、体位ドレナージ、咳嗽誘発、気管吸引、清潔操作	全員（瀧口千枝）
9-13	術直後の看護	手術直後の患者の看護 ・麻酔覚醒直後の看護 ・外科的侵襲直後の看護 技術授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画閲覧、レポート提出 キーワード：麻酔覚醒遅延、舌根沈下、シバリング、低体温・復温、術後出血、ドレナージ、疼痛評価、鎮痛、PCAポンプ、喀痰喀出困難、臥床での含嗽	全員（笠間秀一）

9-13	事例展開②	情報の解釈と統合から看護上の問題を明らかにする ・機能的健康パターンのアセスメント ・関連図の作成を通した情報の分析 ・看護問題の明確化 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：関連図を描いておく 復習：関連図・問題リストの完成、提出 キーワード：看護過程、成因、看護アセスメント、具体的ケア計画	山本利江、髙橋良幸
14-18	循環管理・院内急変時の対応	循環動態のアセスメントと看護 ・循環動態に問題のある患者のフィジカルアセスメント ・心電図12誘導検査の実施とアセスメント ・緊急性の高い心電図波形とその対応 院内急変時の看護 ・院内急変時の観察とアセスメントの特徴 ・院内急変時の看護 ・急変に備えた準備について説明できる。 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト、レポート キーワード：不整脈、心筋虚血、心不全、ショック、救急カート、除細動器、AED、ACLS、うっ血、浮腫、ラピッドレスポンスシステム（RRS）、代理意思決定、倫理的課題	全員（瀧口千枝）
14-18	術後1日目の看護	全身麻酔、開腹手術後１日目の患者の回復促進のための援助 ・開腹手術後一日目のフィジカルアセスメント ・早期離床の支援 ・ドレーン挿入、輸液療法中の患者の更衣と移動 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：早期離床、疼痛コントロール、インフェクションコントロール、ドレーン管理、無気肺、肺炎、深部静脈血栓症、術後腸閉塞、起立性低血圧	全員（水流添秀行）
14-18	事例展開③	看護問題の成因および問題として取り上げる根拠を明確にし、問題解決のための看護計画を立案する ・看護問題の成因の明確化 ・看護問題の存在を示す症状･徴候の明確化 ・看護問題として取り上げる根拠のアセスメント ・看護の方向性の決定 ・問題解決のための具体的看護計画立案 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：看護計画立案 復習：看護計画完成、提出 キーワード：看護計画、成因、問題の存在を示す徴候・症状、看護上の問題として取り上げる根拠	山本利江、髙橋良幸
19, 20, 21,	臨床推論・シミュレーション演習	状況設定下の臨床推論 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、レポート キーワード：臨床推論、予測、観察、アセスメント、判断、報告・連絡・相談 シミュレーション演習 授業方法：実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、レポート キーワード：臨床推論、予測、観察、アセスメント、判断、報告・連絡・相談	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一
22, 23	災害看護	災害発生時の看護師の役割 ・災害発生における看護 ・看護師が行うトリアージ 授業方法：ミニレクチャー、グループワーク、実技演習 予習：疾病と治療Ⅳ（災害医療）の復習、指定された動画視聴 復習：動画視聴 キーワード：トリアージ、災害看護、倫理的課題	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一
24, 25	看護展開発表会	科目のまとめ 授業方法：グループワーク、プレゼンテーション、デモンストレーション 予習：プレゼンテーション・デモンストレーションの準備 復習：科目における自らの学びと課題を考察する キーワード：看護展開、振り返り、看護計画の洗練	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一
26, 27	看護展開発表会、科目のまとめ	科目のまとめ 授業方法：グループワーク、プレゼンテーション、デモンストレーション 予習：プレゼンテーション・デモンストレーションの準備、科目の振り返り 復習：科目における自らの学びと課題を考察する キーワード：看護展開、振り返り、看護計画の洗練	瀧口千枝、山本利江、笠間秀一

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本科目は、既存の知識を統合して急性期患者の問題解決の方法を学ぶ。予習に2時間、復習に2時間程度要する。
基本的に予習は、Moodleに提示された資料や動画の閲覧が指定されるため、事前学習の上、演習に臨むこと。

【学習上の留意点】
この講義では対面でのミニレクチャーおよび実技演習、動画配信オンデマンド授業（Moodle）、また必要に応じて双方向性オンライン型授業（ZOOM）を併用する。

＜動画配信型オンデマンド授業＞
・担当者からのお知らせはフォーラム「講義に関するお知らせ」に掲載する。
・科目からのお知らせや教材は随時更新されるため、こまめにチェックする。
・課題の提出は全てMoodleで行い、課題提出物のファイル名は、必ず「学籍番号　氏名　課題名」とする。
・疑問や不安は、質問コーナーもしくはリアクションペーパーから、もしくは直接教員に質問し解決に努めること。
・先行する周手術期看護・急性重症患者看護と、関連付けながら学修すること。
・繰り返し復習して、学修内容の修得に努めること

＜双方向性オンライン型授業＞
・必要に応じて、双方向オンライン型の授業を行う。
・指定された日時に、ZOOMから授業参加できるように準備しておく。
・何らかの事由により参加が困難な場合は、必ず欠席連絡し、教員と相談の上、学修内容の修得に努める。

【７】　評価方法・基準

定期テスト（50%）、提出物：小テスト・その他の課題の内容（20%）、事例展開記録物（30%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

テスト、小テスト・レポートのフィードバックは、対面もしくはMoodleで全体講評、必要に応じコメントをつけて個人に返却する。
事例展開の成果物については、対面もしくはMoodle上で全体講評、必要に応じコメントをつけて個人に返却する。

【９】　教科書

教科書は使用せず、配布資料または、Moodleに提示された資料を参照する。

【10】　参考書

完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド（第3版）　坂本すが　井手尾千代美　（照林社）2015
術後ケアとドレーン管理のすべて　第1版　竹末芳生　藤野智子（照林社）2016
新体系 経過別成人看護学　急性期看護：クリティカルケア　第1版　明石　惠子　益田美津美　（メヂカルフレンド社）　2017
看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護　第2版　林直子　佐藤まゆみ（南江堂）
看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア　第3版　佐藤まゆみ　林直子（南江堂）
ナーシング・スキル日本版　https://www.nursingskills.jp/Login

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」
周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、基本技術Ⅰ～Ⅲ，Ⅵ、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護

「この科目に続く内容の科目」
臨床実践Ⅱ，Ⅲ、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、看護の基本技術Ⅴ，Ⅶ～Ⅸ、がん看護・緩和ケア、看護倫理学

科目名(日本語)	**臨床実践Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅱ	必修	実験・実習	通年 3年	2単位 90時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋良幸・鈴木俊美・水流添秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	髙橋良幸（K312） y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	毎日の臨地実習終了後、学生控え室や講義室にてオフィスアワーの時間を設ける。 学内実習日は各担当教員の研究室にて16:00～17:00とする。 髙橋良幸（K312）y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp 鈴木俊美（K324）toshimi.suzuki@hs.toho-u.ac.jp)・水流添秀行（K323）hideyuki.tsuruzoe@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Moodle

【２】　授業概要

治療を受ける患者の健康障害、疾患の病像、患者の発達段階を踏まえて、その人らしい生活を営めるよう看護を展開する。また、看護展開に関する思考過程に基づいて、看護援助を実践し評価する。そして、看護/臨床倫理の現象を把握し、患者の権利、意思決定を支援することの重要性を理解する。さらに、治療を受ける患者の看護や終末期看護について考察し、今後の課題を明確にする。

（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 様々な疾病の経過にある対象の健康障害、疾患の経過について説明することができる。
2. 発達段階を踏まえ、対象を全人的に理解し、対象の全体像を説明することができる。
3. 科学的根拠を踏まえ、かつ、論理的思考に基づき、対象の疾病経過に応じつつ、その人らしい生活が営めるよう援助を見いだすことができる。
4. 看護援助を実践し、援助の効果を客観的に評価することができる。
5. 医療チームの一員としての行動をとることができる。
6. 生命の尊厳を基盤に、倫理的問題に気づき、尊厳を擁護した望ましい行動を説明することができる。
7. 看護職者としての自己の課題について向き合い、解決に向けた主体的な行動をとることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	臨床実践Ⅱでは、臨床看護学の集大成の実習として、様々な疾患の経過（周手術、急性期、下降期、終末期）にある対象を受け持つ。受け持った対象の発達段階を踏まえ、健康障害・疾患の病態を理解し、対象を全人的に捉える。そして、対象がその人らしい生活を営めることができるよう最善の援助を考え看護を実践する。 実習施設：東邦大学医療センター佐倉病院 実習方法 ・グループごとに2週間の臨地実習を行う。 ・1～2名の患者を受け持ち、実習指導者の指導の下、看護を実践する。 ・受け持ち患者の全体像把握や看護実践のために必要な事柄を調べる。 ・カンファレンスにおけるグループ討議、発表を行う。 ・指導者を交えてまとめを行う。	全員
	オリエンテーション	7月・8月に実習目標、実習概要、実習方法、記録用紙の記載方法等についてオリエンテーションを行う。目標を達成するための詳細な学修内容は、臨床実践IIの実習要項に示す。 1. 全体オリエンテーション(学内)：科目責任者 学生配置、担当教員、実習施設の使用方法、実習にあたっての注意事項、実習中の感染対策、課題、看護技術の練習等について説明する。 2. グループ別オリエンテーション(学内):実習担当教員 ・事前課題の実施状況の確認と指導 ・実習病棟の概要と必要な学修内容や看護技術の提示 ・実習病棟における諸注意や留意点	全員
	１週目	1. 実習初日 ・病棟紹介：病棟の概要・配置、看護体制、看護物品の場所と使用方法等 ・受け持ち患者の決定と受け持ち患者紹介 ・受け持ち患者の情報収集と関係づくり 2. 実習1週目 2日目から5日目 ・受け持ち患者の全体像把握と看護上の問題の抽出 ・援助計画の発表と指導者からの助言による調整 ・援助は、臨床状況と学生の準備状況に応じて実施する。	全員
	2週目	1.　2週目の1日目～から4日目 ・受持ち患者の看護を実践、報告、評価、看護計画の修正 ・看護展開の評価を発表 ・事例検討、倫理についてのカンファレンスの実施 2.　2週目の4日目午後 ・カンファレンスの実施： 病棟看護師長、実習指導者を交えて行う。 実施した看護とその評価、実習の学びについて発表し、意見交換/ディスカッションする。	全員
	最終日	・実習のまとめ:記録整理・自身の行った看護を振り返る ・個別面接による相互評価 ・実習レポート及び記録提出	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

〈準備学習〉
・事前課題を行う。
・実習する病棟で受け持つことか？予想される疾患・検査・治療を調へ？る。
・看護援助に必要な看護技術の練習を行う。
・本授業は、治療を受ける患者および終末期にある患者の看護実践に焦点をあて、情報収集、アセスメント、計画立案など実習記録を整理し実践力を向上させることを狙っているため、関連内容について予習・復習に2時間程度費やす。
〈実習中における予習学習〉
・受け持ち患者の病態、翌日に実践する看護技術や検査・治療について調べる。
・カンファレンスで用いるレポートとしてこれまでの看護をまとめる。
〈実習中における事後学習〉
・実習記録による実践の振り返りを行う。
・その日の疑問を解決するため調べる。
・患者および電子カルテから収集した情報の整理・アセスメント・計画立案をする。
〈学習上の注意点〉
・変化している臨床現場での学修となるため、事前学習や事後学習内容については担当教員や実習指導者に確認しながら主体的に学習すること。

【７】　評価方法・基準

実践内容(観察、コミュニケーション、アセスメント、看護計画・実施・評価、記録)60%、 学修者としての態度・専門職者としての態度20%、課題レポート20%。

【８】　フィードバック方法

臨地における看護の考え方、実践内容、態度については随時口頭で伝える。病棟の実習指導者からフィードバックを得ることもある。実習記録への添削によるフィードバックを行う。
実習最終日は、教員との個別面談を通じ、より個別で具体的なフィードバックを行う。
提出した実習記録等は後日教員が添削し、学生に返却する。

【９】　教科書

専門基礎教育科目および専門科目で提示された教科書、資料

【10】　参考書

随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

〈この科目につながる科目〉

人体の構造と機能I～III、疾病と治療I～V、基本技術I～IV、臨床看護学総論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、臨床心理学、発達看護論、機能障害のある患者の看護、周手術看護、がん看護・緩和ケア、ターミナルケア、臨床栄養学、リハビリテーション論

〈この科目に続く内容の科目〉

看護倫理学、援助的人間関係論、チーム活動論、看護の役割と実践の探究、臨床実践技術の探究、臨床実践の探究、看護研究

科目名(日本語)	**臨床実践Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅲ	必修	実験・実習	通年 3年	2単位 90時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝・山本利江・笠間秀一				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝　chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp　(研究室K321)				
オフィスアワー	実習日の16:00から16:30まで実習施設の学生控室にてオフィスアワーを設ける。 実習終了時に集中治療室実習・救急外来実習は瀧口に、手術室実習は笠間に声をかけること。 その他、Moodleメッセージで問い合わせを受け付ける。 メールする場合は科目責任者のアドレスへ連絡すること。 山本利江（研究室K333） 笠間秀一（研究室K332）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

急激な健康破綻をきたした対象を、病態、治療経過、心理･社会的状況、発達段階を踏まえて全人的に理解し、侵襲からの回復を促進する看護を実践する能力を養う。本実習では、集中治療室、手術室、救急外来において生命の安全が脅かされた対象の看護を看護師とともに計画立案/実践/評価、または見学する。体験を通して、心身の危機状態にある対象の状態把握、変化の予測、回復促進のための具体的援助方法を学習するとともに、クリティカルケア領域のチーム医療における看護師の役割、クリティカルケア領域に特有な倫理的課題と患者擁護の方法を考察する。さらに実習のリフレクションに基づいて意味づけを行い、今後の課題を明確にする。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

1.急激な健康破綻をきたしている患者とその家族の特性を説明できる。
2.急激な健康破綻をきたしている患者の看護展開を考えることができる。
3.指導者とともに看護ケアを実施する経験、または見学を通して、急激な健康破綻をきたしている患者とその家族に対するケアの特性を考察できる。
4.クリティカルケア領域で協働する医療チームの中での看護師の役割を説明できる。
5.クリティカルケア領域における倫理的課題を整理し、対象と状況に応じた患者擁護のための方法を考察することができる。
6.看護専門職を目指す学生として、自覚と責任のある行動がとれる。
7.実践・見学をふり返り、考察、意味づけを行い、看護について自分の考えをまとめることができる。さらに今後の課題を明確に表現できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション（学内）	目標達成するための詳細な学習内容は、臨床実践Ⅲ実習要項に示す。 1．実習オリエンテーション 日時　　2022年7月〇日 場所　　3年生講義室 内容　　実習担当教員からのオリエンテーション ・実習の目的・目標、方法、評価などについてのオリエンテーション ・実習配置、実習班 ・事前課題の配布 ・個人目標の立案	全員
	実習オリエンテーション（臨地）	2．臨地オリエンテーション（実習1日目とする） 日時　　2022年8月最終週もしくは9月第1週に予定（調整後連絡します） 場所　　東邦大学医療センター大森病院 内容　　実習施設職員からのオリエンテーション および施設見学 ・病院オリエンテーション ・実習部署（中央手術部、救急救命センター）の特徴と概要についてのオリエンテーション ・施設見学 実習担当教員からのオリエンテーション ・実習における注意事項の確認 ・実習目標の再確認 ・事前課題の提出・確認 ・個人目標の再確認	全員
	臨地実習（全体概要）	3．臨地実習 1）臨地実習施設 東邦大学医療センター大森病院（10日間） 2）臨地実習スケジュール ・臨地オリエンテーション（1日間） ・病院実習（8日間） ・学内実習（1日間）	全員
	臨地実習（手術室実習）	①　手術室実習（3日間） 以下の3つの実習をローテンションで実施する。 ＜周手術期センター＞ ・周術期センター担当看護師のシャドウイング ・手術患者の流れの見学 ＜全身麻酔手術見学＞ ・全身麻酔手術を担当する間接介助看護師のシャドウイング ・翌日全身麻酔予定の患者を1名受け持ち、情報収集する ・受け持ち患者の術中の看護計画を立案する ・術前訪問があれば同行する ＜全身麻酔手術患者の術中看護実施＞ ・受け持ち患者の手術の間接介助看護師とともに、立案した看護ケアを実施する。 ・実施後は、間接介助看護師とともに評価をする	全員
	臨地実習（救急外来実習）	②救急外来実習（1日間） ＜救急外来見学＞ ・救急外来担当看護師のシャドウイング ※最終日に手術室実習・救急外来のまとめカンファレンスを実施する（指導者同席）	全員
	臨地実習（集中治療室実習）	③集中治療室実習（4日間） 受け持ち患者の看護展開を実施する ＜初日＞ ・オリエンテーション ・受け持ち患者の情報収集と関係づくり ・集中治療室看護師のシャドウイング ・日々のカンファレンス ＜2日目～3日目＞ ・受け持ち患者の全体像把握 ・受け持ち患者の看護展開 ・集中治療室看護師のシャドウイング ・指導者とともに看護ケアを実施・評価 ・日々のカンファレンス ＜4日目＞ ・指導者とともに看護ケアを実施・ケアの評価 ・ICU実習のまとめカンファレンス（指導者同席） 2．学内実習	全員

		3.学内実習 実習のまとめ（1日間） 実習内容と学びの共有と実習のまとめを行う (1)グループディスカッション ・クリティカルケア領域の倫理的課題について ・急激な健康破綻をきたしている患者・家族の特性と望ましい看護について (2)リフレクション ・実習中に感じたことや悩んだことなどを自由に語りあうことにより、自身のグリーフケアや経験の意味づけに繋げる。 (3)個別面接 ・担当教員との個別面接により実習評価および自己の課題の明確化を行う	
	その他	【予習・復習・キーワード】 予習：侵襲時の生体反応、危機理論、生命維持装置、周手術期看護（術前看護、術中の体位と術式、術中合併症と予防）、手術・麻酔の身体への影響、麻酔薬の種類・目的・副作用、開腹・開胸手術の概要、鏡視下手術の特徴 看護展開方法の復習（情報整理、全体像理解、関連図作成、問題抽出、計画立案、評価の視点） 復習：行った看護の実施状況の振り返り　計画の評価修正　課題レポート キーワード：クリティカルケア看護、生体侵襲、生命維持装置、回復促進、QOL、集中治療室、手術室、救急外来、看護展開、エンパワーメント、インフォームド・コンセント意思決定支援、代理意思決定、家族看護、倫理的課題	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前・事後学修】
実習科目であるため、実際のケアが展開できるよう関連科目の教科書・資料の学習および文献等による追加学習を十分に行うことが必要である。そのため、予習には90分程度以上、復習には90分程度以上を要する。
【学習上の留意点】
本実習は、クリティカルケア領域という緊張度の高い場での実習である。そのため、履修生は実習前・中を通し心身の体調管理に努めるとともに、心身の不調があればすぐに担当教員に報告することが重要になる。

【７】　評価方法・基準

評価割合
【80%】実習内容（態度・姿勢も含む）と記録
【20%】課題レポート

【８】　フィードバック方法

実習記録はその都度フィードバックする。
目標達成状況について最終日に個人面談でフィードバックする。
実習記録・課題レポートは結果を返却する。

【９】　教科書

専門基礎教育科目および臨床看護学で提示された教科書および資料

【10】　参考書

適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅴ、基本技術Ⅰ～Ⅸ、生化学、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、臨床心理学、発達看護論、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、看護の基本技術Ⅴ，Ⅶ～Ⅸ、がん看護・緩和ケア
「この科目と同時期に行われる科目」臨床実践Ⅱ
「この科目に続く内容の科目」看護倫理学、援助的人間関係論、チーム活動論、臨床実践技術の探求

科目名(日本語)	ファミリーヘルス看護論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Family Health Nursing	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林ひろみ・渡邊尚子・原田慶子・原田奈美・中嶋秀明・林華子				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美 (masami.usui@hs.toho-u.ac.jp (K331研究室)				
オフィスアワー	授業終了後10分程度および授業開講日16：20～18：00。また、メールおよびMoodleのメッセージでの問い合わせに応じます。各教員のメールアドレス、研究室は以下の通り。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331），林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp（研究室K329），渡邊尚子：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（研究室K334），原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp（研究室K330），原田奈美：nami.harada@hs.toho-u.ac.jp（研究室K324），中嶋秀明：hideaki.nakashima@hs.toho-u.ac.jp（研究室K323)，林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K325)				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle,Zoom

【2】 授業概要

社会の最小単位である家族の健康生活について、集団としての家族と構成員である個人の健康を精神面の健康も含めてファミリーヘルスとして捉える。看護の対象としての家族の特徴、健康と疾病が家族の健康生活に及ぼす影響、ファミリーヘルスにおける看護の役割と機能、主な理論・基本的概念、援助方法など基礎知識を理解する。さらに、主な家族看護理論に基づく看護展開の方法を学び、ファミリーヘルスにおける看護について考察するとともに、家族と病の苦悩について考える力を養う。
（オムニバス方式／全8回)
（臼井雅美／4回）家族およびファミリーヘルス看護の概念・子の立場から捉えるファミリーヘルス・国内外における代表的な家族アセスメントモデル
（林ひろみ／2回）親の立場から捉えるファミリーヘルス
（渡邊尚子／2回）家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルス
（共同／19回)家族アセスメントモデルに基づく看護展開方法の演習（臼井雅美・林ひろみ・渡邊尚子・原田慶子・原田奈美・中嶋秀明・林華子)

【3】 到達目標

1. 家族およびファミリーヘルス看護の概念について説明することができる。
2. 子の立場から捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
3. 親性や親役割について具体的に説明することができる。
4. 親の立場から捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
5. 家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
6. ファミリーヘルスにおける代表的な家族アセスメントモデルの特徴を述べることができる。
7. アセスメントツールを用いて家族アセスメントができる。
8. 家族の病と苦悩との関係について体験を通して考察することができる。
9. ファミリーヘルスにおける看護方法について説明できる。
10. ファミリーヘルス看護における看護師の役割と課題について考察できる。
11. 自らの家族観を見つめ直すことができる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ファミリーヘルス看護の基礎(1)	家族およびファミリーヘルス看護の概念 1) 家族とは 2) ファミリーヘルス看護とは 講義 予習：予習シートおよびテキスト①p1～p26を読む。 復習：学修内容確認テスト（ミニテスト）① 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：家族とは、システムとしての家族、家族システム論、家族周期、家族発達理論、家族機能、健康な家族、ファミリーヘルス看護とは、家族アセスメント、ジェノグラム・エコマップ	臼井　雅美
2	ファミリーヘルス看護の基礎(2)	子の立場から捉えるファミリーヘルスと看護 1) 子にとっての家族とは 2) 子の立場から捉えるファミリーヘルスとアセスメント 講義 予習：予習シートおよび小児看護学①p19～p22を読む。 復習：学修内容確認テスト（ミニテスト）② 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：親子関係、子どもにとっての家族機能とは、子どもを取り巻く家族の特徴と影響、ステップファミリー、家族観・育児観の変化	臼井　雅美
3･4	ファミリーヘルス看護の基礎(3)	親の立場から捉えるファミリーヘルスと看護 1) 親にとっての家族とは 2) 親の立場から捉えるファミリーヘルスとアセスメント 講義 予習：テキスト①p17～p26および母性教科書p8～p12を読む。 復習：学修内容確認テスト（ミニテスト）③ 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：親性、親役割、配偶者の役割、養育の役割、ひとり親家族	林　ひろみ
5･6	ファミリーヘルス看護の基礎(4)	家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルスと看護 1) 資源としての家族 2) 環境としての家族 3) 援助の対象としての家族 講義 予習：テキスト①p27～p41を読む。 復習：授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：家族のストレス、家族の対処力、家族システム、患者－家族関係	渡邊　尚子
7･8	ファミリーヘルス看護方法(1)	家族看護アセスメントモデル 1) 国内外の家族看護モデル 2) カルガリー式家族アセスメント／介入モデル（CFAM/CFIM） 講義 予習：テキスト②p40～p61を読む。 復習：学修内容確認テスト（ミニテスト）④ 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：フリードマン家族アセスメント、ハンセン家族アセスメント・介入モデル、渡辺の家族アセスメントモデル、カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、構造アセスメント、発達アセスメント、機能アセスメント、円環パターン図（CPD）、施療的介入、イルネス・ビリーフモデル、三位一体モデル	臼井　雅美
9・10	ファミリーヘルス看護方法(2)	家族アセスメント① ・事例を用いたジェノグラム・エコマップ・円環パターン図の実際 ミニレクチャー・演習 予習：テキスト①p131～165・190～203、②p100～p105を読む。 復習：演習記録の提出、課題レポート①：「家族と病の苦悩」 キーワード：ジェノグラム・エコマップ、円環パターン図（CPD）、家族と病	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
11･12	ファミリーヘルス看護方法(3)	家族の苦悩と家族アセスメント① 家族劇の作成（登場人物となる家族の作成） 演習・グループワーク 予習：テキスト②p110～p111を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：ジェノグラム・エコマップ、カルガリー式看護アセスメントモデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
13･14	ファミリーヘルス看護方法(4)	家族の苦悩と家族アセスメント③ 家族劇の作成（家族劇のストーリー作成） 演習・グループワーク 予習：テキスト②p112～p113を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：家族の苦悩、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
15-17	ファミリーヘルス看護方法(5)	家族の苦悩と家族アセスメント④ 家族劇の作成（家族劇のストーリー作成） 演習・グループワーク 予習：テキスト②p112～p113を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：家族の苦悩、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手

18-19	ファミリーヘルス看護方法(6)	家族劇発表① 家族劇の撮影① 予習：テキスト②p114～p115を読む。 復習：成果物の提出 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
20-21	ファミリーヘルス看護方法(7)	家族劇発表① 家族劇の撮影② 予習：テキスト②p114～p115を読む。 復習：成果物の提出 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
22･23	ファミリーヘルス看護方法(8)	家族劇発表② 家族劇の発表・ディスカッション① 予習：テキスト②p114～p115を読む。 復習：評価シートの提出 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
24･25	ファミリーヘルス看護方法(9)	家族劇発表② 家族劇の発表・ディスカッション② 予習：テキスト②p114～p115を読む。 復習：評価シートの提出 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手
26･27	ファミリーヘルス看護方法(10)	家族アセスメントと家族支援 ・疑似家族に対する円環的問いかけのシミュレーション 講義・演習・グループワーク 予習：テキスト②p116～p117を読む。 復習：演習記録の提出、課題レポート②「ファミリーヘルス看護の役割と課題」 キーワード：家族面接、円環的問いかけ、違いを際立たせる問いかけ、行動に影響する問いかけ、仮説的／未来志向的問いかけ、第３者への問いかけ	臼井・林(ひ)・渡邊・原田(慶)・原田(奈)・中嶋・林(華)・助手

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・本授業は既習した看護における家族の特徴や健康、支援をもとにファミリーヘルスにおける看護展開を理解するため、予習については1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。
・復習として学習内容確認テスト、課題レポートまたは演習記録を提出すること。
【学習上の留意点】
・看護の対象と家族について本科目に関連する既習科目（関連科目参照）を復習して授業に臨むこと。
・また、各演習の予習として、テキスト②を熟読してくること。

【７】　評価方法・基準

課題レポート30%，グループワーク発表・成果物40%，学修内容確認テスト20%，日々の学習状況(課題への取組み成果) 10%

【８】　フィードバック方法

学修内容確認テストは後日、解説を行う。課題レポートは結果を返却する。授業の最終日に全体講評を行う。

【９】　教科書

①家族看護学､改訂第2版，山崎あけみ・原礼子編，南江堂､2015
②グループワークで学ぶ家族看護論第2版，カルガリー式家族看護モデルへの実践へのファーストステップ，小林奈美，医歯薬出版，2011.

【10】　参考書

実践力を高める家族アセスメントPartⅠ，小林奈美，医歯薬出版，2009.
家族看護学―理論と実践，第5版，鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子，日本看護協会出版会，2019.
ファミリーナーシングプラクティス―家族看護の理論と実践，森山美知子・鞠子英雄，医学書院，2001.
家族看護学（系統看護学講座），上別府圭子，医学書院，2018.
母性看護学Ⅰ改定第2版　概論・ライフサイクル，齋藤いずみ他編集，南江堂，2019（2年次母性看護学概論の教科書として購入）

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおく科目：看護学概論，臨床看護学概論，小児看護学概論，小児看護学方法論，母性看護学概論，母性看護学方法論，精神看護学概論，精神看護学方法論，老年看護学概論，在宅看護概論，公衆衛生看護学概論，臨床実践Ⅰ，老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ
この科目に続く科目：臨床実践Ⅱ，臨床実践Ⅲ，小児看護学実習，母性看護学実習、精神看護学実習，在宅看護実習，コミュニティヘルス看護実習

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅴ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅴ	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子（共同）				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（K331研究室）				
オフィスアワー	授業開講日　16：20～18：00（331研究室） ＊但し、研究室を訪ねる場合は、メールで事前に連絡すること。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）／林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K325）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

子どもの健康状態と家族の状況を含めたアセスメントや基本的な看護技術を修得する。学生の動機づけができるように事例を活用し、子どもやその家族をイメージしながら、子どもを観察するための看護技術及び症状のある子どもや検査・処置、救急処置を受ける子どもの看護技術を学ぶ。また、紙面上の事例を通して子どもを総合的に捉え、子どもとその家族のニーズを満たすための看護を、看護過程を展開しながら学ぶ。

【３】　到達目標

１．子どもの健康状態をアセスメントできる。
２．対象のアセスメントに基づいた観察項目を説明できる。
３．事例に応じた看護計画を立案することができる。
４．子どもの症状に応じた観察が実施できる。
５．子どもの症状に応じた看護技術がモデル人形を用いて実施できる。
６．検査や処置を受ける子どもの看護がモデル人形を用いて実施できる。
７．救急処置を受ける子どもと家族への支援を考えることができる。
８．救急蘇生方法をモデル人形を用いて実施できる。
９．子どもの意思を尊重し、倫理的配慮を意識して看護技術を実施することができる。
10．実施した援助技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	小児看護における看護技術の概要	1. 小児看護における看護技術とは 2. 小児看護おける看護過程の展開 ＊事例に基づいた子どもと家族への看護過程の展開方法について教授する。 授業方法：講義 予習：自己学習ノート 復習：小テスト キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井雅美
2･3	子どもの観察技術	・コミュニケーション　フィジカルアセスメント　身体測定 授業方法：講義 予習：テキストp. 270～274、 p. 288～318を読む　自己学習ノート 復習：小テスト キーワード：非言語的コミュニケーション、タッチ、インフォームドアセント、フィジカルアセスメント、問診、視診、触診、打診、異常の早期発見、啼泣への対応、年齢や状況に合わせた測定方法、パーセンタイル	林　華子
4･5	症状のある子どもの看護技術	症状に応じた看護 ・呼吸困難・チアノーゼ、発熱、けいれん、発疹、嘔吐、下痢、脱水 授業方法：講義 予習：テキストp. 78～110、p. 105～109を読む　自己学習ノート 復習：小テスト キーワード：小児の特徴（構造機能、症状）　観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント 検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	林　華子
6･7	検査・処置を受ける子どもの看護	検査前中後・処置前中後の看護 ・採血、採尿、点滴の固定、経口与薬、骨髄穿刺、腰椎穿刺 ・プレパレーションの実際 授業方法：講義 予習：テキストp. 166～169、p. 276～285、p. 320～348を読む 自己学習ノート 復習：小テスト 自己学習ノートの見直し キーワード：生命の保障、生活の質の改善、発達の促進、自己への侵入体験、小児の身体的構造機能の特徴、精神的苦痛、小児の権利の保障、インフォームドアセント、プレパレーション ディストラクション 主体的に取り組む、観察、苦痛の軽減、体動制限、固定、日常生活への影響、治療方針の決定	林　華子
8･9	救急処置を受ける子どもの看護技術（1）	・子どもの事故と応急処置・救急蘇生 授業方法：講義 予習：テキストp. 188～192、p. 193～200を読む（参考書ｐ. 174～180を読む）自己学習ノート 復習：配布資料　小テスト キーワード：救命、後遺症の予防、苦痛の緩和、心理的サポート、救命の連鎖、日本版救急蘇生ガイドライン2015、トリアージ、小児の身体的構造機能の特徴、意識レベル、観察、役割分担、報告、痛覚刺激、心肺蘇生法、胸骨圧迫、気道の確保、気道異物	臼井雅美
10･11	救急処置を受ける子どもの看護技術（2）	・応急処置・救急蘇生 ＊救急時の観察、役割分担、報告、痛覚刺激、心肺蘇生法、胸骨圧迫、気道の確保、気道異物の除去 授業方法：演習 予習：テキストp. 188～192、p. 193～200を読む（参考書ｐ. 174～180を読む）自己学習ノート 復習：配布資料　小テスト キーワード：救命、後遺症の予防、苦痛の緩和、心理的サポート、救命の連鎖、日本版救急蘇生ガイドライン2020、トリアージ、小児の身体的構造機能の特徴、意識レベル、観察、役割分担、報告、痛覚刺激、心肺蘇生法、胸骨圧迫、気道の確保、気道異物	臼井　林(華)　助手
12･13	子どもと家族の看護技術の実際（1）	子どもの観察技術① ・バイタルサインの測定　・身体計測・フィジカルアセスメント（胸部・腹部） 授業方法：演習 予習：自己学習ノート 復習：演習記録 自己学習ノートの見直し キーワード：非言語的コミュニケーション、タッチ、インフォームドアセント、フィジカルアセスメント、問診、視診、触診、打診、異常の早期発見、啼泣への対応、年齢や状況に合わせた測定方法、パーセンタイル、小児の特徴（構造機能、症状）　観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント、検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	臼井　林(華)　助手

14･15	子どもと家族の看護技術の実際（2）	子どもの観察技術② ・バイタルサインの測定 ・身体計測・フィジカルアセスメント（胸部・腹部） 授業方法：演習 予習：自己学習ノート 復習：演習記録 自己学習ノートの見直し キーワード：非言語的コミュニケーション、タッチ、インフォームドアセント、フィジカルアセスメント、問診、視診、触診、打診、異常の早期発見、啼泣への対応、年齢や状況に合わせた測定方法、パーセンタイル、小児の特徴（構造機能、症状） 観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント、検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	臼井 林(華) 助手
16･17	子どもと家族の看護技術の実際（3）	症状のある子どもの看護技術① ・吸入・吸引、採血・点滴挿入時の介助 授業方法：演習 予習：自己学習ノート 復習：演習記録 自己学習ノートの見直し キーワード：小児の特徴（構造機能、症状） 観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント 検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	臼井 林(華) 助手
18･19	子どもと家族の看護技術の実際（4）	症状のある子どもの看護技術② ・吸入・吸引、採血・点滴挿入時の介助 授業方法：演習 予習：自己学習ノート 復習：演習記録 自己学習ノートの見直し キーワード：小児の特徴（構造機能、症状） 観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント 検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	臼井 林(華) 助手
20･21	子どもと家族の看護技術の実際（5）	小児看護における看護展開の実際① ・事例に応じたアセスメントと計画の立案 授業方法：演習 予習：自己学習ノートによる看護計画の立案 復習：演習記録 自己学習ノートの見直し キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井 林(華) 助手
22･23	子どもと家族の看護技術の実際（6）	小児看護における看護展開の実際② ・事例に応じた計画の具体化 ・看護計画に基づくプレパレーション・遊びのシナリオ作成 授業方法：演習 予習：自己学習ノート 復習：演習記録 キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井 林(華) 助手
24･25	子どもと家族の看護技術の実際（7）	小児看護における看護展開の実際③ ・事例に応じた看護計画の発表と討議 授業方法：発表・ディスカッション 予習：看護計画の発表資料の作成 復習：計画の検討と修正、演習記録 キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井 林(華) 助手
26･27	子どもと家族の看護技術の実際（8）	小児看護における看護展開の実際④ ・事例に応じた看護計画の発表と討議 授業方法：発表・ディスカッション・まとめ 予習：看護計画の発表資料の作成 復習：計画の検討と修正、自己評価 キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井 林(華) 助手

【６】 事前・事後学習とその時間

・この授業は、知識と技術を統合して実践するため、既習科目（関連科目を参照）を１時間程度の復習と事例に基づいた事前学習が2時間程度必要です。予習には自己学習ノートを活用します。
・演習後には演習記録（振り返りレポート）の記載のために各30分程度必要になります。
【学習上の留意点】
・関連する知識の復習及び視聴覚教材の積極的な活用が必要です。また、臨地実習でさらに深く学ぶために必須であるため、全時間の出席をのぞみます。

【７】 評価方法・基準

看護過程(40%) 自己学習ノート・演習記録（30%）ミニテスト（20%）課題への取り組み(10%)

【８】　フィードバック方法
演習記録･ミニテストは、次回の授業で返却･フィードバックします。

【９】　教科書
新体系看護学全書　小児看護学２　健康障害を持つ小児の看護,　小林京子　高橋孝雄編著,メヂカルフレンド社,　2019.
その他、資料を授業の際に配布する。

【10】　参考書
新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス，山元恵子監修，佐々木祥子編著，インターメディカ ，2020

【11】　備考(関連科目等)
学んでおく科目：人体の構造と機能、疾病と治療（小児）、看護の基本技術Ⅰ～Ⅳ、発達看護論、小児看護学概論、
小児看護学方法論、ファミリーヘルス看護論
継続する科目：小児看護学実習

科目名(日本語)	**母性看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Newborn Nursing Methodology	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・原田慶子・原田奈美				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp, K329研究室				
オフィスアワー	火曜日授業終了後および17時50分～18時30分，なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる 林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp K329，原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp K330，原田奈美：nami.harada@hs.toho-u.ac.jp K324				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】 授業概要

妊娠期から産褥・新生児期の周産期にある母子とその家族の理解と看護展開について理解するために、周産期の看護実践に必要な基礎的知識を学修する。そのために妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期にある母子の身体的・心理社会的特徴とアセスメントの視点、健康問題解決や健康の保持増進のための基本的看護について概説する。

【３】 到達目標

1. 妊娠に伴う身体的変化（胎児の発育・母体の生理的変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
2. 妊娠中期に適した生活（食生活、活動・休息）のポイントについて説明できる
3. 妊娠期の母親役割獲得準備過程について説明できる
4. 分娩期の産婦の身体的変化をアセスメントする項目をあげ、説明できる
5. 分娩期の胎児の健康状態をアセスメントする項目をあげ、説明できる
6. 分娩期の基本的ニーズに対する援助方法について説明できる
7. 分娩直後の母子の絆・愛着形成を促す援助のポイントについて説明できる
8. 産褥期の身体的変化（全身回復・退行性変化・進行性変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
9. 産褥期の身体的変化を促進するための援助のポイントについて説明できる
10. 産後の母子愛着、絆形成をアセスメントする項目をあげ、説明できる
11. 産後の母子愛着、絆形成を促進するための援助のポイントについて説明できる
12. 帝王切開術後の身体的変化（全身回復・退行性変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
13. 新生児の胎外生活適応過程をアセスメントする項目をあげ、説明できる
14. 周産期の母子と家族への援助における倫理的配慮について述べることができる

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	妊娠期の看護(1)	内容 1．妊娠期の身体的変化（胎児の発育・母体の生理的変化） 2．胎児の健康状態とアセスメント方法 3．妊婦のセルフケア能力を高めるための援助 方法：講義 予習：p2-86を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：妊娠期の身体的変化のアセスメント項目，妊娠期の食生活，活動と休息，P86-88の問題・学習課題を解く． キーワード：妊婦健康診査・胎児の発育・妊婦の食生活・活動と休息	林ひろみ
3・4	妊娠期の看護（2）	内容 1．妊娠経過に伴う心理的・社会的変化 2．母親役割獲得準備過程とアセスメント方法 3．母親になる準備を整えるための援助 方法：講義 予習：p89～108を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：妊娠期の母親役割準備過程，ミニテスト，p108-109の問題・学習課題を解く． キーワード：母親役割獲得準備過程・分娩準備・育児準備	林ひろみ
5・6	分娩期の看護	内容 1．分娩の経過 2．産婦の身体的変化・心理的状態とアセスメント方法 3．胎児の健康状態のアセスメント方法 4．分娩期の援助 方法：講義 予習：p136-196を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：産婦の身体的変化及び胎児の健康状態のアセスメント項目，基本的ニーズへの援助，第4期の身体的変化のアセスメント項目，母子の絆・愛着形成への援助，p196-197の問題・学習課題を解く． キーワード：分娩第1期・分娩第2期・産婦の身体的変化・胎児の健康状態・基本的ニーズの充足・産痛緩和・分娩第3期・分娩第4期・母子の絆/愛着形成・バースレビュー	林ひろみ
7・8	産褥期の看護(1)	内容 1．産褥期の身体的変化（全身回復・退行性変化・進行性変化）とアセスメント方法 2．産褥期の身体的変化を促す援助 方法：講義 予習：p240-292を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：褥婦の身体的変化のアセスメント項目と援助，ミニテスト，p292-293の問題と学習課題を解く． キーワード：産褥期・産後の回復・退行性変化・進行性変化	原田慶子
9・10	産褥期の看護(2)	内容 1．産褥期にある母子の心理的・社会的変化とアセスメント方法 2．母子の愛着・絆形成を促す援助 3．家庭・社会生活への適応を促す援助 方法：講義 予習：294-316を読み，わからない用語や内容をピックアップする． 復習：産褥期にある母子の心理的・社会的変化のアセスメント項目と援助，母子の愛着・絆形成のアセスメント項目と援助，ミニテスト，p317の問題・学習課題を解く． キーワード：母子愛着・マタニティブルー・心理的ハイリスク状態・家庭/社会生活への適応	原田慶子
11・12	産褥期の看護（3）	内容 1．帝王切開の適応と方法 2．帝王切開術前・術中の援助 3．帝王切開術後の身体的・心理的変化とアセスメント方法 4．帝王切開後の援助 方法：講義 予習：p338-346を読み，わからない用語や内容をピックアップする． 復習：帝王切開術後の身体的変化（全身回復・退行性変化）のアセスメント項目，心理的特徴，p346-237の問題と課題を解く，ミニテスト． キーワード：帝王切開術・術後合併症	原田慶子
13・14	新生児期の看護	内容 1．新生児の子宮外生活適応とアセスメント方法 2．新生児の発育状態とアセスメント方法 3．新生児の子宮外生活適応を促す援助 方法：講義 予習：p350-409を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：子宮外生活適応のアセスメント項目，p410の学習課題を解く，ミニテスト，p410の学習課題を解く． キーワード：子宮外生活適応	原田奈美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・この授業は、周産期ケアにおける基本的知識を習得するものであるため、予習1時間程度、復習1.5時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
・理解を深めたい点において教科書を活用して、積極的に取り組むこと。
・わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%　ミニテスト20%（妊娠期，産褥期、新生児期）

【８】　フィードバック方法

ミニテストは結果を返却し、返却時に講評する。ミニッツペーパーに記載された質問や感想等に対して次の講義でフィードバックする。

【９】　教科書

看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル　改定第3版，南江堂，2022

【10】　参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学〔２〕　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学概論　看護の基本的技術Ⅳ　母性看護学実習

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅵ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅵ	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	原田慶子				
担当教員	林ひろみ・原田慶子・原田奈美				
科目責任者 連絡先(教室)	原田 慶子 (chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp) K330				
オフィスアワー	授業開講日　13：20～13：45　もしくは授業終了後30分間　昼休みは研究室にて　授業後は、講義室にて ただし遠隔授業期間中は担当教員へメールすること。そのほかに、Moodle等のe-ラーニングシステムにおける質問機能を用いる。 原田 慶子K330 (chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp) 林 ひろみK329 (hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp) 原田 奈美K324 (nami.harada@hs.toho-u.ac.jp)				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

母性看護学方法論における基礎的知識を基に、事例を用いて妊娠期・分娩期・産褥・新生児期各期の母子のアセスメントと看護計画の立案方法について演習を行う。また、各期の看護実践に必要なアセスメント技術や基本的な看護技術を体得する。この基本的技術については、ロールプレイを用いてより実践的な技術を体得する。

【3】　到達目標

1. 母性看護学における看護過程の展開についてのウェルネスの視点について説明できる
2. 事例についての看護過程が展開できる
・事例の母子について、身体的・心理的社会的状態について系統的に情報を整理し、アセスメントすることができる
・事例の母子のアセスメントに基づき、看護上の課題が明確にでき、看護目標と、ケア計画を立案できる
3. 母性看護に必要な技術の根拠、手順、留意点が理解でき、モデル人形を使用し実施できる
・モデル人形を使用し、妊婦の子宮底、腹囲の計測ができる
・モデル人形を使用し、レオポルド触診法が実施できる
・モデル人形を使用し、胎児心音の聴取ができる
・妊婦体験モデルを使用し、妊婦の身体的特徴を疑似体験し、妊娠期の身体的変化をイメージすることができる
・妊婦体験モデルを使用し、安楽な姿勢を体験することができる
・妊婦体験と経験し、妊婦への診察の介助ができる
・モデル人形を使用し、産褥期の子宮底の観察ができる
・モデル人形を使用し、産褥期の外陰部の観察ができる
・モデル人形を使用し、乳房の観察ができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の適切な抱き方ができる
・新生児モデル人形と乳房モデルを使用し、授乳時の姿勢をとることができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児のバイタルサインを測定することができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の観察をすることができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の身体測定をすることができる
・新生児モデル人形を使用し、沐浴を実施することができる
4. 事例展開のグループワークにおいて、グループメンバーと協力しながら自らの役割を果たすことができる
5. グループワークや発表、技術テストでの自己の振り返りを通して、自己の課題を明確にできる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	科目ガイダンス・看護過程の展開の考え方	・科目ガイダンス ・母子看護における看護過程の考え方 ・事例の説明・記録用紙の説明 方法：講義 予習：教科書ｐ．366-412を読む 復習：母子看護における看護過程の特徴 キーワード：看護過程・アセスメント・計画立案・実施及び評価 ウェルネスの視点	全員 (原田慶子)
3・4	看護過程の展開(妊娠期)①	・妊娠期のアセスメントのポイント ・事例に基づく看護過程の展開（妊娠期） 方法：講義、演習（個人ワーク） 予習：教科書p．368-370、389-391を読む 母性看護学方法論妊娠期の看護 復習：妊娠期のアセスメントのポイント キーワード：妊婦健康診査・胎児の発育・妊婦の食生活・活動と休息・マイナートラブル・分娩準備・育児準備	全員 (原田慶子)
5・6	看護過程の展開(妊娠期)②	・正常を逸脱した妊婦のケア：切迫早産，妊娠高血圧症候群，糖代謝異常妊娠 方法：講義 予習：教科書p.110-128を読む。 復習：ハイリスク妊婦のアセスメント（切迫早産、妊娠高血圧症候群、糖代謝異常妊娠）のポイント キーワード：早産・切迫早産・妊娠高血圧症候群・糖代謝異常妊娠	全員 (林ひろみ)
7	看護過程の展開（分娩期）①	・分娩期のケア ・分娩期のアセスメントのポイント 方法：講義 予習：教科書ｐ．371-372、392-393、401を読む 母性看護学方法論分娩期の看護 復習：分娩期のアセスメントのポイント キーワード：分娩第１期・第2期・第3期・第４期・胎児の健康状態・分娩の進行状態・CTG（胎児心拍数陣痛図）・母子愛着形成	全員 (林ひろみ)
8	看護過程の展開（分娩期）②	・分娩期のアセスメントのポイント ・事例に基づく看護過程の展開（分娩期） 方法：講義 予習：教科書ｐ．371-372、392-393、401を読む 母性看護学方法論分娩期の看護 復習：分娩期のアセスメントのポイント キーワード：分娩第１期・第2期・第3期・第４期・胎児の健康状態・分娩の進行状態・CTG（胎児心拍数陣痛図） 母子愛着形成	全員 (原田慶子)
9・10	看護過程の展開（産褥新生児期）①②	・産褥新生児期のアセスメントのポイント ・事例の提示・説明 方法：講義 予習：教科書p．373-388、394-412を読む、母性看護学方法論産褥期看護、母性看護学方法論新生児期看護 復習：産褥新生児期のアセスメント・のポイント キーワード：進行性変化・退行性変化・産後の回復・母子愛着形成・母親役割獲得過程・マタニティブルー・サポート体制・社会資源・子宮外生活適応・新生児体重減少・新生児黄疸	全員 (原田慶子)
11	母性看護学における援助技術	・妊婦・産婦・褥婦・新生児への援助技術 ・援助技術項目 ・技術演習について 方法：講義またはミニレクチャー，デモンストレーション，演習 予習：教科書p．78-84、264-272を読む 教科書p．288-290、307-309、312-335-341を読む 事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、診察の介助、安楽な体位、分娩時の過ごし方、子宮底観察、外陰部の観察、乳房の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児の計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の沐浴 キーワード：腹囲・子宮底長、レオポルド触診法、胎児心音最良聴取部位、安楽な体位、子宮底高、悪露、乳房、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児のバイタルサイン、新生児の全身観察、沐浴	全員 (原田慶子)
12～15	妊婦・産婦・褥婦への援助技術①②③④	・妊婦・産婦・褥婦への援助技術 ・援助技術項目 【妊婦・産婦・褥婦】腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、胎児心音の聴取、診察の介助、安楽な 体位、分娩時の過ごし方、子宮底観察、外陰部の観察、乳房の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方 方法：講義またはミニレクチャー，デモンストレーション，演習 予習：教科書p．78-84、264-272を読む、事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、診察の介助、安楽な体位、分娩時の過ごし方、子宮底観察、外陰部の観察、乳房	全員 (原田慶子)

		の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方 キーワード：腹囲・子宮底長、レオポルド触診法、胎児心音最良聴取部位、安楽な体位、子宮底高、悪露、乳房、授乳姿勢、新生児の抱き方	
16～19	新生児への援助技術①②③④	・新生児への援助技術 ・援助技術項目 【新生児】新生児の身体計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の沐浴 方法：講義またはミニレクチャー，デモンストレーション，演習 予習：教科書p. 288-290、307-309、312-335-341を読む 事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：新生児の抱き方、新生児の計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の沐浴 キーワード： 新生児のバイタルサイン、新生児の全身観察、沐浴	全員 (原田慶子)
20～24	看護過程の展開（産褥新生児期）③④⑤⑥⑦	・産褥新生児期のアセスメントのポイント ・事例に基づく看護過程の展開（産褥新生児期） 方法：講義またはミニレクチャー，演習（グループワーク） 予習：教科書p. 373-388、394-412を読む、母性看護学方法論産褥期看護、母性看護学方法論新生児期看護 復習：産褥新生児期のアセスメントのポイント キーワード：進行性変化・退行性変化・産後の回復・母子愛着形成・母親役割獲得過程・マタニティブルー・サポート体制・社会資源・子宮外生活適応・新生児体重減少・新生児黄疸	全員 (原田慶子)
25・26	看護過程の展開発表会	・発表会	全員 (原田慶子)
27	看護過程の展開・技術演習のまとめ	・まとめ	全員 (原田慶子)

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・既習の関連科目の復習をして臨むこと
・予習のために教科書を読み、わからない箇所を明確にしておく
・この授業は、演習前と演習後に課題が出ます
・この授業は、既習科目の内容の整理や予習課題のために、予習1時間程度、復習1時間程度を費やす
【学習上の留意点】
・履修にあたって、ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習を活用する
・わからないことは積極的に質問する

【７】　評価方法・基準

課題・看護過程の展開記録提出物60%　技術演習への取り組み20%　グループワークへの取り組み10%　グループワークの成果発表（展開発表会）10%

【８】　フィードバック方法

課題に関しては、技術演習時に正解、ポイントを確認します。技術演習、事例の看護過程の展開については、最終日に全体講評をします。

【９】　教科書

看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル　南江堂　2019

【10】　参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学〔２〕　医学書院　2016
ほか、授業時に関連文献を紹介します

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学概論　母性看護学方法論　母性看護学実習

科目名(日本語)	**精神看護学概論（3年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Mental Health Nursing	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺（K334研究室）：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp(メールには学籍番号を明記してください)				
オフィスアワー	木曜日　講義終了後～18：00、研究室を訪ねて下さい。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

精神看護の対象となるのは、すべてのライフサイクルにある人々であり、こころの健康の問題を考える際には、多くの視点から検討し対応することが必要である。そのためこの授業では、こころの健康とは何かについて学び、こころの健康の保持・増進のために必要な援助を、人々をとりまく環境を捉えながら考察する。

【３】　到達目標

①精神看護の役割と機能が説明できる
②こころの健康とは何かを理解できる。
③対人場面・医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解できる。
④ストレスと危機、その対処と看護支援について説明できる。
⑤ライフサイクルにおける各時期の発達課題とこころの問題について説明できる。
⑥人を取り巻く環境とこころの健康の相互作用について説明できる。
⑦精神保健に関わる課題を説明できる。
⑧こころの健康の保持・増進・予防的観点から精神看護の役割を理解できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	こころの健康について	精神看護学とは こころの健康とは 講義・個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：フロイト、マズロー、エゴグラム、自己理解、他者理解、関係理解	渡辺尚子
3・4	医療におけるコミュニケーション	医療サービスとコミュニケーション 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習: ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：コーチング、サービスマインド、サービススキル、サービスマネジメント、アサーション	渡辺尚子
5・6	自己理解・他者理解・関係理解	効果的なコミュニケーション技法 講義・グループワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習: ミニッツペーパーや課題レポートの提出・資料内容の整理 キーワード：コミュニケーションに影響する要因、相互理解、共感	渡辺尚子
7・8	ストレスとこころの健康	ストレスによるこころの健康とストレスコーピング 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習: ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：ストレスとは、セリエの汎適応症候群、身体のストレス反応、ストレスコーピング、ストレスマネジメント	渡辺尚子
9-11	環境におけるこころの健康(1)	家庭・学校・職場におけるこころの健康と看護におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：ライフサイクルと発達課題、エリクソンの発達理論、ピアジェの認知発達論、家族の発達課題、養護教諭の役割、スクールカウンセラー、学校における精神保健に関する課題、ワークライフバランス、燃え尽き症候群、職場における精神保健に関する課題	渡辺尚子
12・13	環境におけるこころの健康(2)	危機の概説 医療現場におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：危機、危機介入、各病期の危機、グリーフケア、ACP	渡辺尚子
14	精神保健福祉活動	精神保健システムと今後の精神保健福祉における課題 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神保健福祉活動、多職種連携、自殺、ゲートキーパー	渡辺尚子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
新聞・図書館の資料を活用し、各回の授業内に関連するトピックスを把握しておくこと。
この授業は自己の体験や社会情勢を通して理解を深めていくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。
【学修上の留意点】
授業内で配布した資料等を参照し関連書籍を読み、学修内容の理解を深めること。

【7】　評価方法・基準

定期試験70%、課題レポート20%、授業での取り組み（グループワークを含む各回の参加状況）10%

【8】　フィードバック方法

ミニッツペーパー等の質問等により必要なことは全体に向けフィードバックする

【9】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

吉浜文洋他;学生のための精神看護学、医学書院、2017
その他授業内で、随時紹介する

【11】　備考(関連科目等)

心理学、コミュニケーション論、看護学概論

科目名(日本語)	**精神看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Psychiatric Nursing Methodology	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（メールには学籍番号を明記して下さい）				
オフィスアワー	木曜日：講義終了後～18:00、研究室を訪ねて下さい。渡辺（研究室K334） 、中嶋（研究室K323）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

主な精神疾患の治療や看護の基本的知識をふまえ、精神を病むことと、精神の病を抱えて生活することの意味を考え、精神障がいを抱えた当事者が持つ生きづらさを考える。また精神保健福祉法に基づく医療制度と社会資源の概要を理解し、対象者の受療回復過程に応じた具体的なアセスメント方法と援助方法を学ぶ。

【３】　到達目標

①精神看護を提供するうえで基盤となる制度や法律、歴史的変遷を含め看護の側面から説明できる。
②精神疾患の概念を理解し、対象としての患者の特性を説明できる。
③精神科看護実践の基本となる理論モデルについて説明できる。
④精神障がいをもつ対象の症状が生活に及ぼす影響を説明できる。
⑤主な精神科治療法・検査方法と看護の役割が説明できる。
⑥精神障がいをもつ対象の基本的関係構築を理解し説明できる。
⑦精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護の特徴を説明できる。
⑧精神障がいをもつ対象のリハビリテーション看護について具体的に説明できる。
⑨精神に障がいをもつ対象の家族の現状と看護の役割を説明できる。
⑩精神に障がいをもつ対象の社会参加・社会復帰を踏まえて今後の課題を説明できる。
⑪精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護過程の展開を説明できる。
⑫精神看護領域における倫理的課題について説明できる。
⑬精神障がいをもつ対象に理論を活用した看護の展開過程について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	精神看護学の基本	精神看護と精神科看護、精神看護に必要な基本技術 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神看護と精神科看護の違い、精神障がい者の体験世界、視覚的観察、参加観察	渡辺尚子
3・4	精神看護の主な理論活用法(1)	精神看護で用いる理論とコミュニケーション技法 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：言語的・非言語的メッセージ、プロセスレコード、ペプロウ、トラベルビー	渡辺尚子
5・6	精神看護の主な理論活用法(2)	精神看護における自己活用　自己理解･他者理解･関係理解の実際 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：関係を理解するとは、患者 - 看護師関係、プロセスレコード	渡辺尚子
7・8	精神医療の現状	精神医療・精神障がい者の歴史的背景と諸問題 講義 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神科医療の歴史、精神保健福祉に関する法の変遷、治療共同体、アドボカシー、入院形態	渡辺尚子
9・10	精神看護の主な理論活用法(3)	セルフケア理論を用いた看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：オレムのセルフケア理論、オレム-アンダーウッドの理論、	渡辺尚子
11・12	精神看護の実践方法(1)	精神情緒状態と主な症状への看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神機能、精神の状態、気分(感情(障害(うつ病、双極性障害)、知覚・思考障害、自我、意欲、行動、意識、記憶の障害、それぞれの看護の特徴	渡辺尚子
13・14	精神看護の実践方法(2)	主な検査と薬物療法･各種療法を受ける患者の看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：薬物療法、向精神薬、作用と副作用、悪性症候群、水中毒、ECT、精神療法	中嶋秀明
15・16	精神看護の実践方法(3)	統合失調症患者の看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：統合失調症、病期(前駆期、急性期、休息期、臨界期、回復期、慢性期)、病期別看護の特徴、安全管理、擁護、倫理	渡辺尚子
17・18	精神看護の実践方法(4)	気分障がい患者の看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：　うつ病、双極性障害、不安障害、パニック障害、強迫性障害、パーソナリティ障害、それぞれの看護の特徴	中嶋秀明
19・20	精神看護の実践方法(5)	地域で生活する精神障がい者の社会復帰施設 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：社会資源(地域活動支援センターなど)、障害者総合支援法	渡辺尚子
21-24	精神障がいをもつ患者の看護過程（1）	事例学習(1)精神障がいをもつ患者の情報整理・アセスメント 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理し、また今までの学修したノートを読んでおく。 復習：レポート提出 キーワード:IBL、プレゼンテーション、セルフケア領域、セルフケアレベル、アセスメントとは	渡辺尚子・中嶋秀明
25-27	精神障がいをもつ患者の看護過程（2）	事例学習(3)精神障がいをもつ患者の看護計画立案・実施・評価 講義・グループワーク 予習：キーワードについてノートに整理し、また今までの学修したノートを読んでおく。 復習：レポート提出 キーワード：看護目標、看護計画、プレゼンテーション	渡辺尚子・中嶋秀明

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・講義の予習として、既習科目(関連科目を参照)を復習して授業に臨むこと。
・復習として、各講義において生じた疑問について調べ、次の授業に臨むこと。
この授業は、各回内容が幅広く多くのことを学ぶため予習1時間程度、復習1.5時間程度を必要とする。
【学修上の留意点】
本科目で修得した内容は臨地実習でさらに深く学ぶために必要になる為、全授業の出席をのぞむ。

【７】　評価方法・基準

定期試験75%、授業での取り組み25%（グループワークの参加状況、課題レポートの評価を含む）

【８】　フィードバック方法

課題レポート内容については全体に向けコメントを返す。

【９】　教科書

吉浜隆他；学生のための精神看護学、医学書院,2017

【10】　参考書

講義時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、疾病と治療Ⅳ、精神看護学概論

科目名(日本語)	**小児看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Child Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	通年 3年	2単位 90時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子（共同）				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）				
オフィスアワー	実習日の実習終了後～17:00：臨地の指定された場所。 実習終了日は学内まとめ時16:00～17:00：研究室K331 その他の期間は事前にメール連絡すること。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）／林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K325）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle,Zoom

【２】　授業概要

子どもの特性や健康レベル、治療・処置を理解し、子どもに成長・発達を促し、安全を確保できる看護の基礎的実践能力を修得し、自らの看護体験より子どもの生活の場における小児看護の役割と課題について考察する。本実習は、保育所及び病院・クリニック、そして障がい児施設において実習を行う。保育所では乳幼児期にある健康な子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達、日常生活及びその援助について理解し、子どもの成長・発達を促進し、安全を保障するための環境について考察する。病院・クリニックでは健康障害をもつ子どもと家族との関わりを通して、入院や通院および治療・検査・処置が子どもとその家族に及ぼす影響のアセスメントや子どもの健康回復及び成長・発達を促す基礎的な看護を修得し、病院・クリニックおよび多職種連携について学修する。心身の障がいをもつ子どもとの関わりを通して、社会の一員として生活している障がい児を理解し、地域及び福祉における連携と障がい児看護の実際を学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 小児看護学実習Ⅰ（保育所実習）：
   1）乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達段階の特徴を説明できる。
   2）乳幼児の成長発達を促すための日常生活援助を説明できる。
   3）乳幼児の安全管理に関する責任を自覚し、事故防止に努めることができる。
2. 小児看護学実習Ⅱ（病院および小児科クリニック実習）：
   1）健康障害を持つ小児の身体的・精神的・社会的な成長・発達の特徴を説明できる。
   2）健康障害や生活環境、治療・検査・処置が、小児と家族に及ぼす影響を説明できる。
   3）小児の健康レベルや成長・発達を考慮し、個別性に応じたコミュニケーションを実施できる。
   4）病院環境の特殊性を理解し、小児の安全・安楽を保持するための看護を実施できる。
   5）健康障害を持つ小児や家族の状況を理解し、発達段階に応じた小児と家族の看護を展開できる。
3. 小児看護学実習（障がい児施設実習）：
   1）障がい児の身体的・精神的・社会的な成長・発達段階の特徴を説明できる。
   2）障がい児の成長・発達及び健康状態を踏まえた日常生活援助の見学・一部実施できる。
   3）障がい児の安全管理に関する責任を自覚し、事故防止に努めることができる。
   4）子どもを看護する専門職者として、自覚と責任ある行動がとれる。
   5）子どもの権利を尊重した看護のあり方について説明できる。
   6）小児看護における地域ならびに施設の保健医療者の関わりと他専門職との連携について説明できる。
   7）自らの看護体験を通して子どもの生活の場における小児看護の役割と課題について考察し、小児看護について自分の考えを深めることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	目標を達成するための詳細な学修内容は、「小児看護学実習　実習要項」に示す。 実習方法は、実習施設である保育所および病院、障がい児施設で、グループごとに２週間の実習を行う。実習は、保育所・障がい児施設実習後、病院実習、または、病院実習後、保育所・障がい児施設実習という形態となる。実習最終日は学内となる。	全員
	事前実習オリエンテーション（全体）	1）時期：3年次秋学期開講の実習科目を受講する学生全員を対象に、夏季休業前に全体に実施する。 2）内容：当該授業の責任者が、実習の概要、実習施設の概要、実習にあたっての注意事項、事前学習等について説明する。 また、実習で活用する看護の基本技術について、各自で復習するように促す。実習担当教員が、本実習開始前までに、適宜、確認し、必要時、指導する。	全員
	直前および現地でのオリエンテーション（グループ毎）	1．直前オリエンテーション 1）時期：実習初日、学生の健康状態をチェックした後、午前中に実施する。 2）内容：実習担当教員が、本実習のスケジュール、事前課題の実施状況の確認をする。 2．現地での実習オリエンテーション 1）時期：病院および障がい児施設については、実習初日に実施する。実施時間は現場の状況に応じて調整する。保育所については事前オリエンテーション後直ちに、学生が保育園に連絡し、オリエンテーションの日程を決め、実習（他の領域も含む）開始前に来園する。 2）内容：実習指導者が、実習場所となっている病棟の環境と看護に関する概要を説明し、受持ち患者を決定する。	全員
	小児看護学実習Ⅰ	・実習１・２日目：保育所で分担されたクラスに入り実習を行う。 ・実習２日目午後：保育所実習での振り返り	全員
	小児看護学実習Ⅱ	・実習初日：病院（病棟およびクリニック）オリエンテーション 病棟における受持ち患児の情報収集と関係づくり，観察（バイタルサイン測定等），ケアの見学 ・実習１～２日目：受持ち患児の全体像を把握し、一部の援助を実施。 ・実習２～４日目：受持ち患児の看護展開，看護の実施・評価。 ・実習２～３日目：いずれか1日でクリニックにおける見学実習。 ・実習４日目午後：実習Ⅱにおける最終カンファレンス	全員
	小児看護学実習Ⅲ	・実習初日：施設・病棟オリエンテーション ・実習１日目：受持ち患児や家族との対話，看護師のシャドーイングをとおして看護活動の見学。 ・実習２日目：学内において、看護計画を立案し、ロールプレイにより立案した計画を発表し、ディスカッションを行う。	全員
	実習のまとめ（実習最終日）	1．統合カンファレンス：グループ毎に、実習体験をまとめ目標の達成状況と学びをプレゼンテーションする。討議により看護の主要概念の理解を深め、実習体験の意味づけを図る。 2．個人面接：学生の自己評価をもとに臨床指導者と担当教員の評価をフィードバックしながら、実習目標の達成状況と課題について確認する。	全員
	実習施設	・小児看護学実習Ⅰ：船橋市立保育園 ・小児看護学実習Ⅱ：東邦大学医療センター佐倉病院、他近隣小児科クリニック ・小児看護学実習Ⅲ：東京小児療育病院、他学内	全員
	予習・復習・キーワード	1．予習：看護の基本技術Ⅴでの課題を復習し、「小児看護学実習実習要項」を熟読。 2．復習：小児看護学実習記録、課題レポート 3．キーワード： 成長発達、小児看護の情報収集・アセスメント、小児の観察技術、小児看護の展開方法・看護評価 子どもの安全・安楽・自立、子どもの権利、子どもの最善の利益、インフォームド・アセント、プレパレーション、ディストラクション、アドボカシー 小児看護の特徴、小児看護師の役割、家族支援、児童福祉、母子保健	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・本科目の履修にあたり提示されている事前学習を行い、子どもの成長発達，実習で学ぶべき疾患、処置検査、看護について理解しておく。
・この科目は子どもの実践的な看護を展開するため、実習期間中は翌日の看護計画を立案する予習に2～4時間程度、看護実践を振り返る復習に1～3時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
・履修にあたって「小児看護学実習　実習要項」を熟読し、不明な点等は事前に教員に確認する。
・実習にあたって特に子どもに関わるため健康状態には留意する。
・学生定期健康診断を受診し、抗体検査および必要な予防接種を済ませておく。

【７】　評価方法・基準

実践内容（観察力、コミュニケーション力）　60%，学習者としての態度、専門職者としての態度　20%，課題レポート20%

【８】　フィードバック方法

実習最終日に、実習のまとめでの全体講評と個別面談によって評価をフィードバックする。

【９】　教科書

・新体系看護学全書　小児看護学②健康障害をもつ小児の看護（第6版），小林京子・髙橋孝雄編，メジカルフレンド社，2019.
・新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス，山元恵子監修，佐々木祥子編著，インターメディカ ，2020
・新訂版 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア アドバンス，鈴木康之・舟橋満寿子監修，インターメディカ，2020.

【10】　参考書

・小児看護実習ガイド，筒井真優美監修，照林社，2017.
・発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第3版　石黒彩子・浅野みどり編集，医学書院，2017.
・根拠と事故防止からみた小児看護技術　第3版，浅野みどり編集，医学書院，2020.
・こどもの病気の地図帳，鴨下重彦・柳澤正義，講談社，2002.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：小児看護学概論、小児看護学方法論、看護の基本技術Ⅴ、発達看護論、ファミリーヘルス看護論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療Ⅲ
この科目に続く内容の科目：看護実践の探求，チーム活動論，援助的人間関係論，看護研究

科目名(日本語)	**母性看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Newborn Nursing Practicum	必修	実験・実習	通年 3年	2単位 90時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・原田慶子・原田奈美				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ　hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp K329研究室				
オフィスアワー	実習期間中は実習時間中および実習時間終了後30分間、臨地での指定された場所にて、実習用携帯（オリエンテーションにて告知）担当教員の連絡先：原田慶子（chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp）K330，原田奈美（nami.harada@hs.toho-u.ac.jp)K324，林ひろみ（hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp），実習期間外は林ひろみに連絡				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

周産期周辺にある母子とその家族の発達課題と健康を支援する基本的な看護実践能力を体得することを目的とする。産科病棟における母子一組の受持ちを通して、対象の特徴を理解し、発達課題や健康レベルに応じた援助について看護計画を立案する。看護計画に基づき、基本的看護技術を用いた看護の実践・評価を通して、母性看護の特徴と役割について考察する。NICU・GCU病棟における母子の看護の実際、産科外来およびリプロダクションセンター外来における女性へのケアの実際について見学を通して理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.受持ち母子とその家族の発達課題や健康ニーズに基づく看護実践の体験を通して入院中の母子とその家族への看護の特徴について理解する事ができる
　1）受持ち母子の身体的・心理社会的状態について系統的に情報を収集しアセスメントできる。
　2）受持ち母子のアセスメントに基づき看護目標とケア計画を立案できる。
　3）受持ち母子に実施したケアとその結果に対してケアの有効性や目標到達度について評価できる。
　4）他学生と看護実践の体験の共有を通して入院中の母子とその家族への看護の特徴について述べる事ができる。
2.NICU・GCU病棟見学実習、外来実習（産科外来・リプロダクションセンター外来）を通して周産期周辺にある母子とその家族の特徴と看護の実際を理解できる。
　1）NICU・GCU病棟に児が入院している家族の発達課題に応じた援助の実際を記述しケアを意味づける事ができる。
　2）2産科外来における妊娠期と産褥期の母親の発達課題や健康ニーズに応じた援助の実際を記述しケアを意味づける事ができる。
　3）リプロダクションセンター外来における女性とその家族の発達段階や健康ニーズに応じた援助の実際を記述しケアを意味づける事ができる。
3.母性看護学の対象者となる母子とその家族の権利や価値観を尊重した看護について理解できる。
　1）援助場面における対象女性とその家族の権利や価値観について述べる事ができる。
　2）女性とその家族の権利と価値観を尊重する看護のあり方について考察した事を述べる事ができる。
4.周産期医療における多職種連携のあり方について理解できる。
　1）周産期の母子とその家族を継続的に支援する為の看護チーム内および他職種との連携に対する学びを述べる事ができる。
5.母性看護学実習における到到達度を自己評価することにより、今後の課題と取り組みについて述べる事ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	学修目標を達成するための詳細な学習内容は母性看護学実習要項に示す。 １．臨地での実習は下記内容をローテーションにより実施する。 ・受持ち実習：4日間程度 ・NICU・GCU病棟見学実習：2日間 ・産科外来見学実習・リプロダクションセンター外来見学実習：2日間 ２．実習最終日に学内にて2グループ合同のカンファレンスを行う。午後に、指導教員との相互評価を行う。	全員
	実習オリエンテーション	１実習初日午前に臨地にて実習オリエンテーションを行う。 ・産科病棟、産科外来・リプロダクションセンター外来、NICU・GCU病棟 ・病棟師長からのオリエンテーション、教員からのオリエンテーション	全員
	受持ち実習	〈初日〉 ・受持ち母子の情報収集と関係づくり，アセスメントと看護課題の抽出，看護目標と看護計画立案 〈実習2・3・4日目〉 ・立案した看護計画を基に看護実践を行う。 ・ケア開始前、本日の学習目標および実習計画を臨地実習指導者に発表し助言を受ける。 ・実習指導者あるいは指導教員とともに母子のケアを実施あるいは見学する。 ・実践あるいは見学したケアとその結果をアセスメントとともに臨地実習指導者に報告し、助言を得て、翌日の実習計画を調整する 〈実習4日目午後（病棟実習最終日）〉 ・実習カンファレンスを行う ・受持ち母子の概要と実践した看護の概要および受持ち実習における学びと今後の課題を発表する。 ・他学生とのディスカッションを通して、入院中の母子とその家族への看護の特徴について理解を深める	全員
	NICU・GCU病棟実習	・NICU・GCU病棟に入院している児への援助の実際について見学を行う ・NICU・GCU病棟での面会中の家族への支援の実際について見学を行う ・NICU・GCU病棟の環境および入院している児の特徴と分離を余儀なくされた家族の心理社会的状況の特徴、看護の特徴について理解を深める。	全員
	産科外来・リプロダクションセンター外来実習	〈産科外来〉 ・妊婦健診あるいは産後健診・助産外来での母親への援助の実際を複数事例見学する ・見学および母親とのコミュニケーションを通して、妊娠期及び産褥期にある母子の身体的・心理社会的状況と外来での支援の特徴について理解を深める 〈リプロダクションセンター外来〉 ・不妊症看護認定看護師による不妊治療中の女性とそのパートナーへの支援の実際を見学する ・見学を通して、不妊治療中の女性とそのパートナーの身体的・心理社会的状況の特徴とリプロダクションセンター外来での支援の特徴について理解を深める。	全員
	NICU/ GCU病棟・外来実習カンファレンス	１．NICU・GCU病棟，産科外来，リプロダクションセンター外来実習の最終日にカンファレンスを行う ・見学体験に基づく学びについて発表し、他学生とディスカッションを通して、周産期周辺にある母子と家族の特徴と看護の役割について理解を深める。	全員
	学内カンファレンスと相互評価	〈最終カンファレンス〉 １．ケースカンファレンス ・受持ち母子の看護目標への到達度を整理したうえで、受持ち母子のケース紹介、実践した看護の要約と到達度を発表し、他学生とのディスカッションを通して看護の適切性について評価する ２．母性看護学の対象者とその家族の価値観や権利を尊重した看護 ・母性看護学の対象者とその家族の権利と価値観を尊重した看護について考えた場面について紹介し、対象女性とその家族の権利あるいは価値観を尊重した援助のあり方について、他学生とのディスカッションを通して理解を深める 〈教員との相互評価〉 ・学生の母性看護学実習自己評価をもとに、担当教員との面談により、実習の相互評価を行い、母性看護学実習における到達度と今後の課題を明らかにする	全員
	実習施設	・東邦大学医療センター佐倉病院	

	授業方法	・グループ毎に原則として受持ち実習4.5日間、見学実習４日を行う ・カンファレンス ・相互評価	
	キーワード	母性看護学における看護の展開方法・周産期看護に必要な観察技術/援助技術・情報収集・アセスメント・看護目標・看護計画・結果と評価・安全・安楽・セルフケア能力・権利と価値観・他職種間の連携	

【６】　事前・事後学習とその時間

・母性看護学概論，母性看護学方法，看護の基本技術Ⅵにおける既修得知識について復習する。
・実習体験を通してわからないことは自ら調べ、臨地実習指導者あるいは教員に積極的に確認し、助言を得る。
・その日の看護展開の評価および翌日の実習計画立案など準備学習に1時間程度を要する。

【７】　評価方法・基準

・実践内容（受持ち事例看護展開力、周産期周辺の看護の理解力、他職種連携における理解力、日々の記録、母性看護の対象者の権利と価値観を尊重した看護、自己評価力）70%、実習態度30%（実習への取り組み・態度、実習調整力、自己管理力）

【８】　フィードバック方法

・実習カンファレンスにて全体講評をする。最終カンファレンスのディスカッションの結果に対してコメントする。相互評価においてコメントする。

【９】　教科書

母性看護学概論、母性看護学方法論に記載した図書

【10】　参考書

その都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・母性看護学概論，母性看護学方法論，看護の基本技術Ⅵ

科目名(日本語)	**精神看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Mental Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	通年 3年	2単位 90時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺 (K334)				
オフィスアワー	実習日の実習終了後～17:00、臨地の指定された場所にて。その他の期間はメールで連絡する場合は科目責任者のアドレス渡辺（naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp）に連絡して下さい。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

精神に障がいをもつ対象の精神的健康及び不健康の状態像を理解し、日常生活リズムや生活環境を整える援助を通して、その人が持つセルフケア能力の維持・向上にむけた看護の知識・技術を修得する。また、保健医療福祉チーム協働の中で、看護の役割を理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 精神の健康上の問題に直面している対象を理解することができる。
2. 精神科病院に入院している対象のセルフケア能力を維持・向上のための看護を展開できる。
3. 精神に障がいを持つ対象が地域で生活を営む上で必要な援助を提案できる。
4. 精神に障がいを持つ対象との関わりを通して自己理解を深め、援助関係に役立てることができる。
5. 実習を通して精神看護の特徴と役割について考察できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	精神看護学実習概要	目標を達成するための詳細な学修内容は、精神看護学実習臨地実習要項に示す。 全体オリエンテーション、事前オリエンテーションにて、具体的な説明と演習を行う。	渡辺尚子・中嶋秀明
	病院実習	〈初日〉 ・病院内にてオリエンテーション ・一人の患者を受け持ち、看護を展開する。 〈実習１週目〉 ・受け持ち患者の全体像を把握し、セルフケア理論に基づき情報の整理とアセスメントを行う。 ・援助内容は、臨地・患者の状況と学生の準備状況に応じて行う。実施方法は状況に応じて決定する。 ・患者の全体像とセルフケアのアセスメント状況を発表 〈実習２週目〉 ・受け持ち患者に対し、看護計画に基づいて看護を実施・評価する。 ・ケースカンファレンス ・最終カンファレンス	渡辺尚子・中嶋秀明
	地域事業所等実習	実習1週目と2週目の水曜日 各地域事業所等に学生2～3名が配置される。 各施設でカンファレンスを行う。	渡辺尚子・中嶋秀明
	実習施設	医療法人石郷岡病院 同和会千葉病院 地域事業所　等	渡辺尚子・中嶋秀明
	実習方法	グループごとに２週間の実習を行う 調べ学習、学生カンファレンス・グループワーク・プレゼンテーション	渡辺尚子・中嶋秀明
	キーワード	看護の展開方法、看護情報収集、観察技術、コミュニケーション技術、アセスメント、看護目標、看護計画、記録、セルフケア理論、統合失調症、抑うつ障害群、多飲症、精神科リハビリテーション、地域活動支援センター、就労支援事業所	渡辺尚子・中嶋秀明

【６】　事前・事後学習とその時間

実習要項をよく読み、実習目的・目標・方法をよく理解しておくこと
授業の配布資料や事前課題のほか、関連資料をよみ、適宜自己学習を行うこと
新聞等、現在の精神障がいをもつ人の生活を取り巻く社会情勢を理解しておくこと
この授業は精神障がいを持つ人々に対し看護過程を展開していくため、翌日の計画立案等の予習と当日の看護実践の振り返りのための復習に、それぞれ1～2時間程度費やす。

【７】　評価方法・基準

実践内容（観察力、コミュニケーション力、アセスメント力、記録、学習者・専門職者としての態度）90%、事前・事後の課題レポート10%

【８】　フィードバック方法

最終日に実習のまとめで全体講評をする。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

精神看護学概論や精神看護学方法論で使用した教科書や講義資料、その他授業内で紹介した書籍等。

【11】　備考(関連科目等)

疾病と治療Ⅳ、精神看護学概論、精神看護学方法論、その他3年次春学期までの必修科目

科目名(日本語)	**看護の基本技術Ⅷ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Fundamental Nursing Skills Ⅷ	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代・島村敦子・菅谷綾子				
科目責任者 連絡先(教室)	島村（Email；atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K313）				
オフィスアワー	原則、授業開講日、講義室または各担当教員の研究室にて、13：00－13：50の間受け付ける。各担当教員の連絡先は、島村（K313：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬（K319：masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、鳥田（K320:mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、菅谷（K317:ayako.sugaya@hs.toho-u.ac.jp）その他は随時、Moodle上にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
その他

「その他」の内容

模擬訪問、模型を用いた演習

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Moodle

【２】　授業概要

健康障害を持ちながら、在宅で生活する人々に必要な援助を提供するための基本的な姿勢、知識を習得し、アセスメントの視点を養うとともに、在宅看護に特徴的な看護技術を修得する。

【３】　到達目標

1. 自宅に訪問するために必要な態度・姿勢を説明できる。
2. 初回訪問における、情報収集・アセスメントの方法を説明できる。
3. 療養者を支える家族のアセスメント・支援方法を説明できる。
4. 在宅で行う看護技術の特徴を説明できる。
5. 在宅で行う看護技術（初回訪問・初回アセスメント、褥瘡ケアなど）を模擬療養者またはモデル人形などを用いて体験できる。
6. 在宅で行う医療的ケアの特徴を説明できる。
7. 在宅で行う内服管理の工夫を3つ以上述べることができる。
8. 療養者と家族の支援に必要な社会資源の活用について、具体的な制度を１つ以上用いて説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	初回アセスメント	在宅におけるフィジカルアセスメント・生活アセスメントの理解 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク 予習：在宅におけるフィジカルアセスメント・生活環境のアセスメント視点を調べる 復習：在宅におけるフィジカルアセスメント・生活環境アセスメントの特徴について、考えたことを記述する キーワード：フィジカルアセスメント、生活環境	島村敦子　全員
3・4	初回訪問	初回訪問に必要な看護技術 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、模擬訪問（zoomを用いてライブ配信）、課題（ワークシート①） 予習：初回訪問の流れ、観察する内容を調べる 復習：初回訪問における観察・アセスメントの特徴について、気づいたこと・感想を記述する キーワード：初回訪問、情報収集、観察、アセスメント	島村敦子　全員
5・6	内服管理（１）	在宅における薬物療法と服薬管理の理解 授業方法：講義またミニレクチャー、グループワーク、模擬訪問（zoomを用いてライブ配信） 予習：　在宅における服薬管理の課題を３つ考える 復習：在宅における服薬管理の特徴を記述する キーワード：薬物療法、服薬管理	菅谷綾子　全員
7・8	内服管理（２）	自宅における服薬管理の実際 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、模擬訪問（zoomを用いてライブ配信） 予習：在宅における服薬管理の工夫を３つ考える 復習：在宅における服薬管理に関するケアのポイントについて、考えたことを記述する キーワード：薬物療法、服薬管理	菅谷綾子　全員
9・10	医療的ケア①	在宅における医療的ケア①（在宅酸素療法）の理解 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、課題（ワークシート②） 予習：在宅酸素療法の適応基準を調べる 復習：在宅酸素療法中の在宅療養者への看護支援を考える キーワード：医療的ケア、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法	菅谷綾子　全員
11・12	医療的ケア②	在宅における医療的ケア②（在宅中心静脈栄養法）の理解と実践 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、模型を用いた演習 予習：在宅中心静脈栄養法の目的と適応を調べる 復習：安全な在宅中心静脈栄養法を可能にする条件を記述する キーワード：医療的ケア、診療補助行為	島村敦子　全員
13・14	排泄ケア	在宅における排尿ケア・排便ケアの理解と実践 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、模型を用いた演習、課題（ワークシート③） 予習：在宅における排泄ケア課題をアセスメントする視点を調べる 復習：在宅における排便ケアの特徴について、考えたことを記述する キーワード：排泄ケア、摘便、おむつ、福祉用具	鳥田美紀代　全員
15・16	口腔ケア	在宅における口腔ケアの理解 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、模型を用いた演習 予習：在宅における口腔ケアに関する課題をアセスメントする視点を調べる。 復習：在宅における口腔ケアの特徴について、考えたことを記述する キーワード：口腔ケア、肺炎予防、義歯	鳥田美紀代　全員
17・18	家族への支援	家族アセスメントおよび家族支援の理解と実践 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク、課題（ワークシート④） 予習：療養者を介護する家族の特徴を３つあげる 復習：在宅における家族アセスメントの特徴について考えたことを記述する 予習：家族支援の目的を調べる 復習：家族を支援する看護師の姿勢について、考えたことを記述する キーワード：家族看護、家族アセスメント、家族介護者	佐瀬真粧美　全員
19	在宅における感染予防	在宅における感染予防の理解と実践 授業方法：講義またはミニレクチャー、グループワーク 予習：在宅ケアにおける感染予防の目的を調べる 復習：在宅ケアにおいて感染を予防する方法を記述する キーワード：スタンダードプリコーション（標準予防策）、在宅医療廃棄物	島村敦子　全員
20	清潔ケア	在宅における清潔ケアの理解と実際 授業方法：講義またはミニレクチャー、演習 予習：在宅における清潔ケアの目的を5つ挙げる 復習：在宅における清潔ケアのアセスメント視点を3つ挙げる キーワード：清拭、洗髪、入浴、福祉用具、社会資源	島村敦子　全員

21・22	対象疾患別事例（１）	さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS、④疾病や障害を持つ小児、⑤精神疾患を持つ療養者）の理解 授業方法：講義、個人ワーク、グループワーク 予習：在宅療養者への支援に必要な社会資源を調べる 復習：療養者の特徴に合わせた社会資源の活用方法について、考えたことを記述する キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	島村敦子　全員
23	対象疾患別事例（２）	さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS）への支援の実際 授業方法：選択した事例についてグループワーク 予習：担当となる対象疾患の支援の実際（社会資源を含む）を調べる 復習：担当となる対象疾患の支援内容について、考えたことを記述する キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	全員
24・25	対象疾患別事例（３）・まとめ	さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS）への支援のまとめ 授業方法：グループワークの成果発表、質疑応答 予習：担当以外の対象疾患の特徴を調べる 復習：対象疾患別①－⑤の支援の特徴をまとめる キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	全員
26・27	褥瘡ケア	在宅における褥瘡の予防とケアの理解と実践 授業方法：講義、グループワーク、演習 ＊この講義は、看護の基本技術Ⅳと合同で実施する 予習：在宅における褥瘡予防に必要なケアを３つ考える 復習：在宅における褥瘡ケアの特徴について、考えたことを記述する キーワード：褥瘡予防、リスクアセスメント、ポジショニング、創傷ケア	佐瀬真粧美 島村敦子　全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで講義で学習してきたものを活用する演習となるため、関連科目の復習を行うこと。この授業は、グループワークなどを通して学びを深めるため、既習知識の確認が重要となる。そのため、予習1時間程度、復習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
演習では、グループワークを通して個人の学びを深める。グループワークへの積極的な参加、および自由で柔軟な発想を期待する。

【７】　評価方法・基準

演習・グループワークへの取組状況（20%）、グループワークの成果発表（30%）、課題（ワークシート）（50%）

【８】　フィードバック方法

グループワークの状況およびリアクションペーパーを確認し、次回の授業で理解が不足している点についてコメントする。

【９】　教科書

資料は、授業時に提示する。

【10】　参考書

看護学テキストNiCE　在宅看護論改訂第2版　自分らしい生活の継続をめざして；石垣和子・上野まり編集､南江堂

【11】　備考(関連科目等)

看護入門実習Ⅰ、在宅看護概論、老年看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、コミュニティヘルス看護展開論、看護の基本技術Ⅶ、ターミナルケア、老年看護学実習Ⅲ、在宅看護実習

科目名(日本語)	**在宅看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Home Care Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	1単位 45時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	島村（Email;atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K313）、実習用携帯（番号は実習要項に記載する）。				
オフィスアワー	随時、Moodle上または、科目責任者のメール（島村：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、実習用携帯（番号は実習要項に記載する）にて質問を受け付ける。また、実習施設内では、指定された場所にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

地域で生活している人の姿・力に触れることから、療養生活を支えるために必要な看護を実践するための基礎的能力を修得することを目的とする。訪問看護ステーション等の実践活動から、地域で人々の健康を支えている訪問看護の理念、目標、方法を理解する。療養者・家族が地域で生きることを考え、療養者・家族を支えること、そのために必要となる連携のあり方について理解する。また、訪問看護ステーションにおける現状と課題について考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.訪問看護ステーション等の実践活動から、在宅看護・訪問看護の理念、目標、方法、看護師の役割を説明できる。
2.居宅における療養者と家族の生活の実際を観察できる。
3.看護師に同行訪問することから、療養者と家族に関する情報収集、アセスメント、計画立案、実施、記録、評価という居宅における看護過程を説明できる。
4.同行した看護師の指導の下に、バイタルサインの測定、清潔ケアなどの非侵襲的なケアに参加できる。
5.療養者と家族への看護を見学または看護師とともに実施する際には、倫理的態度で関わることができる。
6.療養者と家族が住み慣れた地域で生活するために、それを支える連携のあり方、制度の利用について同行訪問した事例をもとに説明できる。
7.居宅における看護活動と地域包括ケアシステムとの関連および在宅看護の展望について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	【オリエンテーション】	目標を達成するための詳細な学修内容は、在宅看護実習要項に示します。 また、各実習施設のオリエンテーションはMoodle上に提示するため、実習直前に確認する必要があります。 ＜実習1日目（月曜日）＞ 各施設でのオリエンテーション ・実習施設の組織、体制について ・各施設でのオリエンテーション終了後、看護師等に同行訪問する	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子
	【訪問看護ステーション等での実習】	＜実習2日目（火曜日）－4日目（木曜日）＞ 各施設での実習 ・実習時間は、原則として実習先の勤務時間とする ・多様な事例（小児、高齢者、認知症高齢者、終末期療養者など）へ、看護師に同行訪問する ・看護師等との同行訪問を通して、情報収集方法、居宅で生活する療養者と家族のアセスメント・居宅での看護過程の展開などを体験する ・同行した看護師が可能と判断した場合には、学生の学習段階に応じて、バイタルサインの測定、清潔ケアなどを実施または補助する ・可能であれば、ケアカンファレンスなどに参加することで、他の専門職との連携方法を学ぶ ・実習4日目には、まとめのカンファレンスを実施する	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子
	【学内実習】	＜実習5日目（金曜日）＞ 学内演習 午前　学内グループワーク ・異なる施設で実習した学生から構成されるグループを作る ・「療養者と家族が安心して生活するために必要な事柄」について、グループディスカッションを行う。このとき、実習において体験した具体的な内容と関連させた意見を述べる ・グループワークの成果を発表、質疑応答 午後　個人面接 ・実習目標の達成状況の確認 ＜実習6日目（土曜日）＞ ・各自、課題レポートの作成、実習のまとめ	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子
	【実習予定施設】	＜実習予定施設＞ ・津田沼訪問看護ステーション ・まちのナースステーション八千代 ・済生会ならしの訪問看護ステーション ・新習志野訪問看護ステーション ・おゆみの中央病院訪問看護ステーション ・訪問看護ステーションひとみ ・訪問看護ステーションほのぼの ・稲毛駅前訪問看護ステーション（ナーシングホーム八千代台） ・船橋市リハビリセンター訪問看護ステーション ・セントケア訪問看護ステーション船橋 ・訪問看護ステーションあおい ・シュガーハート習志野訪問看護ステーション ・シュガーハート花見川訪問看護ステーション	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子
	【授業方法】	・学内オリエンテーション（全員共通） ・訪問看護ステーション等での実習（各施設、学生1-2名） ・学内グループワーク（全員共通） ・グループワークの成果発表（全員共通） ・課題レポート（全員共通）	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子
	【予習・復習・キーワード】	【予習・復習・キーワード】 予習 キーワードを参考に、これまで学習してきた内容を教科書、授業資料などを用いて再度確認する。そのため、予習には1時間程度が必要になる。 復習 学内演習での学びを、その日のうちに記録にまとめる。そのため、最低1時間程度が必要になる。 キーワード 訪問看護制度、介護保険、医療保険、在宅看護技術、訪問看護過程、家族アセスメント、退院調整・退院支援、他職種連携、社会資源	佐瀬真粧美 鳥田美紀代 島村敦子 菅谷綾子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。実習では、限られた時間で、必要な情報を収集する必要があるので、予習1時間程度、復習としてその日のまとめに1時間程度を必要とする。

【学習上の留意点】
実習先の訪問看護ステーションの一員として、療養者と家族を訪問することになる。そのため、実習中の服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、看護学を学ぶ学生としての自覚を持ち行動すること。また、学習活動上知り得た療養者と家族の情報、実習記録などの管理を行うこと。

【７】　評価方法・基準

目標の到達状況 60%、学習者としての態度、在宅看護の場における倫理的態度 20%、課題レポート内容 20%

【８】　フィードバック方法

学内実習最終日に、全体を講評する。

【９】　教科書

資料を学内オリエンテーション時に配布する。

【10】　参考書

・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き（毎年7月　最新刊発行）
・押川真喜子：新訂版　写真でわかる訪問看護アドバンス（株式会社インターメディカ、2020年）
・NPO法人HAICS研究会：オールカラー改訂2版訪問看護師のための在宅感染予防テキスト（メディカ出版、2020年）
・日本看護協会編：平成29年版　看護白書（日本看護協会出版会、2017）
・東京訪問看護ステーション協議会：見てできる臨床ケア図鑑　在宅看護ビジュアルナーシング（学研メディカル秀潤社、2017）
など、その他の参考書は、学内オリエンテーション時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、看護入門実習Ⅰ、在宅看護概論、老年看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、コミュニティヘルス看護展開論、看護の基本技術Ⅶ、看護の基本技術Ⅷ、ターミナルケア

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	1単位 45時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・上地賢・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	学内日の17時まで。臨地に出向いているときには随時メールや事前に周知された実習期間中の連絡体制、および緊急連絡先にて連絡することが可能です。 担当教員：小板橋（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp・K315）、上地（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp・K316）、植村（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp・K322）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【2】　授業概要

コミュニティヘルス看護の一つの活動の場である保健センター・保健所において、地域住民を対象として健康水準の向上を目的に展開される保健活動の実際を体験し、基本的な知識・技術を学ぶ。具体的には、対象地域の特性と健康課題、コミュニティヘルス看護の対象、行政の保健部門の機能とコミュニティヘルスを支える人々の役割について考える。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

1.主として行政（地方公共団体）で展開されている地域保健活動とその対象について説明できる。
2.地域保健活動に参加し、活動ツールである健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、地域ケアシステムケア構築の実際とその特徴について説明できる。
3.実習を通して得られる全ての情報をアセスメントし、実習地域の地域特性と健康課題について考えることができる。
4.コミュニティヘルスの活動の場の一つである保健センター・保健所の機能について説明できる。
5.コミュニティヘルスを支える人々の役割について説明できる。
6.地域の人々の健康と尊厳を守る看護職に求められる姿勢・態度について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション	目標を達成するための詳細な学修内容は、コミュニティヘルス看護実習要項に示す。 1）実習オリエンテーション 　実習概要を理解し、事前学習、現地実習に向け、学習計画を行う。	全員
	現地での実習	2）現地実習（4日間） （1）実習施設からの講話 実習施設の概況について実習指導者から講話をいただき、実習施設の組織、管轄地域の特性と健康課題、健康課題に応じた地域保健活動とそれらを担う人々について理解する。 （2）地域保健活動への参加 地域保健活動に参加し、地域保健活動の対象者に対する観察・コミュニケーションをとおし、地域保健活動の対象の特徴、共通する健康課題、対象の生活、解決しようとしている健康課題について理解する。また、地域保健活動の活動ツール（健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、地域ケアシステムケア構築）の実際とその特徴について理解を深める。 （3）実習地域のアセスメント 事前学習で把握した実習市の地域概況、実習指導者からの講話、地域保健活動の参加等で得られた全ての情報から実習市の地域特性と健康課題について考えを深める。 （4）実習施設でのカンファレンス 現地実習で各自が学んだことを発表する。テーマは「コミュニティヘルス看護実習を通した学び」とする。学生同士で討議を行った上で、実習指導者と教員から指導・助言を受ける。	全員（ただし、実習施設ごとに担当教員を設定する）
	学内まとめ	3）学内カンファレンス 学生人数により、グループに分かれてカンファレンスを実施する。テーマは、「実習市の地域特性と健康課題に応じたコミュニティヘルス看護活動」とする。 現地実習での学びを振り返り、実習市の特性と健康課題についての情報共有・討議を行い、コミュニティヘルス看護の特徴と実際について理解を深める。	全員（実習施設担当教員）
	実習施設・方法および事前事後課題	＜実習施設＞ 市町の保健センター（一部：市保健所） 【授業方法】 グループ毎に1週間の実習を行う。 保健センター・保健所で実施されている保健活動に参加する。 指導者を交えたカンファレンスを行う。 【事前事後課題・キーワード】 ＜事前課題＞ 既習科目で修得した知識を活用しながら実習をすすめるため、予習・復習に各1時間～1.5時間程度を要する。既習のコミュニティヘルス看護領域の科目、特に、公衆衛生看護学概論、看護の基本技術Ⅸについて復習する。 ＜事後課題＞ コミュニティヘルス看護実習を振り返り、コミュニティヘルスを支える看護について考察し、レポートにまとめる。 ＜キーワード＞ コミュニティヘルス、公衆衛生、保健所・保健センター、地域保健活動、健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、地域ケアシステム構築、地域特性、健康課題	

【6】　事前・事後学習とその時間

学習上の留意点に関する詳細は実習要項に示すので確認してください。
準備学習：既習のコミュニティヘルス看護領域の科目の復習を求めます。特に、看護の基本技術Ⅸで習得した地域診断については、十分に復習して実習に臨んでください。予習に1時間程度、復習に1時間程度費やします。

【7】　評価方法・基準

実習内容（60%）、学習者としての態度（20%）、課題レポート（20%）

【8】　フィードバック方法

実習巡回、学内実習時に適宜コメントします。
実習記録・レポートは返却します。Moodleでの提出の場合はMoodle上でのコメントにかえることがあります。

【9】　教科書

公衆衛生看護学.,荒賀直子他編, インターメディカル,最新版
※２年次の公衆衛生看護学概論で用意した版で可。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護領域全般

科目名(日本語)	**看護研究入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Research in Nursing	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・渡邊尚子・臼井雅美・蜂ヶ崎令子・上地賢・島村敦子・瀧口千枝・原田慶子・水流添秀行・笠間秀一・原田奈美・中嶋秀明・林華子				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp, 研究室329				
オフィスアワー	渡邊K334、臼井K331、蜂ケ崎K314、上地K316,島村K313,瀧口K321、原田慶子K330、水流添K323、笠間K332、原田奈美K324、中嶋K323、林華子K327 金曜日：16時20分～18時　担当教員の研究室、なおメールあるいはMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる。なお担当教員のメールアドレスについては講義内に提示提示する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護学の発展と看護の質向上を目指して、看護研究の原理と方法について基礎知識を学ぶ。さらに、文献検索方法、看護研究論文のクリティークの方法を学ぶ。また、研究計画の作成方法、人を対象とした研究の倫理的配慮についても学ぶ。看護研究入門は、専門基礎科目「研究方法の基礎」での学習を看護学に発展させるものであり、専門科目「看護研究」の演習につながる科目である。

【３】　到達目標

1.文献検索方法がわかる
2.看護研究を行う目的と意義について説明できる
3.研究疑問を明確にする方法について説明できる
4.研究疑問に応じた研究デザインと研究方法について説明できる
5.研究論文をクリティークすることができる
6.研究論文についてクリティークしたことを発表できる
7.研究計画書作成のための項目を述べることができる
8.人を対象とした看護研究に必要な倫理的配慮の項目を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	文献検索方法	内容 １．文献検索方法 方法：演習 予習：これまでの文献検索体験において疑問点などをピックアップする 復習：文献検索演習の課題に取り組む，文献を検索する キーワード：文献検索、検索データベース、キーワード設定、論文、シソーラス、文献入手	林ひろみ／習志野メディアセンター
3・4	看護研究の概説(1)	内容 1．看護における研究の目的と意義 2．看護研究のプロセス 3．研究疑問（研究目的）の明確化 4．研究疑問に応じた研究デザイン 方法：講義 予習：看護研究とはどのようなものか、参考文献に目を通す 復習：自己の講義・演習・実習などの体験を基に研究疑問を考え記述しておく キーワード：研究の本質、研究の意義、研究の目的、看護研究の役割、エビデンス、研究の原理、研究疑問、研究デザイン、質的記述研究デザイン、量的記述研究デザイン、仮説検証型研究デザイン、因果関係検証型デザイン	林ひろみ
5・6	看護研究の概説(2)	内容 1．研究デザインに応じた研究方法 方法：講義 予習：研究デザインに応じた研究方法について参考書に目を通す. 復習：研究方法を研究デザインごとに整理し記述する. キーワード：研究疑問、因子探索研究、関係探索研究、関連検証研究、因果仮説研究、仮説、研究枠組み、質的研究、量的研究､研究対象者、データ収集内容・方法、分析方法	林ひろみ
7・8	看護研究の概説(3)	内容 1．論文の種類 2．論文のクリティークとは 3．量的研究のクリティーク方法 4．質的研究のクリティーク方法 方法：講義 予習：クリティークとはどのようなことか、参考文献に目を通す。課題論文のクリティーク課題に取り組む 復習：授業内容を整理し、提示された論文のクリティーク内容を見直し、自己の課題を明確にする キーワード：批判的思考、研究の正しい方法、客観性、妥当性、一貫性、整合性、汎用性、一般化、論文の種類	林ひろみ
9・10	論文のクリティーク方法(1)	内容 1．量的研究論文のクリティークについて発表 2．論文内容の理解を深めるための討議 3．量的研究論文のクリティークの課題 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：提示された量的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションによりクリティークの追加修正を行う キーワード：研究論文、クリティークの視点、量的研究、プレゼンテーション	担当者全員
11・12	論文のクリティーク方法(2)	内容 1．質的研究論文のクリティークについて発表 2．論文内容の理解を深めるための討議 3．質的研究論文のクリティークの課題 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：提示された質的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションによりクリティークの追加修正を行う. キーワード：研究論文、クリティークの視点、質的研究、プレゼンテーション	担当者全員
13・14	看護研究の研究計画書の作成方法／人を対象とした看護研究における倫理的配慮の概説	内容 1．研究計画書とは 2．研究計画書の構成要素 3．研究計画書の作成手順 4．人を対象とした研究における倫理的配慮とは 5．人を対象とした看護研究における倫理的配慮の具体的内容 方法：講義 予習：研究計画書の作成に関連する内容についてこれまでの授業資料に目を通す・人を対象とした研究における倫理的配慮について参考書に目を通す、看護研究のための倫理指針（国際看護師協会）に目を通す 復習：授業内容を整理し、研究計画書に記載すべき内容について整理する。人を対象とした看護研究における倫理的配慮について整理する。課題ワークシートに取り組む。 キーワード：研究計画、研究動機、学術的背景、研究疑問、研究テーマ、研究目的、研究方法、倫理的配慮、研究体制、時間、予	林ひろみ

		算、人を対象とした研究における倫理的配慮，説明と同意，任意性の保証、研究における不利益並びに危険への配慮，個人の人権の養護，科学的妥当性、健康科学上の貢献並びに社会への貢献，	

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】

講義の前に関連個所を読んでおく。復習として、これまでの講義・演習・実習を基に自らの研究疑問について、どういう状況に対するどのような疑問であるかを記述し、関連する文献を検索し、疑問に関連した文献検討を行うなど4年次の看護研究の準備を開始する。

授業は看護研究の基盤となる知識と手法を習得し科学的な探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

【学習上の留意点】

看護研究に取り組むために必要な授業内容である。参考文献の中から活用しやすい書籍を選択し、購入することを勧める。

理解を深めたい点において、文献を検索し主体的に取り組むこと。また、わからない点や困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

課題ワークシート60%，講義後のリフレクション課題30%、ワーク取り組みの自己評価10%

【８】　フィードバック方法

課題ワークシートを返却し、返却時に講評する。グループディスカッションの結果に対して講評をする．授業最終日に全体講評する。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

・黒田裕子著：黒田裕子の看護研究　step by step　第5版，医学書院，2017.
・南裕子・野嶋佐由美編：看護における研究　第2版，日本看護協会出版会，2017.
・横山美恵編：よくわかる看護研究の進め方、まとめ方　第3版，医歯薬出版株式会社，2017.
・早川和生編著：JJNスペシャル　看護研究の進め方、論文の書き方　第2版，医学書院，2012.
・石井京子・多尾清子：ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版，医学書院，2016.
・田久浩志著：統計解析なんかこわくない　データ整理から学会発表まで　第2版，医学書院，2019.
・山川みやえ・牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.

【11】　備考(関連科目等)

「研究方法の基礎」、「看護研究」

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学の技術**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Skills	選択	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	植村の研究室（K322）への訪室、もしくはEメール（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）で連絡を取ることができる。Moodle上のメッセージ機能で担当教員（植村、小板橋、上地）に適宜連絡を取ることができる。				
オフィスアワー	原則水曜日の12:00～13:00をオフィスアワーとするが、長時間にわたる質問や相談は事前にアポイントをとり、日時を指定した上で対応することができる。担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、上地K316（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【２】　授業概要

地域で生活する個人・家族・集団が主体的に健康の維持・増進に取り組むことを支援する保健師の支援の方法論として、家庭訪問、健康相談、保健指導、健康診査、健康教育、グループ支援について学習する。また、地域における健康課題の組織的な解決方法としての地区活動、地域組織活動、地域ケアシステムづくりについて理解を深める。

【３】　到達目標

1. 地域で生活する個人、家族、集団を対象とした支援の方法論について説明できる。
2. 家庭訪問の目的と特性を理解し、計画、実施、評価、次回の支援計画の一連の過程を教員の指導の下で実践できる。
3. 健康診査、健康相談の目的と特性を理解し、計画、実施、評価、次回の支援計画の一連の過程を教員の指導の下で実践できる。
4. 地域におけるグループ支援・地域組織活動の目的と特性を理解し、健康状態の維持・増進への機能を説明することができる。
5. 多職種連携による個人・家族・グループの支援を基盤とした地区活動、地域組織活動、地域ケアシステムづくりを説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	保健師の支援の対象と支援方法	内容： 1)家庭訪問・健康相談・健康診査・健康教育・グループ支援・地区組織活動 2)個別支援から地域の支援への展開方法 3)保健師の支援のあり方と特徴 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論で学習した内容を振り返っておく。 復習：複数の方法を組み合わせて支援に取り組む保健師の支援のあり方と特徴を記述する。 キーワード：家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査、グループ支援、地域組織活動、アウトリーチ	全員 (植村直子)
3.4	家庭訪問演習①	内容： 1)家庭訪問の目的と特徴 2)母子保健における家庭訪問の位置づけ 3)新生児訪問対象者の把握と健康課題を予測した支援計画立案 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：家庭訪問について教科書を読んでおく。新生児訪問の法的根拠、健やか親子21、新生児の発育・発達、家族の発達段階・発達課題について教科書等で確認しておく。 復習：新生児訪問対象者の把握から支援計画立案のプロセスを振り返り、大事な視点を記述する。 キーワード：新生児訪問、妊娠期からの切れ目ない支援、メンタルヘルス、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ	全員 (植村直子)
5.6	家庭訪問演習②	内容： 1)地域特性を踏まえた家庭訪問準備 2)家庭訪問による支援の実施（児と家族の健康状態の把握、育児・生活環境の把握） 3)家庭訪問における保健師の態度の考察 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習： 母子保健分野の社会資源にはどのようなものがあるか教科書等で調べておく。 復習：地域特性を踏まえた家庭訪問準備の必要性について記述する。 キーワード：生活・環境・家族・社会的背景の把握、社会資源、フォーマルサービス、インフォーマルサービス	全員 (植村直子)
7.8	家庭訪問演習③	内容： 1)家庭訪問による支援の実施（児の発育・発達の確認） 2)家族のニーズに応じた支援内容の判断と提供 3)家庭訪問で保健師に求められる知識・技術の考察 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：新生児の計測方法の手技を確認しておく。 復習：家庭訪問でのケアを振り返り、対象者の健康状態、生活環境を踏まえた支援のあり方を考察する キーワード：信頼関係・支援関係の構築、情報収集、アセスメント、ニーズに基づく支援、自己決定の支援	全員 (植村直子)
9.10	家庭訪問演習④	内容： 1)家庭訪問の評価と次回の支援計画立案 2)家庭訪問と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の特徴についての考察 3)家庭訪問と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義・グループワークによる演習 予習：家庭訪問後のフォローアップ、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援、地域組織活動での支援の継続について、公衆衛生看護活動論で学習した内容を振り返っておく。 復習：家庭訪問訪問で必要とされる知識・技術・態度についてまとめる。 キーワード：健康レベル・健康状態に応じた支援、顕在的・潜在的課題の明確化と予測、共通の課題をもつ小集団への支援、関係者・機関との連携・協働、地域ケアシステムの構築	全員 (植村直子)
11.12	家庭訪問演習⑤	内容： 1)家庭訪問技術・態度の達成度確認 2)家庭訪問支援技術の知識の確認 3)実習に向けた課題の明確化 授業方法：課題・ミニテスト 予習：新生児訪問における知識・技術・態度について第1-12回の学習内容を振り返っておく。 復習：家庭訪問演習の一連の過程を振り返り、実習に向けた自己の学習課題を記述する。 キーワード：公的責任、個人、家族、小集団、地域の間の相互作用への働きかけ	全員 (植村直子)

13.14	健康診査・健康相談演習①	内容： 1) 母子保健分野における健康診査・健康相談の位置づけ 2) 乳幼児健康診査の実施 3) 乳幼児健康診査後の継続支援 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：乳幼児健康診査の法的根拠、実施体制、乳幼児の成長発達について教科書等で等で調べておく。 復習：1歳６か月児健康診査における保健師の観察項目、事後フォローについて考察する キーワード：乳幼児の成長・発達の評価、スクリーニング、課題の早期発見とフォローアップ、基本的生活習慣の確立と保健指導、虐待防止と早期発見、未受診者の把握とフォローアップ	全員 (植村直子)
15.16	健康診査・健康相談演習②	内容： 1)乳幼児健康診査の事後フォロー 2)健康診査・健康相談と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の特徴についての考察 3)健康診査・健康相談と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：乳幼児健康診査、健康相談後のフォローアップ、健康診査、健康教育、グループ支援、地域組織活動での支援の継続について、教科書等で調べておく。 復習：健康診査・健康相談で必要とされる知識・技術・態度についてまとめる。 キーワード：要支援・要精査者の把握とフォローアップ、共通の課題を持つ小集団への支援、関係者・機関との連携、地域ケアシステムの構築	全員 (植村直子)
17.18	健康診査・健康相談演習③	内容： 1)健康診査・健康相談の目的と特徴 2)成人保健における健康診査・健康相談の位置づけ 3)特定保健指導の初回支援計画立案と実施 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：健康日本21、特定健康診査の法的根拠、検査項目、特定保健指導内容と特徴について教科書等で調べておく。 復習：特定保健指導の実施内容を振り返り、行動変容に向けた保健指導について考察する。 キーワード：生活習慣病予防、特定健康診査、特定保健指導、メタボリックシンドローム、行動変容段階、セルフケア行動、動機付け、健康問題・課題への気づき、自己決定の支援	全員 (植村直子)
19.FT	健康診査・健康相談演習④	内容： 1)特定保健指導の継続支援の実施 2)特定保健指導の評価 3)健康診査と健康相談、他の支援法を組み合わた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：特定健康診査・特定保健指導の事業評価について教科書等で調べておく。 復習：特定健康診査・特定保健指導の評価指標を、プロセス、影響、成果に分けてまとめる。 キーワード：生活習慣病重症化予防、インプット評価、アウトプット評価、ストラクチャー評価、プロセス評価、アウトカム評価	全員 (植村直子)
20.21	グループ支援・地域組織織活動支援演習①	内容： 1)グループワークとファシリテーションスキル 2)地区組織活動の実際 3)地区組織活動の開始、存続に必要な要素の検討 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：地域で活動するグループを自治体の広報誌等で探しておく。 復習：地区組織活動の開始、存続に必要な要素を考察する。 キーワード：グループ支援・地域組織活動、組織化、役割、地域ケアシステム、コミュニティ、エンパワーメント、グループダイナミクス、セルフヘルプグループ	全員 (上地賢)
22.23	グループ支援・地域組織活動支援演習②	内容： 1) 組織化、組織活動支援の実際と保健師の役割 2) 地域ケアシステムづくりにおける保健師の役割 3) グループ支援・地域組織活動のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：地区組織活動にかかわる保健師の役割について考察する。 復習：地域におけるグループ活動の目的と特性を理解し、健康状態の維持・増進への機能を説明する。 キーワード：地区組織活動、組織化、地域ケアシステム、コミュニティ、エンパワーメント、グループダイナミクス、セルフヘルプグループ	全員 (上地賢)
24.25	多職種連携による難病支援演習①	内容： 1)難病療養者の健康課題の検討 2)難病事例の個別支援方法の検討 3)難病療養者支援カンファレンスの準備 授業方法：課題・グループワーク 予習：難病患者の地域での支援について、法的根拠、地域での支援に取り組む機関や職種についてを教科書等で調べておく。 復習：多職種連携による支援演習を振り返り、保健師の支援のあり方、専門性について考察する。 キーワード：難病対策、疾患の特徴に応じた支援、多職種・多機関連携	全員 (小板橋恵美子)

26	多職種連携による難病支援演習②	内容： 1)多職種連携による難病療養者の支援方法の検討 2)難病事例の個別支援から地域への支援の展開 3)多職種連携による難病事例支援演習の一連の過程を振り返り、実習に向けた自己の学習課題を考察する。 授業方法：課題・グループワーク 予習：難病患者の地域での支援について、法的根拠、地域での支援に取り組む機関や職種についてを教科書等で調べておく。 復習：多職種連携による支援演習を振り返り、保健師の支援のあり方、専門性について考察する。 キーワード：多職種・多機関連携、医療機関、地域ケアシステムの構築、公的責任、個人、家族、小集団、地域の間の相互作用への働きかけ	全員 (小板橋恵美子 ゲストスピーカー)
27	健康診査・健康相談・グループ支援・地域組織活動演習の達成度の確認とまとめ	内容： 1)健康診査・健康相談支援技術・態度の達成度確認 2)健康診査・健康相談支援技術の知識の確認 3)実習に向けた課題の明確化 授業方法：課題・ミニテスト 予習：健康診査・健康相談、グループ支援・地域組織活動における知識・技術・態度について第14-25回の学習内容を振り返っておく。 復習：健康診査・健康相談演習、グループ支援・地域組織活動の一連の過程を振り返り、実習に向けた自己の学習課題を記述する。 キーワード：公的責任、個人、家族、小集団、地域の間の相互作用への働きかけ	全員 (植村直子)

【６】　事前・事後学習とその時間

〈学習上の留意点〉
本演習は原則対面により実施する。適宜、Moodle、Webベースのグループワークを実施する。そのため、演習、グループワークへの積極的な参加が求められる。非協力的な態度を示す学生には当演習および関連する実習への参加を許可しない場合がある。
〈予習・復習〉
この講義では予習、復習にそれぞれ1時間程度を要する。
予習：事前に資料を配布する。授業参加までに資料を熟読し、必要な事項に対する自己学習が求められる。
復習：演習内容の理解と実践を確かなものにするため、FT時間を活用した技術実践の復習が求められる。

【７】　評価方法・基準

支援技術課題（家庭訪問、保健指導、健康診査）40%、ミニテスト：30%
最終レポート：30%

【８】　フィードバック方法

支援技術、ミニテストでは教員からの口頭での講評に加え、ピアフィードバックとして学生間での講評を行う。予習、復習の内容に関して必要な場合には講義中に教員から講評する。

【９】　教科書

公衆衛生看護学.jp第5版

【10】　参考書

講義内で提示する。

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス、公衆衛生看護に関する講義全般
演習の進捗状況に応じて、演習内容、担当教員を入れ替えることがあります。授業内、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学活動論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Process	選択	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	植村直子：健康科学部棟3階研究室K322　naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日の13時00分～13時50分。質問等は講義内容に該当する教員の研究室を訪ねてください。 また、メールでも質問、相談を受け付けます。 担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、上地K316（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【2】　授業概要

地域で生活する人々のライフステージの特性を踏まえた保健活動、地域で生活する障がい者等を支援する活動方法について、それぞれを対象とした法的根拠に基づく健康支援体制、対象特性を踏まえた保健活動、関係機関・関係職種、住民組織との協働で展開される保健活動の方法とその意義、保健師の役割について学ぶ。
（植村直子／13回）母子保健活動、成人保健活動、災害時の保健師活動、グローバルヘルスと保健師活動
（小板橋恵美子／14回）高齢者保健活動、感染症保健活動、精神保健活動、難病・障害者への支援活動、地域ケアシステム構築
（上地賢/0回）

【3】　到達目標

1.公衆衛生看護活動における法的根拠と健康支援体制について説明できる。
2.母子保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
3.成人保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
4.高齢者保健福祉活動における対象の特徴と保健福祉活動の概要について説明できる。
5.精神保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
6.感染症保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
7.難病・障害者保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
8.住民組織との協働で展開させる保健活動について説明できる。
9.地域ケアシステム構築の方法と保健師の役割について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	法的根拠に基づく健康支援体制①母子保健、成人高齢者保健に関する事項	内容：地域における健康支援体制（1） 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：地域保健法、健康日本21、健康増進法、がん対策基本法、自殺対策基本法、母子保健法、児童福祉法、児童虐待防止法、母子保健計画、健やか親子21、ゴールドプラン21、高齢者の医療の確保に関する法律	小板橋恵美子、上地賢
3.4	母子保健活動	内容：ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチによる母子への支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。自治体のホームページからどのような母子保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：母子保健、乳幼児の発育・発達、子育て、乳幼児健康診査、早期発見、保健指導、ポピュレーションアプローチ、児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、ハイリスクアプローチ、地域づくり	植村直子
5.6	成人保健活動	内容：生活習慣病予防・重症化予防・がん対策に関する支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。自治体のホームページからどのような成人保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：成人保健、生活習慣病予防、特定健康診査・特定保健指導、がん対策、健康づくり、サポートシステム	植村直子
7.8	高齢者保健活動①	内容：介護予防を中心とした高齢者への支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：高齢者保健、健康寿命、保健指導、介護保険法、地域支援事業、地域包括支援センター、サポートシステム、地域づくり、歯科保健	小板橋恵美子
9.10	高齢者保健活動②	内容：要支援・要介護高齢者を中心とした支援 授業方法：講義 予習：自治体のホームページからどのような高齢者保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：介護予防、要支援・要介護高齢者、認知症、ターミナルケア、高齢者虐待、セルフネグレクト、地域支援事業、地域包括支援センター	小板橋　恵美子
11.12	公衆衛生看護活動の実際・母子保健、成人・高齢者保健活動のまとめ	内容：個別支援の実際と地域づくりの実際 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：個別支援、健康課題のアセスメント、地域の健康課題、地域づくり、地域ケアシステム	植村直子　　ゲストスピーカー
13.14	法的根拠に基づく健康支援体制②精神保健、感染症対策、・難病、障害者対策に関する事項	内容：地域における健康支援体制（2） 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：障害者基本法、精神保健福祉法、新障害者プラン、障害者自立支援法、感染症法、生活保護法、社会福祉法	小板橋　恵美子
15.16	精神保健活動	内容：精神障害者の生活特性と保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：精神保健活動、地域生活支援、社会復帰、自立支援、サポートシステム	小板橋　恵美子
17.18	感染症保健活動	内容：感染症にかかわる保健師の活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：感染症保健活動、感染症予防、疾病管理、早期発見、感染症発生時の対応、結核対策、ＤＯＴＳ	小板橋　恵美子
19.20	地域ケアシステム	内容：地域ケアシステムの理念、目的、構築過程、チームワーク 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：仲間づくり、関係者間のネットワーク、住民とのパートナーシップ、協働、連携、連携会議、地域ケアシステム構築	小板橋　恵美子
21.22	公衆衛生看護に求められる知識・技術・態度①災害時の保健師活動を学ぶ	内容：災害時の保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：災害サイクル、災害発生時の保健師の役割、災害対策基本法	植村直子

23.24	公衆衛生看護に求められる知識・技術・態度②平常時に取り組むべき活動から考察する	内容：災害後、復興期の保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：災害サイクル、災害に備えた平常時の保健師活動	植村直子
25.26	保健師活動の現状と課題	内容：諸外国の保健師活動との共通点・相違点 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：グローバルヘルス、諸外国における保健師の資格制度と役割	植村直子
27	公衆衛生看護活動の実際・まとめ	内容：地域住民を対象とする公衆衛生看護活動のまとめ 授業方法：講義 予習：第１回～２６回の授業資料を振り返っておく。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：公衆衛生看護、地域における保健師の保健活動、一次予防、二次予防、三次予防、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ	植村直子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、公衆衛生看護活動の特徴についての理解を深めるために、関連する既習科目を復習してください。また、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習に1時間程度、復習に1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
法律、施策、社会の状況および人々の健康課題を理解し、保健活動の担う役割について考察を深めてください。

【７】　評価方法・基準

小テストまたは課題（各回2%×27回）54%、試験46%

【８】　フィードバック方法

質問や感想等に対して講義時またはMoodle上でフィードバックします。

【９】　教科書

公衆衛生看護学.　荒賀直子他編，インターメディカル．最新版（第5版）

【10】　参考書

その他必要な資料は適宜提示します。

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがあります。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。

科目名(日本語)	**学校保健・産業保健**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	School and Occupational Health	選択	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	平川俊功				
担当教員	佐藤左千子・平川俊功				
科目責任者 連絡先(教室)	＜学校保健＞平川俊功　hirakawa@tokyo-kasei.ac.jp ＜産業保健＞佐藤左千子　ushiwakamarumaru@gmail.com				
オフィスアワー	＜学校保健＞平川俊功　授業当日の授業後、非常勤講師室にて10分程度質問を受け付けるほかメールで質問を受け付ける。 ＜産業保健＞佐藤左千子　授業当日の授業後、非常勤講師室にて15分程度質問を受け付ける。それ以外の時間についてはメールでの問い合わせに限る				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動の場としての学校・産業分野における対象特性と組織的に展開されている保健活動の実際、及び養護教諭・産業看護職の役割について学ぶ。さらに、行政・学校・産業のそれぞれの連携・協働の在り方について考える。
（平川俊功／７回）学校保健の理念、学校保健の歴史と現状、学校保健制度とシステム、学校保健活動と養護教諭の役割、児童生徒の現代的健康課題と養護教諭の活動
（佐藤　左千子／７回）産業保健の理念と目的、産業保健の制度とシステム、産業保健活動の実際と産業看護職の役割

【３】　到達目標

＜学校保健＞
1. 学校保健の目的及び構造と領域を理解し、説明できる
2. 学校保健の担い手及び組織活動や連携について理解し、説明できる
3. 児童生徒の現代的健康課題と対処方法や教育方法を理解し、説明できる
4. 学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、説明できる

＜産業保健＞
1. 産業保健の目的及び、産業看護に関する基本的な知識を説明できる。
2. 労働が健康と密接に関わっている事を学習し、労働と健康障害の関連を説明できる。
3. 産業保健に関わる多機関多職種との連携、安全配慮義務、個人情報保護などの活動上の留意点について理解し、実践的な活動場面を想起することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	オリエンテーション ①学校保健の理念 ②学校保健の歴史と現状	4月16日（土曜日）第3限・第4限 内容：授業の進め方の説明 ・授業の進め方及び評価方法等 学校保健の定義・目的及び場と対象を理解する ・学校保健の理念 ・学校保健の歴史と現状 授業方法：講義形式 予習：（第1・2回）『国民衛生の動向2020／2021』ｐ370を読む 復習：「文部科学省設置法第4条12」「学校教育法」「学校保健法（昭和33年）」「保健体育審議会答申(昭和47年)」「学校保健安全法(平成20年)」 キーワード：「 学校保健の定義・目的及び対象」学校保健安全法，学校教育法	平川俊功
3	①学校保健の実際と組織活動 ②学校保健活動の領域・構造	4月16日（土曜日）第5限 内容：学校保健制度とシステムを理解する ・学校保健制度とシステム ・学校保健活動を進める人材 ・学校保健活動の領域・構造 「保健教育」「保健管理」「学校保健組織活動」 「学校給食」「学校安全」 ・学校保健計画 授業方法：講義 予習：（第3回）『国民衛生の動向2020／2021』ｐ370～375通読 復習：「学校教育法」「学校保健安全法」 キーワード：学校保健の領域・構造　学校保健計画,	平川俊功
4・5	学齢期の子どもの健康状況	4月23日（土曜日）　第3限・第4限 内容：学齢期における心身の現代的健康課題を理解する ・学齢期の児童生徒の健康課題とその対策 ・学校における学校保健活動の実際 授業方法：講義・グループワーク 予習：『国民衛生の動向2020／2021』ｐ380～384通読 http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/__icsFiles/afieldfile/2017/05/01/1384974_1.pdf閲覧 復習：「学校保健統計」「一人一人の教育的ニーズに応じた教育」「チーム学校」現代的健康課題への対応 キーワード：児童生徒の心身の現代的健康課題，学校保健活動，養護教諭の活動	平川俊功
6・7	学校保健に果たす養護教諭の役割と職務	4月23日（土曜日）第5限・第6限 内容：養護教諭の役割と職務内容を理解する ・学校保健活動における養護教諭の役割と具体的な活動 ・養護教諭の職務と役割 ・まとめ 授業方法：講義・グループワーク 予習：「学校教育法第37条」「学校保健安全法第7条」の内容確認，養護教諭の活動の想起、『国民衛生の動向2020／2021』ｐ371確認 復習：「養護教諭の役割・職務の内容」「保健室の設置目的」 キーワード：養護教諭	平川俊功
8・9	産業保健の理念と目的、産業保健と産業看護の歴史、我が国の産業構造・産業保健の実態	内容： ・産業保健・産業看護の理念と目的 ・企業、組織と労働生活の理解および労働者の理解 ・労働安全衛生管理体制 ・わが国における産業保健・産業看護の現状と産業保健の健康課題および動向 ・産業看護の役割 授業方法：講義形式 予習：産業保健の目的、労働安全衛生法「安全衛生管理体制」、を確認しておく 復習：産業保健スタッフ、産業保健における産業看護職の役割 キーワード：産業保健の目的　安全衛生管理体制　産業保健スタッフ　産業看護の定義　産業看護の役割	佐藤左千子
10・11	産業保健のしくみ	内容： ・職業性疾病とその予防対策 ・作業関連疾患とその予防策 授業方法：講義形式 予習：労働安全衛生法における労働安全対策の体系、第13次労働災害防止計画、 職業性疾病病について、厚生労働省「労働安全衛生調査」「業務上疾病者数の推移」「労災補償支給決定件数の推移」について確認しておく。 復習：労働衛生対策の基本対策（3管理5分野）、職業性疾病や作業関連疾患と それらの予防対策を理解する。 キーワード：3管理5分野　職業性疾病　作業関連疾患	佐藤左千子

		キーワード：3管理5分野　職業性疾病　作業関連疾患	
12・13	産業保健活動の実際と産業看護職の役割①	復習テスト実施（5点） 内容： ・基本的産業保健活動 　健康診断、保健面接、健康教育、職場巡視について ・メンタルヘルス対策、過重労働対策、生活習慣病対策と、その実際を知る。 ・医療現場で働く看護師の健康課題の理解 グループワーク「医療現場で働く看護師の健康課題の抽出と対策案について」 　課題についてグループでのディスカッション、発表 授業方法：講義形式 グループワーク 予習：労働安全衛生法で定められている健康診断の種類を調べておく 　　看護過程を理解しておく 復習：産業看護職の活動と役割を理解する キーワード：看護過程　保健面接　健康教育　職場巡視　メンタルヘルス対策、 過重労働対策、生活習慣病対策における看護職の役割	佐藤左千子
14	産業保健活動の実際と産業看護職の役割②　　産業保健の展開	内容： ・グループワークの発表 ・産業保健の展開 ・まとめ 授業方法：講義形式　グループワーク 予習：医療現場で働く看護師の健康課題と抽出と対策案についての検討・まとめ 復習：産業保健計画の評価 キーワード：産業保健計画の評価	佐藤左千子

【6】　事前・事後学習とその時間

＜学校保健＞
【予習・復習等】授業外で小児疾病、栄養学、微生物学、公衆衛生学などの知識を整理しておく。指定の参考書等を読んで講義に臨むこと。予習復習には各回60分程度かける。予習課題の範囲から小テストの出題をします。
【学習上の留意】グループワークなども取り入れるので、ワークへの積極的な参加を望みます。人の一生における学齢期の健康課題と学校保健の担う役割や意義について理解を深めるようにしてください。

＜産業保健＞
【予習・復習等】予習として、指定の教科書を読んで講義に臨むこと（60分程度/回）
【学習上の留意】産業看護の学びを深めるためには、労働者の健康問題はもとより、生活や労働の実態、経済のしくみなどに幅広く目を向けることが必要です。社会経済問題、産業保健・産業安全に関　するニュースに日ごろから関心を持つようにしてください。
＊授業中の出入り、飲食、携帯電話を禁止します

【7】　評価方法・基準

＜学校保健＞　50点
①日々の学習状況（10点）
　発言や質問回数、授業態度（教科書の持参を含む）、ミニッツペーパーの提出およびその内容
②授業中の小テスト（5点）　＊予習内容から小テストを５回実施予定
③課題レポート（5点）
④定期試験(30点)

＜産業保健＞　50点
①日々の学習状況・授業中の小テスト１回（計５点）
②ミニッツペーパー（オンラインの場合は講義後のチャット）の内容（計５点）
③課題レポート（10点）
④定期試験　（30点）

【8】　フィードバック方法

＜学校保健＞
フィードバック：授業態度については、授業中にコメントする。課題レポート、小テスト及び筆記試　験の結果は返却する。提出された毎授業時間のミニッツペーパーの記述内容をもとに次回の授業で　質問への回答、補足説明等を行う。
＜産業保健＞
授業中の小テスト：結果を返却する
ミニッツペーパー等の質問等より必要なことについては全体にコメントする
課題レポート・定期試験：評価結果を返却する

【9】　教科書

＜学校保健＞　荒賀直子・後閑容子編集『第4版データ更新版　公衆衛生学看護学.JP　』インターメディカル，2018
＜産業保健＞
資料を授業時に配布する

【10】　参考書

＜学校保健＞
『新訂版　学校保健実務必携　第４次改訂版』第一法規　平成29年初版，一般財団法人厚生労働統計協会編集・発行
『国民衛生の動向2020/2021（厚生の指標2019年8月増刊)』
そのほか必要に応じて授業中に紹介する

＜産業保健＞
池田智子著保健の実践科学シリーズ　産業看護学（2016年版）講談社，2016
労働衛生のしおり　令和２年度
河野啓子著『産業看護学』（2019 年版）日本看護協会出版会,2019
職場の健康がみえる　産業保健の基礎と健康経営　メディックメディア　2019

【11】　備考(関連科目等)

＜学校保健＞　小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護実習、精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学実習、栄養学、微生物学、公衆衛生学、心理学、臨床心理学、発達看護論、コミュニティヘルス看護概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学の技術、公衆衛生看護管理論、コミュニティヘルス看護実習、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ

＜産業保健＞　コミュニティヘルス看護概論、公衆衛生看護概論、看護の基本技術Ⅸ、疫学と公衆衛生、精神看護学概論、公衆衛生看護学の技術，公衆衛生看護学活動論

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticumⅠ	選択	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・上地賢				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室（K322）および科目責任者のメールアドレス（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）とする。実習期間中の連絡体制、緊急連絡先は実習要綱に記す。				
オフィスアワー	実習終了後～18:00まで連絡することができる。担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、上地K316（ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動の場である保健所・保健センターにおいて、地域住民を対象として健康水準の向上を目的に展開される保健活動の実際を体験し、基本的な知識や技術を学ぶ。具体的には、個人（家族）、特定集団の健康課題に対する支援活動の展開方法、組織集団支援、地域全体を視野に入れた保健活動、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.保健所・保健センターで実施されている保健活動の実際を説明できる。
2.個人（家族）、特定集団の健康課題に対する保健師の支援技術について説明できる。
3.個別支援、集団支援、地域支援に関する保健活動を保健師と共に実施・評価する。
4.保健活動を展開する多職種との連携・協働の実際を見学し、連携・協働における姿勢・態度および調整技術を考察することができる。
5.保健所・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくり体系を理解し、保健師が果たすべき役割と課題について説明できる。
6.保健活動を行う上で必要な態度や基本的技術を身につけることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション：実習目標・実習施設について	目標を達成するための詳細な学修内容は、公衆衛生看護学実習Ⅰ要項に示す。 1. 実習目標 1)保健所・保健センターで実施されている保健活動を説明できる。 2)個人（家族）、特定集団の健康課題に対する保健師の支援技術について説明できる。 3)個別支援、集団支援、地域支援に関する保健活動を保健師の指導のもとで一部実施・評価できる。 4)保健活動を展開する多職種との連携・協働の実際を見学し、連携・協働における姿勢・態度および調整技術を考察することができる。 5)保健所・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくり体系を理解し、保健師が果たすべき役割と課題について説明できる。 6)保健活動を行う上で必要な態度や基本的技術を身につけることができる。 2.実習施設 千葉県内各市保健所、保健センター	全員
	直前オリエンテーション：実習に臨むための事前学習と事後学習について	実習グループごとに実習に臨むにあたり、予習、復習に取り組む。 1.予習 地域看護実習および既習の公衆衛生看護学の各科目の復習を行う。特に家庭訪問、健康教育は単独でも実施できるよう準備をしておくことが望ましい。 2.復習 個別支援から地域全体の保健活動にどのように結び付けるのか実習で学習、経験した事例をもとに保健師の活動内容をまとめる。 保健活動に参加した学びをグループでまとめ報告し、他の学生の学びを共有する。 キーワード：ライフステージ、地域特性、保健所の機能、保健センターの機能、公衆衛生活動、ヘルスプロモーション、地区活動、地区組織活動、地域ケアシステム、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病、健康診査、健康相談、健康教育、家庭訪問、保健医療福祉職、連携、協働	全員
	臨地実習（８日間）	以下の内容を学習する。 1.実習地域のホームページ、総合計画、保健活動報告書等の資料や保健師の説明をもとに、保健所および保健センターで行われている保健活動（事業）を対象者の属性、ライフステージ（母子、成人、高齢者、精神、難病、感染症等）ごとに整理し、理解する。 ＊船橋市で実習する学生は2日間の合同講義に参加する（9月）。 2.保健師やその他の保健活動実践者の講話、活動状況の見学から、支援対象者（対象集団）への①アプローチ方法、②それぞれの方法に活用される専門技術について理解する。 3.保健所・保健センターで行われている保健活動の一部を保健師とともに実施し、①個別支援（健康相談、家庭訪問）、②集団支援（健康教育、グループ支援）、③地域支援における計画、実施、評価をプロセスを経験する。 4.連携する多職種の把握と、連携・協働における保健師の役割・技術を学習する。 5.自治体における健康づくり体系と各ライフステージ上の保健師の支援内容の関連から、地域の健康形成、地域ケアシステム作りにおいて求められる保健師の知識、態度、技術を学習する。	全員
	カンファレンス（臨地実習期間中に実施）	臨地実習期間中にカンファレンスを行う。 1.中間カンファレンス 1週目最終日はに実施する。現地実習で各自が学んだことを発表する。1週間の学びを振り返り、実習指導者への質疑・応答する時間も設ける。2週目に向けての学習目標を設定できる内容とする。 2.最終カンファレンス 2週目最終日に実施する。テーマは「公衆衛生看護学実習Ⅰを通した学び」とする。学生同士で討議を行った上で、実習指導者と教員から指導・助言を受ける。	全員
	学内実習（２日間）	臨地実習での学びの共有と考察を行う。 1.学内演習（１週目月～金のうち、教員が指示した日） 1週目に体験した保健活動、自身の学び、指導者・教員からの助言、復習等と2週目の実習スケジュールを踏まえ、実習目標の自身の達成度を振り返り、復習および予習を行う。 2.学内のまとめ（2週目の金曜） テーマは「保健所・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくりの実際と保健師が果たすべき役割」とする。現地実習での学びを振り返り、実習市の特性と健康課題と連動させながら、公衆衛生看護活動の特徴について理解を深める。	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：実習現場となる自治体において実施されている保健事業の種類、内容、対象となる住民の特徴、およびその事業を担当する部署について把握する。予習に要する時間の目安は１時間程度である。
復習：公衆衛生看護関連の講義および演習内容の復習が求められる。特に、家庭訪問、健康教育などは自分で実施できるようになることが望まれるため、十分に復習をした状態で実習に臨むことが求められる。復習に要する時間の目安は１時間程度である。
学習上の留意点に関する詳細は実習要綱に示す。
公衆衛生看護に関する講義、演習を修了できなかった者は実習参加を認められないことがある。やむを得ない事情（病気、身内の不幸、等）にて実習を欠席した場合は実習日を追加し、必要な学習を行う場合がある。

【７】　評価方法・基準

実習記録（40%）、担当教員および現場指導者による技術、態度の評価（30%）、実習後のグループワークおよびレポート評価（30%）

【８】　フィードバック方法

提出された実習記録に対してコメントを付し翌日以降に返却する。実習後のグループワーク上での発言に対し適宜講評をする。実習最終日に全体講評をする。

【９】　教科書

公衆衛生看護学. jp第5版

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

公衆衛生看護学関連全般

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticumⅡ	選択	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	上地賢				
担当教員	上地賢・小板橋恵美子・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	上地賢（健康科学部棟3階研究室K316　ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	学内日の開始前、終了後の30分程度は個別相談が可能である。また、臨地に出向いているときには実習時間中の空いた時間等を利用して相談が可能である。施設の使用に制限があるため実習後に十分な時間を確保できないこともある。そのため、随時メールや事前に周知された実習期間中の連絡体制、および緊急連絡先にて連絡することが望ましい。 担当教員の連絡先は以下の通りである。その他の連絡手段はオリエンテーション時に周知する。 上地賢（研究室K316　ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp） 小板橋恵美子（研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp） 植村直子（研究室K322　naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【2】　授業概要

広域地域を管轄する県型保健所における保健活動の実際を体験し、保健所の専門機能と保健師の役割について学ぶ。学校における児童・生徒の生活状況と健康課題を理解し、学校保健活動の実際と養護教諭の役割について学ぶ。労働者の健康の保持増進、労働条件や労働環境に関連する健康障害の予防を組織的に展開している産業保健活動と看護職の役割について学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

＜県型保健所実習＞
1.地域の潜在的・顕在的健康課題の明確化、解決・改善策の企画・立案、実施・評価の実際について説明できる。
2.地域の健康危機管理（感染症、虐待、DV、自殺、災害等）の体制づくりについて説明できる。
3.保健・医療・福祉を包括する地域ケアシステム構築を担う保健所の機能及び保健師の役割を説明できる。
＜学校保健実習＞
1.学校における児童・生徒の生活状況と健康課題を説明できる。
2.養護教諭の役割と保健室経営について説明できる。
3.学校保健上の問題を抱えた児童・生徒への対応方法について説明できる。
4.児童・生徒への健康教育を指導の下に実施することができる。
＜産業保健実習＞
1.労働衛生対策の実際を学び、労働者の健康課題の特性について説明できる。
2.労働者を対象として実施される健康診断の実際と保健指導技術を指導の下に実施することができる。
3.労働者を対象とした健康管理システムおよび看護職の役割について具体的に説明できる。
＜総括＞
1.公衆衛生看護に求められる専門性について考察することができる。
2.公衆衛生看護職に求められる態度姿勢を身につけることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	県型保健所実習	目標を達成するための詳細な学修内容は、公衆衛生看護学実習Ⅱ要項に示します。 ＜県型保健所実習＞ 1. 実習施設 県型保健所 2. 実習内容 1）保健所合同講義（各実習保健所で開催）に参加し、保健所の機能、保健所管内の地域特性と健康課題を理解する。 2）保健所で行われている保健活動への参加、実習指導者からの説明から、（1）保健所の保健活動の対象と保健活動の特徴、（2）支援技術、（3）活動に携わる様々な職種の役割を理解する。 3）実習での学びを統合し、保健・医療・福祉を包括する地域ケアシステム構築を担う保健所の機能と保健師の役割について考察する。	全員
	学校保健実習	＜学校保健実習＞ 1.実習施設 船橋市立小学校 2.実習内容 1）校長・養護教諭からの講話を聴講し、（1）学校組織、教育目標、教育計画、教育環境、保健室経営の具体的な方法、保健組織活動、学校・家庭・地域との連携を理解する。 2）養護教諭の活動に参加し、（1）児童生徒の生活・健康課題、（2）養護教諭の活動を理解する。 3）児童生徒の生活・健康課題に応じた健康教育を計画・実施する。 4）実習での学びを統合し、学校保健の機能と養護教諭の役割について考察する。	全員
	産業保健実習	＜産業保健実習＞ 1.実習施設 ちば県民保健予防財団、㈱フジクラ 2.実習内容 1）産業医、産業看護職からの講話を聴講し、（1）労働者の健康課題の特性、（2）労働者を対象とした健康管理システムを理解する。 2）労働者を対象として実施される健康診断と保健指導技術を理解する。 3）実習での学びを統合し、産業保健の機能と産業看護職の役割について考察する。 予習：既習の公衆衛生看護の各科目の復習を行う。 復習：学内演習において、各実習グループの学びを報告し、他の学生の学びを共有し自身の学びを深める。 キーワード：地域特性、公衆衛生看護活動、学校保健活動、産業保健活動、保健所の機能、保健センターの機能、予防、健康危機管理、役割、連携	全員

【6】 事前・事後学習とその時間

学習上の留意点に関する詳細は実習要項に示します。
準備学習：既習の公衆衛生看護学の各科目の復習が求められます。特に、コミュニティヘルス看護学実習、公衆衛生看護学実習Ⅰの学びを振り返り、市町村保健センターの機能との比較から、県型保健所の機能、学校保健活動、産業保健活動の特徴について学びを深めていきます。予習に1時間程度、その日の実習のまとめに1時間程度を費やします。健康教育の企画・実施などがある場合は、これ以上の時間を必要とすることがあります。

【7】 評価方法・基準

実習内容（県型保健所、学校保健、産業保健）60%、学習者としての態度（全体として）20%、課題レポート 20%

【8】 フィードバック方法

実習巡回、学内実習時に適宜コメントします。
実習記録・レポートは結果を返却します。

【9】 教科書

公衆衛生看護学, 荒賀直子他編, インターメディカル,最新版（第５版）
県型保健所実習では、毎年発行される千葉県による「保健所のしおり」と実習保健所による「事業年報」の最新版を使用します。
千葉県および各保健所のホームページからダウンロードして実習に備えてください。

【10】 参考書

特になし

【11】 備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習

科目名(日本語)	**実用英語Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅳ	選択	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	青木敬子				
担当教員	青木敬子				
科目責任者 連絡先(教室)	Moodleのメッセージ機能で、連絡をしてください。				
オフィスアワー	木曜日12：10～12：45、もしくは授業後、講師控室に面会可能。				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、スマートフォン、Moodle

【2】 授業概要

英語の重要な文法事項の修得と、それを踏まえた英語による表現活動を目標とする。Ⅱで修得した能力をさらに高め、論理的に物事を考える。TOEICのリスニング形式を練習し、正しく聞き取る。TOEIC問題形式による読み取り演習をする。さらに学期末の英語発表のために、英語の段落構成を考え、１段落を書き上げる。学期末には英語による短いプレゼンテーションを行う。

【3】 到達目標

英語の聞き取り教材(映像)から以下のことを目標に学修する。
1.学生は教材を聞き、話の概要を説明することができる。
2.学生は概要についてワークシートで学習をし、英語の質問に対し、英語で答えることができる。
3.学生はスクリプトを読み、文法的観点から重要な個所を正確に和訳することができる。
4.学生は学習した内容をさらに深めるために、資料の読解をし、それによってより広い社会的文脈の中で学習内容を討議することができる。
5.授業内討論を通して、学生自身と他者の認識を含めながら、当該時間のテーマの社会的意義を各自考察できる。
6.授業内活動としての学生による英語発表も、積極的に取り組むことができる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	授業概要説明	講義 授業の概要を確認する。 学期末にプレゼンテーションを行うため、テーマや、プレゼンテーション音声の録音の仕方など概要を紹介する。 これまでの英語の学習履歴から、英文の構成と和文の構成の違いを復習、確認する。 予習・復習：配布された資料を次回までに再度読む。 キーワード：power point, recording, presentation, structure of English writing	青木敬子
3・4回	食育　1	講義・グループワーク 聞き取りをして、内容を推測する。キーワードの理解、確認後、さらにワークシートで内容を理解する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード： fresh ingredients, processed ingredients, school meals	青木敬子
5・6回	食育２	講義・グループワーク 映像を見て聞き取りをして、内容を推測する。キーワードの理解、確認後、さらにワークシートで内容を理解する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード： fresh ingredients, processed ingredients, school meals	青木敬子
7・8回	食育３	講義・グループワーク 映像スクリプトの表現について、要点を和訳する。 SNSなどで様々な意見を探して読み、自分の意見を表明する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード：discussion, social matters	青木敬子
9・10回	食育４	食事について英文記事を読む。その食事について自分なりに分析する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード：meals, chemicals, nutrients, food power	青木敬子
11・12回	中間テスト　および フィードバック	これまでの内容理解度を測るテスト 予習・復習：これまで配布された資料を次回までに読み、重要事項をまとめておく。 キーワード：summarizing script, reading comprehension	青木敬子
13・14回	英文ライティングの構成要素	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 英文の段落構成について考える。主題文の重要性 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：主題文の重要性、段落構成要素	青木敬子
15・16回	英文の表記法	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 表記法について、実践的な問題を通して修得する。 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：punctuation	青木敬子
17・18回	英文段落構成演習	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 英文構成要素を問題演習で考える。 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：主題文の重要性、段落構成	青木敬子
19・20回	食育　5	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 資料を読み、内容を推測する。キーワードの理解から食事の分析を参考にする。 予習・復習：配布された資料を読み、問題について考える。食育４と連動するので、復習して考える。 食事について分析した英文を読む。自分の食事を振り返り分析する。考えをまとめる。 キーワード：meals, chemicals, nutrients	青木敬子
21・22回	プレゼンテーション　テーマ	講義・グループワーク 自分のプレゼンテーションのテーマを決め、１段落を書く。 予習・復習：13ー18の資料を復習して、主題文を書き、英文を書く。 キーワード：the first draft, topic sentence, brain storming	青木敬子
23・24回	プレゼンテーションの原稿作成	講義・グループワーク パワーポイントのスライドを作成して発表の準備をする。最終原稿を確認する。 予習・復習：13ー18の資料を復習して、英文を書く。 キーワード：the structure	青木敬子
25・26回	プレゼンテーション	プレゼンテーション リサーチした内容を発表する。 予習・復習：原稿の校正 キーワード：speech speed, performance	青木敬子
27回	プレゼンテーション総括	講義 プレゼンテーション　全体の総括 フィードバック 正確な校正後、プレゼンテーションの原稿を提出	青木敬子

【６】　事前・事後学習とその時間

教材の内容をワークシートで予め理解し授業に臨み、既習内容は授業後ワークシートで復習する。
予習と復習で1時間半を費やす。

【７】　評価方法・基準

授業内発表、ワークシートの内容に沿ったディスカッションなど２０％、授業内提出物２０％、定期試験及びレポート(中間・期末)６０％。

【８】　フィードバック方法

小テストや中間試験の後、ポイントや誤りの多かった箇所についてフィードバックを行います。

【９】　教科書

授業中に印刷物を配布。

【10】　参考書

特になし。

【11】　備考(関連科目等)

実用医療ⅠA、実用英語ⅠB、実用英語Ⅱ、実用英語Ⅲ

科目名(日本語)	**医療英語Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English Ⅱ	選択	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	林ひろみ				
担当教員	林ひろみ・渡邊尚子・臼井雅美				
科目責任者 連絡先(教室)	林ひろみ　329研究室　hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	・水曜日　16時20分～18時　林研究室　その他メールでも質問を受け付ける：hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療・福祉系の英語文献の講読を通して、看護研究や留学などに必要とされる長文読解能力を養い、看護学･医学など医療系の英単語の語彙力を高める。ⅡはＩＡ/Ｂで習得した基礎をもとに、さらに専門的な研究論文の構造を理解し、図や表の理解なども含めて内容を正確に読み取る能力を身につける。

【３】　到達目標

1. 医療系の英文献の構成について説明できる
2. 英文献のAbstractを読み取り説明できる
3. 英文献のIntroductionを読み取り説明できる
4. 英文献のMethods読み取り説明できる
5. 英文献のresultsを読み取り説明できる
6. 英文献のtable and Figureを読み取り説明できる
7. 英文献のDiscussionを読み取り説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	英語文献の読み方	内容 １．医療系英文献の種類 ２．原著論文の構成 方法：講義 予習：医療系英語文献を検索し1文献持参する。 復習：医療系英文献の種類と構成について整理しておく. キーワード：Original Article, Case Report, Review Article, Abstract, Introduction, Method, Result, Discussion	全員
3・4	英文献の検索	内容 内容 １．医療系英文献　原著論文の検索 ２．発表方法について 方法：グループワーク 予習：英文献の検索方法を確認しておく. 復習：英文献を検索し、量的研究、質的研究の2論文を抽出する。 キーワード：文献検索, キーワード, Original Article	全員
5・6	文献講読：原著論文１量的研究（１）	内容 １．原著論文１量的研究の読み合わせ ２．原著論文１Abstract～Methodまでのプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文１のAbstract・Introduction・Methodを訳す. 復習：原著論文１Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を作成する。 キーワード：Abstract, Introduction, Method	全員
7・8	文献講読：原著論文１量的研究（２）	内容 １．原著論文１Abstract～Methodまでのプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文１のAbstract・Introduction・Methodを訳す。 復習：原著論文１Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を完成させる。 キーワード：Abstract, Introduction, Method	全員
9・10	文献講読：原著論文１量的研究（３）	内容 １．原著論文１：Abstract・Introduction・Methodプレゼンテーション ２．プレゼンテーション内容についてのディスカッション 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：原著論文１Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を作成する. 復習：原著論文１Result・Discussionを訳す. キーワード： Abstract, Introduction, Method, プレゼンテーション, クリティーク	全員
11・12	文献講読：原著論文１量的研究（４）	内容 １．原著論文１：Result・Discussionプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文１Result・Discussionを訳す. 復習：原著論文１Result・Discussionのプレゼンテーション資料を作成する. キーワード：Result, Table and Figure, Discussion	全員
13・14	文献講読：原著論文１量的研究（５）	内容 １．原著論文１：Result・Discussionプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文１Result・Discussionを訳す. 復習：原著論文１Result・Discussionのプレゼンテーション資料を完成する. キーワード：Result, Table and Figure, Discussion	全員
15・16	文献講読：原著論文１量的研究１（６）	内容 １．原著論文１：Result・Discussionプレゼンテーション ２．プレゼンテーション内容のディスカッション 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：原著論文１Result・Discussionのプレゼンテーション資料を完成させる. 復習：原著論文２Abstract・Introduction・Methodを訳す. キーワード：Result, Table and Figure Discussion, プレゼンテーション, クリティーク	全員
17・18	文献購読：原著論文２質的研究（１）	内容 １．原著論文２質的研究の読み合わせ ２．原著論文２Abstract～Methodまでのプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文２のAbstract・Introduction・Methodを訳す. 復習：原著論文２Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を作成する. キーワード：Abstract, Introduction, Method	全員

19・20	文献講読：原著論文２質的研究（２）	内容 １．原著論文２Abstract～Methodまでのプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文２のAbstract・Introduction・Methodを訳す. 復習：原著論文２Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を完成させる. キーワード：Abstract, Introduction, Method	全員
21・22	文献講読：原著論文２質的研究（３）	内容 １．原著論文２：Abstract・Introduction・Methodプレゼンテーション ２．プレゼンテーション内容についてのディスカッション 方法：プレゼンテーション，グループディスカッション 予習：原著論文２Abstract・Introduction・Methodのプレゼンテーション資料を作成する. 復習：原著論文２Result・Discussionを訳す. キーワード： Abstract, Introduction, Method, プレゼンテーション，クリティーク	全員
23・24	文献講読：原著論文２質的研究（４）	内容 １．原著論文２：Result・Discussionプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文２Result・Discussionを訳す. 復習：原著論文２Result・Discussionのプレゼンテーション資料を作成する. キーワード：Result, Table and Figure, Discussion	全員
25・26	文献講読：原著論文２質的研究（５）	内容 １．原著論文２：Result・Discussionプレゼンテーション資料作成 方法：グループワーク 予習：原著論文２Result・Discussionを訳す. 復習：原著論文２Result・Discussionのプレゼンテーション資料を完成する. キーワード：Result, Table and Figure, Discussion	全員
27	文献講読：原著論文２質的研究（６）	内容 １．原著論文２：Result・Discussionプレゼンテーション ２．プレゼンテーション内容のディスカッション 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：原著論文２Result・Discussionのプレゼンテーション資料を完成させる. 復習：ディスカッションの結果を踏まえて原著論文１および原著論文２のクリティークを見直す. キーワード：Result, Table and Figure Discussion, プレゼンテーション，クリティーク	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

〔準備学習〕

この授業は、医療系の英文献（原著論文）を講読するための準備に要するだけでなく、他学生の発表箇所も講読する必要があるため、予習に２時間、復習に1.5時間程度要する。

〔学習上の留意点〕

より深く理解するために、すべて和訳したうえでわからないことを明確にして授業に臨むようにする

【７】　評価方法・基準

プレゼンテーションレポート60%、プレゼンテーション内容における質疑応答40%

【８】　フィードバック方法

プレゼンテーション内容について全体にコメントする。

【９】　教科書

講義中に資料を配布する。

【10】　参考書

・大井静雄編集：すぐに役に立つ　医学英語論文の読み方，メジカルビュー社，2010.
・アメリカ心理学会（APA）著，前田樹海訳：APA論文作成マニュアル 第2版，医学書院，2014
・エリザベスM,トーンクィスト著，園城寺康子他訳：看護論文を英語で書く，医学書院，2007.
・ Amanda Tompson 著 相川直樹訳：日本人のための医学英語論文執筆ガイドThinking in Englishでネイティブレベルの Paperを書く，医学書院，2008.

【11】　備考(関連科目等)

医療英語ＩA、医療英語ＩB

科目名(日本語)	**健康生活支援論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Theory of Healthy Life Support	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	大塚晃				
担当教員	大塚晃				
科目責任者 連絡先(教室)	講義内で開示する。Moodleを通しての連絡は避けること。				
オフィスアワー	授業実施日の昼休み等に時間を設ける 講義実施日の昼休み（12：10～13：00）に講義室にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

地域で暮らす人々、特に健康生活支援を要する障がい児者とその家族の特徴、社会福祉・行政に携わる専門職の役割、主な理論・概念、地域支援方法、社会資源活用などの基本知識を理解する。さらに、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害、性同一性障害などの発達障害の地域生活支援システムについて考察する。

【３】　到達目標

近年、地域移行や自立生活および就労支援などを中心に障害者への支援の制度・施策が大きく変化している。また、2014年1月に批准された障害者権利条約は、2016年4月より施行される障害者差別解消法に影響を与え、地域で障害者の権利をいかに擁護していくか（「アドボカシー」））の課題が大きくなっている。本講義では、制度改革や障害者に対する価値規範の変化を社会情勢を踏まえながら、障害者の生活実態やニーズの理解を深めるとともに、障害者の地域生活支援の方法・実践活動、及び社会資源活用など域生活支援システムの構築について理解することを目的とする。

以上のことを踏まえ、具体的な学習目標（到達目標）は、以下の通りである。

1.障害者福祉の現状について具体的に説明できる。
2.障害者支援の理念及び障害の定義について健康の観点から説明できる。
3.障害児・者および家族のニーズ把握方法と支援について具体的に説明できる。
4.障害者支援具体的事例等を介して、自らの問題として捉えたことを説明できる。
5.地域生活支援の援助方法の理論について説明できる。
6.支援のプロセスについて具体的に説明できる。
7.支援に携わる専門職の主な活動内容について3つ以上説明できる。
8.健康生活支援における倫理的課題について5つ以上説明できる。
9.他職種の連携やネットワークによる支援システム構築に関する理論について説明できる。
10.支援システム構築の実践技術を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	健康生活支援の理論(1)	・オリエンテーション ・健康及び障害の概念 ・障害の定義ICFの考え方 ・障害の有病率等実態 ・健康生活の成立要件とは 講義 予習：第5～6章読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：健康及び障害概念、ICF（国際障害分類）、健康生活、人権の尊重・擁護	大塚　晃
3・4	健康生活支援の理論(2)	障害者支援理念の変遷 講義 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示 キーワード：ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョン	大塚　晃
5・6	健康生活支援の理論(3)	・新たな障害の捉え方 ・QOLと自立生活運動 ・障害学 講義 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：QOL、自立生活運動、障害学、障害者権利条約批准、パラダイム転換、意思決定支援	大塚　晃
7・8	健康生活支援の理論(4)	・当事者支援 ・家族支援 講義 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：エンパワメント、アドボカシー、当事者支援、家族支援	大塚　晃
9・10	健康生活支援の方法論(1)	・社会福祉援助方法のプロセス ・事例分析・考察：ニーズアセスメント、ケアプラン、モニタリング 講義・グループワーク 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：ソーシャルワーク、ケアマネジメント、ニーズアセスメント、ケアプラン、モニタリングなど	大塚　晃
11・12	健康生活支援の方法論(2)	・支援システム構築に関する理論 ・支援システム構築の実践：事例分析・考察 講義・グループワーク 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：他職種連携、ネットワーク、地域生活支援システム構築、地域福祉、学習障害の支援	大塚　晃
13・14	健康生活支援の方法論(3)・健康生活支援の展望	・障害にかかわる専門職の在り方と役割分担 ・事例分析・考察 講義・グループワーク 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：専門職の在り方、他職種の専門性、役割分担論 障害者権利条約批准後の障害者の地域生活の今後の課題 講義 予習：関連の資料を読む 復習：内容について指示、ミニテストの記述 キーワード：権利擁護（アドボカシー、障害者権利条約、障害者差別解消、意思決定支援	大塚　晃

【6】　事前・事後学習とその時間

準備学習（予習・復習等）についてはその都度、指示する。また、学習上の留意点として学生が知識・技術を体系的に身につけるとともに、興味・関心をもって主体的に授業に参加できるよう工夫をする。特に、理論のみならず、実際の事例の映像等を活用するとともに、学生とのやりとりを通して積極的に授業に参加できるよう工夫する。
関連内容について、教科書等で予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

【7】　評価方法・基準

レポート70%、 通常点(授業への発言回数及びミニテスト)30%

【8】　フィードバック方法

レポート・ミニテストは特徴的な見解や誤解についてコメントし、返却する。

【9】　教科書

介護福祉士テキスト第４巻「こころとからだのしくみ」、中央法規、最新

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

保健医療福祉行政論、コミュニティヘルス看護概論、リハビリテーション論、機能障害のある患者の看護、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学など

科目名(日本語)	**看護倫理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Ethics	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	浅野美知恵				
担当教員	浅野美知恵				
科目責任者 連絡先(教室)	浅野研究室(K318) 。浅野(michie.asano@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	授業開講日13時～13時50分、研究室。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間を対象とする看護には、人間及び生命を尊重する態度が肝要とされており、医療・福祉・行政に関わる看護の実践・教育・研究では、常に倫理的事項に直面する。看護倫理学では、看護専門職に必要な倫理の基礎知識を理解し、看護における倫理現象と倫理的課題、倫理的判断過程などについて学ぶ。さらに、看護職の役割について考察し、倫理的感性を高める機会とする。

【３】　到達目標

1.看護における人間の尊厳と人権について具体的に説明できる。
2.看護職の倫理綱領について構造と内容を具体的に説明できる。
3.看護倫理の観点から事例を検討する方法を説明できる。
4.倫理的課題の抽出過程における倫理的推論・判断を説明できる。
5.事例の倫理活動について自己の見解を説明できる。
6.看護の倫理的感性を高める方法について説明できる。
7.生命倫理シンポジウムの参加を通して主な学びについて説明できる。
8.授業を通して看護職としての倫理観について記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	看護倫理の理論編(1)：看護における人間の尊厳と人権	内容 1. 看護倫理とは 2. 看護の特質と倫理的課題 3. 看護倫理の基盤となる理論・概念 方法：講義 予習：テキスト第1部を読む。 復習：授業内容を整理し、看護師と患者（対象者）関係について考察する。 キーワード：倫理学、道徳、徳、幸福、価値観、価値の対立、人間関係、環境、文化、医療制度、生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理、法、倫理的課題、倫理原則、倫理的責任、保健医療福祉の場、治療、療養生活、QOL、看護の役割と機能、ジレンマ、擁護	浅野　美知恵
3・4	看護倫理の理論編(2)：看護職における倫理規準	内容 1. 看護職の倫理的責任と倫理綱領 2. 倫理的判断および行動の根拠 3. 倫理的行動の規準を遵守する方法と課題 方法：講義、DVD視聴（視聴覚教材：KYT） 予習：テキスト第1部第4章および看護職の倫理綱領を読んで内容を整理する。 復習：授業内容を整理し、看護ケアに対する看護職の責務と課題について考察する。 キーワード：倫理的行動規準、法的責任、保助看法、法令遵守、専門職、倫理的責任、倫理綱領、倫理指針、規制ガイドライン、職業人、企業、社会的役割、医療制度、倫理的ジレンマ	浅野　美知恵
5・6	看護倫理の理論編(3)：倫理に関わる実践の過程	内容 1. 臨床における倫理現象把握の方法(気づき) 2. 看護における倫理的分析方法(倫理的推論) 3. 倫理的課題に対する意思決定の方法(倫理的判断) 方法：講義、DVD視聴（倫理的意思決定モデルを用いたアプローチ法) 予習：テキストテキスト第1部第5章および第2部を読む。 復習：授業内容を通して、事例の検討方法を整理する。 キーワード：人間、自己の価値観、他者の価値観、多様性、文化、健康、医療、看護、倫理的責任、価値の対立、倫理的判断過程、倫理的感性、気づき、倫理的課題、倫理的推論、判断根拠、意思決定のためのモデル、信頼関係、倫理的活動	浅野　美知恵
7・8	看護倫理の実践編(1)：医療現場の倫理	内容 1. 看護を必要とする人々に関わる倫理的課題 2. 事例の分析、倫理的推論と対応、考察 方法：講義､DVD視聴（倫理的問題の事例検討演習） 予習：テキスト第3部第10章および資料を読んで、自分の考えを整理する。 復習：授業内容を整理し、実習での体験について考察する。 キーワード：患者の自律性、患者のニーズ、ケアの優先度、個人の善と集団の善、高額費用、価値観、価値の対立、精神的信念、人権、尊厳、倫理的感性、倫理的推論	浅野　美知恵
9	看護倫理の実践編(2)：意思決定支援	内容 1. 意思決定に直面する人々のケアに関わる倫理的課題 2. 事例の分析、倫理的推論と対応、考察 3. 意思決定に直面する人々への看護職の役割と課題 方法：講義 予習：日本看護協会「看護倫理」看護職のための自己学習テキストの指定部分を読んで、自分の考えを整理する。 復習：授業内容を整理し、意思決定支援について考察する。 キーワード：倫理現象、状況の分析と統合、倫理的推論、倫理的判断、倫理的行動、病名告知、インフォームド・コンセント、自己決定、安楽死、人生の終末、臨床試験、臓器移植、遺伝子診断、遺伝相談、価値の対立、倫理的判断、倫理的ジレンマ、倫理的実践	浅野　美知恵
10	看護倫理の実践編(3)：医療現場における事例分析	内容 1. 事例の分析 2. 事例のプレゼンテーション資料の作成 方法：講義、討議・プレゼンテーション資料作成 予習：臨地実習の記録類を読んで体験の中から倫理的な内容を整理して臨む。 復習：授業内容を整理し、医療現場と倫理について考察する。 課題レポート「プレゼンテーション資料」を提出(課題1)。 キーワード：倫理現象、状況の分析と統合、倫理的推論、倫理的判断、倫理的行動	浅野　美知恵

11・12	看護倫理の発展	内容 生命倫理シンポジウム 方法：講義、討議・プレゼンテーション 予習：オリエンテーション内容を理解して臨む。 復習：課題レポート「生命倫理シンポジウムでの学び」 を提出（課題2）。 キーワード：人間、健康、良い医療、良い看護、社会の変化、 価値、コミュニティ、倫理原則、倫理的実践	浅野　美知恵
13	看護倫理の実践編(4)：事例の共有と看護職の役割	1. 事例のプレゼンテーション 2. 病・治療・生命の危機に直面する人々への看護職の役割と課題 方法：プレゼンテーション、講義 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：授業内容を整理し、看護師の役割について考察する。 キーワード：臨床実践、チーム医療、人間、健康、良い医療、 良い看護、看護専門職、看護の質、倫理観	浅野　美知恵
14	看護専門職者としての倫理と展望	内容 1. 協働者との連携・協働に関わる倫理的課題と考察 2. 職業人としての労働に関わる倫理的課題と考察 3. 看護実践者としての倫理観 方法：講義 予習：これまでの授業内容を整理する。テキスト第3部を読む。 復習：課題レポート「私の倫理観～命と人権と看護について」を 提出（課題3）。 キーワード：ケアの配分、資源の配分、経費、責任の委譲、説明 責任、責任をとること、価値の対立、共同意思決定、倫理的 行動、看護師の責務、業務評価、チーム活動、学際的アプ ローチ、チーム医療、人間、健康、良い医療、良い看護、 社会の変化、価値観の多様化、グローバリゼーション、 看護専門職、看護の質、医療実践者、倫理観	浅野　美知恵

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
臨地実習での実習記録を読んで、体験した看護現象の振返りをして臨むこと。
本授業は看護倫理・臨床倫理の基本的な考え方を習得し倫理現象を把握する能力や倫理的判断力、倫理的課題への探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習・復習に1.5時間程度必要である。
【学習上の留意点】
授業毎のテーマについて、関連書籍およびメディア上の情報も活用して理解を深める。
対面式授業で行います。状況によって遠隔授業となる場合があります。遠隔授業の場合は、オンデマンド式と双方向式を取り入れますので、事前のお知らせで確認してください。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（3題）100％

【８】　フィードバック方法

全体の傾向等について次の授業の中やMoodleでコメントする。

【９】　教科書

サラ　T.フライ、メガンージェーン・ジョンストン、片田範子、山本あい子訳：看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、2010

【10】　参考書

・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理1、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理2、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理3、みすず書房
・松木光子編：看護倫理学、看護実践における倫理的基盤､ヌーベルヒロカワ､2010
・Anne J.Davis, Verena Tschudin, Louise de Raeve, 小西恵美子監訳、和泉成子、江藤裕之訳：看護倫理を教える・学ぶ、倫理教育の視点と方法、日本看護協会出版会、2008
・Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J.Winslade,　赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡監訳：臨床倫理学、第5版、臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ、新興医学出版社、2006
・坂本すが監修、兼児敏浩編著：医療安全BOOKS 7、患者・家族の意思決定、現場の判断を支える“やさしい”臨床倫理フレームワーク、困ったとき、現場で役立つ3つの視点、メディカ出版、2018
・日本看護協会ホームページ　看護実践情報「看護倫理」看護職のための自己学習テキスト
・視聴覚教材：「ナーシングチャンネル」看護倫理,「看護におけるKYT（危険予知トレーニング）

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、哲学、研究方法の基礎、看護学の各専門領域の授業科目

科目名(日本語)	**援助的人間関係論（4年生）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Helping Relationship in Nursing Care	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡辺尚子・林ひろみ・臼井雅美・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	渡辺: naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（メールの場合、学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	原則水曜日12:00～13:00をオフィスアワーとする。該当する教員の研究室を訪ねて下さい。 渡辺（研究室 K334）、林（研究室 K329）、臼井（研究室 K331）、中嶋（研究室 K323） メールで連絡する場合は科目責任者のアドレスへ連絡すること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護の基本となる対象との援助的人間関係について、心理・社会･身体の観点から学修する。具体的には、これまでの実習体験等を題材にして、自己理解と他者理解、人間関係形成過程、コミュニケーションに関する理論とその技法などを学び、看護職として援助的人間関係について探究する機会とする。

【３】　到達目標

1.援助的人間関係の根拠となる理論を説明できる。
2.自己理解・他者理解・関係理解の意味について説明できる。
3.自己理解・他者理解・関係理解の方法を説明できる。
4.自身の対人関係形成の傾向を分析し、説明できる。
5.プロセスレコードの活用の意味の方法が説明できる。
6.自身の実習体験を題材に、対象との関係を客観的に分析し、説明できる。
7.援助的人間関係構築のための看護のポイントを説明できる。
8.援助的人間関係構築のための自己の課題を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	援助的人間関係に関する理論(1)	オリエンテーション 援助的人間関係の概念 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　相談面接・ナラティブ・メディスン・意思決定支援、援助関係・援助関係の成立要素・コミュニケーションスキル	渡辺尚子
2-3	援助的人間関係に関する理論(2)	援助的人間関係に関連する技法(コミュニケーション技術) 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　看護理論、ペプロウ、プロセスレコード	渡辺尚子
4-5	援助的人間関係に関する理論と活用	事例でとらえる援助成立過程の分析 健康レベルに応じたコミュニケーション技法 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　看護理論、ペプロウ、教育入院、看護過程の展開	渡辺尚子
6-7	援助的人間関係の構築(1)	援助的人間関係構築に向けた実践と考察(自己理解から) 講義：個人ワーク・グループワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　EGOグラム、信頼関係の構築、受容、共感	渡辺尚子
8-11	援助的人間関係の構築(2)	援助人間関係構築に向けた実践と考察(プロセスレコードから) 講義：個人ワーク・グループワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード 　看護理論・看護過程の展開、プロセスレコード、心理劇、カンファレンス	渡辺　他全員
12-14	援助的人間関係の構築に向けて	援助的人間関係とは　各自の考察と課題 講義・個人ワーク・グループワーク 予習:精神看護学方法論で各自行ったEGOグラムから、何を自己目標をしていたか振り返っておくこと。講義時持参すること。 復習：課題レポートの提出 キーワード 　信頼関係の構築、受容、共感、傾聴、グループダイナミクス、自己の価値観・看護観	渡辺　他全員

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】

それまでの実習体験などを通して、対象とのかかわりについて振り返っておくこと。

既習の関連科目の復習をして臨むこと。

この授業は理論を自己の体験を通して理解していくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。

【学修上の留意点】

この授業はグループワークを行う。積極的な参加が求められる。

【7】　評価方法・基準

課題レポート(40%)、グループワークの参加状況　(30%)、各回の課題や小テスト　(30%)

【8】　フィードバック方法

小テストは返却する。ミニッツペーパー等の質問などにより必要なことは全体に向けフィードバックする。

【9】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

授業内で適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、看護理論、各専門領域の実習科目

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護展開論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Health Nursing Methods	必修	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・小板橋恵美子・渡邊尚子・鳥田美紀代・上地賢・島村敦子・植村直子・菅谷綾子・原田奈美・林華子				
科目責任者 連絡先(教室)	K319研究室 masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後1時間。佐瀬の研究室（K319）。ただし、他授業のため不在の時間もあり、Moodleあるいはメールからの質問も受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用

【２】　授業概要

講義、演習、実習で培ってきた知識、考え方を総動員し、様々なコミュニティで、健康障害を持ちながら生活する人の事例について、コミュニティの特徴、健康を支える社会資源を実際に探索し、健康障害を持ちながらコミュニティで生きていくために必要なこと、あるいは必要と予測されることを導き出し、その生活を支えていくための計画を立案し提示する。また、他者が提示した事例を共有し、各々の場での看護の役割と実際について考察する。

【３】　到達目標

①事例におけるコミュニティの特徴を、健康生活の観点から説明することができる。
②事例の対象者個人が生活を続けていく上での健康課題を述べることができる。
③事例の家族を含めて、生活していく上での健康課題を述べることができる。
④事例のコミュニティが抱える健康課題を述べることができる。
⑤事例の健康課題に関連する要因について3つ以上具体的に述べることができる。
⑥健康課題を解決するために支えとなるコミュニティのしくみについて述べることができる。
⑦健康課題を解決するために必要な援助内容と根拠を述べることができる。
⑧健康課題解決のための援助における倫理的課題と対応について説明できる。
⑨コミュニティで健康的な生活をしていくために事例を支援する計画を立案し提示することができる。
⑩他者が提示した事例について、質問や自分の意見を述べることができる。
⑪他者が提示した事例を共有し、コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能について、論述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	コミュニティヘルス展開論の進め方	・オリエンテーション 講義 予習：2～3年で実施した実習で受け持った、あるいはかかわった事例を振り返る 復習：事例に関する情報の整理（様式１） キーワード：振り返り、事例選択、看護展開	佐瀬・全員
2 － 4	事例の作成・事例作成の確認	・健康課題に関する情報整理と考えられる健康課題の抽出（様式１） ・事例提出 ・事例修正 個人ワーク（事例相談） 予習：事例の情報整理、健康課題抽出 復習：事例の修正 キーワード：健康課題	全員
5 － 6	事例の作成 ・事例が所属するコミュニティの特徴をふまえたアセスメント ・看護展開	・学生は事例の所属するコミュニティを仮定し、実際に存在するしくみ等についてWeb上で検索し情報収集を行う。 ・実在するコミュニティの特徴をふまえたアセスメントを行う（様式２） ＊アセスメントの際には様式１と合わせ考える ・その後自由な発想で、看護展開を行う（様式３） 個人ワーク（事例相談） グループワーク 予習：コミュニティの特徴検索、事例のコミュニティの情報整理 復習：事例の修正 キーワード：コミュニティの健康課題、アセスメント、看護展開	全員
7	看護展開の確認	・作成した看護展開の発表準備を行う。 予習：事例の振り返り 復習：事例の修正 個人ワーク キーワード：健康課題、看護展開	全員
8・9	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介１	提示者：7名（Moodle使用予定） ・各々、提示日を指定 ・指定された日時までに事例を提出 ・提示された事例を共有し、意見交換を行う。 ・当日、提示の担当ではない学生は、他事例を読み込み、自由に感想、意見を書き込む ・当日事例ごとに指定発言者を設け、提示者は回答が必要な意見に回答する。 ＊授業前日の12時までに事例をMoodleに提出する プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力 予習　事例を読む 復習　事例に意見を書き込む キーワード：コミュニティヘルス、看護展開	全員
10・11	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介２	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
12・13	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介３	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
14・15	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介４	提示者：7名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
16・17	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介５	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
18・19	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介６	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
20・21	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介７	提示者：7名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
22・23	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介８	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
24・25・26	まとめ１	全体を通して、コミュニティにおける看護展開について振り返り考察する。 グループワーク、プレゼンテーション 予習　各自の看護展開への意見交換を振り返る 復習：グループワークの振り返り キーワード：グループワーク	全員

27	まとめ２	学生は課題レポートをまとめる。 テーマ「コミュニティヘルスにおける看護展開とは」 ＊事例をあらためてまとめてみて、また他者からの意見をふまえ、考察したこと、学修できたことも含む A4レポート2枚以内 1枚36～40字×36～40行、余白上下左右27～30㎜。 フォントは明朝体または游明朝体10.5ポイントとする。 用紙内にタイトル、学籍番号、氏名を記述する（12ポイント）。 個人ワーク 復習：プレゼンテーション実施後の自己評価、他者評価 キーワード：コミュニティヘルスケア計画	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで、講義、演習、実習で学習してきたものを活用しての演習となるため、授業の進行に合わせての予習に1時間程度、当日の復習に1時間程度必要になる。
【学習上の留意点】
一生懸命まとめ、提示された事例には、関心を寄せるとともに、敬意をもって質問・感想など積極的に意見を述べていくこと。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（50%）、提示した事例（30%）、他者が提示した事例への意見（20%）

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、事例、意見交換へのコメント、課題レポートのコメントにて行う。

【９】　教科書

必要時資料を提示。

【10】　参考書

必要時資料を提示。

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護概論、老年看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学、臨床看護学、ファミリーヘルス看護領域科目、専門基礎教育科目、健康科学・人文科学

科目名(日本語)	**国際保健論（災害看護論を含む）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Global Health	必修	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	武井弥生				
担当教員	武井弥生・内木美恵				
科目責任者 連絡先(教室)	（武井） メールアドレス：　marchafrica@yahoo.co.jp （内木） 初回授業時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	（武井） 授業終了後の10分程度教室内にて質問を受け付ける。 （内木） 授業終了後の10分程度教室内にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

国際社会を対象に、保健衛生の動向、主な健康問題とその対策の推移、保健医療体制とその背景、支援活動など国際保健の基礎知識を学び、人間の健康生活支援に関するグローバルな視点を理解する。また、国内外で起こる自然災害等が及ぼす人間、家族、地域への影響、災害医療・災害看護の歴史、基礎知識、安全保障への支援、看護の役割と機能についてなど学ぶ。さらに、国際的な協力体制、災害状況における支援活動について考察する。
（武井弥生／７回）国際保健論について概説し、世界の人々の健康を保持増進するための支援活動・保健活動及び国際的な協力体制、熱帯性感染症に対する取り組みの現状と展望などについて
（内木美恵／７回）災害、災害医療を概説し、災害による生活の変化、そして環境変化による健康への影響、および看護者の役割と支援活動のあり方について

【３】　到達目標

1.国際社会における主な健康問題3つとその対策の推移について説明できる。
2.国際社会における健康生活支援活動の課題について３つ以上説明できる。
3.国際保健活動における看護専門職者の役割と機能について述べることができる。
4.日本にいながらでも、世界に貢献できることがあることを理解し実行できる。(日本にいながら世界に貢献できる行動をどのように実行したかの記載を含む。)
5.災害の概念を理解し説明できる。
6.災害看護の概念を理解し説明できる。
7.災害時の看護者の役割を理解し、説明できる。
8.被災者特性と、対象に応じた看護を理解し、説明できる。
9.災害時のメンタルヘルス保健について理解し、説明できる。
10.国際保健活動・災害看護における倫理的課題について各５つ以上説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	国際保健(1)	国際保健とは・世界の保健衛生の動向・発展目標の推移・女性としてアジアアフリカで生きる・世界の保健医療体制・国際保健活動の実践過程 講義 予習：WHO,MDG、SDGについて調べる。 復習：ミニテスト、ミニッツペーパーを提出する。 キーワード：グローバルヘルス、MDS,SDG、地球規模、主な健康問題とその対策の推移、産科膣ろう（obstetrics fistula）、国際協力、国際保健活動	武井弥生
3・4	国際保健(2)	国際保健活動における倫理的課題と対応・難民 講義 予習：UNHCR、難民とはについて調べる。 復習：ミニテスト、ミニッツペーパーを提出する。 キーワード：UNHCR、難民、プライマリーヘルスケアー、国際的な協力体制、倫理的課題	武井弥生
5・6	国際保健(3)	熱帯感染症対策と課題（1）（2）・三大感染症（HIV/AIDS、マラリア、結核）・顧みられない熱帯病・STD・健康生活支援におけるグローバルな視点 講義 予習：熱帯感染症（三大疾患・顧みられない）・Global Fundとは日本でもみられるSTDについて調べる。 復習：ミニテスト、ミニッツペーパーを提出する。 キーワード：新興感染症、再興感染症、輸入感染症、Neglected Tropical Diseases, Sexually Transmitted Diseases,	武井弥生
7	国際保健(4)	日本にいて私達ができる事 講義・グループワーク・発表 予習：それぞれの課題の発表作りをする。 復習：ミニッツペーパーを提出する。 キーワード：国内のグローバル、COP21	武井弥生
8・9	災害看護（1）	日本及び世界の災害の発生状況と被害・災害医療と疾病 講義 予習：災害の定義を調べ、災害のイメージを持って臨む。 復習：災害の種類による疾病および災害医療。災害のサイクルを考察。ミニテスト、ミニッツペーパーの提出。 キーワード：災害の定義､自然災害・人為災害､災害サイクル、災害医療	内木美恵
10・11	災害看護（2）	災害サイクルと看護者の役割 講義 予習：災害サイクルについて調べる。 復習：災害サイクル各期の看護、災害看護の活動の場所ミニテスト、ミニッツペーパーの提出。 キーワード： 災害看護	内木美恵
12・13	災害看護（3）	被災者特性に応じた看護・災害時要配慮者への看護 講義 予習：被災者、災害時要配慮者とはどのような人々か考え、調べる。 復習：災害時要配慮者への特別な配慮。ミニテスト、ミニッツペーパーの提出。 キーワード：被災者、災害時要配慮者、倫理的課題	内木美恵
14	災害看護（4）	災害時のメンタルヘルス 講義・ディスカッション・ディベート 予習：こころのケアとは何をすることか考える。 復習：災害による心身への影響と、その予防と対策。ミニテスト、ミニッツペーパーの提出。 キーワード：被災者・支援者のストレス、こころのケアと災害時精神保健	内木美恵

【６】　事前・事後学習とその時間

（武井）
１．ウェブサイト（国連UN、国連難民高等弁務官事務所UNHCR、世界保健機構WHO、米国疾病管理予防センターCDC、英国放送協会BBC、米国公共放送サービスPBS、米国ナショナルパブリックラジオNPR、CNN）から国際人道支援や感染症に関する情報を得ておく時間：30分程度
２．課外見学施設（評価対象のレポート2点中1点の課題となる）
東京：平和祈念展示資料館（西新宿　入場無料）、しょうけい館-戦傷病者資料館（九段下　入場無料）、東京大空襲戦災資料館（台東区300円）、長野県上田市：無言館-戦没画学生慰霊館（塩田町　大学生800円）　時間：2時間程度
講義で追加施設の可能性あり（例　国立歴史民俗博物館（佐倉））全員が各施設見学者ごとグループを作り最終講義で見学内容を各グループ5分程度にまとめて発表、質疑応答を行う。
３．各講義ミニッツの代わりに、講師への直接感想質問を受ける（Moodle）
４．一回でも欠席、あるいは15分以上の遅刻が2回以上で、課題レポート点中のテーマ１「講義全般を通して」の提出資格なしとする。
５.事前学習として、上記の他に授業開始5日までに国際看護関連の国試問題をMoodleに挙げるので、各自解いておくこと。少なくともそのうち一題の内容を、ミニテスト対象とする。

（内木）
この授業は、災害を知り、災害者への健康被害と災害看護について理解するため、予習に30分、復習に30分程度費やします。東日本大震災や熊本地震に関する政府や警察、自治体の発表資料などに目を通すとともに、被災者の様子や看護職の活動など記録物を読んで災害時の被災者や看護についてイメージできるようにしておくこと。さらに国内外で発生する災害についてニュースや新聞など留意して情報を得ておく。
事後学習では、各回で学んだことを学生同士でディスカッションし、理解を深めること。

【７】　評価方法・基準

（武井）
レポート2点（15％×2）とミニテスト（20％）の合計評価の6割以上を合格とする
レポート形式：A4一枚のみ（表紙不要。裏面への記載可）
誤字脱字・論旨の不明なども減点対象とする
提出先：大学事務
提出期限：テーマ１「講義全体を通して」　最終講義終了後一週間以内
テーマ２　施設見学に関して　最終講義終了後二週間以内
ミニテストフィードバック：２日目の講義が終わり１週間を目安に点数を返却する。
レポートフィードバック：著明な誤解と思われるもの以外は直接返却しない。
（内木）
ミニテスト（20％）及び定期テスト（30％）とし、6割以上を合格とする。

【８】　フィードバック方法

（武井）ミニテスト、レポート共に著明な誤解と思われるもの以外は返却しない。プレゼンテーションについてその場でコメントする。
（内木）ミニッツペーパーのフィードバックは講義の中で行う。

【９】　教科書

（内木）
浦田喜久子編集: ≪系統看護学講座 統合分野≫看護の統合と実践〈3〉 、災害看護学・国際看護学, 第4 版, 医学書院, 2019.

【10】　参考書

「準備学習」で挙げた機関の情報。これまで学んだ感染症の教科書。
田村やよひ編：国際看護学、メヂカルフレンド社　2015
浦田喜久子他編：災害看護学・国際看護学、医学書院　2015
酒井明子他編：災害看護、改訂版第2版　2015
授業で適宜、紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

疫学と公衆衛生、感染症、微生物

科目名(日本語)	ターミナルケア	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Terminal Care	必修	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代・浅野美知恵・臼井雅美・佐瀬真粧美・小板橋恵美子・島村敦子・瀧口千枝				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp） 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	授業終了後～13時まで各回担当の教員の研究室において質問を受け付ける。これに加え、Moodleの質問機能、メール等でも随時質問を受け付ける。なお、メールでの連絡先は以下の通りである。 鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、浅野美知恵（michie.asano@hs.toho-u.ac.jp）、 佐瀬真粧美（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋恵美子（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、 臼井雅美（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp）、島村敦子（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、 瀧口千枝（chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

様々な疾患、事故、高齢などにより終末期にある人とその家族を対象とする看護、ターミナルケアについて学ぶ。ターミナルにある対象とその家族の特徴、終末期医療・ターミナルケアの特徴、看護の役割と機能、看護活動の場の特徴、主な理論・概念、対象の全体像把握、ＱＯＬ維持・向上や苦痛症状に対する援助など基礎知識を理解する。また、人生の最後を生き抜く患者をケアするための根拠ある看護実践の展開方法について学ぶ。さらに、死生観について考察を深める。なお、対面授業を基本とするが一部の授業回をMoodleを活用したオンデマンド形式で行うことを予定している。
（浅野美知恵／２回）がん終末期における患者とその家族の特徴とその看護
（瀧口千枝／２回）予期しない死にいたる人とその家族のケア方法と展望
（鳥田美紀代／４回）ターミナルケアの基礎知識の概説、ターミナルの身体像の変化とアセスメント方法、高齢者・認知症患者のターミナル状態のアセスメント、ケアの特徴とその看護
（島村敦子／２回）看取りの看護実践の展開方法と課題
（臼井雅美／２回）小児におけるターミナルケアの特徴とその看護
（小板橋恵美子／１回）コミュニティにおける看取りケア・遺族ケアの看護活動方法と展望
（佐瀬真粧美／１回）ターミナルケア実践上の課題と展望

【３】　到達目標

1.ターミナルの身体像の変化について説明できる。
2.ターミナルケアにおける看護活動の場の特徴と役割について説明できる。
3.ターミナルの経過と看護のアセスメント方法について具体的に説明できる。
4.ターミナルケアに活用する主な概念と理論について具体的に説明できる。
5.ターミナルケア実践上の課題について具体的に説明できる。
6.がん終末期における患者・家族の経過に応じた看護について具体的に説明できる。
7.予期しない死にいたる人とその家族のケアの特徴と看護の役割について説明できる。
8.高齢者・認知症患者のターミナル状態のアセスメント視点と方法について具体的に説明できる。
9.高齢者・認知症患者のターミナルケアの特徴について説明できる。
10.小児におけるターミナルケアの特徴と看護の役割について説明できる。
11.看取りの看護実践の展開方法について具体的に説明できる。
12.コミュニティにおける看取りケアの看護活動方法について説明できる。
13.コミュニティにおける遺族ケアの看護活動と課題について論説できる。
14.ターミナルケアにおける倫理的課題と対応について３つ以上具体的に説明できる。
15.ターミナルケアのチーム活動に関する課題について３つ以上具体的に説明できる。
16.ターミナルケアの授業を通して自分自身の死生観と看護観を明確にすることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	ターミナルケアの基礎(1)	ターミナルケアの基礎知識の概説 方法：講義 予習：身体機能の発達と機能低下 復習：ターミナルの身体像の整理。人間の尊厳について考察。 キーワード：身体像の変化、終末像、臨死期、臨終、看護の役割、アセスメント方法、実践活動の根拠	鳥田　美紀代
3・4	看取りの看護	看取りの看護実践の展開方法と課題 方法：講義 予習：在宅における看取りについて、既習の内容を振り返って臨む 復習：看取り準備の整理、授業考察 キーワード：事例分析、看取りの儀式、看取りの文化、看取りの看護ケア、実践活動の根拠、遺族、グリーフケア	島村　敦子
5・6	状況別ターミナルケア(1)	がん終末期における患者・家族の看護 方法：講義 予習：がん終末像、がん終末期の経過、緩和ケア、がん医療に関わる倫理的課題 復習：がん終末期におけるチーム活動について考察 キーワード：事例分析、トータルペイン、生き抜く人へのケア、家族ケア、療養場所、実践活動の根拠，QOL，倫理的ジレンマ，死生観，看護観	浅野　美知恵
7・8	状況別ターミナルケア(2)	高齢者および認知症患者のターミナル状態のアセスメント、ケアの特徴とその看護 方法：講義 予習：高齢者の成長発達、認知症患者の看護について、関連する既習科目の内容を振り返って臨む 復習：授業内容の整理、考察 キーワード：高齢者の生き方、日常生活援助、尊厳、家族支援、実践活動の根拠、死後の処置、認知症、意思決定と擁護、事例分析	鳥田　美紀代
9・10	状況別ターミナルケア(3)	予期しない死にいたる人とその家族の看護 ・クリティカルケア領域におけるターミナルケア ・クリティカルケア領域において患者を亡くす家族のケア ・クリティカルケア領域においてターミナルケアに関わる看護者のケア 方法：講義（Moodleを活用したオンデマンドによる講義） 予習：本科目の前回までの講義を振り返って臨む。 復習：予期しない死の状況と家族ケアについて考察 キーワード：症状コントロール、救命救急、院内急変，自殺，交通事故，脳死，DNAR、事前指示，代理意思決定支援，悲嘆反応、グリーフケア、尊厳と擁護、悲嘆ケア、デスカンファレス、実践活動の根拠、PTSD	瀧口　千枝
11・12	状況別ターミナルケア(4)	小児におけるターミナルケアの特徴とその看護 方法：講義 予習：終末期にある子どもと家族の看護について既習科目の内容を振り返って臨む。 復習：授業内容の整理。子どもの死について考察する。 キーワード：子どもにとってのターミナルとは、子どものエンド・オブ・ライフケア指針、生育限界・成育限界、重篤な疾患を持つ新生児の家族と医療スタッフの話し合いのガイドライン、グルーフケア	臼井　雅美
13	コミュニティにおける看取り・遺族の看護	コミュニティにおける看取りケア／遺族ケアの看護活動方法と展望 方法：講義（Moodleを活用したオンデマンドによる講義） 予習：遺族と看護 復習：コミュニティにおける看取りケアの特徴の整理 キーワード：事例分析、コミュニティの中の看取り、遺族、看護活動、看護の専門性、実践活動の根拠、ケアチーム、デスカンファレンス、市民教育、地域ケアシステム構築、孤独死	小板橋　恵美子
14	ターミナルケアの基礎(2)	ターミナルケア実践上の課題と展望 方法：講義（Moodleを活用したオンデマンドによる講義） 予習：告知、インフォームドコンセント 復習：ターミナル期における看護の役割、姿勢について考察。 キーワード：事例分析、症状コントロール、告知、意思決定、受容、アドバンス・ケア・プランニング	佐瀬　真粧美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。本授業はターミナルの多様な状況を理解し，根拠あるケアの考え方を習得した上で，ターミナルケアにおける看護の役割を探求し，死生観及び看護観を養うことをねらっているため，関連内容について予習に1時間程度，復習に1.5時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
関連のガイドライン、施策、法律および、患者や家族の体験を記した書籍や新聞記事など社会の現状を理解しながら考察を深める

【７】　評価方法・基準

課題レポート(ワークシート含む)100%

【８】　フィードバック方法

課題レポートおよびワークシートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，次回の授業やMoodleのフィードバック機能を用いて疑問や質問に対するコメントを返す。

【９】　教科書

必要に応じて授業で資料を配布、またはMoodle等で資料を配信する。

【10】　参考書

授業時に関連文献を紹介する。
・エリザベス・キューブラー・ロス、鈴木昌訳：死ぬ瞬間、死とその過程について、中公文庫、2001
・エリザベス・キューブラー・ロス、鈴木昌訳：死、それは成長の最終段階、続　死ぬ瞬間、中公文庫、2001
・エリザベス・キューブラー・ロス、鈴木昌訳：「死ぬ瞬間」と死後の生、中公文庫、2001
・シシリー・ソンダース、小森康永編訳：ナースのためのシシリー・ソンダース、ターミナルケア　死にゆく人に寄り添うということ、北大路書房、2017

【11】　備考(関連科目等)

臨床看護学、老年看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学、専門基礎教育科目、健康科学・人文科学

科目名(日本語)	**看護研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Research	必修	演習	通年 4年	2単位 60時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子他専任教員全員（共同）				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋恵美子（研究室315）メール：emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	各担当の指導教員と調整した方法で行う。指導教員の連絡先は各自確認する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle　Zoom

【２】　授業概要

研究課題抽出からはじまり、研究計画書作成、倫理面の承認、データ収集・分析、そして、論文作成、さらに研究成果の発表までの一連の過程を体験的に学修する。このプロセスにおいて、学生は各自の研究課題に沿って看護研究を実施する。さらに、看護研究活動を通して、各自の看護観を明確にする。

【３】　到達目標

1. 研究目的や方法を明確にするために文献検索およびクリティークを行うことができる
2. 文献検討を行い、研究疑問を明確にすることができる
3. 研究目的に適した研究方法を設定することができる
4. 研究を実施するために必要な倫理的配慮を設定することができる
5. 研究計画書を作成することができる
6. 研究方法に基づき、データ収集およびデータ分析を行うことができる
7. 研究結果を適切に示すことができる
8. 研究結果を文献と照合しながら、研究目的に基づき考察することができる
9. 研究成果を指定された書式に基づき論文として披露することができる
10. 自己の研究成果を他者にわかりやすく説明することができる
11. 他者とのディスカッションを通して、研究成果の意義、看護への応用について理解を深めることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	専門領域および担当指導教員の決定まで	・3年次秋学期（看護学実習終了後）に看護研究のガイダンスを実施する。ガイダンスにて専門領域および担当指導教員の決定までの流れを説明する。 ・学生は、自分の研究課題を検討する中で、『各領域・専門分野の相談方法』に則り、希望する領域・専門分野の教員に相談を行うことができる ・指定された期日までに『看護研究・領域等エントリー用紙』に必要事項を記入し提出する ・3月下旬をめどに所属する専門領域が決定され、発表される。	林ひろみ・小板橋恵美子
	4月以降	内容 １．研究疑問の整理 ・自らの研究疑問について明らかにしようと思った動機・どの時期のどの対象に対して、何を明らかにしたいと考えているかを文章化する ２．文献のクリティーク ・研究疑問に関する文献の要約を行い、クリティークを行う ３．研究疑問の焦点化と設定 ・研究動機、文献のクリティークを基に研究テーマと目的、研究意義を文章化する ４．研究デザイン・研究方法の設定と明確化 ・研究デザインと研究方法を設定し、文章化する ５．倫理的配慮の検討（人を対象とした研究の場合） ・対象者への依頼およびデータ収集方法・分析方法における倫理的配慮を検討する	全員
		６．研究計画書の作成 ・プロセス１～５において明確にされたことを研究計画書として作成する。 ・研究計画書に付随する書類を作成する（対象者への依頼文と同意書、アンケート調査票あるいはインタビューガイドなど） ＊人を対象とした研究を計画している場合は、健康科学部「看護研究倫理審査会」の審査を受ける ７．データ収集・データ分析 ・研究計画書に基づきデータを収集する ・得られたデータを分析し、文章化あるいは図表化する ８．考察の方向性の明確化 ・研究目的に基づき、研究結果の考察の方向性を明確にして文章化する ９．研究発表会 ・研究目的・方法・結果・考察をパワーポイントに整理し、研究成果のプレゼンテーションを行う ・他学生からの質問に応答する ・他学生のプレゼンテーションを聞き、質問する、あるいはコメントを述べる 10．報告書作成 ・研究発表会での他者からの質問・コメントを踏まえて看護研究論文の作成要領に則り、論文を作成する ・所定の期限までに看護研究論文の電子データを提出する	全員
	授業方法	・主に指導教員との個人面談による指導や助言をうけて研究を実施する。 ・各専門分野あるいは領域の進め方に則り、２回程度のゼミを行う。 ・ゼミにおいては、研究の進捗状況をプレゼンテーションし、他学生からの質問やコメントに応答する。また自らも他学生の研究内容に対して積極的に質問やコメントをする。学生間でのディスカッションを通じて、また同じ領域内の他の教員からも指導を受ける	全員
	研究発表会	・パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式による発表会を行う ・発表会方法については別に説明する ・発表会前の所定期日までに看護研究の要旨を電子データにて提出する。	全員
	看護研究論文	・看護研究論文作成要領を参照し、論文を作成する ・所定の日時及び所定の方法にて看護研究論文の電子データを提出する	全員
	キーワード	研究疑問・クリティーク・研究動機・研究異議・研究目的・研究目的の焦点化・用語の定義・研究デザイン・研究方法・研究対象・調査内容・調査方法・分析方法・研究計画書・倫理的配慮・対象者への依頼文・同意書・データ収集・データ分析・研究結果・考察・研究成果の報告・プレゼンテーション	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

・講義・演習、実習体験を通して得られた研究疑問に関連する文献を検索し、精読する
・指導教員と定期的な面談を行うことにより計画的に取り組めるようにする。なお、面談の際は指導教員に事前にアポイントメントをとる。
・ゼミや発表会においては、指定された課題や指示に沿って取り組む。特に、他者に対して自分の考えを論理的に伝える工夫を行うほか、他者の発表内容に対しても疑問や感想などを積極的に発言することを求める。
・事前および事後課題はそれぞれの課題によって必要時間は異なるため、効率的かつ計画的、自律的に取り組む必要がある。なお、指導教員との面談の際に、次回面談までの課題を明確にして取り組む。

【７】　評価方法・基準

研究論文（最終提出物）60%、研究発表会におけるプレゼンテーション15%、ゼミや発表会での発言10%、（指導教員と明確にした）課題への取り組み15%

【８】　フィードバック方法

個別相談時やゼミ等でその都度指導を行う。プレゼンテーションおよびグループディスカッションの結果に対してコメントする。

【９】　教科書

指定なし

【10】　参考書

・黒田裕子著：黒田裕子の看護研究　step by step　第5版，医学書院，2017.
・南裕子・野嶋佐由美編：看護における研究　第2版，日本看護協会出版会，2017.
・横山美恵編：よくわかる看護研究の進め方、まとめ方　第3版，医歯薬出版株式会社，2017.
・早川和生編著：JJNスペシャル　看護研究の進め方、論文の書き方　第2版，医学書院，2012.
・石井京子・多尾清子：ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版，医学書院，2016.
・田久浩志著：統計解析なんかこわくない　データ整理から学会発表まで　第2版，医学書院，2019.
・山川みやえ・牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.

【11】　備考(関連科目等)

・関連科目：看護研究入門、研究方法の基礎

科目名(日本語)	**看護の役割と実践の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Inquiry into Clinical Nursing Practice	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬真粧美　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp　K319研究室				
オフィスアワー	授業終了後10分、その後は、Moodleの質問機能やメールにて随時質問を受け付ける。 佐瀬真粧美　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp 鳥田美紀代　mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

看護に関わる異文化などを含む対象理解、科学的思考・アセスメント・臨床判断を含む看護展開法、看護実践、看護教育、看護専門職としての倫理的判断、などの側面から、看護の機能と役割について探究する。さらに、これまでの看護学実習を題材に、看護実践の質を探究する。本科目は、授業科目「看護実践の探究」の臨地実習へつながり、知識・技術・態度を統合する力を養う。

・看護に関わる多角的視点から看護の機能と役割を探究／オリエンテーション（鳥田美紀代／2回）
・看護専門職としての倫理観の探究、看護教育の探究　（鳥田美紀代／1回、佐瀬真粧美／1回）
・看護実践の質を探究し、看護の課題を考える　（佐瀬真粧美／2回）
・グループディスカッション・発表（全員／8回）

【３】　到達目標

1.看護の観点から、異文化などを含む対象理解について論述できる。
2.根拠に基づいた看護展開法におけるアセスメント方法について具体的に説明できる。
3.根拠に基づいた看護展開法における臨床判断について論述できる。
4.看護職の観点から、実践的な専門性発揮について論述できる。
5.看護専門職として、看護教育の根幹となる考え方を3つ以上説明できる。
6.看護専門職としての倫理観について、事例を通して倫理の原則を基に分析し論述できる。
7.質の高い看護を実践する看護職の専門性についての考えを述べることができる。
8.看護の機能の普遍性と専門性についての考えを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	看護における対象理解と援助の探究（1）	1.看護の観点から異文化などを含む対象理解の探究 2.看護展開における科学的思考・アセスメント・臨床判断・評価に関する探究 3.実習体験事例の分析 講義・個人ワーク（ワークシート） 予習：既習した臨床実習において対象理解に難しさを感じた(あるいは印象に残っている)ケースについて、実習記録等から自身の思考や判断について振り返り、持参する。また、実習や日常生活において異文化を感じた経験を整理して持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：生活者、文化、社会的背景、価値観、人間理解に関する学問、多角的視点、情報の分析・統合、アセスメント、看護活動の目標設定	鳥田　美紀代
3・4	看護実践の質の探究(1)	1.看護実践の質とは 2.実習体験事例の分析 講義・個人ワーク（ワークシート） 予習：既習した臨床実習の記録を振り返り、持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：看護の定義、対象理解、看護専門職としての実践、看護における質の判断	佐瀬真粧美
5・6	看護実践における倫理観の探究／看護教育（1）	1.看護専門職としての看護教育の役割および倫理観の探究 2.事例の分析 講義・個人ワーク（ワークシート） 予習：既習した臨床実習での学びを振り返っておく。実習の中や看護学生としての日常生活で遭遇した教育的場面、倫理的課題を感じた経験を整理して持参する。 復習：事例分析の整理と考察 キーワード：医療者の倫理、倫理的現象、倫理的判断	鳥田　美紀代／佐瀬　真粧美
7・8	グループワーク（１）（オリエンテーション）	1.第１～3回で学修した内容の振り返り 2.「看護実践の探究」に向けた自己課題の整理 講義・看護実践の探究のコース毎のグループワーク、個人ワーク（課題レポート） 予習：　第1回～3回の学修内容の整理 復習：授業内容の整理と考察、既習した臨床実習（看護実践の探究を含む）の記録・学習記録を振り返って整理する。 キーワード：自己分析、看護の専門性、専門性の発揮	鳥田　美紀代
9・10	グループワーク（２）	1.実習体験（看護実践の探究含む）の振り返り・情報共有 2.実習体験事例の分析（自己分析・グループディスカッション） 看護実践の探究のコース毎のグループディスカッション、個人ワーク（課題レポート） 予習：既習した臨床実習(看護実践の探究含む)の記録・学習記録を振り返り、持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：看護の質、看護の機能・役割、倫理観、看護観・臨床判断・実践の言語化、リフレクション	全員
11・12	グループワーク（３）	1.実習体験事例の分析（グループディスカッション） 2.グループ発表準備 グループディスカッション、個人ワーク（課題レポート） 予習：グループ発表の準備 復習：グループ発表の準備 キーワード：看護の質、看護の機能・役割、倫理観、看護観・臨床判断・実践の言語化、リフレクション	全員
13・14	グループ発表 全体討議　　まとめ	1.テーマに沿ってグループで討議した内容のプレゼンテーション 2.当科目の学びを統合し、看護の課題と展望について考察する 必要に応じ、追加講義 予習：グループ発表ができるように準備を行う。各自、当科目での学びを整理しておく。 復習：科目全体を振り返り、看護専門職としての自己の課題を考えてくる。 キーワード：看護の機能、看護の役割・法的責任、看護の質、倫理観、プレゼンテーション、リフレクション	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。臨地実習記録類から実習体験事例を整理して臨むこと。本授業は，予習復習に1.5時間程度を要する。
【学習上の留意点】
グループワークでは、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

【7】　評価方法・基準

ワークシート40%、グループワークにおける貢献度に関するピア評価10%、課題レポート50%

【8】　フィードバック方法

ワークシートおよび課題レポートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，後半の全体討議やまとめの授業回において疑問や質問に対するコメントを返す。また，グループワーク実施後は全体講評を行う。

【９】　教科書
必要に応じてMoodleで資料を配布。

【10】　参考書
必要に応じて授業内で関連文献を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
看護学の講義・臨地実習、看護実践の探究

科目名(日本語)	**臨床実践技術の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Inspection of Nursing Skills	必修	演習	秋学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美　他 専任教員全員				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美 (masami.usui@hs.toho-u.ac.jp (K331研究室)				
オフィスアワー	事例の理解に関する相談：10月～12月は、随時上記の科目担当者連絡先まで。 実技に関する相談：別途オフィスアワーを設ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

演習科目の基本技術や臨地実習を通して習得した看護の実践技術を統合して学習し、客観的に基礎教育で育成された看護実践能力を評価する。具体的には、コミュニケーション能力、アセスメント能力、安全かつ安楽な技術の提供、評価と再アセスメント、倫理観に基づいた行為であることなどを実践能力と捉え、総合的に評価する。本科目を通じて、自己の技術到達度を自覚し、看護専門職としての技術を探究する。

【３】　到達目標

1. 援助者としてのコミュニケーションが実施できる。
2. 「その人らしい暮らし」を重視した看護アセスメントを展開できる。
3. 科学的根拠に基づいた、看護援助技術が計画できる。
4. 安全・安楽に基づいた援助技術が実施できる。
5. 対象の状況に応じて、必要・適切な看護援助を順序立てて実施できる。
6. 看護の倫理観に基づいた援助技術が実施できる。
7. 看護技術における倫理的課題を考察できる。
8. 問題解決を通して、チームに貢献する自分の役割を自覚し、他者と協働できる。
9. 実施した技術をふり返り、自己の課題を明らかにできる。
10. 「看護技術とは何か」、自分の考えを論述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	オリエンテーション	授業方法：講義 内容：科目のねらい、スケジュール、学習方法、試験項目の開示 事例の提示	臼井雅美
3･4	事例検討	授業方法：講義・グループワーク（遠隔授業を併用） 内容:試験で用いる事例についての理解を深める。 予習：事例の疾患、発達段階、検査データ、観察データなどの理解を各自進めておく。 復習：看護の視点、技術の工夫点などを各自まとめる。 キーワード：看護展開、関連図の作成、患者理解、疾病理解、技術チェックリスト	全員
5･6	技術学習	授業方法：演習・グループワーク（遠隔授業を併用） 内容:試験で用いる技術を練習する。 予習：技術の目的、ベラ委、方法をまとめる。参考動画を視聴する。 復習：反復練習を行う。 キーワード：看護展開	全員
7･8	技術学習	上に同じ	全員
9・10	技術学習	上に同じ	全員
11･12	直前オリエンテーション	授業方法：講義 内容：事前学習の確認、スケジュールの確認、質疑応答	全員
13･14	技術試験１	授業方法：試験（プレゼンテーション） 内容：退院支援の実技試験を受ける。 試験は①退院指導、②フィードバックの2段階で行う。 ①の実施内容は、10月に提示された事例について各自アセスメントを行い、模擬患者を相手にセルフケアの支援を実践する。指導に用いる媒体は自由とし、内容は分かりやすいか、対象の個別性に沿った方法・内容で支援できているか、また看護師として態度やコミュニケーション能力も観察し、評価する。 ②のフィードバックは、学生と評価教員、模擬患者の3名で行う。 予習：ペーパーペイシェントの看護過程と指導媒体づくり、技術練習など 復習：日々のリフレクションシートの記載 キーワード：マルチタスク技術、コミュニケーション、医療者の態度、セルフケア支援、技術指導、模擬患者	全員
15･16	技術試験１	上に同じ	全員
17･18	技術試験２	授業方法：試験(看護実技) 内容：各看護専門領域の技術テストOSCEを実施する。 試験は①実技、②フィードバックの2段階を4回（4種目）行う。 ①の実施内容は、10月に提示された事例に必要とされる各専門領域の看護師術4種目を、シミュレーターモデルや模擬患者を相手に実践する。 ②のフィードバックは、学生と評価教員の2名、実技種目によって模擬患者を含めた3名で行う。 予習：事例に沿った技術の練習 復習：日々のリフレクションシートの記載 キーワード：OSCE（客観的臨床能力評価）、タスク技術、コミュニケーション、タイムトライアル	全員
19･20	技術試験２		全員
21･22	技術試験３	授業方法：試験（看護実技・ディスカッション） 内容：チーム連携技術試験を実施する。 試験は①ブリーフィング、②実践、③デブリーフィングの3段階で行う。 ②実践の内容は、10月に提示した事例について、シミュレーターを対象にチームで看護（観察、緊急時の対応などの技術）を実践する。 実施後の③デブリーフィングは、評価教員とともにグループで行う。 予習：事例に沿った看護計画、および技術の練習 復習：日々のリフレクションシートの記載 キーワード：チーム連携、コミュニケーション、タイムトライアル、ブリーフィング、デブリーフィング	全員
23･24	技術試験３	上に同じ	全員
25・26	まとめ	授業方法：講義 内容：看護技術とは 予習：各自で技術試験のフィードバックをしておくこと 復習：日々のリフレクションシートの記載（講演聴講後に考えたことや感想など）	臼井雅美・ゲストスピーカー

27	まとめ	授業方法：講義（ディスカッション） 内容：看護技術とは 予習：各自で技術試験のフィードバックをしておくこと 復習：レポート提出（4000～5000字）	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
10月の初回のオリエンテーションにて、事前学習について説明する。それ以外に、これまで看護の基本技術Ⅰ～Ⅸで学んだことを復習しておくこと。
予習：事例の提示を技術試験の約3ヶ月前に行う。最低でも、事例の看護過程に10時間、看護計画を実践するための準備や技術自己練習に30時間は予習を行う。
復習：技術試験後の評価者からのフィードバックを踏まえ、日々のリフレクション課題を完成させる。30分程度の時間を要する。
また、全課程終了後にレポートを提出する。

【学習上の留意点】
本科目ではいくつかの技術試験を行う。その中にはコミュニケーション能力やアセスメント能力、援助者としての態度（倫理的配慮を含む）、発達段階への配慮、個別性へのなども含まれる。それらも復習して参加すること。

【７】　評価方法・基準

技術試験60%、リフレクション課題10%、レポート30%。
配点表を作成し、公平性・客観性を保ち評価を行う。

【８】　フィードバック方法

テスト終了後、担当教員や模擬患者より各自に（チーム活動後はチーム毎に）口頭にてフィードバックを行う。

【９】　教科書

これまで使用した教科書や参考書、授業資料、ノートなどを参照すること。

【10】　参考書

上に同じ。

【11】　備考(関連科目等)

看護の基本技術Ⅰ～Ⅸ、各臨地実習、看護倫理　など

科目名(日本語)	**看護安全論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Safety Management	選択	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立篤子、鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

moodleを活用する

【２】　授業概要

これまでの学習を踏まえ、安全で質の高い療養支援を提供するために必要な安全管理に関する基本的な知識について学ぶ。具体的には医療安全に関わる取り組みの歴史や背景、看護職者が関わる医療事故の現状と事故発生のメカニズム、看護職者の法的責任、安全対策の基本について学習する。また、医療安全対策の現状と課題を学び、様々な場における看護職の役割を理解し、今後、医療安全のために看護職が担うべき役割や課題について学習する。

【３】　到達目標

1.医療安全の概念が説明できる
2.医療安全に関連する法令や看護師の法的責任が説明できる
3.国・自治体・施設等各レベルにおける医療安全対策の現状と課題が説明できる
4.医療事故の分析方法が説明できる
5.医療安全のための看護師の役割について説明できる
6.医療安全文化を醸成するために必要な事柄を説明できる
7.医療安全の立場から人権擁護について自分の考えを述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	医療における安全と責任	医療安全の意味と重要性について説明できる 医療安全と看護師の責任について説明できる 講義・ディスカッション 予習：テキスト第1章、第9章を読むこと 復習：事後学習：看護学生の実習中の事故の特徴を整理する。 キーワード：医療安全の動向、医療事故、法令、看護師の責任	尾立　篤子
3・4回	医療における取り組みと評価	医療安全への国や医療施設の取り組みについて説明できる 医療安全対策を支える法律や事業について説明できる 医療事故調査や医療事故報告制度について説明できる 職能団体の取り組みについて説明できる 講義・ディスカッション 予習：テキスト第2章を読む。 復習：独立行政法人医療評価機構の医療安全情報から3つを取り上げ、安全上のポイントと留意すべき点を含めた感想をワークシートに整理して、次回の授業開始前に提出する。 キーワード：国や職能団体の取り組み、医療事故の報告制度	鈴木俊美
5・6回	看護における安全対策	医療事故の原因について説明できる 医療事故の対策について説明できる 医療事故発生時の初期対応について説明できる 医療事故発生時の紛争防止策について説明できる 講義・ディスカッション・小テスト 予習：テキスト第5章、第7章、第8章を読む 復習：看護業務と事故発生要因をまとめる キーワード：医療事故の原因と対策、事故発生時の初期対応、紛争防止対策	尾立　篤子
7・8回	医療安全の現状と対応（1）	事故発生のメカニズムについて説明できる ヒューマンエラーについて説明できる 医療事故の分析方法について理解できる 講義・演習（グループワーク） 予習：テキスト第3章、第4章を読む 復習：実際の事故事例を通して気づいたことを整理する キーワード：ヒューマンエラー、医療事故分析、リスクマネジメント	尾立　篤子
9・10回	医療安全の現状と対応(2)	看護業務の現状について説明できる 看護業務と事故発生要因について説明できる 看護業務の事故予防対策について説明できる 講義・演習（グループワーク） 予習：テキスト第5章を読む 復習：次回の立案・発表に向けて、分析した事例の理解を深める キーワード：患者取り違え、誤薬、針刺し、転倒転落、誤嚥、感染	尾立　篤子
11・12回	医療安全の現状と対応(3)	事故の防止策について説明できる 医療事故後の対応について説明できる 講義・演習（グループワーク） 予習：テキスト第3章を、9章読む 復習：講義の中で提示する キーワード：５S、KYT	尾立　篤子
13・14回	医療安全文化	職員の協働と医療安全文化の醸成の必要性について説明できる 講義・ディスカッション・グループワーク 予習：テキスト第4章を読む 復習：授業を振り返り安全文化の醸成に必要なポイントを整理する キーワード：チーム医療、コミュニケーション、安全文化	尾立　篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業は、新しい概念が多く出てくるため、予習1時間程度、復習30分程度を要する。・予習に際しては、テキストの指定された章を読んで参加し、復習はレジュメやテキストの読み直しが必要。
グループワーク演習は全員参加することで成果があがるので、遅刻欠席をせず個人の課題は必ず持参する。

【7】　評価方法・基準

本科目は複数の成績評価方法を用いる。具体的には、課題レポート50%、小試験40%、グループワークでの発言10%となる。

【8】　フィードバック方法

小試験はMoodleを使用し、結果は試験終了後にフィードバックする。最終試験は試験終了後に解説を行う。

【9】　教科書

松下由美子・杉山良子・小林美雪（2021）．看護の統合と実践(2)：医療安全　第4版．メディカ出版.

【10】　参考書

日本医療機能評価機構：http://www.med-safe.jp/contents/info/
厚生労働省医療安全対策：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/i-anzen/index.html

【11】　備考(関連科目等)

法学、疫学と公衆衛生、看護学全般

科目名(日本語)	**看護管理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Administration	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立　篤子、松浦　麻子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

組織的で適切な看護提供のために必要な看護管理に関する基礎的知識・理論を学び、看護管理のあり方や課題について考える。またチーム医療、多職種との協働、リーダーシップ、医療安全、リスクマネジメントについて看護管理の視点から考察する。
さらに、高度化・多様化する医療・看護に適応するために、ライフワークバランスを考慮した自身のキャリアビジョンについて検討する。
そして、看護管理の立場から医療・看護の質保証を目指す思考過程と手法について学ぶ。

【３】　到達目標

1. 看護管理の基礎となる理論について説明することができる。
2. 看護を取り巻く保健・医療・福祉のしくみについて説明することができる。
3. 看護職の役割・機能について説明することができる。
4. 看護提供システムについて説明することができる。
5. チームにおける看護と他職種の協働・連携について説明することができる。
6. 保健・医療・福祉の協働・連携について説明することができる。
7. 個人情報を保護するための情報管理について説明することができる。
8. 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明することができる。
9. 看護の質向上に向けた活動について説明することができる。
10. 看護職者の多様なキャリアを踏まえて自分自身のキャリア・ビジョンを記述できる。
11. 組織開発の概念と手法を説明できる。
12. 政策過程とそれへの参画方法を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	看護管理の基礎理論	1.看護管理とは 2. 看護管理で活用する主な理論・概念 3. 専門職の機能とサービス 4. 看護サービスマネジメント 5. 看護管理者の資質 講義、ディスカッション 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード：制度、看護管理、マネジメント理論、組織論、権限・責務、リーダーシップ論、意思決定、看護サービス、管理者	尾立　篤子
3・4回	看護管理方法論（1）	1. 看護管理のプロセス 2. 看護提供システム 講義、グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する　課題の提出 キーワード：管理プロセス、組織、人事、労務、財務、情報、職位・専門による管理内容の違い	尾立　篤子
5・6回	看護管理方法論(2)	1. 看護サービスの質評価 2. リスクマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する　課題の提出 キーワード：看護サービス、質評価、リスクマネジメント、資源獲得・配分、アウトカムマネジメント、人的資源管理、マネジメントスキル	尾立　篤子
7・8回	看護管理方法論(3)	1. 看護マネジメントスキル 2. 協働・連携のマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード： チーム医療、他職種、保健・福祉、協働・連携	尾立　篤子
9・10回	看護管理方法論(4)	1. 倫理面のマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード：倫理、ICN看護倫理綱領、患者の権利、人権尊重・擁護	尾立　篤子
11・12回	人材マネジメント	1. 看護職者キャリアとは 2. キャリア形成を支援する仕組み 3. キャリア・ビジョンの考察 講義・グループワーク 予習：事前に配布するワークシートを記載し、授業に持参する 復習：ミニッツ・ペーパーの記述 キーワード：キャリア形成	松浦　麻子
13・14回	組織マネジメント、看護管理の展望	1. 組織の変革・開発 2. 職員がいきいき働ける職場を作るための方策 3. 看護に関する政策の立案から法制化までの過程 4. 政策への参画方法を考察 5. 看護管理の展望 講義 予習：なし 復習：授業で配布する資料を精読し，課題（ワークシート）に取り組む。 キーワード：システム理論、変革理論、コーチング、政策過程	尾立　篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

看護学全般に関連する科目であることから、キーワードについて検索して予習し受講すると共に、毎回の講義の内容を復習して整理して下さい。この予習・復習は学習目標の達成に着目して進めてください。これらに費やす時間はおおよそ1～2時間程度です。

【7】　評価方法・基準

討議における発言回数とその内容（40%）課題レポート（40%）、小テスト（20%）を総合して評価する。

【8】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【９】　教科書

指定しない。授業時に資料配布。

【10】　参考書

上泉和子他著：系統看護学講座　看護と統合の実践（１）看護管理、医学書院
中西睦子他著：看護サービス管理、医学書院
ベナー，P. 井部俊子他訳.　ベナー看護論.　医学書院.　1992
センゲ，P. 枝廣淳子他訳.　学習する組織.　英治出版.　2011
見藤隆子他.　看護職者のための政策過程入門.　日本看護協会出版会.　2007

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、プレゼンテーション論、法学、組織論、経済学、看護倫理学、看護安全論、チーム活動論、看護実践の探究

科目名(日本語)	**看護哲学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Philosophy	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	浅野美知恵				
担当教員	浅野美知恵・林ひろみ・渡辺尚子・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	浅野研究室（K318）。遠隔授業においてはメールにて連絡する。 浅野（michie.asano@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	授業開講日13時～13時50分、各研究室。 浅野（K318）林（K329, hiromi.hayashi@hs.toho-u.ac.jp）、渡辺（K334, naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp） 鳥田（K320, mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

看護哲学は、看護現象を対象に、看護の本質・原理を探究する学問である。これは看護者の自覚の有無に関わらず看護実践の拠り所となっており、看護を擁護させる力となる。本科目は、これまでの看護学実習での体験を手掛かりに、健康、生死、人間、身体、自然、環境、科学などの概念について深く考え、既習の知識を統合して、看護の本質を探究する。さらに、看護とは何か、自分自身のの看護することの哲学をまとめる。
（浅野美知恵／4回）病と看護、死と看護
（鳥田美紀代／4回）老いと看護
（林ひろみ　／4回）性と看護
（渡辺尚子　／2回）精神性と看護

【3】　到達目標

1.看護哲学の定義および基盤となる考え方について説明できる。
2.病の本質から健康と看護を探究し、病と向き合うことについて論述できる。
3.老いの視点から人間と看護を探究し、老いと向き合うことについて論述できる。
4.性の健康の視点から看護を探究し、性と向き合い、性の健康を支援する看護について論述できる。
5.死から人間の生死と看護を探究し、死と向き合うことについて論述できる。
6.人間の精神性の視点から健康と看護を探究し、人間と向き合う看護について論述できる。
7.自己の看護実践における哲学を論述できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	病と看護	内容 1. 看護哲学概説 2. 病を生きるとは 3. 病のある人への看護とは 方法：講義、グループワーク・個人ワーク 予習：哲学に関する書籍を読み、哲学とは何かについて考えを整理する。「病」に対する自身の考えを整理する。 復習：授業内容を整理し、病のある人への看護について考察する。個人ワークの内容を提出する。 キーワード：哲学、人間、存在論、世界観、認識論、看護現象、看護理論、看護観、医療観、倫理、環境、文化、科学、健康、病気、疾病、人生観、死生観、幸福、Quality of life	浅野美知恵
3・4	老いと看護(1)	内容 1. 老いの科学 2. 老いを生きる経験とは 方法：講義、個人ワーク 予習：「老い」に対する自身の考えを整理する 復習：授業内容を整理し自身の「老い」に対する捉え方を考察する キーワード：加齢、身体、内面、成長、発達、成熟、環境、変化、意味づけ、人権、エイジズム、死生観	鳥田美紀代
5・6	老いと看護(2)	内容 1. 健康な老いとは 2. 健やかな老いを支える看護とは 方法：講義、個人ワーク（レポート課題1) 予習：老年期の健康に対する自身の考えを整理する 復習：授業内容を整理し、健やかな老いを支える看護について考察する。提示されたキーワードにそって、授業で得た知識と実習等で経験したことをもとに、自分の考えを論述して提出する（レポート課題1) キーワード：健康観、老年観、看護観、生活の質(QOL)、スピリチュアリティ、権利擁護（アドボカシー）、全人的アプローチ、老いと倫理的課題	鳥田美紀代
7・8	性と看護(1)	1. 人の性とは，性の健康とは 2. 性の健康を支援する看護とは 方法：講義、グループワーク「取り上げた実習体験における性・セクシュアリティの課題と性の健康課題における看護のあり方」 予習：参考書の性・セクシュアリティに関連する内容に目を通しておくこと。事前にミニレクチャーを視聴し、実習体験の中で性・セクシュアリティに関連する看護場面を抜き出し、個人ワーク用紙を用いて整理する。 復習：グループワーク内容のプレゼン資料を作成する。 キーワード：性、セクショアリティ、性と倫理的課題	林ひろみ
9・10	性と看護(2)	内容 1.性の健康とは 2.性の健康を支援する看護とは 方法：プレゼンテーション「取り上げた実習体験における性・セクシュアリティの課題と性の健康課題における看護のあり方」 予習：グループ内容のプレゼン資料を作成する。 復習：グループワークのプレゼンテーション内容を共有することによる学びを基に、性の健康とは何か、性の健康を支援する看護とは何かを整理し、自己の看護観を記述して提出する。（レポート課題2) キーワード：性、セクショアリティ、性の健康、性と倫理的課題、看護観	林ひろみ
11・12	死と看護	内容 1. 死生の科学 2. 死を取り巻く環境と死の看護とは 3. 死の看護とは 方法：講義、グループワーク・個人ワーク 予習：死・看取りに対する自身の考えを整理する。 復習：授業内容を整理し、死と環境と健やかな死を支える看護について考察する。授業および実習体験をもとに、課題レポートを記述し提出する。（レポート課題3) キーワード：死にゆく人の身体とこころの変化、強靱さ、レジリエンス、死観、存在と時間、死に様、生き様、尊厳、死に関わる文化、看取り、家族、コミュニティ、死の準備、人生の最終段階の医療、最期を迎える場所の意思決定、病院死、在宅死、社会資源、看取り、地域ケア、悲嘆、グリーフワーク、セルフケア、死の教育、End-of-Life看護教育、死をめぐる倫理的課題	浅野美知恵

13･14	精神性と看護	内容 1. こころの看護とは 2. 看護と感受性 方法：講義、個人ワーク（レポート課題） 予習：自己の感受性について考えを深めておく。 復習：課題シートを記述し提出する。（レポート課題4） キーワード：感受性、セルフケア、自省、感情労働	渡辺尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は看護哲学の考え方を習得し哲学的な探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習・復習に1.5時間程度必要である。
【学習上の留意点】
授業毎のテーマについて、関連書籍およびメディア上の情報を活用し社会の状況を考慮して理解を深める。
授業は対面式で行います。状況によって遠隔授業となる場合があります。遠隔授業の場合は、オンデマンド式と双方向式を取り入れますので、事前のお知らせで確認してください。

【７】　評価方法・基準

レポート（４題）100％

【８】　フィードバック方法

全体の傾向等について次の授業の中やMoodleでコメントする。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

授業時にその他の関連文献を紹介する。
・大平光子他編集：看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル，南江堂，2019.
・吉沢豊予子　鈴木幸子編著：女性看護学，メヂカルフレンド社，2008.
・三井貴之原案・監修：まんがで学ぶ哲学入門、宝島社、2012
・岡本裕一郎：いま世界の哲学者が考えていること、ダイヤモンド社、2016
・植村玄輝ほか編著：現代現象学、経験から始める哲学入門、新曜社、2017
・信原幸弘編：心の哲学、新時代の心の科学をめぐる哲学の問い、新曜社、2017
・エリザベス・キューブラー・ロス、デーヴィッド・ケスラー、上野圭一訳：ライフ・レッスン、角川文庫、2010
・鈴木秀子：死にゆく者からの言葉、文春文庫、1996
・大出春江編著：看取りの文化とケアの社会学、梓出版社、2012
・竹之内裕文、浅原聡子編：喪失とともに生きる、対話する死生学、ポラーノ出版、2016

【11】　備考(関連科目等)

哲学、倫理学、社会学、専門教育科目全般、健康科学概論、看護倫理学、臨地実習科目全般

科目名(日本語)	**チーム活動論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Interprofessional Cooperation	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代・小板橋恵美子・原田慶子・島村敦子・菅谷綾子・水流添秀行・笠間秀一・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	Moodleの質問機能、メールでの質問を随時受け付ける。 鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp、小板橋恵美子：emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp 原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

安全で良質な保健・医療・福祉を提供するために、チーム活動の必要性や意義、チーム活動の構成員の専門性と役割、チームアプローチに関する理論・概念及びチーム活動方法など、チーム活動の基礎知識を習得する。また、健康課題を有する事例を題材としてチームの構成要員として看護職が果たす役割について考察する。
（鳥田美紀代／３回）老年社会支援に関わるチーム活動の概説と展望
（原田慶子／３回）医療におけるチーム活動の課題と展望
（小板橋恵美子／３回）コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の概説と展望
（共同／５回）チーム活動における看護の機能と役割発揮について考察
（小板橋恵美子・鳥田美紀代・島村敦子・原田慶子・菅谷綾子・水流添秀行・笠間秀一・中嶋秀明）

【３】　到達目標

1. チームとは何か、立場を明確にして具体的に説明できる。
2. チームアプローチに関する主な理論・概念について具体的に説明できる。
3. チーム活動の必要な場の特徴と意義について具体的に説明できる。
4. チーム活動におけるリーダーとメンバーの役割について具体的に説明できる。
5. チーム活動の方法について具体的に説明できる。
6. 安全で良質な保健・医療・福祉の提供とはどのようなことかについて論述できる。
7. 保健・医療・福祉におけるチーム成立の要因について具体的に説明できる。
8. チーム活動での看護職の役割と機能について具体的に説明できる。
9. 老年社会支援に関わるチーム活動と看護の役割について説明できる。
10. コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動と看護の役割について具体的に説明できる。
11. 医療におけるチーム活動の課題について３つ以上具体的に説明でできる。
12. チーム活動における看護の役割発揮方法と課題について論述できる。
13. チーム活動における倫理的課題と対応について３つ以上具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	老年社会支援に関わるチーム活動(1)	・老年社会支援に関わるチーム活動の意義、構成員の専門性と役割・老年社会支援に関わるチームアプローチに関する理論・概念 講義 予習：実習体験の中でチームの一員としての役割を感じた経験について振り返り、整理する。 復習：資料内容の整理 キーワード：安全で良質な医療・福祉の提供、社会構造、健やかな社会支援、組織、対費用効果、倫理	鳥田　美紀代
3	老年社会支援に関わるチーム活動(2)	・老年社会支援に関わるチーム活動の方法・老年社会支援に関わるチーム活動の展望 講義・個人ワーク・グループワーク 予習：　老年社会支援にかかわるチームにおける看護師の役割を3つ考えてくる。 復習：個人ワーク内容の整理 キーワード：健やかな老い、健康観、人生観、家族と地域のつながり、リーダーシップ、メンバーシップ	鳥田　美紀代
4・5	医療におけるチーム活動(1)	・医療におけるチーム活動の意義、構成員の専門性と役割・医療におけるチームアプローチに関する理論・概念 講義 予習：実習体験の中でチームの一員としての役割を感じた経験について振り返り、整理する。 復習：資料内容の整理 キーワード：安全で良質な医療の提供、チーム医療、医療行政、職能団体、生命倫理、専門力、管理、動機づけ	原田慶子
6	医療におけるチーム活動(2)	・医療におけるチーム活動の方法・医療におけるチーム活動の課題と展望 講義・個人ワーク・グループワーク 予習：医療チームにおける看護師の役割を3つ考えてくる。 復習：個人ワーク内容の整理 キーワード：医療活動、チーム編成、活動推進要因、リーダーシップ	原田慶子
7・8	コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動(1)	・コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の意義、構成員の専門性と役割・コミュニティヘルス支援に関わるチームアプローチに関する理論・概念 講義 予習：コニュニティヘルス支援に関わる機関・職種を整理する（特に以下の職種・機関に関しては、地域において期待される役割を考えてくる。看護師、保健師、社会福祉士、栄養士、民生委員、市町村保健センター、地域包括支援センター）。 復習：資料内容の整理 キーワード：安全で良質な保健・医療・福祉の提供、保健行政、政策、自治、関係形成、倫理、連携、協働、地域づくり	小板橋恵美子
9	コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動(2)	・コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の方法・コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の展望 講義・個人ワーク・グループワーク 予習：コミュニティヘルス支援に関わるチーム（特に地域ケアシステム）における看護職の役割を考えてくる。 復習：個人ワーク内容の整理および提示した課題 キーワード：地域の健康を支える、チーム構成、危機管理、人材育成、地域ケアシステム	小板橋恵美子
10-12	チーム活動における看護職の役割(1)	チーム活動における看護の機能と役割発揮(1)：機能するチームづくり グループワーク 予習：本科目のこれまでの講義内容の整理。提示されたフォーマットに沿って、チームの機能やチームづくりに関する自分の考えを整理する。 復習：グループワーク内容の整理 キーワード：安全で良質な保健・医療・福祉の提供、機能するチーム、専門性発揮、チーム活動の企画、連携、協働	全員
13・14	チーム活動における看護職の役割(2)	チーム活動における看護の機能と役割発揮(2)：チーム活動の評価 グループワーク・発表 予習：提示されたフォーマットに沿って、チーム活動の評価等に関する自分の考えを整理する。 復習：グループワーク内容の整理 キーワード：チーム役割、活動評価、組織、流動性、安全性	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。
この授業は，既習科目の内容の整理や予習課題のために，予習1時間程度，復習1時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
保健・医療・福祉にかかわらず、経営など社会におけるチーム活動に関する書籍や新聞記事なども積極的に読むことが求められる。

【7】　評価方法・基準

課題レポート80%、グループワークにおける貢献度に関するピア評価20%

【８】　フィードバック方法
課題レポートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，全体または個別にコメントを返す。

【９】　教科書
必要に応じて、授業の際に資料を提示する。

【10】　参考書
授業時に関連文献を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
組織論、コミュニケーション論、プレゼンテーション論、保健医療福祉行政論、健康生活支援論、看護管理論、看護安全論、チーム医療演習

科目名(日本語)	**チーム医療演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Interprofessional education in health care	選択	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	松尾和廣　小板橋恵美子				
担当教員	医学部 廣井 直樹 薬学部 松尾 和廣 理学部 村野 武義 看護学部 松永 佳子 康科学部 小板橋 恵美子				
科目責任者 連絡先(教室)	各学部科目担当者の連絡先は以下の通りです。 医学部 医学部 教育開発室 薬学部 薬学部 臨床薬学研究室 C609 理学部 理学部 4360 看護学部 家族・生殖看護学研究室 健康科学部　健康科学部健康科学部棟3階研究室5（K315）				
オフィスアワー	医学部 月 8：30-10：00（不在のことも多いので、事前に連絡することが望ましい。） 薬学部 月～金 10：00-18：00 理学部 月・火・木 15：00 以降（演習期間中、随時対応する。） 看護学部 月 8：00-9：00 健康科学部　水 13:00～13：40				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【2】　授業概要

近年、医療を取り巻く環境は、高齢社会、医療費抑制、専門分化などにより大きく変化してきました。また、日々医療が高度化し、医療従事者はこれまでとは比較にならないほど専門知識が必要とされています。さらに在院日数の短縮に伴い業務量が増大しています。したがって、ひとりの患者に対して医療従事者がそれぞれの専門知識や医療技術を集結し、診療に活かす時代となっています。すなわち、患者を中心としたチーム医療が必要となっています。チーム医療に関する教育には現場での OJT(On the Job Training)だけではなく、卒前教育においても多職種連携を想定した学習が求められています。本科目では東邦大学全学部の学生が医療現場での事象を共通テーマとし、ワークショップ形式でそれらの事象の理解や問題の予防策ならびに解決策・対応策の具体的な提案を作成することにより、チーム医療を実践的に学びます。

【3】　到達目標

1）保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2）多職種連携協働に関わる各職種、患者、その家族の役割を説明できる。
3）望ましい多職種連携についての自分の考えを述べることができる。
4）自己の能力、職種の役割の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求めることができる。
5）グループワークにおいて、チームの一員としての役割を積極的に果たすことができる。
6）グループワークの成果をわかりやすくプレゼンテーションできる。
7）演習を通して異なる考え・視点を持つ学生を仲間として尊重できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	チームワーク	他学部の学生とのチームワーク、コミュニケーション、協働について協議	全員
3･4	チーム医療	チーム医療の理解	全員
5･6	多職種連携チーム医療（1）	多職種連携のチーム医療について協議	全員
7･8	多職種連携チーム医療（2）	多職種連携のチーム医療について資料、参考書等で調査する	全員
9･10	多職種連携チーム医療（3）	多職種連携のチーム医療について、グループごとの発表	全員
11･12	チーム医療事例解析（1）	事例1に対して各職種で可能なチーム医療についての協議	全員
13･14	チーム医療事例解析（2）	事例1に対する課題の明確化のための協議	全員
15･16	チーム医療事例解析（3）	事例1に対する各職種で可能なチーム医療についての調査	全員
17･18	チーム医療事例解析（4）	事例1に対する各職種で可能なチーム医療に関する発表	全員
19･20	チーム医療事例解析（5）	事例2に対する課題の明確化のための協議	全員
21･22	チーム医療事例解析（6）	事例2に対する各職種で可能なチーム医療での役割についての協議	全員
23･24	チーム医療事例解析(7)	事例2に対して各職種で可能なチーム医療についての協議	全員
25･26	チーム医療事例解析(8)	事例2に対する各職種で可能なチーム医療に関する発表	全員
27･28	総括と発表	チーム医療について調査・協議したことを総括した発表	全員
29･30	レポート作成	多職種連携のチーム医療についてレポートにまとめ	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
チーム医療の文言の意味，意義について調査し予習しておく。当日配布された資料は復習としてレポートする。予習には1時間、復習には1時間以上を要する。
【学習上の留意点】
参加費を徴収する場合がある。その際は、追って連絡する。

【７】　評価方法・基準

学習活動（40%）、グループワークおよびプレゼンテーション（40%）、個人レポート（20%）から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

多職種連携チーム医療およびチーム医療事例解析等の演習終了後、教員および医療に従事しているそれぞれの専門職種の立場からフィードバックを行う。

【９】　教科書

指定なし

【10】　参考書

「チーム医療とは何か」，細田満和子，日本看護協会出版会

【11】　備考(関連科目等)

関連科目：全て
本科目は夏季休暇中に集中講義として行う。具体的には、夏季休暇中（8 月 9 日（火）・10日（水））にWorkshop 形式で、多職種連携・チーム医療について、少人数グループワークを中心とした学習を行う。
参加費を徴収する場合がある。その際は、追って連絡する。
全学部共通の演習に加えて、健康科学部では15時間の授業が必要になる。詳細については担当教員の指示に従うこと。

科目名(日本語)	**看護実践の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practicum of Clinical Nursing	必修	実験・実習	春学期 4年	2単位 90時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立篤子ほか専任教員全員				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者：尾立（K328研究室） コース長：臼井（K331研究室）、山本（K　研究室）、渡邊（K334研究室）、林（K329研究室）、佐瀬（K319研究室）				
オフィスアワー	コースごとの実習要項参照				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護学及び関連学問の学びを統合して健康生活を支援するための看護実践について、遠隔授業・学内演習を通して探究する。遠隔授業・学内演習は、看護実践に重要な臨床看護技術、ホームケア、看護マネジメント、看護教育などをテーマとするコースを選択して行う。さらに、遠隔授業・学内演習を通して自らの看護観を明確にし、保健・医療・福祉システムにおける看護職者の責務を考察し、今後の看護活動の基盤とする。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

各コースにコースの特徴をふまえた学修目標を設定し、以下をコースの共通学修目標とする。
1.遠隔授業・学内演習における体験の考察、意味づけを行い、看護について自分の考えを論述することができる。
2.看護専門職者としての倫理観を言語化することができ、倫理的問題（課題）に気づくための自分なりの方法を見出すことができる。
3.保健・医療・福祉システムにおける看護職者の責務についての考えを論述することができる。
4.看護の専門職として相応しい基本的な態度を身につけることができる。
5.看護職者としての自己の課題を明確にすることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	詳細な学修内容は、看護実践の探究の実習要項に示します。 授業方法：オリエンテーション、実習、カンファレンス キーワード：健康生活、看護実践、看護観、看護職者、責務、倫理的態度	専任教員全員
	実習内容	各自選択した希望コースに基づき配置されたコースで2単位の実習を行う。 【コースへの配置】 -前年度- ・ガイダンスにおいて、各コースの実習目的・内容の概要を説明する ・学生は、指定された期日までに希望コースエントリー用紙に必要事項を記入し提出する。 ・3月下旬をめどに所属するコースを決定し、発表する -当該年度- ・直前に開始に伴う全体オリエンテーションを実施する ・具体的な実習の進め方は、各コースオリエンテーションに基づき行う。	専任教員全員
	コース名（コース責任者）	・臨床看護技術コース（臼井雅美） ・ホームケアコース（佐瀬真粧美） ・ヘルスケアマネジメントコース（山本利江） ・ケアリングコース（渡邊尚子） ・看護教育コース（林ひろみ） ・異文化コース（尾立篤子）	専任教員全員
	実習方法・場所	2単位・90時間を、各コースで計画された実習方法で実施する。 各コースの予定に従う。	専任教員全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで講義・演習・実習で学習してきた内容を復習し、現時点での自身の看護観について考え、自己の課題を明確にしておく。
コースごとに課題が提示されるため、担当教員によく確認し準備をして臨む。
そのため、予習1時間、復習1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
看護学及び関連学問の学びを統合する実習となる。看護職者になるということを自覚し、主体的、積極的に実習に参加すること。

【７】　評価方法・基準

評価：コース別評価60%、実習への取り組み態度 10%、倫理的判断力と行動力の獲得10%、看護観の醸成 20%で評価を行う。
コース別評価はコースごとの実習要項参照。

【８】　フィードバック方法

コース別評価はコースごとの実習要項参照。
フィードバック：各コース別に提示する。コースごとの実習要項参照。

【９】　教科書

各担当教員より指定される。

【10】　参考書

各担当教員より指定される。

【11】　備考(関連科目等)

既習の学習内容全般

科目名(日本語)	**公衆衛生看護管理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Management	選択	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・上地賢・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日の授業終了後から1時間程度。質問等は講義内容に該当する教員の研究室を訪ねてください。 また、メールでも質問、相談を受け付けます。 小板橋：健康科学部棟3階研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp 上地：健康科学部棟3階研究室K316　ken.uechi@hs.toho-u.ac.jp 植村：健康科学部棟3階研究室K322　naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
その他

「その他」の内容

健康危機管理活動に関しては、図上演習を行います。

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

公衆衛生看護管理の概念と地域ケアの質を高めるための管理機能について理解し、行政保健師の役割・機能について理解を深める。特に健康危機管理については、平常時に必要な予防活動、災害発生時の緊急対応、発生後に必要な保健活動について学修し、関係機関の連携・協働による危機管理活動の中での保健師の役割について考察する。
（小板橋恵美子／8回）公衆衛生看護管理の展開・管理の実際
（上地賢／2回）行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題、公衆衛生看護管理の基礎知識の概説
（全員／4回）健康危機管理活動、保健師としてのキャリア形成

【3】　到達目標

1. 公衆衛生看護管理の目的と機能を説明できる。
2. 行政保健師としての公衆衛生看護管理の展開方法を説明できる。
3. 健康危機管理と行政の役割を説明できる。
4. 保健師業務の実際およびキャリア形成について具体的にイメージができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	公衆衛生看護管理の基礎知識の概説（1）	①科目オリエンテーション ②公衆衛生看護管理の目的と機能 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：公衆衛生看護管理、マネジメント、健康課題の優先順位、サービスの提供体制の整備、権利保障、職業倫理	小板橋恵美子
3･4	公衆衛生看護管理の基礎知識の概説（2）	公衆衛生看護管理の対象 講義・ペアワーク 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：組織運営、人事管理、予算管理、情報管理、事業管理、リスク管理、人材育成	小板橋恵美子
5･6	行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題	行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：地域保健計画、合意形成、目標の明確化、PDCAサイクル、予算、評価、	上地賢
7･8	健康危機管理と活動（1）	健康危機、健康危機管理システムと行政の役割 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：健康危機管理、健康危機を起こす要因、リスクマネジメント、感染症、広域的対応、平常時の体制整備、健康危機レベルに応じた対策、健康回復へ向けた支援	小板橋恵美子
9･10	健康の危機管理と活動（2）	健康危機管理活動 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：災害、法制度、平常時、災害応急対策期、災害復旧・復興期	小板橋恵美子
11･12	健康の危機管理と活動（3）	災害保健活動と保健師の役割 図上演習・グループディスカッション 予習：日本における災害事例について、新聞記事、書籍、インターネット等で調べてくる。 事後課題：図上演習を通して学んだ、災害発生時の保健師としての職務に関してレポートする。 キーワード：災害時の保健師活動、緊急対策期、応急対策期、復旧・復興期、	小板橋恵美子、上地賢、植村直子
13･14	保健師の役割と展望	公衆衛生看護活動事例から保健師の役割を学び、その活動を展望する 講義・ディスカッション 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：事例からの学びをレポートする。 キーワード：保健師活動、行政、倫理、継続教育、専門的自律、キャリア形成	小板橋恵美子、上地賢、植村直子

【6】 事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、公衆衛生看護学の管理的機能の理解を深めるために、関連する既習科目を復習して授業に臨んでください。また、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習に1時間程度、復習に1時間程度（以上、平均）を費やします。
【学習上の留意点】
既習の公衆衛生看護関連科目、公衆衛生看護学実習等での学びを統合、応用しながら学習を深めていってください。

【7】 評価方法・基準

定期試験50%、グループワーク30%、課題レポート20%

【8】 フィードバック方法

グループワーク、課題レポートは結果を個別に返却するか、全体に対して講評や知識の補足により行います。

【9】 教科書

「公衆衛生看護学.jp」 荒賀直子他編，インターメディカル．最新版
※2年次の公衆衛生看護学概論で用意した版で可。

【10】 参考書

その他必要な資料は適宜講義時またはMoodle上で配布します。

【11】 備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがあります。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。